

目 次

総合教育科目

1. 人文科学関係	3
2. 社会科学関係	3
3. 自然科学関係	4
4. 系列外科目	6

語学科目

1. 英語	13
2. ドイツ語	29
3. フランス語	32
4. 中国語	34
5. スペイン語	37
6. イタリア語	40
7. 朝鮮語	41
8. ロシア語	42

専門科目

哲学専攻	43
倫理学専攻	51
哲学・倫理学専攻共通科目	57
美学美術史学専攻	61
日本史学専攻	77
東洋史学専攻	83
西洋史学専攻	91
民族学考古学専攻	99
国文学専攻	105
中国文学専攻	113
英米文学専攻	117
独文学専攻	133
仏文学専攻	139
図書館・情報学専攻	153
社会学専攻	165
心理学専攻	183
教育学専攻	193
人間科学専攻	203

全専攻共通科目	215
---------------	-----

諸研究設置科目

教職課程	241
言語文化研究所特殊講座	242
メディア・コミュニケーション研究所	248
体育研究所設置講座	266
福澤研究センター設置講座	274
外国語教育研究センター設置講座	277
慶應義塾大学在学研修プログラム	281
国際センター設置講座	283
保健管理センター設置講座	305
情報処理教育室設置講座	306
アート・センター設置講座	308

総合教育科目（系列科目）

I 人文科学関係

美術（4）

西洋建築様式史

講 師 金 山 弘 昌

授業科目の内容：

古代から近代にいたる西洋建築史の基礎を理解し、西欧文化についての教養を深めることを目的に、各時代や各地域の建築について、おもに様式の変遷という観点から概説します。また授業ではスライドを使用します。

テキスト：

特に使用しません。プリントを配布します。

参考書：

- ・『カラー版 西洋建築様式史』熊倉洋介・末永航他．美術出版社，1995.
- ・『ヨーロッパ建築史』西田雅嗣編．昭和堂，1998.
- ・『西洋建築史図集』日本建築学会編．彰国社．

歴史（3年生以上）（4）

歴史Ⅰ（2年生）（2）（春学期）

歴史Ⅱ（2年生）（2）（秋学期）

日本中世社会の諸相

講 師 池和田 有 紀

授業科目の内容：

中世の人々はどうのような社会に生き、どのような思考を持っていたのでしょうか。

それを探るために、まずは中世史研究の方法について学びます。

講義では、研究の根幹をなす史料の種類や読解方法を解説し、いくつかの史料について読解を実践します。

それらをもとに、最近の研究成果をふまえつつ、日本の中世社会の実像に迫ってみたいと思います。特に、政治と文化の関係を深く探ることになるでしょう。

前近代社会の諸相を学ぶことで、多様な文化への理解が求められる現代社会に対応しうる、柔軟な歴史的思考を目指します。

歴史Ⅰの授業を前提に歴史Ⅱの授業を行うので、できれば両方共履修することが望ましいです。

テキスト：

随時プリントを配布します。

参考書：

授業内で紹介します。

II 社会科学関係

近代思想史（4）

ドイツ近代社会思想における自由と共同

講 師 針 谷 寛

授業科目の内容：

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、西欧近代社会とその思想の諸問題を検討する。材料としてはカント、ヘーゲル、マルクスなどドイツ近代の思想家の社会理論を重点的に取り上げる予定。これらの理論を扱うに際しては歴史的なコンテキストの中で考察することに努める。

テキスト：

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

講義の中で紹介する。

経済学（3年生以上）（4）

経済学Ⅰ（2年生）（2）（春学期）

経済学Ⅱ（2年生）（2）（秋学期）

【春】経済学部 教授 細 田 衛 士

【秋】経済学部 教授 丸 山 徹

授業科目の内容：

春学期では、先ず経済学を身に着ける上で重要となる経済的事実に関する確認を行い、マクロ経済学の基礎知識を習得する上での準備を行う。特に、日本のマクロ経済の動きでエボックとなった事象について吟味・検討する。次に、これを土台として、マクロ経済学の核となる部分についての解説を行う。

春学期に学ぶ項目は概ね以下の通りである。

1. 高度経済成長の時代
2. プラザ合意前後
3. 平成不況
4. 消費関数と乗数効果
5. 投資関数
6. 貨幣
7. 労働市場と失業
8. 有効需要の原理とケインズ均衡

もし時間的余裕があれば、その他の項目についても取り上げる。

秋学期には主としてミクロ経済学の基礎理論とその応用について述べる。

1. 消費者の行動
2. 生産者の行動
3. 市場の均衡
4. 独占と寡占
5. 市場機構と経済の効率

参考書：

丸山徹『新講・経済原論』第二版，岩波書店 平成 18 年

法学（憲法を含む）（4）

現代社会と法

講 師 松 浦 聖 子

授業科目の内容：

社会構造の複雑化、財の流通の加速化により、我々を取り巻く法的環境は極めて多様化している。一人の人間は、国民として、家族として、個人として、または消費者として、あるいは専門家として様々な形で法と関わる。特に、個人が社会と関わる上で避けることのできない「契約」は、現代社会の諸問題を理解する上でも、重要なシステムである。本講義は、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会に特徴的な法的問題に対する理解を深めることを目標とする。

テキスト：

- ・伊藤正巳・加藤一郎編「現代法学入門」有斐閣双書
- ・コンパクトタイプの六法（2007 年度版）

参考書：

- ・碧海純一「法と社会」中公新書
- ・田中成明「法的空間」東京大学出版会

III 自然科学関係

基礎化学（2）（秋学期）

化学反応がなぜ起こるのか

教 授 大 場 茂

授業科目の内容：

周期表をみてわかる通り、この宇宙に存在する元素は高々 100 種類にしかなしません。そのうち、水素 H、炭素 C、窒素 N、酸素 O など特定のものが重要な働きをしています。化学物質は単体と化合物とに分類されますが、化合物の基本単位は一般には分子です。分子中の原子は電子を媒介として結合しています。元素はその電子配置の違いに

より、それぞれ個性をもっており、それが化学結合や反応性に反映します。この講義の到達ゴールは、化学の基本的な考え方（概念）がわかるようになることです。

テキスト：

講義では毎回プリントを配布します。

人類学（4）

人類の過去・現在・未来

講 師 吉 田 俊 爾

授業科目の内容：

今、人類を取り巻く問題をざっと挙げてみても、環境破壊・人口増加・食料不足・人種差別・民族紛争・テロリズムなど、枚挙にいとまがない。残念ながらいずれの問題もいわゆるヒトがつくり出している問題なのである。そして、各問題は有機的に関連し合っている。世界の政治・経済機構、研究・教育機関、宗教組織、そして個人までもがこれらの問題の解決を第一の課題におかずして、その解決は遠くおよばないであろう。人類を取り巻く上記の諸問題を解決できなければ、人類は滅亡に至ることは今や明白である。今日、やっと環境に関する世界会議が開催されるようになった。今後の課題としては、これからの諸問題に対して個人個人が何をしなければならないか、何ができるかということである。そのためには、まず私達が自分自身を知ることである。そのために生物としてのヒトを探究するのが形質人類学である。授業では、基本的な人体構造の理解を軸として、形質人類学の課題（ヒトの起源と進化、変異、日本人の起源など）、日常のトピックスについて解説します。

テキスト：

片山一道、五百部裕他：「人間史をたどる」—自然人類学入門—朝倉書店

参考書：

- (1) 中原 泉著：歯の人類学 医歯薬出版
- (2) 片山一道著「古人骨は生きている」角川書店
- (3) 竹原直道編、坂下・藤田・松下・下山著：「むし歯の歴史」砂書房

数学（3年生以上）（4）

数学Ⅰ（2年生）（2）（春学期）

数学Ⅱ（2年生）（2）（秋学期）

確率論と他の分野との接点

講 師 黒 田 耕 嗣

授業科目の内容：

確率論の色々な分野への応用について述べる。

- ① 確率論と生命保険数理
- ② 年金制度と年金数理
- ③ 数理ファイナンスとは
- ④ 経済物理学とは

テキスト：

生保年金数理Ⅰ（黒田耕嗣著、培風館）

生命科学概論（2）（春学期）

命の巧みさを探る一個体の統一を図る三つの制御システム

教 授 中 島 陽 子

授業科目の内容：

……「転んですりむいたところが化膿して腫れて熱を持ってきて、痛い」といった子供時代の思い出を多くの人が持っているのではないのでしょうか。またその痛いという記憶があるから、痛い目にあわないように努める。もし痛みを感じられなかったらどうでしょう。想像したことがありますか。…

ここに述べたような「腫れる」「熱がでる」「感じる」「記憶する」「行動する」「想像する」ことをしながら、私たちは生きています。一見いやな、熱が出たり、痛かったりということも、制御システムとして個体の維持に機能しています。

一方で、すっかり一般にも定着した遺伝情報分子 DNA、これが私たちの生を規定しているとされています。この分子のことがわかれば、私たちのことはすっかり理解できるようになるのでしょうか。

この講義では、生命をこの情報分子 DNA と、私たちが一つの個体

としてのハーモニーを保つための制御システム「神経系・内分泌系・免疫系」の関係系として捉えた視点で考えていきます。私たちが特別意識することもなく【生きている】ことのおかげで営まれている生命活動が、いかに巧妙なシステムであるかを感じ取ってもらいたいと願っています。私たちが意識する【自己】の基礎にある、生物学的【自己】へ思いをはせてください。

テキスト：

使用しません

参考書：

「現代生命科学入門」小比賀・中島著 慶応大学出版 2001 年 2,200 円

統計学（4）

統計的「推定」と「検定」の基礎

教 授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

テレビ視聴率の買収問題が報道されたとき、関東地区での視聴率が600世帯のモニター調査にもとづいて算出されていることが明らかにされました。本当に600世帯程度の調査で、正確な視聴率が分かるのか疑問に思った人も多いことでしょう。

選挙報道では、投票終了後、開票作業が始まって間もなくして「当選確実」が出たりすることがあります。これは、投票所でのいわゆる「出口調査」にもとづくものなのですが、どうして早々と投票結果を予測できるのでしょうか。その精度は、はたしてどの程度のものなのでしょう。

こんな日常生活上のトピックを材料にして、統計学におけるものの見方、考え方を説明します。なかでも、「推定」と「検定」の基本的な考え方と手続きを習得することが主な目標です。統計データをコンピュータ処理するための技法について詳しく解説するわけではありませんので、ご注意ください。

テキスト：

P. G. ホーエル著、浅井晃・村上正康訳『初等統計学 原書第4版』培風館、1981年

Ⅳ 系列外科目

基礎情報処理（M）（2）（春学期）

講 師 三 根 慎 二

授業科目の内容：

コンピュータや各種アプリケーションの操作方法について、入門レベルの講義と実習を行います。同時に、情報を処理する際に必要な考え方やネットワーク上でのコミュニケーションの注意点についても適宜解説します。コンピュータに不慣れな学生を想定していますが、履修者の要望に応じて適宜授業内容を変更します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

映画演劇論Ⅰ（2）（春学期）

映画（史）入門

講 師 藤 崎 康

授業科目の内容：

この講座は、「映画演劇論Ⅱ（秋学期）」とは別個の科目であるが、本講座では、フランスのリュミエール兄弟以来の世界映画史をざっと概説しつつ、古今東西の重要作品をビデオやDVDで紹介する（百聞は一見に如かず・習うより慣れろ）。あわせて、「映画の父」D・W・グリフィスが完成させたクローズ・アップ、ロング・ショット、切り返し、移動撮影、アイリス・イン／アウト、カット・バック（並行モンタージュ）などの映画技法を解説しながら、ハリウッド古典映画、ドイツ表現主義、イタリア・ネオレアリズモ、フランス・ヌーヴェルヴァーグ、日本映画の黄金期、中国映画、香港映画、台湾映画、イラン映画、ポルトガル映画などにも微かに言及する。しかし理想的には、「森を見せて森を見せる」のではなく、「森を見せて木を見せる」

のでもなく、「木を見せて森を見せる」授業をめざしたい。この場合の森とはむしろん、「映画史」という迷宮であり、木とは 1 本のフィルムやその断片のことである。

テキスト：
特になし。

参考書：
教室にて指示。

映画演劇論Ⅱ（2）（秋学期）	
世界映画の現在進行形	講 師 藤 崎 康

授業科目の内容：

この講座は、「映画演劇論Ⅰ（春学期）」とは別個の科目であるが、本講座では原則的に、〈映画の現在〉に焦点を絞りたい。たとえば中国のジャ・ジャンクー、ニ・イン、台湾のホウ・シャオシェン、エドワード・ヤン、日本の黒沢清（明ではない）、青山真治、アメリカのガス・ヴァン・サント、M・ナイト・シャマラン、クリント・イーストウッド……等々。しかし今や、フィルム・センターその他のレトロスペクティブ、サイレント作品をはじめとする多くの古典映画のDVD化などによって（“ツタヤ”は世界映画の贅沢なアーカイブだ！）、古い映画／新しい映画という区別が不可能になったことも事実だ。すなわち、時代の文脈から解き放たれた新旧の映画を、まさに刻々に生起する〈現在〉として生きることが、われわれには可能になったのである……。何はともあれ、映画を、今この〈事件〉として体験しようではないか。時間の許すかぎり、ビデオやDVDで新旧さまざまな映画を紹介したいが、本講座における中心的な問いとは、映画の〈（反）テレビ的な面白さ〉とは何か、である。

テキスト：
特になし。

参考書：
教室にて指示。

映画演劇論Ⅲ（2）（春学期）	
戯曲の面白さを知る	講 師 佐 野 語 郎

授業科目の内容：

「劇的なものとは何か。劇的状況とは…」を考えながら、紀元前の古典劇から現代劇までの代表作数本を対象に、その作品構造を解き明かします。その際、上演された舞台や映画化された作品についてもビデオ上映の機会を設け、より具体的かつ多角的に鑑賞できるようにします。また、創作現場の視点から、映画と演劇のモチーフ・構成・演出の技法の違いを同一の物語を用いて比較対照することでその独自性を考え、さらに、事件史実のドラマ化の例（『アンネの日記』）も紹介します。後半には、戯曲という文学の面白さと実際に演出された作品を深く理解するために、現代劇の名作 1 本（『欲望という名の電車』）にじっくり取り組み、鑑賞能力を高めます。

テキスト：
講義資料プリントを配布します。文庫本 1 冊を教材として使用する予定です。

映画演劇論Ⅳ（2）（秋学期）	
創造という行為を探る	講 師 佐 野 語 郎

授業科目の内容：

優れた舞台や映画を観た時の強い感動はどこから来るのでしょうか？まず何よりも私たち自身の内奥に潜んでいるもの、そして劇作家や映画監督などのエネルギーや精神、さらに両者が共有する時代や社会状況にその源が在るに違いありません。この講義では、観客と創作者との関係にも着目しながら、創造という行為の実際を探っていきます。まず数人の劇作家や演出家・映画監督の仕事を通して、創作の苦闘と喜びに触れ、さらに、日本の古典芸能や外国の名作映画や舞台のいくつかを選び、その魅力を具体的に味わうために、ビデオ鑑賞もします。また、日本演劇学会／演劇教育プロジェクトにおいて発表した「単位制総合高校における演劇の授業」の実践指導内容を紹介します。

テキスト：
講義資料プリントを配布します。

ロシア文学（4）	
19 世紀ロシア文学の名作を概観する	講 師 沼 野 恭 子

授業科目の内容：

「遅れた国」だったロシアは、国民文学を確立し、19 世紀に西欧と肩をならべる文学大国になります。ドストエフスキー、トルストイ。この二大巨人の作品は今でも世界中で読まれています。ここに、プーシキン、トゥルゲーネフ、チェーホフ等を加えて 19 世紀ロシアに花ひらいたロシア文学の魅力をたどってみましょう。なるべく名作と言われる作品を取りあげます。

テキスト：
授業時にプリントを配布します。

参考書：
光文社古典新訳文庫に収められているロシア文学作品

アラビア語Ⅰ（2）	
アラビア語の世界とその文化	講 師 師岡カリマ、エルサムニー

授業科目の内容：

アラビア語は、20 を超える国、2 億人以上の人々が話す国連公用語の一つです。この授業では、アラビア語で文章を読み、自分を表現する力を身に付け、アラブ世界の文化や芸術、常識、メンタリティー、人々の生活等について幅広い知識を修得してもらう事を目的としています。

テキスト：
特に指定しません。プリントを配付します。

参考書：
・「アラビア語入門」本田孝一（白水社）
・「恋するアラブ人」師岡カリマ・エルサムニー（白水社）
・「アジア読本／アラブ」大塚和夫編（河出書房新社）

アラビア語Ⅱ（2）	
アラビア語入門	講 師 栗 山 保 之

授業科目の内容：

アラビア語は、西アジアを中心とした諸地域で用いられている言語であり、さらに全世界に広がるイスラーム教徒の聖典コーランの言語でもあります。この授業では、このアラビア語に関して、文字の読み方、書き方からはじめて、文法（初級）を習得することを目的としています。

テキスト：
佐々木淑子『アラビア語入門』（翔文社）

参考書：
随時、紹介します。

イタリア語中級 A（2）	講 師 堤 康 徳
--------------	-----------

授業科目の内容：

対象は「イタリア語Ⅱ」既習者。あるいは、「初級」または「入門」を履修したのち、使用テキストの未習部分を独習した学生で、読解への意欲があれば履修可能です。

文法の知識をさらに深めること、そしてその知識を活かしながら簡単な文献を講読することを授業の目標とします。

春学期は、検定試験の受験希望者のために、過去の問題集を解きながら中級、上級文法の説明をするつもりです。

さらに、簡単なイタリア語の文章を書く練習をします。

テキスト：
プリント

イタリア語中級 B (2)	講 師 フォルミサノ, カルラ
---------------	-----------------

授業科目の内容：

Nel corso si porterà a termine “Espresso”. Si farà particolarmente attenzione all’aspetto pratico dell’uso della lingua italiana.

Si parerà di vita quotidiana, spese e vacanze.

In classe, oltre al libro di testo, si faranno anche attività di comprensione orale e di visione di video italiani.

Si richiede una partecipazione attiva e continua da parte degli studenti.

イタリア語上級 (2)	講 師 ビオンディ, マルコ
-------------	----------------

授業科目の内容：

イタリア語の知識のある学生を対象に、自由な会話および作文の力を増強することを目指します。あわせて原文テキストを元にして授業をすすめ、イタリアの歴史や文化にまつわる知識を深めます。

テキスト：

開講時に教室で指示します。

英語インテンシブⅡ A (2)	TOEIC テスト 総合対策	講 師 高 木 眞佐子
-----------------	----------------	-------------

授業科目の内容：

TOEIC のリスニング、リーディング各セクションにおいて、必要とされるスキルに焦点を当てた演習問題をこなします。ただ問題を解くのではなく、出題者の意図を正確に把握することを通じて、効率良く得点アップを目指します。860 点程度のレベルに照準を合わせますが、単に点数を上げるだけでなく、読む、書く、聞く、話すの四技能にバランス良く長けた英語力養成を目指すことも大切です。時にはテストを離れてニュース英語に触れたり、英作文に取り組んだりもしています。

テキスト：

TOEIC 各種問題集からプリントを適宜配布します。

参考書：

ETS.

英語インテンシブⅡ B (2)	検定英語のリーディングとリスニング	講 師 星 美 季
-----------------	-------------------	-----------

授業科目の内容：

実際に外国で暮らしたり、英語でコミュニケーションを図ろうとする学生を対象に、「使える英語」の習得を目指します。毎回クラスの前半は文科系の学生にも興味の出る科学をテーマにしたビデオ教材を使いテスト形式のリスニングを練習します。後半は TOEFL のリーディングが軸となりますが他技能も伸ばすプラクティスを織り込みながら進める予定です。徐々にインプットの英語とアウトプットの英語の融合を目指します。

テキスト：

『サイエンスシャワー (2)』朝日出版社 1700 円

英語インテンシブⅢ A (2)	Intensive English	教 授 スネル, ウィリアム J.
-----------------	-------------------	-------------------

授業科目の内容：

This will be a course in English debating, covering a number of issues relevant to the present day in Japan and the rest of the world. Topics will be given each week, which must be researched before debate activities in the classroom.

テキスト：

No set text is required for this course, but advice regarding how to research the above topics will be provided on a regular basis. Students will need to keep a notebook/ file in which to record their research

and notes in preparation for debates.

参考書：

Ditto the above, but a good English-Japanese/Japanese-English dictionary will be very useful.

英語インテンシブⅢ B (2)	Discussing and Writing About Donald Keene’s Autobiography	講 師 ウェブスター, ダニエル
-----------------	---	------------------

授業科目の内容：

Donald Keene は、もっとも有名なそしてもっとも優れた日本文学の英訳者と言われています。また、日本および日本文化を英語圏の人々へ紹介する事でも第一級と呼ばれるうちの一人です。このクラスでは彼の自伝、*On Familiar Terms: To Japan and Back, a Lifetime Across Cultures* を読み、それについて書きディスカッションをします。日本の社会や文化また異文化コミュニケーションについて英語で書いたり話したりする力を向上させたい学生には、特に興味の持てるクラスになるのではないかと思います。

テキスト：

テキストについては、第一回目の授業の時に話します。

古典ギリシア語初級 (2)	講 師 小 池 和 子
---------------	-------------

授業科目の内容：

古典ギリシア語の初等文法を学びます。

テキスト：

水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）。
その他適宜補助プリントを配布。

古典ギリシア語中級 (2)	古典ギリシア語文献講読Ⅰ (2)	講 師 我 妻 勇 樹
---------------	------------------	-------------

授業科目の内容：

古典ギリシア語のテキストを読解できるようにします。

テキスト：

プリントを配布します。

古典ギリシア語中級 (2)	
---------------	--

休講

現代ギリシア語初級 (2)	教 授 西 村 太 良
	講 師 ヴォルドカ, ゴイー

授業科目の内容：

現在ギリシアを中心に使用されている現代ギリシア語を初歩から学んでいきます。

東地中海地域の中世以降の複雑な歴史に興味を持つ人、カザンツァキスやセフェリスなどに代表される近現代ギリシア文学に関心のある人、あるいはギリシアを旅してみたい人はぜひ学んでほしいと思います。授業はテサロニキ大学の外国人のための現代ギリシア語の教科書を使って進めていきます。

テキスト：

「外国人のための現代ギリシア語」（テサロニキ大学）

現代ギリシア語中級 (2)	講 師 ヴォルドカ, ゴイー
---------------	----------------

授業科目の内容：

初級に続いて現代ギリシア語の文法、会話を学んでいきます。教科書は初級と同じものを使用しますが、随時プリントを配布し、生きたギリシア語に接する機会を作りたいと思います。

テキスト：

「外国人のための現代ギリシア語」（テサロニキ大学）

スペイン語中級（2）	
ラテンアメリカの文化と社会	助教(有期) 井 関 睦 美

授業科目の内容：

この授業はスペイン語Ⅱを修了した学生，もしくはそれと同等の読解力を有する学生を対象とします。これまでに学習した文法や講読の知識を活用しながら，ラテンアメリカに関する理解を深めるとともに，さらなる読解力の向上を目指します。おもな作業は，中南米の歴史，文化，社会などに関するやや難易度の高い新聞・雑誌記事や書籍から抜粋した文章の講読になります。補足教材として，トピックに関連する視聴覚資料も使用していくつもりです。

テキスト：

講師がハンドアウトを用意します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。授業には各自，辞書を持参すること。

中国語上級（2）	講 師 陳 浩
----------	---------

授業科目の内容：

本講義はビデオ，オーディオ教材を用いて少し高いレベルの中国語会話を学んでいきます。学習者に中国語の社会状況，文化，風土，人情及び中国人の考え方などについて，中国語で議論出来る能力を身につけ，中国語の世界を作り，豊富な表現力を養成したいです。

テキスト：

開講する時学習者のレベルによって決める。

参考書：

なし

中国語会話 A（2）	
中国語でしゃべらナイト	講 師 小 松 嵐

授業科目の内容：

会話中心の初級中国語コースです。

日常生活の様々な場面において，簡単なコミュニケーションが取れることを目指します。聞く・話す力を養うために，中国語を用いて授業を行います。口・耳を使って繰り返し練習することにより，中国語の運用能力を身につけさせます。

テキスト：

未定

中国語会話 B（2）	講 師 蘇 英 霞
------------	-----------

授業科目の内容：

本课程以提高学生的汉语听说能力为主，重点在于通过多种形式的听说训练培养学生运用所学词语及句式，围绕某一话题进行对话和表达意见的能力。教学材料拟选用中国北京语言大学出版的准中级汉语会话课本《说汉语》中的部分内容。具体教学内容与教学进度将根据学生的实际水平及学习要求进行适当调整。

参考書：

プリントを配布します。

朝鮮語上級（2）	【春】教 授 野 村 伸 一
	【秋】講 師 李 泰 文

授業科目の内容：

本塾文学部設置の「朝鮮語」10 単位を終えたていどの学習者を対象とします。

具体的には新聞や論文を自力で読み解けることが前提となります。授業では，映画をみながら，そのシナリオを読みます。

2007 年度は，姜帝圭（カン・ジェギュ）監督作品『太極旗を翻して』のシナリオを取りあげます。

これが終了したら，次に 1995 年に全国放送されて話題を集めた『砂時計』のシナリオを読んでいきます。

毎回，5 ページほどの進度でおこないます。各自，準備してきてく

ださい。

トルコ語 I（2）	
初級会話	講 師 ヤマンラール，アイドゥン

授業科目の内容：

初級文法を学習しながらトルコ語の初級会話を修得する。

テキスト：

プリントを配布します。

トルコ語Ⅱ（2）	講 師 松 井 真 子
----------	-------------

授業科目の内容：

トルコ語の初級文法を学びます。

テキスト：

開講時に配布します。

日本語Ⅱ A（2）	講 師 菅 野 高 志
-----------	-------------

授業科目の内容：

留学生対象の日本語の授業です。

- ・日本語の文章を正確に読み，内容について議論できるようになること。
- ・原文の内容を 400 字に縮約する練習を通して，読む力，書く力を強化すること。
- ・以上の2つが目標です。

テキスト：

新聞の社説を主に使います。初めのうちは，こちらで用意します。

日本語Ⅱ B（2）	
留学生のための日本語	講 師 戸 所 久美子

授業科目の内容：

- ・文学部の学生として，知っておきたい日本の歴史や社会についての知識を身につける。
- ・上記内容の理解，発表，討論等を通して，留学生として必要な日本語能力の習得と向上をめざす。

テキスト：

担当者作成教材

参考書：

授業中，適宜指示する。

ベルシア語 I（2）	講 師 ハギギ，セバンタ
------------	--------------

授業科目の内容：

この授業は初めてベルシア語を学ぶ者を対象とし，ベルシア語の文字，発音から入り初歩的なベルシア語会話の習得を目標とします。実用会話ができるようになるには基本的な文法事項の習得も必要であり，授業の前半は文法，後半では会話の練習を考えています。

テキスト：

岡崎正孝著 基礎ベルシア語（大学書林，4000 円）

ラテン語初級（2）	
古典期のラテン語文法学習	講 師 平 田 真

授業科目の内容：

インド・ヨーロッパ語の一員であると共にロマンス諸語の母体言語でもあるラテン語の基礎文法修得を目標とする。

テキスト：

樋口・藤井共著『詳解ラテン文法』（研究社）

参考書：

- ・逸身喜一郎著『ラテン語のはなし』（大修館書店）
- ・小林標著『ラテン語の世界』（中公新書 1833）

ラテン語中級 (2)	経済学部 教授	パティアー, ロジャー
------------	---------	-------------

授業科目の内容：

This course aims at helping those with a basic knowledge of Latin syntax and grammar to improve their reading skills. We will be studying carefully-graded material, starting with simplified texts, and gradually introducing more complex structures and grammar. Students will be expected to prepare material at home and work through this in class; however, they may also be required to translate fresh material in class. Quick-thinking and enthusiastic students are therefore encouraged to join the group.

テキスト：

To be announced

ロシア語中級 (2)	講師	佐野 洋子
------------	----	-------

授業科目の内容：

このクラスはロシア語文法を一年間でひととおり終了した方を対象とします。文法を復習しながら 19 世紀ロシア文学から 2・3 の小説、詩を精読していき、ロシア語を正確に読む力をつけていきたいと思ひます。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

辞書（できれば博友社、岩波書店、研究社のいずれか）を用意して下さい。

人の尊厳 (社会と人権) (2) (春学期)	名誉教授	関 場 武
	教 授	安 藤 寿 康
	教 授	渡 辺 秀 樹

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまざまわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

愛とセクシュアリティ (4)	教 授	宇 沢 美 子
	教 授	巽 孝 之
	教 授	宮 坂 敬 造
	准教授	大 串 尚 代
	准教授	岡 原 正 幸

授業科目の内容：

現代において、セクシュアリティは複雑な問題をはらんでいます。近年、代理母による出産などをめぐる法整備問題、性同一性障害、性転換手術の是非、異性装をめぐる諸問題がニュースや新聞で報道されるようになり、セクシュアリティはより身近な概念になってきました。しかしながら、同時に、性的マイノリティと呼ばれる人々に対する差別も浮かび上がってくる危険もはらんでいます。本講座では、セクシュアリティを多角的・多面的に理解することを目的とし、性的嗜好性や生殖の問題のみならず、心理的な側面、家族問題、年齢問題などを

学生のみなさんと一緒に考えていきます。さまざまな分野の専門家を塾内外から講師としてお招きするオムニバス形式の授業を通じて、セクシュアリティの問題を総合的に考察していきます。高山宏氏（英文学者）、永山薫氏（マンガ研究家）、高原英理氏（文芸評論家）、沼正三氏（作家）など、多彩な講師陣を予定しています。

芸術と文明 (2) (春学期)	講師	松 澤 慶 信
-----------------	----	---------

授業科目の内容：

中世ヨーロッパの大学では、基本的な三学（trivium すなわち文法、修辞、論理—trivial という英語の形容詞はここから生まれた）と四学（quadrivium すなわち算術、音楽、幾何学、天文学）を修得すれば、修士号（Magister Artium：現在の M.A.）が与えられた。ところが現代では、学問が「総合から分析へ」と各方面に進歩した結果、領域の専門家とそれによる狭隘化をもたらした。今日では、本塾の文学部を例にとっても、学問は 17 の専攻に分かれ、専攻内ですらそれぞれの専門分野がより細分化している。そのため、中世のヨーロッパの知識人の目には、学生も教員も狭苦しいタコ壺の中で喘いでいるように見えるかもしれない現状を呈していることも事実であろう。

この閉鎖性を打破する試みがかなり以前から行われてきたことは確かである。比較〇〇学と名付けられた学問の誕生もそのひとつといえよう。また文学部でも、大学の外から一流講師を招いて、「現代芸術」「詩学」と銘打った講座が設けられて来た。本講座も同様の試みとして、学問の名称にこだわることなく、文学、歴史、音楽、美術、演劇、舞踊、映画などの人文学（いや必要に応じて社会科学や自然科学の助けをも借りて）を縦横にクロスオーバーする主題を取り上げることが狙いである。

学問を総合的に見直すことが求められる今、「芸術と文明」という大きな枠組の設置には、少しでも学生、教員双方の視野を広げられればという願いが込められている。

「舞踊の思想」

身体論が注目されているようである。ロゴス中心主義への批判として、感性的でも、暗黙知でもなく、今度は非・知の戦略として「身体」ということらしい。ニーチェ自身は舞踊が好きだったのだろうか。ダンカン「ツァラトストラ」が愛読書だったという。ベルグソンは舞踊について何も語ってくれていない。身体による芸術的営為である舞踊の思想とは何だろうか。身体論のモデルとしてではなく、舞踊を芸術全般の中でなんとか特化してみたい。

1. ダンスのジャンルと種類
2. テクネーとしての身体／メタの身体の知
3. 感性としての舞踊学／共振性
4. representational / ballet d'action
5. ジャンルに固有の形成法則／「牧神の午後」
6. roman 的なもの／雰囲気／「Les Sylphides」
7. expressionism / 近代的自我の苦悩／「Affektos Humanos」
8. formalism / pas / Balanchine
9. post modern dance / ポスト・モダンダンス／ポストモダン・ダンス
10. 記号論的戯れ／「Waltzer」
11. deconstructive / 「The Second Detail」
12. ヌーヴェル・ダンスとフランス国家の文化政策
13. contemporary dance

語 学 科 目

I 英語

英語Ⅱ A (レベル1) (2)

火曜 1 限

平易な英文読解

講 師 石 黒 太 郎

授業科目の内容：

英国の文化について記した平易な文章を題材とした教科書を用いて、文法、語法の確認をしながら本文を読み、簡単な練習問題を解きます。わからない箇所がなくなるように丁寧に進めてゆきます。

テキスト：

Yutaka Waku and Bill Benfield, *Cultural Walks in Britain* (成美堂, 2006 年)

英語Ⅱ A (レベル1) (2)

火曜 5 限

ダールの短篇を精読する

教 授 宇 沢 美 子

授業科目の内容：

ロアルド・ダールの短篇を精読していきます。基礎的な英文法の知識を確認しながら、精読します。

ダールは表面的な意味と、その裏に隠された意味が違う文章を得意とする作家です。精読を通して、そのギャップを味わいます。丁寧に読み進めながら、文法、語彙、表現、訳出の力の総合的向上を目的にします。

テキスト：

Roald Dahl (相島倫嘉, 吉澤貞 編)

『ダール最傑作短編集 *Ah, Sweet Mystery of Life*』(南雲堂, 1990 年)

参考書：

随時授業中に指示します

英語Ⅱ A (レベル1) (2)

水曜 1 限

英文法基礎と応用読解

教 授 中 村 優 治

授業科目の内容：

年間を通じ英文法の復習と応用読解力の充実を目標とします。春学期には特に文法の復習に力をいれながら、基礎読解の授業をおこない、秋学期には、長めのまとまった英文を読みこなしながら応用力をつけるような授業にしたいと思っています。

テキスト：

英文法の復習には主にプリント教材を用いますが、読解用として次のテキストを用います。

Pulvers, Roger. (2005). *Setting the Stage: Articles and Essays about the State of our World Today*.

英語Ⅱ A (レベル2) (2)

水曜 2 限

学術論文に挑戦する

准教授 辺 見 葉 子

授業科目の内容：

19 世紀アイルランドで起きた「ブリジット・クリアリー焼殺事件」という、妖精伝承が絡む殺人事件を、「ポスト・コロニアリズム」の視点から読み解いた学術論文を読みます。事件の背後にある、当時のアイルランドが置かれていた政治・文化的な背景、口承による妖精伝承の意味などについての理解も深めます。

テキスト：

コピー教材 (実費)

参考書：

授業中に随時紹介します

英語Ⅱ A (レベル2) (2)

多様な文体にふれる

金曜 2 限

講 師 井 上 美 雪

授業科目の内容：

テキストは主に 20 世紀後半に書かれた様々な小説の抜粋集ですから、毎週 1 セクションずつ読むことで、半期で 13 人の作家の文章に触れることが出来ます。作家ごとに異なる文体を味わい楽しむのがこの授業の狙いです。精読して細かい箇所まで読み込んでいきたいと思っています。

また、語彙力をつけるために毎週単語テストを行う予定ですが、詳細については初回の授業で相談の上決定したいと思います。

テキスト：

Enduring Voices (Kiriara Shoten)

参考書：

随時資料を配布します

英語Ⅱ A (レベル2) (2)

ペーパーバックを読む

金曜 1 限

講 師 小 路 邦 子

英語Ⅱ A (レベル2) (2)

ペーパーバックを読む

金曜 2 限

講 師 小 路 邦 子

英語Ⅱ A (レベル2) (2)

Read and Respond

火曜 3 限

講 師 佐 藤 理 佳

授業科目の内容：

The aim of this course is to help the student enliven his/her English which has been neatly memorized and stored in his/her brain but has not had an opportunity to be practised in real life yet. We will be reading a variety of materials in English, including newspaper articles, poems and essays, in order to familiarise ourselves with the language. The emphasis will be on developing the skill of reading English. There will, however, be many opportunities to practise and improve other skills, writing, speaking and listening, by doing tasks in the textbook or having group discussion in class.

テキスト：

Simon Greenall and Diana Pye, *Cambridge Skills for Fluency: Reading 4* (Cambridge University Press, 1993)

Additional materials will be provided by the instructor.

英語Ⅱ A (レベル2) (2)

英文読解から学ぶ現代英米文化・文学

月曜 2 限

【春】助 教 徳 永 聡 子

【秋】助 教 吉 田 恭 子

授業科目の内容：

(春) 現代イギリス文化についての概説書, David P. Christopher, *British Culture: An Introduction*, 2nd edn (Routledge, 2006) を読み進め、読解力とともにイギリス文化についての知識を深める。扱う内容は、“Language in Culture,” “Literature,” “Cinema”などを予定している。

(秋) 現在も活躍中の作家による短編小説を週一編のペースで講読する。読解力養成が目標だが、朗読練習、英作文、聞き取りを適宜導入することにより、英文を生きた言語として読みとく作業に重点を置く。

テキスト：

(春・秋) コピーテキストを販売する

参考書：

(春・秋) 和英辞書、または英英辞書を毎回必ず持参すること。

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	金曜 4 限
リーディング	講 師 勝 村 仁 子

授業科目の内容：

通訳の訓練を取り入れたリーディングによって、総合的な読解力をつけることを目的とする。ただし、通訳養成を目的とした授業ではない。

テキスト：

科学、医療、歴史、音楽、美術、時事問題（政治／経済／法律）など幅広い内容のものを学術論文、LSAT（米国ロースクール適性試験）問題集、専門書、新聞・雑誌記事などから抜粋したプリント教材を用いる予定であるが、最終的なテキストの決定については、履修した学生の専攻等を考慮する。

参考書：

必要に応じて授業内に紹介します。

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	木曜 1 限
リーディング・スキルとパラグラフ・ライティングの学習	講 師 佐 藤 光 重

授業科目の内容：

論文やエッセイの構造を理解し、正確に内容を把握する練習を積み。春学期は読解練習を中心に進めながら、適宜、短い作文練習を取り入れる。秋学期は、読解練習をもとにさまざまなパラグラフ作文に取り組む。

テキスト：

Independent Reader: Improving Essential Reading Skills (MacMillan, 1998).

参考書：

Paragraphs That Communicate (MacMillan, 1990).

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	土曜 2 限
Hearn の怪談を読む—英英辞典を使って	講 師 千代田 友 久

授業科目の内容：

この授業では、Lafcadio Hearn の怪談を主に読みます。IN A CUP OF TEA をはじめできるだけ多くの作品を読むつもりです。それほど難しい英語ではありませんが、時制や分詞構文などに十分留意して精読しますので、怪談を楽しみながら読解力を高めてほしいと思います。

また、授業中に英英辞典を用います。この授業では特に単語や熟語の意味を正確に把握し、こまかいニュアンス等に注意することで、読解能力を伸ばすことを心がけたいと思います。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

OXFORD ADVANCED LEARNER'S DICTIONARY（第7版）
※略して OALD

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	水曜 1 限
現代イギリスの名作を読む	講 師 高 津 昌 宏

授業科目の内容：

John Bayley の *Iris and the Friends* (1999) を読む。Iris とはベイリーの妻であり、卓越した小説家であった Iris Murdoch のことである。彼女は晩年アルツハイマー症にかかり、夫妻は闘病生活を強いられた。その様子はベイリーによって *Iris: A Memoir* (1998) に記録されている。*Iris and the Friends* はその続編であり、ベイリーが妻の陥ったアルツハイマー病の末期の症状にいかに対処し、妻の死後の喪失感にいかに対処し、その悲しみをいかに克服していったかを記述している。*Iris: A Memoir* に劣らぬ感動の書である。

本年度はアルツハイマー病の妻を介護するベイリーの苦闘を枠組みに、そこから生じたさまざまな思いが綴られた10章～12章を読み、こくの有るベイリーの文体に触れていきたい。

テキスト：

John Bayley, *Iris and the Friends* (ABACUS)

参考書：

ジョン・ベイリー『愛のキャラクター』（高津昌宏監訳、南雲堂フェニックス）

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	木曜 2 限
言語学の世界にふれながら、読解力を鍛える	講 師 木 村 和 美

授業科目の内容：

この授業では言語をさまざまな面から取り扱った文章を読みながら、英語を英語のまま理解する読解力を養うことを目的とします。折にふれて、基本的なリーディングスキルを鍛える練習も取り入れる予定です。

授業は英語で行い、日本語を媒体とせずに、英語で受信し、英語で考え、英語で発信することを目標とするので、和訳はしません。英語の question & answer で、または paraphrase（他の言葉で言い換える）や summarize（要約する）することによって、内容を理解するように練習します。また、取り扱ったテーマについて group discussion を行なったり、学期末には自分の興味あるテーマで presentation もしてもらう予定です。

更に、新聞や雑誌の記事などを使って、速読の練習や、時事英語の語彙を強化することもめざします。

テキスト：

- ① Clankie・小林, *Language and Our World*（三修社 2007）
- ② プリント（授業中に適宜配布します）

参考書：

授業中に必要に応じて紹介します。

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	木曜 4 限
英文読解力の養成	
（言語学の文献の精読、広告等における英語、日本文化紹介）	
	講 師 有 光 奈 美

授業科目の内容：

講義の目的：言語学の文献の精読と、幅広いトピックの英文速読により、英文読解力を養成し、英語による思考力と理解力の向上を図ります。

講義を通して、語用論 (Pragmatics) を中心とした言語学の基礎的知識の習得と、幅広いトピックの英文読解ができるようにします。

言語学の中でも、言語の実際の使用を重んじる語用論を中心に、言語を通して、人間の発話、思考、認識の問題を考察していきます。

語用論を中心とした言語学の基礎的知識を身につけると共に、広告等、幅広いトピックの英語に取り組み、英文読解における精読と速読の力を身につけることが、本講義の目標です。

テキスト：

- ・ George Yule, *Pragmatics* (Oxford University Press)
- ・ および、プリント配布

参考書：

必要に応じて、授業内で紹介します。

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	木曜 1 限
英文読解力の向上を目指す	講 師 有 賀 明 子

授業科目の内容：

中級以上の英文を読み、各種の問題を解くことで読むためのスキルを身につけ、語彙力と読解力の向上を目指すことがこの授業の目的である。

テキストの読み物は、エネルギー問題、就職、遺伝子組換え食品、音楽など多岐の分野にわたり、私たちの知的好奇心を十分に満足させてくれるものである。各章ごとに必須語彙などの小テストを実施し、関連記事が見つければそれを読んで学習の成果を確認したい。

またテキスト以外にも、季節の行事（ハロウィーン、クリスマスなど）、あるいは注目に値する出来事（昨年は「高校必修科目未履修問

題」，「腎臓売買」など）に関する英文記事を授業の一部を利用して読むほか，必要に応じて，音声・映像も教材として使用する。

さらに，課外学習として年に 3 冊程度，英語で書かれた本を読み，ブックリポートを提出してもらう予定。

CD 付きの *Reading In 3* は自宅学習用。

テキスト：

Neil J. Anderson, *Active Skills for Reading: Book 4*, Thomson Heinle
Casey Malarcher, *Reading In 3*, Thomson Heinle

英語Ⅱ A（レベル2）(2)	水曜 3 限
随筆を読む	教 授 宇 沢 美 子

授業科目の内容：

イギリスの随筆の名文を読みます。逐語訳，文脈に沿った意識，要約，キーワード抽出など，適宜それぞれの作品にあった方法で，書き手の発想の妙と英語を味わいながら，読み進んでいく予定です。テキストのアンソロジーに集められたものは，かなり短い作品が多いので，一回に一作品読むくらいのスピードで読みたいです。

テキスト：

Great English Essays: From Bacon to Chesterton, ed. by Bob Blaisdell (Mineola: Dover Publications, 2005)

英語Ⅱ A（レベル2）(2)	水曜 4 限
ベトナム戦争の文化的記憶	講 師 永 野 文 香

授業科目の内容：

ベトナム戦争は，文学，映画，音楽，さらにはイラク戦争報道にいたる様々な文化表象を通じて，現在も私たちに大きな影響を与えています。この授業では，みずからもベトナム帰還兵であるティム・オブライエンの短編やエッセイを中心に，映像・音楽作品など，さまざまなジャンルの英語作品を読み解き，その現代における意味を探ります。作品は平易な英語で表現されたものばかりですが，歴史的背景に言及した箇所などは難しく感じるかもしれません。授業では，まず毎回一定の分量を速読し，内容のまとめ（担当者のプレゼンテーション）や背景説明などの情報整理を行います。そのうえで，重要な一節を全員で精読・分析し，より深い理解の助けとしたいと思います。歴史的な文脈に対する理解を深めるとともに，批判的な読みのための基本的な英語力を身につけるのが本講義の目標です。

テキスト：

Tim O'Brien, *The Things They Carried* (New York: Penguin 1990).
必要に応じて授業中にプリントを配布します。

参考書：

授業中に随時紹介します。

英語Ⅱ A（レベル2）(2)	水曜 5 限
アカデミック・リーディングスキルの養成	講 師 茂 市 順 子

授業科目の内容：

英文読解力を向上させていくことを目標に据えながら，語彙力を増強し，聞き取りの力を伸ばしていくことも目指します。

使用する教科書は，英語圏で用いられている大学生向けの教科書をベースにしたもので，社会，文化，経済，科学など様々な分野における事象を題材にしています。読解力を養成するために，1) 英文の内容を迅速に，効率よく，的確に理解するために必要なスキルを身につけ，2) 細かい点にも注意を向けながら精読し，言外にこめられた意味を掴み取る力を培っていきます。

幅広い語彙と多様な文体・英語表現に接することで，語彙の強化を図ります。ならびに，読了した箇所はヒアリングの訓練を通じて復習します。

テキスト：

College Reading 2 (Houghton Mifflin, 2006)

参考書：

必要に応じて，授業内でプリントとして配布します。

英語Ⅱ A（レベル2）(2)	木曜 3 限
リーディング・スキルとパラグラフ・ライティングの学習	講 師 佐 藤 光 重

授業科目の内容：

論文やエッセイの構造を理解し，正確に内容を把握する練習を積む。春学期は読解練習を中心に進めながら，適宜，短い作文練習を取り入れる。秋学期は，読解練習をもとにさまざまなパラグラフ作文に取り組む。

テキスト：

Independent Reader: Improving Essential Reading Skills (MacMillan, 1998).

参考書：

Paragraphs That Communicate (MacMillan, 1990).

英語Ⅱ A（レベル2）(2)	水曜 2 限
〈人類共通語は必要か〉の講読	准教授 足 立 健 次

授業科目の内容：

英語圏を代表する文芸批評家ジョージ・スタイナーが，BBC テレビで一般向けに行った講演に基づく文章を読みます。この中で，著者は，なぜこの地球上に何千と言われる数多くの言語が存在しているのか，そして将来人類共通の言語が生まれる可能性があるのか，そもそも私たちはそのような共通語を必要としているのか，という疑問を提示しています。この文章を丹念に読み解きながら，今声高に叫ばれている *Globalization* というものが抱えている問題を言語的側面から考えてみたいと思います。

テキスト：

George Steiner, *The Tongues of Men*（南雲堂）

英語Ⅱ A（レベル2）(2)	火曜 4 限
Readings on Contemporary Topics	講 師 松 原 美 智 子

授業科目の内容：

This is an intermediate reading course. By reading articles on various contemporary topics, such as advertising, gender, ecotourism and fashion, students will learn to develop critical thinking skills and language proficiency.

テキスト：

Laurie Barton and Carolyn Dupaquier Sardinas. *North Star: Reading and Writing (Intermediate)*. 2nd Edition. Longman

参考書：

Students are advised to have an English-English dictionary, such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary.

英語Ⅱ A（レベル2）(2)	月曜 3 限
イギリスの新聞・雑誌を読む	講 師 石 田 名 都 子

授業科目の内容：

イギリスの新聞や専門誌に掲載された世界各地の最新事情を学びながら英語力のさらなる向上をめざします。言語表現を正確に読みとることを第一の目標にしますが，同時に英語のパラグラフ構成やリーディングストラテジーも学びます。補助教材のプリントも随時，使用します。

テキスト：

村上直久編著，*The World Reader* (Kinseido, 2007)

英語Ⅱ A（レベル2）(2)	水曜 3 限
〈神話学入門〉の講読	准教授 足 立 健 次

授業科目の内容：

文学・歴史学・心理学・社会学・人類学などの基礎をなすと言われていいる〈神話〉がもつ現代的意義を説いた文章を精読します。これは，様々な専攻に所属する皆さんが神話と自分の専門とのかかわりについ

て考えるための格好の材料となるでしょう。また、英語で原書を読むための能力向上にもつながるはずです。

テキスト：

David Leeming, *Mythology* (Kinseido)

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	金曜 5 限
論説文を読む	准教授 坂 本 光

授業科目の内容：

比較的短めの論説文を、その論理的構成にも目を配りながら読み取る訓練を行う。使用テキストは、雑誌記事、新聞記事、書籍からの抜粋が中心。基本的には読解の授業だが、必要に応じて文法や語彙の点検・復習も行う予定。

テキスト：

原則としてプリントとして配付する。

参考書：

文法書、辞典類などについて、必要に応じて初回講義時に紹介する。

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	月曜 5 限
C. S. ルイスのファンタジー世界	講 師 高 木 眞佐子

授業科目の内容：

児童文学程度の英語であれば余裕を持って鑑賞することができ、なおかつ適切な応答が筆記でも口頭でもできることを第一段階とする。さらに、内容を踏まえた文学批評を扱い、ルイスのファンタジー論が英語で理解でき、その内容を日本語でなら考察できるようになることを主眼とする。作品→伝記→文学批評という一連の流れを通じて、ルイスの文学世界を理解する。今回は特に、中世英文学の『サー・オルフェオ』と『サー・ガウエインと緑の騎士』に関するルイスの考察を含める。

テキスト：

C. S. Lewis, *The Silver Chair*

参考書：

C. S. Lewis, *The Discarded Image*

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	火曜 2 限
イギリス事情	講 師 石 黒 太 郎

授業科目の内容：

イギリスについて書かれた文章を読みます。前期はイギリスの様々な側面を扱った教科書で全体像を学び、後期はイギリスの文化や社会を扱った新聞記事などを読みます。

テキスト：

Christopher Belton, 廣田典子, *The Unchanging Face of Great Britain* (金星堂, 2006年)。後期はプリント教材を用意します。

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	月曜 2 限
Sherwood Anderson を読む	講 師 黒 崎 真由美

授業科目の内容：

米作家 Sherwood Anderson (1876-1941) の代表作 *Winesburg, Ohio* (1919) を読みます。英語読解力の養成が目的であるのはもちろんですが、文学作品の鑑賞をも心がけます。素朴で美しい口語体で書かれたアメリカ中西部の牧歌的な世界、そして実験的手法を用いて描かれた人間の複雑な内面心理を読み、味わいたいと思います。

テキスト：

Sherwood Anderson, *Winesburg, Ohio*. (Penguin Books)

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	火曜 1 限
『ホビットの冒険』を読む	講 師 伊 藤 壘

授業科目の内容：

『ロード・オブ・ザ・リング』の映画でも有名となったホビットについて書かれた最初の物語を講読します。

『ホビットの冒険』は詩的表現も多く、かつ英語の歴史や中世英文

学について知らない人が読むとどういうことなのか意味がわからないところも多いので、解説を加えながら読み進めます。

テキスト：

J. R. R. Tolkien. *The Hobbit* (London: HarperCollins, 1999)

参考書：

J. R. R. トールキン著瀬田貞二訳『ホビットの冒険』上・下巻 (岩波少年文庫, 2000)

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	火曜 2 限
中世の騎士の生活を垣間見てみませんか？	講 師 伊 藤 壘

授業科目の内容：

英国のコメディ集団「モンティ・パイソン」にいた人物で、今日では中世アマチュア学者となったテリー・ジョーンズ (Terry Jones) の傑作冒険騎士物語 (とはいえ、主人公は騎士ではありませんが) を読みます。

中世英国、欧州の生活についての知識を楽しみながら得るとともに、物語文学を読むとはどういうものを学びます。なお、授業中では朗読の仕方と合わせて学びますので、単に意味を解釈するだけでなく、それを自分の声で表現できるようになるのが目的です。

テキスト：

Terry Jones. *The Knight and the Squire* (London: Puffin, 1999)

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	月曜 1 限
短編小説の結末は？	[春] 助 教 徳 永 聡 子 [秋] 助 教 吉 田 恭 子

授業科目の内容：

(春) 春学期は *Twist Ending* の短編小説を講読する予定。『チャーリーとチョコレート工場』の原作者、Roald Dahl の作品などを扱う予定です。ごく平凡な日常に待ち受ける思いがけない結末を読み解きながら、英語で作品を読む楽しさを味わいたい。

(秋) 秋学期は *Happy Ending* の短編小説を週一編のペースで講読する。授業が *Happy Ending* となるか如何は、みなさん次第。多読および英文レポートを通じて読解力の向上を図ります。

テキスト：

(春・秋) コピーテキストを販売する

参考書：

(春・秋) 和英辞書、または英英辞書を毎回必ず持参すること。

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	月曜 4 限
米英の高級紙を読む	講 師 石 田 名都子

授業科目の内容：

アメリカやイギリスの高級紙と言われる新聞や雑誌を講読し、世界情勢に目を向けると共に英文を正確に読みとり読解力を高めることをこのクラスの目的とします。適宜、補足プリントも使用します。

テキスト：

Bill Benfield, *New Windows on the World* (Seibido, 2007)

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	火曜 1 限
アメリカと世界Ⅰ	教 授 松 本 典 久

授業科目の内容：

国際関係学的な観点から、アメリカを中心とする今日の世界情勢について考えます。北米、欧州、東アジアでの出来事が主な対象となりますが、必要に応じ、中東、南米、ロシア、アフリカ、西アジアにおける問題も取り上げます。「国際的な目」を養うことを主な目的とします。中級者向けの授業です。

テキスト：

ニューヨーク・タイムズやボストン・グローブなどからの抜粋 (プリント配布) を使用します。A3, 年間 10 枚程度。

参考書：

特にありません。メディアなどを活用し、日々、世界情勢から目を

離さないようにして下さい。

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	火曜 5 限
ダーウィンとその時代	講 師 藤 原 雅 子

授業科目の内容：
チャールズ・ダーウィン (1809-1882) の生涯、業績、時代について論じたテキストを読み、彼が『種の起源』(1859) で展開した進化論が後の医学、哲学、文学、倫理学、経済学などに与えた影響について考える。内容の正確な読みとりと最大の力点をおきながら、語彙力の強化、英問英答、内容の要約を通して英語力の増強につとめる。人文科学の諸分野を学ぶために最低限必要な知識と語彙を身につけたい。

テキスト：
William H. Brock, *The Origin of a Theory* (『ダーウィンとその時代』)
音羽書房鶴見書店

参考書：
・『種の起源』チャールズ・ダーウィン／八杉龍一訳 (岩波文庫)
・ジリアン・ピア『ダーウィンの衝撃』(工作舎)

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	金曜 3 限
〈絵画の見方〉の講読	准教授 足 立 健 次

授業科目の内容：
とかく美術作品は、それについての専門的な知識や深い素養がなければ鑑賞できないものと思われがちである。これとは反対の立場から、多くの実例を挙げながら、私たち門外漢にも分かりやすく絵画の世界へと誘ってくれる文章を読みます。

テキスト：
Susan Woodford, *Looking at Pictures* (Cambridge University Press)
これをプリントで使用します。

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	木曜 5 限
言語について考える (精読による読解力養成)	講 師 谷 みゆき

授業科目の内容：
この授業では、今までに習得した文法・語彙の知識を再確認しながら英文を正確に読むことができるようになることを目標とします。
また、言語について広く持たれている様々な考えを検証したテキストを使用し、「言語に優劣はあるのか?」、「本当に女性は男性よりもよくしゃべるのか?」など、言語を取り巻く諸問題について考えます。

テキスト：
Laurie Bauer & Peter Trudgill eds., *Language Myths* (Penguin Books)

参考書：
授業中に適宜紹介します。

英語Ⅱ A (レベル2) (2)	水曜 4 限
カナダを読む	講 師 白 鳥 義 博

授業科目の内容：
現代のカナダの諸相についてユーモラスに、しかし丁寧に書かれたテキストを主教材として、専門課程において必要とされる英語読解能力を高めることを目指します。文法と単語の基礎を確認しながら、辞書や事典類、さらにインターネットなどを活用して英文を読みこなす技術を磨きます。また、テキストの話題に応じて多くの副教材 (プリント) を配布し、さまざまなジャンル・タイプの英文になれる訓練をします。こうした活動を通して、アメリカとも、またイギリスともフランスとも違うカナダの本質と魅力にさまざまな角度からアプローチしてゆきます。

テキスト：
Kerry Colburn and Rob Sorensen. *So, You Want to Be Canadian: All about the Most Fascinating People in the World and the Magical Place They Call Home.* (Chronicle Books, 2004; ISBN:0-8118-4535-4)
その他プリント教材を随時配布します。

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	水曜 2 限
Reading, Intensive and Extensive	講 師 ラトリッジ, エラ

授業科目の内容：
Through reading articles and stories, students will build reading skills and vocabulary. About 30 minutes of class time will be spent on pleasure-reading to build fluency. There will also be group discussions of reading topics.

テキスト：
hand-outs

参考書：
dictionaries you normally use

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	土曜 3 限
Maugham の短編を読むー英英辞典を使って	講 師 千代田 友 久

授業科目の内容：
この授業では、W. S. Maugham の短編を主に読みます。The Colonel's Lady ははじめできるだけ多くの作品を読むつもりです。少し難しいかもしれませんが、予習をしっかりとした上で説明をよく聴き高度な読解力を身につけてほしいと思います。
また、作品の中から発信能力を養う上で役立ちそうな英文を選びできるだけたくさん暗記してもらうつもりです。
なお、授業中に英英辞典を用います。この授業では特に単語や熟語の使い方に注意し、類語の比較等を行うことで発信能力の向上に努めたいと思います。

テキスト：
プリントを配布します。

参考書：
OXFORD ADVANCED LEARNER'S DICTIONARY (第7版)
※略して OALD

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	水曜 3 限
	講 師 ルイス, エイミー R.

授業科目の内容：
This course will provide the student with the opportunity to develop his/her reading comprehension skills through high-interest, intensive reading. A limited reading list, focusing primarily on human interest/cultural differences, will be used for small group discussion/analysis of the material. Emphasis will be placed on literary analysis, and writing effectively about literature. This class is valuable for the student who wants to improve his/her reading/analytical skills.

テキスト：
Sudden Fiction; International Edition. Norton Press.

参考書：
SUGGESTED: *THESAURUS*. PENGUIN PUBLICATION

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	金曜 3 限
多様な文体にふれる	講 師 井 上 美 雪

授業科目の内容：
新聞記事 (*The Japan Times* や *International Herald Tribune* など) と短編小説 (Saroyan, Mansfield, Hemingway, Green 作など) を交互に読んでいきます。新聞記事に関しては、新聞でよく用いられる用法や文法事項を学び、新聞の読み方を身につけるのが狙いです。適宜その日の新聞も読む予定です。短編小説を読む際には、精読をしてその作家らしい文体を味わえるよう解説していきます。作家が生きた時代背景にもふれ、小説を当時の歴史や文化史の文脈にそって読む作業も行います。希望があれば、テキスト掲載以外の短編や現代作家の作品も取り上げたいと思います。

テキスト：
Kazushi Kuzumi, *The Kaleidoscope of Life* (Nan'un-Do)

参考書：

随時資料を配布します

英語 II A (レベル3) (2)

月曜 1 限

アメリカ環境文学の古典を読み、考える

講 師 黒 崎 真由美

授業科目の内容：

アメリカの生物遺伝学者 Rachel Carson (1907-64) の主著 *Silent Spring* (1962) を読みます。この作品は昨今頻繁に議論されるようになった環境問題をもっとも早い時期に論じたものです。精読することによって英語読解力を養成することが第一の目的です。それと同時に、エコロジーや地球環境保護の問題を考え、各自英語でミニ・プレゼンテーション形式で発表してもらいます。

テキスト：

Rachel Carson, *Silent Spring*. (英宝社)

英語 II A (レベル3) (2)

水曜 5 限

A Critical look at American Culture

講 師 ルイス, クライド・ヘンリー, Jr.

授業科目の内容：

This course will attempt to provide students with a critical understanding of “Modern America,” and historical “truths” that shape current American thinking. Each week the instructor will provide students with a topic and examine it from opposing perspectives. Students will be expected to think critically about the topic and write weekly 1/2 page reaction papers.

Various methods and media will be used in class including:

- Movie clips
- Current Music
- Sections from books
- Simulations
- games

The desired outcome of this course is to provide students with the ability to critically analyze and discuss various aspects of “modern” American culture.

テキスト：

Current materials will be provided in class

参考書：

N/A

英語 II A (レベル3) (2)

金曜 2 限

〈人間を考える〉の講読

准教授 足 立 健 次

授業科目の内容：

著者はアメリカの高名な文化人類学者ですが、ここに取り上げたテキストは専門的な内容のものではなく、一般向けに書かれた啓蒙書です。決して易しい英文とはいえませんが、これを丹念に読むことが動物界ばかりでなく人間社会にも働いている競争の原理と協調の原理について考える契機になればと思います。

テキスト：

Ashley Montagu, *On Being Human* (成美堂)

英語 II A (レベル3) (2)

水曜 2 限

現代イギリス小説を読む

講 師 高 津 昌 宏

授業科目の内容：

John Bayley の小説 *The Red Hat* (1997) を読む。これはベイリーが 17 世紀オランダの画家フェルメールの「赤い帽子の女」の絵から想を得て書き上げた軽いタッチの中篇小説だが、「ロマン・ノワール」(暗黒小説)とも「間違いの喜劇」とも言える微妙な作風で、自意識過剰な現代人の病理をあぶり出しているようにもみえる。著名な文芸批評家でもあるベイリーの巧みな小説作法を満喫したい。

テキスト：

John Bayley, *The Red Hat* (Welcome Rain Publishers)

参考書：

ジョン・ベイリー『愛のキャラクター』(高津昌宏監訳, 南雲堂フェニックス)

英語 II A (レベル3) (2)

火曜 2 限

‘What did You Think about the Story?’

講 師 佐 藤 理 佳

授業科目の内容：

The aim of this course is to give the student an opportunity to express his/her opinions and to listen to what fellow students have to say. We shall try to achieve this aim through group discussion using some short stories from the textbook. Most of the time, we will be talking about the chosen story in small groups, starting with asking each other, ‘What did you think about the story?’ This will thus necessitate careful preparation, reading each story thoroughly and thinking about what to say in class, before each class.

From time to time, we will use handouts provided by the instructor. The materials include poems, word games and exercises to expand our vocabulary.

テキスト：

Clare West, ed., *From the Cradle to the Grave* (Oxford University Press, 1993)

Additional materials will be provided by the instructor.

英語 II A (レベル3) (2)

火曜 2 限

アメリカと世界 II

教 授 松 本 典 久

授業科目の内容：

国際関係学的な観点から、アメリカを中心とする今日の世界情勢について考えます。北米、欧州、東アジアでの出来事が主な対象となりますが、必要に応じ、中東、南米、ロシア、アフリカ、西アジアにおける問題も取り上げます。「国際的な目」を養うことを主な目的とします。中・上級者向けの授業です。

テキスト：

ニューヨーク・タイムズやボストン・グローブなどからの抜粋（プリント配布）を使用します。A3, 年間 10 枚程度。

参考書：

特にありません。メディアなどを活用し、日々、世界情勢から目を離さないようにして下さい。

英語 II A (レベル3) (2)

火曜 5 限

The World Today

講 師 ベデロ, サイモン

授業科目の内容：

Aim, Focus and Methodology

The World Today is an elective English course. Its primary focus is on reading comprehension. The course is designed to help students cultivate and further improve reading comprehension skills. The course, by its very aspect, includes extensive listening and speaking activities.

Students improve on these skills through weekly projects and other in-class activities. At the end of the course, students will acquire techniques that enable them to analyze and express opinions with a critical mind.

テキスト：

The course has a textbook titled *READY TO START? 3* by Shizuka Tetsuhito and Rebecca Calman. (2004: SHOHAKUSHA)

参考書：

Longman’s English-English Dictionary

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	金曜 4 限
英米の短編小説を読む	准教授 坂 本 光

授業科目の内容：

英語で書かれた文章にも色々あるが、中でも日常使われる言葉を用い、言葉のポテンシャルを最大限まで駆使してみせるのが小説だろう。この授業では短編小説を取り上げ、思い切り時間を掛けて精読し、また別の機会にはスピードを上げて読み進める。文学の授業ではないので、鑑賞のようなことは行わない。小説を読み慣れている人も、そうでない人も歓迎する。

テキスト：

V. S. Pritchett, ed. *The Oxford Book of Short Stories* (Oxford: Oxford UP, 2001)

参考書：

文法書、辞典類などについて、必要に応じて初回講義時に紹介する。

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	月曜 3 限
English Poetry	講師 ゲーリング, リューベン M.

授業科目の内容：

In this class we will learn one long poem in English and a number of short poems. We shall cover most of the forms of short poetry, including rhymes and limericks.

テキスト：

The text will be handed out by the teacher.

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	火曜 4 限
	講師 藤 原 雅 子

授業科目の内容：

英国 BBC ニュースのビデオを用いてリスニングの訓練をする。ニュース英語には (1) 自然な速度 (2) 話題の幅広さ (3) 語りの多様性 (アンカーパーソン, リポーター, 当事者や専門家など複数の人間が登場するため) など、英語力の増強をはかるための利点がある。ディクテーションを中心に、内容理解のための練習問題、口頭発表、語彙力の強化などを通して、リスニングの力のみならず総合的に英語力を伸ばすことをめざす。関連インターネット・新聞記事も適宜紹介する。

テキスト：

BBC Understanding the News in English 4 (金星堂)

参考書：

BBC ニュースウェブサイト <http://news.bbc.co.uk/>

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	月曜 5 限
イギリス小説講読	講師 三 馬 志 伸

授業科目の内容：

Wilkie Collins (1824-89) の短篇小説を講読します。
1860 年代、イギリスでは Sensation Novels と呼ばれるミステリ小説が大流行しましたが、『白衣の女』(1860)『月長石』(1868) で有名な Collins はこのジャンルを代表する作家で、この 2 作以外にも数多くの傑作を残しています。この授業では、Collins の特徴がよく出ている短篇を講読し、原文で小説を読むおもしろさを体得してもらいたいと考えています。

テキスト：

Wilkie Collins, *Tales of Terror and the Supernatural* (Dover Publications).

参考書：

その都度指示します。

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	木曜 2 限
英文読解力・表現力の向上を目指す	講師 有 賀 明 子

授業科目の内容：

テキストの“Reading”セクションでは中級以上の英文を読み、各種の問題を解くことで読むためのスキルを身につけ、語彙力と読解力の向上を、さらに“Writing”セクションの演習によって英文表現力の向上を目指すことがこの授業の目的である。

テキストの読み物は、アカデミックな内容で多岐の分野にわたり、私たちの知的好奇心を十分に満足させてくれるものである。各章ごとに必須語彙などの小テストを実施し、関連記事が見つければそれを読んで学習の成果を確認したい。

またテキスト以外にも、季節の行事 (ハロウィーン, クリスマスなど)、あるいは注目に値する出来事 (昨年は「高校必修科目未履修問題」, 「腎臓売買」など) に関する英文記事を授業の一部を利用して読むほか、必要に応じて、音声・映像も教材として使用する。

さらに、課外学習として年に 3 冊程度、英語で書かれた本を読み、ブックレポートを提出してもらう予定。

CD 付きの *Reading In 4* は自宅学習用。

テキスト：

- ・ *Quest 3 Reading and Writing*, second edition, McGraw-Hill
- ・ Casey Malarcher, *Reading In 4*, Thomson Heinle

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	火曜 3 限
Sharing Thoughts on Contemporary Topics	講師 松 原 美智子

授業科目の内容：

This is a high-intermediate course with special emphasis on listening and speaking. Audio materials on contemporary topics such as media, conservation, immigration and technology will be used to develop critical thinking skills and language proficiency.

テキスト：

Tess Ferree and Kim Sanabria. *North Star: Listening and Speaking (High-Intermediate)* 2nd Edition. Longman.

参考書：

Students are advised to have an English-English dictionary, such as the Oxford Advanced Learner's Dictionary.

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	金曜 5 限
江戸の大名行列：政権のシンボルとパフォーマンス	講師 勝 村 仁 子

授業科目の内容：

- ・ 海外の日本研究者によって書かれた最近の論文の講読。(*Japan Review*, 2005, 17:55-89)
- ・ 日本の江戸期を再認識し、また、英語で日本を語ることについての認識を深める機会を提供することを目的とする。

テキスト：

論文のコピーを配布する。

参考書：

必要に応じて授業内に紹介の予定。

英語Ⅱ A (レベル3) (2)	木曜 3 限
英文読解力と発信能力の養成 (言語学の文献の精読, ニュース英語, 日本文化紹介)	講師 有 光 奈 美

授業科目の内容：

講義の目的：言語学の文献の精読と、幅広いトピックの英文速読により、英文読解力と発信能力を養成し、英語による思考力と理解力の向上を図ります。

講義を通して、メタファーを中心とした言語学の基礎的知識の習得

と、幅広いトピックの英文読解ができるようにします。

言語学の中でも、日常言語と認知のメカニズムを中心に、言語を通して、人間の発話、思考、認識の問題を考察していきます。

メタファーを中心とした言語学の基礎的知識を身につけると共に、ニュース英語等の幅広いトピックの英語に取り組み、英文読解力と発信能力を身につけることが、本講義の目標です。

テキスト：

Lakoff and Johnson, *Metaphors We Live by* (University of Chicago Press)

および、プリント配布

参考書：

必要に応じ、授業内で紹介します。

英語Ⅱ A (レベル3) (2)

木曜 1 限

TV News を通して英語のスキルを磨く

講 師 木 村 和 美

授業科目の内容：

この授業ではアメリカ ABC 放送のニュースや NHK ニュース（英語放送）を主教材として、listening の他に、reading（関連のニュース記事を読む）、speaking（扱ったニュースのトピックについて discussion をする）、writing（そのトピックについて、自分の意見を書く）、oral presentation（更にその意見を皆の前で発表する）、vocabulary building（時事英語の語彙の強化）などの課題に取り組みながら、英語のさまざまなスキルを総合的に鍛えることをめざします。同時に、世界で起こっているいろいろな出来事に関心を持ち、それについて簡単でも、英語で自分の考えを表現できるように練習してもらいます。ニュースの合間に、ヒット曲・インタビュー・スピーチ・映画の一コマなど、さまざまな生きた英語に触れる機会も設ける予定です。

授業は英語で行い、日本語を媒体とせずに、英語で受信し、英語で考え、英語で発信することを目標とします。

テキスト：

① Yamane & Yamane, *ABC World News 9*（金星堂 2007）

② プリント（授業中に適宜配布します）

参考書：

授業中に必要に応じて紹介します。

英語Ⅱ A (レベル3) (2)

火曜 4 限

Theme Music

講 師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容：

The focus of this course will be popular music from the 1960s to the 2000s, including rock, folk, pop, rap and reggae. We will be listening to the music of many composers, and studying social, political and cultural themes expressed in their songs. Class activities will include listening, video viewing, discussion, and presenting information and opinions in English. Homework assignments will include background reading about songs and musicians, internet research, and completion of worksheet tasks.

We will also be developing presentation skills, including data collection, note taking, worksheet design, and speaking using brief notes. Student presentations each semester will involve working with partners in song selection, data collection, worksheet preparation, presenting information and opinions in English, and responding to questions from other students.

テキスト：

Textbook - Herman Bartelen, *The Story of Popular Music*, Macmillan Language House, 2007. Other course material, including song worksheets with reading comprehension, vocabulary explanation, lyrics analysis, and discussion activities, will be provided by the course instructor.

参考書：

Website references will include <www.allmusic.com> and <en.wikipedia.org>

英語Ⅱ A (レベル3) (2)

水曜 3 限

Reading, Intensive and Extensive 講 師 ラトリッジ, エラ

授業科目の内容：

Through reading articles and stories, students will build reading skills and vocabulary. About 30 minutes of class time will be spent on pleasure-reading to build reading fluency. There will also be group discussions of the reading topics.

テキスト：

hand-outs

参考書：

dictionaries which you normally use

英語Ⅱ A (レベル3) (2)

火曜 3 限

INTERNATIONAL ENGLISH 講 師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容：

This course will focus on a variety of topics related to travel and culture in developed and developing countries. Students will improve their English communication skills through speaking, listening, reading and writing activities. This course will also enable students to develop audiovisual presentation skills. Presentation activities will include internet research, data collection, note taking, worksheet preparation, speaking and listening skills.

テキスト：

Course material will include worksheets focussing on travel and culture topics, questionnaires, video comprehension, reading comprehension, and discussion activities.

All material used in the course will be provided by the course instructor.

参考書：

Website references will include <www.atlapedia.com>, <en.wikipedia.org> and <wikitravel.org>

英語Ⅱ上級 A (2)

金曜 2 限

My View

講 師 ベデロ, サイモン

授業科目の内容：

Aim, Focus and Methodology

My View is an elective English course. Its primary focus is on learning how to express personal views. The course is designed to help students develop a variety of advanced communication skills, including reading, writing and discussion.

The course follows a step-by-step method, whereby students learn the appropriate skills using pre-made samples of writing and other sketches. At the end of the course, students will feel confident to express themselves in both writing and spoken words, yet with clarity and ease.

テキスト：

The course is based on two reference books although other sources may well be used. The instructor will, however, provide materials for class activities.

参考書：

- Reference Book 1: SIMPLY WRITING by Diane H. Nagatomo. Published by KINSEIDO (2001).
- Reference Book 2: READY TO WRITE by Karen Blanchard and Christine Root. Published by Longman (2004).

英語Ⅱ上級 A (2)

火曜 5 限

Advanced Discussion on American Multiculturalism

講 師 ゴーリンジャー, アダム

授業科目の内容：

The aim of this course is to develop students' awareness for cross-

cultural understanding through an examination of diversity and multiculturalism in the United States. Based on a selection of readings, documentaries, and American television programs, we will analyze and discuss issues relating to race, religion, gender, region and class in the United States. Extensive homework preparation will be required as students will be called upon weekly to answer prepared questions and to present their individual interpretations in class. This course is designed for students with advanced speaking and comprehension abilities in English.

テキスト：

All materials will be provided by the instructor.

英語Ⅱ上級A (2)	水曜 5 限
Writing and Discussion	講 師 ラトリッジ, エラ

授業科目の内容：

Students will share responsibility for choosing discussion topics based on newspaper articles, books, movies or TV programs. About 30 minutes of class time will be spent on development of writing fluency and helping students find their own English writing voice.

テキスト：

none

英語Ⅱ上級A (2)	金曜 1 限
Talk and Listen	講 師 ベデロ, サイモン

授業科目の内容：

Aim, Focus and Methodology

Talk and Listen is an elective English course. Its primary focus is to develop a variety of communication skills, particularly the skills of listening, speaking and presentation. The course also involves debate and group discussions.

The course is activity oriented. Classroom activities are carefully designed to generate a great deal of interaction amongst students. By the end of the course, students will be able to hold an English conversation and/or make a presentation with clarity and ease.

テキスト：

The course has one basic textbook titled PRESENTING DIFFERENT OPINIONS by Richard McMahon. Published by NANUNDO in 2003. ISBN4-523-17413-X.

参考書：

Longman's English-English Dictionary

英語Ⅱ上級A (2)	月曜 4 限
Seeing the World	講 師 ゲーリング, リューベン M.

授業科目の内容：

This class focuses on finding information and discussions in English.

Students will work in groups. Each group will choose a country to study. Through research and discussions students will acquire the information about the country of their choice. They will then report on their work to the rest of the class.

英語Ⅱ上級A (2)	木曜 5 限
	講 師 ルイス, エイミー R.

授業科目の内容：

This course will focus on helping the student to continue to develop a variety of advanced communication skills which will enable him/her to communicate clearly, concisely, and confidently in English. The course will stress communication skills.

Working in pairs or small groups, students will complete a variety of guided tasks which will center around a specific skill or skills. Topics will be timely and interesting.

テキスト：

Textural material will be distributed in the class.

参考書：

Suggested: A *Thesaurus*. Penguin Publication.

英語Ⅱ上級A (2)	水曜 4 限
Critical Thinking and Presentation Skills	講 師 ルイス, クライド・ヘンリー, Jr.

授業科目の内容：

This course will attempt to provide participants with the ability to think critically. Each week, two students will be expected to give a 10-15 minute presentation and lead discussions based on current events. Students will also be expected to include questions in their presentations that allow fellow class participants to analyze the topic further.

The desired outcome is to provide students with the ability to understand, critically analyze, and present information.

The intent of this course is to provide:

1. Students with the opportunity to learn and use various presentation styles in an academic setting.
2. Students with the ability to critically analyze information.
3. Students with a higher level of comfort presenting information in front of others.

Students will also be presenting their final projects. Students are expected to have a clear understanding of their topic and have the ability to present it to the class.

テキスト：

Current Materials will be provided in class.

参考書：

N/A

英語Ⅱ上級A (2)	火曜 5 限
Discussion	講 師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容：

In this advanced communication course, we will be discussing a variety of social, cultural and political topics, which will be selected by students at the start of the course. Class activities will include reading and video comprehension, exchanging information and opinions. Student presentations each semester will focus on topics chosen by students, and will involve data collection, designing worksheets, presenting relevant information using a variety of media, and expressing opinions.

テキスト：

Course material will include reading passages, worksheets presenting comprehension and discussion tasks, questionnaires, and audio-visual material. All material will be provided by the course instructor.

参考書：

Website references will include <en.wikipedia.org>, <www.atlapedia.com>, <www.allmusic.com> and <www.allmovie.com>

英語Ⅱ上級A (2)	水曜 4 限
When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation	講 師 横 川 真理子

授業科目の内容：

What is culture and how is it acquired? How does it affect the way we act, think, and feel? How does switching cultures affect identity formation? By focusing on children reared and educated outside the culture of their parents (Third Culture Kids/ Returnees), we will see how entering or re-adjusting to a culture affects us, especially in forming identity.

Students will also have an opportunity to do original research and learn how to present their findings in oral and written form. Those

interested in using qualitative and observational methods for their thesis should find this course useful.

テキスト：

- 1) Faith Eidse and Nina Sichel. (eds.) *Unrooted Childhoods: Memoirs of Growing Up Global*;
- 2) Joseph Gibaldi. *Mla Handbook for Writers of Research Papers* (Mla Handbook for Writers of Research Papers).

参考書：

- 1) David C. Pollock and Ruth E. Van Reken. *Third Culture Kids: The Experience of Growing Up Among Worlds*.
- 2) Strunk and White, *The Elements of Style*;
- 3) Harry F. Wolcott. *Writing Up Qualitative Research* (Qualitative Research Methods);

Ⅱ ドイツ語

ドイツ語Ⅱ A (2)	講師	三ツ石 祐 子
Zwiebelfisch を読む		

授業科目の内容：

この授業では初級文法を一通り終えた学部2年生を対象としています。Zwiebelfisch は SPIEGEL というドイツ語の代表的な週刊誌 (Newsweek みたいなもの) のオンラインサービスに 2003 年 5 月から連載され、2005 年 2 月からは月に 1 度雑誌の方にも掲載されているコラムのタイトルで、ドイツ人がよく間違えて使うドイツ語の表現 (例えば、本来 2 格目的語を取る動詞の目的語が 3 格になっている; コンマの位置が正しい加減; 意味不明の外来語の使い方など) をネタに、毎週、その読者たちを楽しませています。2004 年にはその連載をまとめた本が出版され、2005 年に続編、2006 年には続々編が刊行されるといって、大変人気のあるコラムです。日本でも「日本語が乱れている」と、考えている人が多数いるように、ドイツでも「ドイツ語が乱れている」と、思う人の少なくないことがこのコラムの人気の高さから伺うことが出来ます。ドイツ人がよく間違えるドイツ語について正しく書かれたドイツ語を読みながら、ドイツ語の面白さを楽しむことができればと、考えています。

テキスト：

開講時に教室で配布します。

ドイツ語Ⅱ B (2)	講師	三ツ石 祐 子
Der Zahlenteufel を読む		

授業科目の内容：

ドイツの現代文学を代表する作家 Hans Magnus Enzensberger が算数の嫌いな子供たちに、数学の面白さを知ってもらうために書いたお話 (1999 年) を読みます。算数が大嫌いな主人公 Robert と数の悪魔と一緒に「ホップ」したり、「大根」を引っ張ったりしながら数学の面白さを再発見しましょう。子供向けに書かれた本なので、高度な数学的知識や専門用語は必要ありません。テキストには会話文がかなり多く含まれているので、発音・音読の練習をしながら、ちょっとした日常会話の表現練習もしたいと思っています。学部 1 年時に学んだ初級ドイツ語を定着させ、そして読解能力の向上を目指します。

テキスト：

開講時に教室で配布します。

ドイツ語Ⅱ C (2)	講師	山口 祐 子
中級ドイツ語 (読解中心)		

授業科目の内容：

20 世紀初頭のドイツ語圏で書かれた文学作品・エッセイ・評論を用いて、基本的な読解技術を習得することが本講座の目的です。取り扱う予定の作家例：Franz Kafka (1883-1924), Kurt Tucholsky (1890-1935), Erich Kästner (1899-1974), Bertolt Brecht (1898-1956), Siegfried Kracauer (1889-1966), Ernst Bloch (1885-1977)

等。テキストは平均 2 ～ 3 回で読みされるものを選定します。

テキスト：

初回ガイダンス時に指示します (授業計画参照)。

参考書：

初回ガイダンス時に指示します (授業計画参照)。

ドイツ語Ⅱ D (2)	講師	渡 邊 徳 明
読解練習		

授業科目の内容：

この授業では、ドイツ文法を 1 年間学習した学生諸君を対象とし、いままで身につけてきた文法事項を、実際の読解に応用してゆく練習をします。テキストはルイーゼ・リンザーの『神はほんとうにいるのか』(白水社、平尾浩三編)を用います。このテキストは、著名な女流作家が若者からの相談に対し、分かりやすく神や信仰の本質について解説してゆく、という内容です。その文章は平明でありながら格調高く、また、その語り口も、穏やかな口調でありながら、それでいて単刀直入に読者に根本的問題を投げかけるもので、静かな迫力とも呼ぶべき筆の力を感じさせます。いろいろな歴史上の人物のエピソードなども盛り込まれ、その描写は淡々としていますが、人間に対する温かい眼差しを感じさせます。最初のうちは初級文法の復習を行いながら少しずつ読み進める予定です。また、適宜、語彙や短文の小テストも行う予定です。

テキスト：

『神はほんとうにいるのか』(Luise Linser: Gibt es Gott?, 平尾浩三編, 白水社)

参考書：

『必携 ドイツ文法総まとめ』(白水社、中島・平尾・朝倉著)

ドイツ語Ⅱ E (2)	講師	シュミット, ウーテ
-------------	----	------------

授業科目の内容：

日吉で習得したドイツ語を基礎に、単語・会話力のアップを目指します。授業中にさまざまなシチュエーションを想定して、会話のパターンを練習し、それに必要な文法も復習します。言うまでもありませんが、単語を知らないと話せませんので、毎回新しい単語を覚える必要があります。積極的な参加を求めます。宿題も出ます。

テキスト：

Projekte, Dogakusha, ¥2500

ドイツ語Ⅱ F (2)	講師	ループレヒター, ヴァルター
-------------	----	----------------

授業科目の内容：

「Konversation」
Auf der Grundlage von landeskundlichen Materialien (Texte, Fotos, Audiokassetten) werden Übungen zur Ausdrucksfähigkeit, zum Hörverstehen und zur Grammatik angeboten. So sollen mit dem Lernen von Sprache zugleich auch Einblicke in die Alltagskultur, in aktuelle Themen und Probleme der deutschsprachigen Länder (Deutschland, Österreich, Schweiz) vermittelt werden.

テキスト：

プリント

ドイツ語Ⅱ G (2)	講師	川 島 建太郎
ドイツ語で読む文字メディア考察		

授業科目の内容：

初級文法を終えた学習者を念頭において書かれたドイツ語文章読本を読む。読本を読みながら、発音を確認し、語彙の拡充を図り、初級文法の復習をする。ドイツ語Ⅰで学んだ初級文法の知識を、各自が文章読解の実践を通じて活用できるようになることを授業の目的とする。着実なテンポで進むつもりである。

使用する読本は、文字メディアや書物をテーマとした短いテキストを集めたものである。言語の発生からその発展を歴史的にたどっているが、概論ではなく、むしろエッセイ風の文章で、楽しみながら読む

ことができる。授業のなかで、折にふれてドイツのメディア理論の紹介もしてゆきたいと考えている。

テキスト：
マルティン・クバチェック著・田村江里子編：本についての 12 章—石器時代からコンピュータの時代まで、1994 年、白水社。

ドイツ語Ⅱ H (2)
中級ドイツ語（読解中心） 講 師 山 口 祐 子

授業科目の内容：
20 世紀初頭のドイツ語圏で書かれた文学作品・エッセイ・評論を用いて、基本的な読解技術を習得することが本講座の目的です。取り扱う予定の作家例：Franz Kafka (1883-1924), Kurt Tucholsky (1890-1935), Erich Kästner (1899-1974), Bertolt Brecht (1898-1956), Siegfried Kracauer (1889-1966), Ernst Bloch (1885-1977) 等。テキストは平均 2～3 回で読みきれものを選定します。
テキスト：
初回ガイダンス時に指示します（授業計画参照）。

ドイツ語Ⅱ I (2)
現代ドイツ語で読む中世騎士物語 講 師 會 田 素 子

授業科目の内容：
一学年時にドイツ語を履修した学生を対象として、既習の文法事項を確認しつつ現代語に改編された中世の騎士物語を精読します。ドイツには、今なお中世の面影が残っていますが、現代ドイツの実情にも触れつつ社会や文化に対する理解を深めます。また、学んだ文法を糧として、自分たちで表現することも目標とします。
テキスト：
Konrad von Würzburg “Heinrich von Kempten”, (S. Grosse, 平尾浩三編, 同学社)

参考書：
プリントを配布します。
・『コレクションドイツ語・文法』（中山豊著、白水社）
・『必携ドイツ文法総まとめ』（中島・平尾・朝倉著、白水社）

ドイツ語Ⅱ J (2)
なぜ人間は死ななければならないのか 講 師 鵜 殿 博 喜

授業科目の内容：
ドイツで高い評価を受けている “Die Kinder-Uni”（子供 — 大学）シリーズの第 1 巻の中の「なぜ人間は死ななければならないのか」を読む。内容は、死の問題を哲学的ではなく、生物学的医学的に理解しようとするものである。
テキスト：
Die Kinder-Uni(dtv)

ドイツ語Ⅱ K (2)
ドイツ語を「読む」「書く」能力を身につけよう 講 師 吉 村 創

授業科目の内容：
小説・詩や児童文学、新聞、雑誌の記事やウェブ上の記事から各分野の専門書、論文まで、ドイツ語を「読める」ようになりたい学生のために、ドイツ語読解の初歩を学ぶ授業です。また、ドイツ語を「読む」という受容的な能力のみならず、ドイツ語を「書く」という表出的な能力も培うことにより、バランスのとれたドイツ語力を身につけることを目指します。
「読む」能力については、ドイツ語圏の生活・社会・文化に関するものを中心に、1～2 ページほどの物語・エッセイ・新聞・雑誌記事などを 2 週で 1 編ほどのペースで読むことにより、日本語を補助としながらも日本語訳を介さずに直接ドイツ語を読む練習を行います。
「書く」能力については、日本語文をドイツ語文に「書き換える」ことにとどまらず、自分が表現したいことをドイツ語で作文できる主

体的なドイツ語運用能力を身につけることが目標です。
テキスト：
・清野智昭『ドイツ語を書いてみよう！』（白水社、1,680 円）
（「読む」テキストについては、プリントを配布します。）

ドイツ語Ⅱ L (2)
ナチスに立ち向って処刑された Scholl 兄妹の物語 講 師 鵜 殿 博 喜

授業科目の内容：
昨今映画でも話題になった白バラの Scholl 兄妹について、姉の Inge Scholl が書いた文章を読む。
テキスト：
「白バラ」同学社

ドイツ語Ⅱ M (2) 講 師 津 崎 正 行

授業科目の内容：
この授業では、初級文法をひとつおろし学び終えた学生を対象として、ドイツ語で書かれた文章を読みます。主に、現在のドイツや日本に関する時事的なテキストを扱います。
テキスト：
『Neuigkeiten aus Deutschland '06』（朝日出版社）を使用します。11 月ごろにはこのテキストを終えることができると思いますので、その後は参加者の興味や関心を考慮してテキストを選びます。映画やアニメーションなどの映像資料も利用する予定です。
参考書：
必要に応じて紹介します。

ドイツ語Ⅰ D (初級) (2)
ドイツ語初級 (2)
基礎ドイツ語会話と初級ドイツ語文法 講 師 山 田 史 子

授業科目の内容：
易しいドイツ語会話で耳と口（発音）をトレーニングしながら、初級文法を学びます。
テキスト：
Richter／識名／山田 著 Deuschlern durch Konversation, 同学社、2006 年、2500 円

Ⅲ フランス語			
フランス語Ⅱ A (2)	教 授	小 倉 孝 誠	誠 傑
	准教授	岑 村 和 也	也
	助 教	築 山 静 子	子
	講 師	阿 部 竹 俊	俊
	講 師	稲 葉 洋 介	介
	講 師	岩 崎 洋 治	治
	講 師	篠 原 幸 剛	剛
	講 師	高 橋 和 子	子
	講 師	松 村 剛 子	子
	講 師	真 屋 和 子	子
	講 師	宮 崎 康 子	子
	講 師		

授業科目の内容：
フランス語Ⅱ A（指定コマ）は、全クラス共通教材を用います。
使用教材 *Le Français passionnément 2* の各課は、テキスト、資料、文法説明、練習問題の 4 ページで構成されています。テキストは、会話文、インタビュー、時事文など変化に富んでおり、また、練習問題には、CD を用いた聞き取り・書き取り問題も多く用意されています。1 年次で既に学習した文法事項を定着させつつ、総合的な中級フランス語能力を磨いていくための教材です。

フランス語習得に対する関心が常に刺激される授業です。一年間の学習の終了時には、各人の興味に応じてさらに上級の読解力、あるいは会話力を養成していくことが可能となり、「もっとフランス語を！」という意欲、情熱（passion）が湧き上がってくるはずです。

テキスト：

Le Français passionné 2 [CD付]、阿南 婦美代；セシル・モラン 著、第三書房
各自生協で購入してください。

フランス語Ⅱ B (2)

フランス語のやさしいテキストを読む

講 師 稲 葉 竹 俊

授業科目の内容：

初級のフランス語文法などの基礎知識を1年生の時に学んだと思います。この授業では、基礎の復習と新しい知識の導入、ポキャブラリーの強化を主要な目的にして、ごくごく易しいフランス語のテキストを題材に、「講読」を中心にして、学習をていねいにすすめていきます。

テキスト：

阿南婦美代著『オン・ナヴァンス』（駿河台出版）

参考書：

授業の中で指示する

フランス語Ⅱ B (2)

アレクサンドル・デュマの「ミラディの処刑―続・三銃士―」

講 師 亀 谷 乃 里

授業科目の内容：

Christian Beaumelou が、Alexandre Dumas père の小説 *Les Trois Mousquetaires* 「三銃士」の後半を、初級文法を終えた学生のために平易に書き直したものの *Exécution de Milady* 「ミラディの処刑」（福井芳男註）を読みます。Introduction で「三銃士」の梗概も読みます。

テキスト：

クリスチアン・ボームルー、福井芳男編著、アレクサンドル・デュマ「ミラディの処刑」朝日出版社、1991、999 円

フランス語Ⅱ B (2)

月曜3限

Pour progresser !

講 師 ペリセロ、クリスティアン・アンドレ

授業科目の内容：

Ce cours est destiné aux élèves qui ont suivi un cours de français avec un manuel de niveau 1. Cette année nous utiliserons *Belleville 2* qui vous permettra de pratiquer la communication, la prononciation et la lecture. Vous pourrez aussi passer les épreuves du DELF A2.

テキスト：

Belleville 2, Edition Clé international, ISBN: 978-2-09-033670-2

フランス語Ⅱ B (2)

講 師 シャルコフ、スヴェトラナ

授業科目の内容：

フランス語の会話と発音

フランス語Ⅱ B (2)

シナリオを読もう

講 師 篠 原 洋 治

授業科目の内容：

本講座では、エリック・ロメールの映画『友だちの恋人』のシナリオを材料に作られた教科書を用いて、口語表現の習得ならびに文章読解能力の向上をめざします。

授業は毎回少しずつビデオを観ながら発音や聞き取りの練習をしつつ、シナリオを読解していきます。また簡単な作文練習をすることによって、フランス語の構文を学びます。

テキスト：

エリック・ロメール『友だちの恋人』（大木充、Jean-Noel BOLOT

編、駿河台出版）

フランス語Ⅱ B (2)

講 師 真 屋 和 子

授業科目の内容：

コミュニケーションの場で使えるフランス語が身につくことを第一目標としますが、基本的文法の基礎固めもかねて、できる限り、“読み・書き・聞き・話す”の調和のとれた能力の習得を目指します。

DVD 教材や CD を用いて授業をすすめる過程で、フランスの文化により多く触れる機会をもちます。また、時間の許す限り発音矯正も授業時間中に行いますが、自宅での反復練習が不可欠となります。

テキスト：

Bonjour, Paris 「ボンジュール・パリ」（三訂版）中山真彦他著（白水社、2005 年、2200 円）

フランス語Ⅱ B (2)

講 師 藤 村 均

授業科目の内容：

主要な文法事項の修得と読解力の養成。フランスの文化、社会、歴史に関する知識と理解力を身に付けることを目指します。

テキスト：

（前期）La France, Vous Connaissez? 現代フランスの基礎知識、白水社、Dura Tazuin

フランス語Ⅱ B (2)

講 師 ボダン、エマニュエル

授業科目の内容：

Dans ce cours d'expression orale, nous aborderons divers aspects de la culture française à partir de documents authentiques variés (chansons, BD, vidéos...)

L'assiduité aux cours est requise.

L'évaluation reposera sur des tests semestriels et sur un contrôle continu.

フランス語Ⅱ B (2)

月曜4限

Pour progresser !

講 師 ペリセロ、クリスティアン・アンドレ

授業科目の内容：

Ce cours est destiné aux élèves qui ont suivi un cours de français avec un manuel de niveau 1. Cette année nous utiliserons *Festival 2* qui vous permettra d'acquérir de bonnes compétences dans la communication et l'écriture. Vous pourrez aussi passer les épreuves du DELF A2.

テキスト：

Festival 2, Edition Clé International, ISBN: 978-2-09-035323-5

フランス語Ⅱ B (2)

「パリの憂鬱」を読む

講 師 高 橋 俊 幸

授業科目の内容：

ボードレールの散文詩「パリの憂鬱」を読みます。

仏文科の授業ではありませんが、文学全般に興味のある方の履修を希望します。

ボードレールの美しいフランス語を味わいながら、文法的にわからないところがないように精読して行きます。

テキスト：

ボードレール散文詩抄（第三書房）

フランス語Ⅱ B (2)

講 師 鳥 居 珠 江

授業科目の内容：

中級フランス語会話を学ぶ授業です。日常生活で役に立つ表現を習得し、〈聞く〉〈話す〉能力を高めます。

適宜、追加教材を用います。

テキスト：

Situations 1・2（早美出版社）

フランス語ⅡB（2）	
ランボーの生涯と作品を知る	講 師 宮 崎 康 子

授業科目の内容：
17 オで独自の詩法を編み出し、数年後には詩を捨ててアフリカで武器の商人として活躍した天才詩人、ジャン・アルチュール・ランボーの生涯と作品について、易しいフランス語で書かれた説明文をまじえて読むと同時に、プリント教材を用いて、彼の大望と挫折、そしてその挫折をいかにして乗り越えたかについて考えます。

テキスト：
ランボーによるエチュード 篠沢秀夫他著 朝日出版社
参考書：
初回授業時に指示します。

フランス語ⅠD（2）	教 授 荻 野 安 奈
------------	-------------

授業科目の内容：
フランス語の初級です。
基礎知識の断片を持てあましている人、あるいは1年生で他言語を習得した人を対象とします。

テキスト：
池田理代子・平野隆文・友重山桃著、『「ベルサイユのばら」で学ぶフランス語』（ソニー・マガジズ）
参考書：
プリント配布

Ⅳ 中国語

中国語ⅡA（2）	水曜3限，水曜5限 講 師 阿 部 順 子
----------	--------------------------

授業科目の内容：
中国語の文章読解と文法を学びます。
教科書に収録されている文章の内容は、現代中国社会の風俗・文化、中国の大学生たちの学生生活、また短い物語など多岐にわたっています。これらの文章を日本語に訳していく作業を経て、文章読解の力を養っていきます。
また、各課ごとにやや多めの練習問題が設けられています。ここで初級中国語で学んだ文法を復習すると同時に、新しい文法も学んでいきます。練習問題には聞き取りが多く、少し難度の高いものとなっています。これらの練習問題によって、読解力に加えて、文法に関する知識、またヒヤリング能力、会話能力、作文能力も高めていきます。
テキスト：
「大学生のための現代中国12話」（杉野元子・黄漢青著、白帝社刊）
参考書：
授業時に適宜指示します。

中国語ⅡA（2）	火曜2限，火曜3限 中国語を学ぶと同時に、中国文化を知る 講 師 平 井 徹
----------	--

授業科目の内容：
初級中国語を一年間学習した既習者を対象とする。一年間の勉強を通して、ある程度まとまった文章を読めるようになることを目標とする。
基礎的文法事項をチェックしながら語彙を増やす一方で、発音にも絶えず注意し、リスニング能力を訓練することにも重点をおきたい。テキスト附属のCDも活用してほしい。
具体的には、中国の文化と伝統に関する文章を扱う。文章を丁寧に読解することで、基礎的理解を確実に定着させ、応用力を養うのがね

らい。また、異国の文化や習慣を知ること、言語の上達にも欠かせない要素であり、学習の楽しみにもなるだろう。授業中は学生を指名し、読みと和文訳をしてもらう。文脈をしっかりとつかみ、言葉の句切りを意識した読みができるように。
ビデオ準拠の教材なので、関連する映像資料も活用し、また担当者自身の史蹟踏査の経験なども交えて、広汎な知識が深められる授業になるよう心がけたい。背景についての説明もなるべく加えて、読む楽しみを広げたいと考えている。
テキスト：
名和又介・澤田啓二・朱春躍著『映像で学ボリスニング中国語』（金星堂）
参考書：
授業中に適宜紹介する。辞書は今使用しているもので可。

中国語ⅡA（2）	火曜4限，火曜5限 講 師 高 橋 幸 吉
----------	--------------------------

授業科目の内容：
本授業は読解力の向上を目的としています。一年生で学習した文法事項の定着を図りながら、ある程度の長さの文章を読みこなしていきます。一回の授業で扱う内容がかなり多いので、十分な予習が必要です。教科書は中国の文化や風土を紹介する内容のものです。中国語力の向上とともに、中国への理解も深めたいと思います。補助教材として適宜プリントや映像資料を用いる予定です。
テキスト：
張繼濱・小川文昭著『中国ってどんな国？ ―生活風景点描―』
参考書：
初回の授業で指示しますので、初回は必ず出席して下さい。

中国語ⅡA（2）	講 師 小 沢 千代子
----------	-------------

授業科目の内容：
現代中国の諸事情を中国の新聞よりみる。
2006年に報じられた社会、経済、生活、教育、スポーツ面の最新ニュースを題材として、書き言葉の常用文法形式などに注意しながら読解・文法を学ぶ。
テキスト：
『2007年度版 時事中国語の教科書』（朝日出版社）1900円
参考書：
「whyにこたえるはじめての中国語の文法書」同公社

中国語ⅡA（2）	講 師 伊 藤 晋太郎
----------	-------------

授業科目の内容：
一年次に学んだ文法や表現法をふまえ、読解を中心とした授業を行ないます。教科書の課文は、いずれも中国人の一般的な生活や習慣を紹介したものです。中国語の勉強と同時に、中国人の生活はどのようなものか、日本人とはどう違うのかについても理解を深めてもらいたいと思います。
また、中国語の歌を紹介したり、受講生の習熟度に応じて補助教材を使用したりする予定です。
テキスト：
張繼濱・小川文昭『中国ってどんな国？―生活風景点描―』白水社

中国語ⅡA（2）	助 教 吉 永 壮 介
----------	-------------

授業科目の内容：
初級で学習した文法事項を確認しつつ、中級で必要な語彙・構文の習得を目指します。授業ではテキストの読解を中心とし、聞き取りの練習も行います。また、新聞記事等のプリント教材も使用し、読解力のさらなる向上をはかると同時に、現代中国について理解を深めることも目指します。
テキスト：
杉野元子・黄漢青『大学生のための現代中国12話』白帝社

中国語Ⅱ B (2)	講 師 呉 敏
------------	---------

授業科目の内容：

中国語の初級学習を終えた学生に対して、会話を中心に授業を行う。中国文化や社会現状に迫りながら、実用的な語彙とセンテンスを増やし、言葉の聞き取る力を育てる。また自分の意思を伝えるため、習った文を活用できるように学習を進めたい。これは本講義の目標です。

「生きた」中国語を気楽に学べるように北京で留学している日本人学生の見聞（ノミの市、映画学院あれこれ…）を教科書にする予定。

授業は主として中国語で行う。時には授業内容に応じるビデオを鑑賞。問答法のほか、グループに分けて対話や討論・ロールプレイといった方法を利用して授業の活発化をはかる。

テキスト：

『話す中国語（北京編 3）』著者：董燕／遠野光暁 朝日出版社 ¥2500（CD 付き）

中国語Ⅱ B (2)	講 師 山 下 一 夫
------------	-------------

授業科目の内容：

ビデオ教材を用い、会話表現を学びながら、中国語の運用能力を養ってゆきたいと思います。

ディクテーションのほか、暗唱や短劇など、口頭での練習も行いますので、授業には積極的な参加が求められます。

テキスト：

『話す中国語—初級～中級篇』董燕＋遠藤光暁，朝日出版社

参考書：

山下輝彦『中国語の入門』白水社

中国語Ⅱ B (2)	コミュニケーション中国語	講 師 陳 淑 梅
------------	--------------	-----------

授業科目の内容：

中級中国語の第一歩として、文法システムに沿って応用を展開していく。会話形式のテキストを使用する。既習の文法や文型を復習しながら、新たなフレーズを覚え、中国語の円滑なレベルアップをはかる。

また、中国でのホームステイをテーマに、いろいろな場面設定をして、授業の中で多くのグループ会話を行う予定。活発な授業を行いたいので積極的に質問したり、会話練習に取り組んでほしい。

テキスト：

同学社『メグの中国ホームステイ』守屋・陳・劉

参考書：

授業中に提示

中国語Ⅱ B (2)	火曜4限、火曜5限	講 師 藤 井 敦 子
------------	-----------	-------------

授業科目の内容：

初級で学習した文法事項を復習しながら、会話を中心に、コミュニケーション能力の向上を目指します。テキストの会話表現を学び、実用的な中国語を習得することが目標です。

また、適宜、中国語の歌や最新中国事情なども紹介し、中国に対する理解を深めてもらいたいと思います。

テキスト：

『中国語デイリーライフ—読解と会話—』（范建明ほか・朝日出版社）

参考書：

授業時に適宜紹介します。

中国語Ⅱ B (2)	講 師 趙 暉
------------	---------

授業科目の内容：

1年次で学習した発音・文法等の基礎的な知識を復習しながら、中国語表現力の更なる向上を図る。具体的に言うと、前期は、旅行・食生活・キャンパスライフ等をテーマにした実用会話を勉強する。後

期は、映画、住宅等のテーマを題材にして、中国文化・中国事情を学びながら、会話力の向上を目指す。

テキスト：

守屋宏則・柴森 ①「中国語フィットネスエイト—初級から中級へ—」＋②「中国語フィットネスナイン—中級完成—」朝日出版社

参考書：

『日中辞典』（電子辞書の使用も認めます）

中国語Ⅱ B (2)	講 師 黄 漢 青
------------	-----------

授業科目の内容：

一年次の学習内容を復習しながら、中級レベルの会話能力を身につけることをめざします。

授業は会話を中心として、中国語の映画やドラマによる聞き取りの練習も行う予定です。テキストに沿って授業を進めますが、時間のゆるす限り、中国事情も紹介します。

テキスト：

高橋良行・村上公一・陸明著『楽しい中国語コミュニケーション』（同学社、2002年、2100円）

中国語Ⅱ B (2)	木曜1限、木曜2限	コミュニケーション中国語	講 師 費 燕
------------	-----------	--------------	---------

授業科目の内容：

すでに学んだ文法を復習しながら、中国語の会話、普通の中国人のスピードで話す中国語が聞き取れる練習を中心に授業を進める。

会話練習は、学生を主体に毎回与えるテーマに応じて、寸劇を作り、発表する。

授業はできるだけ中国語を使い、最終的にはすべて中国語で行う。一年を通して、会話、聞き取り能力アップを目指すことが本講義の目標。

テキスト：

塚本慶一監修、劉穎著『二年生のコミュニケーション中国語』（白水社 2200円）

参考書：

特に指定なし。必要な資料を随時プリント配布する。

中国語Ⅱ上級 A (2)	講 師 道 上 知 弘
--------------	-------------

授業科目の内容：

やや高度な中国語会話のテキストを読みながら「中国語らしい」表現を身につけてゆくことを目指します。会話表現を豊かにするとともに、その骨格となる中国語文法の概念も同時に学んでゆきます。

受講者にはあらかじめ基礎的な文法知識や語彙力が求められます。中級以上の実力があることを前提に授業を進めますので、授業初回時に指定する参考書の中から各自適宜に選んで熟読してください。

テキスト：

潘建華編著『漢語口語習慣用語教程』北京語言大学出版社

参考書：

随時指示します。

中国語Ⅱ上級 A (2)	時事中国語	教 授 山 下 輝 彦
--------------	-------	-------------

授業科目の内容：

上級レベルを修了し、中国語の会話力、読解力とも相当レベルの実力のある学生を対象とする授業である。

このような学生でも、ラジオやテレビの中国語が聞き取れない者が多い。マスコミで使っていることばは時事用語が多く、普通の中国語学習と異なる方法で勉強しなければ身につかないものだからである。そこで本授業では、時事中国語を中心に学習を進め、また、ただ聴いて理解するだけでなく、自分の口で言えるよう、テーマを選びそれについて中国語でディスカッションし、学習した知識を確実に身につけてもらう。

テキスト：
プリント使用
参考書：
授業時に指示する

中国語Ⅱ上級B（2）	講 師 蔣 文 明
------------	-----------

授業科目の内容：
この講義は中国語の文章の読解と日本語から中国語への翻訳を通じて中国語の作文を実践的に学ぶものです。
手紙や紹介状など身近な文章から、新聞や雑誌の記事、エッセー、小説といった高度な文章まで、多様な読解や翻訳の実践練習によって語彙を増やし、文法をより確かなものにし、中国語らしい文章力を身に付けていきます。
また、日本語から中国語への翻訳を通じて、二つの言語を比較しながら、それぞれの特徴と「同と異」についても考えていきたい。

テキスト：
プリントを使用
参考書：
授業中に指定する

中国語Ⅱ上級B（2）	
休講	
中国語ⅠD（2） 中国語初級（2）	講 師 表 野 和 江

授業科目の内容：
初級文法を学習します。ナチュラルスピードの中国語を大量に聞き、発音することで、中国語の文型や語順を覚えることに重点を置きます。
テキスト：
『新・聞こえる中国語』（楊達ほか、南雲堂）

V スペイン語

スペイン語ⅡA（2）	教 授 坂 田 幸 子
------------	-------------

授業科目の内容：
年間で4人から6人ほど、スペインを代表する芸術家たちを取り上げ、その伝記や作品解説、あるいは芸術家の生きた時代や社会に関する記述を読むことによって、読解力の向上をはかる授業です。今年度は特に、芸術と歴史との関係や、美術と文学の関係に注目してみたいと思います。比較的平易なものから、本格的・専門的なものにいたるまで、様々なテキストを取り上げます。1年生で学習した文法事項の確認をしながら、より難しいテキストを、より大量に読む力を身につけましょう。
履修者の方には、それぞれ1回ずつ、芸術家の生涯や作品に関する短い発表をしていただく予定です。また、毎回の授業時、予習チェックを兼ねて、小テストを行ないます。
テキスト：
プリントで配布します。
参考書：
授業中に紹介します。

スペイン語ⅡB（2）	講 師 佐 伯 朝 彩 子
------------	---------------

授業科目の内容：
本授業では、初年度に習得したスペイン語の文法知識を応用・発展させて文章を読解する力を鍛錬することを目的に据えています。です

から、結果としてある程度まとまった分量のスペイン語の文章を読むことになるでしょう。講読を通じてスペイン語の持つ言葉のリズムを楽しめるようになってもらえたら理想です。
講読するテキストの内容は、スペインにおいて営まれてきたさまざまな形態の「ヒトと動物の関係」にまつわるものです。スペインの人びとの胃袋を満たし、その食卓に彩りを添えてきた料理や食材の中の肉、競馬、闘牛、動物園、ペットについて書かれた文章などを取り上げる予定です。
スペイン語の文章の文法的な解析に意識を向けることと同時にその時々話題の内容にも関心を持って取り組んでほしいと思います。スペインにおけるヒトと動物の関係のあり方について書かれた文章に触れることで、動物観の探求を目指しましょう。
また、授業では可能ななかぎりオーディオビジュアルも活用します。
テキスト：
適宜プリント教材を配布いたします

スペイン語ⅡC（2）	講 師 イサベル・ガラ、カルロス
------------	------------------

授業科目の内容：
この授業の目的は、一年次に学習した文法と語彙とを実践に移すことです。現在、過去、未来の時制を復習し、日常生活のさまざまな場面で効果的にコミュニケーションを行なうことができるよう会話練習をします。
テキストのそれぞれの課は、ある場面（例：買い物、食事、旅行など）もしくは、あるテーマ（例：予定、計画、経験など）を設定しており、以下のような構成です。
—上記の場面やテーマで使用する文法事項の復習
—役に立つ語彙の紹介
—リスニング練習
—ペアもしくはグループによる会話練習
—スペイン語圏の文化に関する短い読み物

テキスト：
Nuevo ELE Inicial 2. Editorial SM

スペイン語ⅡD（2）	講 師 イサベル・ガラ、カルロス
------------	------------------

授業科目の内容：
この授業の目的は、一年次に学習した文法と語彙とを実践に移すことです。現在、過去、未来の時制を復習し、日常生活のさまざまな場面で効果的にコミュニケーションを行なうことができるよう会話練習をします。
テキストのそれぞれの課は、ある場面（例：買い物、食事、旅行など）もしくは、あるテーマ（例：予定、計画、経験など）を設定しており、以下のような構成です。
—上記の場面やテーマで使用する文法事項の復習
—役に立つ語彙の紹介
—リスニング練習
—ペアもしくはグループによる会話練習
—スペイン語圏の文化に関する短い読み物

テキスト：
Nuevo ELE Inicial 2. Editorial SM

スペイン語ⅡE（2）	講 師 岩 村 健 二 郎
------------	---------------

授業科目の内容：
キューバの文化、歴史、社会に関するテキスト（文字、音楽、映像）を中心にスペイン語を勉強します。歌謡曲の歌詞を訳してラテンアメリカの文化について考えたり、ラテンアメリカの知識人が自文化をどう論じているかを読んで文化論そのものの意味について考えたりします。映画や新聞記事なども取り上げる予定です。ともあれ語学ですから、初級文法のチェックや復習も適宜行い、中級文法の課題を出すこともあります。必ず一年生の時に使用した教科書と西和辞典を持

参してください。

テキスト：

なし（配布するプリントが主です）。

参考書：

なし（教室で適宜指示します）。

スペイン語Ⅱ F (2) 助教(有期) 井 関 睦 美

授業科目の内容：

この授業は、論理的文章の読解力と表現力を高めることを目標に、講読と作文を中心にすすめていきます。これらの作業を通して、スペイン語→日本語、日本語→スペイン語という構文的な置き換えだけでなく、コンテキストを理解し、自分の言葉で説明する訓練をしていきます。講読用のテキストには、スペイン語圏や日本の歴史、文化、社会などに関する短い説明文を数多く取り上げる予定です。

テキスト：

講師がハンドアウトを用意します。

参考書：

- ・西和辞書（小学館西和中辞典，白水社現代スペイン語辞典）
- ・和西辞書（白水社，三省堂）

スペイン語Ⅱ G (2) 講 師 竹 下 淳 子

授業科目の内容：

この授業は、スペイン語の文法力を伸ばすことを目的とします。既に学習した文法事項を徹底的に復習、重要事項を確認、補足し、中級レベルに進みます。毎回、問題集を中心に、なるべく多くの文法練習問題をこなしてゆきます。また、適宜、簡単な読解問題のプリント等も使って、学んだ文法力を応用してゆく力もつけてゆくと同時に、語彙・成句などの強化も図り、総合的な語学能力の向上も目指します。成績評価は期末試験の成績のほかに、出席、平常点も考慮したいと思います。

参考書等については、授業で指示します。

テキスト：

Francisca Castro: Uso de la gramatica española, nivel intermedio, edelsa.（文法問題集）およびプリント教材

参考書：

初回の授業で指示します

スペイン語Ⅱ H (2) 講 師 前 田 伸 人

メキシコとアルゼンチンを主に扱うことで、ラテンアメリカを理解する鍵を身につける。

授業科目の内容：

この授業は、スペイン語の初級文法を一通り修了した学生を対象に、ラテンアメリカの代表的な二国の記事を扱った教科書を精読することで、スペイン語の読解力や表現力を固め、中級スペイン語を涵養することを目標とします。

授業の柱は三つあります。一つ目は、修得済みの文法を、読解にどう活用したらよいかを会得すること。二つ目は、スペインのスペイン語とは若干異なる、ラテンアメリカのスペイン語を理解すること。三つ目は、政治・経済・環境・先住民問題、文化といった多面的なトピックスをスペイン語でどう表現するかを学ぶことにあります。

他の言語に比べ、スペイン語は、教科書で学んだ言い回しや単語を用いて、意思を支障なく伝達できます。授業に熱心に取り組めば、受信用・発信力も必ずや向上します。頑張ってください。

テキスト：

国本伊代「スペイン語でニュースを読むーメキシコとアルゼンチンの記事よりー」（朝日出版社，2005年），1400円，isbn=425555014X。

参考書：

授業中適宜紹介いたします。一年生時に使用したスペイン語の教科書は常に持参して下さい。

スペイン語Ⅱ I (2) 講 師 竹 下 淳 子

授業科目の内容：

この授業では受講生の文法の習熟度に応じた文法ドリルで基礎的な文法力の定着を図り、さらにラテンアメリカにおける世界遺産等に関するテキストの講読を通して読解力の向上とラテンアメリカの自然や文化、歴史などに対する理解を深めていくことを目標とします。折に触れ、世界遺産の映像なども見て行きたいと思います。

テキスト：

毎回授業時にプリントを配布します。

参考書：

初回の授業で指示します。

スペイン語Ⅱ D (2) スペイン語初級 (2) 講 師 敦 賀 公 子

授業科目の内容：

この授業は、既に初級文法を一通り学習した学生や初めてスペイン語を学ぶ学生を対象として、文法の要点習得に主眼をおき、平易な内容の文章ならば辞書をひきながら訳読できるようになるのを目標とします。スペイン語を既に履修したことのある学生にとっては、文法の総復習となり、また初めて学ぶ学生にとってはスペイン語とスペイン語圏理解の導入となるよう進めていきたいと思います。

テキスト：

初回授業で指示する。初級文法（接続法まで）を学習出来る構成になっているものを使用する予定。

参考書：

- ・宮本博司 著『超入門スペイン語』（大学書林）
- ・『西和辞典』（小学館，白水社他）

Ⅵ イタリア語

イタリア語Ⅱ A (2)	[A] 教 授 白 崎 容 子
イタリア語Ⅱ B (2)	講 師 堤 康 徳
	講 師 武 田 好
	[B] 訪問講師 ペンナッキア，ダニエーレ
	講 師 ビオンディ，マルコ
	講 師 フォルミサノ，カルラ

授業科目の内容：

イタリア語Ⅰにひきつづき、A 系列では文法を終えたのち主に読解練習を、B 系列では会話表現を学びます。

テキスト：

- [A] 《Nuovo passo a passo》《Facciamo esercizi!》（いずれも「イタリア語Ⅰ」で使用）＋プリント
- [B] 《Linea Diretta 1a》（「イタリア語Ⅰ」で使用）後半

イタリア語Ⅱ D (2) イタリア語初級 A (2) 講 師 武 田 好

授業科目の内容：

イタリア語の構造を学びながら、1 年間で基本的なコミュニケーションの力をつけることが目標です。文法の各項目にそって発話・聞き取り・作文・翻訳の各作業を反復練習します。新出事項の理解を深め、知識を定着させるために授業では演習形式をとります。

テキスト：

白崎容子著「らくらくマスターイタリア語」（郁文堂，2200 円）

参考書：

ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典（小学館）

イタリア語ⅠD(2)	
イタリア語初級B(2)	
文法の基本とやさしい会話	講師 竹内 マテルダ

授業科目の内容：
文法について説明し、それについての会話練習をします。文法の練習問題だけでなく、読解やリスニングも行います。

テキスト：
ESPRESSOⅠ Ed. ALMA

イタリア語ⅠD(2)	
イタリア語初級C(2)	講師 ビオンディ、マルコ

授業科目の内容：
初級者向け。基礎的な表現能力（会話＋作文）を身につけることを目指します。

テキスト：
EspressoⅠ

Ⅶ 朝鮮語

朝鮮語ⅡA(2)	【春】教授 野村 伸 一 【秋】講師 崔 鶴 山
----------	-----------------------------

授業科目の内容：
中級レベルのこの授業では1学年に続き、日常的な場面をテーマにした各課のシチュエーションを学習することで、状況に応じた表現方法を習得するとともに、韓国人の会話スタイルについても理解を深めていきます。そのほか、時には映画やドラマ、新聞などを素材にして、生きた韓国語に慣れ、韓国の文化や社会事情に対する理解も高めていきます。

これと関連し、授業では受講生の発表の時間を取るようにします。

一週間に二回の授業は、講師は変わっても、同一教材を用いて進めます。各課ごとに小テストをして、達成度をはかります。

出席、応用問題の回答提出と小テストは一年時と同様に重要です。

授業進度の詳細は初回の授業の時にプリントで示します。

テキスト：
慶應義塾外国語学校編『朝鮮語一中級一』

朝鮮語ⅡB(2)	講師 李 泰 文
----------	----------

授業科目の内容：
この中級は、1年ほど学習し、基本的な文章体、口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には、すでに現在・過去・未来といった時制や変則活用、連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

そして、教科書の文型や表現だけではなく、自分の意見や考えを伝えることができるように身につけることを目的としています。

テキスト：
慶應義塾外国語学校のテキスト（中級）

参考書：
油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

朝鮮語ⅠD(2)	
朝鮮語初級(2)	講師 崔 鶴 山

授業科目の内容：
日常的に使う韓国語のための基礎文法知識を習得する授業です。まず、発音と文字体系、文の仕組みになれるようにします。「ハングル」という馴染みのない文字を使う韓国語は一見難しく見えますが、文の構造や語順、漢字語などは日本語のそれととてもよく似ているため、特に日本人には意外と早い上達が期待できる言語です。一年間の学習

により、自己紹介、日常の簡単なやりとり、日記などの基本的な口頭表現及び文章表現ができるようになります。平常点、出席を重視します。

テキスト：
「はじめての韓国語」崔鶴山著、白水社

Ⅷ ロシア語

ロシア語ⅡA(2)	講師 金 沢 大 東
-----------	------------

授業科目の内容：
初級で学習した語形変化と基礎単語力を足がかりとして、この中級コースでは、文型を扱う。特にロシア語の複文の内の従属複文を重点的に学習する。

テキスト：
《白い金》A. ナコルチェフスキー、金沢大東共著、慶応大学出版

ロシア語ⅡB(2)	教 授 ナコルチェフスキー、アンドリイ
-----------	---------------------

授業科目の内容：
ロシア語の構文論、標準的な表現手段の学習

テキスト：
ナコルチェフスキー・アンドリイ・金沢大東 「白い金」慶應義塾大学出版会

ロシア語ⅠD(2)	
ロシア語初級(2)	講師 佐 野 洋 子

授業科目の内容：
このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし、一年間で現代文を読む上で必要なロシア語文法をすべて習得します。中級レベルの文を辞書を用いて読む力をつけることを目的とします。最終的には、各自の専門に従って、独学でもロシア語を続けていける基礎学力をつけたいと思います。

テキスト：
教材は、初回の授業で配布します。

参考書：
辞書が必要になりますが、初回の授業で説明します。

専 門 科 目

○哲学専攻

必 修 科 目

哲学概論（4）

哲学入門

教 授 西 脇 与 作

授業科目の内容：

哲学はどのようなものかを概説した上で、哲学の主要なテーマについて具体的に説明していく。哲学、倫理学専攻の二年生を主に対象にし、哲学への入門と考えてほしい。

テキスト：

『現代哲学入門』西脇与作、慶應義塾大学出版会

参考書：

必要に応じて、プリントを配布する。

西洋哲学倫理学史Ⅰ（4）

Archaeologyとしての哲学

教 授 堀 江 聡

授業科目の内容：

日本語で独習できる哲学者は省き、初学者にはアクセスしにくい思想家を採り上げる。「拡大された中世哲学」の建て増し部分に重点を置き、なるべく興味ある話題を提供しようと思う。「拡大された」というのは、従来、西洋中世哲学史のなかに含められなかった、或いは触れることができるほど学問が進歩していなかったという意味である。具体的には、フランスの哲学史家として著名なアラン・ド・リベラの枠組みに沿って、東方イスラーム、西方イスラーム、中世ユダヤ思想、ビザンツ帝国の哲学に踏み込んでみる。その基礎となるのが、思想としては紀元3～6世紀の新プラトン主義であり、道具としては、古代ギリシア語、アラビア語、ヘブライ語、ラテン語である。

テキスト：

『プロティノス・ポルピュリオス・プロクロス』（世界の名著15）（田中美知太郎・田之頭安彦・水地宗明訳）、中央公論新社。その他、原典などはコピー配布予定。

参考書：

- ・アラン・ド・リベラ『中世哲学史』（阿部一智・永野潤・永野拓也訳）、新評論、1999年。
- ・『中世思想原典集成11. イスラーム哲学』（竹下政孝 監訳）、平凡社、2000年。
- ・伊東俊太郎『12世紀ルネサンス—西欧世界へのアラビア文明の影響—』岩波セミナーブックス42、1993年。
- ・水谷智洋『古典ギリシア語初歩』、岩波書店、1990年。
- ・小脇光男『聖書ヘブライ語文法』、青山社、2001年。
- ・佐々木淑子『アラビア語入門』、青山社、2000年。
- ・内山勝利・中川純男編著『西洋哲学史〔古代・中世編〕』、ミネルヴァ書房、1996年。

西洋哲学倫理学史Ⅱ（4）

西洋近代の哲学・倫理学

准教授 柘 植 尚 則

授業科目の内容：

この講義では、西洋近代の哲学・倫理学の歴史を概説する。哲学専攻・倫理学専攻の2年生を主たる対象とし、学生が専門の研究に必要な基礎を習得することを目指す。受講者は、3・4年生向けに開講される専門科目に備えて、西洋の哲学・倫理学に関する幅広い知識を身につけ、それを自らのテーマに活かせるように努めてもらいたい。

テキスト：

柘植尚則編『西洋哲学史入門—6つの主題』（梓出版社、2006年、2500円）

参考書：

授業の中で紹介する。

論理学入門（4）

講 師 弓 削 隆 一

授業科目の内容：

現代の記号論理学の基礎である、命題論理・述語論理について解説する。具体的内容としては、推論の妥当性を前提・結論の真理条件から規定しようとする方法（意味論）、「証明」の概念に基づいて規定しようとする方法、およびこの両者の関係（完全性定理）についての解説が含まれる。上記の内容の的確な理解のためには問題演習が不可欠なので、通常の講義科目よりは演習に近い授業形式を取るようになると思われる。

テキスト：

授業時にプリントを配布する。

哲学倫理学原典講読（独）（4）

教 授 樽 井 正 義

授業科目の内容：

独語で書かれた哲学・倫理学の文献を読解する能力の取得が、この授業の目的です。春学期のテキストは担当者が用意します。履修者は1年次に使用した辞書と文法書（教科書）を持参してください。秋学期は、履修者が希望するテキストを講読します。

哲学倫理学原典講読（仏）（4）

教 授 岡 田 光 弘

授業科目の内容：

哲学・思想関係のテキストをフランス語で講読する訓練を行う。内容については初回授業の時に説明する。使用するテキストはプリントして配布する。

テキスト：

プリントして配布

参考書：

授業時に指定

哲学倫理学原典講読（露）（4）

教 授 谷 寿 美

授業科目の内容：

受講者の語学力に応じたテキストを講読する。

受講希望者は必ず初回講義時に出席すること。

テキスト：

語学力に応じて選択する。

科学の哲学（4）

教 授 西 脇 与 作

科学哲学入門

講 師 安 藤 道 夫

授業科目の内容：

春学期は科学の哲学の基本的事柄について説明する。使用するテキストの第一部に相当する部分で、必要に応じてプリントも配布する。プリントの内容は主に古典的世界観に関するものである。

秋学期は各論でテキストの量子力学、進化生物等を中心に説明する。

テキスト：

『科学の哲学』西脇与作、慶應義塾大学出版会、2004

中級論理学（4）

【春】講 師 竹 村 亮

【秋】講 師 佐 々 木 昭 則

授業科目の内容：

本講義は、論理学入門をすでに終え、記号を用いた論理推論にある程度慣れ親しんでいる人（あるいは同等の知識を持つ人）を対象にした数理論理学の中級コースです。

知識の哲学（4）		
休講		
形而上学（4）		
古代神智学の発掘に向けて	教 授	堀 江 聡

授業科目の内容：

チュービンゲン大学図書館蔵の一写本で唯一残存するがゆえに、『チュービンゲン神智学』の名で呼び習わされるギリシア語神智学文献は恐らく 6 世紀に遡るもので、神託などによるエジプト・ペルシア・ギリシアの異教の哲学的宗教的智恵とキリスト教の啓示が一致することを示そうとする点で現代的意義を有している。「テオソフィアー」（神智）なる言葉は、3 世紀末のボルフェリオス『断肉論』（菜食主義擁護論）において、古代密儀宗教の祭司ならびに、インドの修行者の智恵と関連づけられている。以後古代末期では連綿と、イアンブリコスの俗称『エジプト人の秘儀』、プロクロス『プラトン神学』、ダマスキオス『第一始原論』に用例が散見される。この異教哲学の伝統とキリスト教がぶつかり合う接点である 6 世紀初頭の擬ディオニュシオス文書にごく近い知的ミリュエに、最新版の校訂者ベアトリーチェは、『チュービンゲン神智学』の起源を求めている。エジプト、ギリシア、インド、中東の智恵は調和しつつ、一つの神的実在を果たして開示するのか、文献学的推理の妙味も味わいつつ探らんとする人よ、来たれ。

テキスト：

Anonymi Monophysitae Theosophia. An Attempt at Reconstruction, by Pier Franco Beatrice, Brill, 2001.

参考書：

Theosophorum Graecorum Fragmenta, ed. H. Erbse, Leipzig: Teubner, 1995.

現代論理学の諸問題（4）	教 授	岡 田 光 弘
	講 師	浜 野 正 浩

授業科目の内容：

現代論理学の諸問題と修士課程（哲学特殊）との共通
昨年度に引き続き、線形論理、証明論を中心とした現代論理学的手法の導入と、論理哲学、情報科学等への応用を行う。
又、これと並行して、フッサール論理学、現象学的論理学の検討会も月に 1 回のペースで組入れる。

テキスト：

プリントして配布

参考書：

授業時に指定

心の哲学（4）	【春】講 師	室 田 憲 司
	【秋】講 師	木 原 弘 行

〔春学期〕

授業科目の内容：

春学期は、室田が心身関係の諸理論（心身二元論、行動主義、心脳同一説、機能主義など）について概説します。存在論的枠組に注意を払いつつ、心的現象と物的現象との関係について考えていきたいと思っています。

テキスト：

特に指定しません。プリントを配布する予定です。

参考書：

必要に応じて授業中に紹介します。

〔秋学期〕

授業科目の内容：

秋学期は木原が担当します。前期の内容をふまえ、心一身の関係が問題となる行為や行為者性について（また、それをめぐる周辺問題について）議論しようと思います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

内容にあわせて紹介します。

〔秋学期〕

授業科目の内容：

秋学期は木原が担当します。前期の内容をふまえ、心身問題や自由意志などの話題をとりあげたいと思います。具体的には履修者と話し合って決めたいと考えています。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

内容にあわせて紹介します。

言語の哲学（4）	教 授	飯 田 隆
記述をめぐって		

授業科目の内容：

ここで言う記述（description）とは、ラッセルの 1905 年の論文「表示について（On Denoting）」以来の用語で、英語ならば、定冠詞または不定冠詞を伴う名詞句のことです。こうした名詞句の正しい意味論とは何かという問題は、言語哲学におけるさまざまな議論を引き起こすきっかけとなりました。この授業では、

ラッセル以来、現在に至るまで、記述の意味論に関して提案されてきたさまざまな理論を概観することを通じて、言語哲学と自然言語の意味論とが交叉する領域を探究します。

講義全体を通じて、記述に関して提起されてきた理論が日本語に適用可能かという問題に、特別の注意を払いたいと考えています。

テキスト：

ありません

参考書：

授業の際に必要なに応じて紹介します。

現象学（4）	教 授	斎 藤 慶 典
『イデーン I』を読む		

授業科目の内容：

フッサール『純粹現象学と現象学的哲学のための諸考案・第 1 巻』（通称『イデーン I』、1913 年刊）より、今年度はその第 3 編「純粹現象学の方法態度と問題探究のために」を取り上げ、「現象学」という発想がそもそもいかなるものなのか、その可能性と問題点を徹底して洗い出したいと思います。授業は、あらかじめ分担を定められた担当者によるテキスト当該部分のレジュメと問題提起をもとに、参加者全員によるディスカッションを中心に行ないます。テキストは以下の邦訳版を使用し、必要に応じて原著を参照します（ただし、受講者のドイツ語能力を前提にはしません）。

テキスト：

フッサール『イデーン I－II』（渡辺二郎訳、みすず書房、1979 年）から該当部分ならびにそれにかかわる原注、訳注部分を、各自何らかの仕方で用意してください。また他に課題図書（「授業の計画」の項参照）として、斎藤慶典『フッサール 起源への哲学』（講談社・選書メチエ、2002 年）が必要です。

宗教の哲学（4）	教 授	中 川 純 男
「神の存在論証」について		

授業科目の内容：

宗教への主体的な関わりを信念や倫理の問題であると考え、形而上学や哲学から追放するのは近世的な理性であるが、この授業においてはこのような近世的理性批判を行う。神の存在論証のもつ意味はなにか、それはいかなる意味での論証なのかをアンセルムスによる神の存在論証を主たる素材として考える。あわせて近世以降の思想家による存在論証の批判、および擁護の論理を点検する。今年度は特に、カントによる批判と K.バルトの解釈を取り上げる予定である。受講者は授

業に主体的に参加するとともに、授業内容についてのレポート提出を求められる。提出されたレポートの発表を含めて授業を行う。

テキスト：
用いない。

参考書：
授業中に指示する。

哲学原典研究Ⅰ（独）（4）	教 授 堀 江 聡
---------------	-----------

授業科目の内容：
前期は、W. Beierwaltes, *Denken des Einen*, Frankfurt a. M., 1985 の「一性の展開」の章の S. 170, Z. 6 から読み、後期は、M. Heidegger, *Sein und Zeit*, Tübingen, 2001 (1927) の第一部第一編第三章第 17 節「指示と記号」(S. 76) から読む。同書の古代中世哲学の下地を浮彫にすることも一つの課題である。

テキスト：
初回に人数を確認のうえ、コピーを配布する。

参考書：
必要に応じて各自、和訳、英訳等用意しておくこと。

哲学原典研究Ⅱ（仏）（4）	講 師 関 根 小 織
---------------	-------------

授業科目の内容：
デリダの初期重要著作 *La voix et le phénomène*, PUF, 1967. を精読する。記号の問題を論じつつ現象学を現前の形而上学として批判し、起源的代補というデリダの核心となる発想が明確化された著作として有名なものである。またこれは、フッサール現象学の解釈やフランスでの現象学受容の進展に指針を与えた文献として重要なものである。哲学思想関係の文献をフランス語で読解する訓練の場とするとともに、自国語以外の言語で思索を行なう試みをしてもらえたらと考える。

テキスト：
Jacques Derrida, *La voix et le phénomène*, PUF, 1967.

参考書：
・ E. フッサール『論理学研究』『内的時間意識の現象学』みすず書房
・ J-L. マリオン『還元と贈与』行路社
・ 関根小織『レヴィナスと現れないものの現象学—フッサール・ハイデガー・デリダと共に反して』見洋書房

哲学原典研究Ⅲ（英）（4）	教 授 飯 田 隆
---------------	-----------

授業科目の内容：
18 世紀アイルランドの哲学者 George Berkeley (1685-1753) の著書 *A Treatise Concerning the Principles of Human Knowledge* (1710) の本文のはじめの部分を読むことを通じて、哲学のテキストを読むというのはどういうことを学びます。Berkeley は、きわめて奇矯な主張を行った哲学者として知られていますが、そうした主張がどのような議論に基づいてなされているかを細かく吟味し、そうした議論が果たして妥当かどうかを議論します。

テキスト：
Jonathan Dancy (ed.), George Berkeley: *A Treatise Concerning the Principles of Human Knowledge*, Oxford Philosophical Text.

哲学原典研究Ⅳ（古典）（4）	教 授 中 川 純 男
----------------	-------------

授業科目の内容：
中世後期から近世初期のラテン語哲学文献を講読する。ラテン語そのものは簡単なので初心者も受講可能である。授業時は、ラテン語の文法書を持参することが望ましい。たとえば、樋口勝彦・藤井昇共著『詳解ラテン文法』研究社、等。前年度に続きデカルト『省察』第四部を講読する予定であるが、受講者の希望も尊重するので、希望するテキストがあればメール等で伝えてほしい

テキスト：
『省察』第四部のラテン語テキストを配布する。

哲学倫理学特殊（原典研究Ⅲ（露））（4）

休講

哲学研究会Ⅰ（2）	教 授 岡 田 光 弘
哲学研究会Ⅱ（2）	

授業科目の内容：
言葉の理解、知覚、論理思考、AI 情報倫理等に関わる学際テーマに対して哲学、思想、論理等の観点も含めて議論する。
研究会の詳しい進め方については初回に参加者と話し合って決定する。

テキスト：
プリントして配布する。

参考書：
授業時に指定する

哲学研究会Ⅰ（2）	教 授 飯 田 隆
哲学研究会Ⅱ（2）	

授業科目の内容：
ラッセルが前世紀の初めの頃に書いた『哲学入門』をテキストとして、主として認識論と存在論に属する問題を取り上げ議論します。ラッセルのこの本は、わかりやすいというだけでなく、そこでのラッセルの主張の多くには一見したところ「とんでもない」と思われる要素があり、議論のきっかけとするには恰好の本だと言えます。必ずしもその全体を読むことは目標としません。目標は、ラッセルの哲学を学んだり、研究したりすることではなく、ラッセルのテキストを通じて、哲学の議論をするとはどういうことを学ぶことだからです。

テキスト：
ラッセル『哲学入門』ちくま学芸文庫

参考書：
授業の際に必要なに応じて指示します。

哲学研究会Ⅰ（2）	教 授 堀 江 聡
哲学研究会Ⅱ（2）	

授業科目の内容：
春学期は、プロティノス『エンネアデス』の最後を飾る最も有名な論攷「善あるいは一について」を、和訳を用いつつ分析し議論する。「すべてのものは、一によって存在する」というテーゼに始まり、真に一であるものを探し求める鬼気迫る道行きは、神との合一を語り、「自己は神なり」との冒瀆的言葉も混じり出て、古今東西多くの人に感銘を与えてきた。秋学期は、参加者各人の興味に沿った研究発表の場としたい。私の専門領域と問題関心の一端は、「文学部専任教員一覧」および、メディアセンターで過去十数年の講義要綱でチェックして来て欲しい。

テキスト：
プロチノス『善なるもの一なるもの』（田中美知太郎 訳）、岩波文庫。または、『プロティノス全集』第 4 巻、中央公論社所収の同論攷。

参考書：
P. A. Meijer, *Plotinus on the Good or the One (Enneads VI, 9). An Analytical Commentary*, Amsterdam, 1992; *Plotin. Traites 7-21*, sous la direction de L. Brisson et J.F.-Pradeau, Paris: Flammarion, 2003; *Plotin. Traite 9. VI, 9*, trad. et notes par P. Hadot, Paris: Cerf, 1994.

哲学研究会Ⅰ（2）	教 授 斎 藤 慶 典
哲学研究会Ⅱ（2）	

授業科目の内容：
広い意味で現象学に関わるテキストを取り上げ、事前に指定された

選 択 科 目

印度哲学（4）

インド的「知」の諸相

講 師 齋 藤 直 樹

授業科目の内容：

西暦紀元前 5000 年ころ南ロシア・黒海北方に定住していた民族の一部が、前 1700 年ころから移住を開始し、一時数世紀間、西トルキスタン（現在のテヘラン周辺）にとどまったのち、前 1300 年頃にヒンドークシュ山脈を越えて西北インドに侵入しパンジャーブ地方を占領した。インドまでやってきたものたちはみずからをアーリヤとよんだが、この語はのちに「聖なる」という意味をになうようになる。このアーリヤ人は、リグ・ヴェーダを嚆矢とするおびただしい数の典籍を語りついできたが、その膨大な文献群は、われわれがそれを概観することすら容易にはゆるそうとしない。

この講義においてわれわれは、アーリヤ人を中心とするインドの伝統のなかではぐくまれ、かたちづくられてきた思想の核心をかいま見るべく、その思想史において中心的な役割をになってきたとおもわれる、いくつかの文献の一部を取りあげることになる。予備的にいえば、インド古代の諸文献に現れるさまざまな言説を読み解いていくとき、「聖と俗」「有と無」「遍在と局在」「永遠と瞬間」「精神と物質」などといった、人間の生と死にかかわる、もろもろの重大な対立軸が浮かびあがってくることになるだろう。そして、それらの対立を超越することにこそ、インド的な「知」の目標がさだめられていることがあきらかになってくるであろう。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に適宜紹介する。

宗教学（4）

現代社会と宗教

講 師 弓 山 達 也

授業科目の内容：

本講義では「宗教ブーム」「心の時代」と称せられる現代の社会・精神状況に対して、宗教学的なアプローチを試みる。そのために宗教学、社会学、精神医学、思想史などの諸学説を学びつつ、現代宗教の現状を探っていきたい。ポストモダンの社会変動のなかで宗教をとらえつつ、多岐に渡る現象を、その社会的・心理的な背景を踏まえながら、扱うこととなる。

テキスト：

未定

参考書：

講義内で指示する。

担当者による報告と問題提起、それに基づく全員によるディスカッションを行ないます。夏休みの終わりに授業の一環としてゼミ合宿を行ない、四年生に卒論の中間発表を・三年生にはその特定質問者をつとめていただきます。秋学期には三年生にも各自の問題意識にしたがった発表をしていただき、全員で議論します。また年度末には（例年 2 月初旬）、提出された卒論に基づく公開の卒論発表会を行ない、ここでも 3 年生に特定質問者をつとめていただきます。

なお、卒論提出予定者は、初回授業時にテーマ登録をしていただきます。この登録のない者は履修を認めませんので注意して下さい。

テキスト：

初回授業時に履修予定者と相談の上、決定します。

哲学研究会 I（2）

哲学研究会 II（2）

教 授 中 川 純 男

授業科目の内容：

トマス・アクィナスの『真理論』をテキストとして分析する。テキストは邦訳を配布する。秋学期は、受講者の研究発表を行う。四年生は、卒論で扱うテーマについて発表することが求められる。

テキスト：

プリントを配布する。ラテン語テキストについても必要があれば配布する。

参考書：

授業中に指示する。

哲学研究会 I（2）

哲学研究会 II（2）

科学の歴史と哲学

教 授 西 脇 与 作

授業科目の内容：

この二年間は Richard Dewitt の Worldviews を読みながら、内容をレポートしてもらい、議論する形で授業がおこなわれた。まだ多くの部分が残っているので今年度も続行したいと思っている。しかし、最初の授業で受講者と相談の上で、変更の可能性もある。

テキスト：

R. Dewitt, *Worldviews*, Blackwell, 2004

哲学研究会 I（2）（秋学期集中）

哲学研究会 II（2）（秋学期集中）

プラトン『ピレボス』研究

准教授 納 富 信 留

授業科目の内容：

プラトン哲学の中でも後期に属する対話篇は、アカデメイアでの哲学研究を背景にした、より本格的な議論が含まれ、初期や中期と異なった難解さがある。『ピレボス』は、ソクラテスを主な対話者とし、「前、快楽」を検討する意味では、初期以来の課題を扱うが、「ディアレクティケー」の方法や、「虚偽」の扱いなど、後期ならではの問題も多く含まれる。ゼミでは、この対話篇を読み解きながら、近現代における「快楽」の問題（功利主義やムーア、ライルなど）とも照らし合わせながら議論をしていきたい。

ゼミでは、毎回テキスト範囲を担当者がまとめ、それを参加者全員で議論する形態をとる。従って、授業への参加と発言を義務とし、簡単なレポートを学期の最後に提出してもらう。

担当箇所については、初回に希望を聞いて相談する。近現代哲学により関心のある者は、関連する文献の報告を担当することも可能である。

2007 年夏に、国際プラトン学会大会（於：ダブリン）で『ピレボス』がテーマとなることから、そこで発表される最新研究も折に触れて紹介したい。

テキスト：

プラトン『ピレボス』については、岩波プラトン全集の田中美知太郎訳、または、西洋古典叢書（京都大学学術出版会）の山田道夫訳を、各自準備すること。

参考書：

その他の参考書は、需要初回に紹介する。

○倫理学専攻

必修科目

倫理学概論 (4)

教授 樽井正義

授業科目の内容：

倫理学とはどのような科学ないし学問であるのかを理解することが、この時間の課題です。そのために、倫理学の基本概念である「善い (good)」と「正しい (right)」,そして「自由 (free)」と「平等 (equal)」の意味を主として西欧近代および現代の実践哲学に即して考察し、あわせてそうした理論と、現代の医療倫理、環境倫理、情報倫理などにおいて取り組まれている倫理的諸課題をつきあわせること (reflective equilibrium) を通じて検討します。

テキスト：

ありません。

参考書：

小松光彦他編, 倫理学案内. 慶應義塾大学出版会 2006
他は授業中に指示します。

西洋哲学倫理学史 I (4)

Archaeology としての哲学

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

日本語で独習できる哲学者は省き、初学者にはアクセスしにくい思想家を採り上げる。「拡大された中世哲学」の建て増し部分に重点を置き、なるべく興味ある話題を提供しようと思う。「拡大された」というのは、従来、西洋中世哲学史のなかに含められなかった、或いは触れることができるほど学問が進歩していなかったという意味である。具体的には、フランスの哲学史家として著名なアラン・ド・リベラの枠組みに沿って、東方イスラーム、西方イスラーム、中世ユダヤ思想、ビザンツ帝国の哲学に踏み込んでみる。その基礎となるのが、思想としては紀元3～6世紀の新プラトン主義であり、道具としては、古代ギリシア語、アラビア語、ヘブライ語、ラテン語である。

テキスト：

『プロティノス・ボルビュリオス・プロクロス』(世界の名著 15) (田中美知太郎・田之頭安彦・水地宗明訳), 中央公論新社。その他、原典などはコピー配布予定。

参考書：

- ・アラン・ド・リベラ『中世哲学史』(阿部一智・永野潤・永野拓也訳), 新評論, 1999年。
- ・『中世思想原典集成 11. イスラーム哲学』(竹下政孝 監訳), 平凡社, 2000年。
- ・伊東俊太郎『12世紀ルネサンス—西欧世界へのアラビア文明の影響—』岩波セミナーブックス 42, 1993年。
- ・水谷智洋『古典ギリシア語初歩』, 岩波書店, 1990年。
- ・小脇光男『聖書ヘブライ語文法』, 青山社, 2001年。
- ・佐々木淑子『アラビア語入門』, 青山社, 2000年。
- ・内山勝利・中川純男編著『西洋哲学史〔古代・中世編〕』, ミネルヴァ書房, 1996年。

西洋哲学倫理学史 II (4)

西洋近代の哲学・倫理学

准教授 柘植尚則

授業科目の内容：

この講義では、西洋近代の哲学・倫理学の歴史を概説する。哲学専攻・倫理学専攻の2年生を主たる対象とし、学生が専門の研究に必要な基礎を習得することを目指す。受講者は、3・4年生向けに開講される専門科目に備えて、西洋の哲学・倫理学に関する幅広い知識を身につけ、それを自らのテーマに活かせるように努めてもらいたい。

テキスト：

柘植尚則編『西洋哲学史入門—6つの主題』(梓出版社, 2006年)

参考書：

授業の中で紹介する。

倫理学の基礎 I (2) (春学期)

「情念と価値 (1) —ホッブズ, デカルト, スピノザー—」

教授 山内志朗

授業科目の内容：

倫理学で扱われる様々な価値は、人間の理性的行為の対象としてあるだけでなく、人間の情念や感情に連動して、多様な様式で現象する。この授業では、善を目指す人間が、情念によって妨害される枠組みを近世において確認し、スピノザの『エチカ』に代表される近世的倫理学の枠組みを確認したい。

テキスト：

プリントにて配布予定。(文庫本を指示する場合もある)。

参考書：

授業中に適宜指示する。

倫理学の基礎 II (2) (秋学期)

「情念と価値 (2) —トマス・アクィナス—」

教授 山内志朗

授業科目の内容：

倫理学で扱われる様々な価値は、人間の理性的行為の対象としてあるだけでなく、人間の情念や感情に連動して、多様な様式で現象する。この授業では、善を目指す人間が、情念によって妨害される枠組みを中世において確認する。トマス・アクィナス『神学大全』第2部の1の基本概念を学ぶ。デカルトの『情念論』につながる系譜が見出されるはずである。

倫理学の課題 I (2) (春学期)

生命倫理

准教授 奈良雅俊

授業科目の内容：

生命倫理学という学際的領域に、倫理学がどのような貢献ができるのかを検討することが、この時間の課題です。はじめに、この領域が成立した歴史的過程と、そこで確認されてきた倫理原則、さらにその原則を支える倫理学理論を明らかにします。そのうえで、具体的な倫理的問題に即して、臨床と研究における自己決定権、プライバシー、社会的利益などの概念を考察します。

テキスト：

とくに使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書：

赤林朗編『入門・医療倫理 I』頸草書房 2005年

倫理学の課題 II (2) (秋学期)

情報倫理

准教授 奈良雅俊

授業科目の内容：

情報を集積し伝達する方法の進化にともない、私たちが接する情報の量と質は飛躍的に変化しつつあります。その結果として、情報の取り扱いに関する倫理も、従来に比べて多様化し複雑化してきました。この時間では、知識と情報の私的所有に関わる問題 (プライバシー、知的所有権) と公的利用に関わる問題 (説明責任、情報へのアクセス、公共財) を中心に、倫理的問題の所在を明らかにし、これらの問題を整理するための原理や原則を検討します。

テキスト：

とくに使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書：

水谷雅彦, 越智貢, 土屋俊編著『情報倫理の構築』新世社 2003年

倫理学の課題 Ⅲ（2）（春学期）		
経済と倫理	准教授	柘 植 尚 則

授業科目の内容：

経済倫理は経済のあり方を倫理的に問うものであるが、いまだ一つの学問分野として確立されていない。だが、経済の世界では様々な倫理的問題が存在し、経済に対する倫理的な考察も数多くなされている。この講義では経済における倫理問題を紹介し、経済のあり方について倫理的に考えることにしたい。

テキスト：

柘植・田中・浅見・柳沢・深貝・福岡『経済倫理のフロンティア』（ナカニシヤ出版、2007年）

参考書：

授業の中で紹介する。

倫理学の課題 Ⅳ（2）（秋学期）		
エイズを知る	講 師	池 上 千寿子

授業科目の内容：

エイズは「社会を映す鏡」といわれます。たかが25年の間に21世紀にもちこされた最大課題となったエイズ。なぜそうなったのかエイズのリアリティとは何かを考えることによって、社会のもつ具体的な倫理的課題についても考察し、エイズと共に生きることはいかなることかを理解することを目標とします。

テキスト：

エイズ&ソサエティ研究会議「エイズを知る」角川書店、2001、600円

日本倫理思想（4）		
日本の徳目	講 師	菅 野 覚 明

授業科目の内容：

日本の伝統思想にみられるさまざまな徳目の主なものを取りあげ、その由来、意味、史的変遷などについて論じる。

テキスト：

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書：

講義時にその都度指示する。

東洋倫理思想（4）		
中国古代・中世倫理思想史入門	講 師	森 由利亚

授業科目の内容：

この授業では古代から10世紀頃に至るまでの中国の倫理思想の歴史的展開を概説します。特に、儒教、道教、中国仏教をはじめとする中国の思想的、宗教的伝統における倫理観について、最も基本的な点を平易に解説します。中国の倫理や哲学、宗教に興味ある方にとっては無論のこと、中国以外の地域における倫理思想に関心のある方に対しても役立つような適切な知識を提供する場にしていこうを目指します。

テキスト：

プリントを配付します。

参考書：

溝口雄三・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』東京大学出版。他は授業中にお示しします。

キリスト教概論（4）		
聖書とキリスト教思想にもとづく理解の試み	講 師	リーゼンフーパー，クラウス

授業科目の内容：

本講義では、現代的問題意識から出発し、人間の本来的実存を宗教哲学的に理解した上で、キリスト教の教え全体を聖書に基づいて解明する。毎週キリスト教の根本テーマのひとつを取り扱うが、その理

解の可能性を開くために、人間存在そのものに含まれる問いを探り、それに対する聖書の答えを、キリスト教思想史と教会史を参考にしながら、哲学的・神学的に考察する。具体的には、超越関係と自己実現、神体験と神認識、自然・創造・歴史の意義、史的イエスの生き方とその生涯の主な出来事、イエスの説く福音、そこに含まれる神理解、イエスの死と復活の意味、悪と救い、「父と子と聖霊」の教義の背景、キリスト論の発展、祈り、信仰・神への愛と隣人愛の構造、教会の成立、キリスト教内の多様性、他宗教との関係、人間の苦しみ・弱さと人生の完成、等のテーマを取り上げる。

参考書：

その都度、紹介する。

哲学倫理学原典講読（英）（4）		
近代イギリスのモラリストたち	准教授	柘 植 尚 則

授業科目の内容：

この授業では、近代イギリスのモラリスト（道徳思想家）のうち著名な人物をいくつか取り上げて、その思想を紹介しながら原典（抜粋）を講読する。

テキスト：

プリントを配布する。

参考書：

寺中・大久保編『イギリス哲学の基本問題』（研究社、2005年）その他、授業の中で紹介する。

哲学倫理学原典講読（独）（4）	教 授	樽 井 正 義
-----------------	-----	---------

授業科目の内容：

独語で書かれた哲学・倫理学の文献を読解する能力の取得が、この授業の目的です。春学期のテキストは担当者が用意します。履修者は1年次に使用した辞書と文法書（教科書）を持参してください。秋学期は、履修者が希望するテキストを講読します。

哲学倫理学原典講読（仏）（4）	教 授	岡 田 光 弘
-----------------	-----	---------

授業科目の内容：

哲学・思想関係のテキストをフランス語で講読する訓練を行う。内容については初回授業の時に説明する。使用するテキストはプリントして配布する。

テキスト：

プリントして配布

参考書：

授業時に指定

哲学倫理学原典講読（露）（4）	教 授	谷 寿 美
-----------------	-----	-------

授業科目の内容：

受講者の語学力に応じたテキストを講読する。
受講希望者は必ず初回講義時に出席すること。

テキスト：

語学力に応じて選択する。

倫理学研究会Ⅰ（3年）（2）	教 授 樽 井 正 義
倫理学研究会Ⅱ（4年）（2）	
准教授 エアトル，ヴォルフガング	

授業科目の内容：

Blackburn, Simon: Being Good - A short introduction to ethics. OUP Oxford/New York 2002. を講読します。

テキスト：

上記

選 択 科 目

倫理学研究会 I (3 年) (2)

倫理学研究会 II (4 年) (2)

教 授 谷 寿 美

授業科目の内容：

全一的世界観を様々な形で示しているロシアの宗教哲学、倫理思想を手がかりとして、多様性の一致、排他性の超克等の問題を考える。

テキスト：

Vladimir Soloviev: *La Jastification du Bien — Essai de philosophie morale* — (Aubier, 1939) 英訳, *The Justification of good* (London, 1918)

参考書：

授業の中で指示する。

倫理学研究会 I (3 年) (2)

スピノザの倫理学

教 授 山 内 志 朗

授業科目の内容：

スピノザの『エチカ』を第一部から、ラテン語とフランス語の対訳を使用して、読解していきます。神について扱った第一部から始まる、壮大な倫理学（エチカ）の体系を解説していく。

テキスト：

Spinoza, *Ethique, Texte et traduction* par Charles Appuhn, Paris : J. Vrin 1983.

参考書：

スピノザ『エチカ（倫理学）』（上下、畠中尚志訳、岩波文庫、1951 年）

倫理学研究会 I (3 年) (2)

倫理学研究会 II (4 年) (2)

近代イギリス道徳哲学研究

准教授 柘 植 尚 則

授業科目の内容：

この研究会では近代イギリス道徳哲学について考察する（学生による報告と討論という形で進める）。本年度は J. S. ミル『自由論』を取り上げる。

また、この研究会は近代イギリス道徳哲学の個人研究を最終の目標とする。受講者は各自でテーマを決めて思想家を選び、原典を読んで研究し、その成果を研究会で発表して論文を作成する（テーマは自由であるが、思想家については原則として近代イギリスに限る）。なお、必要に応じて個別指導も行う。

テキスト：

初回の授業で指示する。

参考書：

寺中・大久保編『イギリス哲学の基本問題』（研究社、2005 年）

その他、授業の中で紹介する。

倫理学研究会 I (3 年) (2)

現代フランス道徳哲学研究

准教授 奈 良 雅 俊

授業科目の内容：

この研究会では 19 世紀以降のフランス道徳哲学について考察する（学生による報告と討論という形式で進める）。本年度はベルクソン『道徳と宗教の二源泉』を取り上げる。また、この研究会は近現代フランス道徳哲学の個人研究を最終の目標とする。本年度は、次年度の論文作成のために必要な、基本的な事柄（哲学文献の読み方、考察の進め方など）についての指導も行う。

テキスト：

Henri Bergson, *Les deux sources de la morale et de la religion*, PUF (Quadrige)

参考書：

授業の中で紹介する

倫理学洋書講読 (4)

Readings in ethics

准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容：

We are going to look at a number of passages from core texts of the Western ethical tradition. This course serves a threefold purpose: it is meant (i) to introduce key thinkers and main developments in the history of ethics, (ii) to discuss typical strategies of argumentation both in normative ethics and metaethics which continue to exert their influence to this day, (iii) to provide an opportunity of dealing with these matters in English, although students are strongly encouraged to read the relevant texts in Japanese translation as well (and of course in the original, if possible), since the main emphasis will be put on arguments. The relevant texts will be made available during class; students are asked to familiarise themselves with as many of the topics indicated below as possible before the beginning of the course. Needless to add that none of these issues can be treated in depth, since each deserves a course in its own right. All that can be achieved is being a guide for further thoughts and enquiries.

テキスト：

・ Blackburn, Simon: *Being Good. A short introduction to ethics.* Oxford et al.: Oxford University Press 2001. (available in paperback)

中国哲学 (4)

中国近世哲学史入門

講 師 森

由利亚

授業科目の内容：

この授業では、10 世紀以降の中国思想の歴史を概説します。日本をはじめ東アジア世界にも大きな影響を与えた朱子学と陽明学を中心としつつ、それらと交渉をもつ近世の様々な宗教思想や倫理思想を論じます。さらに近世の思想がどのように中国の「近代」へと継承されていったのかを考えます。

テキスト：

プリント教材を配付します。

参考書：

溝口雄三・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』東京大学出版社。他は授業中にお示しします。

○哲学・倫理学専攻

共 通 科 目

哲学倫理学特殊（4）

超越論的自我論の系譜

講 師 湯 浅 正 彦

授業科目の内容：

カントによって創始された超越論的哲学の基礎である超越論的自我論を、その淵源であるデカルト哲学、カント哲学の「精神」を体現したフィヒテ哲学との連関のうちで考察します。併せて、超越論的自我論の現代哲学における継承・展開の様相を、「心の哲学」の或る傾向や、D. ヘンリッヒを領袖とするハイデルベルク学派の自己意識論のうちに探ります。

テキスト：

特に指定しません。資料を配布します。

参考書：

湯浅正彦『存在と自我—カント超越論的哲学からのメッセージ—』勁草書房、2003

哲学倫理学特殊（4）

近世スペインの神秘主義

講 師 鶴 岡 賀 雄

授業科目の内容：

十六～十七世紀のスペインは、「黄金世紀」とも呼ばれて、文化的にも政治的にも隆盛を極めました。この時代にイベリア半島には、多彩なキリスト教思潮も花開きましたが、それらにはいわゆる神秘主義的傾向が強く見られ、「スペイン神秘主義」と名づけられます。これは、西洋神秘思想史上では、「ドイツ神秘主義」等と並ぶ重要な宗教運動、思想運動であり、同時代のドイツやフランスやイギリスでの宗教改革運動に対応した、カトリック圏での改革運動でもありました。この講義では、このスペイン神秘主義に属するさまざまな思想について紹介します。

またそれによって、そもそも神秘主義・神秘思想とは何なのか、それは広く宗教や倫理にとってどのような意義をもったのか、今なおもちうるのか、を考えてみたいと思います。

テキスト：

特定のテキストは用いません。適宜資料を配付します。

参考書：

講義中に適宜紹介します。

哲学倫理学特殊（4）

幸福をめぐる問題

商学部 教授 成 田 和 信

授業科目の内容：

この授業では、「幸福」をめぐる問題を検討します。まず、Shelly Kagan や Derek Parfit の文献を読むことで、現代の英語圏の哲学においてこの問題がどのように扱われているかを概観し、議論の出発点となる枠組みを獲得します。その後、とりあえずはその枠組みを参考にしながら、アリストテレスと J. S. ミルの幸福論を検討します。次に、Thomas Nagel, Bernard Williams, T. M. Scanlon, Stephen Darwall といった現代の哲学者の文献を読むことで、「幸福」ばかりでなく「生きがい」や「主観的価値」といった周辺概念へも話を拡大し、考察を深めていきます。

テキスト：

資料プリントを配布します。

哲学倫理学特殊（4）

哲学と科学の知識論

講 師 三 浦 謙

授業科目の内容：

19 世紀に成立した現代科学は、実験・観察のために必要な背景知識が確立されている。こうした特徴が信念の改訂・生成をどのように

可能とするのかという問題を、これまでの認識論の考え方と対照させて検討したい。

テキスト：

なし

参考書：

プリントで紹介

哲学倫理学特殊（4）

「創造」に関するヘブル思想史研究

講 師 津 村 俊 夫

授業科目の内容：

春学期は、授業の前半は、創世記とオリエントの神話（「エヌマエリシュ」や「バアル神話」）との比較をしながら「創造」に関するヘブル思想史を講じ、後半はアラム語の文法演習を行なう。秋学期には、授業の前半でアラム語文法演習を継続し、後半で、創世記のアラム語訳〔タルグム〕を講読しながら、ユダヤ教における創世記の翻訳と解釈について考える。

テキスト：

F. E. Greenspahn, *An Introduction to Aramaic*. Second Edition (Atlanta: Society of Biblical Literature, 2003) 約 43 ドル（送料とも）。

参考書：

- ・ H. Gunkel, *Creation and Chaos in the Primeval Era and the Eschaton* (Grand Rapids: Eerdmans, 2006 [Ger. orig. 1895]).
- ・ D. T. Tsumura, *Creation and Destruction* (Winona Lake, Ind.: Eisenbrauns, 2005).

哲学倫理学特殊（4）

集合論

講 師 照 井 一 成

授業科目の内容：

集合論は、現代数学や論理学を学ぶ上で必要不可欠な基礎知識であると同時に、無限とはなにか、集合論的宇宙とは何かを根源的に突き詰めていく、非常にエキサイティングな分野であるといえます。本講義では、まず数学・論理学を学ぶ上での必須知識として、素朴な観点から集合論の解説をします。そうして集合概念についての十分に素朴な直観が得られた後に、より厳密な公理的集合論へと進もうと思います。目標とするのは、次の事柄の十分な理解です。(1) 集合の濃度に関するカントール・ベルンシュタインの定理、(2) 選択公理とツォルンの補題、(3) ゲーデルによる連続体仮説・選択公理の相対的無矛盾性証明。

テキスト：

- ・ 松坂和夫『集合・位相入門』、岩波書店、1968 年。
- ・ 田中尚夫『公理的集合論』、培風館、1982 年、あるいは
- ・ K. Kunen, *Set Theory: an Introduction to Independence Proofs*, Elsevier, 1980.

哲学倫理学特殊（4）

J. S. ミルとイギリス哲学

講 師 大久保 正 健

授業科目の内容：

この講義の目的は、19 世紀英国の思想家 J. S. ミルの哲学思想を手がかりにして西洋の哲学や倫理学の伝統を考えることです。この作業を通じて、西洋哲学の骨格や論争点を理解します。近景はイギリス哲学、遠景は古代ギリシア以来の西洋哲学です。その際、ローマ帝国以来の宗教であるキリスト教と哲学の関係もお話します。前期は、思想的な話、後期はテキストの読みとりを重視した講読になります。

教科書：

ミル『自由論』(*On Liberty*)、『功利主義論』(*Utilitarianism*)。後期は、英文を参照しながら講義を進めますので、英語版を入手しておいてください。手頃な版として Prometheus Books を推薦します。

参考書：

- ・ 大久保正健『人稱的世界の倫理』(勁草書房)
- ・ 寺中・大久保編『イギリス哲学の基本問題』(研究社)
- ・ グレイ、スミス編(泉谷・大久保訳)『ミル「自由論」再読』(木鐸社)

哲学倫理学特殊（4）	
批判哲学と生の哲学	講 師 小 川 芳 範

授業科目の内容：

本授業では、近年発見された『シンボル形式の哲学第4巻（シンボル形式の形而上学）』草稿において展開されるエルンスト・カッシーラーによる「現代哲学」批判を手引きとして、いわゆる *Lebensphilosophie* の伝統に属する哲学者たち（ベルグソン、デールタイ、シェラー、ジンメルなど）の思想について批判的考察を行います。そして、「生の哲学」をフッサールの現象学の再解釈を通じて発展的に継承することを標榜するハイデガーとカッシーラーとのあいだで、カント哲学解釈をめぐる交わされたダヴォス論争について考察を進めます。さらには、「批判哲学/生の哲学」論争における主要争点である「現存在分析の方法論」をめぐる問題は、セラーズによる「所与の神話」批判を経て、ローティ、マクダウェルらへと受け継がれる現代分析哲学を動機づける問題機制を理解する上できわめて重要であることを見きわめます。かくして、20世紀初頭の哲学史についての理解を深め、さらには哲学史的考察を通じ、現代哲学にたいするメタ哲学的展望を獲得しようというのが、本授業の最終的な（そしておそらくはやや *too ambitious* な）目標です。

テキスト：

Ernst Cassirer, *The Philosophy of Symbolic Forms, vol. 4* (Yale Univ. Pr., 1996). その他の文献についてはプリントを配布します。

参考書：

Michael Friedman, *A Parting of the Ways*, (Open Court, 2000).
その他の文献については、授業時に適宜説明します。

哲学倫理学特殊（4）	
心の哲学と神経倫理学（ニューロエシックス）	講 師 河 野 哲 也

授業科目の内容：

「心の哲学」とは、「心身はどう関係しているのか」「心はどこにあるのか」「心の科学はどのような方法論に則ればよいか」「そもそも心とは何か」といった心身関係や心の定義、心の諸科学（実験心理学、認知科学、神経科学）の基礎や方法論を問う哲学の総称です。本講義では、とくにアメリカの知覚心理学者、ジェームズ・J・ギブソンに始まる生態学的心理学の立場から心の哲学の諸問題にアプローチして、「心は脳の中にあるのではない」という主張を提示したいと思います。

前期では、ギブソン心理学の観点をパーソナリティ論・人格心理学に応用し、「私とは何者か」という問いに取り組み、「自己＝内面」という神話を崩しながら、新しいパーソナリティ論を展開したいと思います。後期では、「心は脳の中にある」という神経科学の主張を批判的に取り上げ、「神経科学の道徳・倫理」の必要性和「道徳・倫理の神経科学化」の可能性を考察します。

テキスト：

講義中に指定します。

参考書：

河野哲也『環境に拡がる心』（勁草書房）

哲学倫理学特殊（4）	
新プラトン主義専門研究	教 授 堀 江 聡

授業科目の内容：

プロティノス『エンネアデス』のうちから、中期最後の論攷「永遠と時間」をギリシア語原典で講読する。古典ギリシア語文法に通じ習熟していることが履修の条件である。必ずしも参加者全員に課すわけではないが、二種類のドイツ語註釈、イタリア語註釈、フランス語註釈、諸訳にも目を通す。つまり、古代哲学研究に付随する第一次文献、第二次文献精査の修練を積むことが、この演習の眼目である。

参考書：

W. Beierwaltes, *Ueber Ewigkeit und Zeit*, Frankfurt a. M.: Klostermann, 1967; K. -H. Chuo, *Zeit als Abbild der Ewigkeit*, his-

torische und systematische Erläuterung zu Plotins Ennead III, 7, Frankfurt a. M.: Lang, 1999; F. Ferrari, Plotino. *L' eternità e il tempo*, Milano: Egea, 1991; A. Pilger, *Ennéade, III, 7 [45]. De l' éternité et du temps*, Paris, 1999.

哲学倫理学特殊（4）	
あるコギトの系譜	講 師 北 村 晋

授業科目の内容：

2500 年以上にもわたって連綿とその歴史を紡ぎ出してきた西洋の哲学思想は、現在、未曾有の局面を迎えつつあるようにも見える。事実、19 世紀末のニーチェによる「神の死」と「ニヒリズムの到来」の宣告に次いで、今世紀に入ると「人間の死」（フーコー）や「哲学の終焉」（ハイデガー）までもが宣せられているのである。ところがその一方で、昨今の思想界では、「ポスト構造主義」「ポストモダン」「ポスト形而上学」といったさまざまなトレンドがファッションのごとくに喧伝されてもいる。このような状況を引き起こした哲学思想における近代とは、いったい何なのか。その近代の極北にあって、われわれは何を考え何を問題にすべきなのだろうか。そもそもロゴス（ことば・論理）の営為たる哲学は、現代において何を問題としうるのだろうか。

この授業では、一般にデカルトの「コギト・エルゴ・スム（私は考える、ゆえに私は在る）」という原理とともに始まったとされる西洋近代・現代の哲学思想を、主として「弁証法的媒介の論理」と「現象学的方法」という相反する二つの視座から再考してみたい。その際取り上げるのは、デカルトをはじめとしてカント、ヘーゲル、フッサール、ハイデガー、サルトル、レヴィナス、アンリ、デリダ、マリオンなどの思想家たちである。ただし、これらの思想家の全体像を扱う余裕はないので、実際にはいくつかの個別的テーマに即して検討することになる。

テキスト：

特定のテキストは使用せず、適宜、資料プリントを配布する。

参考書：

- ・D・コリンソン『哲学思想の50人』（青土社）
- ・D・ジャンコー『現代フランス現象学—その神学的転回』（文化書房博文社）

哲学倫理学特殊（4）	
インド古典文献学入門	講 師 齋 藤 直 樹

授業科目の内容：

仏教は中国、朝鮮を経由して日本に伝来したが、日本にもたらされた仏典はほとんどすべて中国語に翻訳されたものであった。それらの原典の大部分はサンスクリット語で記されたものである。発祥の地インドにおいてかたちづけられ展開していった仏教にせまるためには、当然のことながら、サンスクリット原典に直接あたることもとめられる。また、仏教のみならず、インドの多様で豊饒な宗教的思想にかなする知識をえるためにも、サンスクリット語の読解力が不可欠となる。

この授業は、原典講読をつうじてインド古典文献学への案内となることを目指すものである。講読するテキストとして、紀元 2 世紀から 3 世紀に活動し、八宗の祖と称されるナーガールジュナ（龍樹）の『中論』を予定している。この典籍は、その後の仏教教理の形成のあらゆる局面に多大な影響をおよぼしたものとみなされている。たとえば、空性という大乘仏教独特の観念に教理的な基盤をあたえた最初の典籍がこれであった。

テキスト：

校訂出版されているサンスクリットテキストとその和訳のコピーを授業中に配布する。

参考書：

辻直四郎『サンスクリット文法』岩波全書

授業科目の内容：

前 5 世紀から 4 世紀にかけてのギリシア古典期は、ソクラテスやプラトンらの活躍で哲学史上もっとも華やかな時代とされるが、同時代の他の思想家や彼らの著作は、その影で無視されてきた。本講義では、そういった「マイナー」な文献をいくつか取り上げ、プラトンらの哲学の背景となる時代思潮を再現する。

具体的には、「ソクラテス文学」に属するアイスキネスやアンティステネスの著作（断片）、「ソフィスト思潮」をなしたプロディコス、ゴルギアス、アルキダマス、イソクラテスらの著作や後世の報告から、いくつかを選び、ギリシア語テキストを訳と共に検討しながら、それらの意義を参加者と議論したい。

ギリシア語の初歩の知識は望ましいが、興味に応じて、近代語訳（英語、仏語、独語、伊語）の訳を配布するので、それらを読む形での参加も可能である。

テキスト：

この授業の前提として、納富信留『哲学者の誕生』（ちくま新書、2005 年）、『ソフィストとは誰か?』（人文書院、2006 年）を予め（秋学期の開講前に）読んでおくことが望ましい。これらはテキストとしても使うので、授業にもってくること。

参考書：

その他の参考文献は、授業時に指示する。必要なテキストはコピーで配布する。

○美学美術史学専攻

必修科目

美学概論 (4)

教授 大石昌史

授業科目の内容：

前期（春学期）には、カントの美学（『判断力批判』）、および、ヘーゲルの芸術哲学（『美学講義』）について概説する。後期（秋学期）には、ニーチェの芸術の形而上学と生理学ならびに創造の哲学（『悲劇の誕生』、『偶像の黄昏』、『ツァラトゥストラ』他）についてやや詳しく説明する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中に指示します。

芸術研究基礎 (2)

教授 大石昌史

教授 林 温

教授 前田 富士男

准教授 内藤 正人

アートセンター 特別研究准教授(有期) 渡部 葉子

授業科目の内容：

この授業は、3年間の専門領域の勉強を開始する2年生に、将来の各自の関心領域の如何を問わず、本専攻学生として必要不可欠な基礎知識、基本的技術を修得してもらう必修科目である。その内容は、以下のような課題にわかれる。専門研究への取り組み方、研究方法、文献の種類と検索、論文作成法。作品資料（絵画・彫刻・工芸）の実際的な調査作業と調査書の作成。作品の時代様式の判別と確認。作品の題材や内容に関するイコノグラフィ（図像学）の理解、作品解釈の方法。「芸術作品とは」、「美しいとは」といった美学的基礎概念の検討。作品の展示や上演に関する実践的知見の習得、など。調査作業時にはクラスを分割して演習形式をとる。

テキスト：

毎時間にプリントを配布する。

参考書：

旧図書館内リザーブブック・コーナー（前田）の本科目該当のもの。

芸術学 (2) (春学期)

美術作品への基礎的アプローチ 講師 望月 典子

授業科目の内容：

本講では、芸術学（Kunstwissenschaft）の主要分野である造形芸術に関する原理的、歴史的研究方法、すなわち、美術史学の方法論について概観します。春学期は、美術作品への基礎的アプローチとして、形式分析・様式論、精神史としての美術史、心理学的・精神分析学的方法、社会史的方法および作品の題材と主題・意味内容に関わる図像学（イコノグラフィ）・図像解釈学（イコノロジー）を取り上げ、具体的な作品分析例を参照しつつ、それぞれの方法論の特徴とその成果および限界を検討します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に指示します。

芸術学 (2) (秋学期)

美術作品へのアプローチの多元化 講師 望月 典子

授業科目の内容：

春学期に引き続いて、芸術学（Kunstwissenschaft）の主要分野である美術史学の方法論について概観します。近年、伝統的な美術史学を批判的に乗り越えようとする「新しい美術史学」（ニュー・アー

ト・ヒストリー）が展開し、美術作品へのアプローチがますます多元化していきました。秋学期では、社会史的・社会学的方法の発展と深化と言えるコンテクスト論、視覚文化史、受容研究、作品の機能論、さらには記号論、ジェンダー的視点を取り入れた解釈について紹介し、絵画ジャンルに沿った具体的な作品解釈例の検討を通して、新旧それぞれの方法論の有効性と限界を探ります。また、美術制度、パトロネージ、美術市場など、美術と社会の具体的な関わりに注目し、芸術学のアクチュアルな側面として、美術館での美術教育について考えます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に指示します。

美学美術史学原典講読 I (英) A (2)

教授 末吉 雄二

講師 細野 喜代

授業科目の内容：

英語で書かれた西洋美術史関係の論文を読めるようにする。

テキスト：

共担者とも相談の上で決定するが、イタリア・ルネサンス絵画に関する論文・著作から選ぶ。4月6日のガイダンスにおいて提示する。

参考書：

4月6日のガイダンスにおいて提示する。

美学美術史学原典講読 I (英) B (2)

教授 前田 富士男

講師 中島 恵

授業科目の内容：

美術誌研究の英文論考を読む演習。講読とともに、参加者による小レポート発表や討論をおこない、少人数による入門ゼミ形式をとる。下記のテキストの第1章 *European Primitives* を中心に講読し、キュビズムの概要を把握する。

テキスト：

Mark Antliff & Patricia Leighton, *Cubism and Culture*, London, 2001.

美学美術史学原典講読 I (英) C (2)

教授 大石昌史

授業科目の内容：

美学あるいは芸術理論に関する文献の講読を通じて、学問研究の基本的な方法の習得を目的とする。授業形態は、テキストの輪読（翻訳）、注釈的解説、問題点の指摘、それに対する参加者の討論という形をとる。

テキスト：

ガイダンス時に説明する。

美学美術史学原典講読 I (英) D (2)

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

論文の読み方、文献の記述の仕方、注の付け方などを、英文による学術論文を講読することを通じて学ぶ。今年は、15世紀絵画における光の表現に関するミラード・ミースによる古典的な論文を読む予定。

教科書：

M.Meiss, "Light as Form and Symbol in some Fifteenth-Century Paintings", *The Art Bulletin* 27 (Sep 1945) : 175-181.

美学美術史学原典講読 I (英) E (2)

准教授 西 川 尚 生

授業科目の内容：

西洋音楽史の基本的な文献を読み、音楽史および音楽学の基本的な概念と方法論を学ぶ。今年度は、最新の音楽通史である Richard Taruskin, *The Oxford History of Western Music*, 6 vols, Oxford University Press, 2005 をテキストとする。とくに 17～18 世紀を扱った第 2 巻を読む予定であるが、履修者の興味に合わせて他の巻を読むことも考えている。

参考書：
授業中に指示する。

美学美術史学原典講読 I (英) F (2)

講 師 藤 井 孝 一

授業科目の内容：

最近の音楽学研究におけるさまざまな視座について書かれた論文の講読を通して、ポストモダン以降の音楽の有り様について共に考えてもらいたい。同時に、外国語で書かれた音楽関係の文献を読み解くために必要な基礎知識についても折に触れて講義する。また、音楽学の史料に関する基本的な文献にも触れてもらいたいと考えている。

テキスト：
Cook, N. and Everist, M. ed. *Rethinking Music*. New York : Oxford University Press, 1999. (初回授業時に指示する。)

参考書：
・東川清一・平野昭編著『音楽キーワード事典』春秋社 1988 年。
・『ボケット音楽事典』音楽之友社 1998 年。
・U. ミヒェルス編、角倉一朗監訳『図解音楽事典』白水社 1989 年。
その他授業中に指示する。

美学美術史学原典講読 II (伊) (2)

原語で読むイタリア美術の歴史 講 師 金 山 弘 昌

授業科目の内容：

イタリア語論文の読解力養成を主目的に、美術史・建築史に関する文献を訳読する。一年間をかけて、少なくとも十数ページの短いテキスト二本程度は読みたい。テキストは未定だが、15－18 世紀のイタリア美術に関するものを予定している。なお参考までに、昨年度は以下の文献を読んだ。

・ C. Strinati, *Raffaello*, Firenze, 1995。
・ C. Pedretti, M. Cianchi, *Leonardo. Icodici*, Firenze, 1995。

テキスト：
特に指定しない。授業でコピーを配布する。

参考書：
授業で指示する。

美学美術史学原典講読 II (独) (2) 教 授 前 田 富士男

授業科目の内容：

美術史研究のドイツ語論文を読む演習。初級中級文法と芸術学的基礎概念や理論的背景を説明する。講読にとどまらず、参加者による小レポート発表や討論をおこない、少人数によるプロゼミ（初級ゼミ）形式で運営する。1 年間で、ドイツ語の美術史論文の読み方を身につけ、基本的概念のニュアンスを理解できるようにしたい。本年のテキストは、近代美術と狂気や病気との関連を論じる考察。ドイツで出版された重要な「イメージ論」中の論考である。

テキスト：
P. Gorsen, *Kunst und Wahn*, in: *Kunst und Wahn*, Wien, 1997.

参考書：
『美術史を語る言葉』ほか。
旧図書館内リザーブブック・コーナー（前田）の前田研究会分。

美学美術史学原典講読 II (日) (2)

江戸期の版本を読む 准教授 内 藤 正 人

授業科目の内容：

江戸期に出版された地誌書や文学書、絵本など、美術史と関連の深い史料を講読する。テキストには、当時の変体仮名で書き記された原本（例、『江戸名所図会』）を複写して使用する。したがって、本授業ではくずし字読解の基礎を身につけると同時に、その内容の理解を図るものである。

テキスト：
随時配布する。

参考書：
随時指示する。

美学美術史学原典講読 II (仏) (2) 講 師 望 月 典 子

授業科目の内容：

フランス語で書かれた美術史に関わる文献を読む演習です。美術史研究に欠かすことのできない基本的なレファレンス・ブック、展覧会カタログ、カタログ・レゾネ、研究論文、批評、同時代資料など、様々な文体で書かれたテキストを適宜用いながら、フランス語で文献を読み、内容を理解する力を身に付けます。同時に、卒論に向けて具体的な研究方法と文献の探し方・活用の仕方学びます。主に 17 世紀～19 世紀前半のフランス美術に関連する文章を取り上げます。

テキスト：
プリントで配布します。web サイトからもダウンロードできます (URL は授業中に指示)。

参考書：
F. Giboulet et M. Mengelle-Barilleau, *La Peinture*, Paris, 1998; D. Lagoutte, *Introduction à l'histoire de l'art*, Paris, 2001. その他、授業中に指示します。

美学美術史学演習 (2)

日本美術史に関する基礎演習 教 授 林 温

授業科目の内容：

日本美術史を学ぶ上で必要な事項について解説します。現代では近世以前の日本美術に接する機会が極端に減っており、日本美術が制作された社会的・思想的な背景や人々に共有されていた教養・禁忌などが、もはや常識ではなくなっています。それらの知識を抜きにして日本美術を味わうことは美的体験あるいは文学的企図として可能ですが、人文科学ではありません。美術史学は美術がどのようにして生まれ、享受され、維持されてきたのかを作品から読み解く作業です。この授業では、特に日本古代中世の美術を学ぶ上で不可欠な「仏教」と「和歌」に注目し、美術作品の中でどのように現れ、関わっているのか具体的に説明します。

テキスト：
適宜、授業中に配布する。

参考書：
『日本美術館』（小学館）。『原色図典 日本美術史年表』（1997 集英社）。

美学美術史学演習 (2)

西洋美術史通史 教 授 遠 山 公 一

授業科目の内容：

専門性の高い各論に至る前に必要な西洋美術史の基礎知識（建築・彫刻・絵画）を一通り身につけることを目的とする。ゴシック美術から 19 世紀近代美術までの通史を、駆け足で見えていくことになる。様式史が基本とはなるが、図像学の知識、図像解釈学の実例、作品の社会的機能やパトロンについてなど社会的コンテキストにおける美術の役割りにも言及する。これによって、各時代についての必要な知識と問題意識が得られるはずである。

テキスト：

毎回、プリントを配布する

参考書：

ゴンブリッチ『美術の歩み』美鬱出版社、高階・三浦編『西洋美術史ハンドブック』新書館、『新潮世界美術事典』、小学館『世界美術大全集』、ジェームズ・ホール『西洋美術解説事典』河出書房新社など。その他、毎回指定する

美学美術史学演習 (2)	教 授 大 石 昌 史
--------------	-------------

授業科目の内容：

前期（春学期）には、プラトン、アリストテレス、カント、ヘーゲルの美学・芸術哲学について、後期（秋学期）には、十九世紀以降の心理学的、現象学的、存在論的、解釈学的、記号論的、社会学的な美学・芸術哲学について、美学事典、哲学事典等の項目を参照しつつ解説する。

テキスト：

独自に作成したプリントを配布する。

参考書：

授業中に指示する。

美学美術史学演習 (2)	教 授 三 宅 幸 夫
--------------	-------------

授業科目の内容：

本演習では、西洋の芸術音楽を研究する際に避けて通れない作品を具体例として、楽譜を読み解く基礎的な能力を養います。作曲技法や時代様式の把握が主たる目的ですが、さらに音楽をその時代の文化のなかに位置づけることも試みます。音楽の基礎知識（「楽典」程度）を有していることが前提となりますので、これが欠けている受講生は遅くとも連休明けまでに「楽典」を自学自習しておく必要があります。

テキスト：

毎回、楽譜資料のプリントを配布します。

参考書：

授業時に適宜指示します。

東洋美術史概説 A (4)
休講
東洋美術史概説 B (4)
日本美術の特質 ― 縄文から平安時代 ―
教 授 林 温

授業科目の内容：

日本の美術について、その草創期から概説する。今年度は、縄文文化から始め、平安時代の美術までを範囲とする。日本は島国であるからといって、外国と無関係に美術が展開したわけではなく、古来海を越えて大陸あるいは島嶼との交流を通して文化を築き上げてきた。その歴史の中で、日本美術とはどのようなものであるか、代表的な美術作品を通して概観したい。

テキスト：

特になし

参考書：

『日本美術館』（小学館）。『原色図典 日本美術史年表』（1997 集英社）。

西洋美術史概説 A (4)
イタリア中世・ルネサンスの美術
教 授 末 吉 雄 二

授業科目の内容：

この授業は、13 世紀半ばから 14 世紀初頭にコムーネを中心として発展した、市民社会における美術の役割を考察したい。後期は「注文主」と作品の表現形式の関係という観点を保ちつつ、大規模な壁画、

天井画の発展を辿ってイタリア・ルネサンス美術の多様性を確認したい。

前期は、ニコラ・ピサーノを中心に 13 世紀後半の彫刻を見た後で、ジョットを含めたフィレンツェ派・シエナ派の画家たちの作品を中心に検討する。アッシジのサン・フランチェスコ聖堂の上堂・下堂の壁画が中心になるが、今年度はシエナ派に重点を置いて話したいと思っている。

後期の授業では、15 世紀フィレンツェ・ルネサンスの絵画から出発して、ピエロ・デッラ・フランチェスカ、マンテーニャ、コレッジョの壁画・天井画を鑑賞します。

テキスト：

特に指定しません。授業では参考資料のプリントを配布します。

参考書：

『イタリア・ルネサンスの文化』ブルクハルト著。『ジョットの芸術―スクロヴェーニ礼拝堂壁画を中心として―』と『聖痕印刻―ジョットの後期壁画をめぐる―』佐々木英也著、中央公論美術出版。『中世末期の図像学』エミール・マール著、国書刊行会。『ルネサンス画人伝』、白水社。そのほか、一般的な美術史として『ルネサンスの春』パノフスキー著、などを参照してほしいし、美術作品の見方を教えるものとして示唆に富む『美術への洞察』オットー・ベヒト、岩波書店。など。貪欲に読書して欲しい。

西洋美術史概説 B (4)	教 授 前 田 富士男
---------------	-------------

授業科目の内容：

フランス革命の時代から 1880 年代にいたる近代美術生成期の諸問題を考察する。造形表現における内的無意識の主題化、風景画の成立、色彩研究、歴史画と神話などを、新古典主義、ロマン主義、リアリズム、印象主義の展開に即して検討する。概説の講義なので作品解釈、研究のための基本概念も紹介・解説する。

参考書：

講談社『名画への旅』第 17～21 巻ほか。旧図書館内リザーブブック・コーナー（前田）の本科目該当のもの。

西洋音楽史概説 A (4)	教 授 美 山 良 夫
---------------	-------------

授業科目の内容：

20 世紀のアメリカ芸術音楽は、ヨーロッパ化、ヨーロッパの音楽家の亡命、アメリカ独自性の探究、産業化された音楽と音楽産業、多元文化主義、実験音楽、ミニマリズムなど、きわめて多様な様相を呈している。この授業の目的は、このような音楽の豊穡をアメリカが短期間に形成しえた歴史をたどり、その過程を検証することにある。各方向性に於ける重要作品をとりあげ、そのテーマ、書法上の特質を、音楽史やアメリカ社会の構造上の問題に投金して検討することで、今日に連なる問題群を明らかにすることをめざしている。

参考書：

- ・グラウト＋パリスカ「新西洋音楽史」とくに（下巻）22 章 20 世紀のアメリカ
 - ・ザスロー編「啓蒙時代の都市と音楽」14 章 フィラデルフィア
 - ・リンガー編「ロマン主義と革命の時代」9 章 アメリカ合衆国：進歩の探究
 - ・アメリカ・クラシック音楽関係のリンク集
<http://mailer.fsu.edu/~ataniguc/links-ame.html>
 - ・アメリカ文学資料関係資料案内
<http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/>
- ほかにワシントン国会図書館の American Memory 内の音楽関連サイト

西洋音楽史概説 B (4)	教 授 三 宅 幸 夫
---------------	-------------

授業科目の内容：

リヒャルト・ワーグナー（1813－1883）の舞台祝祭劇《ニーベルングの指環》4 部作から、今年度は第 1 日《ヴァルキューレ》を主た

る対象として、台本と音楽の関係を読み解き、音楽が音楽外の思想・文学・美術・演劇等といかに関わっているかを明らかにします。

テキスト：

ワグナー『ヴァルキューレ』（日本ワグナー協会監修，1994 年，白水社）

参考書：

授業時に適宜指示します。

美学特殊 A（4）	
日本的感性の構造	講 師 佐々木 健 一

授業科目の内容：

感性とは、複雑な要因に基づいて一挙に行う判断である。日本人の「感じ方」には特異なものがあるのではないか、という仮説から出発し、古典的な和歌を素材として、感性の構造を解明しようと試みる。方法は経験的、実験的です。注目すべき感じ方を示す和歌を順次とりあげてゆき、それらを総覧して構造を考えることにする。全体は「語彙」と「文法」の2つの部分を含む。前者は、要素的な「感じ方」を取り上げる部門であり、そこに知的な操作の加わったのが後者である。前者としては、「花に囲まれる」、「美の残像」、「粘着による世界との一体化」、「心の浄化」、「香りに記憶の残響」などのモチーフがあり、後者としては「ざらしとしての想像力」、「未来完了の詩学」、「技巧としてのシュルレアリスティックな脱／再構築」、「反省的批判のまなざし」などを含む。

テキスト：

なし

参考書：

なし

美学特殊 B（4）	
画像のナラトロジー	講 師 西 村 清 和

授業科目の内容：

ことばとイメージの関係をめぐる議論は、古典的な格言「詩は絵のごとく」や近代のレッシング『ラオコーン』に見られるようにさまざまである。さまざまな視覚メディアが新たな文化環境となりつつある現代にとって、この古典的な問題は再考を要する。昨年度の講義では小説の映画化をあつかったが、今年度は「物語る絵（歴史画）」や小説の挿絵、またマンガにおけることばとイメージの関係を、画像のナラトロジー分析をつうじて明らかにしたい。

テキスト：

特になし

参考書：

授業中に指示する

美学特殊 C（4）	
美学の基礎概念	講 師 藤 田 一 美

授業科目の内容：

言葉、美の位相と定義、美をめぐる判断の諸相、藝術的なもの、作品、虚構、ミメーシス、想像力、共通感覚、共感、必然性と蓋然性、可能的世界、パラダイムとしての絵画、比喩、文体などの諸概念を主として古典哲学の文脈において検討します。

テキスト：

必要に応じて配布します。

参考書：

プラトン『国家論』，アリストテレス『詩学』，『弁論術』，カント『判断力批判』など

美学特殊 D（4）	
現代美術論	講 師 村 山 康 男

授業科目の内容：

現代芸術（美術）の多様な展開を概観し、その根底にある美学思想を明らかにする。とりあえず、3 つの主題から始める。第 1 は芸術

家と自然との関わり、第 2 は芸術家の自我のあり方、第 3 は、芸術家と社会とのかかわりである。18 世紀に成立した伝統的美学が、作品の自律的価値、美的価値に強調を置くのに対して、現代では、作品の社会的効用やコミュニケーションを重視している傾向が強い。個人の営みとしての芸術から社会活動、プロジェクトとしての芸術への移行が、この授業の中心的なテーマとなる。

テキスト：

プリント類はこちらで用意し、随時配布する。

参考書：

授業時に随時指摘する。

美学特殊 E（4）	
演劇学概説	理工学部 教授 小 菅 隼 人

授業科目の内容：

《演劇論および演技論》

本講義では、“演劇は、演技によってイベント化されるドラマである”という基本認識にたつて、演劇をめぐる諸問題を「ドラマ性」、「イベント性」、「演技術」を常に視野に入れつつ講義します。春学期は演劇の基本 4 要素（俳優、観客、戯曲、劇場）、アリストテレスの基本概念の確認に続いて、戯曲論および観客論について講義します。秋学期は演技術の歴史的変遷を中心に、演技論について講義します。

テキスト：

プリント配布

参考書：

授業内で指示します

美術史特殊 A（4）	
シエナ絵画史	教 授 遠 山 公 一

授業科目の内容：

イタリア中部トスカーナ地方の小都市シエナは、14 世紀前半に黄金時代を迎え、隣国フィレンツェに匹敵する文化の一中心地となった。絵画では、ドゥッチョ、シモーネ・マルティニー、ロレンツェッティ兄弟を輩出し、シエナ派と呼ばれる一大勢力となる。その 14 世紀および、従来あまり顧みられることが少なかった 15 世紀の絵画を取り上げ、シエナの社会的背景と併せて、その特殊性を論じる。特に 15 世紀において、フィレンツェに興った初期ルネサンスに対して、シエナがどのようなスタンスを取ったのかという問題を取り上げ、ルネサンスをより重層的に捉える機会としたい。

参考書：

石鍋真澄『聖母の都市シエナ 中世イタリアの都市国家と美術』吉川弘文館 昭和 63 年 他多数。授業中に指示する。

美術史特殊 B（4）	
建築の歴史 政策・メディア研究科	教授 三 宅 理 一

授業科目の内容：

広く「建築」全般を理解するため、建築に関わるさまざまな領域について横断的に講義を行う。建築を理解するためには、時系列で建築の変遷を追う建築史的理解、構造や設備などの技術的な仕組みを知るための工法的理解、都市の成り立ちと実態を掌握するための都市史・都市論的理解、環境との関わりを論ずるための環境論的理解など、さまざまな視点からのアプローチなどがあるが、まずはみずからの眼と身体で建築空間を楽しみ、体験的に理解する姿勢が必要である。今年度は、ヨーロッパと日本（アジア）を対象に建築の発展について講義を行い建築史・都市史的な理解を得ることを目的とする。ロマネスク、ゴシックといった様式、パラッツォや茶室といった建築タイプ、バルニーニや小堀遠州といった建築家（作事方）、パリや北京といった都市について、建築と空間を下敷きにした議論を行う。さらに、遺産保護や建築／デザインをめぐる展覧会についての方法論を検証する。また、建築や都市計画についての用語についても理解を深める。レポートを何回か提出するとともに、春学期と秋学期の終わりに試験を行う。授業に平行して各地で行われている展覧会やイベントを

訪れ、また実際の建築を訪れる機会を設ける。また夏季休暇などを利用して、海外等の建築を訪れることも理解をおおいに助ける。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

- ・日本建築学会編「日本建築史図集」彰国社
 - ・日本建築学会編「西洋建築史図集」彰国社
 - ・太田博太郎「日本建築史序説」彰国社
 - ・ジョナサン・グランシー「建築の歴史」BL 出版
 - ・磯崎新「磯崎新の建築談義」(1-12) 六耀社
 - ・辻本敬子ほか「ロマネスクの教会堂」河出書房新社
 - ・マルク・アントワーン・ロージェ「建築試論」中央公論社美術出版
 - ・三宅理一「モノフィジットの僧院世界」TOTO 出版
- その他は授業中に指示する。

美術史特殊 C (4)	
鎌倉彫刻成立・完成論	講 師 山 本 勉

授業科目の内容：

実証的な立場からの日本彫刻史の講義です。平安時代後期、12 世紀前半頃から、鎌倉時代、13 世紀初頭頃までの、鎌倉彫刻の成立から完成にいたる時期を中心に論述します。冒頭には日本彫刻の鑑賞法、日本彫刻史の研究法について概論し、さらに今回の講義の時期までの日本彫刻史の展開について概説します。〔成立論〕11 世紀前半に出た定朝が完成した定朝様が仏像彫刻の強固な規範となっていた時期に、一部の作品にあらわれた、やがて鎌倉彫刻様式を形成する諸要素と、それらを発展させて、康慶・運慶あるいはその周辺の仏師が新様式を成立させる過程を中心に論述します。〔完成論〕康慶・運慶によって樹立された鎌倉新様式が、運慶自身によってより高水準の完成にいたる過程、また快慶をはじめとする周辺の仏師によって広がりをもって展開する状況を中心に論述します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・水野敬三郎監修『カラー版日本仏像史』（美術出版社）
- ・『日本美術全集』6・10（講談社）
- ・『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記篇 1, 2（中央公論美術出版）
- ・山本勉著『仏像のひみつ』（朝日出版社）

美術史特殊 D (4)	
日本・フランス文化交流史～近代絵画を中心に	講 師 宮 崎 克 己

授業科目の内容：

フランスにおけるジャポニスム（日本趣味）と、日本における印象派絵画の受容を、主として扱う。近代以前から始めるが、おもに 1850 年代から 1950 年代までをおおむね時代を追って、日本とフランスを対比させながら話を進める。日本と西洋の美術が影響しあったという美術史的な問題とともに、それぞれの社会の中で絵画や工芸がいかなる機能を果たしていたかという文化史・社会史的な問題を扱う。それを通して、日本とフランスそれぞれにおける文化のありよう、それぞれの美術の性格、「近代」という時代、世界の中での日本などについて、明確なイメージがつけられることを目標とする。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- ・宮崎克己『西洋絵画の到来』（日本経済新聞社、2007 年 4 月刊行予定）
- ・ジャポニスム学会編『ジャポニスム入門』（思文閣、2000 年）

美術史特殊 E (4)	
江戸期浮世絵の研究	准教授 内 藤 正 人

授業科目の内容：

江戸時代の絵画のうち、浮世絵について論じる。

浮世絵とは、十九世紀以降の欧米世界にあまねく知れわたった、日本近世期の絵画・版画作品のことである。西洋絵画では風俗画に相当するとされるこの浮世絵の研究については、明治期以降の欧米や日本でおこなわれてはきたが、残念ながらその蓄積はいまだしの感がある。たとえば、歌麿や北斎といった著名な浮世絵師でも、版画や版本、それに肉筆画をも含めた総作品目録（カタログレゾネ）の底本ができてはおらず、基礎的な研究は今後に多くが委ねられている。さらに、従来の浮世絵研究では、多分に趣味的な言説も多く含まれていたことの反省も多い。

こうした視点からすれば、浮世絵研究とは、まさに未開の豊穡なる沃野であると評することができるだろう。今後もさまざまな学問的アプローチが可能な所以である。

本講義では、まず前期は著名な浮世絵師ひとりを選んでとりあげ、その人と作品について考察する。ついで後期は、最新の浮世絵研究におけるトピックスのなかから興味深いテーマを選んで、深く掘り下げていく予定である。

テキスト：

授業時に指示する

参考書：

『浮世絵の歴史』、小林忠監修、美術出版社、1998、2500 円

美術史特殊 F (4)	
曼荼羅の歴史的発展	講 師 田 中 公 明

授業科目の内容：

インドで成立した仏教は、その長い歴史の中で、多様なイコン（聖像）をつくりだし、仏教の図像とそのシンボリズムは、わが国の文化全般にも大きな影響を与えた。本講義では、インドにおける仏教図像の成立から説きおこし、仏教図像の集大成ともいえるべき曼荼羅の歴史的発展を概観する。本年は、本学における従来の講義をまとめた著書『両界曼荼羅の誕生』を教科書に指定したい。

テキスト：

田中公明著『両界曼荼羅の誕生』（春秋社・2004 年）

美術史特殊 G (4)	
美術と先端技術	講 師 布 山 毅

授業科目の内容：

美術分野の研究やプロジェクトにおける、デジタルメディアの利用方法の解説と、実践的な技術の習得。「対象をいかにアーカイヴ化するか？」という視点と、「コンセプトやアイデアをいかに他者に伝えるか？」という二つの視点から、デジタルメディアの活用方法をつくりながら考えてゆく。また、美術と先端技術の境界領域におけるさまざまな事例を紹介し、それらの意味と可能性についてディスカッションを行う。

テキスト：

特になし

参考書：

授業の中で紹介

美術史特殊 H (4)	
スペイン美術	講 師 木 下 亮

授業科目の内容：

春学期は、スペインの国家的統一を成し遂げたカトリック両王から、16・17 世紀のハプスブルク家と 18 世紀のブルボン家までの歴代の国王たちの宮廷美術と美術品収集の歴史をたどる。また 18 世紀後半から 19 世紀初頭にカルロス 4 世の宮廷画家として活躍したフランシスコ・ゴヤ（1746－1828）の作品についても詳述する。

秋学期は、19 世紀のスペイン美術について概観した後、19 世紀末から 20 世紀初頭にバルセロナで展開した芸術運動「モダルニスモ」について、建築、絵画、グラフィックアートなどさまざまな角度から検討する。さらにスペイン内戦中（1936－39）とフランコ体制下の美術についても考察を広げていきたい。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・『プラド美術館展』カタログ、国立西洋美術館、2002 年 3 月
- ・『プラド美術館展』カタログ、東京都美術館、2006 年 3 月
- ・ジャンス・A・トムリンソン『ゴヤとその時代』昭和堂、2002 年

美術史特殊 I（4）

【春】やきものの見方

【秋】近代工芸論—西洋と日本

【春】講 師 荒 川 正 明

【秋】講 師 金 子 賢 治

授業科目の内容：

〔春学期〕

日本の豊かなやきもの文化を知っていただくつもりである。単に知識としてではなく、やきものに表現された造形から、何かを積極的に読み込んでいく訓練をしていきたい。日本人の独特の美意識が、やきものという素材を通じて立ち上ってくると思われる。

〔秋学期〕

単なる手工業として出発した近代工芸が、モダンデザインの理論と実践、近代的な意味での個人作家的工芸制作へと発展的に展開していく歴史と、そのなかから出てきた西洋近代の美術概念とは異なる日本の工芸制作理論を考察する。特に陶芸を中心に引き上げ、近代的な意味での個人作家的工芸制作、言い換えると純粋美術を構成する概念としての絵画、彫刻と同じように工芸制作を行う歴史と理論を、その発生時期である大正後半から昭和初期、そして戦後、現代へと跡付ける。

テキスト：

（春）『やきものの見方』（角川選書）荒川正明著

（秋）「近代工芸案内 —東京国立近代美術館工芸館所蔵品を中心として」、2005 年 3 月、東京国立近代美術館

参考書：

（秋）「現代陶芸の造形志向」、2001 年 12 月、阿部出版

美術史特殊 J（4）

北方ネサンスから 17 世紀フランドル、オランダ美術

講 師 森 洋 子

授業科目の内容：

16 世紀ネーデルラント美術、17 世紀フランドル、オランダ美術を画像学的な観点から時代分析と作品解釈を行う。両世紀の様式的な特色をも考慮しながら、新しい主題とその画像に対する画家たちの関心および美術マーケットの動向を概説する。

テキスト：

とくになし

参考書：

- ・森洋子『ブリューゲルの諺の世界』（白凰社）
- ・森洋子『シャボン玉の図像学』（未来社）

美術史特殊 K（4）

近代日本美術史の諸問題

講 師 古 田 亮

授業科目の内容：

近代日本美術史のうち絵画を中心に概観し、その学問的方法や実践について解説します。

前期は、幕末から昭和初期までを中心に、具体的な作品の分析から美術史全体の問題が浮かび上がることが理解できるようにします。

後期は、いくつかのテーマを設定し、近代美術史の様々な問題点について解説することで、受講生が近代美術に関してより深い関心をも

って接することができるようにします。

適宜、美術館への見学授業もおこなう予定です。

テキスト：

特に指定しません。必要な資料は講義中に配布します。

参考書：

古田亮著『狩野芳崖・高橋由一』（ミネルヴァ書房、2006 年、2940 円）

音楽史特殊 A（4）

モーツァルトとザルツブルクの音楽文化

准教授 西 川 尚 生

授業科目の内容：

W. A. モーツァルト（1756-1791）の前半生、とりわけ故郷ザルツブルクでの音楽活動に焦点をあてる。従来、モーツァルトのザルツブルクでの活動には謎が多いとされてきたが、近年ではザルツブルク宮廷楽団の組織やモーツァルトの職務、モーツァルト以外のザルツブルク作曲家の作品や大司教の音楽政策に関する研究が進み、モーツァルトの同地での創作活動の実態が徐々に明らかになりつつある。本講義ではそうした新しい研究成果を紹介しながら、1750 年代から 80 年代初頭のザルツブルクの音楽文化とモーツァルトの創作との関わりについて考察してみたい。

テキスト：

西川尚生『モーツァルト』音楽之友社、2005 年。

参考書：

授業の中で指示する。

音楽史特殊 B（4）

バロック時代のフランス音楽

講 師 今 谷 和 徳

授業科目の内容：

17、18 世紀のバロック時代のフランス音楽について概観する。ヨーロッパの音楽は、一般にバッハから始まり、ドイツを中心に展開したといわれるが、それは誤りで、実際には中世の時代からフランスを中心に展開されてきた。とくに 17、18 世紀のフランス音楽はバッハにも大きな影響を与えていったのである。そこでここでは、その時期のフランス音楽を、当時の政治的、宗教的、社会的な背景を踏まえながら考えてゆきたい。

テキスト：

使用しない。

参考書：

開講時に紹介する。

音楽史特殊 C（4）

20 世紀および 21 世紀の音楽

講 師 岡 部 真一郎

授業科目の内容：

本講義では、20 世紀、および 21 世紀の音楽を様々な角度から考察します。本年度春学期は、特に、20 世紀音楽の一つの集約点であったともいべきアントン・フォン・ヴェーベルンの音楽を参照点として、同時代音楽の諸相を読み解いて行きます。秋学期は、現代のオペラをテーマに諸問題を扱います。

テキスト：

岡部真一郎著『ヴェーベルン』（春秋社）

参考書：

授業時に随時、指示します。

音楽史特殊 D（4）

講 師 平 野 昭

授業科目の内容：

20 世紀の西洋音楽史研究は、いわゆる原典主義が支配していた感がある。とりわけ大戦後一斉にはじまった大作曲家の個人全集編纂事業の最大の目的は批判校訂版楽譜の出版にあり、作曲家の自筆譜、浄書譜（浄写譜）、初版譜等々を再考することで、作曲家の意図した作品の姿を追及することに主眼が置かれていた。オーセンティシティー

至上主義とも言えるこうした学問姿勢は評価されなければならないが、一方、18、19 世紀のヨーロッパにおける音楽受容、音楽の聴かれ方、作品の普及という観点からすると、作品がオリジナルの形で受容されることは、編曲版での受容に比するとはるかに少なかったと考えられる。従来見捨てられてきた 18、19 世紀のさまざまな編曲版を通して、当時のヨーロッパにおける音楽文化を再考する。

テキスト：

特になし。

参考書：

講義内で紹介する。

音楽史特殊 E (4)

日本人と音楽 講 師 千 葉 優 子

授業科目の内容：

日本人の音楽的感性や美意識、またそれに基づく能や歌舞伎などの伝統芸能について、西洋やアジア諸国と比較しながら考察する。

日本の伝統的な音楽では、リズムや音階はもとより、音楽を構成する第一歩である音自体、つまり音色に対する嗜好までもが、西洋のいわゆるクラシック音楽とは全く異なる。西洋音楽では楽音が基本だが、日本人は噪音的要素を多く含んだ音色を好む。そして、こうした傾向は現代のポップスなどにも大きく影響していると同時に、絵画など日本の美術にも相通ずる美意識によるものである。また、西洋と日本では音楽史のあり方、脳における音の認知の仕方なども異なる。

前期では、なぜこうした違いが生ずるかについて、日本人の自然観、言語、生活様式などから検証し、後期では、日本の芸能についてアジア諸民族との比較で論ずる。なお、CD やビデオ等の視聴覚教材をできるだけ多く用いて講義する。

テキスト：

千葉優子著「日本音楽がわかる本」(音楽之友社、2005 年、1995 円)

参考書：

授業内で適宜指示。

美学美術史学研究会 I (2)

美学美術史学研究会 II (2) 准教授 西 川 尚 生

授業科目の内容：

西洋音楽を対象とする研究会。音楽研究に必要な調査・研究の方法を学ぶとともに、卒業論文作成のための個別指導を行なう。

具体的には、履修者による口頭発表が中心となる。履修者数によって変わる可能性もあるが、基本的に 4 年生には卒業論文に即したテーマで春学期と秋学期に各 1 回、3 年生には秋学期に 1 回の発表をしてもらう予定である。これらの発表を元に、学生間で討論を重ねることで、音楽作品へのさまざまなアプローチの方法を学んでもらうので、履修者には積極的に発言することが求められる。毎回発表の前には、必ず指導教授の個人面接を受け、研究テーマや楽譜・文書資料の検索・収集の手順について相談してもらいたい。

参考書：

- ・ R. J. ウィンジェル (宮沢淳一ほか訳)『音楽の文章術』春秋社、1994 年。
 - ・ 久保田慶一『音楽の文章セミナー』音楽之友社、2006 年。
 - ・ U. エーコ (谷口勇訳)『論文作法』而立書房、1991 年。
- そのほか授業の中で指示する。

美学美術史学研究会 I (2)

美学美術史学研究会 II (2) 音楽学の方法論 教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

本演習は、音楽学で卒業論文を書くための研究会です。論文の題目は自由ですが、基礎的や方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、卒業論文の個別指導もおこないます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業時に適宜指示します。

美学美術史学研究会 I (2)

美学美術史学研究会 II (2) 教 授 大 石 昌 史

授業科目の内容：

美ならびに芸術一般に関する原理的研究を主題とする研究会。個々の作品解釈や作家研究ではなく、芸術思想・芸術理論の研究を行う。それ故、哲学者(美学者)や芸術理論家の著作が研究対象の中心となる。

授業形態は、講読および討論演習の形をとり、問題提起となるテキストや参加者の口頭発表に対して、全員で討論する。

美学美術史学研究会 I (2)

美学美術史学研究会 II (2) 教 授 美 山 良 夫

授業科目の内容：

音楽および音楽をともなった舞台芸術諸分野(オペラ、バレエなど)を対象とする研究会。内容が多岐にわたるため、自発的に多くのジャンルについて関心をもち体験を重ねる努力が必要。また上演芸術の研究資料はわが国では検索入手が困難であることも多く、相当の時間と熱意が欠かせない。

春学期は論文の講読を最初におこなう。次に 4 年生が卒業論文の概要と研究計画を発表する。3 年生は 2 ないし数名によるグループ研究を課し、発表をおこなう。秋学期は、夏休みに中に進めた 3 年生の個人発表が主体になる。その間に 4 年生の卒論発表がある。

発表に関しては、全員がコメントし、調査研究の対象や方法について討論する。そのなかで、自分の研究に資する情報や課題の明確化を進める。個々の発表やグループ研究に関しては、個人面談を経たのちにレジュメの作成を課している。そのなかで卒業論文作成のポイントを習得することが求められる。また共通の問題に関してはレポートを課すことがある。

参考書：

ウェンジェル『音楽の文章術』春秋社 1994

美学美術史学研究会 I (2)

美学美術史学研究会 II (2) 演劇学／演劇史 理工学部 教授 小 菅 隼 人

授業科目の内容：

上演芸術のうち、特に演劇を対象とする研究会。演劇芸術の境界内であれば、各自の関心による対象・テーマの自由度を最大限に認めます。演劇上演の実践に携わる諸君の参加を歓迎しますが、アカデミズムの立場から演劇研究を志す学生諸君のための研究会ですから、資料調査・資料批判・論文作成のための地道な作業を覚悟して参加して下さい。本研究会においては、参加者による報告と討論を通して、問題点を明確にしてゆく作業の積み重ねを授業の中心にします。1 回程度、一緒に観劇をします。

テキスト：

- ・『ベスト・プレイズ』, (白風社, 2000).
- ・ジョゼフ・ジバルディ, 原田敬一監修, 『MLA 英語論文の手引き (第 6 版)』, (北星堂, 2005).

参考書：

授業中指示します。

美学美術史学研究会 I (2)

美学美術史学研究会 II (2) 教 授 遠 山 公 一

授業科目の内容：

卒論作成のために必要な知識や方法を学ぶ。

担当者の専門は、ルネサンス美術の特に絵画と彫刻であるが、なるべく専門にとらわれずに指導を行いたい。卒論作成のために発表を 4

年生だけでなく全員に課す。また、作品のディスクリプション、参考文献表を全員に提出してもらうほか、3 年生には学期末にレポートを出してもらう。

テキスト：
授業中にプリントを配布

参考書：
授業中に指示

美学美術史学研究会 I（2）	
美学美術史学研究会 II（2）	准教授 内 藤 正 人

授業科目の内容：
美術史学の方法論をもとに、作品・作家の研究、あるいは様式研究などをおこなう。
前半は、提示された課題を、参加者個人またはグループで研究発表する練習をおこなう予定。後半は、参加者が個別の関心事からテーマを選び、関連する先行研究のまとめや史・資料の調査をおこなう。これらを踏まえて口頭発表や討論・指導を重ねることで、最終的に卒業論文へと結実させる。

テキスト：
随時指示する

参考書：
同上

美学美術史学研究会 I（2）	
美学美術史学研究会 II（2）	教授 末 吉 雄 二
西洋美術史研究	

授業科目の内容：
3 年の研究会（I）は年間レポート、4 年の研究会（II）は卒業論文の作成を目指して、各人が自分の問題を発見し、問題を追及する。研究した結果を論文としてまとめるのはもちろんですが、研究会ではそのプロセスを参加者全員が協力して、議論し、作業して身につけてゆくことが重要です。最初のうちは教師が提示する具体的な課題に対して、研究の成果を発表する練習。ついで、各人の問題の選択・設定に関して発表し、質疑応答する。これらの発表を通じて美術史研究の課題と方法を学びます。

テキスト：
なし
参考書：
なし 課題や発表に関連する著書や文献に関しては授業時に指示。

美学美術史学研究会 I（2）	
美学美術史学研究会 II（2）	教授 林 温

授業科目の内容：
東洋・日本美術史学を専攻する 3, 4 年生を対象とする研究会。学生の主体的参加により、相互研鑽しつつ研究方法を学びます。授業は小グループによる研究発表と、4 年生個人による卒業論文作成の経過報告となります。4 年生を対象とする卒業指導では、前期と後期に少なくとも一回は発表してもらいます。

テキスト：
特になし
参考書：
特になし

美学美術史学研究会 I（2）	
美学美術史学研究会 II（2）	教授 前 田 富士男

授業科目の内容：
近現代の芸術論・芸術史研究を中心に、卒業論文の指導をおこなう。春学期は 4 年生の、秋学期は 3 年生の口頭発表と討論によって授業を進める。秋学期は統一テーマを設け、参加者と相談のうえ各自の発表内容を決める。レポートやグループ発表、美術館見学を随時おこなう。

参考書：
・『美術史を語る言葉』ほか。
・旧図書館内リザーブブック・コーナー（前田）の本科目該当のもの。

○日本史学専攻

必修科目

史学概論（４）

教授 神田 順 司

西洋史学専攻参照

日本史概説Ⅰ（４）

教授 三宅 和 朗

授業科目の内容：

日本古代国家の成立史を講義する。紀元前後から邪馬台国を経て、5世紀末の雄略朝までの時代を東アジア情勢をふまえて論ずる。記紀の史料批判、金石文の読みなど、古代史料の扱い方にも言及する。

テキスト：

石原道博編訳『新訂魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』（岩波文庫）

日本史概説Ⅱ（４）

日本近世・近代の政治・経済・外交を中心に

講師 松尾 正 人

授業科目の内容：

安土桃山時代から明治・大正期まで、主に近世・近代史を講義する。時期区分と基本的特質、中世から近世への転換、近世社会の展開、近代国家の形成を概説する。各時代の政治・外交・経済の分野に関する重要な問題を取り上げ、時代の特徴を明らかにし、歴史的変遷が理解できるように概説したい。日本史に対する興味と積極的な関心が深まるようにする。

テキスト：

松尾正人著『維新政権』（日本歴史叢書、吉川弘文館）

参考書：

- ・藤木久志著『雑兵たちの戦場』（朝日選書、朝日新聞社）
- ・木村 礎著『近世の村』（歴史新書、教育社）
- ・岩下哲典著『予告されていたペリー来航と幕末情報戦争』（様泉社）
- ・佐々木寛司著『地租改正』（中公新書、中央公論社）
- ・松尾正人著『木戸孝允』（吉川弘文館）
- ・松尾正人編『明治維新と文明開化』（吉川弘文館）

古文書学（４）

近代文書の読み方・扱い方

教授 井 奥 成 彦

授業科目の内容：

多種多様な近代文書の大まかな体系をまず示し、その中から研究によく用いられるものをピックアップして、読み方・扱い方・史料としてのメリットと限界などを解説してゆく。なお近代史研究においては、狭義の「文書」のみならず、帳簿や日記など記録類や編纂史料の占める比重が大きいの、それらも併せて見てゆく。

テキスト：

特に用いない。

参考書：

随時紹介する。

古文書学（４）

准教授 中 島 圭 一

授業科目の内容：

日本史の研究を進めるにあたって、その材料となるのが、古文書を初めとする様々な史料です。したがって、ある時代の歴史を学び、研究するには、その時代の史料の特色を知っておくことが、不可欠の前提となります。本講義では、主に古代～中世における古文書の様式の移り変わりについて、当時の政治や社会の動向と関連させながら、解説していきます。

テキスト：

佐藤進一『新版古文書学入門』法政大学出版局

参考書：

伊木寿一『古文書学』慶應義塾大学出版会

日本史特殊（４）

明治日本の成り立ち

講師 鈴木 淳

授業科目の内容：

王政復古から帝国憲法の発布に至る時代をとりあつかい、近代国家としての日本の成り立ちについて、新たな制度や技術の導入とその地方への普及の担い手に注目して考えて行きたい。春学期は概説書を取り上げてなるべく幅広くこの時代について理解し、秋学期には鹿児島出身の地方官で「道路県令」として知られた三島通庸の経歴に即して理解を深める。

テキスト：

鈴木淳『維新の構想と展開』（講談社 日本の歴史 20. 2002 年、2200 円）

日本史特殊（４）

中世東国の熊野信仰

講師 古 川 元 也

授業科目の内容：

日本中世の宗教世界と社会との関わりを講じます。本講では特に、中世の東国に展開した熊野信仰について扱いたいと思います。熊野信仰は紀伊半島南端の熊野地方に起源をもつ古来からの信仰ですが、さまざまに形を変えて日本各地に伝播します。中世には、東国において著しい受容の痕跡が残されており、その徴証をたどりながら、各地に信仰がもたらされた理由を考えたいと思います。このような宗教世界へのアプローチは、文献資料のみならず絵画、彫刻、工芸あるいは伝承といった、多角的な視点が必要不可欠となります。それら各資料の可能性や限界などもふまえながら、近年の調査に基づいた成果を講じてゆきます。

テキスト：

授業中に適宜プリントを配布します。

『聖地への憧れ—中世東国の熊野信仰—』（神奈川県立歴史博物館特別展図録、2005 年 10 月）など。

参考書：

授業中に適宜指示します。宮家準『熊野修験』（吉川弘文館）を一読しておくことをお勧めします。

日本史特殊（４）

江戸時代の村と入寺慣行

講師 佐 藤 孝 之

授業科目の内容：

江戸時代は「村」の時代といわれる。そこで、江戸時代の村の性格について学ぶことを通じて、江戸時代（近世）という時代に対する理解を深めることを講義の目標にしたい。

具体的には、村の慣行のひとつである「入寺」について取り上げる。入寺とは、寺院へ駆け込むことであるが、江戸時代にはさまざまな場面、いろいろな理由による寺院への駆け込み＝入寺行為がみられた。そのような入寺の村社会における機能やその変遷を解明することにより、江戸時代において村の寺院の果たした役割を見直すとともに、村の性格の一面を浮かび上がらせることにしたい。

また、江戸時代の入寺慣行と中世のアジール（避難所）との関連にも注目し、中世から近世への移行にともなう連続と断絶についても、アジールとその関連用語の変遷等を通じて解明したい。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

佐藤孝之著『駆け込寺と村社会』（吉川弘文館、2006 年、3300 円）

日本史特殊 (4)	
キリシタン史	准教授 浅 見 雅 一

授業科目の内容：

キリシタン時代の倫理，特に神を敬うことをめぐる倫理を取り上げる。信仰告白と殉教との関係などを検討したい。

参考書：
授業中に適宜紹介する。

日本史特殊 (4)	
古代史科学の諸問題	講 師 山 口 英 男

授業科目の内容：

この講義では，日本古代史料研究の近年の成果を学び，古代史研究の新たな展開の方向を考えることを目指します。日本古代史を研究する材料となる史料は，他の時代に比べて数が限定されている印象が強く，新たな検討の余地は少ないように思われがちです。しかし，木簡のような新史料の発見ばかりでなく，周知の史料でありながら十全な検討がなされていないものや，研究の進展に応じた再調査・再検討が必要となっている史料が意外に多くあります。こうした史料に新たな検討を加えていくことで，古代史研究の地平がさらに広がることが期待されます。本講義では，古代史料に関する具体的な検討・調査の事例から，分析の視点と手法を学び，古代史全体の解明への展望について考えます。

テキスト：
（プリントを随時配布します。）

参考書：
・佐藤信編『西大寺古絵図の世界』（東京大学出版会，2005 年）
・石上英一編『日本の時代史 30 歴史と素材』（吉川弘文館，2004 年）
・山口英男『帳簿と木簡』（『木簡研究』22，2000 年）
・石上英一ほか編『古代文書論』（東京大学出版会，1999 年）

日本史特殊 (4)	教 授 長谷山 彰
-----------	-----------

授業科目の内容：

7 世紀以降の日本古代国家の法と制度について講義する。我が国における律令法の成立とその背景を探ると共に中国律令法に対する日本律令法の特色を明らかにしたい。又裁判制度を中心に律令法運用の実態を検討する。

テキスト：
特に指定しない。

参考書：
・牧 英正・藤原 明久『日本法制史』（青林書院新社）
・利光 三津夫・長谷山 彰『新裁判の歴史』（成文堂）
・長谷山 彰『日本古代の法と裁判』（創文社）
・早川庄八『律令国家』（小学館『日本の歴史』）
・吉田孝『古代国家の歩み』（小学館ライブラリー）
・吉田孝『日本の誕生』（岩波新書）

日本史特殊 (4)	
前近代・東アジア世界の中の日本	教 授 田 代 和 生

授業科目の内容：

日本と朝鮮の交流史を縦軸に，東アジア史の視点から日本史を考える。朝鮮通信使の来日に代表される江戸時代の日朝関係は，実は複雑な構造の上になりたっていた。そのころ「鎖国」時代であったにもかかわらず，日本人は朝鮮釜山の倭館へ渡航し，外交実務および貿易を行っていた。幕府の厳しい対外政策のなかで，それがなぜ可能であったのか。このことを理解するには，古代・中世の日朝関係，そして豊臣秀吉による文禄・慶長の役，役後の関係修復，といった一連の歴史的背景を探らなくてはならない。授業では，日朝関係史にかかわる最新の学説を紹介するとともに，必要に応じて書画カメラによる画像史料を用いて，前近代東アジア世界の中の日本をわかりやすく説明する。

テキスト：
田代和生『倭館』（文芸春秋社）

参考書：
田代和生『近世日朝通交貿易史の研究』（創文社），同『江戸時代朝鮮葉材調査の研究』（慶応大学出版会）

日本史特殊 (4)	
公文書と公文書館一文書を残す，選ぶ，読む	講 師 柳 下 宙 子

授業科目の内容：

「公文書館業務」を，利用者ではなく，文書館専門職員の立場で考え，そのいくつかを授業の中で体験してみようと思います。
併せて，公文書（主に外務省記録文書）の特徴を学び，実際の文書を読み一つの事件を考察することも考えています。したがって，講義だけではなく，調査をしたり，文書を読んだり，と演習も行います。

テキスト：
適宜コピー資料を配付します。

日本史史料講読 A (2)	【春】教 授 長谷山 彰
日本史史料講読 B (2)	【春】准教授 中 島 圭 一
	【秋】教 授 井 奥 成 彦
	【秋】准教授 浅 見 雅 一

授業科目の内容：

古代・中世・近世・近代の史料（刊本）の講読と，史料解読のための基本ツールの利用法を修得する。

テキスト：
授業の際に配布する。

参考書：
授業の際に指示する。

日本史演習 (2)	准教授 中 島 圭 一
	講 師 桃 崎 有一郎

授業科目の内容：

中世史料の講読演習を行います。中世史料の大部分はいわゆる「くずし字」で書かれている上，漢文（それも正規の漢文ではない，和様漢文といわれる独特の文体）で書かれています。したがって，中世史料の読解では「くずし字」の判読能力と和様漢文の読解能力が必須です。授業では主に古文書の写真版を用い，直接的には基礎的な判読／読解能力の獲得を目的としますが，同時に読解に必要なツール（工具書等），中世史・古文学書の基礎的知識・研究等にも言及し，自ら調べる力を身に付けてもらうことも目的としています。中世には，形を変えつつも古代以来の朝廷が存続し，社会的に一定度の役割を担っていたばかりでなく，室町時代の一時期には一般に〈公武統一政権〉と呼ばれるような，幕府と朝廷が一体的・融合的に一つの政府として機能した時期があります。したがって授業では中世史の理解に欠かせない公家（朝廷）文書読解に一定度の重点を置きますが，必要に応じて武家（幕府）文書や在地（村落）文書も講読することになるでしょう。なお初回のガイダンスでは授業に関わる全般的な質問を受け付ける予定なので，可能な限り出席して下さい。

テキスト：
授業で随時コピーを配布します。

参考書：
・文字の判読を最も直接的に助けるツールとして，児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版），同『くずし字用例辞典』（同）。
・最も通説的かつ基礎的な古文学書学的知識を押さえておくためのハンドブックとして，佐藤進一『新版古文書学入門』（法政大学出版局）。
その他，適宜授業中に紹介します。

日本史演習（2）	
近代文書解説	講 師 吉 岡 拓

授業科目の内容：

近代の公文書、私文書、雑誌類を主なテキストとして、文書解説能力の基礎（くずし字判読の基礎力）を身につけることを目指す。

授業の進め方としては、まず変体仮名の学習を行い、あわせて主要な部首のくずれ方についても学びながら、徐々に漢字を中心とする学習へと入っていく。

テキスト：

授業時に適宜指示、配布。

参考書：

辞書：『くずし字用例辞典』『くずし字解説辞典』（共に東京堂出版）

日本史演習（2）	教 授 田 代 和 生
近世古文書講読（初級クラス）	講 師 丸 島 和 洋

授業科目の内容：

近世古文書講読の初級クラスである。初めは「ひらがな」の読み方からはいり、漢字交じりの平易な文章からさらに難度の高いものへと進んでいく。史料はできるだけ書体の異なったものを選び、初心者が古文書に慣れることに主眼をおきたい。この間、解説辞典のひき方を指導し、さらに近世史への関心を深めるために、講読史料と関連するテーマについての、討論や発表もあわせておこなう。第一回目の授業でテキストの配布と使用辞書の説明等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。

テキスト：

授業中にプリントを配布する。

参考書：

『くずし字解説辞典』（東京堂出版）、『くずし字用例辞典』（東京堂出版）

日本史演習（2）	
荘園制の成立と国家・社会	講 師 高 橋 一 樹

授業科目の内容：

日本中世の土地制度を荘園制といいます。荘園制は中世史研究の基本課題です。本講義では、この荘園制の成立から展開の過程を、日本中世の国家や社会のあり方と関わらせながら考えます。学説史の整理から現在の研究状況を理解するとともに、中世ヨーロッパとの比較も視野に入れた具体的な史料の読解を重視します。先行研究の吟味と地道な史料分析にもとづくオリジナルな歴史像の構築をめざして、その基礎的な方法を学んでいきましょう。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを適宜配布します。

参考書：

永原慶二『日本中世の社会と国家』（増補改訂版、青木書店、1991年）

日本史演習（2）	講 師 堀 和 孝
----------	-----------

授業科目の内容：

本講義は、明治期の史料の読解能力を養成することを目標とする。テキストには、竹越与三郎著『新日本史 上・中』（民友社、1891、92年）を用いる。

テキスト：

原本のコピーを配布する。

参考書：

・『明治文学全集 77 明治史論集（一）』（筑摩書房、1965年）
・竹越与三郎著・西田毅校注『新日本史（上）（下）』（岩波書店、2005年）

日本史演習（2）	
近世古文書講読（上級クラス）	講 師 原 淳一郎

授業科目の内容：

近世古文書講読の上級クラスである。ある程度古文書が読めることを前提とし、数多くの文字に触れて応用力をつけることを目標とする。古文書解説能力の向上は何より量である。さらに近世史の理解を深めるため、講読史料と関連するテーマについての、討論や発表もあわせておこなう。第一回目の授業でテキストの配布と使用辞書の説明等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。

テキスト：

授業中にプリントを配付する。

参考書：

『くずし字解説辞典』（東京堂出版）、『くずし字用例辞典』（東京堂出版）

日本史演習（2）	教 授 長谷山 彰
----------	-----------

授業科目の内容：

弘仁・貞観・延喜の三代の格を集大成した『類聚三代格』を講読する。

特に巻19禁制事に収められた格を対象として、京内外で起こるさまざまな社会事象について律令国家がどのような対応を示したのかを明らかにすると共に、政策決定の背景について考察してみたい。

テキスト：

新訂増補国史大系『類聚三代格』（コピーを配布する）

参考書：

・日本思想大系『律令』（岩波書店）
・『国史大系書目解題』上（吉川弘文館）

日本史演習（2）	
近世対外関係史	准教授 浅 見 雅 一

授業科目の内容：

近世史料の講読を行なう。

テキスト：

受講者と相談のうえで決めたい。

日本史演習（2）	
『日本三代実録』を読む	講 師 村 上 史 郎

授業科目の内容：

『日本三代実録』は六国史の最後に編纂されたものです。本史料を講読することで、9世紀後半を中心に平安時代前期の政治・対外関係・社会・文化などの実像を探ると共に、古代史史料の基礎的読解力を受講者に身につけてもらうことを目標にしています。

テキスト：

新訂増補国史大系『日本三代実録』（吉川弘文館）但し、コピーを配布します。

参考書：

・武田祐吉・佐藤謙三訳『訓読日本三代実録』（臨川書店）
・笹山晴生『日本古代史年表 上』（東京堂出版）
この他、読解に必要な辞典類、関連史料、研究文献などは授業中に適宜紹介します。

日本史研究会Ⅰ（A）（2）
日本史研究会Ⅱ（A）（2）

休講

日本史研究会Ⅰ（B）（2）	
日本史研究会Ⅱ（B）（2）	
近世貨幣史と庶民の暮らし	教 授 田 代 和 生

授業科目の内容：

この研究会の目的は、江戸時代の政治・経済・文化など多方面にわたる課題と取り組みながら、近世史研究を行なうための基礎能力を養うことにある。具体的な研究方法としては、年度ごとの共通テーマ（今年度は「近世貨幣史と庶民の暮らし」）を設定し、グループでの発表・討論を中心に、専門文献や史料への接近の仕方、あるいはそれらの評価・活用法などを学ぶ。またこれと並行して、四年生の卒業論文指導、三年生の個別テーマのレポート作成指導を行なう。なお三年生は、近世古文書講読の初級クラス（日本史演習）を必ず履修すること。

テキスト：

吉原健一郎『江戸の銭と庶民の暮らし』（同成社）

日本史研究会Ⅰ（C）（2）	
日本史研究会Ⅱ（C）（2）	教 授 三 宅 和 朗

授業科目の内容：

4年生については卒業論文作成の指導を行なう。3年生については春学期を中心に史料講読を行い、日本古代史像を具体的に検討したい。

日本史研究会Ⅰ（D）（2）	
日本史研究会Ⅱ（D）（2）	教 授 長谷山 彰

授業科目の内容：

4年生については各自の報告をもとに卒業論文作成の指導を行う。
3年生も各自のテーマについて研究報告を行い、授業の場で討論する。
他に合宿にむけて共通のテーマによる史料講読、資料の作成も予定している。

日本史研究会Ⅰ（E）（2）	
日本史研究会Ⅱ（E）（2）	准教授 中 島 圭 一

授業科目の内容：

中世史料の講読に、適宜、各自のテーマに基づく報告を交えながら、研究と論文執筆の能力を養ってもらいます。

テキスト：

初回の授業で提示します。

日本史研究会Ⅰ（F）（2）	
日本史研究会Ⅱ（F）（2）	准教授 浅 見 雅 一

授業科目の内容：

中世末期から近世にかけての対外関係史を中心としたテーマで、参加者には卒業論文を視野に入れながら各自の関心に沿った研究報告をしてもらう。それと同時に、対外関係史に関する研究論文を参加者と一緒に読み、それを素材としてひとつのテーマについて自由に議論することも考えている。

日本史研究会Ⅰ（G）（2）	
日本史研究会Ⅱ（G）（2）	教 授 井 奥 成 彦

授業科目の内容：

日本近代史に関する文献・史料の講読、関連施設への見学、史料調査、自由研究発表を内容とする。史料調査は合宿形式で行う。

テキスト：

初回の授業時に提示する。

参考書：

随時紹介する。

日本史洋書講読（2）	
日本文化の伝統と海外の日系文化	講 師 小 嶋 茂

授業科目の内容：

最初に日本文化史に関する洋書（英語）を読み、自分たちの文化の伝統について学び、それが海外の日系社会でどのように受け継がれているかを日系人に関するエッセイや様々な資料をとおして探ります。海外の日系社会に、実は日本以上に日本の伝統が生きている姿を感じ取れる講座にします。

テキスト：

講座資料プリントを配布します。

参考書：

- 初回の授業で提示します。
- ・ Kato, Shuichi: JAPAN Spirit & Form, Rutland, Vermont & Tokyo, CHARLES E. TUTTLE COMPANY, 1994.
 - ・ Asakawa, Gil: Being Japanese American, Berkeley, Stone Bridge Press, 2004.
 - ・ Befu, Harumi & Guichard-Anguis, Sylvie: Globalizing Japan Ethnography of the Japanese presence in Asia, Europe, and America, New York, Routledge Curzon, 2003.
 - ・ Leathers, Noel L. : The Japanese in America, Lerner Publications. Co., 1974

○東洋史学専攻

必修科目

史学概論（４）

教授 神田 順司

西洋史学専攻参照

東洋史研究入門（２）

東洋史研究入門

教授 桐本 東太

教授 坂本 勉

教授 山本 英史

教授 吉原 和男

授業科目の内容：

東洋史はどの口が広く、かつ奥行き深い分野は少ないのではないだろうか。それだけにどの地域、どの時代、いかなる方法で歴史を学んでいくかについて思い悩んでいる人も多いはずである。こうしたことを考慮して設けたのがこの授業である。原則としてゼミを持つ教員が担当し、オムニバス形式ですすめられていくが、その蘊蓄を傾けた話のなかから将来の道をさぐるよすがを見つけてもらいたい。講義は、以下のように東アジアから西のイスラーム世界へ、時代は古い方から新しい方へという順で組み立てられている。

I 東洋史の『組み立て方』

一般に「東洋史」の名前でくられる時代と空間は、想像を絶する深みと広がりを持っているが、本講ではその中から、私の力がおよぶ領域を選択し、「東洋史」に取り組む際の研究方法を具体的に説明しようと思う。こちらがある事例の解析法を示し、それにならって学生諸君に他の事例を同じ視角から分析するとどのようになるかを考えてもらう、といった授業の進め方を予定している。（桐本東太）

II 中国近世近代史研究法

中国の近世近代史を中心に①なぜ中国の歴史を学ぶのか、②中国近世近代史研究の過去と現在、③中国近世近代史のための史料、④実践：史料読解 ― 歴史はどのように作られるのか、という４つのテーマで講じる。（山本英史）

III 華僑華人の研究史

日本における中国移民の研究についての主要文献を紹介しながら、アジア移民研究における方法と課題を論じる。（吉原和男）

IV 日本からイスラーム世界の歴史を考える

外国史の研究は、日本との関係をつねに意識していないとその興味、関心を持続させることがなかなかむずかしい。こうしたことを考慮してこのオムニバスの授業ではヴィジュアルな映像資料も活用しながら日本とイスラーム世界との関係について話し、中東イスラーム世界について考えていく目を養っていききたい。

東洋史講読 A（２）

オスマン史のとらえ方

講師 石丸 由美

授業科目の内容：

多民族・多宗教国家たるオスマン帝国からトルコ人（国民）によるトルコ共和国へ、という歴史的流れの中で、旧来のオスマン歴史学の中ではオスマン帝国の非トルコ人、非ムスリムたちは離反する存在としてのみ描かれる傾向にあり、また非トルコ、非ムスリムが作り上げた国民国家では、国民国家形成以前（すなわちオスマン時代）を暗黒の時代として捉え否定する傾向にあった。授業ではこうしたバリアを破り、オスマン時代との連続性およびオスマン帝国が、その後、その中からうまれていった社会、国家にどのような影響を与えていったかを考察したい。授業では主に英語文献講読を通して、上記の問題にアプローチする。

テキスト：

L. Carl BROWN, *Imperial Legacy : The Ottoman Imprint on the Balkans and the Middle East*, New York, 1996.

東洋史講読 B（２）

アジア系アメリカ人の歴史

教授 吉原 和男

授業科目の内容：

19世紀以降にアジアからアメリカ大陸へ移住・移民した人々の歴史を概説した英文テキストを使用する。中国人は華僑や華人としてよく知られ、また日本人は日系人として知られるが、他に韓国、南アジア、東南アジアからさまざまな理由と背景をもって北米や南米に移住した人々がいる。グローバルな人の移動を環太平洋地域に注目して考える授業である。前年度に使用したテキストの第3章後半から読み始めるが、読了部分の翻訳は初めの授業で配布する。

テキスト：

Monique Avakian, *Atlas of American History*. Checkmark Books. 2002

参考書：

ロナルド・タカキ、富田訳『多文化社会アメリカの歴史』明石書店、1995年

東洋史講読 C（２）

東洋史（中国）史料の講読

講師 高村 武幸

授業科目の内容：

漢文史料を読むことで、史料に慣れ、その内容を理解するための基礎作りを目標とします。最初は短文を中心に読み下しや返り点などのついた漢文を読んで慣れ、次に良く知られなじみある史書や諸子百家の名場面を取り上げて内容をつかむ練習をします。秋学期には、実際に中国の正史をとりあげて輪読していきます。実際に読むものについては履習者の意見も取り入れたいと思います。その他、史料を読む上で知っておくと便利な、当時の状況に関する知識も出来るだけ紹介する予定です。漢字であるだけに少し慣れてくれば、史料内容をつかむのはそれほど困難ではありません。多少のまちがいはつきもの、とにかく読み、内容を把握する練習を重ねたいと思います。

テキスト：

こちらから適宜配布します。

参考書：

特に指定はありません。高校、大学入試などの際の参考書があればそれを用いてもかまいません。

東洋史講読 D（２）

講師 熊 遠報

授業科目の内容：

この授業では、16世紀～20世紀における中国農村社会の状況、商業化に伴った都市の拡大、および農村人口の都市流入と都市成長の関係を重点に置いて、中国の伝統社会がどのように近代社会へと変わったのか、という問題を考察する。具体的に費孝通氏の名著『江村経済』（『中国農村の細密画』）などの講読を通じて、当時の人々の生活・行動様式・人間関係・制度（特に家族・宗族）、および政治・経済活動の特徴から中国の社会構造と社会変動などを考える。

テキスト：

費孝通『中国農村の細密画―ある村の記録1936―82』（小島晋治他訳、研文出版 1985年）

参考書：

熊遠報『清代徽州地域社会史研究』（汲古書院2003年）

東洋史講読 E（２）

西アジア史関連文献講読

講師 栗山 保之

授業科目の内容：

西アジア地域に関する英語文献を読みます。前期は学術論文、後期はアラビア語史料の英訳を取り上げる予定です。

テキスト：

初回に配布します。

参考書：

随時、紹介します。

東洋史概説Ⅰ（４）	
中国古代史概説	教 授 桐 本 東 太

授業科目の内容：

中国古代史の一つの到達点である秦・漢帝国史について概説する。基本的には文献史学の立場からの講義であるが、最新の考古学的な成果も、ふんだんに取り入れてゆきたい。

テキスト：

なし

参考書：

適宜指示する。

東洋史概説Ⅱ（４）	【春】教 授 山 本 英 史
伝統中国の成熟と変容	【秋】教 授 吉 原 和 男

＜春学期＞

授業科目の内容：

明清時代の中国の歴史を概述し、伝統中国の成熟と変容のあり方をたどる。本講義はいまの中国がいかに形成され、どのような点がいまの中国に継承されているのかを知ることによって現代中国のより深い理解を求めるものである。

テキスト：

『現代中国の履歴書』慶應義塾大学出版会 2003 年

参考書：

尾形勇・岸本美緒『中国史』山川出版社

＜秋学期＞

授業科目の内容：

中国における家族と親族の構造的特色がどのように形成され伝えられてきたかを概説し、現代の中国大陸、台湾、香港、そして課外の華人社会における家族・親族組織について考察する。

テキスト：

特になし。

参考書：

- ・平田茂樹・遠藤隆俊・岡 元司 編『宋代社会の空間とコミュニケーション』汲古書院、2006 年
- ・井上徹・遠藤隆俊 編『宋一明宗族の研究』汲古書院、2005 年
- ・瀬川昌久『中国社会の人類学』世界思想社、2004 年
- ・吉原和男・鈴木正崇 編『拡大する中国世界と文化創造』弘文堂、2002 年

東洋史概説Ⅲ（４）	
宗教・民族からみるイスラーム世界史	教 授 坂 本 勉

授業科目の内容：

イスラーム世界とは多様な民族とエスニック集団からなる広大な歴史的世界である。宗教的にもイスラームのみならずそれと兄弟関係にあるセム的一神教たるユダヤ、キリスト教を内に含みつつ共存をはかってきたところである。この講義ではこうしたイスラーム世界の多様性と複合性を春学期においてはアラブ、トルコ系諸民族の 15 世紀あたりまでの歴史を軸に焦点をしばらくながら話をしていく。ついで秋学期では 16 世紀から近代の時期にかけてのオスマン帝国の歴史を例にトルコ、アラブ、バルカンの人びとがいかにして民族の意識をもつようになってきたのか、その文化的、政治的ナショナリズムの過程について国際関係を視野に入れながら考えていくことにしたい。他専攻、他学部の学生でも理解できるようにできるだけかみくだいて話すつもりである。また、政治史に偏らずに社会史、文化史にも重点をおいていく。イスラーム世界についての知識はこれからますますグローバル化する国際社会で生きていく上で絶対に必要な分野であると思われる。志のある学生を歓迎したい。

テキスト：

坂本勉『トルコ民族の世界史』（慶応義塾大学出版会、2006 年）

東洋史特殊 A（４）	【春】教 授 吉 原 和 男
東南アジア華人社会の宗教	【秋】教 授 山 本 英 史

＜春学期＞

授業科目の内容：

東南アジア諸国とりわけ中国系住民の人口が多いタイ、マレーシア、シンガポールに、第二次世界大戦後に中国大陸から伝えられた民衆宗教を主な事例として、華人の信仰・儀礼・諸活動を考察する。現地調査によって入手した文献資料と聴き取り資料を用いて考察する。スライドを使用した補足説明を数回おこなう。

テキスト：

特になし。

参考書：

- ・吉原和男「タイ華人社会の民衆教団」青木保ほか編『宗教の現代』岩波書店、1997 年
- ・吉原和男「タイ国に伝えられた徳教とその変容：適応戦略と背景」宮家準編『民族宗教の地平』春秋社、1999 年
- ・吉原和男、クネヒト・ベトロ編『アジア移民のエスニシティと宗教』風響社、2001 年
- ・吉原和男「中国人の宗教：儒教に注目して」関一敏・大塚和夫『宗教人類学入門』弘文堂、2004 年

＜秋学期＞

授業科目の内容：

中国の史料の特徴をそれを利用する上での留意点を説くことによって中国という国が発信する情報のあり方について考える。

テキスト：

プリントをそのつど用意する。

東洋史特殊 B（４）	
東南アジア史の諸問題	言語文化研究所 准教授 嶋 尾 稔

授業科目の内容：

東南アジアの歴史について様々な視座から実証的に検討する。マクロなスケールで地域世界の成り立ちを考える一方で、ムラの世界まで降りて具体的に人々の実践に迫ってみる。前半は、東南アジア全体に関わる概論的な問題を取り扱う。「自然環境」「国家・政体」「外文明」など。後半は、ベトナム史に焦点を当てる。「農業・農村から見た歴史」「儒教をめぐる問題（葬礼、女性問題）」「王朝の終焉」など。

テキスト：

特に指定しません。講義中に資料プリントを配布します。

参考書：

上智大学アジア文化研究所編『新版・入門東南アジア研究』（めこん、1999 年）

東洋史特殊 C（４）	
中世アラブ史概説	講 師 中 町 信 孝

授業科目の内容：

イスラーム誕生以降のアラブ世界の歴史を概説します。そこで育まれてきた宗教思想であるイスラームに関する基礎的な知識を得、近代化以前のアラブ世界の歴史展開について具体的なイメージをつかんでもらいます。事例としては、現在のアラブ世界の中心都市であるカイロのことを多く扱いますが、随時他のアラブの都市についても触れます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

佐藤次高編『新版世界各国史 8 西アジア 1（アラブ）』山川出版社、2002

東洋史特殊 D (4)	
近世イラン社会の展開	講 師 山 口 昭 彦

授業科目の内容：

現在のイランにはほぼ相当する地域を200年以上にわたって支配するとともに、シーア派を国教化してこの地域のシーア派化を図った点で、サファヴィー朝（1501—1722）は近代イランの原型を形作ったと言えます。本講義は、この王朝の歴史的意義をさまざまな角度から考えることで、西アジア史における「近世」を理解する手がかりをつかんでもらうことをめざします。前期は、どのような経緯でサファヴィー朝が生まれたのか、シーア派をどのように定着させていったのか、そして、支配下にあった多様な宗教集団や民族集団をいかにして統合していったのかといった問題群を取り上げます。後期は、南北を二つの「海」に挟まれ、西はメソポタミア地方や地中海、東はインドや中央アジアに接するサファヴィー朝をアジア交易網の一画と捉えて、周辺国家やヨーロッパ諸国との交易においてこの王朝がもった意義について検討します。

東洋史特殊 E (4)	講 師 松 井 真 子
--------------------	-------------

授業科目の内容：

オスマン帝国の対外関係および近代化改革について講義します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

講義の内容に即して適宜提示します。

東洋史特殊 F (4)	
アラブの文学	講 師 師岡カリマ、エルサムニー

授業科目の内容：

「言葉」はアラブ人にとって最も美しい芸術であり、古くからアラブは詩の文明として知られています。この授業では、古典から「千一夜物語」、そして現代の代表的な作家や詩人を紹介します。翻訳が出版されている小説を読み、ディスカッションを通じてアラブの文化や社会の過去と現代を探索していきます。

参考書：

「恋するアラブ人」師岡カリマ・エルサムニー（白水社）その他、和訳が出版されているアラブ文学作品

東洋史特殊 G (4)	
唐宋時代社会史研究	講 師 大 澤 正 昭

授業科目の内容：

唐宋時代は中国史上の一大変革期である。しかしこの「変革」の内容については様々な議論があり、定説のない分野が相当に残されている。本講義では社会史に焦点を絞るが、とくに社会の基礎となる家族に重点をおいて講義する。具体的にはテキストの記述に沿って関連する諸問題を補足しつつ述べる。受講者は講義の前にテキストの当該部分を読んでおくことが望ましい。

テキスト：

大澤著『唐宋時代の家族・婚姻・女性』（明石書店、2005年）

東洋史特殊 H (4)	
漢魏交替期の国家と社会	講 師 阿 部 幸 信

授業科目の内容：

後漢末～三国初期（いわゆる「漢魏交替期」）の国家と社会の諸様相について考察します。

後漢期については、国制ならびに在地社会における共同性の問題を中心に扱います。主に利用する史料は『後漢書』『後漢紀』のほか、碑文も含みます。三国期については、新出の長沙走馬楼呉簡を用いながら、とくに孫呉政権下の長江中下流域に焦点を絞りつつ、環境史も視野に入れた社会変動論を展開します。

テキスト：

適宜資料を配布します。

参考書：

特に指定しません。関係する文献は授業中に随時紹介します。

東洋史特殊 I (4)	
南アジア近現代史の諸問題	講 師 中 里 成 章

授業科目の内容：

南アジア近現代史とは、インド、バングラデシュ、パキスタン、スリランカ、ネパール等の諸国がある地域の18世紀半ば以降の歴史をいいます。この授業は、総花的な概説になるのを避け、①研究上の主なテーマを分かりやすく解説し、南アジア近現代史の構造を理解してもらうこと、②現在研究している問題を紹介し、研究の進め方や面白さを具体的に分かってもらうこと、この2点を目標にします。

テキスト：

とくに指定しません。随時講義資料プリントを配布します。

参考書：

スミット・サルカール『新しいインド近代史—下からの歴史の試み』2巻（研文出版、1993年）

東洋史特殊 J (4)	
中国道教史	講 師 志 賀 市 子

授業科目の内容：

この授業では、中国土着の民族宗教であり、中国人の人々の生活、文化に深く根を下ろしている道教の歴史と現状、信仰と実践に関する知見を養います。前期は道教全般についての概説的な講義を行い、後期は、これまで中国道教史の中ではあまり意識されてこなかった「地方道教」や、不遇な扱いを受けてきた「近現代の道教」に焦点をあて、「道教の普遍性と地方性」や「道教と近代」といった問題を考えてみたいと思います。

テキスト：

前期 松本浩一著『中国人の宗教・道教とは何か』PHP新書429、2006年

後期 特に指定しません。授業中に講義資料プリントを配布します。

参考書：

①志賀市子『中国のこっくりさん—扶鸞信仰と華人社会』大修館書店、2003年

②野口鐵郎、田中文雄編『道教の神々と祭り』大修館書店、2004年

③坂出祥伸『道教とはなにか』中公叢書、2005年

東洋史特殊 K (4)	
華人の歴史と社会	講 師 帆 刈 浩 之

授業科目の内容：

海外で広く活躍し、独特の社会・経済活動を展開してきた華僑・華人に関する理解を深めることを目標とする。その際、中国史の視点と華僑・華人研究の成果の融合をはかりながら検討を加える。華僑・華人の歴史的展開を見ると、「家族主義」「ネットワーク社会」など、西洋起源の「近代文明」とは異なる特徴を示しており、国民国家を相対化し、新たな人間社会のあり方を構想する手がかりを提供する可能性を持つと思われる。

テキスト：

とくに指定しません。講義資料プリントは後に配布します。

参考書：

授業時に紹介する。

東洋史研究会 I A (3年) (2)	
東洋史研究会 II A (4年) (2)	教 授 山 本 英 史

授業科目の内容：

前期は中国史研究の中で各時代において注目を浴びた社会経済史の論文を選んで、その講読を行い、中国史研究の流れを理解してもらう。後期は3年生は自由研究の報告、4年生は卒業論文の報告を中心

にしたい。

参考書：

- ・山根幸夫編『中国史研究入門』山川出版社，1995年
- ・田中比呂志・飯島渉編『中国近現代史研究のスタンダード』研文出版2005年
- ・『中国歴史研究入門』名古屋大学出版会，2006年

東洋史研究会ⅠB（3年）(2)	
東洋史研究会ⅡB（4年）(2)	
イスラーム社会史への途	教授 坂本 勉

授業科目の内容：

まず最初に共通のテキストとして生活観にあふれた社会史，文化史について扱う本と一緒に読んでいながら中東イスラーム世界についての認識を深めていきたい。これが済んだ後，出席者にそれぞれ自由課題を与え，その結果をレジュメにして発表していくという形式で授業をすすめていくことにする。このゼミに出席する者は，まず自分が何をやろうとしているのか，徹底的に考えてほしい。そして，しかるのちにやるべき事柄にかんする周到なビブリオグラフィーをつくりそれにもとづく意欲的な発表を期待する。

東洋史研究会ⅠC（3年）(2)	
東洋史研究会ⅡC（4年）(2)	

休講	
----	--

東洋史研究会ⅠD（3年）(2)	
東洋史研究会ⅡD（4年）(2)	
アラブ社会研究	教授 坂本 勉 講師 三浦 徹

授業科目の内容：

アラブ・イスラーム史の研究書や史料の講読と質疑討論を通して，アラブ・イスラーム社会を自分自身で読み解くための方法論と技術を身につける。学期の最後には，課題研究を行い発表する。

テキスト：

Ira M. Lapidus, Muslim Cities in the later Middle Ages, Cambridge, Mass.,1967 など。

参考書：

- ・『新イスラーム事典』平凡社，2002
- ・『イスラーム研究ハンドブック』栄光教育文化研究所，1994
- ・『イスラーム都市研究』東京大学出版会，1991 など

東洋史研究会ⅠE（3年）(2)	
東洋史研究会ⅡE（4年）(2)	
中国人ならびにアジア人の国際移動	教授 吉原 和 男

授業科目の内容：

- (1) アジアにおける，あるいはアジアから他地域への国際人口移動の歴史人類学的研究を行う。中国人だけではなく，日本人，韓国人，タイ人，マレー人，ビルマ人，インド人なども視野にいれて比較研究する。移民の故郷，移民に関する法制，プロセス，適応と文化変容，エスニシティなどについて総合的に考える。たとえば，グローバルイゼーション，トランスナショナルリズム，華僑華人，チャイナタウン，移民の宗教，外国人労働者，難民などがキーワードである。
- (2) 中国の近・現代史において中国人の国際移動と関連する事象の研究
- (3) 北米，ヨーロッパ，東南アジア，オーストラリアそして日本などにおける中国系以外のアジア移民の研究。

テキスト：

- ・岩波講座文化人類学第7巻『移動の民族誌』岩波書店，1996年
- ・岩波講座世界歴史第19巻『移動と移民』岩波書店，1999年
- ・五十嵐武士編『アメリカの多民族体制』東京大学出版会，2000年
- ・吉原ほか編『〈血縁〉の再構築：東アジアにおける父系出自と同姓結合』風響社，2000年

- ・吉原ほか編『アジア移民のエスニシティと宗教』風響社，2001年
- ・吉原ほか編『拡大する中国世界と文化創造』弘文堂，2002年

東洋史研究会ⅠF（3年）(2)	
東洋史研究会ⅡF（4年）(2)	
中国古代史の諸問題	教授 桐本 東 太

授業科目の内容：

中国古代史で卒論を書きたいと思っている人の研究会。特定のテキストを選んで講読したり，学生諸君に発表してもらったりしながら授業を進めたい。

テキスト：

なし

参考書：

適宜指示する

選 択 科 目

東洋史演習A（2）	
アラブ史料講読入門	講師 高橋 圭

授業科目の内容：

アラビア語初級文法の学習を一応終えた人を対象として，アラビア語史料をはじめとした，アラブ史に関する史料の読解に向けた基礎的なトレーニングをおこなう。アラビア語の学習を始めたばかりであっても，積極的に講義に参加する意欲があれば歓迎する。また，アラブ史料史の性格，史料の調査・収集の方法などについても適宜解説する。

テキスト：

適宜プリントを配布する

参考書：

授業中に紹介する

東洋史演習B（2）	
『史記』項羽本紀の講読	教授 桐本 東 太

授業科目の内容：

『史記』項羽本紀の講読を通して，項羽と劉邦による天下争奪戦を概観する。漢文をある程度勉強した人にも，全くの初学者にも対応できるように，授業の進め方は工夫するつもりである。

テキスト：

『史記』項羽本紀（コピーを配布する）

参考書：

適宜指示する。

東洋史演習C（2）	
地中海世界における異文化交流—オスマン朝期を中心に	講師 宮武 志 郎

授業科目の内容：

地中海世界は常に様々な文化の邂逅と融合の歴史を繰り返してきた。その様子をイスラーム，ユダヤ，キリストという三つの文明の観点から，主要な文献を読み解説を加えながら理解することを目的とする。また，現代の国際情勢の変化に関連する歴史的考察も適宜行う予定である。

テキスト：

適宜プリントとして配布する。

参考書：

授業中に指示する。

○西洋史学専攻

必修科目

史学概論 (4)

教授 神田 順司

授業科目の内容：

歴史の「事実」とは何か。それは揺るぎなき真実として発見されるのか、それとも歴史家の解釈によって作られるのか。そしてもし歴史家によって作られるとすれば、その「事実」認識の客観性はいったいどこに求められるのか。歴史の個別研究から一步退いて、歴史がどのように認識されるのかを考えてみる時、我々は様々な理論上の問題に直面する。本講義では、そうした歴史学における認識論の諸問題を取り上げ、それらを実証研究との連関において考察する。

テキスト：

E. H. カー、『歴史とは何か』岩波新書

参考書：

授業の中で指示する。

西洋史学原典講読 (2)

教授 神崎 忠昭

授業科目の内容：

Catherine Mulgan, *The Renaissance Monarchies 1469-1558*, Cambridge University Press, 1998, 118p. を講読します。

参考書：

授業において、その都度指示します。

西洋史学原典講読 (2)

アメリカ英語で書かれた二次的研究文献の
リーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

Jack P. Greene, *Understanding the American Revolution: Issues and Actors* (Charlottesville and London; University Press of Virginia, 1995) の中から、いくつかの論文を選んで読みます。本書は初期アメリカ史の碩学であるジャック・グリーンが、長年にわたって発表してきた多数の論文のうち、アメリカ革命を扱い、かつ影響力の大きかったものを選んで一冊にまとめた論文集です。「原典講読」では、多くの人の関心にとって公平であるように、概説書ないし総合研究をテキストとすることが多いようです。しかし、担当者（大森）は、無味乾燥な概説書ではなく、むしろあえて個別的な問題を扱った文献を用いることで、英語（この場合はアメリカ語）で展開される論理をたどる訓練を行った方が、学生諸君の将来の役に立つと考えております。本書の研究対象はたまたまアメリカ革命です。しかし授業の目的は、ジャック・グリーンへの明晰な論理展開を追跡することを通じて、英語で書かれた歴史のモノグラフを独力で読むための基礎を作ることにあります。

なお、技術的には、高校英文解釈的なセンテンス読みから、パラグラフ全体を最小単位とするパラグラフ読みへの転換を目指します。最初の3時間にそのための特殊な訓練を行います。

出欠はとりません。本来なすべきことの外見だけで何らかの成績が保証されるのは合理的でないと考えるからです。各学期末に1回ずつ、合計2回のテストを行い、その合計点のみで成績評価を行います。テストは採点後参加メンバーに必ず返却し、採点に疑問のある場合は担当者にクレームをつけることができます。担当者がクレームを無視して学事センターに成績を提出することはしません。

本書のうちテキストとして用いる論文は、担当者がゼロックス・コピーを作って配布します。特に本書の内容に関心のある人はペイパーバック版が\$24.50で入手可能なので、個人で購入して下さい。

テキスト：

上記。第一週の授業時間に配布します。

参考書：

(1) 大森雄太郎『アメリカ革命とジョン・ロック』（慶應義塾大学出

版会、2005年、¥4800）。本書の各章第1節を通して読むと、アメリカ革命前半期の政治史と論争の概略を理解することができるようになっていきます。

(2) 川北稔編『イギリス史』（山川出版社、新版世界各国史11、1998年、¥3500）、第5章と第6章（178頁—255頁）。アメリカ革命を理解するためには、17・18世紀イギリス史の知識が必要です。本書はコンパクトであるのみならず、同じ山川出版社の世界歴史大系『イギリス史』より、歴史の構造的把握においてはるかに優れています。

(3) J.G.A. Pocock, *The Discovery of Islands: Essays in British History* (Cambridge University Press, 2005), Part III (pp.105-178)。本書は現存する天才の歴史家によって書かれた巨人的研究で、Part III は広い意味での“British history”の観点からアメリカ革命をとらえています。但し、英語も論理もきわめて難解なので、英語に自信のある人だけが手を出して下さい。一応紹介しておきます。

西洋史演習 (独) (2)

教授 神田 順司

授業科目の内容：

ドイツ近代史に関するドイツ語テキストの講読を通してドイツ近代の基本的性格を学ぶ。

テキスト：

Rürup, Reinhard, *Deutschland im 19. Jahrhundert 1815-1871*. (Deutsche Geschichte, hrsg. von J. Leuschner, Bd.8) Göttingen 1984.

西洋史演習 (仏) (2)

フランス語文献講読

教授 藤田 苑子

授業科目の内容：

フランスのアンシアン・レジーム社会にかんする基礎的な知識を得ることを目的として、専門の文献を講読します。

テキスト：

コピーを配布します。

参考書：

辞書を指定します。大修館『新スタンダード仏和辞典』

西洋史演習 (伊) (2)

講師 三森 のぞみ

授業科目の内容：

中世・ルネサンス期のイタリア史に関する文献を講読します。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

西洋史演習 (西) (2)

スペイン近現代史の史料を読む

准教授 山道 佳子

授業科目の内容：

19世紀初頭の社会風俗や政治事件を描写した文学作品であるブランコ・ホワイト著『スペインからの手紙』を読んでいきます。史料を読むことを通して、実際にスペイン語の史料を使ってスペイン史の勉強ができるようになるための基礎的な訓練を行います。なお、履修者の希望によっては、秋学期に別の史料をとりあげることも可能です。

テキスト：

プリントを配布する。なお各自が使用している辞書を毎回持参すること。

参考書：

授業中に指示する。

西洋史演習（露）（2）
ロシア史に関するロシア語文献の講読 講 師 田 辺 三千広

授業科目の内容：
ロシア史に関するロシア語文献の講読を行います。今年度前期は、А.А.Зимин, Россия на рубеже XV—XVI столетий (15 世紀から 16 世紀への転換期におけるロシア) を、後期は、С.М.Соловьев, История России с древнейших времен (古代からのロシア史) をテキストとして使用します。

西洋史概説Ⅰ（4）
古代末期から中世にかけての西欧世界の展開 教 授 神 崎 忠 昭

授業科目の内容：
古典古代末期から近世初頭までのヨーロッパの歴史を概観します。
参考書：
授業において、その都度指示します。

西洋史概説Ⅱ（4）
絶対主義期の西ヨーロッパ 教 授 藤 田 苑 子

授業科目の内容：
時間的には 16 世紀から 18 世紀を、空間的にはフランスを中心として、西ヨーロッパの歴史を概観する。
参考書：
・『世界歴史体系ドイツ史 1』『世界歴史体系フランス史 2』『世界歴史体系イギリス史 2』山川出版社
・ピエール・グベール『歴史人口学序説』岩波書店
・ル＝ロワ＝ラデュリー『気候の歴史』藤原書店

西洋史概説Ⅲ（4）
北米アメリカ史（1670 年—1776 年） 教 授 大 森 雄太郎

授業科目の内容：
概説Ⅲは北米アメリカ史を扱います。ジェイムズタウン（1607 年）からフィラデルフィア（1776 年）に至るイギリス領植民地期アメリカ史を、政治史、社会史、経済史、宗教史、思想史等、多角的な観点から概観します。「アメリカ」はただか 200 年余の歴史しか持っていないとしばしば言われます。しかしこれは間違いであって、合衆国が成立する以前に 170 年にわたる植民地期の歴史があります。そしてこの間に、北アメリカに特有の諸条件によって、特殊アメリカ的な特性が形成され、合衆国の歴史は多分にしてこの特性の上に成り立っています。その意味で、イギリス領植民地期アメリカ史（前半）の知識は、合衆国の歴史（後半）の理解にとって不可欠であると言えます。授業はまず、後の独立時に 13 のステイツとなる個別植民地の成立の事情と歴史を概観します。その後 17・18 世紀全植民地を通じての、いくつかのトピックスをとりあげて検討します。最後に、イギリス帝国からの分離・独立にいたる、アメリカ革命前半期を簡単に見てゆきます。
参加希望者は第 2 週の授業日までに、生協購買部でこの授業の「コピー教材」を購入して、授業に持ってきて下さい。
成績評価は学年末に行う完全持ち込み不可のエッセイ・テストによって行います。テストを完全持ち込み不可とするのは、個別的事象にこだわるよりは、全体としての歴史の理解を重要視し、よりよく授業を理解している参加メンバーに、よりよい成績がつくようにしたためです。従って、他人のノートを借用してテストに対応しようとしても無駄です。また、出席を強要するような方策はとりません。本来なすべきことの外見だけで、何らかの成績が保証されるのは合理的ではない、と考えるからです。テストは試験期間ではなく、最終授業日に行い、成績評価と簡単なコメントをつけて後日返却します。欠席回数が各学期 2 回以内であれば（自己申告）、成績に疑問のある場合には、

クレイムを申し出て下さい。クレイムが正当か否かを判断せずに、成績を学事センターに提出することはしません。欠席が各学期 3 回以上であれば、もはや授業に参加したとは見なせないのので、テストを受けないで下さい。
テキスト：
ありません。独自の観点から授業を組み立てますので、授業参加者は授業を理解しようと努力して下さい。
参考書：
授業の「コピー教材」に授業担当者の簡単な解説を付けた参考文献リストがあります。そちらを見て下さい。

西洋史特殊 A（4）
1930 年代の欧米諸国 講 師 原 信 芳

授業科目の内容：
1920 年代ヨーロッパのベルエポックはニューヨーク取引所の株価暴落によって終わりを告げた。1930 年代は大不況とファシズムの台頭から始まる。この講義はアメリカ、西ヨーロッパ諸国、日本における恐慌の発生と深刻化、対策について考察する。
大不況（世界恐慌）の経験は第二次世界大戦後の先進国の経済政策と国際経済に大きな教訓を残した。その意味で、本講義の内容は、きわめて今日的な意味を持っていると言えよう。

テキスト：
1 冊のテキストにしばらくしません。講義の進行に応じてその都度、参考文献を指示します。とりあえず概説的なものとして、木村靖二『世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）をあげておきます。
参考書：
・岩田規久男『インフレとデフレ』（講談社現代新書）
・『マクロ経済学を学ぶ』（ちくま新書）

西洋史特殊 B（4）
講 師 北 田 よ志子

授業科目の内容：
1492 年、イベリア半島の地中海岸の都市バレンシアのユダヤ人改宗者の血筋の家に生まれ、後半生を現在のベルギーそしてイングランドで活動しエラスムスやトマス・モアから非常に高い評価を受けたファン・ルイス・ビベスを軸にして、16 世紀から 17 世紀に至るスペインを思想の流れまた宗教を通して考察したいと考えています。
テキスト：
特に指定しません。必要に応じて授業で配付します。

西洋史特殊 C（4）
16C ドイツとスイスの宗教改革運動について 講 師 野々瀬 浩 司

授業科目の内容：
16C 初のドイツとスイスの歴史を中心に講義する。まず、当時の時代的背景について概観し、その次にルター、ツヴィングリ、ミュンツァー、再洗礼派などの神学思想に関して、特に教会論や国家論を中心にカトリックと比較して、言及する。夏休み以後は、社会史的な視点から、その思想がどのような形で受容され、どの階層に受け入れられ、どのような影響を社会や歴史に与えたのかについて、説明する。通時的な事件史よりも、共時的な社会史や思想史的な叙述になるので、ある程度内容上は難しいテーマとなるであろう。イギリスやフランスの宗教改革史については、あまり言及しない。時間的な余裕があれば、ドイツ農民戦争についても詳しく講義する。
テキスト：
なし
授業中にプリントなどの資料を配布する。
参考書：
・野々瀬浩司『ドイツ農民戦争と宗教改革』（慶大出版会）
・ブリックレ『ドイツの宗教改革』（教文館）
・メラー『帝国都市と宗教改革』（教文館）
・渡辺伸『宗教改革と社会』（京大出版会）
・ブリックレ『1525 年の革命』（刀水書房）

・マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫）

西洋史特殊 D（4）

東欧とロシアの宗教と社会 講 師 黒 川 知 文

授業科目の内容：

東欧，特にロシアの宗教と社会について歴史的に考察する。

春学期には，東欧とロシアのユダヤ史について，秋学期にはロシア正教史について扱う。歴史映画や記録フィルムも上映する。

テキスト：

- ・拙著 『ロシア社会とユダヤ人』（ヨルダン社，2003 年）
- ・ 『ロシア・キリスト教史』（教文館，1999 年）

参考書：

拙著 『ユダヤ人迫害史』（教文館，1997 年）

西洋史特殊 E（4）

休講

西洋史特殊 F（4）

近代フランスの教育と社会 講 師 前 田 更 子

授業科目の内容：

人間形成にかかわる教育という領域は，あるべき社会像を模索する近代国民国家の指導者たちの理念・思想がもっとも端的に反映される場のひとつであった。政治的指導者たちはどのような社会や国家の創設をめざし，一方で，現代の社会に生きる人々は学校教育制度をどのように受容していったのか。フランス革命後の学校教育をめぐる諸問題を通して近代フランス社会に関する理解を深めることを目的とします。

テキスト：

テキストはありません。

参考書：

講義の進行にあわせて，随時，提示します。

西洋史特殊 G（4）

中世盛期・後期における情報文化 講 師 赤 江 雄 一

授業科目の内容：

本授業は，12 世紀から 15 世紀にかけての中世ヨーロッパ世界を情報文化とコミュニケーションという角度から考察する。

前期は，映画などを使い，中世の人々がどのようにコミュニケーションをおこなっていたのかについての具体的なイメージを共有しつつ，中世における教会および修道院のありかた，身振りと言語，読書と学問の変化，文書作成などについての基本的知識を概説しつつ，中世の情報文化への導入を行う。

後期は，前期の知識を踏まえて，13 世紀から 15 世紀の托鉢修道会の説教を中心的なトピックとして取り上げ，さらに具体的に情報文化の問題を考察する。フランシスコ会・ドミニコ会を代表とする托鉢修道会は，パリ大学を頂点とし地方の末端の修道院を底辺とする教育システムの整備，説教者を支援する様々なジャンルの著作の著述・大量筆写，多数の訓練された説教者の養成を通じて，言説の均質的大量流布を可能にしていた。この意味で，説教は 15 世紀中葉における活版印刷術導入に先立つ中世のマス・メディアだった。これを修道院文化，読書，写本の作成・筆写，図書館，説教執筆形式，ラテン語と俗語，声と文字，聞くことと理解，印刷術との関連など様々な側面から検討していく。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

必要に応じて講義の際に指示する。

西洋史特殊 H（4）

アメリカ合衆国のネイティヴィズム，19 世紀中期～20 世紀初頭

講 師 綾 辺 昌 朋

授業科目の内容：

John Higham, *Stangers in the Land: Patterns of American Nativism, 1860-1925* (New Brunswick: Rutgers University Press, 2002) を読みながら，合衆国のネイティヴィズムについて考えてゆきます。一応，上記のテキストを用いますが，この科目は「原典講読」的ではなく，必要に応じて講義を行うことになります。ネイティヴィズムは「排外主義」などと訳されますが，単なる「外国人嫌い」や「人種・民族・宗教差別主義」とは異なります。授業では，Higham の定義するネイティヴィズムを理解し，それがいかんして合衆国内で表出したかを具体例を通して学びます。

テキスト：

上記。できるかぎり，最新版を入手して下さい。インターネット（amazon.co.jp など）で 3 千円程度で購入できます。それが困難な場合は担当者に相談して下さい。

西洋史特殊 I（4）

東欧史

講 師 川 名 隆 史

授業科目の内容：

ポーランドを中心に，東欧の歴史から興味深い（と思われる）様々なトピックを拾い出して解説して行きます。東欧は西欧の辺境でもなければ，得体のしれない異界でもありません。東と西の世界が様々な形で交流し合い，混淆して出来上がった独特の雰囲気を持った世界です。本講義では，宗教，民族，政治，その他多様な観点から，この東欧の歴史をひも解いてゆくつもりです。

テキスト：

特定のテキストは使用しません。最低限必要な材料は，配布するか Web 上に公開します。

参考書：

基本的に東欧に関する書物はすべて参考書と考えてください。その他必要があれば講義中に示します。

西洋史特殊 J（4）

ピエティスムスにおける〈自意識〉の覚醒

講 師 森 涼 子

授業科目の内容：

17 世紀末ドイツは，三十年戦争の混乱から絶対主義による規律化された社会への移行期にあたる。この転換期，〈個の敬虔〉を主張する新宗教運動ピエティスムスがおこってきた。ここで掲げられた〈敬虔〉とは非歴史的な宗教理念だったのではなく，危機の時代を生き抜くためのきわめて現実的な処世術だった。その処世術の中核となったのが〈私〉という主体である。本講義では，ピエティストたちの〈自意識〉がピエティスムス運動のなかでどのように見いだされ，成長していくのか，またその背景にはどのような時代体験があったのかを，一次史料に即して明らかにしていきたい。

テキスト：

特に指定しない。史料を順次配布する。

参考書：

授業中に挙げる

西洋史研究会Ⅱ（A）（4 年）（2） 教 授 神 田 順 司

授業科目の内容：

1848 年までのマルクスの思想発展を取り上げ，それを同時代のコンテクストに沿って歴史的批判的に考察する。研究会では下記文献の講読を前提に，関連テーマについての学生諸君の自主的研究にもとづいた報告が中心となる。三月前期の政治状況や社会問題，思想家集団や職人の結社などについて，できるだけ多面的に考察し，そのような歴史的社会的，思想史的ならびに運動史的文脈の中で，マルクスの

思想的発展を位置づけ、その思想の虚構性と現実性について共に考えてゆきたい。

テキスト：

Shlomo Avineri, The Social and Political Thought of Karl Marx, Cambridge, London, New York: Cambridge University Press 1968.

参考書：

- ・良知 力『マルクスと批判者群像』平凡社 1971.
- ・良知 力『資料ドイツ初期社会主義 ― 義人同盟とヘーゲル左派』平凡社 1974.
- ・神田順司「解説」、良知、広松編『ヘーゲル左派論叢』第2巻、御茶の水書房 2006 年所収。

他の参考文献については、授業のなかで指示する。

西洋史研究会Ⅰ（C）（3年）（2）	
西洋史研究会Ⅱ（C）（4年）（2）	教授 神 崎 忠 昭

授業科目の内容：

よりよい卒業論文が書けることを目的にします。3 年生には、テーマを絞って、文献検索のイロハを習い、「読むこと」を学び、発表することを経験してもらいます。それらを基礎にして、4 年生には卒業論文を仕上げてもらいます。「青春のモニュメント」になるような卒業論文を期待しています。

西洋史研究会Ⅰ（D）（3年）（2）	教授 藤 田 苑 子
-------------------	------------

授業科目の内容：

日本語および英語あるいはフランス語の文献や論文を読むかわら、各自が卒論の準備をします。執筆の進捗状況に応じて、数回の報告をします。

テキスト：

そのつど指定します。

西洋史研究会Ⅰ（E）（3年）（2）	
西洋史研究会Ⅱ（E）（4年）（2）	教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容：

授業中に Peter Coss, The knight in Medieval England 1100-1400(Alan Sutton, 1993) を講読しつつ、卒業論文作成のための指導を行います。

参考書：

エドモンド・キング『中世のイギリス』（慶應義塾大学出版会、2006 年）

西洋史研究会Ⅰ（F）（3年）（2）	
西洋史研究会Ⅱ（F）（4年）（2）	北米アメリカ史を中心とするリサーチ・セミナー
	教授 大 森 雄太郎

授業科目の内容：

北米アメリカ史を中心とする、西洋史学専攻・学部上級のリサーチ・セミナーです。セミナー・マネジメントは下記のとおりです。

1)徹底的にリサーチ・セミナーであって、いわゆる「文献講読」は行いません。ゼミから「文献講読」的な要素を完全に排除します。この点が他のゼミとは違っているので注意して下さい。なお、いわゆる「サブゼミ」も行いません。

2)メンバー各自が自分の扱う問題（テーマ）で書いて来るペーパーと、そのペーパーについてのディスカッションによって、セミナーの時間が成り立ちます。各自が自分に固有の勉強を持つことと、ディスカッションでの発言を通じて、他のメンバーの勉強にも貢献することが要求されます。他のメンバーのペーパーを事前に読んでいることを前提に、セミナーはいきなりディスカッションから始まります。

3)(2)のペーパーを書くための下作業として、3 年生には各自の扱う問題での文献リストの提出を義務づけます。3 年生の 1 月に、このリストに基づいて個別の口頭試験を行います。

4)(2)のディスカッションを支える方策として、他のメンバーのペ

ーパーに対するコメントの提出を義務づけます。この点での最低限の義務は、全ペーパーの約四分の一程度に対してコメントを書く事です。コメントは事前にペーパー著者と大森に送ることになっております。Eメールを利用します。

5) 成績評価基準は前もって大森が示します。この点は完全にガラス張りです。従って、成績はメンバー各自が選取るものになります（その意味では鏡張り）。更に、学事センターに成績を提出する前に、成績評価案をメンバーに示して、クレームを受け付けます。クレームが正当であれば、成績が変わります。なお、出欠はとりません。本来なすべきことの外見だけで、なんらかの成績が保証されるのは合理的ではないと考えるからです。

テキスト：

ありません。

参考書：

一定のものはありません。

西洋史研究会Ⅰ（G）（3年）（2）	
西洋史研究会Ⅱ（G）（4年）（2）	近世ヨーロッパ政治文化史（スペインと周辺諸国）
	准教授 山 道 佳 子

授業科目の内容：

春学期には近代ヨーロッパ政治文化史を学ぶ上での基本文献の講読を行います。

秋学期には各自の卒論のテーマ決定に向けて、個別テーマによる報告とそれをもとにした議論を中心に進めます。

なお、4 年生には適宜卒論にむけての研究経過をゼミで発表してもらう他、時間外に個別指導を行います。

テキスト：

開講時に履修者と相談の上決定する

参考書：

授業中に指示する

○民族学考古学専攻

必修科目

史学概論（４）

教授 神田 順 司

西洋史学専攻参照

民族学考古学特殊 A（４）

休講

民族学考古学特殊 B（４）

近世考古学概論

准教授(有期) 石 神 裕 之

授業科目の内容：

本講義では充実した資料的蓄積を持ちつつも、未だ十分に学問的な存在意義を示し得ていない近世考古学に焦点を絞り、その研究領域と方法論について概説する。具体的には陶磁器・玩具などの生活財や出土銭貨、石造遺物といった個々の遺物研究の事例をはじめ、墓制や上水、塵芥処理などの都市論的課題といった多様なテーマを素材として、近年の調査・研究動向を紹介していきたい。近世考古学は、単なる近世風俗史の解明を行う立場にとどまらず、都市史、社会経済史、民間信仰史、村落社会史など、多様な近世史の研究テーマにアプローチ可能な素材と分析手法を備えている。また考古資料の分析・解釈にあたっては、人文科学のみならず自然科学の諸学問との協業を行うことが不可欠であり、そうした考古学における学際的な研究の方法論的な問題点を整理・検証するうえでも、近世考古学は有効な検討作業を行うことができる。以上のような点を踏まえつつ、近世考古学の研究法と幅広い研究可能性を理解してもらうことが、本講義のねらいである。

授業は講義形式を基本とするが、履修者の人数によって現地調査や遺跡見学などを行うことも考えている。

テキスト：

使用しない。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

民族学考古学特殊 C（４）

准教授 杉 本 智 俊

授業科目の内容：

東地中海地域（イスラエルを中心に、パレスチナ、ヨルダン、シリア、レバノン）の考古学の概説を行なう。考古学的な編年に従って石器時代からビザンティン時代までを扱うが、適宜トピカルな内容（イスラエルの宗教、死海文書など）や聖書など文献史料との関連性も講義に含める。前期は、石器時代から鉄器時代（イスラエルのバビロン捕囚）まで、後期はペルシア時代（捕囚から帰還）から新約聖書時代を経て、ビザンティン時代までを扱う。前期・後期には分かれているが、継続して授業をとることが望ましい。

参考書：

A. マザール『聖書の世界の考古学』（リトン）

民族学考古学特殊 D（４）

准教授 佐 藤 孝 雄

動物考古学概論

講 師 姉 崎 智 子

授業科目の内容：

遺跡から出土する動物遺体から過去の人々の活動や行為、心性を読み解く「動物考古学 (Zooarchaeology)」の方法論を概説する。主に前期を資料の採集と同定・分析法の説明に、後期をそれらを経て展開される個別・具体的な調査・研究事例の紹介に当てたい。

講義に際しては、実物を含めた標本資料と画像を数多く提示し、また時折、実習的な内容を盛り込むことも考えている。ともすれば、“ゴミ扱い”されかねない骨や貝殻も、扱い方次第では貴重な文化財

となり得る。この点を理解してもらうことが本講義の狙いである。

テキスト：

使用しない。

参考書：

講義中に適宜指示する。

民族学考古学特殊 E（４）

歴史人類学的景観史の構築とジオ・アーケオロジーの可能性

准教授 山 口 徹

授業科目の内容：

オセアニア（南太平洋）の島々はしばしば「楽園」として語られる。しかし、今見るその景観は、島に備わる自然の営力と、人間の到来以降数千年のあいだに加えられてきた人為的改変の産物である。講義ではオセアニアの島嶼世界を紹介しながら、自然と人間の狭間ともいえるこうした現象の具体例に焦点をあててゆく。また、考古学・自然地理学・地形学・民族誌・人文主義地理学の多分野に渡る成果や議論を通して、「生態史」の視点から空間・場所・景観といったテーマにアプローチしたい。

参考書：

講義にて適宜指示する。

民族学考古学特殊 F（４）

比べ考える

斯道文庫 教授 大 沼 晴 暉

授業科目の内容：

日本の民俗学の中で、一見傍流に見える南方熊楠・渋沢敬三・山中共古の著作を取上げ、皆さんにレポートしてもらいながら、民俗・博物の諸問題や面白さを考えてゆこうと思います。その前にガイダンスとして、日本の民俗学の歴史について話すつもりです。

また継続して宮本常一「民俗学への道」を読んでゆきます。

民族学考古学特殊 G（４）

縄文時代・弥生時代資料の分析方法

准教授 安 藤 広 道

授業科目の内容：

主に慶應義塾所蔵資料を用いて、縄文時代・弥生時代・古墳時代の土器や石器・金属器などの基礎的な分析方法を解説する。

テキスト：

使用しない。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

民族学考古学特殊 H（４）

考古学と大衆文化

講 師 櫻 井 準 也

授業科目の内容：

考古学や考古学者は、現代社会の様々なメディアで取り上げられているが、それらを分析してみると、時代によって考古学や考古学者のイメージは変化している。本講義では1970年代以降の大衆文化（Popular Culture）の中で考古学者のイメージがどのように消費され、時代によってどのように変化したか具体的な資料（『男はつらいよ』、『インディーズ・ジョーンズ』、『となりのトトロ』などの映画・アニメ・テレビドラマ、『ブラックジャック』、『妖怪ハンター』、『MASTERキートン』などのコミック）を用いて検証してみたい。なお、同様の研究が行われている海外の文献（Holtorf 2005）の講読も行う予定である。

テキスト：

Holtorf, C. 2005 *From Stonehenge to Las Vegas: Archaeology as Popular Culture*. ALTAMILA.

参考書：

授業内で指示する

民族学考古学特殊I（4）
物質文化研究～考古学・民族学とその現代的活用～ 講 師 朽 木 量

授業科目の内容：

近年、物質文化への注目が高まっている。本講義では人文・社会科学と比較しながら理論考古学の流れを理解し、それらを欧米で注目されてきている物質文化研究という新たな形に発展させていきたいと考えている。より具体的なテーマとしては、近現代考古学や欧米のMaterial Culture Studies を取りあげ、モノと人の関わりを多角的に論じていく。モノから生活文化をいかに読むかという問題は考古学・民俗学・民族学・民具学・社会学など様々な学問で論じられてきた。本講義ではこうした諸学の成果を踏まえつつ、我々の身の回りのモノ（植木鉢やランプなどの生活財、家の構造など）の実態を具体的に検討する。ともすれば定式化しがちな考古学や民俗学の解釈を物質文化研究という形で「脱構築」していきたいと考えている。また、文化財の活用とそれに基づく地域の文化政策のあり方についても触れる。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

詳細なリストを初回授業時に提示する

民族学考古学特殊J（4）
紅海地域の考古学 講 師 徳 永 里 砂

授業科目の内容：

アラビア半島とエジプトを中心に、紅海地域の紀元前1千年紀初頭から初期イスラーム時代を考古学的視点から概観する。中近東における考古学的研究の方法と調査法を、具体例を通して知ってもらうことがこの授業の目的である。毎回、画像を用い、可能な限りヴィジュアルな形で授業を進める。

講義は地域毎（例：南アラビア、エジプト・東部砂漠、シナイ半島）に進める。各地域について、現代の人々の生活文化と歴史を紹介した後、主要遺跡について考古学的に概観する。中近東の考古資料には、膨大な数の碑文史料が含まれ、それらは歴史研究の中で重要な役割を果たしている。従って、碑文史料を用いた研究については、特に詳しく取り上げることとする。

また、考古学はフィールドワークを通じて、調査地の現代社会と密接なかかわりを持つ分野である。本講義では、研究・調査を行うにあたって理解しておくべき中東地域の現状についても触れる予定である。なお、第1、2回目の授業では、固有名詞を正確に表記するための必要最低限のアラビア語についての解説を行う。

テキスト：

使用しない。

参考書：

講義にて適宜紹介する。

民族学考古学特殊K（4）
「変化」の研究法：中南米の歴史と文化を通して 助教(有期) 井 関 睦 美

授業科目の内容：

中南米の歴史には、一般に先スペイン期（マヤ、アステカ、インカ文明など）、スペインとその他ヨーロッパ諸国による植民地時代、独立後～現代という、大きく分けて3つの時代区分があります。本講義では、先スペイン期をおもなフィールドとし、さまざまな文化・社会現象や制度など（例：宗教、政治、交易、生産・消費活動）における歴史的な変化を考察していきます。近年の認知科学に関連する分野では、「変化」とは、人々がいかに歴史や環境を経験し消費してきたかということの現われである、という考え方があります。そして人々の経験や消費は、言語、図像、物質文化、祝祭などの表現媒体を通して分析できると考えられます。このような方法論に基づき、具体的な事例における「人々の経験と変化の過程」というものに焦点を当てながら、中南米の歴史と文化について考えていきたいと思います。

参考書：

授業内に適宜指示します。

民族学考古学原典講読（2）	【春】 准教授 杉 本 智 俊
	【秋】 准教授 佐 藤 孝 雄

〈春学期〉

授業科目の内容：

民族学・考古学の基本文献を英文で読むための演習を行なう。学術的な英文の読解力の向上に努めるとともに、英語・日本語の両方で民族学・考古学の基本概念を理解し、定義できるようになることを目標とする。春学期は、担当者の専門であるオリエント考古学の代表的な遺跡に関する概説を読み、全般的な地理的、歴史的背景を把握し、遺跡同定、調査の方法論、層位学、編年、文書史料の扱い方などに関する概念を取り扱う。

テキスト：

授業内で配布する。

参考書：

大型の英和辞典および考古学辞典を横に置いて予習してください。

〈秋学期〉

授業科目の内容：

主に、考古学の基本に関わる英文の文献を講読する。学術英語を読みこなせるよう英語力の向上をはかるとともに、考古学・民族学の基本概念について日英両語で理解できるようになることを目指す。履修者全員が毎回の分を読んだ上で授業に臨んでもらう。中型以上の辞書を座右に用意すること。

テキスト：

授業内において指示する

参考書：

授業内において指示する

民族学考古学実習（2）	准教授 安 藤 広 道
	准教授 佐 藤 孝 雄
	准教授 山 口 徹

授業科目の内容：

民族学考古学の研究に必要不可欠な物質資料の記録、取り扱いの実際を室内外で体験してもらう。欠席・遅刻は許されない。また、なるべく2年時に履修を済ませること。

考古学（4）	教 授 阿 部 祥 人
---------------	-------------

授業科目の内容：

考古学の基礎的な講義を行う。

特に、日本列島における先史考古学な研究の流れや特殊性に触れる。また、自然界におけるヒトの歴史の研究という視点から、この分野の研究の枠組みや方法について述べる。

テキスト：

鈴木公雄「考古学入門」東京大学出版会

民 族 学（4）	准教授 山 口 徹
-----------------	-----------

授業科目の内容：

民族学は、人間や文化の総合的な理解を求める学問である。前期は、民族学と関連諸学とのつながりに目配りしながら、文化研究における「歴史」の取り扱いについて複数のアプローチを解説する。次いで後期は、さまざまな事象の背後にある「目に見えないもの」への視座として「文化の諸理論」を解説する。

参考書：

講義にて適宜指示する。

人類学概論 (4)	
人類進化学概説	教 授 高 山 博

授業科目の内容：

ヒト (Homo sapiens) の進化について、実際の標本 (骨格標本、化石模型、生体など) を用いて考えてゆく。講義は隔年で、「人体各器官から見たヒトの成り立ち」と、「化石人類の発見史から見たヒトの進化」とを行っている。本年度は、前者の「人体各器官から見たヒトの成り立ち」をテーマに講義を進める。人体諸器官 (頭骨・骨格・歯・脳など) に残された種々の形態・機能を、脊椎動物の進化にしたがって比較・検討し、脊椎動物門、哺乳綱、霊長目、ヒト (科、属、種) の進化の特異性について学ぶ講義としたい。

テキスト：

指定しません。

参考書：

指定しません。適宜プリントを配布します。

民族学考古学研究法 (4)	〔春〕 准教授 山 口 徹
	〔秋〕 准教授 安 藤 広 道

授業科目の内容：

〔春学期〕 (山口担当)

文化研究におけるフィールドワークの方法論は B. マリノフスキーにはじまる。現地に長期間滞在し、そこに生きる人々の生活に密着しながら調査を進める参与観察法である。ところが、歴史科学のフィールドは、ものごとが起きるまさにその現場ではない。遺跡や遺物といった過去の文化を対象とする考古学は、その痕跡を残した過去の人々との直接的なコミュニケーションを望めないのである。それゆえに、ケンブリッジ大学の高名な考古学者 I. ホダーは、「移植ゴテのひとかきから我われの解釈が始まる」と注意をうながす。考古学のフィールドワークに従事するものは、独断的な解釈に陥らないよう文化人類学以上に注意を払わなければならないということだ。

そのためには、発掘現場だけでなく、その現場を取り囲む広い範囲に足を運び、地形や動植物相の観察、古環境を復元するための自然科学的分析、史料の活用、現在そこに生きる人びととの対話を通して、さまざまな情報を蓄積していかなければならない。こうして初めて、自らの研究対象を解釈するための「分厚いコンテクスト」が手に入るのである。本講座では、そのプラクティスとして、三田キャンパス空間を対象にした観察と対話の調査を実施し、歴史科学のためのフィールドワーク方法論を受講生とともに構築していきたい。また塾内外で活躍する多様な分野の「フィールドワーカーたち」を招聘し、その力仕事をうかがう回を設ける予定である。

〔秋学期〕 (安藤担当)

我々の身の周りは、過去の人々の諸活動の物質的痕跡に溢れている。これらは、広い意味で考古学的な資料とすることができものである。この講義では、こうした過去の情報をもつ物質的痕跡を見つけ出し、その分析・考察を行うことで、考古学の基本的な方法を学んでもらいたいと考えている。併せて、現代社会において、こうした過去の物質的痕跡や「歴史」の存在を認識することの意義についても考えて欲しい。

テキスト：

使用しない。

参考書：

〔春学期〕

適宜、紹介する。

〔秋学期〕

- ・鈴木公雄 1988『考古学入門』東京大学出版会
- ・鈴木公雄 2005『考古学はどんな学問か』東京大学出版会

民族学考古学研究会 I (A) (3年) (2)	
民族学考古学研究会 II (A) (4年) (2)	

教 授 阿 部 祥 人

授業科目の内容：

4 年生に関しては卒業論文の指導を行う。3 年生以下については、各自の目ざす専門分野で特に注目すべき内容や興味のある分析方法などを含む最近の論文を取り上げてもらい、それに対するコメント等を土台として演習を行う。

民族学考古学研究会 I (B) (3年) (2)	
民族学考古学研究会 II (B) (4年) (2)	

准教授 山 口 徹

授業科目の内容：

卒業論文に向けた実践的な研究指導を軸に据える。受講生にとって文化研究にかかわる多様なテーマの設定が可能だが、研究会における議論のための共通基盤として、フィールドワーク、ブックワーク、調査報告、歴史研究の要素が各人に求められる。報告に際しては、フィールドで自らが記録した写真等の映像資料を提示することが望ましい。

民族学考古学研究会 I (C) (3年) (2)	
民族学考古学研究会 II (C) (4年) (2)	

准教授 佐 藤 孝 雄

授業科目の内容：

4 年生に対しては卒業論文作成に向けての指導を行う。3 年生以下の諸君には、卒業論文で扱うテーマを絞り込んでもらうために、それぞれ関心の分野の先行研究を整理・批判する作業を課す。履修者には順次、自らの調査・研究成果を報告してもらう。また、毎回各人の発表を受け、皆で討論を行う形をとるので、積極的な発言を期待する。

民族学考古学研究会 I (D) (3年) (2)	
民族学考古学研究会 II (D) (4年) (2)	

准教授 杉 本 智 俊

授業科目の内容：

古代オリエントおよびヘレニズム・ローマ世界の考古学に関心のある学生を中心に論文作成の指導を行なう。学術論文のめざすもの、資料検索の仕方、論文の構成などに関する解説を行なうとともに、各自の論文を演習形式で育てていく。自分の研究発表のときだけでなく、必ず毎回参加し、積極的に討論に加わることが期待されている。

参考書：

- A. マザール『聖書の世界の考古学』

民族学考古学研究会 I (E) (3年) (2)	
民族学考古学研究会 II (E) (4年) (2)	

准教授 安 藤 広 道

授業科目の内容：

- 2 年生：それぞれの興味・関心を考慮した課題を与える。1 年間その課題に取り組み、成果を発表してもらう。
- 3 年生：それぞれの興味・関心に基づき、卒論を視野に入れた課題を自ら設定して取り組み、やはり成果発表をしてもらう。
- 4 年生：主に卒業論文の指導をする。

テキスト：

使用しない。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

○国文学専攻

必修科目

国語学Ⅰ（２）（春学期）

古代日本語の諸問題

講 師 山 本 真 吾

授業科目の内容：

奈良時代から平安時代にかけての日本語の諸問題について、文字・表記、音韻、文法、語彙、文体の各観点から論ずる。その際、当時の社会状況、文化、宗教などとの関わりや文献資料の扱いにも留意したい。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

参考書：

講義の中で随時指示する。

国語学Ⅱ（２）（秋学期）

中世日本語の諸問題

講 師 山 本 真 吾

授業科目の内容：

院政鎌倉時代から室町時代にかけての日本語の諸問題について、文字、表記、音韻、文法、語彙、文体の各観点から論ずる。その際、当時の社会状況、文化、宗教などとの関わりや文献資料の扱いにも留意したい。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

参考書：

講義の中で随時指示する。

国文学Ⅰ（４）

源氏物語の長編構造について

講 師 高 田 祐 彦

授業科目の内容：

源氏物語は、長編物語としていかなる特質を持っているのか—それがこの講義のテーマです。巻々の関係から個別の出来事、さらに作中人物の心情に分け入りながら読みを深めることによって、長編としての特質を解明してゆくつもりです。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

鈴木日出男編『源氏物語ハンドブック』（三省堂）

国文学Ⅱ（４）

折口古代学の生成

講 師 保 坂 達 雄

授業科目の内容：

折口信夫の古代学については既にあらゆる視点から研究され尽くしているが、それではなぜ古代学へと向かっていったのかは語られてはいない。折口の思想はどのようなプロセスを経て生成されていったのか、またそこにはどのような必然が彼の中にあったのか。折口が生きた時代や思想潮流また同時代言説の中に、一旦彼を埋め戻してみる必要がある。こうした時代の中への解体作業を通して、折口古代学が体系化してゆく過程と新たな折口信夫像が顕れ現れてくるのではないかと、提示してみたい。

テキスト：

指定しない。レジュメを配布する。

参考書：

授業の中でその都度紹介する。

国文学Ⅲ（４）

催馬楽は歩く

教 授 藤 原 茂 樹

授業科目の内容：

催馬楽は、遠く明日香時代や奈良の頃の人々の感情を伝えて平安に至る。もともと庶民の口遊んでいた歌が、いつのまにか、雅楽曲に乗せて、気がつくと天皇の御前で音楽の名人たちやのど自慢の「声よき人」（源氏物語明石巻）「唱歌の人」（若葉）の愛好する歌へと変化した。見えない記録をさがしながらの歌の旅。（完結年）

テキスト：

- ・新編日本古典文学全集『神楽・催馬楽・梁塵秘抄・閑吟集』
- ・古典大系 『古代歌謡集』（事前に購入しなくともよい）

参考書：

『歌謡Ⅰ』（角川書店）新編日本古典文学全集『神楽催馬楽梁塵秘抄』

国文学Ⅳ（４）

『平家物語』と中世の世界

教 授 岩 松 研吉郎

授業科目の内容：

『平家物語』をいわゆる語り本系覚一本を基本としてよみながら、中世の世界にかかわる諸問題を解説してゆく。とくに、人物・集団の類型と相互関係に留意する。一往、順に巻をおってゆくが、各巻から一・二の話題をとりあげ、他の箇所、他諸本、諸分野の諸テキストと随時照合しながらすすめる。

テキスト：

梶原正昭・山下宏明校注『平家物語』上・下（新日本古典文学大系44・45、岩波書店、'91年・'93年刊）

参考書：

講義初回および以後逐次紹介してゆく。

国文学Ⅴ（４）

1990年代の文学と文化を読む

講 師 吉 田 司 雄

授業科目の内容：

1990年代に浮上した幾つかの社会的文化的問題と関連づけながら、現代日本の小説テクストを読む。具体的には（1）酒鬼薔薇事件、東電OL事件に代表される犯罪とメディアとの関連、（2）「学校の怪談」や「ホラー・ジャパネク」の潮流に代表される怪異・心霊といった問題系、（3）ポストコロニアル状況下におけるジェンダー機制や「歴史」と「記憶」の問題など。しかし、以上はあくまで予定なので、受講者の関心に配慮しつつ、映像等も取り入れながら、できるだけフレキシブルに授業を展開してゆきたい。

テキスト：

『文化のなかのテクスト—カルチュラル・リーディングへの招待』双文社出版。その他、教場で随時指示する。

参考書：

教場で随時指示する。

国文学Ⅵ（４）

物語の歴史

教 授 石 川 透

授業科目の内容：

春学期には、日本の物語の歴史について講義し、秋学期には、その各論として、慶応義塾図書館が所蔵する御伽草子について、挿絵を鑑賞するとともに内容の問題点を講義する。

テキスト：

授業時に指示する。

参考書：

授業時に指示する。

国文学Ⅶ（４）

教 授 川 村 晃 生

授業科目の内容：

人はどう生きたか、そして私たちはどう生きるか。かつて日本人は

どう生きたのだろうか。また私たちは、それから何を学ぶことができるのだろうか。この講義では、日本の文学者（古典、近代問わず）を中心として、さまざまな生のありようと思いを学び、この混迷の時代を生きる私たちの指標を探してみたい。話題はいきおい、過度に工業化し、文明化した近・現代社会や、戦争と無関係ではいられなくなった現代的状況への批判にも及ぶので、しばしば文学の域を脱することがあるが、あらかじめ了解せられたい。また講義は、講者のみによって成立するのではなく、受講者の意志をも反映させたいと考える立場に立つので、一年間の講義計画の見通しは全く立っていない。

テキスト：
プリントを配布する。
参考書：
必要に応じてふれる。

国文学Ⅷ（４）		
休講		
国文学Ⅸ（４）		
文学と絵画	講 師	佐 藤 悟

授業科目の内容：
文学作品が近世期に絵画化された場合、「見立て」「やつし」といった現象が起きることは、国文学や美術史の常識となっている。しかしその実態については多くの議論がなされているが、いまだ明確な解答は与えられていないようである。また挿絵とテキストの関係についても、多く語られているが、しばしば恣意的なものとなっているようである。
本授業においてはそれらの問題を視野に入れながら、多くの事例に即して考えていって見たい。

テキスト：
授業中に配布する。
参考書：
原色浮世絵大百科事典「画題」

国文学Ⅹ（４）		
近代文学のなかの〈知の視線〉	教 授	松 村 友 視

授業科目の内容：
近代日本文学は、明治 20 年前後をひとつの境として、知識人との関わりを急速に深める。国家レベルでの「知のシステム」の整備などを背景に、知的権威と不可分の形で結びついた文学世界は、そのまま、同時代知識人の視線と認識の偏りを雄弁に物語っていてもいる。
このような観点から、明治期を中心に、〈知の視線〉が見出したものの（もしくは見出し得なかったもの、あるいはそれが排除したもの）について考察する。

テキスト：
コピー資料を配付する。
参考書：
講義中に示す。

国文学Ⅺ（４）		
	教 授	佐 藤 道 生

授業科目の内容：
『和漢朗詠集』は平安時代中期、藤原公任によって編纂された上下二巻から成る詩歌のアンソロジーである。日本の伝統的美意識を具現する書として近代に至るまで広く愛読された。授業では、本書を読み進めながら、書中に内包される様々な問題について考察を加え、新たな視点から文学史上の位置づけを試みたい。
テキスト：
こちらで用意する。
参考書：
教室で適宜指示する。

国文学Ⅻ（４）		
近代文学の「原稿」研究	講 師	宗 像 和 重

授業科目の内容：
近代の文学は、活字で印刷されたテキストとして流通し、受容されるという意味で、「活字的世界」の産物であるが、いうまでもなくその前段階には、肉筆の「原稿」がある。たとえば夏目漱石や芥川龍之介は、どんな用紙や筆記具を使って、どんな筆跡で彼らの「作品」を書いていたのだろうか。それらは、ただ物珍しいだけではなく、活字のテキストではわからない推敲の跡や、執筆過程を教えてくれる貴重な資料である。この授業では、実際の原稿（の複製やコピー）に触れ、それらを読み味わうことで、従来とは異なった角度から近代文学を考える契機にしたい。

テキスト：
プリントを配布する予定です。
参考書：
教室で指示します。

国文学ⅩⅢ（４）		
休講		
国文学ⅩⅣ（４）		
休講		
国文学ⅩⅤ（４）		
休講		

国文学史Ⅰ（２）（春学期）		
環境文学史	教 授	川 村 晃 生
国文学史Ⅱ（２）（秋学期）		
	教 授	川 村 晃 生

授業科目の内容：
古典文学から近代文学に至る各時代の文学作品は、おのずとそれぞれの時代の自然環境を、意識的にまた無意識的に映し出している。そうした文学作品の内容に触れつつ、また、現代社会が抱える環境問題自体にも触れたいし、さらに受講者の意志を反映させるような形で講義をすすめていきたいので、年間の講義計画の見通しは、全く立っていない。
テキスト：
なし
参考書：
必要に応じてふれる。

国文学史Ⅱ（２）（秋学期）		
	教 授	川 村 晃 生

授業科目の内容：
国文学史Ⅰ（春学期）の続きです。
テキスト：
なし
参考書：
必要に応じてふれる。

国文学史Ⅲ（２）（春学期）		
日本文学の黎明	教 授	藤 原 茂 樹

授業科目の内容：
古事記（上・中・下巻）を主として読み、物語にかかわる他文献を併読しながら、古代文学の起こりと展開の様相を一瞥する。
併読は万葉集の作者未詳歌・風土記・日本書紀の一部をぬき出して読む。
テキスト：
市販されている『古事記』のいずれか一冊。（岩波古典文学大系・

国文学史Ⅳ（２）（秋学期）
近代文学の展開 教 授 松 村 友 視

授業科目の内容：
明治以降の急激な近代化を様々なレベルで反映することによって成立した近代文学は、同時代の社会状況・文化状況と密接に関わる錯綜した性格をもっている。このような観点に立ち、同時代状況を視野に入れながら、明治後半期の主要な文学作品・事項を概観し、その文化史的な意味を考える。
テキスト：
コピー資料を配付する。
参考書：
講義中に示す。

国文学史Ⅴ（２）（春学期）
天神＝菅原道真をめぐる 教 授 岩 松 研吉郎

授業科目の内容：
10世紀から18世紀までの日本文芸史を、学者・文人としての菅原道真の事蹟・伝承と、「天神」としての道真についての信仰・文芸との両面から通観し、古代後期以降の「英雄」像の展開をのべてゆく。
テキスト：
講義の中で逐次指示する。一部は資料コピーを配布。
参考書：
講義の中であげてゆく。

国文学史Ⅵ（２）（秋学期）
中世韻文史大概 教 授 岩 松 研吉郎

授業科目の内容：
雑芸としての今様と、俊頼らの「革新」から「新風」にいたる和歌と等の12世紀がひらいた詩歌の中世は、どのように15・16世紀の連歌・俳諧連歌にまで展開していったか。（正負いづれであれ）われわれの詩的原基（「伝統」）となっている中世韻文表現史を、文芸圏・関与基盤をふくめてはなしてゆく。
テキスト：
講義の中で逐次指示する。一部は資料コピーを配布。
参考書：
講義の中であげてゆく。

国文学演習Ⅰ（２）
万葉歌の素材と信仰の研究 教 授 藤 原 茂 樹

授業科目の内容：
万葉集から各自興味もてる素材をひとつ選び、扱われ方の類型や特徴を見出し、その属性にまつわる文学性や信仰的性格を見極める。
テキスト：
授業内指示。（一例『萬葉集』塙書房。新編日本古典文学全集『万葉集』など）
参考書：
池田弥三郎『日本文学の素材』『日本人の心の傾き』

国文学演習Ⅱ（２）
室町物語講読 教 授 石 川 透

授業科目の内容：
約四百編現存する室町物語（御伽草子）、あるいは、その周辺の商品のうち、二編以上の作品を、影印版で講読する。
テキスト：
最初の授業時に指示する。

国文学演習Ⅲ（２）
中世文学評論読解 教 授 岩 松 研吉郎

授業科目の内容：
近代以前の文学批評・文芸論は、和歌についてとりわけ蓄積されてきた。いわゆる「歌学」「歌論」である。これを丁寧によみとくことは、古典文芸とその場の理解のためだけでなく、古典研究法の体得にも有益な筈だ。そこで、歌学・歌論史の概観をおこなった上で、具体的に数種のテキストから適宜の章段をえらんで、調査・分析・発表・討論をゼミナール形式ですすめる。
テキスト：
逐次影印等を配布する。（今年度は院政期の歌合の和歌・難陳・判のよみと、『無名抄』『後鳥羽院口伝』等の参照をくみあわせてすすめる）。
参考書：
初回到指示する。

国文学演習Ⅳ（２） 教 授 川 村 晃 生

授業科目の内容：
自然環境・戦争と平和・人権と差別など、現代社会が抱える諸問題を対象として、日本文学その他を考察資料に用いる。演習の進め方については、開講時に相談したいが、それまでにテーマを考えておいてほしい。なお、例年受講者数が多いので、40名を越えた場合は、グループ発表制を導入するので、了承されたい。
テキスト：
なし
参考書：
必要に応じてふれる。

国文学演習Ⅴ（２）
森鷗外『雁』の注釈と分析 教 授 松 村 友 視

授業科目の内容：
森鷗外の数少ない長編小説のひとつである『雁』（明治44年～大正2年）は鷗外作品の中では比較的文学性豊かな作品だが、そこに込められた意味は必ずしも単純ではない。
詳細な注釈作業や、同時代の文化状況・社会状況の調査・考察を通じて、作品を総合的に分析する。具体的には、担当グループごとの共同作業によって、本文校異・注釈・事実関係の調査・先行研究の整理・総合分析を行う。
テキスト：
岩波文庫『雁』
参考書：
開講時に示す。

国文学演習Ⅵ（２） 教 授 佐 藤 道 生

授業科目の内容：
『詩序集』（宮内庁書陵部蔵。平安後期の詩序四十六篇を収める）を講読する。詩序は詩宴開催の趣旨を叙べる文体であり、その多くは大学寮の紀伝道に学んだ者が執筆した。絢爛たる四六駢儷文によって書かれ、詩宴に於いては詩の披講に先立って読み上げられた。当時の公家日記や説話集やに閱しても明らかなように、その出来映えによっては文人としての名声が得られる絶好の機会であったから、序者は自らの持てる出来得るかぎり駆使してその執筆に当たった。詩序はまさに王朝漢文学の真髄と言っても言い過ぎではない。授業では履修者の会談というかたちで本書を読み進め、詩序の文学的意義を考察する。
テキスト：
こちらで用意する。
参考書：
教室で適宜指示する。

国語学演習（2）	
平安時代語研究	講 師 屋名池 誠

授業科目の内容：
中学・高校と学んできた「古文」は実は平安時代の京都方言という、特定の時代、特定の地域の日本語です。研究の方法を学び、自分で調べ、自分で考えることで「古文」を現代語と同様生きた日本語として身近なものにしてみたいと思います。研究の対象は平安時代の日本語であり、テキストは当時の日本語全般を考察してゆくための手がかりです。テキストの文学的な研究をおこなうのではないので、その点留意して下さい。

テキスト：
『土佐日記 全訳注』講談社学術文庫

参考書：
教室で指示します。

国文学研究会Ⅰ（2）	
古代文学・民俗・芸能の研究	教 授 藤 原 茂 樹

授業科目の内容：
万葉集・古事記・風土記を中心とした古代的要素の研究。

テキスト：
万葉集・古事記・風土記（授業内指示）

国文学研究会Ⅱ（2）	教 授 川 村 晃 生
-------------------	-------------

授業科目の内容：
古典文学、近代文学の別を問わず、文学作品の中に見られる自然環境、人権・差別、戦争・平和といった、いわば人間や社会の根本的な問題をとり上げ、そうした問題に先人たちがどう関わってきたか、またそれについて私たちが何を考えるべきなのか、といった点を中心的なテーマとして論文を書かれることに共感します。

国文学研究会Ⅲ（2）	教 授 佐 藤 道 生
-------------------	-------------

授業科目の内容：
卒業論文指導。諸芸道を含め、古典文化に関わるテーマで執筆しようとする者を対象とする。論文指導は授業時間外に個別に行ない、授業では文献資料の調査方法について教授する。

国文学研究会Ⅳ（2）	
卒業論文ゼミナール・日本中世文芸	教 授 岩 松 研吉郎

授業科目の内容：
院政期から、鎌倉・南北朝・室町時代まで、つまり中世の諸作家・諸テキスト・諸テーマについて論文をかこうとおもう学生のための研究会であるが、近現代等のテーマでも、言語文化としての分析をおこなうものならかまわない。
はじめの時間に、すでによんだテキスト、参考文献の提示・報告をもとめるから準備しておくこと。
なお、論文の作成のための指導は、何回かの発表・討論をのぞき、原則として時間外の面接ですすめ、授業時間には、中世とその前後のテキストひとつないし数篇の全部または一部を演習形式で、学年末までよみすすめる（何をよむかは、参加者の希望をきいてきめるが、この間の例を順不同であげるなら、『天草本平家物語』『結城戦場物語』『今物語』より、『紅梅千句』より、芭蕉七部集『猿蓑』より等々である）。夏の合宿では、他にもひとつテキストをよむ。

国文学研究会Ⅴ（2）	
卒業論文指導	教 授 石 川 透

授業科目の内容：
古典文学を中心に論文を書こうとする者を対象とする。これら以外

では、絵巻物等の絵画資料と文学との関わり、昔話等の伝承資料と文学との関わり、古典と現代文化との関わり、等の異文化と文学との接点について書こうとする者も対象とする。

国文学研究会Ⅵ（2）

休講

国文学研究会Ⅶ（2）
近・現代の文学・文化を対象とする卒業論文指導
教 授 松 村 友 視

授業科目の内容：
テーマの決定、資料調査、参考文献の整理、研究方法の選択、論の構築等、卒業論文作成にいたるまでの基本的な手続きについて、各自のテーマ方法を相互に検討しながら学んでいく場としたい。

国文学原典講読A（2）	【春】 教 授 藤 原 茂 樹
	【秋】 教 授 佐 藤 道 生

〔春学期〕万葉集講読

授業科目の内容：
万葉集巻十三の歌について調べてみる。ことばや歌の意味や託されているところもちを理解できるように、辞書や注釈書を調べて、見解をもてるようにする。

テキスト：
授業内で指示

〔秋学期〕

授業科目の内容：
平安・鎌倉期の文学作品をいくつか取り上げ、古写本を用いて講読する。毎回、翻字の小テストを行うことは例年どおり。

テキスト：
授業内指示

参考書：
授業内指示

国文学原典講読B（2）	【春】 教 授 佐 藤 道 生
	【秋】 教 授 松 村 友 視

〔春学期〕

授業科目の内容：
平安・鎌倉期の文学作品をいくつか取り上げ、古写本を用いて講読する。毎回、翻字の小テストを行うことは例年どおり。

テキスト：
授業内指示

参考書：
授業内指示

〔秋学期〕夏目漱石の短編小説

授業科目の内容：
夏目漱石の短編小説に詳細な注釈・分析をほどこす作業を通じて、文学研究の基本的な方法・手続きを確認する。対象作品および担当分担については開講時に指示・決定する。

テキスト：
開講時に指示する。

参考書：
開講時に示す。

国文学原典講読C（2）	【春】 教 授 松 村 友 視
	【秋】 教 授 石 川 透

〔春学期〕夏目漱石の短編小説

授業科目の内容：
夏目漱石の短編小説に詳細な注釈・分析をほどこす作業を通じて、

文学研究の基本的な方法・手続きを確認する。対象作品および担当分担については開講時に指示・決定する。

テキスト：
開講時に指示する。
参考書：
開講時に示す。

〔秋学期〕短編室町物語講読

授業科目の内容：
室町物語（御伽草子）は、室町時代から江戸時代前期に制作された物語の総称である。そのうちいくつかの作品を取り上げ、写本か刊本かを影印版で講読する。
テキスト：
最初の授業時に指示する。

国文学原典講読 D (2)	〔春〕教 授 石 川 透 〔秋〕教 授 藤 原 茂 樹
---------------	--------------------------------

〔春学期〕短編室町物語講読

授業科目の内容：
室町物語（御伽草子）は、室町時代から江戸時代前期に制作された物語の総称である。そのうちいくつかの作品を取り上げ、写本か刊本かを影印版で講読する。
テキスト：
最初の授業時に指示する。

〔秋学期〕万葉集講読

授業科目の内容：
万葉集巻十三の歌について調べてみる。ことばや歌の意味や託されているところもちを理解できるように、辞書や注釈書を調べて、見解をもてるようにする。
テキスト：
授業内で指示

漢文講読Ⅲ (2)	教 授 佐 藤 道 生
-----------	-------------

授業科目の内容：
中国・日本の漢語文献を読解するために必要な基礎知識を修得することを目的とする。春学期には唐の李瀚撰『蒙求』の古註を読み進めながら漢語文法について、秋学期には適当な漢籍の古写本を用いて漢文訓読法について講義する。
テキスト：
こちらで用意する。
参考書：
教室で適宜指示する。

選 択 科 目

日本語学Ⅰ (2) (春学期)
日本語・日本文化教育センター 専任講師 岬 里 美

授業科目の内容：
日本語の母語話者である我々が外国語として日本語を教えることには、予想以上の困難が存在している。本講義では日本語学の概説を通じて、母語を外国語の視点から客観化する作業を紹介し、後期の「日本語教授法」への導入としたい。
テキスト：
開講時に指示する

日本語学Ⅱ (2) (春学期)	講 師 松 岡 弘
-----------------	-----------

授業科目の内容：
本講義における「日本語」は、現代日本語を指します。また、担当者は外国人に対する日本語教育を主な専門領域としていますので、そ

うした視点から分析・整理され、体系化された現代日本語が考察の対象となります。従って本講義では、日本語教育がとらえてきた日本語の様々な姿や特質を、狭義の文法に限定せず、文型文法、社会的文脈、時には言語政策といった切り口からも見つめなおしてみたいと思います。なお、日本語・日本語の文法を、こうした外国語、教育、文型といった相のもとにとらえることは、これまでに多くの傑出した文法学者（たとえば、山田孝雄、松下大三郎、三上章、寺村秀夫、林四郎など）が行なってきたことなので、これらの先人の思想や理論もできれば関連付けて紹介したいと思います。

テキスト：
特に指定しません。随時プリントを用意します。
参考書：
授業内容に合わせて、随時紹介します。

日本語教授法Ⅰ (2) (秋学期)
日本語・日本文化教育センター 専任講師 岬 里 美

授業科目の内容：
日本語を母語としない日本語学習者に対する初級文法項目とその教授法を概観する。
テキスト：
担当者作成教材（コピーにて配布）
参考書：
授業時に指示

日本語教授法Ⅱ (2) (秋学期)	講 師 松 岡 弘
-------------------	-----------

授業科目の内容：
「日本語教授法」とは、日本語を母語としない学習者を対象に日本語の教育を行う際の、教育方法一般を指すことばで、「日本語教育学」ないしは「日本語教育方法学」と同義です。本講義では、春学期の「日本語学Ⅱ」の講義内容を踏まえ、日本語非母語話者のための日本語教育を実施するにあたって、教師が直面することになる様々な課題をとりあげ、それに対処するための具体的な教育内容や指導方法を学びます。
テキスト：
『ここからはじまる日本語教育』ひつじ書房、その他、随時コピーにて配布の予定。
参考書：
『開かれた日本語教育の扉』スリーエーネットワーク。そのほか授業時に指示します。

日本語文法 (2)	講 師 屋名池 誠
現代日本語文法概説	

授業科目の内容：
高校までに習った伝統的な国文法をはなれて、新しい立場から、現代日本語の文法現象を考えます。身のまわりのありふれた表現の中にも、精密で整った規則性が存在することに目をひらき、母語を客観視できる力を養うことを目標とします。
テキスト：
使用しません。
参考書：
『基礎日本語文法』（くろしお出版）

仏教学概論 (4)

休講

○中国文学専攻

必修科目

中国語学概論（4）

中国語という言語についての概説

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

声調言語である中国語は、シナチベット語族に属し、皆さんが勉強してきた英語や日本語とかなり異なる性質を持つ言語です。この授業では、中国語の音韻、文法、語彙の三つの面について概説します。音韻については、現代語の音韻体系のみならず、中国語の音韻の歴史についても触れたいと思っています。

参考書：

藤堂明保・相原茂『新訂中国語概論』1985 年大修館書店

中国語学特殊（4）

中国語文法概論

講師 石村 広

授業科目の内容：

現代中国語文法論の基礎を学びます。文献や資料を読みながら、世界の諸言語からみた中国語の言語的特徴は何か、これまでの研究では中国語の文法構造をどのように捉え、記述しようとしてきたか、といった問題を中心に講義を行います。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配付します。

参考書：

北京大学中文系（編）『現代中国語総説』三省堂，2004 年

中国文学史Ⅰ（4）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

中国古典文学について、代表的な作品を取り上げながら、その歴史・形式・内容について、具体的に作品を読みながら概説する。作品を詩・文・小説・戯曲といったジャンルに基づき、概ね以下の項目で進めてゆく。

- | | |
|----------|-----------|
| ・詩経 | ・論語 |
| ・楚辞 | ・孟子・荀子 |
| ・漢代の詩 | ・老子・莊子 |
| ・魏晉の詩 | ・史記 |
| ・陶淵明 | ・十八史略 |
| ・南北朝の詩 | ・辞賦・駢文・古文 |
| ・初唐・盛唐の詩 | ・文言小説 |
| ・杜甫・李白 | ・白話小説 |
| ・中唐・晩唐の詩 | ・説唱文学 |
| ・宋代の以降の詩 | ・戯曲 |

中国文学史Ⅱ（4）

教授 杉野 元子

授業科目の内容：

前期は清末から1930年代までの時期、後期は1940年代から現在までの時期を対象として、主だった文学者の経歴や作品、文学思潮や論争などについて講義する。

テキスト：

中国文芸研究会編『図説中国 20 世紀文学』（白帝社）

中国文学特殊（4）

中国古典白話神怪小説研究

講師 山下 一夫

授業科目の内容：

中国の古典白話神怪小説について取り上げます。この分野は多くが「文学的価値が低い」とされ、あまり研究がなされてきませんでした。

しかし、民間における受容の広さや、風俗習慣や民間信仰との関わりの大きさを考えると、決して無視できない存在であるばかりか、中国の宗教や芸能について考える上で非常に重要な領域であるといえます。今年度は『西遊記』を対象に作品中の様々な問題を考えていきます。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

講義で紹介します。

中国語表現演習Ⅰ（2）

日中文化比較を楽しもう！

講師 陳 淑梅

授業科目の内容：

ある話題について自分の意思や見解を自由自在に述べることを練習する。コトバのみならず中国文化にも多く触れていく。テキストの日中文化に関する中国語エッセイを開き、それについて議論を展開していく。またテーマを決め、討論会を行う予定。

ヒアリングと会話を中心とする授業なので積極的に発言したり、質問したり、討論に参加してほしい。

テキスト：

『小点心』NHK 出版 陳淑梅著

参考書：

授業中に提示

中国語表現演習Ⅱ（2）

講師 蘇 英霞

授業科目の内容：

本课程以培养学生的汉语听说能力为主，重点在于通过多种形式的听说训练帮助学生熟练掌握汉语的常用词汇，基本句式以及中国人惯用的口语表达方法，培养学生运用所学词语及句式进行日常生活会话和简单的成段表达的能力。教学材料拟选用中国北京语言大学出版的基础汉语会话课本《汉语会话 301 句》中的部分内容。具体教学内容与教学进度将根据学生的实际水平及学习要求进行适当调整。

参考書：

プリントを配布します。

中国語表現演習Ⅲ（2）

講師 蘇 英霞

授業科目の内容：

本课程以提高学生的汉语听说能力为主，重点在于通过多种形式的听说训练培养学生运用所学词语及句式，围绕某一话题进行对话和表达意见的能力。教学材料拟选用中国天津南开大学出版社出版的准中级汉语会话课本《交流》（上）中的部分内容。具体教学内容与教学进度将根据学生的实际水平及学习要求进行适当调整。

参考書：

プリントを配布します。

中国語表現演習Ⅳ（2）

中国語研究文献講読

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

中国語の特質や言語と文化との関わりを理解する上で必要と思われる中国語の文献を講読します。今年度は、前期は音韻論に関する文献を、後期は、文法や中国語の本質について書かれた文献を読みます。順番と範囲を決めて、一人ずつ当ててやってもらいます。

テキスト：

- ・董同和『漢語音韻学』1972 年 台湾書局
- ・趙元任『語言問題』1980 年 商務印書館

中国文学演習Ⅰ（2）

中国古典詩文講読

教授 八木 章好

授業科目の内容：

中国古典詩文の代表的作品を演習形式で読み進める。特に六朝と唐

宋の詩人の中から、陶淵明・李白・杜甫・蘇軾を中心に取り上げる。
作品の朗読は現代中国語によって行うため、中国文学専攻以外の受講者は中国語学習歴のある者に限る。
テキスト：
初回の授業で指示する。
参考書：
授業内で適宜紹介する。

中国文学演習Ⅱ（２） 斯道文庫 准教授 高 橋 智

授業科目の内容：
「論語」の講読を行います。
テキスト：
授業時に指示
参考書：
授業時に指示

中国文学演習Ⅲ（２） 助 教 吉 永 壮 介

授業科目の内容：
中国の古典小説は、文語体で書かれた文言小説と、口語体に近い白話小説とに大別できます。当演習では、前期は『搜神記』等の志怪小説を、後期は『三国志演義』から幾つかの場面を選んで精読し、文言小説と白話小説の特質について考えます。
授業は本文の読解を中心としつつ、辞書や工具書の紹介も随時行います。また、古典小説関連書の書評やレポート等の課題を提出してもらう予定です。
テキスト：
プリント教材を使用します。
参考書：
初回授業時に提示します。

中国文学演習Ⅳ（２） 名誉教授 岡 晴 夫

授業科目の内容：
中国の古典小説・散文のなかから適宜選んで講読する。
テキスト：
プリント使用。

中国文学演習Ⅴ（２） 教 授 関 根 謙

授業科目の内容：
中国当代小説の作品を読んでいく。今年度は二つの教材を、春学期と秋学期に読むことにする。春学期には現在の中国で大ヒット中の青春小説「草様年華」（孫叡原作）、秋学期には車椅子の哲人作家史鉄生の短編をそれぞれ予定している。
テキスト：
基本的には関根がコピーを用意するが、春学期のテキストは中国関係書店で簡単に入手できるので、各自購入するのが望ましい。秋学期のテキストは公式サイトからダウンロード可能。
参考書：
季刊「中国現代小説」各巻

中国文学演習Ⅵ（２） 経済学部 専任講師 根 岸 宗一郎

授業科目の内容：
本授業では、魯迅の弟であり、日本への理解も深く、中国近代文学の成立期に主導的役割を果たした周作人（1885-1967）の作品を取り上げる。散文集『雨天的書』（1925年）など、著名な散文集から作品を選択して講読を行う。彼の作品の読解を通して、五四新文化運動期から1930年代に至る周作人の思想変遷、さらにはその背景にある中国近代文学の流れを考えていきたい。
テキスト：
適宜配布する。

中国語研究会Ⅰ（１）（春学期）
中国語研究会Ⅲ（１）（春学期） 教 授 山 下 輝 彦

授業科目の内容：
中国語という言葉について様々な角度からその特質を検討し、次にあげるテーマの中で各々が興味あるものを選択し、さらに理解を深め研究することを希望する場合、資料収集の方法、文献の扱い方などについて指導する。
(1) 文法。現代文法、歴史文法、日中対照研究など
(2) 語彙（外来語など）の特徴や文化と関係の深い問題など
(3) 音声。特に現代語の発音の諸問題
(4) 方言。豊かな中国の方言に関する諸問題

中国語研究会Ⅱ（１）（秋学期）
中国語研究会Ⅳ（１）（秋学期） 教 授 山 下 輝 彦

授業科目の内容：
中国語研究会Ⅰ、Ⅱを参照

中国古典文学研究会Ⅰ（Ａ）（１）（春学期）
中国古典文学研究会Ⅲ（Ａ）（１）（春学期） 教 授 八 木 章 好

授業科目の内容：
中国古典文学を学ぶ者を対象とした研究会。学生による研究発表と討論を主とし、兼ねて卒業論文指導を行う。

中国古典文学研究会Ⅰ（Ｂ）（１）（春学期）
中国古典文学研究会Ⅲ（Ｂ）（１）（春学期） 教 授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：
中国古典文学を学ぶ者を対象とした研究会。学生による研究発表と討論を主とし、兼ねて卒業論文指導を行う。

中国古典文学研究会Ⅰ（Ｃ）（１）（春学期）
中国古典文学研究会Ⅲ（Ｃ）（１）（春学期） 助 教 吉 永 壮 介

授業科目の内容：
中国古典文学を学ぶ者を対象とした研究会。学生による研究発表と討論を主とし、兼ねて卒業論文指導を行う。

中国古典文学研究会Ⅱ（Ａ）（１）（秋学期）
中国古典文学研究会Ⅳ（Ａ）（１）（秋学期） 教 授 八 木 章 好

授業科目の内容：
中国古典文学研究会Ⅰ、Ⅲを参照

中国古典文学研究会Ⅱ（Ｂ）（１）（秋学期）
中国古典文学研究会Ⅳ（Ｂ）（１）（秋学期） 教 授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：
中国古典文学研究会Ⅰ、Ⅲを参照

中国古典文学研究会Ⅱ（Ｃ）（１）（秋学期）
中国古典文学研究会Ⅳ（Ｃ）（１）（秋学期） 助 教 吉 永 壮 介

授業科目の内容：
中国古典文学研究会Ⅰ、Ⅲを参照

中国現代文学研究会Ⅰ（A）（1）（春学期）
中国現代文学研究会Ⅲ（A）（1）（春学期）

教 授 関 根 謙

授業科目の内容：

- ① 20世紀の中国文化について多角的に検討する。
 - ② 小説・詩歌・戯曲などの文学作品を中心とする。
 - ③ 中国に関するものであれば、映像芸術や舞台芸術などの文化現象一般も対象に含める。
 - ④ 授業を通じて口頭発表の仕方、論文作成などを学ぶ。
-

中国現代文学研究会Ⅰ（B）（1）（春学期）
中国現代文学研究会Ⅲ（B）（1）（春学期）

教 授 杉 野 元 子

授業科目の内容：

20世紀の中国文化について多角的に検討する。
小説・詩歌・戯曲などの文学作品を中心とする。
中国に関するものであれば、映像芸術や舞台芸術などの文化現象一般も対象に含める。
授業を通じて口頭発表の仕方、論文作成などを学ぶ。
参加者はそれぞれテーマを見つけて調査・研究し、口頭発表やレポート作成をおこなう。
授業の過程で、卒業論文作成への展望を見出すことが望まれる。
授業内では、口頭発表に対して、積極的な討論が行われる事を期待する。

中国現代文学研究会Ⅱ（A）（1）（秋学期）
中国現代文学研究会Ⅳ（A）（1）（秋学期）

教 授 関 根 謙

授業科目の内容：

中国現代文学研究会Ⅰ，Ⅲを参照

中国現代文学研究会Ⅱ（B）（1）（秋学期）
中国現代文学研究会Ⅳ（B）（1）（秋学期）

教 授 杉 野 元 子

授業科目の内容：

中国現代文学研究会Ⅰ，Ⅲを参照

○英米文学専攻

必修科目

英語史 (4) 教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

A knowledge of the history of English is important for understanding the vocabulary, grammar and pronunciation of Present-Day English. The course will begin by considering the varieties of English found around the world today, and their historical relationships. This will lead to a survey of the history of Modern English, back to the time of Shakespeare. In Semester Two the lectures will look at the earlier stages of the language and its origins: Middle and Old English, and the Germanic and Indo-European Language families.

テキスト：

David Crystal, *A History of the English Language* (Seibido)

参考書：

7 class tests + 1 examination

英文学史 (4) [春] 教授 高 宮 利 行
[秋] 教授 河 内 恵 子

[春学期]

授業科目の内容：

主に英米文学専攻の2年生を対象に、春学期は中世から17世紀までの英文学の歴史の流れを追う。できるだけヴィジュアルな資料を用いて、立体的な講義を心がけたい。

テキスト：

Greenblatt, Stephen ed., *The Norton Anthology of English Literature*, Vols. 1 & 2, 8th ed., New York: Norton, 2006. (教室で販売する)

参考書：

教室で指示する。

[秋学期]

授業科目の内容：

18世紀から現代までのイギリス社会や文化を理解したうえで、イギリス文学の歴史を具体的に理解してほしい。

テキスト：

Greenblatt, Stephen, ed., *The Norton Anthology of English Literature*, Vols. 1 & 2, 8th ed. New York: Norton, 2006.

参考書：

教室で指示する。

米文学史 (4) 教授 巽 孝 之

授業科目の内容：

ピューリタン植民地時代からポストモダン文学の時代へ至る「アメリカ文学史の常識」をふまえながら、その準拠からこぼれ落ちかねない多様な「非常識の文学史」をも考察していく。

テキスト：

- ・ Peter High, *An Outline of American Literature* (New York: Longman, 1986)
- ・ George McMichael, ed., *Concise Anthology of American Literature* (Upper Saddle River: Prentice Hall, 2006) .

参考書：

巽孝之『アメリカ文学史 ― 駆動する物語の時空間』(慶應義塾大学出版会, 2003年)

現代英語学 (4) 教授 唐 須 教 光

授業科目の内容：

現代英語の諸相について講義する。

一般言語学の枠組で英語の共時態を取り扱います。

テキスト：

Akmajian et al. *Linguistics*. 2nd ed. MIT Press.

電子掲示板(私のホームページ)に示してあります。

参考書：

授業時に指示します。

英語英米文学基礎講読 (A) (2)

教授 スカヒル, ジョン・デミエン
// (B) (2) 教授 高 宮 利 行
// (C) (2) 教授 唐 須 教 光
// (D) (2) 教授 河 内 恵 子
// (E) (2) 教授 巽 孝 之
// (F) (2) 教授 松 田 隆 美
// (G) (2) 准教授 大 串 尚 代

授業科目の内容：

3年生において、各学生は各々が専門とする研究会や特別演習クラスに所属するが、いずれの分野においても英語文献を読むことは研究の基本である。「英語英米文学基礎講読」は基礎的な文献を正確に読み、その内容を分析しうる能力を養うための演習科目である。担当者によって扱うテキストは異なるが、その授業目的は同一である。尚、共通テストが実施される。

古代中世英語学 (4) 教授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

Old English, Middle English の文法を概説し、実際にテキストを講読することで、イギリス中世の文学とその思想的背景について具体的に学ぶ講義形式の授業。春学期には Old English への導入をすることにも、アングロ・サクソン期のイギリス文学についてテキストを読みつつ解説する。秋学期には、Middle English の特徴を説明し、チョーサーなどの作品を通じて、中世後期イギリス文学とその背景について考察する。

テキスト：

春学期はプリント教材を配布。秋学期は、Geoffrey Chaucer, *The Canterbury Tales*. Norton Critical Edition(2005)を使用する予定。

英語音声学 (4) 教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

This course will introduce the fundamental concepts of phonetics and phonology, and analyse the vowels, consonants, stress, rhythm and intonation of English.

テキスト：

ピーター・ローチ著『英語音声学・音韻論』(大修館書店)

英語学演習 A (2)

書誌学研究とは何か～中世からシェイクスピアまで～

商学部 教授 英 知 明

授業科目の内容：

文学作品を「物理的な存在としての書物」として捉え、その誕生や印刷工程、出版や流通を研究対象とする「書誌学 (Bibliography)」への入門編。中世の目も眩む色彩鮮やかな手書きの写本時代から、手動印刷機の誕生を経て、作品が出版物として文芸の世界へと普及していくエリザベス朝までを扱う。特に作者原稿が劇場用台本へと姿を変え、最終的に書物として出版されるに至ったシェイクスピア時代の演劇作品を中心に、書誌学研究の理論と実践、及び問題点を考察する。論文、研究書の講読とともに、履修者による個人発表も予定している。書物への愛情と精緻な学問への関心を持ち、積極的に授業に取り組む学生を歓迎。

テキスト：

授業時に配布、または指示する。

英語学演習 B (2)

Elementary Old English

教 授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

Students will learn the elements of Old English, and read simple texts against the background of Anglo-Saxon culture.

テキスト：

Peter S. Baker, *Introduction to Old English* (Blackwell)

参考書：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・春秋ともに学期末試験を実施する

英語学演習 C (2)

言語の認知科学

法学部 教授 辻 幸 夫

授業科目の内容：

今年度は、下記のトピックに関連して、言語学と脳科学の対話から入り、言語の認知科学について考察します。

- (1) ヒトは言語をなぜ使えるのか（神経心理学的、認知心理学的、言語心理学的視点）
- (2) ヒトは言語をなぜ使うのか（社会言語学的、人類言語学的視点）
- (3) ヒトの言語はなぜ今のようになっているのか（認知言語学的視点）
- (4) ヒトはどのように言語を習得していくのか（発達心理学・言語心理学的視点）

まずは下記のテキスト（1）を最初の数回で読み、次に昨年度後半より読み始めた（2）を読み終えることを考えています。テキストは適宜相談の上学生諸君の興味に応じて決めて行かれればと思います。

英語学、言語学一般に興味のある学生にとって、言語の認知科学入門になるような演習にしたいと思います。

テキスト：

- (1) 山鳥 重・辻 幸夫 著『心とことばの脳科学』（大修館書店、2006）
- (2) Michael Tomasello. 2003. *Constructing a Language: A Usage-Based Model of Language Acquisition*. Cambridge: Harvard University Press.

参考書：

- ・山鳥重『ヒトはなぜことばを使えるか』（講談社、1998）
- ・辻 幸夫 編『ことばの認知科学事典』（大修館書店、2001 年）
- ・辻 幸夫 編『認知言語学キーワード事典』（研究社、2002 年）
- ・辻 幸夫 編『認知言語学への招待』（大修館書店、2003 年）

英語学演習 D (2)

社会言語学

講 師 阿 部 圭 子

授業科目の内容：

Gumperz によって提唱された相互作用社会言語学は「言語と社会の相関を見るマクロ社会言語学」と「個人レベルのコミュニケーションからその関係性を分析するミクロ社会言語学」の融合を唱えている。

本講ではこの Gumperz の視点から文化の異なる人々（国、民俗、人種その他性別、年代、職業などの下位概念も含む）のミスコミュニケーションの要因をその背景となる社会や文化とのかかわりにおいて考察する。

テキスト：

Gumperz, John J. *Language and Social Identity*. CUP.

参考書：

- ・唐須教光（編）『英語学文献解題 言語学Ⅱ』（研究社、2000）
- ・小池生夫（編）『応用言語学事典』（研究社、2003）
- ・John Gumperz （著）井上逸兵 他 訳『認知と相互行為の社会言語学 — ディスコース・ストラテジー』（松柏社、2004）

英語学演習 E (2)

コーパスに基づく言語・文体研究

講 師 奥 聡一郎

授業科目の内容：

コーパス言語学の基礎を学び、文学テキストを分析する。WordSmith を用いてコンコーダンス作成を行い、各自の研究課題に活用できるところまで演習する。

テキスト：

- ・齊藤・赤野・中村編「改訂新版英語コーパス言語学 基礎と実践」（研究社、2004）
- ・マイケル・スタッブズ著 南出・石川藍訳 「コーパス語彙意味論」（研究社、2006）

参考書：

- ・Charles F. Meyer. *English Corpus Linguistics. An Introduction* (Cambridge: Cambridge UP, 2002)
- ・Douglas Biber, Susan Conrad, and Randi Rippen. *Corpus Linguistics*. Cambridge: Cambridge UP, 1998)

英語学演習 F (2)

英語教授法概論

講 師 平 賀 優 子

授業科目の内容：

江戸時代から現代に至るまでに我が国に紹介された英語教授法を歴史的に概観します。

英語教授法について基礎的な知識をつけることが本コースの目標です。

テキスト：

初回の授業で参考文献リストを配布します。テキストは特に指定しません。

英語学演習 G (2)

CREATIVE WRITING: “Written from the Heart”

講 師 ドネガン, パトリシア

授業科目の内容：

COURSE: (20 students) A workshop course in creative writing (poetry/prose) taught by a published American writer/poet. Practice English rhythms & feel the sacred, passionate power of words. Get in touch with feelings & let your inner voice out. Read love poems, haiku, haibun (prose & haiku), imagist poetry, long beat poetry, poetry series, journal & poetic prose and mini-stories. Using these as samples, we will write our memories, dreams & visions. We will share our work after feed-back from the teacher. Feast on your creativity! Materials for the class provided: bring only an English to English dictionary, pen & paper & an open heart.

テキスト：

NO TEXT

英語学演習 H (2)

隷属言語から帝国言語へ

講 師 吉 野 利 弘

授業科目の内容：

辺地の一地方の土着語にすぎなかった英語の国内的には国語化、対外的には帝国の言語化はどのような歴史的、文化的、英文的狀況下に展開したのか、それにより、Modern English はどのような特質を備えるに至ったのか、さらにそれを支える英語学はどのように生じ、どのような identity を備えるに至ったか、特に大学に於ける英語英文学の生成、発展をたどりながら、そこにはどのような問題が内在するかなどを日本語の国語化も参考にしながら考える。

テキスト：

プリントを用意の予定。

参考書：

- ・Colls, Robert, and Philip Dodd, eds. *Englishness: Politics and*

Culture 1880–1920. London: Croom Helm, 1986.

- Colley, Linda. *Britons: Forging the Nation, 1707–1837*. New Haven: Yale UP, 1992.
- Singh, Ishtla. *The History of English: A Student's Guide*. London: H. Arnold . 2005.

他教室で指示。〈生協扱い〉

英文学演習 A (2)
英文学特別演習Ⅱ (4年) (2)
 英文学史のパロディ 教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：
 英文学史のパロディを用いての演習 (a 宮研究会履修者のみ)
テキスト：
 Robert Manson Myers, *From Beowulf to Virginia Woolf*, Chicago: Unisersity of Illinois Press, 1984

英文学演習 B (2)
英文学特別演習Ⅱ (4年) (2)
 19 世紀末から 20 世紀初頭のイギリス散文作品 教授 河 内 恵 子

授業科目の内容：
 ヴィクトリア朝後期―一世紀末―エドワード朝と社会が激動するなか、イギリス文学はいかなる変化を見せたのだろうか。
 Oscar Wilde, Vernon Lee, Joseph Conrad, Ford Madox Ford 等の散文作品を読みながら「歴史と文学」について考えてみたい。
テキスト：
 プリントを配布する。
参考書：
 河内恵子『深淵の旅人たち』慶應義塾大学出版会：2004

英文学演習 C (2)
英文学特別演習Ⅱ (4年) (2)
 イギリス・ルネサンスの恋愛詩 教授 松 田 隆 美

授業科目の内容：
 Spenser, Shakespeare, Donne, Marvell, Milton など、16―17 世紀を代表する詩人の短詩を精読することで、ルネサンス期の詩の主題的特徴、詩的コンベンション、視覚芸術との密接な関連などについて考察します。
テキスト：
 プリント教材を配布。
参考書：
Norton Anthology of English Literature, vol. 1.

英文学演習 D (2)
 18 世紀英文学の精読演習を通じて、近・現代の出発点を確認する 講 師 原 田 範 行

授業科目の内容：
 イギリス 18 世紀の文学作品の精読・演習を通じて、まず、当時の英文学作品の原典を正確に読みこなせる実力を培うこと、そしてその上で、文学研究の基本的な方法や論点を整理し、作品解釈の可能性についての思考力を養ってもらうことが本演習の目標です。18 世紀は、詩、小説、伝記、批評などのさまざまな文学ジャンルが変化、分化、確立してくる時期であり、また印刷出版文化（ジャーナリズムや著作権論争を含む）が今日的相貌を帯び始める時期でもありますから、履修者の皆さんは、本演習を通じて、英語力の向上とともに、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。本年度は小説発生の最重要作品の一つであり、今日でも愛読者の多い、ヘンリー・フィールディングの『トム・ジョーンズ』を取り上げます。
テキスト：
 Henry Fielding, *Tom Jones* を教材とします。使用する版については、

開講時に指示します。
参考書：
 開講時に詳しく説明します。

英文学演習 E (2) 講 師 阿 部 公 彦

授業科目の内容：
 この授業では英詩を読んだり、英詩について語ったりするコツを勉強します。扱う素材は、比較的英語の平易な英国ロマン派の詩で、ワーズワスとコールリッジおよびその周辺の詩人の作品を読んでいます。
 授業では、単に英語の詩を日本語に訳すのではなく（英語が読めているかなどはチェックしますが）、なるべく英語の詩を英語のまま読んでもらうようにします。そうすることで詩を扱う方法を知り、実際に議論の練習もしてもらうつもりです。ベースとしては授業一回に作品ひとつ。担当者によるコメント、ディスカッサントによる応答などの後、全体でのディスカッションからグループ・ディスカッションへと進みます。評価は平常点とレポートです。扱う作品についてはハンドアウトを配りますが、アンソロジーとして次のものを手に入れておく と便利 です。
 ・ *The Norton Anthology of Poetry*, 4th ed., ed. by Margaret Ferguson... etc. (New York: Norton, 1996)
 ・ *Romanticism: An Anthology*, 2nd ed., ed. by Duncan Wu (Oxford: Blackwell, 1998)

英文学演習 F (2) 講 師 小 林 宜 子

授業科目の内容：
 中世から初期近代にかけて書かれた様々な短詩を、その背景となる文学的伝統や作品が生み出された当時の歴史的状況などを考察しながら原文で精読します。短詩と一口に言っても、その種類は作者不詳の中世詩歌（宗教詩もしくは恋愛詩）、中世後期のバラード、「嘆きの歌」、ソネットなど多岐にわたります。それぞれの詩の形式的特徴を理解したうえで、どのような文学的伝統に則って書かれているのか、どのような形で流布したのか、いかなる意味を伝え、いかなる情緒を表現しているのか、どのような社会的役割を果たしているのか、どのような政治的意図がその裏に隠されているのかなど、二次資料を用いながら多角的な視点から解釈を試みます。
テキスト：
Chaucer to Spenser: An Anthology of Writings in English, 1375–1575, edited by Derek Pearsall (Blackwell, 1999) 等から必要箇所（原文テキストおよび注釈）を抜粋してプリントで配布します。
参考書：
 授業内に指示します。

英文学演習 G (2) 初めて読むシェイクスピア 講 師 井 出 新

授業科目の内容：
 この演習では前・後期を通して『マクベス』を講読し、シェイクスピア等のエリザベス朝の台本を読むための基礎力習得を目指します。テキストは本文校訂と学問的注釈がきちんと施されたものを選ぶので、本文は勿論、注釈についても丁寧に目を通してもらう予定です。
テキスト：
 Nicholas Brooke, ed. *Macbeth* (Oxford Univ Pr., 1990)
参考書：
 演習時に随時紹介します。

英文学演習 H (2)
 外国人が見たヴィクトリア朝イギリス 准教授 高 橋 宣 也

授業科目の内容：
 19 世紀イギリスの社会、芸術と接触のあった、フランスの画家、ドイツの作曲家、アメリカの哲学者たちの体験を追ったテキストを扱います。現代にまで認められるヴィクトリア朝のいろいろな特徴が、異国、

異文化の人間の生々しい経験と意見を通して浮かび上がってきます。

テキスト：

Rupert Christiansen, *The Visitors: Culture Shock in Nineteenth-Century Britain* (New York: Grove Press, 2000)

英文学演習 I (2)			
モダニズム文学とヴァージニア・ウルフ			
講 師		遠 藤 不比人	

授業科目の内容：

「モダニズム文学とヴァージニア・ウルフ」というテーマに焦点を絞りながら、「(英) 文学研究」の基本を身につけ、学部卒業論文レベル（あるいはそれ以上）の学力を身につけたい。前期は、「モダニズム」文学、ウルフを巡る批評史、批評理論などに関する基礎的な学力を身につけるために、複数の論文を読み、その内容の要約、それを前提にした議論などを行なう。後期は、ウルフの代表的なテキスト——*Mrs Dalloway, To the Lighthouse*——の精読を行なう。いずれも学生諸君が積極的に参加できるように工夫する。文学研究の「いま」を知りたい知的好奇心と濃密な英語を精密に読むことに快楽を感じる「テキスト」への欲望——このふたつがあれば、充実した1年になります。

テキスト：

開講時に指示します。

参考書：

授業中複数を紹介します。

英文学演習 J (2)			
The Mayor of Casterbridge 研究			
講 師		高 橋 和 久	

授業科目の内容：

英国後期ヴィクトリア朝を代表する作家、詩人であるトマス・ハーディの中期作品を様々な角度から読み解くことにより、文学テキストを分析する基礎能力を身につけることが目標です。

テキスト：

Thomas Hardy, *The Mayor of Casterbridge* (Oxford World's Classics)

英文学演習 K (2)			
休講			

米文学演習 A (2)			
米文学特別演習 II (4年) (2)			
アメリカン・ルネッサンスの文学		教 授	巽 孝 之

授業科目の内容：

アメリカン・ルネッサンスはアメリカ文学思想史上、最初の黄金時代であった。その代表的文学者の作品群を1年間かけて読む。

テキスト：

George McMichael, ed., *Concise Anthology of American Literature* (Upper Saddle River: Prentice Hall, 2006). その他追って指示する。

参考書：

- ・David Reynolds, *Beneath the American Renaissance* (1988; Cambridge: Harvard UP, 1989)
- ・巽孝之『ニュー・アメリカニズム』（青土社、1995 年）
- その他学術雑誌論文多数を追って指示する。

米文学演習 B (2)			
19 世紀アメリカ詩	商学部	教授	朝比奈 緑

授業科目の内容：

春学期には、「Emily Dickinson と他の 19 世紀女性詩人」を比較しながら精読する。秋学期には、「Walt Whitman と〈超絶主義〉の詩人たち」をとりあげる。19 世紀の歴史・文化のなかでの位置づけを考えるとともに、詩のことばの魅力をくみとっていきたい。また現代においてこれらの詩人たちがどのように読まれているのか、主な批評も考察する。

テキスト：

- ・ *Romantic Women Poets* 武田雅子他編、英宝社
- ・ Emily Dickinson: *Selected Poems* Oxford UP, 2006

参考書：

授業時にリストを配布する。

『色のない虹 対訳エミリー・ディキンソン詩集』野田寿訳編、ふみくら書房

米文学演習 C (2)			
翻訳実技演習	講 師	嶋 田 洋 一	

授業科目の内容：

フィクションおよびノンフィクション作品の英日翻訳を実際に体験してもらい、英語読解力と日本語表現力の向上を目指します。

テキスト：

毎回コピーを配布します。

米文学演習 D (2)			
アメリカン・ルネッサンスの女性作家たち			
准教授		大 串 尚 代	

授業科目の内容：

アメリカ文学が開花した、いわゆるアメリカン・ルネッサンスに焦点をあて、19 世紀のアメリカがどのような時代だったかを考えます。春学期は Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, Edgar Allan Poe, Ralph Waldo Emerson, Frederick Douglass, William Wells Brown など主に男性作家の作品を中心に扱い、トランセンデンタリズムなどの時代思潮について考察します。後期は春学期の議論をふまえた上で、Lydia Maria Child, Catharine Maria Sedgwick, Fanny Fern, Louisa May Alcott, Harriet Beecher Stowe, Harriet Jacobs らなどの女性作家の作品についての理解を深めます。

テキスト：

Killcup, Karen L. *Nineteenth-Century Women Writers*. (Blackwell, 1997)

米文学演習 E (2)			
American Realism and Naturalism		講 師	松 川 祐 子

授業科目の内容：

南北戦争終結から第一次世界大戦にアメリカが参戦するまでの間に活躍した作家の短編小説を読み、ディスカッションを通じて解釈を深めます。リアリズム文学や自然主義文学を通して、この時代に目まぐるしく変化していくアメリカを作家たちはどのように捉え、人種、民族、階級、ジェンダー、宗教、教育、地方やセクシュアリティなどの問題を作品で扱いながらどのように社会を批判したかを考察します。

テキスト：

Nagel, James and Tom Quirk, eds. *The Portable American Realism Reader*. New York: Penguin, 1997 を教室で販売します。そのほかに評論、エッセイ、短編小説等のプリントを授業中に配布します。

参考書：

授業中に紹介します。

米文学演習 F (2)			
アメリカン・ドラマを読む			
法学部		准教授	常 山 菜穂子

授業科目の内容：

アメリカ演劇は、植民地時代から 19 世紀末までの長い大衆演劇の時代を経て 20 世紀に開花しました。本演習では、現代アメリカ演劇を代表する戯曲を精読します。演劇の解釈はテキストの精読だけでは足りず、そのテキストがいかなる時代にいかなる条件の下で上演されたのかといった社会的要素も考慮しなければなりません。作品を、制作当時の国家国民、政治経済、思想イデオロギーを考察しながら原文で読み解くことによって、ひいては、舞台に意識的／無意識的に反映されたアメリカの人と社会を浮き彫りにします。

テキスト：

下記の作品をペーパーバックで講読します。使用する版は初回授業で指定します。

参考書：

文献リストを初回授業で配布します。

米文学演習 G (2)

世紀転換期アメリカの人種小説

法学部 教授 奥田 暁代

授業科目の内容：

南北戦争後のアメリカ南部において、元奴隷の地位は向上したかのようだった。しかし、十九世紀末から二〇世紀初頭にかけて、アフリカ系アメリカ人からさまざまな権利が剥奪されていく。これには、帝国主義の台頭、大衆文化の浸透、人種主義の蔓延、といった理由が考えられる。実際、一八九八年の米西戦争を境に帝国主義が定着するにつれて、人種隔離、投票権剥奪など黒人を二級市民として扱う政策が浸透していった。この過程で、人種主義とくにネガティブな黒人のイメージ形成に加担したのは、新聞や雑誌などのメディアと、小説などの大衆文化だった。授業では、世紀転換期に多く書かれた人種を扱った小説を取り上げて、雑誌や小説がアメリカのアイデンティティ構築（国家再生）において、いかに重要な役割を果たしたかを考察する。前期は、ジョージ・ワシントン・ケイブル、ジョエル・チャンドラー・ハリス、トマス・ネルソン・ペイジ、トマス・ディクソン・ジュニアなどの白人作家による作品を読み、白人至上主義の成立を考え、後期は、黒人作家チャールズ・W・チェスナットの小説を通読しながら、黒人社会の人種主義に対する反発を読み解く。

テキスト：

前期はプリントを配布

後期は Charles W. Chesnutt, *The House Behind the Cedars* (University of Georgia Press, 2000)

参考書：

トマス・ディクソン・ジュニア著『クー・クラックス・クラン 革命とロマンス』（水声社、2006年）

米文学演習 H (2)

ポストモダニズムとベトナム

講師 麻生 享志

授業科目の内容：

ポストモダニズムとベトナム戦争という1960年代後半から1970年代前半にかけて起きた2つの事象に焦点をあて小説作品を読む。前期はTim O'Brienの*If I Die In A Combat Zone* (1973)を中心に、戦場小説にみられるポストモダニズム性を検証する。後期は戦後アメリカに移住したベトナム系アメリカ人作家の作品を取り上げる予定。また『プラトーン』他のベトナム戦争に関する映像作品も適宜使用する。

テキスト：

Tim O'Brien, *If I Die In A Combat Zone (Paladin)*

参考書：

授業時に指示する

米文学演習 I (2)

休講

英語学研究会 I (3年) (2)

英語学研究会 II (4年) (2)

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

This course will look at change in English by Focusing on one genre, letters.

英語学研究会 I (3年) (2)

法学部 教授 井上 逸兵

授業科目の内容：

英語学・言語学の文献を読み、議論するなどで、卒業論文執筆の土台を築く。

テキスト：

授業中に指示する

参考書：

授業中に指示する

英語学研究会 II (4年) (2)

教授 唐須 教光

授業科目の内容：

英語学・言語学に関する卒業論文指導

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

英語学特別演習 I (2)

休講

英語学特別演習 II (4年) (2)

The Human Condition 教授 アーマー, アンドルー J.

授業科目の内容：

This course is for fourth-year students majoring in British/American literature and related fields. There are no special restrictions on subject choice, but all instruction and discussion will be in English so students should have some confidence in both speaking and writing English. Fourth-Year students are required to undertake a special research project in partial fulfillment of the requirements for a B.A. degree.

テキスト：

Students will be presented with materials in class or via a dedicated website (www.armor.cc/zemi.htm).

参考書：

アカデミック・ライティング（応用編）慶應義塾大学出版会

英語学特別演習 II (4年) (2)

Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

This course will introduce Old English language and read a variety of texts. Each student will give two presentations on the culture of Anglo-Saxon England.

参考書：

Peter S. Baker, Introduction to Old English (Blackwell)

英語学特別演習 II (4年) (2)

教授 唐須 教光

授業科目の内容：

英語の運用のスキルの訓練

テキスト：

特になし

参考書：

特になし（授業時に指示する）

英文学研究会Ⅰ（3年）（2）	
英文学研究会Ⅱ（4年）（2）	教授 松田 隆 美

授業科目の内容：
イギリス文学に関する卒業論文を執筆する学生を対象として、研究発表を主体とした論文指導を行う。授業計画は、学期毎にプリントおよびHPで知らせる。

英文学研究会Ⅰ（3年）（2）	
英文学研究会Ⅱ（4年）（2）	
卒業論文指導	教授 河内 恵 子

授業科目の内容：
18世紀から現代にいたるイギリス文学に関連する卒業論文を提出する学生のためのゼミナール演習。
参考書：
教室で指示する。

英文学研究会Ⅰ（3年）（2）	
英文学研究会Ⅱ（4年）（2）	
卒業論文指導	教授 高宮 利 行

授業科目の内容：
英文学・イギリス文化関係で卒業論文を執筆するか卒業制作を行う学生のためのゼミナール演習
テキスト：
『MLA 英語論文の書き方』最新版，北星堂

英文学特別演習Ⅰ（2）	
休講	

米文学研究会Ⅰ（3年）（2）	
米文学研究会Ⅱ（4年）（2）	教授 巽 孝 之

授業科目の内容：
春学期はアメリカ文学研究の基礎理論修得に費し，4年の卒業制作経過報告に重点を置く。米文学演習Aと密接に連動させる。
秋学期より3年の卒業制作準備段階に入る。英語圏学術誌を含め少なからぬ文献を読むことになるため，相当の覚悟が必要。
テキスト：
Jonathan Culler, *Literary Theory* (New York: Oxford UP, 1997).
参考書：
・巽孝之&渡部桃子編『物語のゆらめき ― アメリカン・ナラティブの意識史』（南雲堂，1998年）。
・ジョナサン・カラー『文学理論』（岩波書店，2003年）ほか『MLA 英語論文の手引』など。

米文学研究会Ⅰ（3年）（2）	准教授 大 串 尚 代
----------------	-------------

授業科目の内容：
アメリカ文学で卒業論文を執筆する学生のための研究会です。春学期はアメリカ文学研究の基礎的な方法論を学びながら，卒業論文で扱う作家やテーマを絞り込む作業が中心となります。秋学期は，各自が選択した卒業論文のテーマに沿った発表を中心に授業を進めます。
テキスト：
Barbour, James and Tom Quirk, eds. *Writing the American Classics*. Chapel Hill: U of North Carolina P, 1990
参考書：
巽孝之・渡部桃子編著『物語のゆらめき』（南雲堂，1998年）

米文学研究会Ⅱ（4年）（2）	法学部 教授 鈴木 透
----------------	-------------

授業科目の内容：
4年生の卒論指導。

米文学特別演習Ⅰ（2）	
休講	

米文学特別演習Ⅱ（4年）（2）	法学部 教授 鈴木 透
-----------------	-------------

授業科目の内容：
受講者に直接指示します。

選 択 科 目

英語学A	
言語学とコミュニケーションの学としての社会言語学	
	法学部 教授 井上 逸 兵

授業科目の内容：
英米系の言語学の諸知見を概観する。後半はそれを議論の土台として，「自律性」を旨とするそれらの言語研究からある意味で逸脱した形で発展してきた語用論，社会言語学等の系譜を学びながら，いわゆる「コミュニケーション」とよばれる諸現象に対する言語学，英語学的アプローチの意義を考える。
テキスト：
Nancy Bonvillian *Language, Culture, and Communication: The Meaning of Messages* (4Th ed.) Prentice Hall
参考書：
・ジョン・ガンバーズ『認知と相互行為の社会言語学』（松柏社）
・井上逸兵『伝わるしくみと異文化間コミュニケーション』（南雲堂）
・井上逸兵『ことばの生態系 ― コミュニケーションは何でできているか―』（慶應義塾大学出版会）
その他，授業中に指示する。

英語学B（4）	
社会言語学	講 師 阿 部 圭 子

授業科目の内容：
本講では社会言語学の起源と定義，研究方法，変異研究，言語行動，社会的ステレオタイプ，多言語主義，相互作用社会言語学，言語と文化などに関する諸論文を取り上げ考察する。
テキスト：
Coupland, Nikolas, and Adam Jaworski (eds.). *Sociolinguistics: A Reader and Coursebook*. (Palgrave. 1997)
参考書：
・Ronald Wardhaugh 著『社会言語学入門』（リーベル出版，1994）
・小池生夫（編）『応用言語学事典』（研究社，2003）

英語学C（4）	
社会言語学（入門）	講 師 平 賀 優 子

授業科目の内容：
1つの言語には，性別・年齢・地域・社会的地位等の要因により，様々な変異（バラエティー）が存在します。また，話し相手や，状況・場面にも影響を受けます。本講義ではこのような言語と社会の関わりについて，基本的な知識を身に付けることを目標とします。はじめて社会言語学を学ぶ人のための概論です。
テキスト：
初回の授業で参考文献リストを配布します。テキストは特に指定しません。

英語学 D (4)

英語英文学研究の生成と発展にみる English Identity

講師 吉野利弘

授業科目の内容：

English Identity (Anglo-Saxonism, Englishness) とはどのようなもので、どのように生成、発展してきたのか、大学における英語英文学研究のそれとそれを促した歴史、文化、社会的状況を基に講義をする。併せて、それが日本では例えば、東京（帝国）大学と慶應義塾大学でどのように受容されてきたのか、さらに日英にはどのような差異が認められるのかなどを、適宜関連テキストを精読してもらいながら講義する。

テキスト：

プリントを用意。

参考書：

- ・ Colls, Robert, and Philip Dodd, eds. *Englishness: Politics and Culture 1880–1920*. London: Croom Helm, 1986.
 - ・ Colley, Linda. *Britons: Forging the Nation, 1707–1837*. New Haven: Yale UP, 1992.
 - ・ MacDougall, Hugh A. *Racial Myth in English History: Trojans, Teutons, and Anglo-Saxons*. Montreal: Harvest House and Hanover, NH: UP of New England, 1982.
 - ・ Palmer, D. J. *The Rise of English Studies: An Account of the Study of English Language and Literature from Its Origins to the Making of the Oxford English School*. Oxford: OUP, 1965.
 - ・ Potter, Steph. *The Muse in Chains: A Study in Education*. London: Jonathan Cape, 1937.
- 他教室で指示。〈生協扱い〉

英語学 E (4)

英語史と言語変化

講師 堀田隆一

授業科目の内容：

本授業では、現代英語をより深く理解するために、英語史の概要をつかむことを目的とします。しかし、単に英語の歴史を概説するのではなく、現在と過去の英語を対比することによって、また英語と関連の深い外国語と比較することによって、英語の特徴を浮き彫りにします。また、英語史は個々の言語変化の集積からなっているという立場から、主要な変化が、どのように (how) なぜ (why) 起こったのかを言語学的な視点から考察します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- Smith, Jeremy J. *An Historical Study of English: Function, Form and Change*. Routledge: London, 1996.
- その他、初回の授業で指示します。

英語学 F (4)

英語文体論入門

講師 奥 総一郎

授業科目の内容：

文体論を中心に、文学テキストの言語学的分析の手法や歴史などを、教科書に沿って講義を行い、理解を深めてもらう。その応用として具体的な文学作品について語彙、時制、比喩などの観点から文体分析を行う。また、英語教育への貢献についても考察する。専門用語については小テスト（平常点）を行うので欠席と遅刻はしないこと。

前期は言語学の概念を中心に理論的な流れを追い、後期は研究事例などの応用的な流れを概説する。そのなかで各自が文体論の枠組みを理解して、分析までできるようにしてもらいたい。

テキスト：

齊藤兆史著「英語の作法」（東京大学出版会、2000）

参考書：

- ・ Jean Jacques Weber ed. *The Stylistics Reader*. (London: Arnold, 1996)

・ Michael Toolan. *Language in Literature*, (London: Arnold, 1998)

英語学 G (4)

比喩から意味論へ

法学部 教授 辻 幸夫

授業科目の内容：

比喩とカテゴリー化、心像と概念形成というような認知的方略を切り口に、人はどのように意味を作り上げていくのか、言語学や心理学、あるいは脳科学で得られた知見などをもとに考察します。

あわせて、これから英語学や言語学を勉強する学生の皆さんへの「意味論」への導入を目論みます。今年度は下記テキストを題材として批判的検討を行い、比喩の基本的な考え方を整理します。授業時に使う文献やテーマについては学生諸君とも相談しながら随時追加していきます、意味論の諸相に展開させていきたいと思います。「意味」について興味のある学生の履修を望みます。

ちなみに、昨年度は G.Lakoff & M. Johnson. (1980), 2003. *Metaphors We Live By*. Univ. of Chicago Press. と G. Lakoff. 1987. *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal About the Mind*. Univ. of Chicago Press. を読みました。

テキスト：

Raymond Gibbs. 1994. *The Poetics of Mind: Figurative Thought, Language, and Understanding*. Cambridge.: Cambridge Univ. Press.

参考書：

- ・ 池上嘉彦『英語の意味』（大修館書店、1996）
- ・ 山梨正明『比喩と理解』（東大出版会、1988）
- ・ 瀬戸賢一『よくわかる比喩』（研究社、2005）
- ・ 辻 幸夫 編『認知言語学キーワード事典』（研究社、2002 年）
- ・ 辻 幸夫 編『認知言語学への招待』（大修館書店、2003 年）

英文学 A (4)

18, 19 世紀の社会思想史と英文学 講師 草光俊雄

授業科目の内容：

「長い 18 世紀」、「長い 19 世紀」の社会思想を概観し、とくに古典時代と中世への視点の対立に注目して考えを深めていく。そして英文学がこれらの社会思想をどのように反映しているかを明らかにしていく。また文学批評と同時代の社会思想との関連も考えていきたい。

テキスト：

Paul Langford, *A Polite and Commercial People* (O.U.P)

参考書：

授業中に適宜示す。

英文学 B (4)

シェイクスピアの変容と受容

商学部 准教授 大矢 玲子

授業科目の内容：

400 年前のイギリスで活躍した劇作家、ウィリアム・シェイクスピアの作品は、時代と国境を越えて多くの人々に愛されているのみならず、さまざまな批評家や芸術家による再評価、再創造が続いています。この授業ではシェイクスピアの戯曲の登場人物たちに注目し、時代につれて彼らがさまざまな姿を変えては新たな生命を得てきた過程を検討します。それぞれに魅力ある登場人物たちの死後の生 (after-life) を、舞台、絵画、映画、小説など多様な媒体のなかにとどめて、文化のダイナミックスの一側面に光をあてることが、この授業の目標です。

テキスト：

授業中に配布します。

参考書：

William Shakespeare, *Complete Works*. Gen ed. Richard Proudfoot, Ann Thompson, and David Scott Kastan. The Arden Shakespeare. (London, 2001)

英文学C（4）
18世紀, 19世紀イギリス女性作家 講 師 中 村 哲 子

授業科目の内容：

〈春学期〉テーマ：成長する主人公

Jane Austen 作 *Emma*（1816年刊行）と Maria Edgeworth 作 *Ormond*（1817年刊行）を取り上げ、両小説に盛り込まれている歴史的、社会的、文化的事象を理解し、この時代を把握するとともに作品理解を深めることを目的とする。同時期に書かれた作品だが、それぞれ主人公が女性と男性、作品の舞台もイギリスとアイルランドと異なるため、読み比べたい。

〈秋学期〉テーマ：女性作家の描いた世界

18世紀末から19世紀初頭の女性作家の小説に盛り込まれている文学的モチーフをいくつか取り上げ、関連するテキストに触れることで、この時期の文学への理解を深めることを目的とする。

テキスト：

授業にて指示する

参考書：

授業にて指示する

英文学D（4）
ゴシック小説 准教授 坂 本 光

授業科目の内容：

ゴシック小説と言えば、かつての文学史では、18世紀の半ばに生まれた古城や修道院を舞台とした大時代的な怪奇物語で、小説の主流が停滞した時期に、出版業界にそれなりの活況をもたらした、などと説明されていた。その通りに違いないが、今ではゴシック小説が、様々な怪奇や怪物を産み落としながら、21世紀の現在まではっきりとその系譜を残していること、20世紀以降は文学にとどまらず、映画、コミックス、音楽、ファッションにいたるまで、多くの領域にその支流を延ばしていることも知られている。この授業では、18世紀のホレス・ウォルポールから20-21世紀のステイブン・キングやアン・ライスまで主要な作家を取り上げ、必要に応じて文学以外の領域にも目を配りながら、ゴシック小説、そしてゴシック的なものの歴史をたどる。

参考書：

David Punter, *The Literature of Terror: A History of Gothic Fictions from 1765 to the Present Day*, 2nd ed., 2 vols. (London: Longman, 1996)

英文学E（4）
書物史から見た英文学―「書物の敵」と「書物愛」 教 授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

昨今アメリカを中心に、書物の社会史ともいべき書物史が盛んとなり、例えばペンシルヴァニア州立大学には書物史学部が誕生し、書物史学会（SHARP）や初期書物学会は定期的に国際会議を主催、研究所の数も増大の一途である。

そこで今回、三田の英米文学専攻の教員を中心として、英米文学における書物史をオムニバスで展開することとした。なお、デジタル書物学に関心のある諸君はHUMIプロジェクトのメンバーによる「英文学I」もあわせて履修することをお奨めしたい。

参考書：

教室で適宜指示します。

英文学F（4）
アーサー王物語の魅力 教 授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

アーサー王伝説の起源と発展、現代における受容の諸相を、歴史、文学、音楽、美術、映画などを通して多角的に扱う。

テキスト：

高宮利行『アーサー王物語の魅力』秀文インターナショナル

参考書：

高宮利行『アーサー王 歴史と伝説』東京書籍、『アーサー王伝説 万華鏡』新中央公論社

英文学G（4）
20世紀のイギリス小説 教 授 河 内 恵 子

授業科目の内容：

20世紀のイギリス小説を文学史の重要項目を軸に考察する。

いわゆる「**canon** の作品」の裏に存在する作品にも触れ、20世紀イギリス小説を多角的にとらえるのが目的である。

テキスト：

プリントを配布する。

参考書：

教室で指示する。

英文学H（4）
イギリス文学と絵画 教 授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

ルネサンス期には詩と絵画を姉妹芸術とみなす伝統が存在したが、文学と絵画はしばしば題材やモチーフを共有し、また書物においてテキストと挿絵は相互補完的な関係を保ってきた。この講義では、中世から19世紀のイギリス文学を対象として、文学と絵画（写真を含む）との主題の共有、作品中に登場する美術品の役割、書物（中世写本を含む）における挿絵とテキストの関係、図像学的アプローチの文学研究への有効性など、さまざまなトピックについて具体例を挙げつつ考える。文学と絵画との比較研究のための様々な方法論を学ぶことを目的とする講義形式の授業。

テキスト：

主にプリントを配布。

英文学I（4）
HUMI プロジェクトのデジタル情報処理 教 授 高 宮 利 行
教 授 松 田 隆 美
教 授 アーマー、アンドルー
新教育組織創造支援室 檜 村 雅 章

授業科目の内容：

本講座は、人文科学分野における情報処理の基本手法を、実習を通じて修得できることを目的としている。思想、芸術、文学、歴史などの分野における網羅的な専門情報を収集して整理・分析し、わかりやすい形で公開することは、文学部が社会から要請されている活動であるという認識のもとに、実際 HUMI プロジェクトで貴重書を対象としてそうした活動を続けている担当者らが、西洋の書物史や英文学の分野で具体的な課題を設定して、人文科学的な基礎知識や技術背景に関する講義、ディスカッション、パソコンやデジタル画像入力機器などを用いたデジタル・コンテンツの製作実習、発表会（プレゼンテーション）などさまざまな形での授業によって、実践的に指導を進めていく。

実習は次のような内容で行う予定である。

- ・ワープロを用いたテキスト（文章）情報の整理や、持論の展開（Microsoft Word や Adobe Acrobat を使用）
- ・デジタル画像やグラフィックスと、専用ツールを用いたオンスクリーン・プレゼンテーション（Adobe Photoshop や Microsoft PowerPoint などを使用）
- ・データベースソフトを用いた情報のより高度な整理や、Web コンテンツの制作とインターネットを利用した公開（Filemaker Pro や Web ページ制作用ソフトを使用）

米文学 A (4)	
ピューリタン思想と文学	講 師 佐 藤 光 重

授業科目の内容：

春学期は、ピューリタン入植史とピューリタン文学を解説する。秋学期は、魔女狩り、超絶主義文学、自然文学を取り上げる。自然文学の講義では H. D. Thoreau の *Walden* (邦訳『森の生活』) を中心に、R. Carson, A. M. Lindbergh, G. White らの作品を扱う予定である。

テキスト：

- ・プリント配布 (春学期)。
- ・H. D. Thoreau, *Walden* (Dover 版) (秋学期)

参考書：

巽孝之『ニューアメリカニズム—米文学思想史の物語学』(青土社, 2005 年)

米文学 B (4)	
ハーレム・ルネサンス期の黒人モダニズム文学	講 師 新 田 啓 子

授業科目の内容：

本講は、1910 年代後半から 1940 年代初頭までのアメリカ黒人芸術動向を現す「ハーレム・ルネサンス」の時代における文芸創作を扱うものである。ハーレム・ルネサンスは、南北戦争後に開放された黒人奴隷が南部から北部へ大量に移住し、シカゴやハーレムなどで都市文化を築き上げた結果、花開いた。それは、近代化を加速させる米国の歴史的・文化的背景を伴って、広くモダニズム芸術と呼ばれる潮流の一部として、かつまたそれに対する抵抗として進展した。前期の授業ではまず、こうした潮流が必然的に連動させた商業文化・芸術・政治の諸相をテーマ敵に読み解いていく。そして後期の授業では、ハーレム・ルネサンス文芸におけるキーパーソンとかれらの作品を取り上げながら、前期に得た基礎知識の深層を、さらに具体的に掘り下げて行く。

テキスト：

初回クラスで指示

参考書：

初回クラスで指示

米文学 C (4)	
オリエンタリズム再考	講 師 村 上 由 見 子

授業科目の内容：

今再び「オリエンタリズム」を考え、私たちを取り巻く状況を併せて考えていきます。サイードの著書をテキストにし、授業では特に「アラブ・ムスリムをめぐる表象」について、文学、絵画、写真、ハリウッド映画など欧米の表象史から具体的に検証していく予定です。私たちの知らないアラブ・ムスリムを探る機会とし、夏休みのレポートは個人のテーマを深めるのを目的とした上で、後期は学んだことを広く共有していく場としましょう。

テキスト：

エドワード・W・サイード『オリエンタリズム (上) (下)』(平凡社ライブラリー, 各 1500 円)

米文学 D (4)	
性差と人種から見た 20 世紀アメリカ文学	准教授 大 串 尚 代

授業科目の内容：

性差と人種に着目しながら 20 世紀アメリカ小説を考察することで、そこから社会的・時代的な背景を読み取ります。春学期は主に短編を扱い、秋学期は長編小説について講義する予定です。Willie Cather, John Updike, Bernard Malamud, James Baldwin, Joyce Carol Oats, Louise Erdrich, Alice Walker, Barbara Chase-Riboud, Jonathan Lethem などを取り上げる予定にしています。

テキスト：

春学期：McMichael, George. *Concise Anthology of American*

Literature. Upper Saddle River: Pentice Hall 2001.

秋学期は別途指示します。

参考書：

授業中に指示します。

米文学 E (4)	
現代アメリカ詩	講 師 渡 部 桃 子

授業科目の内容：

日本におけるアメリカ合衆国の文学が、マイナーな存在であるかどうかについては、様々な意見があるだろうが、日本に「輸入」されるアメリカ文学というものの中で、もっともマイナーなのは、詩ではないかと思われる。この授業では、アメリカ詩の流れと現在のアメリカ詩の状況を概観した後、モダニズム・モダニズム以後の詩人たちの作品を読んでいく。

テキスト：

現代アメリカ詩 N. H. ピアソン／金関寿夫編注 英宝社

参考書：

初回の授業で提示

米文学 F (4)	
アメリカン・ポピュラー・ミュージックの文化史	法学部 専任講師 大和田 俊 之

授業科目の内容：

ブルース、ジャズ、カントリー、R&B、ロックンロール、ファンク、ヒップホップなど、20 世紀ポピュラー音楽の多くはアメリカで誕生した。本講義では、アメリカの音楽文化を社会との関わりにおいて考察し、様々な音楽ジャンルがどのように形成され、発展してきたかをたどる。19 世紀の minstrel・ショウから現代のポピュラー・カルチャーまで概観するが、その際、「アメリカ音楽の歴史」を単に年代順に解説するだけでなく、そのような「音楽史」そのものがどのように構築されてきたかという系譜学的手法を用いて講義する。

ある国の音楽文化は、その国の社会制度や政治形態、さらには産業構造と無縁ではない。特にアメリカにおいては、ブルースやジャズ、それにカントリーなど主に「人種」によって分節化される音楽ジャンルの発展は、各時代の政治的イデオロギーと密接な関係がある。また、女性やアフリカ系アメリカ人、さらにはヒスパニックのミュージシャンの活躍は、フェミニズムやポストコロニアリズムなどの運動／理論と無関係ではあり得ない。

昨今の批評理論の発達により、アメリカのポピュラー音楽文化に関する研究書の刊行も目覚ましい勢いで進んでいる。そうした最新の研究成果を踏まえたうえで、最終的にはアメリカン・ポピュラー・ミュージックの日本への流入にも触れる予定。

講義の性質上、CD, DVD, ビデオ等の資料を頻繁に利用し、実際の音源や映像を通してアメリカのポピュラー音楽に対する理解を深めたい。

テキスト：

プリントを配布する。

アカデミック・ライティング A (2)	
Academic Writing A	教 授 スネル, ウィリアム J.

授業科目の内容：

The aim of this course is to introduce and develop skills in academic written English for students who are required to complete their graduation thesis in that language.

テキスト：

A. Armour, 河内恵子, 松田隆美, W. Snell 『アカデミックライティング応用編 文学・文化研究の英語論文作成法』慶應義塾大学出版会 発行年：1999 年 本体価格：2000 円

In addition to this text, photocopied materials will be used.

参考書：

To be announced at an early stage in the course.

アカデミック・ライティングB (2) 助 教 高 橋 勇

授業科目の内容：

論理的な議論によって読者を納得させることが、アカデミックな論文の目的ですが、そのためには知能やセンスよりもむしろ経験と訓練が必要とされます。この授業では、批判的読解、パラグラフ・ライティング、アウトライン構成、論文執筆（日本語／英語）と、段階をおってその技術を指導してゆく予定です。

卒業論文の英文添削指導を目的としたクラスではないことにご留意ください。

テキスト：

ジョセフ・ジバルディ『MLA 英語論文の手引』第6版（北星堂書店、2005年）

アカデミック・ライティングC (2) 講 師 松 川 祐 子

授業科目の内容：

この講座では、どのようにして自分の意見を明確な英語で文章にして読み手を説得するのかを勉強し、練習します。与えられたテーマについての自分の意見や主張を探るためのアイデア引き出し方法から始め、その次に意見と分析方法を示す **thesis statement** の書き方、段落の構造、論理の組み立て方、**conclusion** の書き方等を学びます。その他には読者説得術、引用方法や参考文献リストの作成法、自分のライティングの手直し方法なども取り上げます。授業は、ディスカッションに加え、個人及びグループでの作業が行われます。

テキスト：

未定。（履修者と相談の上、適切なものを選び、教室で販売します）

参考書：

授業中に紹介します。

アカデミック・ライティングD (2)

英語論文の書き方 講 師 白 鳥 義 博

授業科目の内容：

英語の学術論文（卒業論文や学会発表原稿など）を書くためには、文法や単語などの英作文の能力に加えて、自分の意見をわかりやすく明確に示しつつ、フォーマットの整った論文に形づくる技術が必要です。その技術を身につけるために、この授業ではテーマの立て方からパラグラフの組み立て、引用の仕方や文献リストの書式など、英語のアカデミックライティングの基礎を、論文作成の実際のプロセスにしたがって、一步一步学習します。前期は盗用やパラグラフ・ライティングなど初歩的な論文作法についてテキストを使って学習します。後期は前期に学んだ技術を応用して、各人のテーマに合わせた演習を行い、基礎的な技術の確実な定着を目指します。

テキスト：

- ・ *Developing Academic Writing Skills*. (Macmillan, 2004)
- ・ 『MLA 英語論文の手引き』第6版（北星堂、2005）

参考書：

『アカデミックライティング 応用編』（慶應義塾大学出版会、1999）

アカデミック・ライティングE (2) 講 師 狩 野 み き

授業科目の内容：

英語で論文を書くための演習クラスです。正しい文法・語彙を使うことはもちろん、日本語の論文と英語の論文の論旨の組み立て方の違い、さらには、どうしたら読者を引きつける書き方ができるか、ということに焦点をあてて授業を進めていきます。受講者の積極的な参加を希望します。

テキスト：

なし

参考書：

なし

○独文学専攻

必修科目

テキスト研究中級 (2)

ヘルマン・ヘッセを読む

教授 桑 川 麻里生

授業科目の内容：

ふたつの世界大戦の時代を、勇気と叙情をもって生き抜いた作家ヘルマン・ヘッセ。学問的研究の対象とされることが意外に少ないヘッセですが、そのメッセージと独特のアウトサイダー的叙情は今も読者を獲得し続けています。ドイツ語の読解練習として、ヘッセの短編小説やエッセイをじっくりと読んでみましょう。

テキスト：

コピーで配布します。

参考書：

高橋健二著『ヘルマン・ヘッセ—危機の詩人』新潮社

テキスト研究上級 A (2)

ドイツ語テキスト解説の手引き

教授 大 宮 勘一郎

授業科目の内容：

昨年度の「中級 (2)」の継続で、Adalbert Stifter (1805-68): Bergkristall (1853) を読みます。今年のクリスマスごろにはちょうど山を越えられるように進めてゆきたいと思います。

テキスト：

コピーにて配布

テキスト研究上級 B (2)

シャミッソー『ペーター・シュレミールの不思議な物語』を読む

教授 斎 藤 太 郎

授業科目の内容：

アーデルベルト・フォン・シャミッソー (1781-1838) の『ペーター・シュレミールの不思議な物語』(初版 1814 年) を読む。『影をなくした男』の邦題で親しまれているこの物語には、悪魔との契約、魔法の財布、七里靴等々、様々なメルヘンや伝説に取材したモチーフがちりばめられており、発表まもなくヨーロッパ各国で翻訳・受容されてベストセラーとなった。シャミッソー自身はこの小説を「興に乗って」書いた子供向け「メルヘン」にすぎないとしているが、「失われた影」が何を意味するのか、という謎をめぐる議論は発表直後から現在に至るまで決定的な答えが出ぬままに続いている。授業では作品の精読が中心になるが、あわせて作品の成立事情に関する文献や作品解釈の事例なども扱う予定。

テキスト：

Chamisso, Adelbert von: *Peter Schlemihls wundersame Geschichte*. Stuttgart (Reclams Universal-Bibliothek 93) 1986.

参考書：

Walach, Dagmar: *Erläuterungen und Dokumente zu: Adelbert Von Chamisso: Peter Schlemihls wundersame Geschichte*. Stuttgart (Reclams Universal-Bibliothek 8158) 1982.

ドイツ語作文初級 (2)

Schreiben für Anfänger

訪問講師 (招聘) ドゥッペルータカヤマ、メヒティルド

授業科目の内容：

In diesem Kurs lernen die Teilnehmer, kurze Texte auf Deutsch zu schreiben: Gedichte, Reportagen, Geschichten, Briefe und E-Mails. Am Ende des Jahres soll eine Zeitschrift veröffentlicht werden.

テキスト：

プリントを配布します。

ドイツ語作文中級 (2)

講 師 シュミット、ウーテ

授業科目の内容：

ドイツ語の表現力のアップを目指し、小テキスト作成の練習をします。Zentrale Mittelstufenprüfung のときに試験の一部としてプライベートな手紙・オフィシャルな手紙・読者の意見・小レポートを書くことが要求されます。このテキストの種類を作成するための書き方や表現も練習します。ネタになるドイツ語のテキスト・グラフ・表などはドイツの新聞やインターネットから取りましますので、時事ドイツ語に役立ちます。テキストを書くことはどうしても時間がかかりますのでテキストの作成は宿題となります。テキストの長さは長い場合 A4 1 枚までです。提出した宿題は評価します。試験はありません。

In diesem Kurs soll das Verfassen von kurzen Texten geübt, wie sie z. B. auch bei der Zentralen Mittelstufenprüfung des Goethe-Instituts verlangt werden. Textformen sind dabei persönlicher Brief, offizieller Brief, Leserbrief oder Referat, worin Sie Ihre Meinung ausdrücken oder einen bestimmten Sachverhalt darstellen müssen. Die dazu notwendigen Formen bzw. Redewendungen werden im Unterricht vermittelt und geübt. Als Material werden aktuelle Texte aus Zeitungen oder dem Internet verwendet. Eine schriftliche Abschlußprüfung mache ich nicht, aber die Teilnehmer müssen als Hausaufgabe Texte erstellen, die ich dann bewerte. Keine Angst, die Texte müssen nicht lang sein (bis A4 1 Seite).

テキスト：

コピー

参考書：

なし

コミュニケーション・ドイツ語中級 A (2)

Deutsche Konversation für fortgeschrittene Anfänger

訪問講師 (招聘) ドゥッペルータカヤマ、メヒティルド

授業科目の内容：

ドイツ語を一通り学習した学生のためのドイツ語会話のコースです。

日常生活に必要なドイツ語の復習をしながら、様々なテーマについて自分の意見をドイツ語で表現できるようになるのが目標です。

テキスト：

Projekte (同学社, 2005 年, 2,500 円)

コミュニケーション・ドイツ語中級 B (2)

Deutsche Konversation für fortgeschrittene Anfänger

訪問講師 (招聘) ドゥッペルータカヤマ、メヒティルド

授業科目の内容：

ドイツ語を一通り学習した学生のためのドイツ語会話のコースです。

テキスト：

Projekte (同学社, 2005 年, 2,500 円)

コミュニケーション・ドイツ語上級 A (2)

Konversation und Aufsatz für Fortgeschrittene

教授 フュルンケス、ヨーゼフ

授業科目の内容：

Ziel der Übung ist die mündliche und schriftliche Kommunikationsschulung. Ausgehend vom Hörverständnis und Lesevermögen sollen die Sprechfähigkeiten und Schreibfertigkeiten der Teilnehmer verbessert werden.

Durch den produktiven und reproduktiven Umgang mit aktuellen Themen und Texten aus Deutschland sollen auch die Diskursformen der deutschen Bildungssprache, wie sie in Presse und Medien erscheinen, näher gebracht werden. Thematische Anregungen von seiten der Teilnehmer sind willkommen.

テキスト：
Die Ausgangstexte werden als Kopien vor dem / im Unterricht verteilt.

コミュニケーション・ドイツ語上級B（2） Kommunikationskurs Mittelstufe 訪問講師(招聘) ドゥッペルータカヤマ、メヒティルド
--

授業科目の内容：
In diesem Kurs stehen Sprechübungen im Mittelpunkt. Auf der Grundlage einer Videoserie werden Themen aus dem Alltag in Deutschland behandelt; dazu werden Diskussionsübungen gemacht und Kurzvorträge gehalten.
テキスト：
プリントを配布します。

ドイツ文法研究（2）	教 授 中 山 豊
------------	-----------

授業科目の内容：
現代ドイツ語の文法体系を概観し、既習の文法知識を確固としたものにすることを目的とします。
テキスト：
プリント

ドイツ文学史（4）	教 授 香 田 芳 樹
-----------	-------------

授業科目の内容：
柴田 翔氏はドイツ文学の本質を「自然と親和することへの憧れ、絶対的なもの、超越的なものへの視線」と定義しました。確かにドイツの作家たちは、現実に関心することなく、その背後にあるもの—それがいかに冥く、運命的であっても—を追い求める理想主義者のようにみえます。この文学史の授業では、そうしたドイツ文学のあり方を、時代を代表するいくつかの作品の中に読みとっていきたいと思います。あつかう対象はバロック期から、古典主義、ロマン主義を経て、現代まで幅広く、考察はしかし掘り下げて、しっかりやりたいと思います。
テキスト：
はじめて学ぶドイツ文学史（柴田 翔編著）ミネルヴァ書房

ドイツ文化史（4） ドイツ中世の文学と思想	教 授 香 田 芳 樹
--------------------------	-------------

授業科目の内容：
この授業は、中世ドイツを代表する文学作品を、従来とは違った文化史的な視点から解説していくことを目的としています。とくに中世を「脱神話化の時代」と位置づけ、作家たちが民族固有の神話的素材をどのように文学へと作りかえていったかをみていきます。またそれと平行して、現代の芸術作品（ファンタジー文学・音楽・演劇）に中世の英雄叙事詩、恋愛叙情詩、神秘思想が与えた影響についても考察します。できるだけ多くの原典（翻訳）に当たり、映像資料も使って、ヨーロッパ文化に今も息づく意識の古層に迫りたいと思います。
テキスト：
講義資料のプリントを配布します。
参考書：
ヨアヒム・ブムケ『中世の騎士文化』（平尾浩三他訳）

ドイツ語学研究（4） テキスト結束構造（Textkohäsion）の研究 経済学部 教授 中 山 純
--

授業科目の内容：
テキストの意味の上での結束性を問題にするテキスト結束性（Textkohärenz）に対して文法および統語論的な接続の関係をテキスト結束構造（Textkohäsion）と呼びます。主に接続詞や代名詞などによって結束構造が作りだされると言われます。授業ではいくつかの

ドイツ語テキストの分析を通して結束構造について考えていきます。
テキスト：
プリントを配布します。

参考書： 授業で参考文献リストを配布します。
メディア研究（4） メディア学の基礎（春学期）・ドイツ映画史（秋学期） 准教授 平 田 栄一朗

授業科目の内容：
春学期はメディア学の基本について論じていきます。ドイツのメディア学は、フリードリヒ・キッター、ノルベルト・ポルト、マンフレート・シュナイダーなどの碩学の功績により現在の人文科学の中核に位置づけられるようになりましたが、それらのハイブラウな論考を理解するにはメディアに対する基本的な知識が必要になります。そこでドイツで出版されているメディア学の入門書を参考にしつつ、メディア学の基本（歴史・方法・領域）を紹介していきます。
秋学期はドイツの映画を歴史的に辿りつつ、映画美学の基本について手ほどきをします。ファイト、ラング、リーフェンシュタール、ファスビンダー、ヴェンダースのような巨匠の名作から、ルットマン、ブレヒト、アハテルンブッシュ、ファイエルなどの実験的な試みまで時代・ジャンル別に紹介していきます。また、カメラワーク、モンタージュ、映像の物語方法といった映画美学の特徴と歴史的展開についても解説します。
参考書：
授業でその都度紹介します。

ゲーテ時代研究（4） 「ラブストーリーの研究」	名誉教授 柴 田 陽 弘
----------------------------	--------------

授業科目の内容：
映像資料を多用するラブストーリーの文化論。
ラブレーターの研究。
1. ゲーテのラブストーリー
2. ロマン派のラブストーリー
3. メルヘンのラブストーリー
シンデレラ・眠れる森の美女・白雪姫・美女と野獣など
4. ファンタジーのラブストーリー
5. 映画のラブストーリー
6. アニメーションのラブストーリー
7. マンガのラブストーリー
8. 文学者たちのラブストーリー
9. 音楽家たちのラブストーリー
10. 画家たちのラブストーリー
11. ユートピア
12. 楽園幻想 etc.
テキスト：
『恋の研究』（柴田陽弘編著、慶應義塾大学出版会、2005 年）
参考書：
・『文学のユートピア』（柴田陽弘編著、慶應義塾大学出版会、2007 年）
・『ミッキー・マウス』（柴田陽弘監訳、現代思潮新社、2002 年）

ドイツ文化研究Ⅰ（4） ドイツ語の新聞・雑誌を読む	教 授 桑 川 麻里生
------------------------------	-------------

授業科目の内容：
ドイツ語圏で最近発行された新聞・雑誌の中から、現代ドイツ文化を鋭く語っていると思われる記事・コラムを選び、講読してゆきます。必要に応じ、ドイツ語圏の文化・歴史等に関する基礎知識について講義する時間もとりたいと思います。
テキスト：
コピーで配布します。

参考書：
教室で適宜指示します。

ドイツ文化研究Ⅱ（4）
18 世紀ドイツの社会と文学 教 授 斎 藤 太 郎

授業科目の内容：
三十年戦争やペスト大流行による国土の荒廃や社会的混乱が大きく影を落としていた 17 世紀に対し、18 世紀は政治状況の相対的安定のもと総じて現世志向の強い楽天的世界観が支配的となった時代とされている。文学史的には啓蒙主義、感傷主義、シュトルム・ウント・ドラング、古典主義を包摂し、クロップシュトック、レッシング、ヴィーラント、ヘルダー、ゲーテ、シラー等々を輩出して近代ドイツ文学の出発点となった時代である。この授業では、文学の展開を中心に据えつつ、政治、社会状況、宗教、思想、建築、美術、演劇などさまざまな視点から眺めることによって 18 世紀という時代の全体像を描いてみたい。

参考書：
W・H・ブリュフォード（上西川原章訳）：十八世紀のドイツ ゲーテ時代の社会的背景。三修社、2001

ドイツ文化研究Ⅲ（4）
身体論（春学期）・身体芸術（秋学期） 准教授 平 田 栄一郎

授業科目の内容：
身体についての理論と実践をさまざまな視点から論じます。春学期では身体論の理論を紹介します。前半は、ニーチェ、フロイト、カネッティなどによる古典的な身体論を取り上げて近代から現代の身体論ならびに知覚理論を歴史的にたどっていきます。後半は、ドイツ語で書かれた最近の身体論のなかで興味深い論考を紹介します。秋学期では、身体の実践としてドイツ・ヨーロッパのダンス・シーンを取り上げます。身体芸術としてダンスは、単に身体を表現媒体とするだけでなく、身体と知覚におけるさまざまな位相を上演コンセプト、テーマ、モチーフとして身振り化しています。これらを論じつつ、ドイツ・ヨーロッパのダンスを歴史的かつ具体的に紹介します。

テキスト：
授業中に適宜紹介します。

ドイツ文学研究入門（4） 教 授 大 宮 勸一郎

授業科目の内容：
ドイツ文学の中で、いくつかの必読テキストを挙げ、キー・ワードを与えた上で参加者に解説してもらう、という授業です。解説といっても、比較的短めで翻訳のあるものを扱いますが、分担者にはポイントとなる部分の原文参照を指示します。

テキスト：
最初はゲーテ「若きヴェルテルの悩み」を使います。翻訳でよいですからあらかじめ読んでおくようにしてください。

現代ドイツ研究（4）
Deutsche Sprichwörter 教 授 フュルンケース、ヨーゼフ

授業科目の内容：
In allen Kulturen gehören Sprichwörter neben Volksliedern, Kinderreimen, Sagen und Volksmärchen zu den kollektiven Schöpfungen, die als anonyme Wiedergebrauchsrede-Gattungen ursprünglich nur in mündlicher Tradition existierten. Deutsche Sprichwörter verdanken ihre schriftliche Überlieferung vor allem dem gelehrten Humanismus von Renaissance und Reformation. In den Massenmedien und der Medienkultur der Gegenwart haben Sprichwörter, Sprüche und Redensarten, zwischen Spaß und Kommerz, travestiert in Werbesprüchen, Schlagzeilen, Graffiti, Witzformeln u.a., neue Aktualität erlangt.

Um die Frage nach dem Sinn und Unsinn von Sprichwörtern heute

zu konkretisieren, sollen ausgewählte Sprichwörter nicht nur sprachlich-rhetorisch analysiert, sondern auch in ihren Verwendungszusammenhängen medienästhetisch untersucht werden.

テキスト：
Texte und Materialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt, weitere Literatur wird zu Beginn angegeben.

参考書：
Zur Einführung empfohlen: Deutsche Sprichwörter und Redensarten. Arbeitstexte für den Unterricht. Herausgegeben von Wolfgang Mieder. Reclam Universal-Bibliothek Nr. 9550, Stuttgart 1983.

現代ドイツ研究入門（4）
ドイツの自画像について 教 授 大 宮 勸一郎

授業科目の内容：
日本人の日本人論好きは有名ですが、ドイツにもドイツとドイツ人を論じ語る伝統があります。それらのいくつかを通して、ドイツ人の自意識と自省のありようと、その歴史的变化をみてゆきます。

テキストの内容について、参加者にレポートしてもらうこともあります。

テキスト：
ハイネ「冬物語」、Th. マン「ドイツとドイツ人」など

ドイツ語学文学ゼミナールⅠ（2）
Elias Canetti: “Der Ohrenzeuge. Fünfzig Charaktere”(1974) 教 授 フュルンケース、ヨーゼフ

授業科目の内容：
Elias Canetti (1905-1994) erneuert in seiner “Der Ohrenzeuge” betitelten Sammlung von “Fünfzig Charakteren” eine kleine Form der satirischen Beschreibung, die in der Antike der philosoph Theophrast begründet und im 17. Jahrhundert der französische Moralist La Bruyère neuzeitlich geprägt hat. Canettis synästhetische Charakterbilder sind weniger durch Satire und Moral, vielmehr durch Groteske, Humor und knappe Sprache bestimmt.

Das gründliche Lesen der Charakterbilder soll zu sachlichem Kommentar und methodisch gesicherter Interpretation veranlassen.

テキスト：
Kopien werden auf Wunsch zur Verfügung gestellt.

Text: Elias Canetti: Der Ohrenzeuge. Fünfzig Charaktere. Fischer Taschenbuch Verlag Nr.5420, Frankfurt am Main 1983.

ドイツ語学文学ゼミナールⅡ（2）
休講

ドイツ語学文学ゼミナールⅢ（2） 教 授 中 山 豊

授業科目の内容：
ドイツ語学で卒論を作成する専攻生を主な対象としますが、ドイツ語に興味がある学生も広く歓迎します。文法論を中心に据えますが、参加者の関心や希望に応じて特殊なテーマについても考えていきたいと思っています。

テキスト：
プリントを使用

ドイツ語学文学ゼミナールⅣ（2）
フリードリヒ・シラーの小説『見霊者』研究 教 授 斎 藤 太 郎

授業科目の内容：
シラーが残した数少ない小説のひとつ、『見霊者 Der Geisterseher. Aus den Memoires des Grafen O. 』は 1787 年～1788 年にかけて彼自身が編集・発行する雑誌「タリニア」に連載された。同作は作者自

身による評価が低かったこともあり、物語の途中で連載を打ち切られて未完のままに終わっているが、反面当時の読者の反響は非常に大きく、物語の続行を求める声はひきもきらずシラーのもとに届いたという。読者獲得の面におけるこうした成功は、不可思議な事件の連続・心霊現象の細密な描写・推理小説的謎解きなどが組み込まれた物語自体の純粋な「面白さ」によるところも大きいですが、もうひとつの理由としては、この作品が当時のアクチュアルな社会的事件や話題を採り上げた「時事小説」の側面をもっていたことも挙げられる。この研究会では、テキストを精読しつつ、そのなかに織り込まれた問題系（啓蒙の専制主義と啓蒙のアナーキズム、イエズス会陰謀説、シュレプファー、カリオストロ伯爵、秘密結社等）を読み解くことによって、時事小説としての『見霊者』を再構成してみたい。

テキスト：
Schiller, Friedrich von: *Der Geisterseher. Aus den Memoires des Grafen O.* Stuttgart (Reclams Universal-Bibliothek 7435) 2005.

ドイツ語学文学ゼミナールⅤ（２）
演劇学入門（春学期）・ドラマトゥルギー論（秋学期）
准教授 平 田 栄一朗

授業科目の内容：
演劇を的確に理解・分析するには、戯曲、演出、身振り、ジャンル（台詞劇・音楽劇・ダンスなど）、観客、美的作用などについての理論的前提が不可欠です。これらの理論を身につけてもらうために、春学期はドイツ語の演劇学入門書を輪読します。秋学期は、春学期で得た基礎知識を活かしてドラマトゥルギーについて学びます。ドラマトゥルギーは、従来は、「作劇法」とも呼ばれるように戯曲の創作方法とそれを踏まえた作品解釈を意味しましたが、最近は戯曲をどのように演出するかという演出の方法論と上演解釈も含むようになり、ジャンルもダンス、オペラ、音楽劇、ミュージカル、映画、イベントにまで及んでいます。またドラマトゥルギーを制作現場で創造するドラマトゥルクという演劇人たちがドイツ・ヨーロッパの劇場で活躍しています。当ゼミでは、基本文献の輪読と映像資料を手がかりに、新しいドラマトゥルギーの理論と実践についてジャンルごとに理解を深めてもらえればと思っています。

テキスト：
春学期：Christopher Balme: Einführung in die Theaterwissenschaft (Erich Schmidt Verlag)
秋学期：Peter Reichel (Hrsg.): Studien zur Dramaturgie (Gunter Narr Verlag) など

ドイツ語学文学ゼミナールⅥ（２）
カフカを読む 教 授 大 宮 勘一郎

授業科目の内容：
フランツ・カフカのテキスト群は、20 世紀のドイツ文学を、さらにはあらゆる現代文学を考える上で避けて通れないものである。しかし、それらと向き合うためには、読者の側に求められることがいくつかある。例えば「逐語的に」（＝一字一句にこだわりながら）読むこと、などがそうであり、解釈の自由が得られるのは、この条件を一旦満たした上でのことである。この授業では、予め幾つかの短いテキストを選び、皆でまずドイツ語原文を輪読する。そのうえで考える作業を皆で行う。

テキスト：
Franz Kafka: Der Landarzt; Die Verwandlung u.a. （コピーにて配布）
参考書：
各種邦訳

ドイツ語学文学ゼミナールⅦ（２）
ドイツ詩を読む 教 授 桑 川 麻里生

授業科目の内容：
詩は太古よりの芸術であり、人間が「ことば」というものとありとあらゆる側面から格闘してきた記録です。今年のゼミナールでは、ド

イツ語詩に対するさまざまなアプローチを紹介し、近代以後のさまざまな時代に生まれた詩を多角度から研究してみたいと思います。

テキスト：
『ドイツ詩学入門』（大学書林）
『ドイツ詩必携―詩法と評釈』（山口四郎，鳥影社）
参考書：
『ドイツ名詩選』（岩波文庫）

ドイツ語学文学ゼミナールⅧ（２）
ドイツ騎士道文学の世界 教 授 香 田 芳 樹

授業科目の内容：
現代ドイツ語で中世の「英雄伝説」を読みます。ベルンのディートリヒや、ヴァルタリウスのロマンや冒険からは、ゲルマンの騎士たちの息づかいが伝わってきます。まずは古代人とともに、いにしえの武勲（いさおし）を楽しんでみましょう。テキストは平易に書かれているので、ドイツ語の勉強にもなるでしょう。

テキスト：
Deutsche Heldensagen. Nacherzählt von Gretel und Wolfgang Hecht. Insel Taschenbuch 345.

○仏文学専攻

必修科目

フランスの文化と歴史Ⅰ(2)(春学期)

フランスの過去と現在をよりよく知るために

教授 小倉孝誠

授業科目の内容：

フランスの文化、歴史、社会について、過去から現代までを概観する授業です。どのような分野であれフランスに興味がある、フランスのことを勉強している（あるいはしたい）という人のために、フランスに関する一通りの知識を身につけてもらうことを目的とします。必要に応じてビデオ、DVD、絵画、映画などを見ます。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

- ・都立大学フランス文学研究室編『フランスを知る』（法政大学出版局、2003年）
- ・カールツィウス『フランス文化論』（みすず書房、1976年）

フランスの文化と歴史Ⅱ(2)(秋学期)

教授 小倉孝誠

授業科目の内容：

春学期の続き。

フランス語学演習Ⅰ(X)(1)(春学期)

フランス語リーディング

助教 築山和也

授業科目の内容：

1年生で学習した文法項目を再確認しながら、まずはフランス語の講読に慣れることが目標となります。教科書はモーパッサンの短編を題材として作られたもので、読むのは原作をフランス語学習者向けにリライトした文章です。付属のCDは自宅で音読の練習をするのにも役立つでしょう。聞き取りや語彙力を高める問題も含まれていますから、読解力を中心として総合的にフランス語のレベルアップを図ります。

テキスト：

Guy de Maupassant, *Contes fantastiques*, raconté par Claude Louvet, Cideb Editrice, 2000.

参考書：

教室で指示します。

フランス語学演習Ⅰ(Y)(1)(春学期)

仏検2, 3級への準備

教授 川口順二

授業科目の内容：

仏検2, 3級の受験の準備をします。

テキスト：

久松健一著 アトゥ (Atout) —〈仏検3級・2級レベル〉中級文法の決め手 駿河台出版社

フランス語学演習Ⅰ(Z)(1)(春学期)

読みながら覚えよう

准教授 市川 崇

授業科目の内容：

初級文法を学んだ者のために易しくリライトされた、現代フランスの社会に関する雑誌記事を読んで行きます。同時に、テキストの内容を短いフランス語で要約する練習、また学習した語彙を用いて作られた簡単な文章の聞き取りをも行います。フランス語の検定試験受験を考えている皆さんにとって格好の練習の機会となるでしょう。

テキスト：

アンフォーフランス語でニュースを読むー、井上美穂, Anne-Laure Destremau, 北村亜矢子 編著, 駿河台出版

フランス語学演習Ⅱ(X)(1)(秋学期)

フランス語リーディング

助教 築山和也

授業科目の内容：

仏検2級を目指すレベル設定で、講読を中心にフランス語力の底上げを図ります。使用する教材は受講者のレベルを見極めた上で決定しますが、比較的読みやすい新聞・雑誌の記事などに数多く接するつもりです。

テキスト：

プリントで配布する予定。

参考書：

教室で指示します。

フランス語学演習Ⅱ(Y)(1)(秋学期)

仏検2, 3級への準備

教授 川口順二

授業科目の内容：

春学期のフランス語学演習Ⅰ(Y)に引き続いて仏検2, 3級の受験の準備をします。

テキスト：

久松健一著 アトゥ (Atout) —〈仏検3級・2級レベル〉中級文法の決め手 駿河台出版社

フランス語学演習Ⅱ(Z)(1)(秋学期)

読みながら覚えよう

准教授 市川 崇

授業科目の内容：

初級文法を学んだ者のために易しくリライトされた、現代フランスの社会に関する雑誌記事を読んで行きます。同時に、テキストの内容を短いフランス語で要約する練習、また学習した語彙を用いて作られた簡単な文章の聞き取りをも行います。フランス語の検定試験受験を考えている皆さんにとって格好の練習の機会となるでしょう。

テキスト：

アンフォーフランス語でニュースを読むー、井上美穂, Anne-Laure Destremau, 北村亜矢子 編著, 駿河台出版

フランス語表現演習Ⅰ(X)(1)(春学期)

教授 片木智年

授業科目の内容：

実用フランス語の基礎づくりを目的にした演習です。急がば回れで、1年次に習ったはずの知識の徹底から始めます。動詞変化の自動化、基礎語彙の知識、聞き取り能力なくしては、当然のことですがコミュニケーションもままなりません。現代フランスの映像、ポップスなどの紹介にも努めて、息抜きのできるようにはいたしますが、学生諸氏の積極的参加と努力が要求されます。

テキスト：

プリント

フランス語表現演習Ⅰ(Y)(1)(春学期)

准教授 喜田浩平

授業科目の内容：

フランス語を書く能力を高める授業です。和文仏訳ではなく、フランス語で考えながら自由に文章が書けるようになることが目的です。

テキスト：

教室で指示します。

参考書：

- ・『ラルース・やさしい仏辞典 NIVEAU 1』『ラルース・やさしい仏辞典 NIVEAU 2』駿河台出版社
- ・松原秀治、松原秀一『フランス語らしく書く』白水社

- ・原田早苗（他）『コレクション・フランス語 7 書く』白水社
- ・クロード・ロベルジュ（他）『21 世紀フランス語表現辞典』駿河台出版社
- ・『白水社ラルース仏和辞典』白水社

フランス語表現演習Ⅰ（Z）（1）（春学期）
助 教 井 上 櫻 子

授業科目の内容：
初級文法の知識をもとに、自分の身の回りのこと、自分が感じたこと、考えたことを簡単なフランス語で表現する練習をします。和文仏訳の問題だけではなく、教科書にある仏文モデルをもとにした簡単な自由作文にも取り組みながら、少しでも「フランス語らしい文章」が書けるようになることを目標にしたいと思います。
課題に取り組みやすくするため、必要に応じて、文法事項や語彙を補足するプリントを配布します。
また、時間の余裕があれば、ビデオ、DVD を用いてフランスの文化を紹介するミニ講義もおこない、感想をフランス語で書く練習も取り入れたいと考えています。

テキスト：
高垣由美『大学生のためのフランス語（*Le Français universitaire*）』（駿河台出版社）

参考書：
初回授業時に紹介します。

フランス語表現演習Ⅱ（X）（1）（秋学期）
教 授 片 木 智 年

授業科目の内容：
前期でえた知識をさらに発展させます。

テキスト：
プリント

フランス語表現演習Ⅱ（Y）（1）（秋学期）
准教授 喜 田 浩 平

授業科目の内容：
フランス語を書く能力を高める授業です。和文仏訳ではなく、フランス語で考えながら自由に文章が書けるようになることが目的です。

テキスト：
教室で指示します。

参考書：
・『ラルース・やさしい仏和辞典 NIVEAU 1 』『ラルース・やさしい仏和辞典 NIVEAU 2』駿河台出版社
・松原秀治、松原秀一『フランス語らしく書く』白水社
・原田早苗（他）『コレクション・フランス語 7 書く』白水社
・クロード・ロベルジュ（他）『21 世紀フランス語表現辞典』駿河台出版社
・『白水社ラルース仏和辞典』白水社

フランス語表現演習Ⅱ（Z）（1）（秋学期）
助 教 井 上 櫻 子

授業科目の内容：
初級文法の知識をもとに、自分の身の回りのこと、自分が感じたこと、考えたことを簡単なフランス語で表現する練習をします。和文仏訳の問題だけではなく、教科書にある仏文モデルをもとにした簡単な自由作文にも取り組みながら、少しでも「フランス語らしい文章」が書けるようになることを目標にしたいと思います。
課題に取り組みやすくするため、必要に応じて、文法事項や語彙を補足するプリントを配布します。
また、時間の余裕があれば、ビデオ、DVD を用いてフランスの文化を紹介するミニ講義もおこない、感想をフランス語で書く練習も取り入れたいと考えています。

テキスト：
高垣由美『大学生のためのフランス語（*Le Français universitaire*）』（駿河台出版社）

参考書：
初回授業時に紹介します。

フランス語表現演習Ⅲ（X）（1）（春学期）
Communiquons !
講 師 ペリセロ、クリスティアン・アンドレ

授業科目の内容：
Ce cours vous permettra de pratiquer la communication orale et écrite en faisant des conversations françaises avec un Français, c'est à dire votre professeur et en écrivant de petites rédactions. Chaque semaine le sujet de la conversation et de la rédaction seront différents et chaque mois nous regarderons un film qui sera aussi un sujet de conversation.

テキスト：
Pas de texte mais des photocopies

フランス語表現演習Ⅲ（Y）（1）（春学期）
講 師 ボダン、エマニュエル

授業科目の内容：
Dans ce cours d'expression orale, nous aborderons divers aspects de la culture française à partir de documents authentiques variés (chansons, BD, vidéos...)
L'assiduité aux cours est requise
L'évaluation reposera sur des tests semestriels et sur un contrôle continu.

フランス語表現演習Ⅲ（Z）（1）（春学期）
Pratique du français écrit et oral
訪問准教授(招聘) ブランクール、ヴァンサン

授業科目の内容：
Entraînement à l'expression orale et écrite. Conversation, exercices grammaticaux, rédaction...
Ce cours vous aidera à mettre en pratique vos connaissances linguistiques afin d'améliorer vos compétences orales et écrites.

テキスト：
TAXI ! 2 Méthode de français, Hachette, 2003

フランス語表現演習Ⅳ（X）（1）（秋学期）
Communiquons !
講 師 ペリセロ、クリスティアン・アンドレ

授業科目の内容：
Ce cours vous permettra de pratiquer la communication orale et écrite en faisant des conversations françaises avec un Français, c'est à dire votre professeur et en écrivant de petites rédactions. Chaque semaine le sujet de la conversation et de la rédaction seront différents et chaque mois nous regarderons un film qui sera aussi un sujet de conversation.

テキスト：
Pas de texte mais des photocopies

フランス語表現演習Ⅳ（Y）（1）（秋学期）
講 師 ボダン、エマニュエル

授業科目の内容：
Dans ce cours d'expression orale, nous aborderons divers aspects de la culture française à partir de documents authentiques variés (chansons, BD, vidéos...)
L'assiduité aux cours est requise.

L'évaluation reposera sur des tests semestriels et sur un contrôle continu.

フランス語表現演習Ⅳ (Z) (1) (秋学期)
Pratique du français écrit et oral
訪問准教授(招聘) ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：
Entraînement à l'expression orale et écrite. Conversation, exercices grammaticaux, rédaction...

Ce cours vous aidera à mettre en pratique vos connaissances linguistiques afin d'améliorer vos compétences orales et écrites.

テキスト：
TAXI ! 2 Méthode de français, Hachette, 2003

フランス文学史Ⅰ (2) (春学期)	教授 荻野安奈
	教授 片木智年

授業科目の内容：
中世から18世紀までの通史です。

テキスト：
『新版フランス文学史』(白水社)

フランス文学史Ⅱ (2) (秋学期)	准教授 峯村 傑
	助教 築山 和也

授業科目の内容：
19世紀, 20世紀のフランス文学の通史です。

テキスト：
『新版フランス文学史』(白水社)
履修者は生協で購入してください。

フランス文学史Ⅲ (2) (春学期)	准教授 峯村 傑
20世紀文学批評の歴史 (1)	

授業科目の内容：
フランスを中心として20世紀の文学批評の歴史を講義します。ただし, 通史, 概論に終始するのではなく, より具体的に, それぞれの批評が対象作品をどのように読み解いているのかも時間の許す限り見ていきます。批評が批評として立ち上がってくる現場, 作品が批評によって新たな生命を吹き込まれる瞬間をとらえます。

テキスト：
ジャン＝イヴ・タディエ『二十世紀の文学批評』, 大修館書店, 1993年
プリント(日本語, フランス語)も多く配布します。

参考書：
授業時に適宜紹介し, 必要に応じてプリントを配布します。

フランス文学史Ⅳ (2) (秋学期)	准教授 峯村 傑
20世紀文学批評の歴史 (2)	

授業科目の内容：
方針はフランス文学史Ⅲと同じですが, 本講義では, アントワーズ・コンパニョンの著作 *Le Démon de la théorie* (未訳) を案内役として, それぞれの批評が文学を巡る諸問題をどのように克服し, あるいは克服し損なっているのかを検討します。

テキスト：
授業時にプリント(日本語, フランス語)を配布します。

参考書：
授業時に適宜紹介し, 必要に応じてプリントを配布します。

フランス文学と近代Ⅰ (2) (春学期)
教授 牛場 曉夫

授業科目の内容：
「小説の歴史」(Ⅰ)
・「近代小説」以前のさまざまな小説
・「近代小説」(バルザック, スタンダールなど)
日本の小説と比較しつつ進めたい。

フランス文学と近代Ⅱ (2) (秋学期)
教授 牛場 曉夫

授業科目の内容：
「小説の歴史」(Ⅱ)
・「近代小説」以降(フロベール, プルースト)
・20世紀の小説
プルーストや20世紀小説の多彩さはまだよく知られていないのでくわしく語りたい。

フランス文学と近代Ⅲ (2) (春学期)	講師 阿部 静子
「68年5月」への道とその後	

授業科目の内容：
1968年の5月革命にスポットをあて, そこに至るまでの過程およびそれ以後の時代の動きを社会, 文化活動, 政治の各視点から探っていく。レジス・ドブレの分類によると, 近・現代フランスの知的勢力の推移は「大学の時代」, 「出版の時代」, 「メディアの時代」に分類されるが, 「メディアの時代」に入ってから間もなく起こった5月革命が, 前世紀においてどのような役割を果たしたのか, また今世紀にどのような意味を持つのかを, 68年という時代のパラダイムを一方に, その前後数十年のディアクロニックな歴史をもう一方に見据えて考えていく。1960年に創刊されたフィリップ・ソレルス主催のアヴァンギャルド文芸誌「テル・ケル」を, この時代を読み解く鍵とする。フィリップ・ガレル監督の新作「恋人たちの失われた革命」の中で, 20才の詩人である主人公は, 68年5月の夜, パリで暴動に参加した後, 機動隊から逃れて身を潜めた屋根の上で, 1789年, 1848年を夢見る。果たしてこの小さな革命は歴史に残る大きな革命になるのだろうか。

テキスト：
プリントを配布する予定。

参考書：
・「小さな兵隊」(ジャン＝リュック・ゴダール監督, 1960年)
・「恋人たちの失われた革命」(フィリップ・ガレル監督, 2006年)
・「ドリーマーズ」(ベルナルド・ベルトルッチ監督, 2003年)
・ジュリア・クリステヴァ「サムライたち」(1992年, 筑摩書房)
・Jean THIBAUDEAU: Mai 68 en France(Seuil 1970)
・Philippe FOREST: Histoire de Tel Quel(Seuil 1995)
・Tel Quel (Seuil 1960-1982)他。

フランス文学と近代Ⅳ (2) (秋学期)	講師 阿部 静子
「68年5月」への道とその後	

授業科目の内容：
1968年の5月革命にスポットをあて, そこに至るまでの過程およびそれ以後の時代の動きを社会, 文化活動, 政治の各視点から探っていく。レジス・ドブレの分類によると, 近・現代フランスの知的勢力の推移は「大学の時代」, 「出版の時代」, 「メディアの時代」に分類されるが, 「メディアの時代」に入ってから間もなく起こった5月革命が, 前世紀においてどのような役割を果たしたのか, また今世紀にどのような意味を持つのかを, 68年という時代のパラダイムを一方に, その前後数十年のディアクロニックな歴史をもう一方に見据えて考えていく。1960年に創刊されたフィリップ・ソレルス主催のアヴァンギャルド文芸誌「テル・ケル」を, この時代を読み解く鍵とする。フィリップ・ガレル監督の新作「恋人たちの失われた革命」の中で, 20才の詩人である主人公は, 68年5月の夜, パリで暴動に参加した後, 機動隊から

ら逃れて身を潜めた屋根の上で、1789 年、1848 年を夢見る。果たしてこの小さな革命は歴史に残る大きな革命になるのだろうか。

テキスト：
プリントを配布する予定。

参考書：
・「小さな兵隊」(ジャン＝リュック・ゴダール監督、1960 年)
・「恋人たちの失われた革命」(フィリップ・ガレル監督、2006 年)
・「ドリーマーズ」(ベルナルド・ベルトルッチ監督、2003 年)
・ジュリア・クリステヴァ「サムライたち」(1992 年、筑摩書房)
・Jean THIBAUDEAU: Mai 68 en France(Seuil 1970)
・Philippe FOREST: Histoire de Tel Quel(Seuil 1995)
・Tel Quel (Seuil 1960-1982) 他。

フランス文学と現代Ⅰ（2）（春学期）		
1930～40年代の文学と思想	准教授	市川 崇

授業科目の内容：
30～40 年代を中心としたフランスの社会と文学との関係を考察する授業です。授業は以下の 4 つの柱から構成されます。1) 歴史家の研究を参考にした政治・社会的事件の紹介 2) 当時の代表的政治思想家、哲学者、社会学者による人間と社会の関係をめぐる論考の概略 3) ブルトン、バタイユ、マルロー、ブランショ、サルトルら当時の文学者の作品に見る戦前、戦中、戦後の政治・社会的事件に対する彼らの反応、彼らにとっての「書くこと」が持つ社会的意義の検討 4) ナンシー、ブランショ、デリダ、バディウらによる「共同体」を巡る論考に照らした当時の文人たちが求めた理想社会の意義の考察。

テキスト：
授業中にプリントを配布します。

参考書：
ジャン＝ポール・サルトル「壁」「嘔吐」、「文学とは何か」人文書院。ジュルジュ・バタイユ「文学と悪」ちくま学芸文庫、「内的体験」現代思潮社、モーリス・ブランショ「焰の文学」現代思潮社、「明かしえぬ共同体」朝日出版、ジャン＝リュック・ナンシー「無為の共同体」朝日出版、フランス文学講座 5「思想」大修館、La France des annés 30, Serges Berstein, Armand Colin

フランス文学と現代Ⅱ（2）（秋学期）		
1930～40年代の文学と思想	准教授	市川 崇

授業科目の内容：
30～40 年代を中心としたフランスの社会と文学との関係を考察する授業です。授業は以下の 4 つの柱から構成されます。1) 歴史家の研究を参考にした政治・社会的事件の紹介 2) 当時の代表的政治思想家、哲学者、社会学者による人間と社会の関係をめぐる論考の概略 3) ブルトン、バタイユ、マルロー、ブランショ、サルトルら当時の文学者の作品に見る戦前、戦中、戦後の政治・社会的事件に対する彼らの反応、彼らにとっての「書くこと」が持つ社会的意義の検討 4) ナンシー、ブランショ、デリダ、バディウらによる「共同体」を巡る論考に照らした当時の文人たちが求めた理想社会の意義の考察。

テキスト：
授業中にプリントを配布します。

参考書：
ジャン＝ポール・サルトル「壁」「嘔吐」、「文学とは何か」人文書院。ジュルジュ・バタイユ「文学と悪」ちくま学芸文庫、「内的体験」現代思潮社、モーリス・ブランショ「焰の文学」現代思潮社、「明かしえぬ共同体」朝日出版、ジャン＝リュック・ナンシー「無為の共同体」朝日出版、フランス文学講座 5「思想」大修館、La France des années 30, Serges Berstein, Armand Colin

フランス語学Ⅰ（2）（春学期）	准教授	喜 田 浩 平
------------------------	-----	---------

授業科目の内容：
フランス語を言語学的に研究するための入門的授業です。一般言語学の様々な方法論、操作概念などをフランス語の具体例をあげながら紹介します。

テキスト：
プリントを配布します。
参考書：
教室で指示します。

フランス語学Ⅱ（2）（秋学期）	准教授	喜 田 浩 平
------------------------	-----	---------

授業科目の内容：
フランス語を言語学的に研究するための入門的授業です。一般言語学の様々な方法論、操作概念などをフランス語の具体例をあげながら紹介します。

テキスト：
プリントを配布します。
参考書：
教室で指示します。

フランス語学演習Ⅲ（1）（春学期）	教 授	小 倉 孝 誠
--------------------------	-----	---------

授業科目の内容：
フランス語で書かれたテキストを徹底的に読む訓練をします。受講者には、毎回教室で一つのテキストを辞書参照で日本語に訳してもらい、それを教員（小倉）が添削して翌週に返却し、解説します。おもに大学院をめざす学生を対象とする授業です。

テキスト：
プリント配布
参考書：
授業中に指示します。

フランス語学演習Ⅳ（1）（秋学期）		
《出会い》を読む	教 授	小 倉 孝 誠

授業科目の内容：
文学の中の出会い：男と女の出会いは、文学においてしばしばわめて感動的な場面です。そこではいきなり恋に落ちたり、二人の運命が決まったり、新たなドラマが展開したりします。文学で語られる出会いのシーンの主題と変奏を味わってみます。

テキスト：
《Leurs yeux se rencontrèrent...》, Folio（生協で各自購入のこと）
参考書：
授業中に指示します。

フランス語学演習Ⅴ（1）（春学期）		
現代作家講読	教 授	川 口 順 二

授業科目の内容：
現代作家の小説の抜粋を講読しながら、フランス語の文法・語彙の知識の向上を目指します。また映画などを用いて話し言葉の実際の学習してもらいます。

テキスト：
プリントで配布します。

フランス語学演習Ⅵ（1）（秋学期）		
現代作家講読	教 授	川 口 順 二

授業科目の内容：
春学期のフランス語学演習Ⅴと同様、現代作家の小説の抜粋を講読しながら、フランス語の文法・語彙の知識の向上を目指します。映画などを使った話し言葉の学習も春学期の継続です。
テキスト：
プリントで配布します。

フランス語学演習Ⅶ (1) (春学期) Lecture et analyse de textes littéraires et théâtraux Lire, comprendre, écrire, jouer 訪問准教授(招聘) ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

A travers la lecture de textes littéraires du XIXème et XXème siècles, les étudiants auront la possibilité de pratiquer et d'enrichir leur français.

Une initiation aux techniques d'analyse de texte sera proposée.

Les testes étudiés donneront aussi l'occasion à la pratique d'exercices d'écriture.

Les textes théâtraux feront l'objet de petites mises en scène durant la classe.

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

フランス語学演習Ⅷ (1) (秋学期) Lecture et analyse de textes littéraires et théâtraux Lire, comprendre, écrire, jouer 訪問准教授(招聘) ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

A travers la lecture de textes littéraires du XIXème et XXème siècles, les étudiants auront la possibilité de pratiquer et d'enrichir leur français.

Une initiation aux techniques d'analyse de texte sera proposée.

Les testes étudiés donneront aussi l'occasion à la pratique d'exercices d'écriture.

Les textes théâtraux feront l'objet de petites mises en scène durant la classe.

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

フランス語表現演習Ⅴ A (1) (春学期) 講師 シャルコフ, スヴェトラナ

授業科目の内容：

会話と発表を行う。(発表は年2回)
コミュニケーションスキルを上げるため。

テキスト：

授業内で指示する。

フランス語表現演習Ⅴ B (1) (春学期) 教授 片木 智年

授業科目の内容：

専門コースに分類されていますが、二年生のうちに集中的に力をつけたい学生を想定した「二次インテンシヴ」科目です(もちろん、基礎を徹底的に復習したい上級生も履修可能)。

演習は前期集中で週二回、現時点では水3、木3を予定しています。

ヒアリングの集中特訓と同時に、基礎語彙、動詞変化、基本構文を反射的に使えることを目的とした練習をします。本年は初級修了者を対象にしたヴォキャブラリーの修得に力を入れます。3ヶ月で1000語覚えてもらいます。音楽や映像資料、マルチメディア教材を取り入れますが、基本的には千本ノックのような演習です。目的意識がなければ辛いです。04学則の適用学生は片方だけの履修も可能ですが、効果は文字通り半減するおそれがあります。

フランス語表現演習Ⅵ A (1) (秋学期) 講師 シャルコフ, スヴェトラナ

授業科目の内容：

会話と発表を行う。(発表は年2回)

コミュニケーションスキルを上げるため。

テキスト：

授業内で指示する。

フランス語表現演習Ⅵ B (1) (春学期) 教授 片木 智年

授業科目の内容：

専門コースに分類されていますが、二年生のうちに集中的に力をつけたい学生を想定した「二次インテンシヴ」科目です(もちろん、基礎を徹底的に復習したい上級生も履修可能)。

演習は前期集中で週二回、現時点では水3、木3を予定しています。

ヒアリングの集中特訓と同時に、基礎語彙、動詞変化、基本構文を反射的に使えることを目的とした練習をします。本年は初級修了者を対象にしたヴォキャブラリーの修得に力を入れます。3ヶ月で1000語覚えてもらいます。音楽や映像資料、マルチメディア教材を取り入れますが、基本的には千本ノックのような演習です。目的意識がなければ辛いです。04学則の適用学生は片方だけの履修も可能ですが、効果は文字通り半減するおそれがあります。

フランス語表現演習Ⅶ A (1) (春学期) Pratique de l'oral et de l'écrit A la découverte de la société française contemporaine 訪問准教授(招聘) ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

Le but de ce cours est double :

- pratiquer à l'écrit et à l'oral son français
- mieux comprendre la France d'aujourd'hui

Les documents proposés seront très divers : articles de journaux, vidéos — extraits de film ou d'émission télévisées —, chanson, extraits de bande dessinée. Ils feront l'objet d'une analyse précise pour mieux en comprendre le sens et leur étude sera suivie d'exercices afin de mieux maîtriser les expressions nouvelles rencontrées.

La pratique de l'écrit passera par la rédaction régulière de devoirs à la maison.

Des activités extérieures au cours pourront être envisagées (visite du lycée franco-japonais de Tokyo, ...)

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

授業の計画：

初回の授業で提示します。

フランス語表現演習Ⅶ B (1) (春学期) 准教授 喜田 浩平
--

授業科目の内容：

高いレベルのフランス語の文章を書くための技法を学びます。

テキスト：

プリントを使用します。

参考書：

仏仏辞典

フランス語表現演習Ⅷ A (1) (秋学期) Pratique de l'oral et de l'écrit A la découverte de la société française contemporaine 訪問准教授(招聘) ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

Le but de ce cours est double :

- pratiquer à l'écrit et à l'oral son français
- mieux comprendre la France d'aujourd'hui

Les documents proposés seront très divers : articles de journaux, vidéos — extraits de film ou d'émission télévisées —, chanson, extraits de bande dessinée. Ils feront l'objet d'une analyse précise pour

mieux en comprendre le sens et leur étude sera suivie d'exercices afin de mieux maîtriser les expressions nouvelles rencontrées.

La pratique de l'écrit passera par la rédaction régulière de devoirs à la maison.

Des activités extérieures au cours pourront être envisagées (visite du lycée franco-japonais de Tokyo, ...)

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

フランス語表現演習ⅧB（1）（秋学期）
准教授 喜 田 浩 平

授業科目の内容：

高いレヴェルのフランス語の文章を書くための技法を学びます。

テキスト：

プリントを使用します。

参考書：

仏仏辞典

フランス文学演習ⅠA（1）（春学期）
教 授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：

「フランス文学史」に具体性を与えるための授業ですので、同時に履修されることをお勧めします。文庫本で入手可能な各時代の名作を和訳で読んでいきます。半期で5冊程度です。

テキスト：

授業中に随時指摘

フランス文学演習ⅠB（1）（春学期）
中世フランス文学入門 講 師 松 村 剛

授業科目の内容：

中世フランス文学の多様なジャンルの中から、旅行記、ファブリオ、冒険物語といったジャンルにふれます。

テキスト：

Albert HENRY, Chrestomathie de la littérature en ancien français (Francke, 1994)

フランス文学演習ⅡA（1）（秋学期）
教 授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：

前期の続きですが、後期のみの参加も可能です。

テキスト：

授業中に随時指摘

フランス文学演習ⅡB（1）（秋学期）
中世フランス文学入門 講 師 松 村 剛

授業科目の内容：

春学期の継続として、演劇、武勲詩、宗教文学といったジャンルに接することにします。

テキスト：

Albert HENRY, Chrestomathie de la littérature en ancien français (Francke, 1994)

フランス文学演習ⅢA（1）（春学期）
戦争はいかにして文学となりうるか（1） 准教授 岑 村 傑

授業科目の内容：

戦争という大禍に直面した作家が、何を書き、どう行動してきたのかを探究するために、あまたある戦争文学のなかから、第2次世界大戦時の抵抗文学の白眉、ヴェルコール『海の沈黙』（*Le Silence de la*

mer）を読みます。

演習授業ですから、講義のみの授業にはなりません。フランス文学読解の実践力を養うことも授業の大きな目的として、訳文作成、要約、論述など、文学を読むということに不可欠な作業について、多くの訓練を行います。

テキスト：

Vercors, *Le Silence de la mer*（第三書房）

履修者は生協で購入してください。

参考書：

授業時に適宜紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

フランス文学演習ⅢB（1）（春学期）
ポストモダン：芸術と超越 講 師 細 貝 健 司

授業科目の内容：

本講座は、主題に関する短いテキストの講読、それについての議論、その内容を敷衍する主題についての小論文の作成という3つのパートで構成されます。講座の各回は、受講者の中の担当者数名が中心になり、フランス語のテキストを読み進め、そのテキストが提示する問題を、教師と受講者、あるいは受講者同士で議論し、それを通じて解明していくという形式を取ります。さらに、数回の講座の後、それまでの内容を敷衍する課題が教師から出題され、受講者はそれについて、学術的な形式に則った小論文を書くよう求められます。

春学期のテーマは、前世紀末に栄えた「ポストモダン」と呼ばれる「モダン」芸術の試みの本質の解明と、その試みが抱える問題についてです。いわゆるモダン芸術に特徴的であった「進歩」や「利他的な美」を乗り越えた筈の「ポストモダン」芸術は、実は古典的な「超越」を無自覚的に前提としているのでは、という主旨の批判が、現在提示されています。この批判が正鵠を射ているかについて、幾つかのテキストを読みながら考えていきます。

なお、本講座は、昨年の同講座の延長線上にあります。昨年度の内容についての予備知識は特に必要ありません。

テキスト：

毎回、テーマに沿ったテキストの抜粋をプリントして配ります。

参考書：

授業中に適宜指示します。

フランス文学演習ⅣA（1）（秋学期）
戦争はいかにして文学となりうるか（2） 准教授 岑 村 傑

授業科目の内容：

戦争という大禍に直面した作家たちが、何を書き、どう行動してきたのかを探究します。

フランスが20世紀に経験した両世界大戦や、あるいはスペイン戦争、アルジェリア戦争が、セリヌス、マルロー、サルトル、カミュ等の文学にどのような影響を及ぼしているのかを考察していきます。抵抗運動や強制収容所から生まれた作品も視野に入れる予定です。

演習授業ですから、講義のみの授業にはなりません。フランス文学読解の実践力を養うことも授業の大きな目的として、訳文作成、要約、論述など、文学を読むということに不可欠な作業について、多くの訓練を行います。

テキスト：

授業時にプリントで配布します。

参考書：

授業時に適宜紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

フランス文学演習ⅣB（1）（秋学期）
作者、エクリチュール、作品 講 師 細 貝 健 司

授業科目の内容：

本講座の形式は、秋学期も春学期に準じ、短いテキストの講読、それについての議論、その内容を敷衍する主題についての小論文の作成という3つのパートで構成されます。

春学期のテーマは、時代分析から離れ、作品を製作する行為と作者

との関係について考えていきます。作品が作成される過程を、広い意味で「エクリチュール」と定義すると、「エクリチュール」とは、どのような現象を引き起こし、作者をどのように変質させ、作品を生み出すのでしょうか。この問題の考察は、ともすると神秘主義的な袋小路に陥る危険がありますが、本講座では、「エクリチュール」、「作品」、「作者」の関係を「社会的」に分析することで、なるべく客観的な視点を確立することから出発し、そこから Blanchot, Bataille, Kafka, Proust などの証言を分析していきます。

また、Derrida や Kristeva などのエクリチュール論も適宜参照していきたいと考えています。

なお、秋学期の本講座は、作品と「超越」の問題を扱うという点で、春学期とテーマの連続はあるものの、扱う主題も全く独立していますので、秋学期だけ受講しても何の問題ありません。

テキスト：

毎回、テーマに沿ったテキストの抜粋をプリントして配ります。

参考書：

Maurice Blanchot, “L'Espace littéraire”, Gallimard, Collection “folio/essais”

フランス文学演習ⅤA (1) (春学期)

象徴派から現代詩へ 講 師 秋 元 幸 人

授業科目の内容：

マラルメ以降現代詩に至る詩作品の紹介と精読。履修者は、担当の度毎にA4 2～3枚のレジュメを用意して発表する。

テキスト：

毎回コピーにて配布。

参考書：

『新版フランス文学史』（白水社）、『世界名詩集大成』フランス篇4冊（平凡社）

フランス文学演習ⅤB (1) (春学期)

講 師 岩 崎 洋 介

授業科目の内容：

20世紀のフランス哲学を代表する一人 Gaston Bachelard（1884－1962）の Le nouvel esprit scientifique（1934）を読みます。

バシュアールの著作は主に前期のフランス認識論に列なり後のアルチュセールやフーコの先駆的な位置を占める科学哲学と、後期の四大元素をモチーフとした想像力をめぐる作品に大別されますが、ここで扱うのは前者の代表作の一つです。

受講者の皆さんに読んでいただくか、予め決めておいた箇所を要約していただきます。

テキスト：

Le nouvel esprit scientifique (Gaston Bachelard)

フランス文学演習ⅥA (1) (秋学期)

象徴派から現代詩へ 講 師 秋 元 幸 人

授業科目の内容：

マラルメ以降現代詩に至る詩作品の紹介と精読。履修者は、担当の度毎にA4 2～3枚のレジュメを用意して発表する。

テキスト：

毎回コピーにて配布。

参考書：

『新版フランス文学史』（白水社）、『世界名詩集大成』フランス篇4冊（平凡社）

フランス文学演習ⅥB (1) (秋学期)

講 師 岩 崎 洋 介

授業科目の内容：

春学期に準じます

フランス語学文学研究会Ⅰ (1) (春学期)
フランス語学文学研究会Ⅲ (1) (春学期)

准教授 喜 田 浩 平

授業科目の内容：

主に言語の運用に関する様々な問題をフランス語を中心にして考える研究会です。例えば次のようなテーマを扱います。

- ・接続詞や副詞の語用論的側面の分析
- ・非文学的テキスト（広告、新聞、雑誌、笑い話、マンガ・BD、絵本など）の分析
- ・文体論、レトリック
- ・フランス語教育
- ・翻訳論

また言語についての思想、哲学的考察も対象とします。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

授業中に指示します。

フランス語学文学研究会Ⅰ (1) (春学期)
フランス語学文学研究会Ⅲ (1) (春学期)

准教授 岑 村 傑

授業科目の内容：

フランス第三共和政期から20世紀、21世紀にいたるまでの小説を対象とした研究会です。受講者は、各自選択した小説を読み、そこから研究の主題たりうる問題を「発見」し、それについての資料を「調査」し、自分独自の見解を提出すべく「思考」し、最終的には第三者を説得する「論述」をまとめ上げることを目指します。音楽でも絵画でも政治でも歴史でもなく、しかし音楽も絵画も政治も歴史も包含しうる巨大で柔軟な器としての小説に、どっぷりとつかりましょう。

テキスト：

授業時にプリントで配布します。

参考書：

授業時に適宜紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

フランス語学文学研究会Ⅰ (1) (春学期)
フランス語学文学研究会Ⅲ (1) (春学期)

教 授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

「19世紀後半から現代までの文学・文化・芸術」時代の特徴をコピーなどを使って説明します。各自の発表（秋学期に予定）のためのヒントや資料を与えてゆきます。

参考書：

その都度指示してゆきます。

フランス語学文学研究会Ⅰ (1) (春学期)
フランス語学文学研究会Ⅲ (1) (春学期)

フランス語学、フランス文化と中世仏語と仏文学
教 授 川 口 順 二

授業科目の内容：

フランス語とフランス文化を学ぶ研究会ですが、中世に興味を持つ方にも開かれています。

フランス語については、単語や熟語の意味、冠詞・時制・モダリティなどの文法や語用論の問題、話し言葉、若者ことば英語からの借用語・識字など社会と言語の関係、フランス語教育などフランス語に関わることなら何でも扱います。

他に衣食住その他のフランス文化をカバーします。

また、中世に興味のある方も歓迎します。

フランス語学文学研究会Ⅰ（1）（春学期）
フランス語学文学研究会Ⅲ（1）（春学期）
教 授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：
私の専門である16世紀について、少しはしゃべらせてもらいます。
広い意味でのユマニズムを枠として、文系・理系の別なくノンジャンルで扱いたいと思います。発表なり創作なり、積極的に参加してください。
テキスト：
プリント配布

フランス語学文学研究会Ⅰ（1）（秋学期）
フランス語学文学研究会Ⅲ（1）（秋学期）
研究と論文へのイニシエーション 教 授 片 木 智 年

授業科目の内容：
わたくしの現在の関心からいって、以下の分野に興味をもつ方は特に歓迎いたしますが、実際には様々な学生諸君をメンバーとした研究会です。
（1）演劇的なもの、役者論、マルチメディア芸術、メディアと文化摩擦
（2）16世紀末から17世紀にかけてのテキストと歴史
（3）民話、民間伝承、おとぎばなし、妖精譚、幽霊譚
なお、就職活動・留学に配慮し、本ゼミは後期集中で週2回開かれます。

フランス語学文学研究会Ⅰ（1）（春学期）
フランス語学文学研究会Ⅲ（1）（春学期）
准教授 市 川 崇

授業科目の内容：
20世紀のフランス文学、思想、批評の問題に関心のある人たちのための研究会です。僕自身はジョルジュ・バタイユの思想、文学作品を主な研究対象としていますが、実存主義から構造主義にいたる現代思想の流れに関心のある履修者や、30年代以降のフランス社会・文化現象一般に関心のある履修者も歓迎します。他方、バタイユ、ブランショ、サルトル、バルト、デリダらによる「書くこと」を巡っての論考への関心を受講者全員が共有し、活発な議論の場を持ちたいと願っています。
テキスト：
授業中にプリントを配布します。
参考書：
サルトル「文学とは何か」人文書院、バタイユ「文学と悪」ちくま学芸文庫、ブランショ「焰の文学」現代思潮社、「明かしえぬ共同体」朝日出版、デリダ「エクリチュールと差異」法政大学出版

フランス語学文学研究会Ⅰ（1）（春学期）
フランス語学文学研究会Ⅲ（1）（春学期）
教 授 小 倉 孝 誠

授業科目の内容：
近代（とくに19世紀から20世紀前半）の文学と文化史を学びたい人のためのゼミです。文学はそれが書かれた時代と社会を映し出すという側面をもっているため、文学（とりわけ小説）をつうじて歴史、社会、文化を全体的に読み解こうというのがねらいです。身体、ジェンダー、メディア、歴史、風景、絵画と文学などの問題を考えたいと思いますが、受講生には各自の関心におうじて自由にテーマを見つけてもらいたいと思います。ときにビデオ、DVDなどの映像資料を用いている予定です。
テキスト：
プリントを配布
参考書：
・都立大学仏文研究室編『フランスを知る』（法政大学出版局、2003

年）
・平島正郎ほか『19世紀の文学・芸術』（青土社、2000年）
これ以外は授業時に指示する。

フランス語学文学研究会Ⅱ（1）（秋学期）
フランス語学文学研究会Ⅳ（1）（秋学期）
研究と論文へのイニシエーション
教 授 片 木 智 年

授業科目の内容：
わたくしの現在の関心からいって、以下の分野に興味をもつ方は特に歓迎いたしますが、実際には様々な学生諸君をメンバーとした研究会です。
（1）演劇的なもの、役者論、マルチメディア芸術、メディアと文化摩擦
（2）16世紀末から17世紀にかけてのテキストと歴史
（3）民話、民間伝承、おとぎばなし、妖精譚、幽霊譚
なお、就職活動・留学に配慮し、本ゼミは後期集中で週2回開かれます。

フランス語学文学研究会Ⅱ（1）（秋学期）
フランス語学文学研究会Ⅳ（1）（秋学期）
准教授 岑 村 傑

授業科目の内容：
フランス語学文学研究会Ⅰ・Ⅲを参照。
テキスト：
授業時にプリントで配布します。
参考書：
授業時に適宜紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

フランス語学文学研究会Ⅱ（1）（秋学期）
フランス語学文学研究会Ⅳ（1）（秋学期）
教 授 小 倉 孝 誠

授業科目の内容：
春学期の続き。

フランス語学文学研究会Ⅱ（1）（秋学期）
フランス語学文学研究会Ⅳ（1）（秋学期）
准教授 市 川 崇

授業科目の内容：
20世紀のフランス文学、思想、批評の問題に関心のある人たちのための研究会です。僕自身はジョルジュ・バタイユの思想、文学作品を主な研究対象としていますが、実存主義から構造主義にいたる現代思想の流れに関心のある履修者や、30年代以降のフランス社会・文化現象一般に関心のある履修者も歓迎します。他方、バタイユ、ブランショ、サルトル、バルト、デリダらによる「書くこと」を巡っての論考への関心を受講者全員が共有し、活発な議論の場を持ちたいと願っています。四年生に対しては、12月に個人面談を行い、卒論の構成、内容について話し合いたいと思います。
テキスト：
授業中にプリントを配布します。
参考書：
・サルトル「文学とは何か」人文書院
・バタイユ「文学と悪」ちくま学芸文庫
・ブランショ「焰の文学」現代思潮社、「明かしえぬ共同体」朝日出版
・デリダ「エクリチュールと差異」法政大学出版

フランス語学文学研究会Ⅱ（1）（秋学期）

フランス語学文学研究会Ⅳ（1）（秋学期）

准教授 喜 田 浩 平

授業科目の内容：

主に言語の運用に関する様々な問題をフランス語を中心にして考える研究会です。例えば次のようなテーマを扱います。

- ・接続詞や副詞の語用論的側面の分析
- ・非文学的テキスト（広告、新聞、雑誌、笑い話、マンガ・BD、絵本など）の分析
- ・文体論、レトリック
- ・フランス語教育
- ・翻訳論

また言語についての思想、哲学的考察も対象とします。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

授業中に指示します。

フランス語学文学研究会Ⅱ（1）（秋学期）

フランス語学文学研究会Ⅳ（1）（秋学期）

教 授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：

卒論の書き方が中心となります。

テキスト：

プリント配布

フランス語学文学研究会Ⅱ（1）（秋学期）

フランス語学文学研究会Ⅳ（1）（秋学期）

教 授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

「19世紀後半から現代までの文学・文化・芸術」

春学期に与えた知識をふまえたうえでの発表。プレゼンテーションの仕方やコメントにも指導します。ディスカッションの場も設けたい。

参考書：

その都度指示してゆきます。

フランス語学文学研究会Ⅱ（1）（秋学期）

フランス語学文学研究会Ⅳ（1）（秋学期）

教 授 川 口 順 二

授業科目の内容：

フランス語とフランス文化を学ぶ研究会ですが、中世に興味を持つ方にも開かれています。

フランス語については、単語や熟語の意味、冠詞・時制・モダリティなどの文法や語用論の問題、話し言葉、若者ことば英語からの借用語・識字など社会と言語の関係、フランス語教育などフランス語に関することなら何でも扱います。

他に衣食住その他のフランス文化をカバーします。

また、中世に興味のある方も歓迎します。

○図書館・情報学専攻

必修科目

図書館・情報学基礎 (A) (B) (2)

(A) (春学期) 教授 上田 修一
(B) (秋学期) 教授 上田 修一

授業科目の内容：

図書館・情報学専攻では、「情報という角度から問題を見付けて解決できる人材」の養成を目指しています。この科目は、受講者が「情報」について考えること、情報を伝達するための情報メディア、蓄積された情報にアクセスするための情報検索、情報メディアの収集、提供、保存のための社会制度である図書館について基礎的な知識を得ることを目的としています。

テキスト：

毎回、プリントを配布します。

日本図書館情報学会『図書館情報学用語辞典第2版』丸善

図書館・情報学原典講読 (A) (B) (C) (2)

(A) 休講
(B) 講師 越塚 美加
(C) 講師 須賀 千絵

授業科目の内容：

各クラス少人数で、図書館・情報学分野におけるトピックをとりあげた英語文献を講読します。図書館・情報学分野の基礎的な用語や概念の理解と、専門的な文献を読みこなせる英語力の習得を目指します。基本的に、毎回履修者が発表を行い、適宜必要な補足を行う形で授業を進めていきます。

(B) (C) の2クラスでは、同じテキストを使い、ほぼ同じ進度で授業を進めます。試験も共通問題です。各クラスへの振り分けは4月の専攻別ガイダンスの時に発表しますので、各自確認のうえ、必ず指示されたクラスを履修してください。また、専攻別ガイダンスの時に初回のテキスト（下記の1）を配布しますので、初回の授業までに予習してください。

履修は原則として図書館・情報学専攻の学生に限ります。

テキスト：

Giles, Jim. "Internet encyclopedias go head to head". Nature. Vol. 438, no. 15, 2005, p. 900-901

これ以降の文献に関しては、授業において指示します。

情報サービス基礎Ⅰ (2) (春学期)

社会における図書館の存在意義とその役割

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

この科目は、原則として図書館・情報学専攻2年生の必修科目であり、基礎科目の一つとして各種の図書館における情報サービスの概要と意義を学びます。そして、秋学期に開講される「情報サービス基礎Ⅱ」と一体となって、3年次以降に設置される図書館コースへの入門科目となるように位置づけられています。

テキスト：

授業の進行に応じて、読むべき文献を順次指定しますので、事前に読んでください。

参考書：

- ・千野信浩『図書館を使い倒す!』（新潮新書）、2005年
- ・井上真琴『図書館に訊け!』（ちくま新書）筑摩書房、2004年
- ・菅谷明子『未来をつくる図書館—ニューヨークからの報告』（岩波新書）岩波書店、2003年
- ・辻 由美『図書館であそぼう』（講談社現代新書）講談社、1999年
- ・まちの図書館でしらべる編集委員会『まちの図書館でしらべる』柏書房、2002年

情報サービス基礎Ⅱ (2) (秋学期)

教授(有期) 三浦 逸雄

授業科目の内容：

本科目は「情報サービス基礎Ⅰ」を踏まえた図書館情報学全体への入門的役割を果たす科目として位置づけられる。図書館及びその他の情報サービス提供機関をひとつの社会的システムとして捉え、記録された情報・知識の生産・流通、選択・収集、組織・蓄積、提供・利用システムといった広いコンテキストにおいて図書館・情報サービスの諸問題を論じる。

テキスト：

授業においてプリント資料を適宜配布する。

参考書：

最初の授業で参考文献を指示する。

情報検索基礎Ⅰ (2) (秋学期)

教授 岸田 和明

授業科目の内容：

情報と情報システム、情報検索の過程、検索手法、検索のしくみ、検索評価、データベース、索引、情報検索関連用語、さらに図書館目録、分類など書誌コントロールについての基礎的理解を得ることを目的とした授業内容です。

テキスト：

授業時にプリントを適宜、配布します。

参考書：

情報科学技術協会編『情報検索の基礎知識 新訂版』2006

情報検索基礎Ⅱ (A) (B) (C) (2) (春学期)

(A) 休講
(B) 講師 石田 栄美
(C) 講師 中島 玲子

授業科目の内容：

図書館・情報学の研究に必要な基本技能であるコンピュータの操作及び倫理について習熟することを目標として、各種アプリケーションとネットワークの利用を中心に講義と演習を並行して行います。

情報メディア基礎Ⅰ (2) (秋学期)

情報メディアに関する基礎

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

図書、雑誌、新聞等の印刷メディアを中心に、情報メディアの特性、生産・流通のプロセスについて概説します。電子メディアに関しても、印刷メディアとの比較を通して触れます。毎回、プリントを配布し、それに基づき授業を進めます。

参考書：

授業時に指示します

情報メディア基礎Ⅱ (A) (B) (C) (2) (春学期)

(A) 休講
(B) 講師 菅野 育子
(C) 講師 杉江 典子

授業科目の内容：

目録、書誌、索引というかたちで実現されている資料組織の基本的考え方を学ぶため、目録、主要な書誌・索引類、書誌データベース、参考図書の概説を行うと共に、それらを使った基礎的な資料探索の方法の修得を目指します。

参考書：

長澤雅男・石黒祐子『情報源としてのレファレンスブックス 新版』日本図書館協会 2004

図書館・情報学研究法（2）（秋学期）		
	教 授	上 田 修 一
	教 授	田 村 俊 作
	教 授	糸 賀 雅 児
	教 授	岸 田 和 明
	准教授	原 田 隆 史
	教授(有期)	三 浦 逸 雄

授業科目の内容：

各担当者が、別個に授業を行います。それぞれの担当者の内容については、6月に説明をし、6月末に志望票を提出して頂きます。7月はじめに、発表しますので、それに従って下さい。なお、4年次の図書館・情報学研究会にと継続します。

図書館・情報学研究会（A）(2)		
休講		
図書館・情報学研究会（B）(2)		
卒業研究の指導	教 授	糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

卒業論文の執筆に向けて、テーマの選択，研究の進め方，論文執筆の技術的な助言などを，逐次行っていきます。

図書館・情報学研究会（C）(2)	教 授	倉 田 敬 子
------------------	-----	---------

授業科目の内容：

情報メディアによって実現される情報の生産，流通，利用に関わる諸現象をテーマとする卒業論文指導を行います。

図書館・情報学研究会（D）(2)	教 授	岸 田 和 明
------------------	-----	---------

授業科目の内容：

卒業論文の指導を行います。テーマの選択，先行研究の調べ方，調査や実験の計画，データの分析，論文執筆など，順次，指導していきます。

図書館・情報学研究会（E）(2)	教 授	田 村 俊 作
------------------	-----	---------

授業科目の内容：

図書館におけるレファレンス・サービスやその他の利用者サービス，図書館史などの図書館に係わる問題，読書・情報探索行動など図書館利用者・利用に関連する諸問題をテーマとする学生のための卒論指導を行います。

図書館・情報学研究会（F）(2)	准教授	原 田 隆 史
------------------	-----	---------

授業科目の内容：

卒業論文の指導のための研究会です。テーマの設定，調査・実験，論文執筆といった卒業論文の作成の各過程での助言を行っていきます。情報検索や情報システムに関わるテーマを中心と考えていますが，学生諸君の興味にできるだけ応じたいと思っています。

図書館・情報学研究会（H）(2)		
	教授(有期)	三 浦 逸 雄

授業科目の内容：

論文テーマの選択，研究・調査の進め方，資料・データの処理・分析，論文の構成，文章の書き方など，卒業論文の執筆に向けての指導を行う。

テキスト：

なし

参考書：

なし

選 択 科 目

図書館概論（2）（秋学期）		
情報サービス提供のための図書館経営のあり方		
	名誉教授	高 山 正 也

授業科目の内容：

図書館とは一つの社会的な組織であり，その組織は「ヒト」，「モノ」，「カネ」といった多くの要素や資源の適切な結合により機能し，存続し，発展します。存在するコミュニティに提供されるサービスは検索ベースの情報サービスの中核となる図書館サービスであり，この図書館サービスは人類社会の知的文化的基盤をなすものです。このような図書館が永続し，絶えざる発展を目指すために，その組織の運営とその結果としての図書館サービスが現代社会においてどのようにあるべきかについて講義したいと考えます。

テキスト：

高山正也編，改訂図書館経営論．樹村房，2004，184 p.

参考書：

Buckland, M. K, 図書館・情報サービスの理論．高山正也訳．勁草書房，1990，324 p.

図書館の計画と経営（2）（春学期）		
	教授(有期)	三 浦 逸 雄

授業科目の内容：

利用者の多種多様な要求に応じて情報や資料を提供する機関の中で，特に図書館に焦点をあて，その使命や役割を遂行するための経営管理機能について基本的な理解を目指す。講義においては大学図書館および公共図書館を中心に管理運営，計画策定，人的資源，財政といった側面を取り上げる。

テキスト：

授業においてプリント資料を適宜配布する。

参考書：

授業で適宜指示する。

コミュニケーション史（2）（春学期）		
挿絵・図版によるコミュニケーションを中心に		
	講 師	武者小路 信和

授業科目の内容：

情報を伝えるうえで，ことばによる伝達だけでなく，図像による伝達も重要な役割を果たしています。この授業では，科学書・図鑑の挿絵・図版および使用された印刷技法などを歴史的にたどることによって，主に学術コミュニケーションのなかで図像が果たしてきた役割について解説します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

その都度，授業時に紹介します。

図書館資料論（2）（春学期）	教授(有期)	三 浦 逸 雄
----------------	--------	---------

授業科目の内容：

図書館のコレクション形成・管理の視点から資料の生産・流通，選択・収集，コレクション評価・保存などを一つのプロセスとして捉えて講義をすすめる。また現在，情報技術の進展に伴って急速に増大している電子情報源（あるいは電子図書館）についてもコレクション形成・管理およびアクセス提供の側面から取り上げる。

テキスト：

三浦逸雄・根本彰著『コレクションの形成と管理』雄山閣 1999年（再版）

参考書：

三浦逸雄・野末俊比古編『専門資料論』日本図書館協会 2005 年、その他の関連文献は授業で適宜指示する。

資料組織論 (2) (春学期) 教授 上 田 修 一

授業科目の内容：

この科目では、図書館目録の意義を述べ、目録規則、目録法、分類、件名、目録機械化、MARC、書誌ユーテリティ、オンライン目録など図書館目録の基本について講じます。

テキスト：

初回にテキストを頒布します。

レファレンス・サービス論 (2) (春学期) 教授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

図書館のレファレンス・サービスについて、理論と実際を学びます。レファレンス・サービスの基本的な考え方、歴史、サービス内容、技術を概観します。講義で得た知識をもとに、レファレンス・サービスの実態の分析を各人が試みます。また、講義と並行して、事例問題によって、問題発生から解決までの調査法の実際を演習し、それを通して調査手順の修得をめざします。

参考書：

- ・長澤雅男『レファレンス・サービス』丸善 1995
- ・伊藤松彦編『新図書館学教育資料集成 4：参考業務』教育史料出版会 1989
- ・阪田蓉子編『新編図書館学教育資料集成 4：情報サービス論 補訂版』教育史料出版会 2003

図書館実習 (2) 図書館・情報学におけるインターンシップ科目 教授 岸 田 和 明

授業科目の内容：

図書館・情報学専攻の学生で、司書資格を取得し、図書館への就職を希望する者のみを対象としたインターンシップ科目です。インターンシップとは「学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」とされています。したがって、この科目では各種の図書館や資料室、メディアセンター等においてインターンとして実務を経験することになります。

実習ガイダンスを 3～4 回開催（第 1 回は 4 月 12 日）しますので、履修者はすべてのガイダンスに必ず出席してください。

図書館活動論 I (公共図書館) (2) (秋学期) 公共図書館の活動・サービス・法制度 教授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

「地域の情報拠点」「生涯学習の拠点」としての公共図書館の活動やサービス、そしてそれらを支える法制や基準、政策などを学びます。なお、事例集やスライド、ビデオを教材として併用することで、国内外の公立図書館活動の実態について理解が深まるよう配慮します。

テキスト：

町村図書館活動推進委員会編『図書館による町村ルネサンス ― Lプラン 21』日本図書館協会、2001 年。

参考書：

『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～（報告）』文部科学省、2006 年。（http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701/009.pdf）

図書館活動論 II (大学図書館) (2) (秋学期) 教授 上 田 修 一 講師 酒 井 由 紀 子

授業科目の内容：

大学図書館の運営と実務に関する基礎的知識について解説します。

参考書：

- ・岩嶺敏生、大城善盛、浅野次郎。大学図書館の管理と運営。東京、日本図書館協会、1992。247p.
- ・逸村裕、竹内比呂也編。変わりゆく大学図書館。東京、勁草書房、2005。232p.
- ・B.L.ホーキンス,P.バッティン編。デジタル時代の大学と図書館：21 世紀における学術情報資源マネジメント。町田、玉川大学出版部、2002。370p.
- ・Budd, J.M. The changing academic library. Englewood, Libraries Unlimited, 2005. 323p.
- ・Brophy, Peter. The academic library. 2nd ed. London, Library Association, 2005. 233p.

図書館活動論 III (学校図書館) (2) (秋学期) 学校図書館の果たす役割とは―学校図書館活用の実際を学ぶ 講師 小 林 路 子

授業科目の内容：

情報技術の進展著しい現代社会において、学校教育で求められているのは、子どもたちに、自ら新たな知識を求めて学ぶ姿勢を培うことであり、確かな言語能力を養うことである。今後の社会を形成していく、こうした人材の育成に、学校図書館の果たす役割は大きいと言える。

この講義では、学校図書館の理念や現在の施策を理解し、学校図書館を活用した学習や読書活動を実際に計画しながら、学校図書館の在り方を学ぶ。

テキスト：

「学習指導と学校図書館」（放送大学教材）高橋元夫・堀川照代・平久江祐司共著

参考書：

- ・「新学校図書館通論」改訂版（学芸図書）図書館教育研究会
- ・「学習社会・情報社会における学校図書館」（風間書房）塩見昇他 著
- ・「インターネット時代の学校図書館」（東京電機大学出版局）根本 彰監修 堀川照代・中村百合子編著

図書館活動論 IV (国立図書館) (2) (秋学期) 講師 平 野 美 恵 子

授業科目の内容：

わが国の国立図書館の活動を諸外国の国立図書館の活動と対比させつつ、国立図書館の課題と今後を考える。

テキスト：

授業において資料を配布する。

児童資料論 (2) (秋学期) 講師 汐 崎 順 子

授業科目の内容：

図書館における「児童資料」とは“心身ともに発達途上にある「子ども」を読者対象とした図書等の資料」として定義づけられます。従って児童資料は、個々の子どもの能力や興味に対応する形で存在し、その内容や分野は多岐に渡っています。子ども時代の読書はそれぞれの人格形成に深く関わるものであり、子どもに本を手渡す立場である児童図書館員には、その仕事の前提として各種の児童資料に精通していることが求められます。さらに現在は資料の多様化に伴い、様々な分野の児童資料を実際に数多く紹介し、一次資料そのものの特性と内容をより実質的な理解すること、子どもと本を結びつける効果的な方法について学ぶことを目指します。

さらに2000年の子ども読書年以降の子どもの読書環境の変化等についても言及し、児童サービスの現状と今後の展開を考えることも目標とします。

テキスト：

授業時に適宜資料を配布します。

参考書：

中多泰子・宍戸宏・汐崎順子共著「改訂版 児童サービス論」樹村房（2004）

情報メディア概説Ⅰ（2）（春学期） 教授 上 田 修 一

授業科目の内容：

情報とメディアをめぐる議論、メディアの分類、それぞれのメディアについて歴史、現状、流通と保存、そして、メディア論とメディア批判、ウェブ、情報メディアの電子化を扱います。

テキスト：

毎回プリントを配布します。

情報メディア概説Ⅱ（2）（春学期）

情報メディアを考える基本的枠組みとメディアの変遷
教授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

社会の中で人間は情報メディアを通して情報を生産し、流通させ、利用するという考え方に立ち、次の3つの観点から情報メディアを総合的に考えます。

- (1) 物理的属性（技術的側面）
- (2) 社会的制度、機能
- (3) 情報メディアを通じて語られるディスコース

参考書：

授業時に参考文献リストを配布します。

情報メディアの構造と分析Ⅰ（2）（秋学期）

情報メディアの構造と分析方法 教授 倉 田 敬 子
助教 安 形 麻 理

授業科目の内容：

情報メディアは、独自の物理的・技術的特性および社会的場としての機能を持ち、さらにそのメディアに特定のな方法で情報を伝達しています。個々の情報メディアが固有に持つその形式的・構造的特性についてまとめるとともに、その特性を具体的に分析する方法を概説します。具体的には「新聞および新聞記事」、「図書のレイアウト」、「マンガ」を扱います。分析方法の概説の後、実際に新聞記事やそのレイアウト、写真やマンガ作品を分析してもらいます。

情報メディアの構造と分析Ⅱ（2）（春学期）

情報メディアの機能 講師 菅 野 育 子

授業科目の内容：

情報メディアの機能に関する基礎的な知識を学ぶために、学術情報だけでなく一般社会における情報の流通に関係する各種情報メディアについて概説します。

具体的には、新聞（新聞記事）、雑誌（雑誌記事）、図書、特許資料、絵画（美術作品）などを取り上げ、その特徴を概観します。

さらに、各情報メディアの分析を行ないながら、分析結果からどのような情報を得ることができるのかについて議論します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

情報認識の基礎（2）（春学期）

人間にとって心地よい情報環境をデザインするために
教授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

現代社会には情報が洪水のようにあふれていると言われますが、あ

ふれているのは単に電氣的な信号や物理的な記号だけではないのでしょうか？

いまあなたが手にしているこの「講義要綱」にしても、たくさんの情報が載っているように見えますが、よく考えてみると、炭素と水素の化合物である紙の上に、ところどころ黒いインクのシミで何かが描かれているだけにすぎません。それを前にして、あれこれ悩んだりしているのは、ある意味ではきわめて不思議な現象なのです。

人間が信号や記号を入手し、利用し、理解してはじめて、そうしたモノたちは意味をもった情報になります。そう考えると、情報の存在と人間の存在の間には相互作用がはたらくことになります。では、人間にとって記号と情報、メディアの相互関係は、どのように捉えたらよいのでしょうか。さらには、メッセージの意味はどこから生まれてくるのでしょうか、同じメッセージを受け取っても人によって異なった情報を受け取るのはなぜでしょうか、小説や絵画、音楽は本当に情報と呼べるのでしょうか、……？

この科目では、こうした人間の情報認識に関わる基本的な問題を提起しながら、学生とともにヒューマンサイズの情報を扱うための本質的な視点を探っていきます。こうした過程を経て、これからの時代にふさわしい、人間の情報環境デザインができる人間を育てたいと考えています。

ですから、単なる note-taking や教科書の理解よりも、常識に対する批判的なまなざしと深い思索、そして何よりもディスカッションへの積極的参加が求められます。

テキスト：

池上嘉彦『記号論への招待』（岩波新書）岩波書店、1984年
他に、授業の進行に応じて、読むべき文献を順次指定しますので、事前に読んでください。事前に読んでこないことには、ディスカッションへ積極的に参加できません。1回の授業で論点を2つずつ、それも事前に示していく予定です。

参考書：

- ・渡辺保史『情報デザイン入門』平凡社、2001年
- ・西垣 通『聖なるヴァーチャル・リアリティ』岩波書店、1995年
- ・西垣 通『こころの情報学』筑摩書房、1999年

情報メディア特殊Ⅰ（本）（2）（秋学期）

「モノ」としての書物がもつ表現可能性
講師 武者小路 信和

授業科目の内容：

私たちは本を読んでいるとき、印刷された文章の意味だけを読みとっている訳ではなく、意識してるか否かは別にして、書体、文字組み、紙質、造本構造などからも同時に「読みとっている」はずです。この授業では、物理的な「モノ」としての書物がもつ表現可能性について、タイポグラフィ、ブック・デザイン、造本構造などの面から解説します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

その都度、授業時に紹介します。

情報メディア特殊Ⅱ（電子媒体）（2）（春学期）

WWWの情報共有とメタデータの応用
講師 神 崎 正 英

授業科目の内容：

WWWの普及によって、誰もががかつて無い規模の情報にアクセスできるようになったものの、その中から本当に必要な情報を見つけだすのは簡単ではありません。また一方で、モバイル、ユビキタス、音声メディアなど利用者の環境の多様化が進むにもかかわらず、特定の対象しか考慮しないコンテンツが氾濫し、有益な情報活用の妨げになっています。

WWWは本来、異なる環境での情報共有、さらにコンピュータの力を利用した効率的で的確な情報探索・活用を目指していました。これを実現するためには、コンテンツの記述、データの表現と交換に関する基本ルールを踏まえることが重要になってきます。この講座では、

こうした観点で、WWW の基礎から RDF によるメタデータの記述方法とその応用までを取り上げます。

テキスト：

授業資料はウェブ上で配布します。また、各技術仕様書の原典（英文）からエッセンスとなる部分を指定し、授業中に読解します

参考書：

神崎正英『セマンティック・ウェブのための RDF/OWL 入門』（2005、森北出版）

情報メディア特殊Ⅲ（社会と情報）（2）（秋学期）

休講

情報メディア特殊Ⅳ（科学コミュニケーション）（2）（春学期） 教 授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションは、送り手も受け手も研究者という閉鎖的な集団内におけるコミュニケーションであり、一般のコミュニケーションとは異なる特性を持っています。ここでは研究者達が科学研究という社会的行為を、学術コミュニケーションを通じていかに実現させているかを検討します。特に現在、学術コミュニケーションにおいては、「電子化」が非常に注目されています。電子化によって、従来の学術コミュニケーションのあり方が、根本的に変容する可能性があるためです。電子化については、いまだ全貌が見えたとはいいがたい状況ではありますが、技術の電子化がいかなる社会的変化を引き起こしているのか、最新の事例をできるだけ交えながら検討していきます。

テキスト：

倉田敬子著『学術情報流通とオープンアクセス』勁草書房 2007(予定)

情報検索概説Ⅰ（2）（春学期） 教 授 岸 田 和 明

授業科目の内容：

この講義は情報検索に関する基本的なことがらを概説することを目的とし、図書や雑誌論文を収録したデータベースに対する検索を実現・実行するための伝統的な手法を中心に、基礎・中級レベルの内容を解説しています。さらに、このようないわゆるテキスト検索の特徴をよりよく理解するために、関係データベースを利用したデータ管理・検索の方法についても学びます。また、最近のインターネットのサーチエンジンでは、伝統的な検索方式とは異なる原理が使用されており、これについても説明します。

テキスト：

授業時にプリントを適宜、配布します。

参考書：

岸田和明『情報検索の理論と技術』勁草書房 1998

情報検索概説Ⅱ（2）（秋学期） 教 授 上 田 修 一

授業科目の内容：

情報検索におけるレレバンスの概念、テキストの特性と索引、それに主題について論じます。

テキスト：

毎回、プリントを配布します。

情報検索システム（2）（秋学期） 助 教 安 形 麻 理

授業科目の内容：

書誌データベースの作成と資料のデジタル化を中心に情報検索システムを扱います。具体的には、データベースと情報検索システムの基本的な問題から、簡単な文字処理を行ったり、データベースソフトを用いた書誌データベース、画像・テキストアーカイブを作成する演習を行います。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

情報検索研究（2）（秋学期） 教 授 岸 田 和 明

授業科目の内容：

インターネットの発達や電子文書の増加に伴って、情報検索の研究はますます盛んになっています。この講義では、情報検索の基礎的な理論を解説するとともに、情報検索およびその関連領域における研究の動向・特徴・方法について考えていきます。授業の前半部分では、情報検索の理論における基本的なものをその初歩的な事項から説明します。これらの基礎的な知識に基づいて、後半では、現在進められている情報検索研究の動向・特徴・方法、あるいはその研究課題について解説し、さらに、関連領域として、テキスト処理に関する問題・技法について紹介します。

テキスト：

授業時にプリントを適宜、配布します。

参考書：

岸田和明『情報検索の理論と技術』勁草書房 1998

情報探索行動（2）（秋学期） 教 授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

人々がどんなときに、どのようにして情報を求め、利用するのか、それがこの講義のテーマとなります。人々が情報を求める社会的文脈および情報探索・利用の過程についての検討を中心に、情報リテラシーや探索のスキル等について考えてみます。

テキスト：

特に使用しません。適宜プリントを配布します。

参考書：

- ・Varlejs, J, ed.『情報の要求と探索』勁草書房 1993
- ・田村俊作編『情報探索と情報利用』勁草書房 2001
- ・Case, D.O. Looking for Information. Academic Press, 2002
- ・Fisher, K. E. et. al., ed Theories of Information Behavior. Information Today, 2005

データベース検索（2）（春学期） 講 師 安 形 輝

授業科目の内容：

卒業論文や各種レポートなどを作成していくなかで、過去の研究を参照するために、各種のデータベースを検索していく必要があります。この授業では、自分でデータベース検索を行うことができる知識と技術の習得を目的とします。パソコン教室で有料データベース検索サービスやインターネット上の情報検索サービスを使った実習を行います。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

特に指定しません

情報処理技術（2）（春学期） 准教授 原 田 隆 史

授業科目の内容：

図書館・情報学分野の学習や研究に必要な基礎技術であるコンピュータを少し高めのレベルで使いこなせるようになることを目標とし、例題をもとに学習します。とりあげるテーマはWeb ページによる情報発信に関わるものが中心ですが、一般的なコンピュータの利用にも応用できるように心がけるつもりです。講義に加えて、PC を用いた演習を行い、単なる知識だけではなく実践的な能力を身につけることを目指します。

テキスト：

必要に応じて、適宜プリントを配布します。

自然言語処理の基礎（2）（春学期） 教 授 岸 田 和 明

授業科目の内容：

情報の検索・分類・抽出・要約を効果的かつ効率的におこなうための自然言語処理の理論や技法の基礎を学ぶことがこの講義の目標で

す。例えば、大規模な文献データベースを効果的に検索するには、検索質問や各文献の標題・抄録（または全文）に対する的確な解析が必要ですが、これにはさまざまな自然言語処理の技法を応用することができます。この講義では、このような目的で文献のテキストを解析するための統計的な方法や、形態素解析・構文解析・意味解析・文脈解析の方法を解説します。さらには、テキストの自動分類、テキストからの情報の自動抽出、テキストの自動要約などにも焦点を当て、そのなかでどのように自然言語処理の方法（統計的方法を含む）が活用されているのかを学んでいきます。なお、講義においては、統計学や言語学などのごく初歩的な知識から解説していくので、これらについての予備的な知識がなくとも受講することは可能です。

テキスト：
授業中にプリントを適宜、配布します。

参考書：
長尾真編『自然言語処理』岩波書店 1996（岩波講座ソフトウェア 15）

画像・映像処理の基礎（2）（秋学期） 准教授 **原 田 隆 史**

近年、コンピュータを用いて画像や映像を加工していくことが非常に容易になってきました。この授業では、身近にある素材を用いて様々な加工を行う演習を通じて画像・映像処理の基礎的な技法について学びます。さらに、画像・映像データベースに関する理論と技術についても説明していきます。授業では講義に加えてPC を用いた演習も行い、単なる知識だけではなく実践的な能力を身につけることを目指します。

テキスト：
必要に応じて、適宜プリントを配布します。

書誌学Ⅰ（東洋）（2）（秋学期） 講 師 **白 石 克**

授業科目の内容：
毎時間、日本・東洋の古書・古地図等を直接手にとり、その特性を探究します。
こうした資料の整理方法をも考察します。
古典資料を身近にすることも、講義の目標の一つです。

参考書：
・『図書学辞典（汲古書院）』長澤規矩也著
・『日本古刊本図録（三田メディアセンター）』拙稿

書誌学Ⅱ（西洋）（2）（春学期） 助 教 **安 形 麻 理**

授業科目の内容：
物理的な「モノ」としての書物の研究および文献伝達の研究である、分析書誌学（analytical bibliography）の基礎について概説します。西洋の印刷本を主な対象として、書物の形態、材料、活字、挿絵、製本などの特徴と、本造りの各工程を説明します。さらに、そうした造本工程によって意図的・非意図的に生じる本文の異同についても取り上げます。授業中に、実例として慶應義塾大学図書館所蔵の貴重書の実物やデジタル画像、活字などの「モノ」の回覧や、ビデオ鑑賞を行って、理解の助けとします。

テキスト：
特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：
授業に持って来たり買ったりする必要はありませんが、できれば適宜参照してください。
・Carter, John. 西洋書誌学入門. 横山千晶訳. 東京, 図書出版社, 1994, 428 p.（こちらは残念ながら品切れ中です）
・高野彰. 洋書の話（増補版）. 東京, 丸善, 1995, 225 p.

図書館・情報学特殊（A）（2）（春学期）

休講

○社会学専攻

必修科目

社会学概論 (4)	教授 浜 日出夫
	教授 平 野 敏 政
	教授 藤 田 弘 夫
	准教授 岡 原 正 幸
教職課程センター	准教授 竹 村 英 樹
	准教授 長 尾 真 理

授業科目の内容：

- I 見えない社会を見るためのレッスン (浜)
1. 電車のなかで社会学 (1)
 2. 電車のなかで社会学 (2)
 3. 電車のなかで社会学 (3)
 4. 電車のなかで社会学 (4)
- II 家族・親族論 (平野)
1. 家族・親族論 (1)
 2. 家族・親族論 (2)
 3. 家族・親族論 (3)
 4. 家族・親族論 (4)
- III 都市・国家・公共性 (藤田)
1. 近代化と都市化
 2. 都市の比較社会学
 3. 伝統国家と近代国家
 4. 公共性の比較社会学
- IV 社会的不平等・差別論 (他者を見ること, 自己を見ること) (岡原)
1. 制度として「見る」社会学／制度としての社会学
 2. 調査することの倫理性 (観察と介入)
 3. 新しい潮流 (障害学／ゲイ・スタディーズ／ポストコロニアリズムなど) の立ち位置
 4. ステイグマの社会学
- V 発達と教育の社会学 (竹村)
1. 教育拡大の理論 (1)
 2. 教育拡大の理論 (2)
 3. 学歴社会学
 4. 発達と社会化
- VI 現代社会と医療 (長尾)
1. 患者の権利
 2. 先端医療 (1)
 3. 先端医療 (2)
 4. 科学技術と人間

テキスト：

各担当者が指示します。

参考書：

ギデンズ『社会学』而立書房 他

社会心理学概論 (4)

個人と個人, 個人と集団, 個人と社会の関係および集合行動について論じる (参) マスコミ, 広告効果, 模倣行動など

教授 榊 博文

授業科目の内容：

まず, 社会心理学の対象と方法, 歴史, 心理学的社会心理学, 社会学的社会心理学について触れ, 対人認知, 対人魅力, 社会的態度, 集団と個人, 社会的相互作用, 集団の構造と機能, 群集, 流行, デマ, パニック, マスコミ, 広告効果, 模倣行動など集合現象等の, 社会心理学の下位分野における主要な概念や理論, 及び個々の実証的研究を講義する。

更に, 「説得」, 集合現象の一部である「普及」, それを説明する「異文化間屈折」理論, 「再発明」概念, 「あらかじめ屈折」理論等についても言及する。

テキスト：

- ・青池・榊編著「現代社会心理学」慶應大学出版会
- ・榊博文「説得と影響—交渉のための社会心理学」ブレーン出版

参考書：

適時指示する。

文化人類学概論 (4) (春学期集中) 教授 鈴木 正 崇

授業科目の内容：

文化人類学 (民族学) の基本的な概念や考え方について述べる概論である。最初に文化や民族の概念について検討し, 主要な学説や重要な人類学者の学説の検討を行って, 各論に入る。個別の主題としては, 親族, ジェンダー, 宗教, 経済, 開発などを取り上げる。日本民俗学への目配りもする。一・二限連続の前期集中の講義なので履修に注意すること。

テキスト：

綾部恒雄編『文化人類学 20 の理論』弘文堂, 2006。

参考書：

- ・関一敏・大塚和夫編『宗教人類学入門』弘文堂, 2004。
- ・『文化人類学文献事典』弘文堂, 2004。
- ・山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード』有斐閣, 1997。
- ・綾部恒雄編『文化人類学最新述語 100』弘文堂, 2002。
- ・山下晋司編『文化人類学入門』弘文堂, 2005。

社会学史 (4)	教授 浜 日出夫
	教授 平 野 敏 政
	教授 藤 田 弘 夫
	准教授 岡 原 正 幸
	准教授 長 尾 真 理

授業科目の内容：

- I 19 世紀の社会と社会学 (藤田)
1. 社会概念化と社会学の誕生 社会主義・社会科学・社会学
 2. 社会思想と社会の概念 社会有機体説とマルクス
 3. 社会調査と社会の概念 プース, ル・プレー, ゲテス
 4. 日本における欧米の社会思想の受容
 5. (付論) アンソニー・ギデンズとイギリス社会学
- II デュルケム, ウェーバー, ジンメル (浜)
1. 1890 年代の世代
 2. 理解社会学 M. ウェーバー
 3. 社会学主義 E. デュルケム
 4. 形式社会学 G. ジンメル
 5. 官僚制・アノミー・文化の悲劇
- III 機能主義 (平野)
1. 社会有機体説・規範主義と機能主義
 2. 初期機能主義理論 マリノフスキー, ラドリック=ブラウン
 3. 構造・機能主義 パーソンズ (システム・パターン変数・AGIL)
 4. 構造機能主義批判 マートン・ダーレンドルフ
 5. 社会システムとシステム概念
- IV フランクフルト学派・ルーマン (長尾)
1. 批判理論の成立 M. ホルクハイマー W. ベンヤミン
 2. 近代合理性の行方 Th. アドルノ H. マルクーゼ E. フロム
 3. 批判的理性とコミュニケーション J. ハーバーマース
 4. 社会秩序とシステム N. ルーマン
 5. 精神医学は社会科学に何をもたらしたか。
- V 象徴的相互作用論・ブルデュー (岡原)
1. シカゴ学派と自我論 クーリー, トマス, ミード
 2. 象徴的相互作用論 現実構成・レイベリング・参与観察
 3. ゴフマン 印象管理・自己呈示・アイデンティティの政治
 4. ブルデュー 文化資本・象徴暴力・ホモアカデミクス
 5. 現代思想と社会学 フーコー, イリイチ, サイード

参考書：

- ・コリンズ『社会学の歴史』有斐閣
- ・那須寿編『クロニクル社会学』有斐閣

授業科目の内容：

この授業では社会現象や人間行動を計量的な方法で実証的に把握、検証するための諸技法について、適宜演習を交えながら、講義を行う。春学期においては、サーベイ法を中心に調査の企画・デザインから、調査票の作成、調査対象者の抽出、調査の実施、データの収集にいたる一連の過程において必要となる知識や技法について学習する。また社会調査における倫理的な問題についても理解を深める。秋学期においては、調査によって集められたデータを集計・分析する統計的な技法とそれらの技法の背後にある論理について学ぶ。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

授業中に示す

授業科目の内容：

本講義は、社会調査の中でも聞き書きや参与観察を主たる方法とする質的調査の実習を行う。しかし、みんなで野外調査に出かけることはできないので、授業の中で実習を行う。全部で 14 の実習を予定している。

テキスト：

- ・渡辺康磨『セルフカウンセリング』ミネルヴァ書房、1993 年
- ・伊藤・榎尾・弓山編『スピリチュアリティの社会学』、世界思想社、2004 年

参考書：

- ・好井裕明他編『フィールドワークの経験』せりか書房
- ・榎尾直樹編『スピリチュアリティを生きる』、せりか書房、2002 年
- その他授業の中で適宜指示する。

授業科目の内容：

今日、先端医療技術は、バイオテクノロジーや情報処理技術の発達に支えられ、飛躍的な発展を遂げている。しかし同時に、生命の誕生や死をめぐる問題を含め、従来の社会通念からは予測できない多くの難問が引き起こされている。また、先進諸国での高齢化問題は、「医療資源の運用と配分」とも絡んで深刻さを増している。講義では、こうした現代医療に関わる様々な問題を取り上げ検討する。また、秋学期には、各々の問題関心に基づくグループ・ワーク、研究発表を行う。受講者は、以上の講義形式を了承のうえ受講すること。

テキスト：

講義資料・プリントを配布する。

参考書：

- ・岩波講座 現代社会学 14『病と医療の社会学』岩波書店 1996 年
- ・進藤・黒田編『医療社会学を学ぶ人のために』世界思想社 1999 年
- ・加藤・加茂編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社 1998 年
- ・市野川容孝編『生命倫理学とは何か』平凡社 2002 年

授業科目の内容：

家族社会学の基本理論と基本概念の理解をもとに、現代日本におけるさまざまな家族問題にアプローチする。前期においては、主に構造・機能主義理論を中心に、世帯経済学や歴史人口学、アナール学派の家族史研究などといった家族研究の変遷を学説的にたどり、家族研究の基本的視点についての理解を作り上げる。後期においては、前期で構築した視点に立って家族における性差別問題を中心に、ジェンダー論やフェミニズム論などを取り上げ、具体的な家族問題を考察する。

授業科目の内容：

本授業では、教育社会学を〈教育現象の社会的文脈を解明する学問〉ととらえ、その概要を講義します。社会的文脈の解明といっても、教育現象を〈巨視的にみるのか、微視的にみるのか〉、また、〈機能的にみるのか、解釈的にみるのか〉によって、様々な研究があります。本講義では、多くの研究成果を取り上げて、研究対象の多様さとその背後にある複数の理論および方法論を示すことに努めます。

まず、学史からスタートし、対象と方法を概観することでおおまかな見取り図を示した後、各論に入ります。春学期は、マクロ教育社会学を中心に講じます。具体的には、社会階層と教育機会の不平等、その家族的背景等をテーマとして取り上げます。秋学期は、教育を担う社会集団（たとえば、家族、学級、学校）、その集団の中の人間関係（教師生徒関係、親子関係等）等を取り上げ、それ自体をひとつの社会としてみて、その教育的特徴を考察します。いわば、ミクロ教育社会学です。両学期を通じて、これらの考察は現代日本社会を念頭において行われますが、歴史的視点、比較社会的視点も大切に考察を進めます。

社会学理論が教育現象にどう適用されるのかを知ることで、履修者の皆さんが既に学んだ社会学理論の面白さを再発見することを目指します。また、実証研究の方法論（社会調査論）との接合も視野に入れて、データを分析するプロセスも大切にしたいと考えています。

テキスト：

なし

参考書：

別途指示します。

授業科目の内容：

【目的】「現代社会」を感情社会学的に記述・分析すること・・・①、およびこの作業（感情社会学という営み、感情社会学者というアイデンティティ構築）それ自体を再帰的に捉え返し、「ポストモダン」「ポストコロニアリズム」「フェミニズム」「主体の消失と復帰」「表象・代弁の危機」「構築主義」といった主題系の中で自己批判と自己超越をめざすこと・・・②、この二つを参加者に理解してもらうのが基本の目的ですが、それ以上に、その理解を身体化しそれを言語的かつ非言語的に表現することをみんなでやりたいと思います。

【内容】 秋学期集中です。感情社会学概説（以下に掲載）をはさみつつ、「感情」をテーマにした映像・映画を製作します。企画、コンセプト、シナリオから、スタッフ、キャスト、撮影、編集、上映までを、参加者全員の共同作業として行います。企画案やコンセプト案のプレゼンおよび決定は、夏休み前に行います（掲示や岡原研究会のHP <http://oka.web.infoseek.co.jp> に注意してください）。制作費用は参加者による折半ですし、機材などは可能な限り学内のものを使用します。参加人数により、採用企画数や製作本数は変わりますが、チーム単位の制作だとしても各チーム最低 10 名の構成にします。従って、一人もしくは数名での制作はできません。チームの協働過程そのものが現代社会の構築そのものだからです。また演技、デザイン、サウンドなどの専門スタッフとして設置されたすべての製作チームに関わり、アドヴァイスや素材、作品を提供する役割を果たすこともできます。

テキスト：

- ・岡原・山田・安川・石川『感情の社会学 ―エモーション・コンシャスな時代』世界思想社
- ・岡原正幸『ホモ・アフェクトス ―感情社会学的に自己表現する』世界思想社

参考書：

- ・安積・岡原・尾中・立岩『生の技法』藤原書店
- ・S. ネッケル（岡原訳）『地位と羞恥 ―社会的不平等の象徴的再生産』法政大学出版局

- ・ Ellis/Bochner (ed) Composing Ethnography :Alternative Forms of Qualitative Writing. Altamira
- ・ A. ホックシールド (石川訳)『管理される心 ―感情が商品になるとき』世界思想社

コミュニケーション学 (4) 教 授 李 光 鎬

授業科目の内容：

この授業では、我々の社会を織り成しているコミュニケーション過程の諸側面について講義を行う。春学期においては、対人コミュニケーションを中心にコミュニケーションと対人関係の形成、コミュニケーション・ネットワーク、小集団状況におけるコミュニケーションなどを取り上げ、これまでの研究で明らかにされた知見を学んで行く。さらにインターネット上で展開される様々な種類のCMC (computer mediated communication) についても検討して行く。秋学期においては、マス・コミュニケーションを中心テーマとし、マスメディアによるメッセージの生産過程、メッセージにおける傾向的特性、マス・コミュニケーションの影響・効果過程などについて理解して行く。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

授業中に示す

宗教社会学 (4) スピリチュアリティの社会学 准教授 榎 尾 直 樹

授業科目の内容：

宗教社会学は、宗教の社会的機能や役割といった宗教と社会との関係性や、「宗教社会」、つまり宗教的コミュニティの実態、および社会の宗教的次元を明らかにする学問である。本講義では、授業中の実習によって、宗教性／スピリチュアリティに関する諸概念を参加者各自が構築するとともに、世界のいくつかの地域の「宗教的現象」を映したビデオを観て、その諸概念を検討するとともに、宗教性／スピリチュアリティの実存的諸問題について理解を深めることを目的としている。

テキスト：

- ・ 榎尾直樹編『スピリチュアリティを生きる』せりか書房、2002年
- ・ 榎尾直樹他編『スピリチュアリティの社会学』世界思想社、2004年

参考書：

- ・ 井上順孝編『現代日本の宗教社会学』世界思想社、
 - ・ 井上順孝他編『宗教学を学ぶ』有斐閣、
 - ・ 橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』筑摩書房、
 - ・ 島蘭進『現代救済宗教論』青弓社、
 - ・ 島蘭進『精神世界のゆくえ』東京堂出版など。
- その他は授業の中で適宜指示する。

対人影響論 (4) 集団、社会からの個人への影響 教 授 榊 博 文

授業科目の内容：

説得的コミュニケーションの効果に関する研究は独自の研究の系譜を持っており、まず、その流れに基づいて授業をすすめていく。次に、集団、マスコミ効果、広告、宣伝、大衆操作流行、模倣犯罪などの集団的・社会的影響に関する問題を扱う。その過程で、従来の諸研究によって既に明らかにされている部分と、未だ解明されていない部分を十分理解する。

参考書：

- ・ 榊 博文『説得と影響 ―交渉のための社会心理学』ブレーン出版。
- ・ 榊 博文他『日本列島カルト汚染 ―何故そこまで騙される？ 勧誘と説得の社会心理学―』ブレーン出版。

知識社会学 (4) 記憶と歴史の社会学 教 授 浜 日出夫

授業科目の内容：

人間にとって過去とはなんであるのか、社会にとって歴史とはなんであるのか、人間と時間のかかわり、社会と歴史のかかわりについて社会学的に考察する。春学期は人間と時間の関係について理論的に考察する。秋学期は博物館の展示などを題材として、社会と歴史のかかわりについて具体的に検討する。

参考書：

講義時間内に紹介する。

都市社会学 (4) 教 授 藤 田 弘 夫

授業科目の内容：

都市は言語とともに、人間が創り出したもっとも複雑で偉大な作品である。都市は人間が生み出した最大の便益を、最小の空間に納めるよう文明の産物を凝縮し、時蔵して伝達しようとしたものである。この点で、都市は人びとにとって、未来に向けて汲み尽くすことができないほどの「意味」が記号化されている“小宇宙”なのである。都市はさまざまな秩序を隠し持っている。本講義は社会の多様な姿を都市に焦点をあてて析出するとともに、都市の社会学的分析について基本的な力を身につけることを目的としています。

テキスト：

藤田弘夫・吉原直樹編『都市社会学』有斐閣 2000年

参考書：

- ・ 藤田弘夫『奥井復太郎 ―都市社会学と生活論の創始者』東信堂 2000年
- ・ 藤田弘夫『路上の国柄―「ゆらぐ官尊民卑」』文藝春秋 2006年

日本社会論 (4) 教 授 平 野 敏 政

授業科目の内容：

日本社会論、日本文化論ではヨーロッパ社会との相違を強調し、日本社会、文化の特殊性を強調する視点がしばしば採用されている。本講義では、なぜそうした特殊性が近代日本社会においても再生産されているのか、という問いに立ち返って、そうした再生産過程の基礎に日本社会におけるイエスの原理の作用が存在しているとの視点に立ち、有賀喜左衛門の「イエ」理論を援用し「全体的相互給付」原理との関連の下に日本社会について考察する。

比較文化論 (4) 教 授 鈴 木 正 崇

授業科目の内容：

東アジアでのフィールドワークの成果を中心として民族・宗教・国家の問題を考える。対象地域は中国の少数民族で、1980年代から歩き続けてきた成果に基づいた事例研究を主体とする。極めてミクロな事例を通じて普遍性に至る道筋を求める人に履修を勧める。出席を重視する。

テキスト：

『アジア読本 中国』河出書房新社、1995。

参考書：

- ・『民族で読む中国』朝日新聞社、1998。
- ・『拡大する中国世界と文化創造』弘文堂、2002。
- ・『東アジアの女神信仰と女性生活』慶應義塾大学出版会、2004。

普及学 (4) 名誉教授 青 池 慎 一

授業科目の内容：

あらゆる時代や社会において普遍的に存在しているコミュニケーション・プロセスの一つがイノベーションの普及である。イノベーション(新製品、新しいスタイル、新知識など)が発明、創造され、その源泉やエージェントから人々に送り出され普及しているのである。そして、人々の生活や社会、文化はイノベーションの普及によって変容し

ていくのである。いうまでもなく送り出されたイノベーションの全てが普及していくものではないが、このようなイノベーション普及過程がどのようなものであり、いかなる要因がかかわりあっているかを明らかにしていくものである。

テキスト：
「イノベーション普及過程論」慶應義塾大学出版会 平成 19 年春刊行予定
参考書：
授業時に適宜示します。

文化社会学 (4)	教 授 藤 田 弘 夫
-----------	-------------

授業科目の内容：
本講義の目的は、われわれが社会生活のなかで生み出すとともに、その社会生活を背後から秩序づけている文化の多様な形態を析出することである。この作業を通じて、文化社会学のダイナミックな分析と論理を教授できればと考えています。

テキスト：
藤田弘夫・西原和久編『現代人の社会学入門』（増補版）有斐閣 2000 年
参考書：
・藤田弘夫『都市の論理』中公新書 1151 番 1993 年
・藤田弘夫『路上の国柄―「ゆらぐ官尊民卑」』（文藝春秋社）

社会学特殊 I (4)	講 師 川 西 崇 行
-------------	-------------

授業科目の内容：
現在、景気刺激の一策 ―「都市再生」のかけ声の下、巨大再開発事業が次々に起こされている。そのため容積（床面積）の詰め物としての超高層ビル群が随所に出現し、都市の容貌が一変する気配すらある。マスコミ上には商業的な言説しか立ち現れていないが、果たして最近の巨大開発は都市・東京にとって一体「何者」なのか。
都市の景観・風致 ―歴史的環境― は、都市をかたちづくる様々な「力」の合成物として立ち現れ、その国の社会風土や精神性を顕す index であるということがいえよう。本講義では、我が国の都市を形作ってきた経緯、欧米諸都市の風景計画、実際の我が国諸都市の景観など題材に、都市の風景の意味やさまざまな文脈について考えてみたい。

テキスト：
教科書は特に使用しない。以下の参考書は適宜参考に使いたい。
※必要な文献・資料は、必要に応じてその都度指示する。

参考書：
・西村幸夫『都市保全計画』東京大学出版会 2004 年
・片桐新自『歴史的環境の社会学』新曜社 2000 年
・藤田弘夫『都市と文化の比較社会学』東京大学出版会 2003 年
・竹内佐和子編『都市デザイン』（日本の産業システム 8）NTT 出版 2003

社会学特殊 II (4)	講 師 佐 藤 典 子
--------------	-------------

授業科目の内容：
ブルデューは、日常性の中にこそ権力や差別の問題が潜んでいると指摘しました。本講義では、ブルデューをはじめとしたフランスの社会学者や思想家などの理論をたどりながら、家族や移民の問題、医療・看護などの人々の暮らしに密接なかかわりのある事例について考えます。
テキスト：
・佐藤典子著『看護職の社会学――フランスの医療化・ジェンダー化・ハビトゥス』専修大学出版局 2007 年
・荻野昌弘編『日仏社会学叢書第 3 巻 ブルデュー社会学への挑戦』恒星社厚生閣 2005 年

参考書：	
宇都宮京子編『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房 2006 年	
社会学特殊 Ⅲ（4）	
社会福祉学入門	講 師 田 澤 あけみ

授業科目の内容：
かつて社会福祉は社会事業と呼ばれ対象を社会的弱者に限定し、経済的救済が中心であった。第二次世界大戦後の社会変化はしだいに社会福祉概念にも大きな変化をもたらし、理念的には福祉ニーズのあるすべての人々が生涯を通じて社会参加、自己実現を達成できることを目指す社会的施策や専門サービスとなった。さらに 20 世紀末の「ポスト福祉国家」以降にはエコロジーやエスニシティ、ジェンダー概念を入れたコミュニティ基盤のあらたな「福祉」の枠組みが模索されている。
本講義では広くこれらの現代社会における社会福祉の意義・とらえ方を踏まえ社会福祉学全体の特質やその機能を理解することを目的とする。とくにわれわれを取り巻く生活問題の存在形態やその広がりへの洞察を深める手がかりとする。

テキスト：
・田澤あけみ編著 法律文化社『社会福祉の実践と理論』（タイトルが未だ決定していません）

社会学特殊 IV (4)	講 師 棚 橋 訓
--------------	-----------

授業科目の内容：
マーガレット・ミードによって人類学におけるジェンダー研究の途が開かれ、B.マリノフスキーによってセクシュアリティも含めた性の総合的研究が展開されてからかなりの時間が経過している。本講ではそうした人類学におけるジェンダーとセクシュアリティ研究の歴史を辿りながら、文化としての性の問題系を捉える方途について探りたい。人間の「生」と捉えるビュッットとしての「性」について考えることの重要性を特に指摘したい。
テキスト：
特に指定しない
参考書：
・須藤健一・杉島敬志（編）『性の民族誌』人文書院
・田中雅一・中谷文美（編）『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社

社会学特殊 V (4)	講 師 正 木 晃
-------------	-----------

この講義では、「千と千尋の神隠し」・「風の谷のナウシカ」などの宮崎アニメ、および『エヴァンゲリオン』『GHOST IN THE SHELL』『AKIRA』をはじめ、話題のアニメを中心に、そこに象徴的に表現されている現代社会のさまざまな問題を考えていきます。キーワードは、自然と人間（アニミズム）・生と死・心と体・人間の条件（脳・魂・身体）を設定しています。
また増加する不可解な犯罪、あるいはうつ病の激増、ニートや不登校・引きこもりなど、現代社会の難問を正しく把握するためには精神医学的な知見が欠かせません。そこでごく初歩的ながらも、知ってみたい精神医学上の知識と情報を提供したいと考えています。
そして問題をただ単に指摘するだけでなく、解決に導く可能性をはらむ視点やコンセプトを伝統的な智慧、とりわけ宗教的な智慧から学ぼうと思います。私が開発した「マンダラ塗り絵」を使って、自分の内面をのぞくことも試みます。
テキスト：
正木晃『はじめての宗教学』（春秋社、2002 年、1890 円）
参考書：
・正木晃『立派な死』（文藝春秋社、2005 年、1860 円）
・正木晃『マンダラ塗り絵・上級編』（春秋社、2006 年、1260 円）

社会学特殊Ⅵ（４）	
舞踊の民族誌—エスノグラフィー	講 師 宮 尾 慈 良
授業科目の内容： なぜ人は踊るのだろうか。世界で舞踊をもたない民族はない。アジア各地の民族舞踊を通して隠れた文化を舞踊人類学の視点から考えてみることにしたい。これまでのフィールドワークをしてきたアジア民族の舞踊について、インド舞踊聖典『アビナヤダルパナ』、舞踊の文献資料、舞踊の図像学、映像人類学、身体学などの研究分野から探求する。 テキスト： テキストは授業時に指示する。 参考書： ・宮尾慈良『アジア舞踊の人類学』PAERCO 出版 ・『比較芸能論』彩流社 ・Nandekesvara「abhinayadarpana」trans.by M.Ghosh.	
社会学特殊Ⅶ（４）	
企画創出法	講 師 山 川 悟
授業科目の内容： 実務の現場で実践されている創造性開発技法・プランニングメソッドを体験してもらうことにより、企画書作成の基礎を学びます。 生活者の情報行動・消費行動の具体的な事例を採り上げ、社会学的知見から考察・分析を行います。また、グループワークを通し、コンシューマインサイトに基いた企画立案作業を実践してもらいます。 以上を通じ、創造的なマーケティングプランニングスキルを取得することが本講義の狙いです。 テキスト： 特に指定しません。講義プリントを配布します 参考書： ・「コンテンツマーケティング～物語型商品の市場法則を探る」（同文館，2004 年，¥2400） ・「企画のつくり方入門」（かんき出版，2006 年，¥1500）	
社会学特殊Ⅷ（４）	
農村の家族と地域社会	講 師 重 岡 徹
授業科目の内容： 本講義では、農村社会を農村住民の生活の場ないし生活空間として捉える観点から、日本農村の家族と地域社会について、その歴史的な動向と諸特徴を考察するとともに、現代農村の直面している諸問題について分析を試みる。 具体的な講義内容は、①農村社会研究の動向、②農村家族及び農村地域社会の歴史的展開、③生活空間としての現代農村社会の状況、④農村社会の再編・再生への視点について展開するものである。 本講義では、農村社会学の基礎的理論の理解にはじまって、今日的な農村社会学の課題であるまちづくり・むらづくりへの実践的な取り組みを学生自らが考案し提案できるまでの内容としていきたい。 テキスト： ・講義時に資料（プリント）を配布します（毎回）。 参考書： ・講義中に適宜指示します。	
社会学特殊Ⅸ（４）	
メディアとジェンダー	講 師 小 玉 美意子
授業科目の内容： 男女ともに生きやすい社会を作る上でのジェンダー問題をメディアとの関連の中で考察します。 メディアの中で表現される女性・男性のステレオタイプを分析し、ジェンダーバイアスを考えます。さらに、それを生み出す社会およびメディアの構造に言及し、問題点をさぐります。メディアがジェンダ	

ーの固定化につながるのか、あるいは変革につながるのか、メディアのあり方と関連づけながら考察していきます。

テキスト：

未定

参考書：

- ・小玉美意子『新版ジャーナリズムの女性観』学文社
- ・小玉美意子編著『美女のイメージ』世界思想社
- ・村松泰子編訳『新しいコミュニケーションとの出会い』垣内出版
- ・加藤春恵子他編『女性とメディア』世界思想社

社会学特殊Ⅹ（４）	
現代広告論	講 師 遠 藤 彰 郎

授業科目の内容：

広告は、色々な人々が創意工夫をして発展してきました。関連する学問領域も多岐にわたり、マーケティング論、メディア論、コミュニケーション論をはじめ経営学、経済学、社会心理学、社会学、政治学、法学などと連携しながら、新たな領域を切り開いています。本講は現代社会と同期しながら発展している広告の最前線を通して、時代を読み解くリテラシーの向上を図ります。

テキスト：

授業時にプリントを配布します。

参考書：

遠藤彰郎「TV 広告」（藤竹編『図説 日本のマスメディア〔第2版〕』NHK ブックス 1039, 2005 年）

社会学特殊ⅩⅠ（４）	
説得交渉論	教 授 榊 博文

授業科目の内容：

説得と交渉は密接な関連のある概念であり、互いに説得し合って合意点・妥協点を探るプロセスが交渉である。本講においては、交渉に必要なさまざまな説得テクニック及び説得理論を講義し、更に交渉の理論や事例を解説する。説得テクニックの理解のために、毎回討議時間を設けるので、受講者は積極的に討議に参加することを期待する。

テキスト：

- ・榊 博文「説得と影響—交渉のための社会心理学」（ブレーン出版）
- ・榊 博文「トップ営業が使う説得学」（ダイヤモンド社）

参考書：

適時、指示する。

社会学特殊ⅩⅡ（４）	
文学テキストの社会学	講 師 鈴 木 智 之

授業科目の内容：

本年度は、文学社会学の諸問題の中から、特に「言語的境界性と文学生産」（前期）、「災厄の記憶と物語」（後期）に焦点を絞って議論を進めます。

文学的な語り（物語生産）をうながす社会的契機とそこに構成されるテキスト・表象の関連を問い直し、これを通じて、現代社会を生きた私たちの「生存の条件」を考え直していきましょう。

テキスト：

特に指定しません。必要に応じてプリント資料を配布します。

社会学特講Ⅰ（２）（秋学期）	
データ分析の概要と SPSS 演習	講 師 徐 亨 錫

授業科目の内容：

本講義は、調査や実験などで得られたデータを分析する一連の過程について解説します。データ分析技法の概要を学習するとともに、データを使った実際の演習を通じてデータ分析方法を身につけることが本講義の目標です。すなわち、主に実際の統計解析に関わる分析技法を習得することが目的です。

適切なデータ分析のための準備作業、データ分布の全体的な傾向の把握、統計解析の理論に基づいたデータ分析に至るまでのデータ処理

を行なうことによって、分析結果の解釈や予測を導くことができます。そして、分析結果からどのようなことが明らかになったか、もしくは予測できるかについては適切な解釈が求められます。

本講義では、主に社会科学分野で広く使われている統計解析ソフトウェア SPSS の使い方、その分析結果の解釈について理解できるようにします。具体的には、データの整理、ファイルの取り扱い、調査データの集計（度数分布表）、平均値、分散、標準偏差などの基礎統計量、各種グラフの作成、変数間の関連性の検定（カイ二乗検定、相関分析）、平均値の比較（t 検定、分散分析）多変量解析（因子分析、主成分分析、重回帰分析、判別分析、数量化理論）など具体的にデータを使用し紹介します。また表計算ソフトの EXCEL を使った統計分析も必要に応じて紹介します。

テキスト：

特に指定しない。講義資料を適宜配布する。なお、演習に必要なデータファイルの配布は、相談した上で決めたいと考えている。

社会学特講Ⅱ（2）（春学期）	
民族音楽学	講 師 伏 木 香 織

授業科目の内容：

芸能を行う人々とそれを取りまく社会、特に地域との関係に注目し、芸能そのものやそれを行う人々、またその集団とその社会、歴史などとの関連性を探る。またその方法論についても検討してゆく。

テキスト：

授業中に指示する

参考書：

同上

社会学特講Ⅲ（2）（春学期）	
折口信夫の民俗学	講 師 岩 田 重 則

授業科目の内容：

折口信夫の仕事は、日本文学、芸能研究、民俗学、歌人・詩人として、多方面に及んでいる。この授業では、民俗学者としての折口信夫を概観する。

テキスト：

授業中指示する

参考書：

同上

社会学特講Ⅳ（2）（春学期）	
現代アフリカ世界への人類学的アプローチ	講 師 坂 本 邦 彦

授業科目の内容：

文化人類学・社会人類学の研究のなかで蓄積されてきた民族誌のなかから主にアフリカをフィールドとするものをとりあげ、文化のコンテキストにそってさまざまなものの考え方を理解していくとはどういうことかを考えていく。これを通じて、多元的様相を呈している現代世界を読み解くための人類学的発想法に触れていきたい。

講義の中心はアフリカに関係することになるが、アフリカに限らずどこかでフィールドワークをやってみたいと考えている学生の受講を期待する。視聴覚資料をできるだけ使用していく予定である。

テキスト：

使用せず。講義資料プリントを配布。

参考書：

- ・川田順造編著『アフリカ入門』（新書館、1999 年、2400 円）
- ・宮本正興編著『新書アフリカ史』（講談社、1997 年、1400 円）

社会学特講Ⅴ（2）（秋学期）	
民族音楽	講 師 山 本 宏 子

授業科目の内容：

世界のさまざまな地域・民族の音楽から、社会と文化の相互関係を学ぶ。

テキスト：

プリントを配布

参考書：

山本宏子『日本の太鼓、アジアの太鼓』（青弓社 2002、1600 円）

社会学特講Ⅵ（2）（春学期）	
「政治と宗教」のクロスロード	講 師 大 谷 栄 一

授業科目の内容：

政教分離は、近代市民社会における政教関係の基本原則だが、1970 年代半ば以降、世界各地でその原則を侵犯する出来事が頻発している。現代世界の公的空間の中で政治に影響を与えている宗教勢力の動向、あるいは宗教行為のもたらす政治性など、「政治と宗教」をめぐる問題群を再検討することで、現代世界を成り立たせる聖俗関係のダイナミズムを明らかにすることが、本講義の目的である。

ファンダメンタリズム、公共宗教、多文化主義、戦没者の追悼問題などのトピックを、アメリカ、ヨーロッパ、東アジア、日本の具体的な事例を通じて分析する。

テキスト：

なし。毎回、資料を配布する。

参考書：

授業中にテーマごとの参考文献一覧を配布する。

社会学特講Ⅶ（2）（秋学期）	
家族・親族研究の基礎	講 師 吉 野 晃

授業科目の内容：

この授業は、文化人類学における家族・親族研究の基礎的な知識と見方を習得することを目的とし、そのための講義とトレーニングを行う。もう少し具体的にいえば、文化人類学の専門論文の、少なくとも家族・親族組織に関する部分は十分に理解できるレベルの能力を受講生各自が身につけることを目的とする。そのためには、講義のほか専門論文や民族誌の読解が不可欠であり、それを授業を通じて行つてゆく。

産業化が進んだ社会でも、家族や親族といった関係は民俗社会の社会組織の骨格となっている。人間が出生後に文化を学習するのは、まず家族・親族の中においてである。文化の身体化の現場は、そのような集団や組織である。いわば家族・親族といった民俗社会の組織は文化習得の鋳型であるが、この鋳型自体が文化の産物でもあるため、常に変化する。さらに、こうした組織は大幅な多様性を示している。本講義では、この厄介な、人類の多様な家族・親族組織を分析するための基本的な概念と調査・分析・研究の方法を説明する。家族とか親族組織といった話題は、難しそうな漢字用語やカタカナ用語が頻出し、且つ○や△の親族関係図が複雑そうで、取っつきにくい印象があるようだが、そのようなことはない。順を追って理解してゆけば、非常に分かりやすい分野である。

講義のほかに、課題論文を予め読んで質問・コメントを提出して貰う宿題を課し、その質問・コメントに基づく解説やディスカッションも併せて行う。社会組織についての知識・視点・分析のトレーニングを行うとともに、専門論文の読み方と、論文・レポートの書き方のトレーニングも兼ねる。受講生の学習歴や研究関心の在り方などを最初に聴取し、それに合わせて課題を設定して、無理なく課題をこなせるように工夫してゆくつもりである。

テキスト：

特に指定無し。授業中にプリントを配布する。

参考書：

- ・原ひろ子（編）『家族の文化誌：さまざまなカタチと変化』弘文堂。
- ・綾部恒雄（編）『女の文化人類学』弘文堂
- ・綾部恒雄（編）『女の民族誌 1：アジア篇』弘文堂
- ・綾部恒雄（編）『女の民族誌 2：欧・米・中東・アフリカ・オセアニア篇』弘文堂
- ・フォックス，R.『親族と婚姻：社会人類学入門』思索社。
- ・前田成文『東南アジアの組織原理』勁草書房。
- ・村武精一『家族の社会人類学』弘文堂。

- ・伊藤亜人ほか（編）『現代の社会人類学Ⅰ：親族と社会の構造』東京大学出版会
 - ・清水昭俊『家・身体・社会：家族の社会人類学』弘文堂
 - ・清水昭俊（編）『家族の自然と文化』弘文堂
 - ・福井勝義（編）『近所づきあいの風景：つながりを再考する』昭和堂
 - ・吉原一男・鈴木正崇・末成道男（編）『＜血縁＞の再構築：東アジアにおける父系出自と同性結合』風響社
 - ・レヴィ＝ストロース，C.『親族の基本構造』青弓社
 - ・田中雅一・中谷文美（編）『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- この他多数。おって授業中に指示する。

選 択 科 目

社会学研究会Ⅰ（３年）（２）

教 授 藤 田 弘 夫

授業科目の内容：

都市の社会学理論面での研究を進めるとともに、古本の町として有名な神田神保町とイギリスのヘイ・オン・ワイの比較研究を行います。

今年の研究会の進め方については、すでに詳しく説明しておりますので、ここでは繰り返し説明いたしません。出席者は研究会ⅠとⅡの両方を登録してください。一方は必修、もう一方は自由科目です。

テキスト：

- ・マルク・ボワイエ『観光のラビンス』（法政大学出版会 2006）
- ・藤田弘夫『都市と文明の比較社会学 — 環境・リスク・公共性 —』（東京大学出版会 2003 年）
- ・藤田弘夫『路上の国柄 — 「ゆらぐ」官尊民卑』（文芸春秋社 2006 年）

参考書：

- ・R. ブース（東訳）『本国の王様』創元社 2001 年
- ・川成洋編『世界の古書店』I.II.丸善ライブラリー 1994 年他
- ・『神田神保町古本屋散歩』毎日新聞社ムック 2004 年。

社会学研究会Ⅰ（３年）（２）

教育社会学研究

教職課程センター 准教授 竹 村 英 樹

授業科目の内容：

３年生の研究会は、教育に関する社会学的研究を行なう。本年度は「教育から仕事への移行」をテーマとする。まずは、文献研究を中心に進めるが、各自が関心ある研究テーマを見つけ、フィールドを持ち、４年時の卒業論文執筆に向けてスタートができるように、支援していきたい。理論的研究と経験的研究をバランスよく取り上げ、教室だけの勉強にとどまらず、各種の見学・観察を取り入れ、進めていきたい。また、共同研究を課し、三田祭で発表する。

テキスト：

別途指示します。

参考書：

別途指示します。

社会学研究会Ⅰ（３年）（２）

現代社会とこころをめぐる諸問題 准教授 長 尾 真 理

授業科目の内容：

現代社会は、心理的・社会的なストレス要因にあふれている。これらの中には深刻な心的障害を引き起こすケースも少なくない。このように、現代人が日常生活の中で避けることのできない「こころ」の問題を取り上げ、多角的に検討することがこの研究会の中心テーマである。

秋学期以降は、受講者の研究テーマ別にグループ・ワークを行い、更に卒業論文の完成をめざして指導する。

受講者には明確な問題意識と共に、自らの研究テーマに主体的に取り組む姿勢が望まれる。

社会学研究会Ⅰ（３年）（２）

【春】教 授 野 村 伸 一

【秋】教 授 鈴 木 正 崇

授業科目の内容：

東アジアの地域研究をめざします。しかし、これは講義の場ではなく、各自が地域と問題を設定して最後に、卒業論文という作品を生み出すための場です。

主として基層文化とそれを取り巻く社会を考えることを勧めます。できれば、日本だけに限定せず、中国、台湾、南島、朝鮮半島など、日本の周辺地域に自分の思考の拠点を構築することが必要です。従来の比較文化研究の陥穽に注意してください。すなわちみずからは動かず（日本を中心としたままで）「日本との比較」という座標軸を立てるだけでは視点の限界があります。東アジアという枠組のなかで、「日本を比較の素材」として考える思考こそが求められているといえるでしょう。そのためには現地の言語文化のなかにみずから飛び込む気概が必要です。そこで得た感動なり、衝撃こそが地域研究の出発点です。そして、研究の深まりなどといっても、多くはその衝撃の追究にすぎないものです。

日本における東アジアの文化研究は、従来、朝鮮、琉球、台湾、中国の各地方というように縦割りの領域を設定し（その専門家となることをめざし）、他との関連をあまり考慮せずにきた傾向があります。こうしたやり方はそこそこの成果はあがるけれども弊害も多いのです。隣接地域に対する興味、関心が失せていくことが最大の欠点です。

ただし、その欠点は問題意識の設定の仕方によって克服しうるものです。東アジアの歴史の中で基層文化あるいは民衆文化などを考えれば、互いに関連が生じざるをえません。そのため、視野は必然的に広がるはずです。

どこに拠点を作るかは最終的には個人の作業ですが、大海への船出に当たっての羅針盤作りは共同作業のほうが効果的です。この研究会はそのような場となるはずです。

社会学研究会Ⅰ（３年）（２）

教 授 平 野 敏 政

授業科目の内容：

家族および家の理論の理解を深め、わが国の近・現代社会における諸問題を家族、および家の視点から分析、考察することを中心的テーマとしています。

社会学研究会Ⅰ（３年）（２）

記憶の社会学

教 授 浜

日出夫

授業科目の内容：

(1) 共通テーマ

今年度の共通テーマは「記憶」である。

(2) サブゼミ

３～４のサブゼミを設け、共同研究を行なう。

(3) 個人研究

自分のテーマについて各自研究を行ない、３年生はゼミ論文（12000字以上）、４年生は卒業論文（40000字以上）を作成する。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

講義時間内に紹介する。

社会学研究会Ⅰ（３年）（２）

社会学研究会Ⅱ（４年）（２）

《アート》と《社会学》

准教授 岡 原 正 幸

授業科目の内容：

〈team Oka〉による実験的社会プロジェクトあるいは社会彫刻の実践です。ゼミの WEB, <http://oka.web.infoseek.co.jp> を参考にしてください。

社会学研究会Ⅰ（3年）(2)	教授 李 光 鎬
----------------	----------

春学期には、メディアとコミュニケーションに関する研究書を輪読・発表しながら基礎的な概念や理論について学ぶ。またグループ・ワークの形で調査、実験、内容分析などの実証的な研究を行い、その成果を発表する。秋学期には、専門的な研究論文を読みながら、4年次の卒業論文のテーマについて考えて行く。

テキスト：
授業の中で適宜指定する

参考書：
授業の中で適宜示す

社会学研究会Ⅰ（3年）(2)	准教授 榎 尾 直 樹
----------------	-------------

授業科目の内容：
本研究会は文化人類学や宗教社会学をベースとしたスピリチュアリティの社会科学の領域で研究を行う。ここでいう〈スピリチュアリティ〉とは、「自分を越えた何ものとつながっている感覚、あるいはその何ものかが自分の中で働いている感覚」を意味する。現代社会の共同性のあり方をいっしょに考え、実践しよう。

テキスト：
榎尾直樹他編『スピリチュアリティの社会学』せりか書房、2002年
その他は授業の中で適宜指示する。

参考書：
授業の中で適宜指示する。

社会学研究会Ⅰ（3年）(2)	教授 鈴木 正 崇
----------------	-----------

授業科目の内容：
文化人類学を専門とするゼミである。宗教学や日本研究（民俗学を主体とする）も取り込んで構成する。半期ごとに特定の主題を設定して、専門書や論文を報告し討論を行なう。4年生は数度の中間発表を行い卒業論文作成の指導を行なう。

社会学研究会Ⅱ（4年）(2)	卒業論文指導
	教職課程センター 准教授 竹 村 英 樹

授業科目の内容：
12月までに最低4回の発表を行なう。

社会学研究会Ⅱ（4年）(2)	准教授 榎 尾 直 樹
----------------	-------------

授業科目の内容：
本研究会は文化人類学や宗教社会学をベースとしたスピリチュアリティの社会科学の領域で研究を行う。ここでいう〈スピリチュアリティ〉とは、「自分を越えた何ものとつながっている感覚、あるいはその何ものかが自分の中で働いている感覚」を意味する。現代社会の共同性のあり方をいっしょに考え、実践しよう。

テキスト：
榎尾直樹他編『スピリチュアリティの社会学』せりか書房、2002年
その他は授業の中で適宜指示する。

参考書：
授業の中で適宜指示する。

社会学研究会Ⅱ（4年）(2)	名誉教授 青 池 慎 一
----------------	--------------

授業科目の内容：
4年生は、3年生における研究活動の成果をふまえ、より専門的研究を行い卒業論文を完成させる。

テキスト：
適宜示していく。

参考書：
適宜示していく。

社会学研究会Ⅱ（4年）(2)	教授 藤 田 弘 夫
----------------	------------

授業科目の内容：
都市の社会学理論面での研究を進めるとともに、古本の町として有名な神田神保町とイギリスのヘイ・オン・ワイの比較研究を行います。

今年の研究会の進め方については、すでに詳しく説明しておりますので、ここでは繰り返し説明いたしません。出席者は研究会ⅠとⅡの両方を登録してください。一方は必修、もう一方は自由科目です。

テキスト：
・マルク・ボワイエ『観光のラビンス』（法政大学出版会 2006）
・藤田弘夫『都市と文明の比較社会学 ― 環境・リスク・公共性 ―』（東京大学出版会 2003年）
・藤田弘夫他編『路上の国柄―「ゆらぐ官尊民卑」』（文藝春秋社 2006年）

参考書：
・R. ブース（東訳）『本の国の王様』創元社 2001年
・川成洋編『世界の古書店』I.Ⅱ.丸善ライブラリー 1994年他
・『神田神保町古本屋散歩』毎日新聞社ムック 2004年。

社会学研究会Ⅱ（4年）(2)	教授 浜 日出夫
----------------	----------

授業科目の内容：
(1) 共通テーマ
今年度の共通テーマは「記憶」である。

(2) サブゼミ
3～4のサブゼミを設け、共同研究を行なう。

(3) 個人研究
自分のテーマについて各自研究を行ない、3年生はゼミ論文（12000字以上）、4年生は卒業論文（40000字以上）を作成する。

テキスト：
開講時に指示する。

参考書：
講義時間内に紹介する。

社会学研究会Ⅱ（4年）(2)	【春】教授 野 村 伸 一 【秋】教授 鈴木 正 崇
----------------	-------------------------------

授業科目の内容：
卒業論文に向けた個々人の研究発表、報告を中心にします。二週間に一度ほどの発表になります。発表後には、探究の方向、焦点の定め方などについて質問し、また、こちらから意見を述べます。同時に論文の章立て、体裁（引用の仕方、注記）について話し合います。

参考書：
各人の発表に応じて提示しますが、基本的には、自分で探し、一覧表を作ることがだいじです。参考文献表は論文作成の第一歩です。同時に、次つぎと補充し、これをいかに充実させていくかが、問われます。納得のいく論文に向けて、充実した参考文献表を持つようにしてください。

社会学研究会Ⅱ（4年）(2)	教授 平 野 敏 政
----------------	------------

授業科目の内容：
家族および家の理論の理解を深め、わが国の近・現代社会における諸問題を家族、および家の視点から分析、考察することを中心的テーマとしています。

社会学研究会Ⅱ（4年）(2)	現代社会とところをめぐる諸問題 准教授 長 尾 真 理
----------------	-----------------------------

授業科目の内容：
現代社会は、心理的・社会的なストレス要因にあふれている。これ

らの中には深刻な心的障害を引き起こすケースも少なくない。このように、現代人が日常生活の中で避けることのできない〈こころ〉の問題を取り上げ、多角的に検討することがこの研究会の中心テーマである。

秋学期以降は、受講者の研究テーマ別にグループ・ワークを行い、更に卒業論文の完成をめざして指導する。

受講者には明確な問題意識と共に、自らの研究テーマに主体的に取り組む姿勢が望まれる。

社会学研究会Ⅱ（4年）（2） 教授 鈴木正崇

授業科目の内容：

文化人類学を専門とするゼミである。宗教学や日本研究（民俗学を主体とする）も取り込んで構成する。半期ごとに特定の主題を設定して、専門書や論文を報告し討論を行なう。4年生は数度の中間発表を行い卒業論文作成の指導を行なう。

社会学原典講読（英）（2） 講師 田中正隆

授業科目の内容：

社会学、人類学関連の論稿を輪読してゆく。テーマは90年代以降、現在にいたるまで活発に議論が交わされている、地域社会（周辺社会）における近代性 modernity やグローバル化 globalization をめぐる問題である。具体的にとりあげるトピックは「グローバル化」「市民社会」「都市」「移民」「メディア」などがキーワードとなるだろう。ウォラーステイン Wallerstein、ベック Bech、ギデンズ Giddens、ハーバーマス Habermas、ブルデュ Bourdieu、ホール Hall、ギンズバーク Ginsburg、アパデュライ Appadurai、ビンズバーゲン van Binsbergen らの論文、およびそれらをレビューした論文にあたる。

また、輪読だけではなく、受講者の要望に応じて、随時講読論文の周辺知識や背景となる議論について、視聴覚資料を用いた講義形式もとりたい。したがって、社会学—人類学についての基礎知識の復習、確認にも利用して頂ければ幸いである。とりあげる学説は「構造」「ポストモダン」「実践」「オリエンタリズム」「ポストコロニアル」「世界システムと帝国」など。

社会学原典講読（英）（2） 教授 李光鎬

授業科目の内容：

この授業では対人コミュニケーションおよびマス・コミュニケーション過程の諸側面に関する英文の研究書（または研究論文）の輪読および発表を通じ、コミュニケーション研究における学術的な概念や理論、研究方法についての理解を深める

テキスト：

初回の授業で提示する

参考書：

特に指定しない

社会学原典講読（英）（2）
グローバル化と教育 講師 望月要子

授業科目の内容：

学校教育は、近代世界において最も普及している制度（institution）であり、教育システムは一般に国家レベルで組織されています。春学期と秋学期を通して、グローバル化が国民国家の教育政策や教育実践に与える影響に関して考察した最近の英語文献を講読します。具体的には、途上国から先進国まで多様な国々の事例研究とテーマ（ジェンダー、教師など）ごとの国際比較分析研究を集めた近著2冊を中心に読み進め、適宜、教育社会学の古典といえるような文献や重要な理論と関連付けます。教育収斂（educational convergence）とグローバルな教育モデルの現地化・土着化（localization/indigenization）という相反する視点から編集された2冊に収められた事例を読み比べることで、世界の様々な場所で教育にどのような具体的な変化が起こっているのかを学ぶと同時に、「制度としての教育」に焦点を当てたスタンフォード大学の John Meyer の流れを汲む社会学の

新制度理論（Neo-Institutionalism）と、比較文化や文化人類学・地域研究的なアプローチに基づいた教育改革研究への理解を深めます。また、「万人のための教育 Education for All」や私が国連大学で直接携わってきた「持続可能な開発のための教育 Education for Sustainable Development」などのグローバルな教育イニシアティブに関する国連機関の文献も読みながら、「人権としての教育」や「生涯学習」などのグローバルな教育言説（educational discourse）にも着目し、「教育と開発」という大きなテーマに関しても理解を図ります。

テキスト：

- ・ Baker, P. David & LeTendre, Gerald K. (Eds.) (2005) . National Differences, Global Similarities: World Culture and the Future of Schooling. Stanford, California: Stanford University Press.
- ・ Anderson-Levitt, Kathryn (Ed.) (2003) . Local Meanings, Global Schooling: Anthropology and World Culture Theory. New York: Palgrave MacMillan.

その他、インターネットでダウンロード可能なものは適宜指示いたします。

参考書：

- Burbules, Nicholas C. & Torres, Carlos Alberto (Eds.) (2000) . Globalization and Education: Critical Perspectives. New York: Routledge.

社会学原典講読（独）（2）
ドイツ語圏における社会学分野の著作を日本語で読む
准教授 岡原正幸

授業科目の内容：

【目的】社会学およびその周辺領域に関するドイツ語圏の古典／原典を、翻訳文献をつかって緻密に読解します。学術的内容の日本語による理解を至上とし、その限りで場合によってドイツ語原語についての解説を行います。

【内容】ドイツ語圏のみならず、社会学にとっても古典として必須文献であるような書物、たとえば、マルクス、ヴェーバー、ジンメルなどの文献を読み進めたいと思います。文献の選択に際しては翻訳本の手に入れやすさも考慮します。

昨年は、『地位と羞恥』（S. ネッケル）を読みました。

授業の計画：

【形式】文献の輪読形式。出席者が担当部分を整理・解説することをベースにして、全員による議論を促したいと思います。具体的には、授業が始まってから、履修者の皆さんと相談して決めていきたいと思っています。

社会学洋書講読（英）（2） 准教授 長尾真理

授業科目の内容：

英語の学術文献を直接読み解くことによって、英文の読解力向上と、的確な論旨の把握をめざす。講義では、あらかじめ割り当てられた担当部分を訳出・要約する。テキスト等については、初回の講義で指示する。

社会学洋書講読（仏）（2）
パリ・モザイク 准教授 榎尾直樹

授業科目の内容：

本授業は、社会学、人類学に関するフランス語文献の講読を通して、1 フランス語文献の読解の能力の向上、2 フランス語圏の社会学・人類学に関する基本的知識の獲得、3 フランス語圏の社会学・人類学の近年の動向に関する情報の獲得、の3点を目的としている。

テキスト：

Michel Pincon & Monique Pincon-Charlot, *Sociologie de Paris*, La Decouverte, 2004

参考書：

授業の中で適宜指示する

○心理学専攻

必修科目

知覚心理学Ⅰ(4)

知覚心理学の基礎

教授 増田 直 衛

授業科目の内容：

知覚心理学における基本的な概念，方法論，事実を紹介しながら，心理学としての知覚研究を理解することにある。

供覧実験や，AV 機器をできるだけ多く用いて，知覚心理学における具体的な事実を体験しながら理解を得られるようにしたい。

テキスト：

授業で使用するパワーポイントは印刷して配布します。

参考書：

その都度紹介するが，一般的に参考になるものを以下にあげる。

- ・大山 正（編）「講座心理学 4 知覚」東京大学出版会
- ・柿崎祐一・牧野達郎（編）「心理学 1 知覚・認知」有斐閣
- ・松田隆夫（著）「知覚心理学の基礎」培風館

発達心理学Ⅰ(4)

発達科学の基礎と臨床

〔春〕教授 山 本 淳 一

〔秋〕講師 松 澤 正 子

〈春学期〉

授業科目の内容：

(1) 発達心理学と発達臨床についての広範囲の知識を得ることを目的とする。まず，「理論」および，それを支えている「事実（実験，観察，事例）」を理解していく。

(2) ヒトの心的機能の発達を生み出している要因を，「環境と個体の相互作用」という観点から詳細に検討する。知覚，運動，音声，言語，認知，社会的行動，動機づけ，情動，などの発達を分析していく。そのことで，発達科学（developmental science）という領域への展開を探っていく。

(3) 発達過程の中で子どもたちがもつ様々な問題に対して，その原因を「環境と個体の相互作用」という観点から考究する。発達臨床の現場での事例を詳細に分析していくことで，具体的な支援方法を検討していく。

テキスト：

バッターワース，G. & ハリス，M.「発達心理学の基本を学ぶ」ミネルヴァ書房

参考書：

「発達心理学辞典」ミネルヴァ書房

〈秋学期〉

授業科目の内容：

秋学期には，発達心理学の代表的な実験研究を系統的に紹介し，精神機能の獲得過程とそのメカニズムについて理解することを目的とする。おもに，乳幼児期の知覚，運動，認知，社会的認知の発達を扱っていく。

テキスト：

バッターワース，G.& ハリス，M「発達心理学の基本を学ぶ」ミネルヴァ書房

行動分析学Ⅰ(4)

行動の科学的制御とは

教授 坂 上 貴 之

授業科目の内容：

行動分析学（behavior analysis）の方法論の特徴と概念的枠組み，および実験的行動分析によって明らかにされた実験的事実とそれをめぐる最近の理論的展望を中心に講義を行う。

テキスト：

メイザー（著）磯ら（訳）「メイザーの学習と行動 日本語第 2 版」二瓶社

参考書：

- ・広田ら（著）「心理学が描くリスクの世界—行動的意志決定入門—」慶應義塾大学出版会
- ・佐藤（著）「行動理論への招待」大修館書店
- ・レイノルズ（著）浅野（訳）「オペラント心理学入門」サイエンス社
- ・スキナー（著）岩本（監訳）「人間と社会の省察」勁草書房
- ・スキナー（著）河合ら（訳）「科学と人間行動」二瓶社
- ・オドノヒューら（著）佐久間（監訳）「スキナーの心理学—応用行動分析学（ABA）の誕生」二瓶社

認知心理学Ⅰ(4)

記憶研究の最前線

〔春〕教授 伊 東 裕 司

〔秋〕准教授 梅 田 聡

〈春学期〉

授業科目の内容：

本講義では，1 年を通して，認知心理学の考え方，および研究方法の理解を目指し，認知のさまざまな視点からの研究に焦点を当てる。

春学期は，人間の記憶，知識，論理的推理に関する基礎的な研究と，それらの応用研究としての目撃証言研究，ブランド知識研究について論じる。

テキスト：

市川，伊東（編）．(1996)．認知心理学を知る．ブレーン出版

参考書：

初回の授業時にリストを配布します。

〈秋学期〉

授業科目の内容：

春学期に引き続き，認知の基礎的な研究に焦点を当てる．秋学期は，主に記憶と意識，感情，学習，問題解決，社会的認知，認知発達などに焦点を当て，やや専門的な視点からこれまでの研究を概観する。

テキスト：

授業中に指定する。

生物心理学Ⅰ(4)

〔春〕教授 渡 辺 茂

〔秋〕教授 小 嶋 祥 三

〔春学期〕

授業科目の内容：

生物心理学では心を 1) 神経系の機能として，2) 進化の産物として，捉えます。そのため最初の何時間かは神経科学の基礎を学びます。その後，前期は主として動物に関する講義を行います。このなかで，聴覚に関することがらと運動系に関することがらは後期に学ぶこととして前記ではほとんど取り上げません。

参考書：

カールソン「神経科学テキスト」丸善・渡辺茂「ヒト型脳とトリ型脳」文藝春秋社

〔秋学期〕

授業科目の内容：

秋学期には，ヒトの脳の研究が中心になる。機能脳画像や脳損傷の研究を通して，認知機能と脳との関係を理解することを目指す。

テキスト：

なし。

参考書：

Gazzaniga et al., Cognitive Neuroscience (2nd ed.) Norton, 2002

心理測定論(2)(春学期)

「心」の数値化の考え方と方法

教授 伊 東 裕 司

授業科目の内容：

心理学で用いられる測定の中で，心理的側面を直接数値化する方法について学ぶ。測定の対象としては，感覚，知能，好ましき，記憶，などを取り上げるが，測定方法はこれら以外の対象についても応用可能なものである。

心理学史（2）（春学期）	教 授 渡 辺 茂
--------------	-----------

授業科目の内容：

心理学には長い過去と短い歴史がある、というのが心理学史の講義の枕の定番であるが、僕に可能な範囲で過去についても言及したい。とはいっても、やはり実験心理学の成立を中心に、1960 年くらいまでの心理学の歴史を勉強することになろう。できる限り原典の一部を読んで一次資料から歴史を考えてみたい。実験科学としての心理学の勉強と歴史科学としての心理学史の勉強は大変異質なもので、僕自身歴史科学の正規教育を受けていないが、これまた僕のできる範囲で単なる学説の変遷ではなく、歴史科学としての心理学史の授業を目指してみたい。

参考書：

最初に一覧表を渡します。

心理統計（4）	助 教 大 森 貴 秀
---------	-------------

授業科目の内容：

心理学実験や調査に最低限必要と考えられる統計学の論理，技法を習得することを目標とします。春学期は記述統計，秋学期は推測統計を中心に授業を進めていく予定です。

テキスト：

山内光哉 1998 心理・教育のための統計法〈第2版〉，サイエンス社 2500 円

参考書：

授業内で随時紹介します。

心理学原典講読（2）	〔春〕助 教 大 森 貴 秀 〔秋〕准教授 梅 田 聡
------------	--------------------------------

〔春学期〕

授業科目の内容：

心理学を学ぶ上で必要となる英文文献の読解力習得を目的とする。春学期は主に学術書の精読を通して、心理学英語文献の論理，専門用語，特有の表現について基礎的な知識を学ぶ。

テキスト：

学期開始時の授業内で指示する。

〔秋学期〕

授業科目の内容：

春学期に引き続き、心理学の研究を進める上で必要とされる専門用語の基礎知識や論文構成の理解などを目的として、英語で書かれた論文および専門書を精読する。

テキスト：

初回授業時に指定する。

心理学実験Ⅰ（2）	教 授 山 本 淳 一 准教授 梅 田 聡 助 教 大 森 貴 秀 特別研究准教授 伊 澤 栄 一 講 師 菅佐原 洋 講 師 矢 野 円 郁
-----------	--

授業科目の内容：

心理学の基礎的実験法と実験心理学で研究された基礎的事実についての実験実習を行う。この授業は実験心理学の根幹をなし、且つ卒業実験を行うために必須の知識・技術の習得を計るものであるから、受講者はそれなりの覚悟を持って授業に臨まれない。心理学専攻の学生以外は履修できない。

心理学実験Ⅱ（2）	教 授 山 本 淳 一 准教授 梅 田 聡 助 教 大 森 貴 秀 特別研究准教授 伊 澤 栄 一 講 師 菅佐原 洋 講 師 矢 野 円 郁
-----------	--

授業科目の内容：

心理学の基礎的実験法と実験心理学で研究された基礎的事実についての実験実習を行う。この授業は実験心理学の根幹をなし、且つ卒業実験を行うために必須の知識・技術の習得を計るものであるから、受講者はそれなりの覚悟を持って授業に臨まれない。心理学専攻の学生以外は履修できない。

心理学研究会Ⅰ（2）	教 授 渡 辺 茂
------------	-----------

授業科目の内容：

実験データの分析を通じて、1) 文献検索，2) 研究目的，3) 実験計画，4) 実験技法，5) データ解析，6) 論文のまとめ方を学ぶ

心理学研究会Ⅰ（2）	人間の認知・記憶研究	教 授 伊 東 裕 司
------------	------------	-------------

授業科目の内容：

人間の認知・記憶に関する最近の文献を読み，討論する。受講者は各自リサーチクエスチョンを設定し，文献を検索し読み，その内容を他の受講者に紹介し，討論をリードすることを求められる。

心理学研究会Ⅰ（2）	教 授 小 嶋 祥 三
------------	-------------

授業科目の内容：

ヒトを対象とした認知精神科学の基礎を作ることを目指す。
主に近赤外分光法（NIRS，光トポグラフィ）の測定法を習得し，予備的な研究を行う。
卒業研究のテーマの指導を行う。

心理学研究会Ⅰ（2）	教 授 坂 上 貴 之
------------	-------------

授業科目の内容：

実験的行動分析を中心とした論文の発表と，それについての議論を中心に展開する。この授業を受講する者は，心理学研究会Ⅱを続けて受講することが求められる。

テキスト：

Iversen, I.H., & Lattal, K.A. (Eds.)(1991). Experimental analysis of behavior. (vol.1 & 2). Amsterdam: Elsevier.

心理学研究会Ⅰ（2）	知覚の心理学	教 授 増 田 直 衛
------------	--------	-------------

授業科目の内容：

知覚心理学研究における基本的考え方を身につけることを目的とする。

参考書：

- ・柿崎祐一「心理学的知覚論序説」培風館
- ・Goldstein, E. B. Sensation and Perception. Brooks/Cole Publishing Company
- ・Fineman, M. The Inquisitive Eye. Oxford University Press.

心理学研究会Ⅰ（2）	〔春〕教 授 山 本 淳 一 〔秋〕助 教 大 森 貴 秀
------------	----------------------------------

授業科目の内容：

（1）発達心理学に関する広い範囲での基礎知識を得るために、まず日本語で書かれたテキストを読み，発表し，討議する。その際，特に

学術的なレポートの作成、プレゼンテーション、ディスカッションの方法を学んでいく。

(2) 実験的手法を用いた発達研究、および発達（障害）臨床研究の英語論文を読み、自らの研究に生かせるように、それぞれの研究のレビュー、手続、結果の解析方法、を詳細に検討していく。

(3) 実際に、子どもたちの発達評価の実習を行う。また、子どもたちを対象にした実験を計画、実施し、その成果を発表し、検討する。

テキスト：

資料を配布します。

参考書：

資料を配布します。

心理学研究会Ⅱ（2） 教授 渡 辺 茂

授業科目の内容：

前期はテキストの講読、後期は雑誌論文の講読を行う。

テキスト：

相談の上決定する。

心理学研究会Ⅱ（2） 教授 小 嶋 祥 三

授業科目の内容：

卒業論文の実験、とりまとめの指導を中心に行う。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

心理学研究会Ⅱ（2） 教授 増 田 直 衛
知覚の心理学

授業科目の内容：

受講生の卒論テーマを中心とした研究論文を精読し、知覚心理学研究としての問題の所在を確かめる。

心理学研究会Ⅱ（2） 教授 坂 上 貴 之

授業科目の内容：

卒業論文の完成を目指し、関連する論文の発表、ならびに研究経過の報告をする。この授業を受講する者は、心理学研究会Ⅰと続けて受講することが求められる。

心理学研究会Ⅱ（2） 教授 伊 東 裕 司
人間の認知・記憶研究の実践

授業科目の内容：

人間の認知・記憶に関する最近の文献を読み、自分自身の研究テーマと関連付けて討論する。各受講者の卒業論文の研究について、随時進行状況を報告し、全員で討論を行う。

心理学研究会Ⅱ（2） 教授 山 本 淳 一
発達心理学の研究 [春] 助 教 大 森 貴 秀 [秋]

授業科目の内容：

発達心理学の卒業論文作成のための研究のデザイン発表、中間報告を行い、討議する。また、テーマに関連する論文をレビューし、研究テーマに関する最新の研究動向の発表も行う。

テキスト：

資料を配布します。

参考書：

資料を配布します。

選 択 科 目

心理学特殊Ⅰ（4）

行動薬理学（こころとくすり） 講 師 高 田 孝 二

授業科目の内容：

行動薬理学は、薬物の作用機序をヒトや動物の行動を通して捉えようとする一方、薬物効果を通して脳の機能（こころのはたらき）を探る学問領域です。こころのはたらきに影響を与える物質（向精神物質）は治療薬として広く用いられているほか、酒などの嗜好品を介して日常的に摂取され、また乱用など社会問題を生じるものもあります。さらに、われわれは向精神物質を含め、毎日様々な化学物質にさらされており、これら化学物質が生体機能に様々な影響を与えることや、母体を介して次世代の機能にも影響しうることが知られています。本講義ではこれらについて、最新の知見を含め、解説します。

テキスト：

講義資料プリントを配布します。

心理学特殊Ⅱ（2）（秋学期）

聴覚知《auditory perception》の心理学 講 師 境 敦 史

授業科目の内容：

聴覚を介した知覚の諸特性について、視知覚と比較しながら述べる。

テキスト：

指定しない

参考書：

指定しない

心理学特殊Ⅲ（2）（春学期）

司法における認知心理学的諸問題 教 授 伊 東 裕 司

授業科目の内容：

犯罪の捜査や裁判においては、人間の認知的な側面がさまざまな形でかかわりを持つてくる。この授業では、司法における認知的な問題に対して、認知心理学的な研究がどのようにしてどのような解決を提供しているか、しうるのかについて論じる。具体的な問題としては、目撃者の記憶の正確さ、目撃証言の信頼性に関する問題、裁判員の思考や判断に関する問題を中心に取り上げるが、嘘の検出、自白の信頼性の問題などにも簡単に触れる。

参考書：

- ・伊東・仲（編）特集 司法における心理学的問題、心理学評論 48（4）、2005。
- ・一瀬・巖島・仲・浜田（編）目撃証言の研究、北大路書房。
- ・Sporer, Malpass, Koehnken（編）箱田・伊東（監訳）目撃者の心理学、ブレーン出版。

知覚心理学Ⅱ（2）（春学期）

運動現象のタキソノミー 講 師 吉 村 浩 一

授業科目の内容：

心理学がこれまでにさまざまな領域で扱ってきた運動現象を総覧し、知覚心理学に閉じずに、運動現象と心理学の関係を多面的に捉えることを学ぶ。

知覚心理学は、ウェルトハイマーにより、運動現象を注意深く観察することから始まった。そのため、心理学と運動現象の関係は、知覚心理学という研究領域に限られるものと理解されがちである。本講義では、思考や社会的知覚、アニメーションや映画などアートとサイエンスの関係に至るまで、動きを多面的に捉え、受講者の皆さんに紹介していく。

テキスト：

吉村浩一著 2006 『運動現象のタキソノミー』（ナカニシヤ出版）

参考書：

吉村浩一著　2001　『知覚は問題解決過程』（ナカニシヤ出版）

発達心理学Ⅱ（2）（春学期）

ことばとコミュニケーションの発達

講　師　小　林　春　美

授業科目の内容：
子どもはどのように他者とのコミュニケーション能力を獲得し、言語を獲得するのか。胎児期から児童期に至るまでのコミュニケーションと言語の発達について検討する。近年の胎児および乳幼児研究の進展により、幼い子どもたちが予想外に高い認知能力を持つことが明らかとなってきた。一方、子どもたちを取り巻く養育者を含む環境がきわめて豊かであり、優れた支援をしていることも見いだされている。本講義ではことばがどのように立ち上がってくるのか、比較認知心理学（ヒト以外の霊長類との比較研究）からの最近の知見も含めて論ずる。

テキスト：
プリント資料を使用する。

参考書：
・「言語発達とその支援」岩立志津夫・小椋たみ子編著　ミネルヴァ書房
・「子どもたちの言語獲得」小林春美・佐々木正人編著　大修館書店

行動分析学Ⅱ（2）（春学期）

人間の実験的行動分析

講　師　小　野　浩　一

授業科目の内容：
行動分析学における行動の原理は、基本的に生物種の違いを超えたものである。従って、論文にはしばしば動物を被験体とした研究と人間を対象とした研究が並んでいる。しかしながら、動物の行動と人間の行動が多くの面で異なっていることも確かである。

本講義では、実験的人間行動分析学と呼ばれる領域について解説するが、その主な内容としては、(1) 人間行動の特徴、(2) 人間行動を実験的に研究する方法、(3) 特に人間において発達している言語、社会、文化に関する行動分析的アプローチ、などが中心となろう。

テキスト：
小野浩一著『行動の基礎＝豊かな人間理解のために』培風館（2005年）

参考書：
授業の中で適宜紹介する。

認知心理学Ⅱ（2）（秋学期）

情動と社会性の認知神経科学

准教授　梅　田　　聡

授業科目の内容：
認知神経科学は、脳の機能に焦点を当てながら人間の認知メカニズムを探る比較的新しい学問分野である。

その主な方法論としては、1) 脳損傷や精神神経疾患の症例を対象とする神経心理学研究、2) fMRI、PET、MEGなどを用いる脳機能画像研究、3) 認知心理学の実験的基礎研究が挙げられる。

近年、認知神経科学は、これまでの基礎的な知見を踏まえ、情動や社会性などの問題が焦点化されており、多くの興味深い事実が明らかにされている。本講義では、それらの研究の最新の成果について触れる。

テキスト：
授業中に指定する。

生物心理学Ⅱ（2）（秋学期）

講　師　山　崎　由美子

授業科目の内容：
比較認知神経科学的研究の実験結果から、さまざまな種の認知過程について学びます。

テキスト：
特に指定しません。

参考書：
特に指定しません。

数理心理学（2）（秋学期）

心理現象の数理解析　環境情報学部　教授　渡　辺　利　夫

授業科目の内容：
数理心理学は、数理モデルを構成することによって、心理現象を説明しようとする分野である。本講義では、学習、記憶、性格、知覚の分野をもとに数理モデルがどのように構成され、そして数理モデル構成によってどのようなことがわかってくるのかについて考えてゆく。

テキスト：
なし

参考書：
渡辺利夫著　フレッシュマンから大学院生までのデータ解析・R言語　ナカニシヤ出版 2005

臨床心理学概説（4）

思春期の心理と学校臨床心理学

教職課程センター　教授　伊　藤　美奈子

授業科目の内容：
前期：青年期の入り口に当たる思春期の心理的発達に焦点づけながら、生涯発達における青年期（思春期）の意味とその精神病理について講義する。

後期：近年、ますます複雑化・深刻化する子どもの心の問題。学校現場では、そういう問題行動をどのようにとらえ、対処しているのだろうか。本年度は、とくに不登校に重点を置いて、その実情と学校における対応について講義する。スクールカウンセラー制度についても紹介しながら「学校」における教育臨床の現状と課題について考えていきたい。

テキスト：
伊藤美奈子著『思春期の心さがしと学びの現場』（北樹出版、2000年、1600円）

参考書：
伊藤美奈子著『思春期・青年期臨床心理学』（朝倉書店）
伊藤美奈子著『スクールカウンセラーの仕事』（岩波書店）

パーソナリティ理論概説（4）

休講

認知臨床心理学（4）

休講

発達臨床心理学（4）

講　師　竹　内　康　二

（春学期）

授業科目の内容：
次のような目的を持って本講義を実施する。

- 乳幼児期から学齢期、そして成人期までの間に見られる発達上の問題について理解する。
- 自閉性障害、知的障害、注意欠陥多動性障害、学習障害などの発達障害、いじめや不登校などの学校問題、虐待などの家庭問題について理解する。
- 様々な臨床事例の検討を通して発達臨床の実際を理解し、支援計画の立案と面接の技法について学ぶ。

テキスト：
初回の授業で提示します。

参考書：
初回の授業で提示します。

(秋学期)

授業科目の内容：

- ・主に発達障害のある子どもが、乳幼児期から青年期にいたるまで、どこでどのように生活するのかについて、子どもを取りまく支援システムや制度の観点から解説します。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

言語障害臨床（4）

休講

○教育学専攻

必修科目

教育学概論 (4) [春] 教授 山本正身
[秋] 教授 真壁宏幹

(春学期)「人間主義」の関心からとらえられた教育学の理論と構造
授業科目の内容：

「教育」や「教育学」をどう論ずるかについては様々な立場や関心があり得る。それゆえ今日までの教育学研究の諸蓄積や諸成果をもつてしても、そこに「定式」と呼ぶに足るだけの理論的枠組みが確乎たるものとして用意されているわけではない。それゆえ、春学期においては、とくに「人間のため」(とりあえずこの言葉に對置されるべき言葉として「国家のため」や「社会のため」というものを想定しておいてもらいたい。あるいはある意味では「個人のため」という表現もこれと對置され得る)という関心を優先的関心とするときに、教育学の理論や構造がどのようなものとして立ち現れてくるか、という問題意識に立って講義を展開してみることにする。

その際、講義担当者が「人間主義」の教育学のモデルに据えるものは、村井実(1922-)の教育学理論である。換言すれば、春学期の講義は徹頭徹尾村井教育学にこだわり、その祖述に努め、その理論的体系や理論構造のもつ意味を受講者とともに吟味する姿勢を貫きたいと考えている。

しかし、ではなぜ担当者はかくも村井教育学にこだわるのか。それは何よりも、ともすれば「あれか、これか」の対立構造(例えば、「文化の伝達」と「個性の伸張」、「努力指向」と「興味指向」、あるいは「集団主義」と「個人主義」といった)の一方に与しがちな教育理論とは距離を保ちながら、その対立構造を克服するための展望を最も鮮明な形で提示し、しかもその提示の仕方を「人間のため」という立場からの精密かつ周到な推論と論証を通して組み立てた教育学者こそが村井実に他ならないからである。さらに、この「人間主義」に立脚して、ともすれば政治や経済の下請けと見なされがちな教育という営みについてその固有の意味を問い、あるいは倫理学や社会学・心理学などに従属させられがちな教育学についてその学制的自律性の問題を真正面から引き受けた稀少な教育学者が村井実に他ならないからである。

したがって、受講者には、村井実によって自覚された教育と教育学の自律的課題を自らの学制的課題として追体験し、それを主体的に問い直し、その新たな展望を探るための力量を身に付けてもらうことを期待する。そのような学修のプロセスを提供することこそ、担当者が講義のねらいとするところのものである。

テキスト：

毎回プリント資料を用意する。

参考書：

- ・村井実『教育の再興』講談社、1975年(『村井実著作集』第二巻、小学館、1987年、所収)。
- ・村井実『教育学入門(上)(下)』講談社、1976年(『村井実著作集』第一巻、小学館、1988年、所収)。
- ・村井実『新・教育学のすすめ』小学館、1978年(『村井実著作集』第五巻、小学館、1988年、所収)。
- ・村井実『子どもの再発見』小学館、1982年(同上、所収)。
- ・村井実『人間と教育の根源を問う』小学館、1994年。
- ・田中克佳『教育学』(慶應義塾大学通信教育教材)慶應義塾大学出版会、1993年。

(秋学期)

授業科目の内容：

近代教育学を構成している思想やテーマや方法における鍵概念を思想史上におき直すことで、近代教育学的思考の特徴を考察する。

参考書：

モレンハウアー『忘れられた連関』(みすず書房)

教育学原典講読(2)

講師 敷島千鶴

授業科目の内容：

心理学の流れを変えたと言われる著名な文献を広く選択し、1回の授業につき1論文を講読します。担当者には発表までに訳文を提出してもらいます。1回の授業の前半で内容の正確な理解を目指し、後半ではその研究の意味を教育学的立場からディスカッションします。

教育学原典講読(2)

教育課程センター 専任講師 藤本和久

授業科目の内容：

米国において測定中心の評価観が広まっていく経緯を丁寧に追うことで、教育評価論の抱えている課題を明確にしていく。この作業と併行して、20世紀初頭の米国カリキュラム開発史を評価論の観点から捉え直していく。

テキスト：

“How Testing Came to Dominate American Schools”(Gerard Giordano / PETERLANG 2005)

教育学原典講読(2)

助教 山梨あや

授業科目の内容：

教育史に関する英語文献を読みます。

テキストを正確に読み、著者の意図を把握した上で、討論を行います。

テキスト：

初回の授業時に指定します。

教育学原典講読(2)

助教 藤澤啓子

授業科目の内容：

本講義では、子どもの社会性の発達に関する本(英文)を発表形式で輪読し、ディスカッションをおこないます。英語文献を読み進める力をつけるとともに、発達心理学に関する理解を深めることを目指します。

テキスト：

初回の授業時に指定します。

参考書：

講義中に適宜紹介します。

教育史(4)

日本の「近代教育」を考える 教授 山本正身

授業科目の内容：

「教育」を広く人間の成長を促す働きかけとしてとらえるならば、学校を中心として行われている組織的・計画的な教育は教育全体の一部にすぎず、またその歴史も人類史の中のほんの僅かな期間に認められるだけのものであるにすぎない。だが、今日において教育は学校教育を中心に展開され、学校の問題を抜きに教育を語ることはあり得ないような状況にさえなっている。

本講義では、この学校を中心とする組織的・計画的な教育を国家が主導し、またそれを国家的規模において展開しているもののことを「近代教育」としてとらえ、この「近代教育」をめぐる諸問題を日本の事例を通して考察する。その際、考察の主要なポイントは、①「近代教育」はいかなる理由によって、またいかなる経過を通して教育の中心として君臨するようになったのか、②「近代教育」の制度的、思想的特質とは何であるのか、またその特質は広義的教育全般の中にどう位置づけられるものなのか、③「近代教育」を克服するための教育上の視点にはどのようなものがあり得るのか、またその視点からとらえられた教育とはどのようなものとして構想され得るのか、の三点に向けられることになる。

この三点は、それだけに着目するならば、教育史というよりもむしろ教育思想もしくは教育哲学の分野での分析視点であるように見える

かもしれない。だが、本講義はこの三点をとくに歴史的な関心に立って論じようとするものであり、そこに本講義が「教育史」を名乗る所以がある。

それゆえ、本講義は教育を題材として史資料の精密な解説に基づく実証研究の成果を紹介することを主たる目的とするものではない。あるいは、日本の歴史の中に探られた教育に関する事実そのものの確実な把握を受講者に求めることを主眼とするものでもない。受講者には、組織的・計画的な教育、すなわち「積極的に教えることによって人間を形成しようとする」教育をもって唯一絶対の教育と見なす発想を相対化し、それを克服するための視点を確保することを目指して、日本教育史の事例に思想的格闘を挑まれることを期待したい。

テキスト：

特に指定しない。講義の際、資料プリントを配布する。

参考書：

- ・田中克佳『教育史』（慶應義塾大学通信教育教材）慶應通信、1982年。
- ・辻本雅史『「学び」の復権』角川書店、1999年。
- ・村井実『近代日本の教育と政治』東洋館出版、2000年。

教育学史（4）	教授 舟山俊明
---------	---------

授業科目の内容：

本講義の目的とするところは、「教育問題の科学としての教育学」という教育学理解にもとづき、その基礎となる「教育学的な視座」がいかんして成立したのか、またいかなる展開を経て今日に至っているのかを理解してもらうことにあります。とりわけ近年のさまざまな近代批判の論調に鑑みたと、極めて近代的な概念である「教育」の自己理解のあり方を十分に吟味することは、今日教育学研究を遂行していく上で避けて通れない課題です。それゆえ先ずは春学期においてこの問題の基本的性格と構造を取り上げ考えます。秋学期には、上記の問題と視座から具体的事例を取り上げ検討したいと考えています。

授業の進め方は講義形式を基本としますが、途中で VTR の視聴やグループ学習による報告やディスカッションの時間を設け、可能な限り立体的な授業展開を意図しています。

それゆえ、聴講者諸君による授業への積極的な参加が期待されます。

テキスト：

田中克佳『教育学』（通信教育テキスト）慶應義塾大学出版会 1993

参考書：

授業内で適宜指示する。

比較教育学（4）	
世界の教育／教育という世界	教授 松浦良充

授業科目の内容：

「教育」は、個別的で具体性の強い活動である。したがって、教育事象を理論化（一般化）して把握しようとする作業には大きな困難が伴う。それどころか、捉え方によっては、教育を一般化・法則化すること自体が大きな矛盾である、と言えるかもしれない。

ただしたとえ完璧な客観化が不可能だとしても、教育にかかわる事象や問題を、学問的により正確に把握し検討するための有効な手段はないのか。その一つが、「比較」の方法である。他の文化や社会・国家あるいは時代（歴史）における教育と比較することで、私たちが現在直面している教育にかかわる事象や問題を「相対化」し、これまで「あたりまえ」と思いこんできたことを見直すための視座を獲得することができるはずである。とりわけ国際化・グローバル化が指摘される現代では、教育は、他のさまざまな文化や社会・国家からの影響を受けながら、相互に変貌してきている。その意味では、日本の「教育」のなりたちそのものが「比較教育」的なダイナミクスの産物である。

この授業では、こうした背景をふまえて、比較研究の手法と視座を用いた「教育」の再検討の作業を試みる。世界の教育を知ることによって、教育の世界の特徴と可能性および限界を考えたい。

春学期では、「比較教育学の方法」を知ることによって、比較教育学の基礎的諸理論・方法論を検討する。それを通して、西洋近代に発生した歴史的事象である「教育」がグローバル化するプロセ

スを、主として日本を事例として考えることになるであろう。

秋学期には「比較教育学の問題圏」というテーマのもとで、教育に関する諸問題・領域を国際比較の観点から検討したり、地域別の教育事象の特徴に関して議論する。その際、履修者による発表と討論を中心に進める。個々の事例研究を通して、日本の教育を再認識する視点を身につけることができるだろう。

なお、【テキスト】【参考書】【授業の計画】【履修者へのコメント】【成績評価方法】【質問相談】の各事項については、以下の Web Site に掲載する（「授業（塾内）」のページ）。

<http://matsusemi.jpn.org>

教育心理学概論（4）	教授 安藤寿康
------------	---------

授業科目の内容：

人間の成長に関連するさまざまな心理学的に基本となる知見や研究方法論を紹介する。特に個人差と発達に焦点を当て、生命科学との関連を重視した心理学的教育学を描きたい。

教育学演習Ⅰ（3年）（2）	
教育学演習Ⅱ（4年）（2）	
美的経験と人間形成	教授 真壁宏幹

授業科目の内容：

春学期：「美的経験」と人間形成にかかわる哲学書、理論書を読んでいきます。

秋学期：教育の根本問題を考察できるような本を読んでいきます。

テキスト：

初回に指示します。

参考書：

初回に指示します。

教育学演習Ⅰ（3年）（2）	
教育学演習Ⅱ（4年）（2）	
教職課程センター	教授 鹿毛雅治

授業科目の内容：

教育心理学に関する内外の文献を講読し、討論します。基本的に発表形式で進めていく予定です。使用する文献については、履修者諸君と相談しながら決めていきたいと思います。

常に教育的な問題関心を抱きながら、自らの研究対象を選び取りつつ、それに対する探究を協同的に深めていこうとする姿勢を履修者諸君に期待しています。

教育学演習Ⅰ（3年）（2）	
教育学演習Ⅱ（4年）（2）	教授 安藤寿康

授業科目の内容：

各自の関心に従いテーマを設定して心理学的な実証研究を行い、すぐれた卒業論文を作成することを最終的な目的とします。そのために内外のさまざまな文献（特に英語で書かれたもの）にあたり、担当者および他の演習履修者と活発なディスカッションを行い、実験や調査、フィールド・リサーチなどによって一次資料を収集します。履修者はこうした活動を通じて自分の問題意識を深め、その過程で人間の発達と教育に関して証拠に基づいて（evidence based）論理的・科学的に考えることを学んでほしいと思います。

教育学演習Ⅰ（3年）（2）	
教育学演習Ⅱ（4年）（2）	教授 松浦良充

授業科目の内容：

授業問題を、主として国際・異文化間比較の観点から研究することを目的とする。教育事象や教育システムの成立要因や構造を、「比較」研究の手法を用いて捉えることによって、各自にとってくあたりまえとなっている「教育」概念を相対化し、再定義する視座や研究態度の習得をめざす。

【成績評価方法】【質問相談】の各事項については、随時、以下のWeb Site（「学部ゼミ」のページ）に掲載する。
<http://matsusemi.jp.org>

教育学研究会Ⅰ（2）
教育学研究会Ⅱ（2）
卒業論文指導（日本教育史） 教 授 山 本 正 身

授業科目の内容：

卒業論文作成に向けての指導を行う。
本研究会として卒業論文作成の要件としていることは、少なくとも、①研究テーマに客観的意義が認められる（単に主観的に「知りたい」というだけではだめ）、②当該分野の先行研究調査が十分になされている、③当該分野の研究課題（未だに明らかにされていないことは何か）を指摘することができている、④研究において独自の視点や論点（内容や方法にまで独自性があれば申し分ない）が提示されている、⑤表現や記述が論理的かつ体系的になされている、の五点である。参加者には、最低限、春・秋学期二度の研究報告と、二度のレポート提出が課せられる。

なお、本研究会は、日本教育史、日本教育思想史に関心のある学生の参加を歓迎するが、広く日本の教育問題を考えたいと希望する学生も受け入れる。ただし、研究方法はあくまでも文献研究を中心とするものに限られる（いわゆる調査研究や実験研究の指導はできない）ことを付言しておく。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業時に適宜指示する。

教育学特殊Ⅰ（4） [春] 講 師 杉 下 文 子
[秋] 講 師 東 敏 徳

＜春学期＞

授業の内容：

「読み」「書き」教育の思想史というテーマで、ルネサンス人文主義の教育論をとり上げ、そこで言語・レトリック教育がどのように扱われているのかを社会文化的背景をも鑑みながら検討します。講義中心ですが、受講者の発表、討論などを織りまぜて授業を進めます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業内で適宜指示します。

＜秋学期＞

授業科目の内容：

後期の授業内容は古代ギリシアで展開された教育思想についての解説にあたる。その教育思想を今日の教育問題の中で見直ししながら、ソクラテス、プラトン、アリストテレスを中心として教育とは何かを問うていく。

テキスト：

『アリストテレスと生き方の教育』（ユージン伝. 2004）

参考書：

授業内で適宜指定する。

教育学特殊Ⅱ（4） [春] 講 師 榊 原 彩 子
[秋] 講 師 安 治 陽 子

〔春学期〕

授業科目の内容：

「創造性」というキーワードをもとに、認知心理学における主要なトピックである、知覚、記憶、問題解決等を中心に、過去の具体的研究例を交えつつ、基礎的な理論を講義形式で解説する。心の働きとしての認知的活動を理解するにあたり特に、新たなものを生み出す創造的思考や、美術や音楽といった芸術の理解など、新奇的なトピックについて、認知的理論を紹介する。

基本的には講義形式であるが、認知課題や質問紙を体験したり、グループで模擬実験を実施したり、演習的な内容も適宜もちこみたいと考えている。

テキスト：

テキストは用いず、授業時に配布するプリントを教材とする。

参考書：

授業時に適宜指示する。

〔秋学期〕

授業科目の内容：

社会情緒的発達について、乳幼児期を中心に概説する。人生の最早期から、他者との関係性がどのように構築されるのか、そこで人はどのような社会的発達を遂げていくのか、またその中で自己はどのように発達するのか、情動（感情）はどのような役割を持ち、いかに発達するのか、といった内容について、発達心理学の知見を紹介する。

テキスト：

特に指定しないが、適宜参考文献を紹介し、プリントを配布する。

参考書：

特に指定しないが、適宜参考文献を紹介し、プリントを配布する。

教育学特殊Ⅲ（4） [春] 助 教 山 梨 あ や
[秋] 講 師 佐々木 啓 子

〔春学期〕近代日本における読書行為と教育

授業科目の内容：

本講義では、読書という行為が近代日本の教育にどのように位置付けられていったのかを考察します。

読書は学校教育の普及、印刷技術の向上、メディアの発達に根差したものであり、この意味において近代化の所産の一つであるといえます。さらに読書は教育と同様、人々が新たな知識や価値観と出会う契機となるものでした。

1900（明治 30）年代以降、読書の人間形成作用に対する関心が高まりを見せ、読書は「教育」の範疇にあるものとして捉えられるようになります。読書行為は、学校教育、さらには社会教育の成立と密接に関わりながら普及して行きました。本講義では読書行為の普及という視点から、近代日本の教育やその問題を歴史的に問い直したいと考えています。

テキスト：

講義時に適宜指示します。

参考書：

講義時に適宜指示します。

〔秋学期〕近代日本における教育の歴史社会学

授業の内容：

日本の教育の史的研究は、制度史あるいは思想史を中心に展開されてきた。しかし、明治維新により近代化の道を歩み始めた日本が急速な発展を遂げたのは、政府主導による近代学校の組織化と制度的確立のみならず、人々の教育に対する強い期待があったからに他ならない。特に第一次世界大戦後に形成された都市の新中間層（官公吏、医師、弁護士、教員、銀行・会社員など）は、学歴や資格によってその地位を獲得した学歴エリートであった。身分制が崩壊し職業の世襲が事実上不可能なこれら新中間層は、しかし、巧みにしかも正当な手段、すなわち教育を介在させて、その地位を再生産してきた。今日の教育拡大の初期的形態が戦間期（1920－30年代）における都市新中間層の教育要求にみるのできるのである。

本講義の目的は、戦前期日本の社会経済構造の変化といったマクロな視点の中に教育を位置づけるとともに、教育を受けた側の学生・生徒およびその家族の思いといったミクロな視点を取り入れ、その接合を企図する。当時の学生・生徒の就学状況が生き生きと再現されるような文献を紹介しながら、教育の歴史社会学とは何かを考える講義としたい。

テキスト：

資料を配布するとともに講義時に適宜指示。

参考書：

文献リストを第1回講義時に配布しますが、主な文献は以下。

- ・天野郁夫『教育と近代化』玉川大学出版部，1997年
- ・佐々木啓子『戦前期女子高等教育の量的拡大過程』東京大学出版会，2002年
- ・天野郁夫『試験の社会史』東京大学出版会，1983年
- ・E．Hキンモンス，広田照幸他訳『立身出世の社会史』玉川大学出版部，1995年
- ・ブルデュー&パスロン，石井洋一訳『遺産相続者たち—学生と文化』藤原書店，1997年
- ・教育学年報6『教育史像の再構築』世織書房，1997年
- ・産む・育てる・教える—匿名の教育史1『＜教育＞—誕生と終焉』藤原書店，1990年
- ・NIRA政策研究『生活水準の歴史的研究』1988年vol.1.No.2

教育学特殊Ⅳ（4）	【春】講 師 長 嶺 宏 作 【秋】講 師 西 村 史 子
-----------	----------------------------------

＜春学期＞アメリカ公教育制度と理念

授業科目の内容：

本講義の目的は，アメリカの公教育制度を理解し，制度を支える理念について学びます。

日本では，小泉・安倍政権下のもとで次々と教育政策が打ち出されている。その多くが欧米の教育改革をモデルにしているが，欧米の改革の意識や功罪を深く考察することなしに表層的な理解のもとに諸政策が導入されることが多い。そこでアメリカでは，公教育制度がどのような構造と制度を持ち，どのような理念によって支えられているのかを説明したい。

テキスト：

講義で資料を配布します。

参考書：

随時，紹介する。

＜秋学期＞

授業科目の内容：

本講義（秋学期）の目的は，アメリカ合衆国における教育機会の平等化メカニズムの形成を，教育行財政システムの改革をとおして理解することにある。具体的には，1970年代以降の公立学校教育制度（k-12 学年）における学区間格差の解消や各家庭の所得格差に伴う教育機会の不平等の改善をめざした政策がどのように展開し，制度として定着したかをたどる。さらに，現在の高等教育にかかる費用負担の軽減を図る政策にも言及し，我が国の実態と比較考察する。

テキスト：

特に指定しない。適宜，講義資料を配付する。

参考書：

Allan Odden, & Lawrence O.Picus, “School Finance: A Policy Perspective,” 3rd ed., McGraw - Hill, c2004

教育学特殊Ⅴ（4）	【春】講 師 広 石 英 記 【秋】講 師 山 内 淳 子
-----------	----------------------------------

＜春学期＞教育の見立てなおし

授業科目の内容：

「教育」を善きものとして語り，教育問題を「教育」の不備ととらえる従来の教育言説は，どこまでリアルに現実の事態やそれを生起させている状況に迫っているのでしょうか？教育学的まなざしだけで枠付けられてしまう言説（現在の教育様式が自明視されいる言説）には限界があります。

この講義においては，従来の「教育という意味連関」に様々な諸概念（社会構成主義・相互作用・類型的同化作用・自己目的的行為・出来事・意味生成の自由なカリキュラム・協働という学び）という差異を挿入することによって，教育という意味連関の奥行きや幅を自覚的に揺らし，「教育」を異化することが目論まれています。

この見立ての変容によって，私たちは，初めて新たな意味での＜教育＞を見つめる地平に立つことができるのではないだろうかという見込みを持っているからです。本講義は，私たちが無意識的に抱え込んでいる「教育」や「子ども」といったイメージ（像）を相対化できる

様々な解説法を検討することによって，講義参加者の教育や子どもに対する既定の概念を再構成してみるヒントを共に考えていくことを目的としています。

テキスト：

適宜，参考になるプリントを配布します。

＜秋学期＞ナラティブとしての幼児教育

授業科目の内容：

春学期に「教育の見立てなおし」を経験した履修者の皆さんと，秋学期には，特に「幼児教育実践」を焦点にあてて，共に語り，考えていきたいと思っています。

経験主義対本質主義の議論からみても，義務教育前の幼児教育現場は，学習指導要領等，いわゆる伝達すべきもののしぼりが少なく，経験主義的な教育を思う存分試みていくことのできる魅力的な場です。いわば，日々が総合的な学習の時間であり，人生の最初の時期に，子どもたちが自分なりに観察したり，探求したり，発見したり，工夫したり，表現したり等，学ぶ楽しさを経験できるという意味では，幼児教育は，非常に重要でやりがいのあるものです。

しかしながら，今日の幼児教育現場では，ときに「子どもの目が輝いていた」等が評価基準となるなど，教師たちは子どもや幼児教育について語るすべてを十分に持ち合わせていないというのも実態です。

では，どのようにしたら，私たちは，子どもという存在の，また幼児教育という営みの，これまで見落としてきたもの，見えずにきたものを可視化し，語りえなかったものを語っていくことができるのでしょうか。対象をかせ，切り口をかせ，着眼点をかせ，手法をかせながら，様々に幼児教育の営みにアプローチしていけたらと思っています。

幼児教育実践に焦点をあてたこれらの試みによって，幼児教育のみならず，教育という営みそのものを何かしら新たなまなざしを向けることができればと考えています。

なお，本講義では，関係の深い分野として，初等教育の実践や児童福祉の実践についても取り上げていきたいと思っています。

テキスト：

適宜プリントを配布します。

参考書：

講義内に適宜紹介します。

教育学特殊Ⅵ（4）	言語教育の諸問題 言語文化研究所 教授 大 津 由紀雄
-----------	-----------------------------

授業科目の内容：

言語教育「国語」教育・外国語教育について多角的に検討する。受講者は毎回かなりの量の作業を求められる。言語学・教育学・心理学などの知識は前提としない。本コースは本年度のみ開講する。受講希望者は必ず第一回目の講義に出席のこと。やむをえない都合で出席できない場合は，必ず事前に担当者に連絡のこと。

テキスト：

文献リストを第1回講義にて配布する。

参考書：

文献リストを第1回講義にて配布する。

教育学特殊Ⅶ（4）	名誉教授 田 中 克 佳
-----------	--------------

授業科目の内容：

近世日本教育史研究 ― 洋学教育史を中心に ―

近世日本（江戸時代）の代表的学問類型の呼称として儒学・国学とならんで洋学というものがある。それは，南蛮学・蘭学・洋学その他，時期々々に現れた西洋学術の個別な呼び方を総括する総名であるが，この洋学の伝来，移入，教授＝学習などを日本近世教育史研究の関心に立って講義する。

（洋学教育史研究の基本文献『蘭学事始』の履修者全員による輪読も試みる。）

教育学特殊Ⅷ (4)	【春】講 師 坂 本 辰 朗 【秋】講 師 古 屋 恵 太
------------	----------------------------------

〈春学期〉

授業科目の内容：

春学期はアメリカ大学史を取り上げる。1636 年のハーバード大学の成立から 19 世紀末の「ユニバシティの時代」へ、さらには、世界の center of excellence へと、アメリカの大学は 350 年余の歴史の中で大きく変貌する中、日本を含む各国の高等教育へ理念的にも制度的にも大きな影響をあたえてきた。本コースでは、比較教育史的な視点をも含め、アメリカにおける higher learning の歴史を辿ってゆくことにしたい。

なお、このコースでは、講義と同時に、履修者によるプレゼンテーションを併用してゆく。

テキスト：

John R. Thelin. *A History of American Higher Education*. (Johns Hopkins University Press, 2004). を使用するが、この他にハンドアウトを配付する。

参考書：

レファレンスリストを配付する。

〈秋学期〉アメリカ進歩主義教育思想史

授業科目の内容：

この授業では、子ども中心主義と呼ばれる教育理念が、アメリカの進歩主義教育において、どのように生まれ展開したかを解説します。1. 革新主義期という歴史的文脈にこの教育理念を位置付けることができるようになること。2. 進歩主義教育の理論的指導者とされるジョン・デューイなど具体的な思想家とのかかわりで、この教育理念を理解できるようになることを目的とします。

講義形式で授業をおこなう予定ですが、受講生の人数によって、演習形式を採用するなど授業の形式は柔軟に対応する予定です。なお、講義の場合でも、資料の読解や英文資料の和訳などの作業をしてもらう予定です。

テキスト：

J. デューイ『学校と社会・子どもとカリキュラム』（市村尚久訳 講談社 1998 年 920 円）

また、講義資料プリントを毎回授業時に配布します。

参考書：

講義中に適宜紹介します。

選 択 科 目

教育学文献講読Ⅰ (4)	
休講	
教育学文献講読Ⅱ (4)	
心理学の英語論文の講読	講 師 中 邑 啓 子

授業科目の内容：

心理学の様々な分野（発達心理学、教育心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、カウンセリングなど）に関連する英語論文を講読します。実証的な研究論文の読み取り方を論文の形式、解析方法、データの解釈の仕方等の異なる視点から学習します。論文は、現代の心理学の基礎となる必読文献や最近書かれた心理学の注目すべき論文などの中から選択します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

教育学文献講読Ⅲ (4)	講 師 吉 野 剛 弘
--------------	-------------

授業科目の内容：

この授業では、日本教育史に関心をもつ学生を対象に、日本教育史

に関わるさまざまな史料の講読を通して、日本教育史に関する見識を深めていくとともに、各種史料を読み進めていく能力を培うことにする。

取り上げる史料については、基本的には受講者の希望に応じていくことにしたい。しかし、特に要求がないという場合は、初等教育から社会教育にいたるまでのさまざまな教育改革が議論された臨時教育会議（1917—19）の議事録の集成である『資料 臨時教育会議』の諮問第三号「大学教育及専門教育二関スル件」を読み進めていくことを考えている。上記史料は活字体であるので、旧漢字・旧かなづかいに慣れていない初学者でも、辞書をひきつつ読めば何とか読みこなすことは可能である。時間的、能力的に余力がある、あるいは受講者の希望があれば、一次史料（手書きによるもの）を読む機会も設け、実際の教育史研究の現場を体感することも試みたい。

テキスト：

授業で講読する史料はコピーしたものを配布する。

参考書：

必要に応じて適宜指示する。

教育測定実験 (4)	講 師 小 川 万 理 子 講 師 小 林 琢 哉
------------	------------------------------

授業科目の内容：

この講義は、教育科学研究を実証的に行なうための方法を習得することを目的とします。

講義内容は、1. 教育心理学の検査の理論・方法、2. 実験・調査の 2 つから成り立っています。具体的には、心理検査や質問紙調査法の理論的背景および実施の仕方、実施後のレポートの作成法を学びます。また、実験および調査の結果をコンピュータ（SPSS, Excel 等）により統計的に分析する実習を行います。

テキスト：

特にありません。

参考書：

適宜、講義中に指定します。

教育研究法Ⅰ (2) (春学期)	
社会科学研究のための基礎統計学	講 師 尾 崎 幸 謙

授業科目の内容：

教育学・心理学等、社会科学全般における量的研究に統計学は欠かすことができません。

量的研究とは、アンケート調査など、数で表すことの可能なデータを収集し、データ分析の結果に基づいて知見を述べる研究のことです。

本講義では、平均・標準偏差という統計学の基礎から授業を行います。最終的には、最も重要な分析方法の 1 つである分散分析を独力で分析可能なレベルに到達することを目標とします。分散分析を学ぶことにより、複数の教授法の効果の違い、男性と女性ではどちらが他者からの評価を気にする程度が高いかなど、因果の存在を客観的に探求することが可能になります。

講義を聞いてノートをとるだけでは統計学は身につかないので、フリーウェアの統計ソフト R や EXCEL を使った実習を適宜組み入れます。実際に履修者に対してアンケート調査を実施し、分析実習に用いることも考えています。

テキスト：

- よくわかる心理統計 山田 剛史（著）、村井 潤一郎（著）ミネルヴァ書房 2004
- 配布資料

参考書：

- 南風原 朝和（著）心理統計学の基礎—統計的理解のために 有斐閣 2002
- 舟尾 暢男（著）The R Tips — データ解析環境 R の基本技・グラフィック活用集 工学社 2005
- 舟尾 暢男（著）、高浪 洋平（著）データ解析環境「R」— 定番フリーソフトの基本操作から
- グラフィックス、統計解析まで 九天社 2005

- ・渡辺利夫（著）フレッシュマンから大学院生までのデータ解析・R 言語 ナカニシヤ出版 2005

教育研究法Ⅱ（2）（秋学期）

社会科学的研究のための多変量解析 講 師 尾 崎 幸 謙

授業科目の内容：

前期開講の教育研究法Ⅰに引き続き、社会科学的研究のための統計学の講義を行います。

後期は特に、多変量解析と呼ばれる手法についての講義になります。多変量解析は数々の手法の総称であり、そこには因子分析・クラスター分析などが含まれます。因子分析を学ぶことで、例えば、アンケート調査の項目がいくつかのまとまりも持っているのかを知ることが可能となります。また、クラスター分析を学ぶことで、例えば、教科の好き嫌いによって生徒を分類することが可能になります。

前期同様、講義を聞いてノートをとるだけでは統計学は身につかないので、フリーウェアの統計ソフト R や EXCEL を使った実習を適宜組み入れます。実際に履修者に対してアンケート調査を実施し、分析実習に用いることも考えています。

テキスト：

- ・足立 浩平（著）多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門 ナカニシヤ出版 2006
- ・配布資料

参考書：

- ・南風原 朝和（著）心理統計学の基礎—統計的理解のために 有斐閣 2002
- ・舟尾 暢男（著）The R Tips — データ解析環境 R の基本技・グラフィック活用集 工学社 2005
- ・舟尾 暢男（著）、高浪 洋平（著）データ解析環境「R」— 定番フリーソフトの基本操作から
- ・グラフィックス，統計解析まで 九天社 2005
- ・渡辺利夫（著）フレッシュマンから大学院生までのデータ解析・R 言語 ナカニシヤ出版 2005

○人間科学専攻

必修科目

人間科学基礎 (2) (春学期)

准教授 小林ボオル

授業科目の内容：

現代の都市生活者たる私たちのものの考え方や行動パターンには、どのような特徴があるのだろうか。

私たちはまわりの環境と相互作用を行うことで生活しているから、私たちがつくってきた社会・環境は逆に私たちの行動を構造的に規制してものの考えかたに大きな影響を与え、また人間関係のありかたにも影響を与えてきたはずである。

そこで、まず私たちが当然視することで暗黙のうちに私たちの行動を方向づけているものを考察することから始める。そして、それらが生活環境のどのようなメカニズムによってもたらされてきたのかを考える。具体的には、高度産業社会と規定される現代社会が、科学・技術に支えられたその生産システムをどのように作りあげ、私たちの行動をも組み込みながらどのように精緻化してきたのかを見、その中で人間のイメージがどのように変容してきたのかを考える。

しかし見方を変えれば、環境は自己の構造の投影と考えることもできる。それなら、自己の認識構造の基にある言語構造が自己のイメージを形づくりながらどのように成立し、環境世界をどう成立させているのかを考察する必要があるだろう。そこで次に、このプロセスが現代社会のイメージをどのように構造化したのかという経路も考察したい。

これらを通じて現代社会のさまざまなイメージと自己のそれとの相互性を認識することで、視点の取り方による人間像・世界像の違い、いくつかの視点を総合することの難しさと面白さを経験してほしい。そして各自が人間を理解する道筋を考える出発点としてほしい。

参考書：

随時配布する資料に明示する。

人間科学研究法基礎 (2) (秋学期)

准教授 織田輝哉

授業科目の内容：

人間をその諸活動から総合的に理解しようとするれば、研究手法に応じて異なる相を見せる人間像を統合する努力が不可欠である。現実の人間行動・人間性に対する洞察は、この複数の視点からの分析を統合する過程を通じて可能になる。

したがって、人間科学における研究法とは、それに依拠すれば自動的に研究が進行する便利な手順集ではない。問題解決のためのさまざまな種であり、ひな形である。人間科学を専攻する者は自らの関心・問題認識に応じてそれらを組み合わせ、改変し新たな研究スタイルを産み出しながら、戦略的に研究を進めていかねばならない。

本講義では、これへ向けての履修者の具体的研究の出発点を整備したい。そのために、現代のわれわれの生活を分析する上で有効であろうと思われるいくつかの概念や枠組みについて、また、資料分析技法の基礎概念について学んでもらう。授業は、講義とグループ討議・実習を組み合わせで行う。履修者が課題に関する討議に積極的に参加することで、単に知識や技術の習得に終わることなく、それらに具体的なイメージを持ち、手法の特質や限界・相対性を理解した上で、自分の問題意識の整理に役立てられるようになることを目的とする。

参考書：

随時紹介する

人間科学諸領域Ⅰ (2) (秋学期)

助教 北中淳子

授業科目の内容：

この授業では、現代社会における「心の病」について多角的な視点から考察する。

第一に「心の病」の歴史的形成をたどり、近代社会において正常・異常の境界線がどのように引きなおされ、精神病として心理学・精神医学の対象となったのかを考える。

第二に、現代社会のさまざまな「心の病」(鬱、ひきこもり、摂食障害、人格障害、自殺等)を取りあげ、個人病理の次元を超えた文化現象としてどのように理解できるのかを探る。また、治療を受け、医学的視点を内面化することによって、実際に人々の経験がどのように変容していくのかについても考察する。「心の病」の分析を通じて、個人・社会・文化の異なるレベルから総合人間科学的に考えることの面白さを学んでもらいたい。

この科目は、第2学年次に履修することを原則とする。

テキスト：

医療人類学研究会編『文化現象としての医療』メディカ出版 1992年

人間科学諸領域Ⅱ (2) (春学期)

対人行動・集合行動・行動科学・社会心理学・家族心理学・組織心理学・コミュニティ心理学 教授 南 隆 男

授業科目の内容：

① 人間科学専攻へと進学されてきた2年生諸君への“人間科学”への案内・入門の授業(の、ひとつ)です。

② サブタイトルに列挙したような学問領域—つまりワタシひとりだけでなく、ワタシがいてアナタがいてという「ワタシとアナタとの時空間」(家族/組織/地域社会/ (日本) 国)のなかでの人間の行動に焦点をあてたときの“科学”についての案内・入門です。

テキスト：

最初の授業において詳細に案内・説明。

参考書：

授業の進展に応じ、随時に案内・紹介。

人間科学諸領域Ⅲ (2) (春学期)

教授 鹿又伸夫

授業科目の内容：

人間と社会、つまり人間の相互影響過程の集積としての社会現象について、どのように理解して説明したら良いのか、社会科学とくに社会学の立場からの基本的な考え方を学んでいく。

この科目は、第2学年次に履修することを原則とする。

参考書：

授業で指示する。

人間科学諸領域Ⅳ (2) (秋学期)

教授 宮坂敬造

授業科目の内容：

四つの人間科学諸領域コースのなかのひとつとして、文化要因に係わる人間行動と価値観、文化的相互作用・象徴表現行動と言説・心理特性を扱う。これらに關係する諸問題群を理論的・経験観察的・言説分析的にとらえる基本的見方を検討する。文化心理人類学、文化心理学、文化精神医学などにまたがる学際的統合的接近、全体人間科学的理解への基本姿勢を解説する。講義の流れとしては以下となるが、半年コースのかたちなので、一部を取りあげながら全体を示唆するというやりかたになろう。

(1) 序論—グローバリズム状況下、変革期にある現代社会・世界の問題群と学問の關係、(2) パラダイムと方法論—比較法、構造的動態理解、(3) エスノセントリズムと「異文化」、(4) 非言語的文化的コミュニケーション・認知と文化、(5) 経済と文化—越境する移民動態、(6) 社会組織と文化、(7) 文化的自己とアイデンティティ、(8) 宗教と医療、(9) 多文化社会とエスニシティ・適応をめぐる医療人類学の問題、(10) 芸術と文化。

参考文献等は講義時にも指示するが、三田哲学会雑誌『別冊・文献案内』2004年版に、旧コース名「人間科学諸領域D」を詳しく掲載してあるので参照してほしい。また、面接調査法に関しても、同書の人間科学専攻の欄に、文献もふくめて解説したので参照してほしい。学期なかばに一回もちかえりの宿題提出の課題(レポート用紙数枚程度：HPにも掲示予定、基本用語理解度を問う小テストなどがあり、その意味で100人以上の履修者がいる講義とはいえ結果的に平常点が重視される性格の科目である。講義のほか、番外の補講として、土曜日等の時間帯に、「映像をとおしてみる文化の分析」と題して、

稀少な価値をもつ映画鑑賞の教養講座機会を二回程度もうける予定。

人間科学研究法（観察・実験）（4）（秋学期集中）

講師 篠田 潤子

授業科目の内容：
この講義では、具体的な研究方法を学びます。キーワードをもとに先行研究を検索し、観察・実験の計画書を練り、データ収集を行います。
テキスト：
三井宏隆 1992 「データのとり方・まとめ方」 垣内出版
参考書：
授業中に適宜紹介します

人間科学研究法（計量と解析）（4）

准教授 織田 輝哉

授業科目の内容：
この授業では、主として社会学的研究で必要となる社会調査の実施方法・統計分析の技法を身につけることを目標とする。具体的な内容は次のようなものを予定している。
・表計算ソフトの使い方
・社会調査の基礎
・統計処理の基礎
・データ処理とプレゼンテーション
・簡単なシミュレーション
なお、授業の性格上出席は必須であり、また人数も制限する場合がある。詳しくは初回の授業で説明する
テキスト：
・西平重喜『統計調査法』培風館
・馬場浩也『SPSS で学ぶ統計分析入門』東洋経済新報社

人間科学研究法（データ解析）（4）（秋学期集中）

准教授 小林 ポオル

授業科目の内容：
春学期講義「人間科学研究法」（測定と記述）で得られた知識から出発し、多くの項目から成る調査データの全体像を明らかにすることを目的とする。これを達成するために、単項目の分析・2 項目間の関係の分析を繰り返し行うのは現実的ではない。解析作業が膨大になり、複雑な関係を見誤って間違った解析になる危険がある。このため、解析手段を拡張し、多くの項目から成るデータを一括して視覚的に表現し、全体的構造の把握を容易にする方策を考える。

人間科学研究法（測定と記述）（4）（春学期集中）

准教授 小林 ポオル

授業科目の内容：
意識調査など質問紙による調査を行うことは多い。しかし、これにより得られたデータを解析し、その内容を的確に把握する、ということは必ずしも容易ではない。本講義では、秋学期に開講する「人間科学研究法」（データ解析）とあわせ、調査結果の解析を行うために必要な基本概念を解説する。また、実際にそれらの基本概念を用いた解析を演習することにより、卒論等の研究上実施した調査を解析する技術を履修者が習得することを目的とする。
質問紙により得られたデータは、便宜的に数値として表現されることが多い。しかし、これらの数値の使い方は名目的であり、一般的な意味での尺度を構成しない。つまり、通常行われている統計的手法の適用はかなり制約を受ける。しかし、最終的には、それらカテゴリカルなデータから意味のある数量を構成し、項目間の関係を把握することが目的になる。
本講義では、ふたつの項目間の関係につき、その関係の記述・関係の強さの表現の方法を検討する。また、これらの方法を多くの項目間の関係にまで一般化するための基礎概念についても学習する。

人間科学研究法（調査）（4）（秋学期集中）

教授 南 隆男

授業科目の内容：
① まず、「研究」とは何か？について“確認”の作業をします。
② つぎに、「研究方法」とは何か？について、在り得る「方法」の相互比較をしながら“理解”する試みを実行します。
③ そして、主として、質問票を援用しての研究、その計画と実行—つまり、研究戦略—について、実践的に学びます。
テキスト：
最初の授業時に案内・説明します。
参考書：
授業の進展に応じて、随時に紹介します。

人間科学演習（文献講読）（2）（春学期集中）

講師 篠田 潤子

授業科目の内容：
社会心理学においては、身の回りの出来事、経験したすべてが研究の対象になり得ます。しかし、単なる思い付きを「研究」にするためには、まず先行研究に目を通すことが求められます。
この講義では、「同じ事象を、どのような切り口で研究に結びつけていくことができるのか」を主眼に、複数の文献を講読します。

テキスト：
三井宏隆・篠田潤子 2007 「人間科学セミナー」 ナカニシヤ出版

人間科学演習（モダンデザインと情報化）（2）

准教授 小林 ポオル

授業科目の内容：
モダンデザインに関する文献講読と討論を通じて、合理性基準の適用による環境の徹底的改変、その人間への際限のない応用＝進歩という価値観の検討を行い、それに代わる指針の可能性を考察する。
参考書：
・Baudrillard, J. 1983. The Ecstasy of Communication. In Foster, H. (Ed.) The Anti-Aesthetic. Bay Press.
・Norman, D.A. & Draper, S.W. (Eds.) 1986. User Centered System Design. LEA.
・Norman, D.A. 1988. The Psychology of Everyday Things. BasicBooks.
・柏木 博 2002 『モダンデザイン批判』 岩波

人間科学演習（洋書講読）（2）

教授 宮坂 敬造

授業科目の内容：
人間もつ認知・感情、表現行動、言説を文化社会要因から研究する分野（文化・心理人類学を中心とする文化研究地平にたつ人間科学）に関わる洋書講読。あつかう内容は、人間科学専攻の科目では2年生の必修科目のほか、人間科学特殊（比較文化関係論）に直接関係し、また、アメリカの多民族社会と文化、文化と技術、精神分析、臨床心理学、コミュニティー心理学、都市と景観などを扱う人間科学特殊諸科目に関連する。教材とする洋書は、文化心理人理学の標準的な教科書の一部、文化と感情の関連を研究する研究書の一部の章、文化人類学・比較文化心理学・医療人類学・文化精神医学関係の学会誌掲載論文の一部、カルチュラル・スタディーズや文化社会的パラダイム批判関係論文の一部から選択。それらの論文を参加者全員で講読するやりかたが主。春学期で基礎力をつけ、秋学期では、専門研究の論文にもっとなれていく方向に誘導し、学部生レベルの範囲内ではあるが、専門用語理解をふくむ学術研究英語論文の読解訓練がねらい。具体的教材等は、初回のガイダンスで説明する。単位取得のためには、討論など普通以上の参加度が要求される科目。

人間科学特殊（生涯発達心理学Ⅰ）（４）（春学期集中）

教 授 南 隆 男
講 師 須 田 誠

授業科目の内容：

- ① まず、「注意」を⇒この授業は、「春学期と秋学期とを併せて履修する」ことが原則です。春学期だけ…というのは意味がありません。ましてや、秋学期だけ…ということはありません。了解されましたか？
- ② われわれ“人間”が生まれてから死ぬまでの発達の“過程”がどのようにになっているか、その過程にはどのような“問題”が在るのか、について検討・吟味してゆきます。
- ③ そうは言っても、乳幼児や学童期にある人間の発達や問題にはほとんど触れません。かわって、思春期や青年期以降の、そして成人期以降のその「発達」と、その「発達環境」、そして発達の“障害”や“異常”にも“アツク”視線をあてていきます。なぜ、そうするのか…についても“語って”いきます。
- ④ 授業は、“アクティブ・ラーニング”―履修される各人がアクティブに参加して、事例（ケース）を分析したり、グループ・ワークを行ったり、ゲスト・スピーカーの話を聞き質問したり、して一の「場」となります。講義を“パッセイブ”なかたちで聴いて、そして、覚えたことを教師が“チェック”する、といった（かたちの通常の）授業ではありません（え）ません。
- ⑤ “（自分を含めて）人間に関心が強く興味につきない”，“人間にホレたい”，“出来たら、そういうアレコレを小説や芝居や映画につくってみたい”との傾きが在る、そういうひとにはオモシロイ授業でしょう。

テキスト：

最初の授業時に案内・説明。

参考書：

授業の進展に応じて、随時に紹介。

人間科学特殊（生涯発達心理学Ⅱ）（４）（秋学期集中）

？

教 授 南 隆 男
講 師 須 田 誠

授業科目の内容：

- ① 秋学期の「生涯発達心理学」は、春学期でのアクティブ・ラーニングをさらに濃密に実行・進展させていく、ということですが、その内容やテーマがどのようなもの、どのようなこととなるか、は、いま現在（これを記している 2006 年 12 月の時点では）不明です。サブタイトルの「？」は、そういうことを意味しています。
- ② 参画されている学生諸君の興味のある現象・事象へと視線をさらに“アツク”してゆくか、あるいは、より現代的なトピック（ス）をとりあげて集中的に討議してゆくか、いずれにしろ秋学期の授業展開はそうになります。なっていくはずです。
- ③ 最終的には、各人が、一年間のアクティブ・ラーニング（その内容）を評価・点検し、「レポート」のかたちで総括をします。

人間科学特殊（現代家族論）（４）

【春】講 師 松 田 茂 樹
【秋】講 師 大 貫 孝 学

〔春学期〕共働きが変える夫婦関係

授業科目の内容：

近年、夫のみが働き、妻が専業主婦という世帯は減少し、代わって共働き夫婦が増加している。こうした夫婦の働き方の変化は、社会制度を共働き夫婦にも対応可能なものに設計しなおすことを要請するとともに、夫婦関係のあり方自身にも少なからず影響を与える。本講義では、近年の実証研究の結果をもとに、共働きの増加が、結婚・出産等の家族形成、家事・子育て分担、夫婦の勢力関係、コミュニケーションなどに与える影響を総合的に提示する。

テキスト：

永井暁子・松田茂樹、2007、『対等な夫婦は幸せか？』勁草書房

〔秋学期〕ジェンダー／セクシュアリティ論の視点から

授業科目の内容：

1960年代後半から70年代にかけて、当時の女性解放運動の影響のもと、社会的に作られた「男らしさ」「女らしさ」を意味する語として、「ジェンダー」という概念が確立しました。このジェンダー概念は、今日では、性別二元論（社会には、「男」と「女」の二種類の人間がいるとされること）自体を問題化するものとしても位置づけられるようになっていきます。また、セクシュアリティのレベルでの異性愛主義（「男」は「女」を、「女」は「男」を性愛の対象とするのが「自然」とみなされること）とジェンダーの問題との関連性も論じられるようになっていきます。

本講義では、このようなジェンダー／セクシュアリティ論の観点から、現在私たちが「家族」と呼んでいるものがどのように成立してきたのか、また、いかなる変容の過程にあるのかを考えます。

テキスト：

特定のテキストは使用しません。

参考書：

・清水浩昭・森謙二・岩上真珠・山田昌弘編、2004、『家族革命』弘文堂。
その他、関連文献は随時紹介します。

人間科学特殊（パーソナリティ研究）（４）

パーソナリティ心理学の理論と方法

講 師 岩 熊 史 朗

授業科目の内容：

われわれは、家族や知人のそれぞれを他の誰とも違う唯一無二の個人として認知し、それぞれの“人となり”を多少なりとも理解した上で生活をともにしています。このような個人の「人となり」「個性」「性格」などは、心理学において「パーソナリティ」という概念のもとに研究されてきました。この講義では、パーソナリティに関する主要な理論、研究方法、診断・評価技法を概観し、パーソナリティを把握するための視点についての理解を深めます。また、「人間が人間を理解する」ということの意味についても、社会心理学的な視点あるいは認識論的な視点から言及していく予定です。

テキスト：

指定しません。適宜ハンドアウトを配布します。

参考書：

・本明寛（編）「性格心理学新講座 1 性格の理論」（金子書房、1989 年）
・杉山憲司・堀毛一也（編集）「性格研究の技法」（福村出版、1999 年）
・クラーク、B.（堀毛一也編訳）「社会的状況とパーソナリティ」（北大路書房、1996 年）
・ミッシェル、W.（詫摩武俊監訳）「パーソナリティの理論 ― 状況主義的アプローチ」（誠信書房、1992 年）
・バー、V.（田中一彦訳）「社会的構築主義への招待 ― 言説分析とは何か―」（川島書店、1997 年）

人間科学特殊（臨床心理学）（４）

個人援助と家族援助の視点から 講 師 若 島 孔 文

授業科目の内容：

臨床心理学の中でもとりわけ心理援助と問題解消のためのアプローチについて論じる。具体的に事例を提示し、心理援助とは何であるのかを学んでいただく。心理援助の視点から人間について学び、また、他の学問領域のパラダイム（例えば社会学・言語学など）から臨床心理学的援助について解説を加える。

テキスト：

若島孔文 2006 「社会構成主義のプラグマティズム」（金子書房）

人間科学特殊（コミュニティ心理学）（4）

講 師 久 田 満

授業科目の内容：

コミュニティ心理学は、伝統的臨床心理学に対するアンチテーゼとして誕生した。わが国では臨床心理学の下位分野として位置づけられてはいるが、近年欧米では、独立した1分野として、産業・組織心理学、公衆衛生学、精神腫瘍学、医療人類学等との連携を深めながら、その地位を確立しつつある。この授業では、「一つの見方」としてのコミュニティ・アプローチの実践例をできるだけ多く紹介し、このアプローチのわが国における応用可能性について論議したい。取り上げる例は、スクールカウンセリング、企業の風土改革、ドメスティック・バイオレンス、ホスピス病棟での終末期医療、大都市虚弱老人への介入戦略などである。

テキスト：

植村勝彦ほか編「よくわかるコミュニティ心理学」ミネルヴァ書房

参考書：

授業中に適宜、紹介する。

人間科学特殊（比較文化関係論）（2）（春学期）

教 授 宮 坂 敬 造

授業科目の内容：

グローバル時代、文化が相互に関係交錯する事態とそれに呼応して現れた文化的価値観（象徴行動に通自する表象・言説）を社会文化象徴分析的に検討する。①総論、②グローバル化にともなう小規模・伝統社会の変化、③象徴的儀礼行動の変化の諸相、④民族・人種問題の再構成、⑤メディアに媒介される文化、⑥多民族多文化社会、⑦ディアスポラ移民のアイデンティティ、⑧シャーマン医療の変化、⑨文化結合症候群再検討、⑩多元的医療文化、⑪映像人類学の諸問題などの話題を扱い、⑫まとめと展望を検討する。分野としては、象徴文化（心理・認知）人類学、文化心理学を基底にし、トランスナショナル人類学の最新動向検討をまじえて一部医療人類学の話題を加えるという授業計画にそって展開。人間諸科学が扱う現代的諸問題を文化の次元に焦点をあわせて検討していく科目で、人間科学諸領域Ⅳの科目を基礎とした次の段階の科目。2年生対象の前者で扱った話題をさらに詳しく検討していくというやりかたをとる。

参考書：

三田哲学別冊『文献案内』人間科学諸領域Ⅳ（D）の項目別参考書を参照。また、適宜、講義時に指示。

人間科学特殊（米国の多民族社会と文化）（4）

米国におけるアフリカ系およびカリブ系アメリカ人の表現文化にみる多文化的状況

講 師 三 吉 美 加

授業科目の内容：

米国において「黒人」とされる人びとを対象に、彼／女らの表現文化にみる社会的文化的多様性を理解しながら、エスニシティや人種に関する問題を考察していきます。

テキスト：

資料プリントを配布します。

人間科学特殊（精神病理学）（2）（秋学期）

精神医学の基礎

講 師 古 茶 大 樹

授業科目の内容：

精神病理学・精神症候学を中心に、精神医学の基礎について学びます。

テキスト：

特に指定しません。講義プリントを配布します。

参考書：

濱田秀伯著「精神症候学」弘文堂 ￥8,000-

人間科学特殊（精神分析学）（2）（秋学期）

休講

人間科学特殊（社会システム論）（2）（春学期）

相互連関のシステムとしての社会

講 師 杉 野 勇

授業科目の内容：

行為・予期・規範・制度などの相互連関を重視しつつ、様々な社会学的テーマをオムニバス形式で学習し、社会学の基本的な考え方を習得する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中適宜紹介する。

人間科学特殊（芸術と人間）（2）（春学期）

世紀転換期の文化論とジャパニズム

講 師 田 中 秀 隆

授業科目の内容：

本年度は、近代日本の芸術場が形成された理由を、外的な環境から考えて理解できるようになることを目標とします。日本の開国は、同時に万国博覧会に参加することでした。その中で日本の書画骨董類は、ジャポニズムの源泉として影響を与えたと同時に、従来の活動が「絵画・美術工芸」のカテゴリーに変容を迫られたことを諸分野にわたって解説します。外からの目を代表する人物して、まもなく没後100年をむかえるアーネスト・フェノロサについても新たな視点で学びます。

テキスト：

中村修也監修『よくわかる伝統文化の歴史⑤ 伝統工芸と近代美術』淡交社

参考書：

その都度紹介します。

人間科学特殊（現代日本人のライフスタイルⅠ）（2）（春学期）

講 師 林 光

授業科目の内容：

企業が生活者とコミュニケーションを図ろうとするとき、生活者の価値観やライフスタイルなどを把握していれば有効なコミュニケーションを果たすことが出来る。広告コミュニケーションも、いまや一方的な情報発信ではこと足らず、マルチな手段と多角的な内容が求められている。生活研究者を20年続けてきた立場から、生活者把握の多様な方法とその分析手段から表現方法まで、具体的な例を交えながら考察していきたい。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

人間科学特殊（現代日本人のライフスタイルⅡ）（2）（秋学期）

ライフスタイルの多様化

講 師 本 庄 美 佳

授業科目の内容：

本講義では、女性の社会進出によるライフスタイルの変容と、若い世代のライフスタイルの動向に焦点を当てて、ライフスタイルの多様化について考えてます。就職・結婚・出産・育児など若い世代のライフスタイルに大きな影響を与えるトピックについて、子どもを育てつつ、両立支援関連の業務もしている自分自身の経験も生かし、さまざまな素材を提供していきたいと思います。また、そういうライフスタイルの多様化がもたらす、社会全体の変化の潮流も一緒に考えたいと思います。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

特に指定しません。講義の際に随時紹介します。

人間科学特殊（都市生活と景観Ⅰ）（2）（春学期）

自然・人間・都市（人間と自然との相互作用としての景観について）
講 師 高 山 啓 子

授業科目の内容：

「都市の時代」といわれる現代において「景観」は大変重要な課題となっているが、人間にとって景観は、文明の発展、社会の形成などの面で、大変重要な意味を持っていた。

景観建築（Landscape Architecture）、景観計画（Landscape Planning）、景観工学（Landscape Engineering）など景観にかかわる学問は、自然科学、社会・人文科学、芸術、工学などさまざまな分野と関連した「境界領域」（interdisciplinary field）の学問であり、総合的あるいは包括的な（holistic）分野として注目されている。現代の世界は、高度な文明の発達段階にあるものの、私たちの住む都市の環境に目をやると、このような文明が私たちの幸福や福祉の増進にかならずしも貢献しているとは限らないということに気づく。「景観とは何か」、「人間はどのようにして景観を造ってきたか」、「未来の景観づくりはどうあるべきか」について人間と環境との相互作用としての景観という視点から、欧米などの都市景観の変遷、東京都内のフィールドスタディなどを行いながら都市の環境・景観について実践的に学び、考えていく。

テキスト：

アーバンエコシステム（自然と共生する都市）：A. スパーン著、高山啓子訳、（環境コミュニケーションズ刊 4,300 円）

参考書：

- ・ヒューマニティ&エンヴァイロメント：I. G. シモンズ著、高山啓子監訳、信山社サイテック刊。
- ・I. マックハーグ著、下川辺淳監訳、デザインウイズネイチャー。
- ・I. マックハーグ：共生への哲学、緑の読本 Vol. 56 環境コミュニケーションズ刊。他（授業の進行に合わせて紹介）

人間科学特殊（都市生活と景観Ⅱ）（2）（秋学期）

21 世紀の景観創造と新たなライフスタイルの構築
自然との共生、快適性、歴史性・文化性に配慮した都市環境の創造
講 師 高 山 啓 子

授業科目の内容：

現在の都市景観は、さまざまな気候風土を舞台とした人間と自然との相互作用の結果であるが、文明のパラダイムが大きく変化する中、都市景観形成の思想、目標の見直しが迫られている。このような状況下での都市環境ならびに景観形成のあり方について、水と緑など都市の自然環境、市街地、郊外、近郊の田園及び自然地域の景観の保全と形成など、具体的な事例を取り上げながら、時間・空間など様々な角度から考えていく。さらに、これとともに社会・文化的環境と景観、安全性・健康性・快適性と景観などについて、新しい都市づくりの視点を取り上げて検討する。テーマ：「都市の森と広場」「市街地」「郊外」「都市近郊林」など。2 回程度のフィールドスタディ（大名庭園、都市再開発など）を実施する予定。後半 4 回は、ゼミ形式で。

テキスト：

ヒューマニティ&エンヴァイロメント：I. G. シモンズ著、高山啓子監訳環境コミュニケーションズ刊

参考書：

社会文化史に見る都市の自然と公園緑地（連載）「緑の読本」：高山啓子著、環境コミュニケーションズ刊 Vol 49, 51, 52, 53, 55, 57, 58, 60, 61。アーバンエコシステム（自然と共生する都市）：A. スパーン著、高山啓子訳、環境コミュニケーションズ刊。The Language of Landscape：A. W. Spirn 著、イエール大学出版会ほか

人間科学特殊（スポーツ社会心理学）（2）（春学期）

講 師 篠 田 潤 子

授業科目の内容：

スポーツを研究する学問領域は広範囲に及びます。この講義は、「スポーツ社会心理学」の立場から、スポーツを通して現代社会の有り様を考察することを目的としています。

テキスト：

最初の授業で紹介します。

参考書：

三井宏隆・篠田潤子「スポーツ・テレビ・ファンの心理学」ナカニシヤ出版

人間科学特殊（スポーツメディア論）（2）（秋学期）

講 師 篠 田 潤 子

授業科目の内容：

マスメディアはプロ・スポーツの発展に貢献してきました。しかし同時に、マスメディアと選手、ファン、企業との間にはさまざまな軋轢も生じています。この講義は、プロ・スポーツとメディアについて、具体的な事例から、多角的な視点での理解を深めることを目的とします。実際にマスメディアの現場や、スポーツビジネスの現場で活躍されている方の話を直接伺う機会も設けます。

テキスト：

最初の授業で提示します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

人間科学特殊（意思決定論）（2）（秋学期）

講 師 山 岸 侯 彦

授業科目の内容：

本講では「意思決定の認知科学」を概観する。心理学者であるカーネマンをして、2002 年ノーベル経済学賞を受賞せしめた功績の根幹となったのが、従来の数学的・経済学的に思索に認知科学の見識をとりこんだ意見決定論に他ならない。今日、巷間には「行動ファイナンス」と銘打った新書が溢れ、新たな学問分野として「行動経済学」「神経経済学」等が名乗りを上げている。そうした動きに科学的基盤を提供した意思決定論を、この講義では紹介する。ただし、文学部設置科目であるので、それに相応しい内容を提供する。即ち、「経済学やマーケティング理論の概説」は本講の目的ではない。意思決定と選択にまつわる心理学の主要な知見から、規範的統計学や古典的経済学の予測に従わない人間行動がいかに説明可能かを解説する。

テキスト：

テキストは特に指定しない。

参考書：

広田・増田・坂上. (2006) .心理学が描くりリスクの世界.慶應義塾大学出版会. ASIN:4766412613

人間科学特殊（文化と技術Ⅰ）（2）（春学期）

技術発展の人類学 講 師 森 田 敦 郎

授業科目の内容：

しばしば「ヒトは道具を使う動物である」と言われるように、技術は人間を他の動物から区別する重要な現象である。この講義では文化人類学の視点から、技術と人間社会の発展の関係を考察する。ここでは、文字の発達から工業化までの技術史上の事例を紹介しながら、文字、図表、道具、機械、建造物といった人工物が人間の活動を相互に結びつけ、個々の人間の力をはるかに上回る巨大な効果を発揮するようになっていくプロセスを描き出していく。また、ここでもたらされた力の差異が今日の途上国と先進国の関係にどのように刻まれているのかも論じていく。

人間科学特殊（文化と技術Ⅱ）（2）（秋学期）	
科学技術の人類学	講 師 森 田 敦 郎

授業科目の内容：

今日の世界の最大の特徴は、驚くほど多くの物事が「科学」と結び付けられていることである。だが、科学が実際どのような活動なのかは、意外なほど知られていない。この講義では、近年の科学技術の人類学の成果をもとに、科学がどのような活動であり、それが社会とどのようにかわりを持っているのかを先進国と途上国の事例を取り上げながら紹介する。ここではとくに、実験室・測定所、技術移転プロジェクトといった現場で科学者や技術者が行う活動についての民族誌的事例を紹介しながら、人間の活動である科学が知識と力を生み出すプロセスについて考察する。

人間科学特殊（組織行動論Ⅰ）（4）（春学期集中）	
休講	
人間科学特殊（組織行動論Ⅱ）（4）（秋学期集中）	
休講	
人間科学卒業研究（2）（秋学期）	教 授 鹿 又 伸 夫 准教授 織 田 輝 哉

授業科目の内容：

この科目は、コースA（「人間科学研究会Ⅱの履修と卒業論文提出」を卒業要件としないコース）を選択した人間科学専攻4年生の必修科目である。

具体的な内容・評価の基準等を説明するので、第1回目の授業に必ず出席すること。また、この科目に関する掲示は必ず確認すること。

人間科学研究会Ⅰ（2）	教 授 南 隆 男
-------------	-----------

授業科目の内容：

わたくしの担当するこの「研究会」は、旧来の“学問の区分け”上の用語に照らせば、広くは「行動科学」と呼ばれていた領域、より限定的には「社会行動論」「組織行動論」「ライフコース論／生涯キャリア発達論」（その“中核的”イシューのひとつでもある「セックス・セクシュアリティー」をも含みます）と呼ばれる研究領域をカバーするべく“位置付けられて”います。ですが、そのなかで、どのような事象・問題を具体的にとりあげるかは、履修する学生諸君の意向・興味・関心との関係もあり、「これを」というふうには、現時点（2006年12月時点）では、決めていません。「決めている」のは、『研究会』を、教師のわたくしを含めて、「われ疑う、ゆえに、われ在り」の『時空間』へと、がんばって近づけて行こう！ということ。蛇足ですが： よっぽど気をつけないと（教師はもちろんだが学生の諸君も気張らないと）「研究会」（“ゼミ”）って呼ばれる授業は「アタマもダレて来てカラダもナエてくるだけの“ナレアイ”時空間」に成りがちだ。ゆえに、共に頑張りヤルコトをやり抜きましょう！いつもの通り、一年間の「研究会」活動を通して、三年生は「自己の研究課題」を明確にしてゆくことに、四年生は「卒業論文」を完成させることに、努力を傾注・集中させていきます。

人間科学研究会Ⅱ（2）	教 授 南 隆 男
-------------	-----------

授業科目の内容：

① 人間科学研究会Ⅰ（南）と、基本的には同じ、です。
 ② この「研究会Ⅱ」のほうは、四年生用 — 「卒業論文」完成への対応・指導 — というのですが、三年生諸君も同席し、“つき合います”。

人間科学研究会Ⅰ（2）	教 授 渡 辺 秀 樹
-------------	-------------

授業科目の内容：

基本的には、家族・教育・ジェンダーを主要テーマとする研究会

人間科学研究会Ⅱ（2）	教 授 渡 辺 秀 樹
-------------	-------------

授業科目の内容：

卒業論文指導を中心とする。

人間科学研究会Ⅰ（2）	教 授 宮 坂 敬 造
-------------	-------------

授業科目の内容：

人間科学としての比較文化研究（文化人類学・心理人類学・記号論・医療人類学・20世紀末のパラダイムのゆらぎを念頭に置きながら）に関係した諸問題を扱い、ゼミ討論し、問題の見つけ方、発想の立て方、記号・分析総合の方法の一部を相互に訓練する。ある文化における小規模集団の象徴行動やそれが表象されたものをどう観察収集するのか、それに基づいてその文化の価値観、心情、アイデンティティを社会関係と関連させながらどう理解していくか—人々の言行を観察すると言ったが、それは「観察者」と「観察される人々」の間に進んでいく関係性に条件づけられるのではないか（更にいえば、社会経済的関係にも影響されながら前者後者の文化同士を背負った間文化的関係の場の中で互いに接触している—そのことを考えねばならぬのでは？）。このような問題意識を中心にもち、また構造論・現象学的視点・全体システム論の立場をからませた視点と、相互作用分析（象徴的コミュニケーション分析）、文化テキスト・ディスコース内容分析の方法意識を背景に置く。具体的には、比較文化に関連するサブテーマ（他者のイメージ・異文化理解・文化とアイデンティティ・文化と認知・感情・危機と通過儀礼・危機における象徴的行動・文化摩擦・文化と精神病理・身振りや空間の象徴的意味・芸能・絵画・舞踏と文化・サブカルチャー・大衆文化・小規模社会・ポスト現代の多民族複合社会・医療人類学など）等の問題領域の一部を取り上げてゆく。参考書はその都度指示。

人間科学研究会Ⅱ（2）	教 授 宮 坂 敬 造
-------------	-------------

授業科目の内容：

①人間科学研究会Ⅰ（宮坂担当）と、基本的には共通の内容ですが、春学期は主として英語文献を使いながら報告・討論の訓練をおこないます。

②さらに、この「研究会Ⅱ」は、四年生の卒論の構想、中間展開、完成にむけて、随時、発表・討論・指導もあわせておこないます。三年生は自身の三年生論文の展開・完成への参考にするため、「研究会Ⅱ」も同時に履修すること。

人間科学研究会Ⅱ（2）	教 授 鹿 又 伸 夫
-------------	-------------

授業科目の内容：

この研究会では、現代社会の変動について社会学の立場から検討する。本年度は、とくに社会的不平等にかかわる諸問題を取りあげる。具体的には、高学歴化と学歴社会論、女性の就業とジェンダー格差、所得などの経済的格差などを取りあげる。

テキスト：

授業で指示する

人間科学研究会Ⅰ（2）	准教授 小 林 ポ オ ル
-------------	---------------

授業科目の内容：

我々を取りまく様々な事物はその表面的な現れ・機能とは別の働きかけを人間に対して行っている。もちろんそれらの事物——現代の環境——を作ってきたのは人間の側であるが、当初想定された機能と環境に組み込まれた現実のそれとは往々にして一致していない。現実には、ほとんどの環境は結果として形成されたものであって、比較的小

さな個別の変更が集積されることにより全く異質の機能を獲得したものである。

このような環境は単に科学技術のみの力によって形成されて来たわけではない。むしろ現代に至る科学技術の発展の原動力となったものが、この環境の変化をも支えてきたと考えるのが妥当であろう。そこでこれがどのような機制によって変遷を遂げて来たのか、またこの過程でおこった人間の側の反発・抵抗がどのような形で現れたかということを探ることからこの原動力と科学技術・現代の環境の間の関係を認識し、その上で我々にとっての人間的な環境を追求することを課題とする。

人間科学研究会Ⅰ（２） 准教授 織 田 輝 哉

授業科目の内容：

この研究会では、社会学的な視点から、人間にかかわる様々な事象を分析的・科学的にとらえていく方法を身につけていくことを、ゆるやかな目標として設定しておきたいと思う。

研究会Ⅰでは、社会学における合理的選択アプローチの基礎と応用について、相互的行為理論・ゲーム理論・社会的ジレンマ研究・ミクロー・マクロ問題・秩序問題等の課題を取り上げながら学習していく。

研究会Ⅱでは、各自の卒業論文に向けての研究を、発表し、議論をする。

また、社会学の基礎的な文献について、定期的な読書課題を与える。

人間科学研究会Ⅱ（２） 准教授 織 田 輝 哉

授業科目の内容：

この研究会では、社会学的な視点から、人間にかかわる様々な事象を分析的・科学的にとらえていく方法を身につけていくことを、ゆるやかな目標として設定しておきたいと思う。

研究会Ⅰでは、社会学における合理的選択アプローチの基礎と応用について、相互的行為理論・ゲーム理論・社会的ジレンマ研究・ミクロー・マクロ問題・秩序問題等の課題を取り上げながら学習していく。

研究会Ⅱでは、各自の卒業論文に向けての研究を、発表し、議論をする。

また、社会学の基礎的な文献について、定期的な読書課題を与える。

人間科学研究会Ⅰ（２） 助 教 北 中 淳 子

授業科目の内容：

この研究会では、現代社会における健康と病（特に「こころの病」）に関連した事象を、医療人類学的視点から分析していく。前半では医療人類学の基本的な文献を取り上げ、その報告と討論を中心に行う。後半では、各自が選んだテーマについて文献・フィールド調査を行い、発表・討論を重ねていきたい。

テキスト： 授業で指示する

人間科学研究会Ⅱ（２） 助 教 北 中 淳 子

授業科目の内容：

この研究会では、医療人類学の最先端の研究からより専門的な論文をとりあげ、その報告と討論を中心に行う。後半は、卒業論文研究の発表を中心に進める予定である。

人間科学研究会Ⅰ（２） 身体文化論 理工学部 教授 石 井 達 朗

授業科目の内容：

1) セクシュアリティ 2) 身体 3) パフォーマンスという大枠のテーマから、ゼミ参加者は自分が関心のある具体的な研究テーマを設定し、探求する。ゼミは発表と討論により進行する。ゼミは互いの研究テーマを交換し、自由に意見を言いあう生き生きとして場でありた

い。研究テーマの例として、以下のようなものが考えられる。

- 1) セクシュアリティ：トランスジェンダーの文化、ゲイ・レズビアニズム
- 2) 身体：刺青、身体変工、化粧、ファッション、去勢、フェミニズムと身体論
- 3) パフォーマンス：舞踊論、演技論、非言語コミュニケーション、パフォーマンスアート

テキスト：

共通のテキストはない。各人が自分の研究にとって良いテキスト、役に立つ情報、適切な方法論とは何かを探求するために、時間を費やしてほしい。

参考書：

- ・石井達朗『異装のセクシュアリティ』『サーカスのフィルモロジー』（以上、新宿書房）
- ・石井達朗『アウラを放つ闇』（パルコ出版）
- ・石井達朗『男装論』『アジア、旅と身体のコスモス』『ポリセクシュアル・ラヴ』『アクロバットとダンス』（以上、青弓社）
- ・ラリィ・マキャフリィ『アヴァン・ポップ』（筑摩書房）
- ・ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』（青土社）
- ・市川雅『行為と肉体』（田端書店）、『シリーズ 性を問う』全5巻 専修大学出版局
- ・雑誌『化粧文化』

人間科学研究会Ⅱ（２） 身体文化論 理工学部 教授 石 井 達 朗

授業科目の内容：

卒業論文の計画と作成が主な作業である。以下の内容は、研究会Ⅰと同じである。

1) セクシュアリティ 2) 身体 3) パフォーマンスという大枠のテーマから、ゼミ参加者は自分が関心のある具体的な研究テーマを設定し、探求する。ゼミは発表と討論により進行する。ゼミは互いの研究テーマを交換し、自由に意見を言いあう生き生きとして場でありたい。研究テーマの例として、以下のようなものが考えられる。

- 1) セクシュアリティ：トランスジェンダーの文化、ゲイ・レズビアニズム
- 2) 身体：刺青、身体変工、化粧、ファッション、去勢、フェミニズムと身体論
- 3) パフォーマンス：舞踊論、演技論、非言語コミュニケーション、パフォーマンスアート

テキスト：

共通のテキストはない。各人が自分の研究にとって良いテキスト、役に立つ情報、適切な方法論とは何かを探求するために、時間を費やしてほしい。

参考書：

- ・石井達朗『異装のセクシュアリティ』『サーカスのフィルモロジー』（以上、新宿書房）
- ・石井達朗『アウラを放つ闇』（パルコ出版）
- ・石井達朗『男装論』『アジア、旅と身体のコスモス』『ポリセクシュアル・ラヴ』『アクロバットとダンス』（以上、青弓社）
- ・ラリィ・マキャフリィ『アヴァン・ポップ』（筑摩書房）
- ・ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』（青土社）
- ・市川雅『行為と肉体』（田端書店）、『シリーズ 性を問う』全5巻 専修大学出版局
- ・雑誌『化粧文化』

人間科学研究会Ⅰ（２） メディア・コミュニケーション研究所 教 授 萩 原 滋

授業科目の内容：

本研究会では、2年間の研究活動を通じて各自が選んだテーマの理解を深め、その成果を卒業論文に結実させることを目的としている。春学期に社会心理学のテキストを講読して基礎的な知識を習得した後、秋学期には各自が関心のあるテーマを選んで、関連する文献を選んで発表を繰り返し、それに関する議論を通じて卒業論文の準備を進

める。

テキスト：
社会心理学のテキストを指定する

参考書：
研究法に関する文献を指定する

人間科学研究会Ⅱ（2）
メディア・コミュニケーション研究所 教授 萩 原 滋

授業科目の内容：
本研究会では、2 年間の研究活動を通じて各自が選んだテーマの理解を深め、その成果を卒業論文に結実させることを目的としている。春学期には、3 年生を中心に社会心理学のテキストを講読することになるが、4 年生は、昨年度からの研究テーマを掘り下げて、卒業論文制作の準備を具体的に進め、適宜、進行状況を発表する。

テキスト：
社会心理学のテキストを指定する

参考書：
研究法に関する文献を指定する

人間科学研究会Ⅰ（2）

休講

人間科学研究会Ⅰ（2）

休講

人間科学研究会Ⅱ（2）

休講

全専攻共通科目

現在、文学部は5学科17専攻を擁する。そのため、そのいずれかに所属する学生諸君はともすれば狭い専門分野にとらわれて、知識や学問に対する広い展望を見失いがちである。そうした不足を補い、学生諸君がより自由で柔軟な知的態度を身につけることができるようにと文学部が考え設置したのが全専攻共通科目である。特定の専攻分野に属さないもの、あるテーマを専攻横断的に扱うもの、諸種の語学、記念・寄附講座として設置されているものなど内容は多岐にわたるが、この多様と混沌にこそ、ある意味では文学部の真骨頂があり、さらには人間そのものの本質があると言えるのではないだろうか。学生諸君はどうかアンテナの数を増やし、感度を高めて、これらの科目の中からこれはというような発見や出会いや感動を拾い出していただきたいと思う。

教育学概論（学芸員）（2）（春学期）

教育と文化をつなぐとは？ 教 授 真 壁 宏 幹

授業科目の内容：

学校における教育の営みと美術館、博物館などにおける文化的営みの接点はどうあるべきなのだろうか。教育の本質を哲学的に捉え返しながら、しかし、様々な実践的試みを事例としながら考察していく予定。

参考書：

佐藤学／今井康雄編『子どもたちの想像力を育む』（東京大学出版会）

生涯学習概論（2）（秋学期）

生涯学習を拓く 講 師 白 石 克 己

授業科目の内容：

- ① 生涯にわたる学習をライフワイド（生活）、ライフタイム（一生）、ライフウェイ（生き方）という三つの視点で分析できる。
- ② 生涯にわたる学習機会を通学方式、遠隔方式、寄宿方式、広場方式に分け、その支援のあり方がわかる。
- ③ 生涯にわたる発達を青少年期、成人期、高齢期に分け、その特徴に応じた支援のあり方がわかる。
- ④ 生涯にわたって「善く生きる」ための支援のあり方がわかる

テキスト：

白石克己編著『生涯学習を拓く』ぎょうせい 2001

視聴覚教育メディア論（2）（秋学期）

画像ドキュメンテーションからメディア・リテラシーまで 講 師 波 多 野 宏 之

授業科目の内容：

本講義では、写真、ビデオ、CD-ROM等の視聴覚資料を見て感じることを重要視する。まず情報伝達手段、視聴覚資料・機材の歴史と現状を概観した後、画像の収集から利用に至る一連の過程、すなわち画像ドキュメンテーションの主要課題について検討する。第一に写真を中心とした画像資料の管理から画像データベースの構築に至る諸問題、Visual Resourcesキュレーターの仕事を考える。第二に画像の記述や分類、インターネットなどによる画像へのアクセス、デジタル画像の複製・表示や知的財産権について考察する。第三に画像情報の利用を容易にする画像索引からビジュアル・カルチャーの分析に至る〈方法としての画像〉の諸問題を考え、音声情報・音声メディアについての考察、メディアの理解と活用を図る〈メディア・リテラシー〉の検討でまとめとする。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・波多野宏之『画像ドキュメンテーションの世界』（第2刷）勁草書房、1995
- ・波多野宏之編著『デジタル技術とミュージアム』勉誠出版、2002
- ・松岡正剛監修『増補 情報の歴史』NTT出版、1996

博物館学（4）

講 師 西 田 宏 子
講 師 吉 岡 明 美

授業科目の内容：

博物館を理解し、知ることによって、新しい時代の学芸員は、何をしてゆくのかを考えてゆきます。そのために、毎週展覧会を見学し、テーマに添ったレポートを提出してもらいます。

博物館学実習ⅠA（3）

教 授 阿 部 祥 人
准教授（有期）石 神 裕 之
講 師 西 田 宏 子

授業科目の内容：

博物館の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館業務に関する知識、資料の扱い方などを現物を用いて実習を行う。従って、既に博物館学の講義を履修していることが望ましい。実習は毎時間連続した内容であるため、欠席はもちろん、遅刻も絶対にしないことが要求される。

なお、この講義は履修者の調整を行い、博物館学実習ⅠAを履修する者と同ⅠCを履修する者などに分ける。この振り分けの詳細な説明は4月の最初の授業で行うため、希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外は履修は認められない。

博物館学実習ⅠB（3）

准教授 杉 本 智 俊
准教授（有期）石 神 裕 之
講 師 西 田 宏 子

授業科目の内容：

博物館学実習ⅠAに同じ

博物館学実習ⅠC（3）

准教授 山 口 徹
准教授（有期）石 神 裕 之
講 師 西 田 宏 子

授業科目の内容：

博物館学実習ⅠAに同じ

博物館学実習ⅠD（3）

准教授 佐 藤 孝 雄
准教授（有期）石 神 裕 之
講 師 西 田 宏 子

授業科目の内容：

博物館学実習ⅠAに同じ

博物館学実習Ⅱ A (3)	教 授	前 田 富士男
アートセンター 特別研究准教授	渡 部 葉 子	
	講 師	名児耶 明
	講 師	平 塚 泰 三
	講 師	吉 岡 明 美

授業科目の内容：

博物館学の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館・美術館業務に関する知識，資料の扱い方など現物の美術品を用いて実習を行う。

なお，この博物館学実習Ⅱ A・B は，平成 16 年度より開設され，本年度の新 2 年生および 3 年生の必修科目となる。平成 15 年度以前に 2 年生に進級した者は履修する必要がない。この博物館学実習Ⅱは，履修者の調整を行い，Ⅱ A を履修する者とⅡ B を履修する者とに分ける。博物館学実習Ⅰと同Ⅱの履修の仕方や振り分けの説明は，4 月の最初の授業で行うので，希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外の履修は認められない。

参考書：

- 『美術館と語る』日比野秀男編著，ペリかん社，1999 年。
- 『現代美術館学』並木誠士・吉中充代・米屋優，昭和堂，1999 年。
- 『版画の技法と表現』町田市立国際版画美術館編，改訂版，町田市立国際版画美術館，1991 年。
- K. ニコラウス『絵画学入門』黒江・大原訳，美術出版社，1985 年。

博物館学実習Ⅱ B (3)	教 授	林	温
	講 師	福 士	理
	講 師	名児耶	明
	講 師	平 塚 泰 三	
	講 師	吉 岡 明 美	

授業科目の内容：

博物館学実習Ⅱ A に同じ

博物館学特殊Ⅰ（資料論・有形）(4)	
准教授(有期)	石 神 裕 之

授業科目の内容：

近年，博物館施設・展示内容の多角化の中で，博物館資料もまた多様化しつつある。それらの博物館資料のうち，特に考古資料や民族（民俗）資料など物質資料を中心として，その性質や特性を理解するとともに，分類・収集・登録・管理といった整理法や理化学分析や保存処理のあり方などについて解説する。またそうした結果を企画や展示に活かすための方法についても，実例を挙げながら紹介したい。

テキスト：

使用しない。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

博物館学特殊Ⅱ（資料論・展示・普及）(4)	
博物館・美術館をめぐる諸問題	准教授 安 藤 広 道

授業科目の内容：

日本の博物館・美術館は，現在，さまざまな問題を抱えています。本講義では，博物館・美術館における，資料，研究，展示，普及活動，運営などをめぐる問題点を取り上げ，それについて受講者とともに考えてみたいと思っています。私自身の横浜市歴史博物館，東京国立博物館の経験をお話するほか，東京近郊の博物館・美術館の学芸員，または博物館・美術館に関連した仕事をしている方々から，直接現場の声を聞く機会もできるだけたくさんつくりたいと考えています。また，全員に，ある博物館・美術館の展示を見学してもらい，それについて討論することも，数回行う予定です。受講者には，是非，見学者・利用者の立場からも，博物館・美術館の問題を積極的に論

じていただきたい。それによって，受講者だけでなく，私自身も勉強するという，文字通り特殊な講義にしたいと思っています。

テキスト：

使用しません。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介します。

博物館学特殊Ⅲ（展示・普及）(4)	講 師	足 立 拓 朗
-------------------	-----	---------

授業科目の内容：

考古学系博物館学の展示に関する以下の技術を解説。

- 作品（発掘出土品・美術・工芸品）の展示ケースへの配置・設置
- 作品の梱包・開梱，運搬
- 解説パネルや図版パネルの作成・設置
- 報告書・展示図録の作成
- ポスター・チラシの作成
- 企画展示の作業工程
- 博物館広報活動
- 講演会・展示解説の実施
- 小中学校の課題学習との連携
- 地域博物館としての活動

テキスト：

必要があれば授業中に指示

参考書：

『新版博物館学講座 9 博物館展示法』雄山閣出版。

博物館学特殊Ⅳ（企画・運営・教育）(4)	
	【春】講 師 平 野 千枝子
	【秋】講 師 平 塚 泰 三

〈春学期〉現代社会のなかの美術館

授業科目の内容：

展覧会活動と教育普及活動を中心に，主として近現代美術に関する事例を具体的に考察します。また，現代の美術館をとりまく環境の変化を分析し，これに対応する理念と実践を考えます。

参考書：

伊藤寿朗『市民のなかの博物館』吉川弘文館，1993 年。

漢文講読Ⅰ（2）	
伝記や批評を読み，唐詩について考える	
	講 師 今 原 和 正

授業科目の内容：

すでに英語を学んでいる皆さんにとって，漢文の語法はそれほど難しいものではありません。漢文読解の難しさは，ひとつひとつの語の意味を吟味することにあります。授業では，返り点のうってない文章に「語釈」を付け，それにもとづいて文意を読みとり，自分で返り点をうつ練習をします。また，あわせて唐詩全般についての知識を身につけるとともに，通説にとらわれずに詩の解釈をするおもしろさを味わってもらおうと思っています。伝記資料としては「全唐詩小伝」，批評資料としては「唐詩鏡」の評語が主となります。とりあげる作品は初唐から晩唐までの比較的有名なものとししました。

テキスト：

講義資料プリントを配布します。

参考書：

- 『唐詩鑑賞辞典』（前野直彬編）
- 『漢文まとめと要点』（森野繁夫等・白帝社）
- 『唐代の詩人 ― その伝記』（小川環樹編・大修館書店）

漢文講読Ⅱ（2）	
「三国志」で学ぶ漢文	講 師 伊 藤 晋太郎

授業科目の内容：

中国古典の「三国志」は，外国の古典でありながら日本でも何度か大きなブームを起こしており大変人気があります。そうしたなかで教

養として「三国志」の知識を身につけておくことは有益なことといえましょう。隣国である中国の人たちと交流・交渉していくうえでも「三国志」の知識は潤滑油になります。この授業では、「三国志」に関わる作品の精読を通して「三国志」に対する理解を深めながら、漢文読解のための技術を習得することをめざします。「三国志」に関わる作品といっても、歴史書だけではなく。三国時代よりも後の世の人が、「三国志」をテーマにして作った詩や文章も含まれます。尚、漢文講読という授業の性格上、文言文で書かれた作品のみをあつかいます。最終的には、白文で読みすすめていくようにしたいと思います。

テキスト：

プリントを使用します。

参考書：

授業で提示します。

応用情報処理Ⅰ（テキスト処理）（2）（秋学期）

講 師 中 島 玲 子

授業科目の内容：

我々の日常生活において、PC や携帯電話などで文字を読み書きすることはもはや当たり前のことである。しかしその仕組みや、より有効な処理方法については意外と理解されていない。この授業では、コンピュータおよびインターネットで扱うテキスト、つまり文字列についての様々な問題を扱い、コンピュータで文字を扱うとはどういうことかについて理解を深める。その上で Perl プログラミングの基礎を含め、テキスト処理の方法やツールについて概説し、受講生諸君のレポートや卒論の作成にも役立てられるような文字列処理の基礎を、演習を通して習得することを目標とする。前半は文字コードおよびフォント、漢字コード、特殊文字や文字化けなどのさまざまな問題について学び、後半は各種のアプリケーションソフトやツールを用いた文字列処理、単語の切り出しや出現頻度の集計、分析などを行う。ほぼ毎回課題を出題する。

受講者は「基礎情報処理」を履修済みであることを前提とする。Windows およびメールソフトの基本操作に習熟していないと授業への参加は困難である。Word や Excel などのアプリケーションソフトの使い方を学ぶ講義ではないので注意すること。

テキスト：

オンラインで資料配布

参考書：

- ・ 深沢千尋『文字コード「超」研究』ラトルズ, 2003.
- ・ 林竜生ほか『インターネット時代の文字コード』共立出版, 2002.
- ・ その他授業中に適宜紹介

応用情報処理Ⅱ（Excel）（2）（秋学期）

Excel を使ったデータ処理と Word を使った論文作成

講 師 新 居 雅 行

授業科目の内容：

基礎情報処理を履修したレベルの学生を対象に、データ処理や論文作成につながる表計算ソフトやワープロ利用について説明します。特に、Excel を利用したデータ処理や統計的な処理について、全体の 7 割近くの時間を割く予定です。Excel についての基本的なワークシート作成ができることと、統計の知識を前提とします。Excel の基本操作の復習、データの扱いの基本、関数を利用した統計処理、グラフ作成、相関、検定について説明します。また、応用的な事例としてアンケートの集計やシミュレーションのようなものも扱います。ワープロは論文を書くということに絞って操作方法等を説明します。ワープロや表計算の基本操作ができ、統計についてある程度は知っているか勉強をする意志があることが望ましいでしょう。

テキスト：

Web ページで用意します。

参考書：

講義中に示します。

応用情報処理Ⅲ（情報社会の光と影）（2）（春学期）

教授(有期) 三 浦 逸 雄

授業科目の内容：

情報技術 (IT) の進展は社会・経済環境に大きな影響を及ぼし、情報や知識が社会の様々な側面において重要な役割を果たしている。例えば、大学や研究機関の教育・研究活動、企業のグローバルな経済活動、国・地方レベルの行政サービス、さらには人々の日常生活においても情報は不可欠の要素になっている。しかし、コンピュータ犯罪やプライバシー侵害など情報社会の進展に伴う弊害も強く指摘されている。そこで情報社会のプラス面とマイナス面の両方に光をあてて、現代社会がどのような方向に進むのかについて考える。

テキスト：

なし

参考書：

講義の中で随時紹介する。

応用情報処理Ⅳ（情報技術）（2）（春学期）

准教授 原 田 隆 史

授業科目の内容：

コンピュータとネットワークの動作と仕組みを理解し、幅広い知識を身に付けることを目的として、様々なトピックについて解説します。たとえば、ハードウェアとソフトウェア、インターネットと WWW の基礎的な理論などについて、基本的なことから説明していく予定です。実際にコンピュータの内部を見るなど、できるだけ現物を見ることができれば機会を設定して理解しやすいようにしていきたいと思っています。また、情報技術に関わる最近のトピックについても、できるだけとりあげて解説していく予定です。

テキスト：

指定しません。必要に応じて資料プリントを配布します。

参考書：

授業で適宜指示します。

応用情報処理Ⅴ（プログラム言語）（2）（秋学期）

Java によるプログラミングの基礎

講 師 新 居 雅 行

授業科目の内容：

コンピュータを動かすために必要なソフトウェアを作成することをプログラミングと呼んでいます。この講義では、Java という言語を使ってソフトウェアを作成する方法を解説します。パソコンについての基本的な知識や、ファイルの作成や一般的な操作ができるという前提で、講義は進めます。また、インターネットを含むネットワーク利用についての基本知識もあるものとして解説を行いません。特にテキストファイルを含めた、ファイル処理については、きちんと理解した上で受講してください。ただし、プログラミングそのものについては、初歩から解説します。

まず、プログラミングの概念と、知っておきたいことをまとめます。そして、プログラミングで必要なパソコンの操作を説明します。その後、実際にいろいろなプログラムを作成するといった流れで講義を進めます。テキストは以下のものを利用しますが、Web ページでのレジュメや補足も利用します。

テキスト：

Web ページで用意します。

参考書：

講義中に示します。

応用情報処理Ⅵ（ネットワーク技術）（2）（秋学期）

准教授 原 田 隆 史

授業科目の内容：

ネットワークについて、その基盤技術から順を追って説明を行います。インターネットの基本技術である TCP/IP やネットワークサービ

ス、ネットワークセキュリティについて学ぶことを目的としています。また、インターネットの発達にもなっとうまれてきたサービスについても概観します。

テキスト：必要に応じて、適宜プリントを配布します。

応用情報処理Ⅶ（WWW技術）（2）（春学期）	講 師 安 形 輝
------------------------	-----------

授業科目の内容：この授業では、膨大な情報量を背景として急速に普及してきたメディアである World Wide Web（以下ウェブ）における、サーバ側のさまざまな知識と技術について、演習を通じながら取得することを目的としています。ただし、膨大なウェブサーバ側の技術について限られた時間のなかで扱うのは困難であるため、個人あるいはグループごとに、実際のウェブサービスを作成し、運用する演習を行います。そのなかで、ウェブに関する知識や技術を自ら積極的に学んでいくことを期待します

テキスト：特に指定しません。

参考書：特に指定しません。

情報と職業（2）（秋学期）	准教授 原 田 隆 史
---------------	-------------

授業科目の内容：現在の企業活動では「情報」が重要な役割を果たしていると言われます。これは、いわゆる「情報産業」において重要であるだけでなく、すべての産業分野において「情報」を効果的に利用することが必要不可欠となってきています。この科目では、情報産業に従事される方を中心に、各種の産業で「情報」を取り扱っておられる方々をお呼びして、「情報化」の実態をお話していただく予定です。

本年度に実際に塾外から招く講師の方々は未定ですが、2006 年度はハーティネス、NTT レゾナント、ネットワーク通信応用研究所、松下電器産業株式会社、ソニー株式会社、堀田製作集団、横浜銀行、角川書店、ソニーテクノクリエイト、三菱総合研究所、Yahoo 株式会社の方々にお願いいただきました。

テキスト：特に指定しません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

情報と倫理Ⅰ（2）（春学期）	教 授 山 内 志 朗
----------------	-------------

授業科目の内容：高度にメディアが発達した状況においては、人間を突き動かすものは、メディアが伝えるメッセージやコンテンツではなく、メディアの質料的側面やメディアの存在そのものだったりする。そういう状況では、悪意なくして悪が生じることも、些細な過失が致命的な大被害をもたらすこともありうる。この授業では、そういったメディア環境において、新たにどのような問題点が生じているのか、理論的に考察し、現状を俯瞰する視点を獲得したい。

テキスト：船木亨『デジタルメディア時代の《方法序説》』（ナカニシヤ出版、2005 年）

参考書：Deborah G. Johnson、『コンピュータ倫理学』（水谷雅彦・江口聡監訳、オーム社、2002 年）

情報と倫理Ⅱ（2）（秋学期）	
休講	

中国語会話特殊Ⅰ（2）	
広東語初級	講 師 八 木 麗 媚

授業科目の内容：会話を中心に広東語の基礎を学びます。基本的文法事項を習得し、簡単な日常会話ができることを目標とします。

テキスト：初回の授業で指示します。

中国語会話特殊Ⅱ（2）	
閩南語（台湾語）	講 師 小 松 嵐

授業科目の内容：入門・初心者向けの閩南語（台湾語）会話クラスです。「閩」は福建省の古名で、閩地方東南部に分布する言語は閩南語と称されます。同系の閩南語が福建省外及び東南アジア、台湾にも分布しております。台湾では住民の 60 % 以上が閩南語を話すことができることから、台湾第二の公用語とも言われます。本授業は閩南語の音声体系をはじめ、教会ローマ字表記法及び簡単な日常会話をおぼえ、閩南語のことわざや歌も取り入れたいと思います。

西洋古典学（4）	
「古代ギリシア抒情詩の世界」	教 授 西 村 太 良

授業科目の内容：古代ギリシアの抒情詩は、言葉ばかりではなく、歌と舞踊による総合芸術でしたが、今日ではテキストのみが断片的に残っているに過ぎません。この授業では先ずジャンルとしての特色について概観し、代表的な詩人の作品を取り上げて考えていきたいと思います。

テキスト：プリント配布。

西洋古典研究会（2）	教 授 西 村 太 良
経済学部 准教授	バティー、ロジャー

授業科目の内容：ギリシア・ローマの文化を歴史、文学、宗教、美術、地理など様々な分野を総合する視点から考えていくことを目的とする研究会。担当者からの問題提起に対して受講者の側から積極的に議論に参加していくことが望まれる。内容、テーマについては受講者の希望・関心にも応えていきたい。

テキスト：主としてプリントを配布。

参考書：授業中に紹介する。

古典ギリシア語文献講読Ⅱ（2）	講 師 小 池 和 子
-----------------	-------------

授業科目の内容：・ 散文で書かれた作品を読みます。
・ 扱う作品は出席者の要望に応じて決めたいと思いますが、候補としては以下のような作品を考えています。
・ クセノポン『ヘレーニカ』
・ プルートアルコス『対比列伝』より「アントーニウス伝」
・ リュシアース 第 xii 弁論『エラトステネース告発』
・ ルーキアノス『本当の話』

テキスト：こちらで用意します。

ラテン語文献講読Ⅰ（2）	
休講	

授業科目の内容：
初等文法を終えた人のための原典講読クラス。年度によって、散文か詩文を読む。
散文の場合は、キケロ、カエサル、タキトゥス等から、詩文の場合は、オウィディウス等から一作品を選んで原典講読。本年は、詩文、オウィディウスを予定。
テキスト：
テキストはこちらで用意する。
参考書：
・久保正彰著『OVIDIANA—ギリシア・ローマ神話の周辺』（青土社）
・島田 誠『コロッセウムからよむローマ帝国』（講談社）

授業科目の内容：
専攻科目に関連するロシア語の文章の講読
テキスト：
未定

授業科目の内容：
イタリア文学の概要を把握するとともに、主要な作品に、イタリア語原文と日本語訳を併用してふれていきます。狭義の文学にこだわらず、映画・音楽（オペラ）・美術の分野もなるべく視野におさめながら授業をすすめる予定です。
テキスト：
プリント
参考書：
・『イタリア文学史』（東京大学出版会）
このほか教室で適宜紹介します。

授業科目の内容：
20世紀初頭から現在に至るまでのスペインを主な対象とし、社会と文化に関する豊富な資料を読みこむことによって、現代のスペインで進行しつつある文化的事象について考え、理解を深めます。
テキスト：
プリントで配布します。
参考書：
・牛島信明ほか『スペイン学を学ぶ人のために』（世界思想社）
・池上岑夫ほか『スペイン・ポルトガルを知る事典（新訂増補）』（平凡社）
・立石博高『スペイン歴史散歩』（行路社）
・杉浦勉ほか『ポストフランコのスペイン文化』（水声社）
その他、授業中にもいろいろ紹介します。

休講

休講

授業科目の内容：
人類学（自然人類学、化石人類学）、進化学（形態レベル）、自然史分野に関わる卒論補助または卒論作成に役立つような演習形式の講義。初年度なので、具体的には人類学、進化学の基礎知識の習得、基礎的文献の探索と講読を行う予定。
テキスト：
指定しません。
参考書：
指定しません。

休講

授業科目の内容：
生命科学の成果は、医療技術として私たちの生活に直結するようになりました。移植医療、再生医療、生殖医療それにオーダーメイド医療という言葉も聞こえてきます。しかし、技術の進歩は望ましいこととだけでは済ませられない側面もあります。技術の適用そのものがはらむ問題点に加え、例えば子どものできないカップルは「どうして不妊治療を受けないの」という外野の声に、悩みは一層つのることになるでしょう。
[それを望む人がいて、それに応える技術があるとき、関係ない第三者がとやかく言うことはできない。自己決定に任せるべきだ]という考え方があります。果たして自己決定権にすべてを託してよいものでしょうか。現在の日本で自己決定権は本来の意味で機能しているでしょうか。例えば生まれてくる子の質を選ぶ技術も可能になっていきます。もし、これが広く行われるようになると、そのような社会は「個人に選択を委ねた優性政策」とをとっているということもできます。
先端生命技術をどのように受け止めていったらよいのか？ 自己決定権の意味するものは何なのか？ そこに社会としての規範は必要なのか？ など、先端生命技術の実態について勉強するとともに、技術に伴う悩ましい問題点を一緒に考えていく予定です。

テキスト：
使用しません
参考書：
・『現代生命科学入門』小比賀正敬・中島陽子（慶応大学出版）2001（生命科学の基礎知識紹介として）
・『優生学と人間社会』米本昌平 他（講談社現代新書）2000
・『脳死と臓器移植の医療人類学』マーガレット・ロック（みすず書房）2004
・『自己決定権は幻想である』小松美彦（洋泉社）2004 そのほか適宜紹介します

授業科目の内容：
物質の概念あるいは化学物質に関連した問題を研究します。課題として取上げるテーマは履修者の希望にそって設定しますが、例えば次のような分野が考えられます。科学史における転機とその時代背景、化学物質と環境問題、自然科学でまだ未解決な問題など。
テキスト：
必要に応じてプリントコピーを配布します。

授業科目の内容：
人類学（自然人類学、化石人類学）、進化学（形態レベル）、自然

史分野に関わる卒論補助または卒論作成に役立つような演習形式の講義。自然科学研究会 I 既習者および学部 4 年生のために開講するので、人類学、進化学の方法論、研究成果等の吟味、検証を通じて報告・論文作成の一助としたい。

テキスト：
指定しません。

参考書：
指定しません。

カウンセリング概論 (4)	講 師 平 野 学
---------------	-----------

授業科目の内容：

心の時代と言われる現代、カウンセリングは様々な点から注目されている。本講ではまず、(1) カウンセリングがどのようなものなのか、歴史的な流れも踏まえつつ、具体的にお話しした後、(2) その訓練手法としてよく用いられている“ロールプレイ”も交えて、話を聴く練習を若干試みたい。そして、(3) 実際に病院や保健所、学生相談、教育相談等でカウンセラー（臨床心理士）として働いている方々、及び精神科医や HIV・エイズ関係者、脱カルト関係者等もゲストとしてお招きし、現場に即したカウンセリングのあり方や資格・訓練等の問題についても考えてみたい（VTR 等も多く使用したい）。尚、全体を通し“臨床心理学入門”といった趣きもあるが、受講者自身が自らを見つめ、各々の成長に役立つ時間になるよう心がけたい。同時に、カウンセリングという視点から現代社会のあり方や人間としての生き方等についても考えるきっかけとしたい。

テキスト：
乾 吉佑・平野 学編『臨床心理士になるには』（ぺりかん社）

参考書：
・河合隼雄『カウンセリングを語る（上・下）』『カウンセリングを考える（上・下）』（共に創元社）『心理療法学説』（岩波書店）
・佐治守夫他編『カウンセリングを学ぶ』（東京大学出版会）
・小此木啓吾他編『精神分析セミナー（I 巻）精神療法の基礎』（岩崎学術出版社）

カウンセリングワークショップ (4)	講 師 平 野 学
--------------------	-----------

授業科目の内容：

現代社会にあっては、知的なものが重視・評価されやすく、何かとアタマでっかちになりやすい風潮がある。我々自身も、とかく自らの心や身体、そして体験をぞんざいにして過ごしがちではなかろうか。ここではこうした認識のもと、『カウンセリング概論』単位取得者（状況によっては履修中の者も認める可能性あり）に限定して、実習や体験学習を中心とするワークショップを行いたい。具体的には（1）カウンセリングの実際をデモンストレーションや VTR で見たり、小グループに分かれてロールプレイを行いつつ、じっくり自由な討議を重ねたい（特に秋学期にはロールプレイの逐語記録の詳細な検討をいくつか試みたい）。加えて（2）自己理解を深めるための様々なエクササイズ（描画、感受性訓練、心理アセスメント、ヨーガ、サイコドラマ、箱庭、コラージュ他）を体験してもらう中、自らをバランス良く高めるきっかけを提供したい。本講は内容的にカウンセラーや臨床心理士、福祉職、教師等、人とかかわる仕事に関心を有する学生諸君向けのものとなろうが、それ以外の諸君にとっても“対人コミュニケーション”のあり方等を、学び考えるきっかけにしてもらえたらと思っている。

参考書：
・佐治守夫他編『カウンセリングを学ぶ』（東京大学出版会）
・乾 吉佑・平野 学編『臨床心理士になるには』（ぺりかん社）

名著研究 I（独）(2)	講 師 針 谷 寛
--------------	-----------

授業科目の内容：

1830～40 年代ドイツの初期社会主義の理論的文献を読む。今年度は昨年度に続き、K. Marx, Oekonomisch-philosophische Manuskripte を所有概念を軸にして読む。一方ではカント、ヘーゲルなど近代社会

理論の所有論、他方ではヴァイトリングやヘスなどの初期社会主義理論の所有論と比較しながらその歴史的、理論的特殊性を見ていきたい。

そこで使われている言葉がその時代の中でもっていた意味を手繰りながら読むことに留意する。

名著研究 II（仏）(2)

休講

比較文学 I（2）(春学期)

小説はどのように書かれているか。
講 師 菅 原 克 也

授業科目の内容：

比較文学研究の 1 つのありかたとして、文学作品を広く一般的な観点から分析、考察するという態度がある。春学期は、小説という文学形式について、その思想やメッセージの側からではなく、「かたち」の側から読んでゆくことのようなことが分かるか、あるいは、小説とはどのような書かれ方をしているか、ということを考えてみたい。テキストの構造に着目する様々な批評理論を参照しつつ、具体的な小説作品を「かたち」の面から読み解いてみることにする。例は主に英米文学と日本文学から引く。

テキスト：
指定しない。

参考書：
講義中に紹介する。

比較文学 II（2）(秋学期)

日本近代詩における欧米文学の影響
講 師 菅 原 克 也

授業科目の内容：

秋学期は、実証的な比較文学研究の主たる対象となる影響研究をする。具体的には、明治期以降の日本の近代詩の成立において、欧米の文学がどのような影響を与え、日本の近代詩をどのように方向づけていったのかを歴史的に跡づける。主なテキストは、日本語と英語のものをを用いるが、一部フランス語とドイツ語のテキストも扱う。ただし、フランス語とドイツ語の知識は必須ではない。

テキスト：
指定しない。

参考書：
講義中に紹介する。

演劇の歴史 I（2）(春学期)

日本演劇の歴史
教 授 石 川 透

授業科目の内容：

現在、世界各地には、さまざまな種類の演劇が伝えられ、演じられている。しかし、これまでの歴史の中で、埋もれてしまい、現在演じられていない演劇も数多く存在している。本講義では、それらを含めた日本の古典の作品を取り上げ、いかに作られ、いかに受け継がれたのかを、現存する演劇や資料と関わらせて考えてみたい。

演劇の歴史 II（2）(秋学期)

西洋演劇の流れ
理工学部 教授 小 菅 隼 人

授業科目の内容：

演劇の世界では日々新しい上演が生み出されつつ、同時に、各地域に過去の文化的財産として戯曲や上演伝統が残されています。しかし、どのようなものであっても劇が演じられる時は、常に、目の前に繰り広げられるイベントとして「観客」は舞台の構成要素となります。劇場には、戯曲と俳優と観客が常に同時に存在しているのです。また、演劇においては、言語芸術の要素が舞踊・音楽・美術の要素と半ば整然と、半ば乱雑に混じりつつ総合芸術となります。したがっ

て、演劇史は劇文学の歴史であると同時に、上演と鑑賞の歴史ともなります。この考え方に立って、秋学期の講義では、主として西洋演劇の流れを言語や地域の枠に限定せず、総合的に扱います。演劇のドラマとしての側面は、映画・テレビ・オペラ・ミュージカルなど様々な芸術と理念を共有するはずですし、パフォーマンスとしての側面は政治・経済・法律・社会・スポーツにおいても見出せるでしょう。その意味では、演劇を知ることは、世界の見方を知ることであります。狭い意味での演劇に限らず、広く演劇的な現象に興味を持つ学生諸君の受講を歓迎します。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

講義中指示します。

英書講読 (2)	
あるピアニストの随想を読む	准教授 高 橋 宣 也

授業科目の内容：

イギリスで活躍するクラシック音楽のピアニストが演奏家として日々感じていることが、アルファベット順の見出しとなってまとめられています（たとえば‘A is for Audience’, ‘B is for Background Music’といった具合）。芸術家の日常観察から、現代社会の小さな断面がいろいろと見えてきます。英語は比較的平明ながら、ウィットや皮肉が多く利かせてあるので、詳しい読解を行うとともに、行間を読む練習にもなるでしょう。

テキスト：

Susan Tones, *A Musician's Alphabet* (London: Faber and Faber, 2006)

論文フランス語 (初級) (2)	教 授 荻 野 安 奈
------------------	-------------

授業科目の内容：

「論文」とは大袈裟ですが、ナマのフランス語を読む、ぐらいの意味に、気楽に考えて下さい。きちんと文章を味わうための発音、文法、そして文化理解。ゼロから始めますが、その後は加速度をつけます。

テキスト：

『読むための基礎フランス語文法』(恒川邦夫著、芸林書房)

論文フランス語 (中級) (2)	教 授 牛 場 暁 夫
------------------	-------------

授業科目の内容：

「論文」という語が付いているが、読むために必要な他のスキナー発音、表現一も教えます。総合的なフランス語力をまず養いたい。

比較精神史 (4)	
英語によるディスカッション	教 授 宇 沢 美 子
	准教授 エアトル, ヴォルフガング
	助 教 北 中 淳 子
	助 教 高 橋 勇

授業科目の内容：

授業では英語のみを用いますが、帰国子女ではない学生を対象とします。自分たちの問題意識を英語で表明し（プレゼンテーション）、討論を行なうことによって、英語の能力を鍛えることを目指します。必ずしも英語が得意でなくても、英語の運用と英語による意見の発信に関心のある方の参加を期待します。哲学、人間科学、アメリカ文学、イギリス文学を専門とする各教員が、それぞれ関心のあるテーマを設定するので、種々の問題について多角的に考えるよい機会となるでしょう。

テキスト：

授業のガイダンス時に指定します。

環境問題と大学 (2) (秋学期)	
— 環境学・平和学 —	教 授 川 村 晃 生

授業科目の内容：

近年、地球環境は劣化の一途をたどり、しかもその好転の兆しは全く見えない。環境問題は、自然科学のみならず、政治や経済といった社会科学、また人間の精神に関わる人文科学など、様々な分野からのアプローチが可能であり、またそれらを統合することによって解決の道も探り得るように思われる。この講義では、塾内外のそれぞれの分野で環境問題に関心を寄せる講師陣が、正面から環境問題に考察を加え、大学が環境問題にどう取り組んだらよいかについて、議論を深める。講義は聞いて考えてもらうことを主眼とするので、成績を平常点で付ける。

一方、近年アフガニスタン、イラクなど、世界規模の戦争が多発している。環境問題とともに戦争や平和の問題を講座の対象としたい。戦争の現状認識を深めると同時に平和を希求する手がかりにしていたきたい。

テキスト：

なし

参考書：

- ・『環境学事始め』(慶応義塾大学出版会 2400 円＋税)
- ・『自然と文学』(慶応義塾大学出版会 3000 円＋税)

イタリア語文献講読 (2)	教 授 白 崎 容 子
---------------	-------------

授業科目の内容：

さまざまな分野の文献をテキストに、読解力を高めることを目指します。

対象は、必修語学「イタリア語 II」を履修した 3, 4 年生、系列外科目「イタリア語中級」履修者およびそれに準ずる学生です。「初級」で文法を学んだばかりの学生でも、たとえば他のロマンス系言語の知識やイタリア語読解への熱意と気力を備えていれば、受講可能です。

テキスト：

プリント

文章と表現 (4)	
文学の現場からの報告	講 師 加 藤 宗 哉

授業科目の内容：

プロの文章とアマチュアの文章には違いがある。プロの書き手たちは暗黙の約束ごとに従って文章を書いている。その約束ごとを本講では説明する。文章は才能で書くのではなくテクニックで書く。具体的には「漢語・和語・外来語の使い分け」「オノマトペ・常套語・記号の危険性」に始まり、「いかに書き隠すか」まで、文学の現場でつねに問われる問題を紹介したい。

テキスト：

コピーを配布します。

参考書：

- ・季刊文芸誌「三田文学」
- ・「三田文学名作選」

言語学関係講座について

本塾文学部には、現在のところ言語学専攻科はないが、文学部共通科目の枠内で、以下のように、言語学関係の科目が設置されている。それは、講座の種類・質・講師陣といった角度からみて、他大学の言語学専攻科に十分に匹敵する（あるいは、それ以上に充実した）内容をもっているといえる。したがって、専攻の如何にかかわらず、言語学に関心をもつ学生は、これらの講座を履修することによって、言語学の専門的な知識を身につけることができるであろう。なお、ここでいう「言語学」は、言語の諸相をあるがままに記述することばかりでなく、「なぜ言語はかくあるのか」という問いに対する解答を与える説明的理論（例えば生成文法理論）の構築をも目標としている学問であることを強調しておきたい。それは言語をめぐる隣接諸科学（心理学、哲学、論理学、コンピュータ・サイエンス、認知科学など）と密接にかかわりをもつものであり、その意味で学問に対する現代的要請に応えるものである。言語学関係の講座は次のようなカリキュラムのもとに構成されている。

・日吉設置講座：いずれも言語科学入門の役割を果たしている

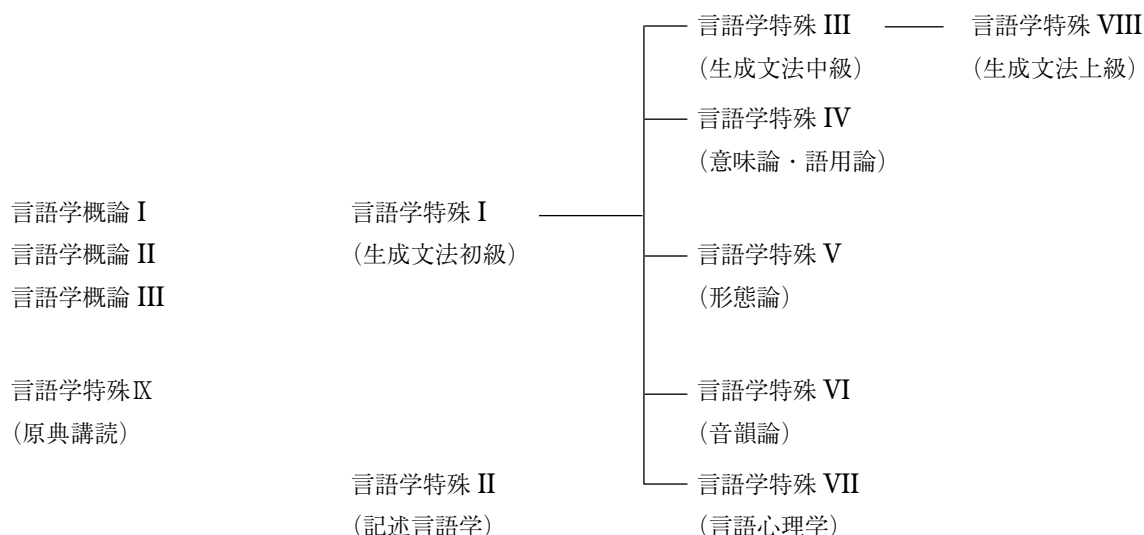
「言語」（通年）〔文〕

「言語学Ⅰ」（春学期）〔文・経・商 共通〕

「言語学Ⅱ」（春学期）〔文・経・商 共通〕

・三田設置講座

2 年次での履修が望ましい 3, 4 年次での履修が望ましい



なお、言語学関連科目として、英文学、仏文学、国文学、独文学、中国文学の各専攻科目に設置されている個別言語の研究（たとえば、英語学、フランス語学、国語学など）、および、哲学専攻科の「哲学倫理学特殊Ⅳ」（言語哲学）などもあわせて履修されたい。言語学に関して、履修上の問題をはじめ、さまざまな問題が生じた際には、遠慮なく以下の講座の担当者に相談されたい。

言語学概論Ⅰ（４）

休講

言語学概論Ⅱ（４）（春学期集中）

生成文法入門

講 師 外 池 滋 生

授業科目の内容：

生成文法の基本的な考え方とその変遷をテキストに沿ってたどり、かつその枠組みの中で日英語を中心に比較しながら見ていきます。

テキスト：

北川善久・上山あゆみ著「生成文法の考え方」（研究社）

参考書：

外池滋生（監訳）「新版入門ミニマリスト統語論」（研究社）

言語学概論Ⅲ（４）

ことばの仕組みとことばの発達

経済学部 教授 松 岡 和 美

授業科目の内容：

このクラスは初学者を対象に、言語学では「言語の何を」「どう扱うのか」についておおまかな理解が得られるように構成されている。前期クラスでは、言語の研究のツールとして提案されている概念や方法論を紹介し、それがもたらす新しい知見を、世界の様々な言語データの分析を通して理解することを目的とする。後期クラスでは、前期クラスの内容を踏まえて、母語の発達過程と言語理論との関係についての知見を広める。各学期末試験においては、知識だけではなく、授業で扱った考え方をを用いてデータや問題を「どう説明するか」という能力の評価に重点を置いた設問が課される。主な内容：語彙論、音声学、音韻論、統語論、意味論、語用論、社会言語学、歴史言語学、脳と言語、母語の獲得、手話学、バイリンガリズム他。前年度の授業評価結果やコメントは授業支援用 HP 参照のこと。

テキスト：

・『ことばの科学ハンドブック』郡司隆男・西垣内泰介 編著、研究社
三田メディアセンターリザーブブック（図書館旧館 3 階）に配架予定の資料を予習文献として使用する。

参考書：

順次、授業支援用ホームページ（URL 後述）に掲載。

言語学特殊Ⅰ（４）

生成文法入門

言語文化研究所 教授 大 津 由紀雄

授業科目の内容：

生成文法と呼ばれる認知科学理論の基本的考え方について講じたあと、現代英語を主たる対象として言語分析の訓練を行なう。現代英語を対象とするのは、客体化しやすい外国語であり、かつ、受講者のほとんどの者になじみが深い言語であるからである。現代英語についての知識は中学校卒業程度でよい。

テキスト：

Nigel Fabb. 2005. *Sentence Structure* (2nd ed.) Routledge.
一括注文はしないので、各自購入しておくこと。

言語学特殊Ⅱ（４）

東南アジアの言語

言語文化研究所 教授 三 上 直 光

授業科目の内容：

東南アジア諸言語の諸相を一般的な見地から観察、分析する。取り上げるテーマとしては、系統と分布、文字、音韻・形態・統語などの特徴、言語と文化、言語問題、言語政策などを予定している。授業は、講義と履修者の発表を交えながら進めていく。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

その都度指示する。

言語学特殊Ⅲ（４）

講 師 内 堀 朝 子

授業科目の内容：

生成文法研究は、近年、ミニマリスト・プログラムと呼ばれる研究プログラムの下で進められてきた。それによると、人間の脳内にはいわば言語器官とも言うべき独立した機構が存在すると考えられ、特に、その機構には、言語使用を可能にするために言語以外の領域（例えば、音声の調音・知覚に関わる領域など）から必然的に課される条件を最適形で満たしながら、文を原則的には無限にかつ最も経済的に、生成し得る仕組みが備わっているとされる。本講義では、このような言語器官としての言語の諸特性を明らかにすることを目的とした最近の生成文法理論の枠組みについて、詳しく取上げる。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に指示する。

言語学特殊Ⅳ（４）

休講

言語学特殊Ⅴ（４）

格と一致の形態統語論

講 師 デ・シェン、ブレント

授業科目の内容：

類型学的に多様ないくつかの言語における格と一致の形態論的パターンを見てから、自然言語の階層的な句構造の説明にもなる統語論上の計算の一側面として、格表示と一致がどのように扱われるかを調べる。主なトピックは（１）節の構造（VP の存在および構成素の概念；T および C の存在、TP と CP、補部と指定部）；（２）名詞句の構造（DP としての名詞句、DP と TP の平行性）；（３）意味役割（どのような意味役割が存在するか、意味役割が構造的に決定するという仮説）；（４）VP 構造（作用域に関する主語の曖昧性および VP 内主語の仮説；二重他動詞節の構造および小さい v）；（５）融合操作（マージ）（融合操作と句構造の構築、融合の引金としての選択素性）；（６）一致操作（同一操作の 2 側面としての格表示と一致、解釈可能と解釈不可能な一致素性、解釈不可能である構造格の素性、プロープとゴールの関係、移動と EPP 素性、DP における一致操作）。

テキスト：

教材は教室で配布される。

言語学特殊Ⅵ（４）

音声と音韻

講 師 本 間 猛

授業科目の内容：

日本語と英語の音声構造と音韻構造の相違点および共通点を探ることを通して、音声学・音韻論の基本概念を学ぶ。また、分析方法の基礎を理解し、応用できることを目指す。言語研究における音声・音韻の研究の位置付けを概観した後、言語音の産出のしくみを学ぶ。さらに、音素、音節、モーラ、語アクセント、文アクセント、リズム、イントネーションなどの音韻現象とその理論的側面について考察する。また、最近の理論である最適性理論（Optimality Theory）についても解説する。

授業方法：講義にて基礎的な知識や基本概念を扱い、さらに、練習問題で理解を深めるようにする。

テキスト：

窪蘭晴夫著 日英語対照による英語学演習シリーズ『音声学・音韻論』くろしお出版

参考書：

・窪蘭晴夫著『語形成と音韻構造』くろしお出版
・窪蘭晴夫・太田聡著『音韻構造とアクセント』研究社
・窪蘭晴夫・本間猛著『音節とモーラ』研究社

言語学特殊Ⅶ（４）	
言語心理学	講 師 磯 部 美 和

授業科目の内容：

本講義では、子どもがどのようにして、わずか数年のうちに抽象的で複雑な母語を身につけるのかという問題を取り上げる。具体的には、生得的にヒトの脳に内在すると仮定されている言語の知識について解説し、英語・日本語の獲得を中心に様々な言語獲得研究の成果を概観し、議論していく。

テキスト：

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書：

適宜指示する。

言語学特殊Ⅷ（４）（春学期集中）	
生成文法上級	言語文化研究所 准教授 北 原 久 嗣

授業科目の内容：

ミニマリスト・プログラムが提供する研究上の指針には、（記述的装置のクラスを最小限にするよう求める）「最小設計」指針、及び（演算の操作上の複雑性を縮小するよう求める）「単純演算」指針と呼ぶうものがあるが、本講義では、「単純演算」指針に幾分重きをおき、操作上の複雑性の縮小と言語のミニマリスト的設計の問題を考えてみたい。具体的には、これら二つの指針に関係する基本概念及び指導仮説を検証し、徹底した派生主義の観点から、操作上の複雑性を縮小する提案の再定式化を試みる。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に指示する。

言語学特殊Ⅸ（４）	
歴史言語学	医学部 教授 児 馬 修

授業科目の内容：

過去1500年くらいの間に起った英語の文法（統語）変化を取りあげて、その変化のメカニズムについて分析・考察をおこなう。具体的には節構造・屈折の消失・準動詞構造・助動詞の発達などである。特定の理論にとらわれず、様々なアプローチ—生成文法・文法化・語用論・社会言語学など—を検討する。英語史の基礎知識はなくてもよい。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

適宜指示する。

遠山記念音楽学講座について

1985年、音楽評論家で（財）日本近代音楽館（元遠山音楽財団）理事長であるとともに、東京文化会館館長、新国立劇場副理事長などを歴任された遠山一行氏から、当時の遠山音楽財団附属図書館に蒐集された中世・ルネサンス、現代の音楽に関する資料が寄贈された。資料には、図書ばかりでなく楽譜、レコード、マイクロフィルム等が含まれ、慶應義塾図書館（旧館）で「遠山音楽文庫」の名のもとに公開されている。また遠山記念音楽研究基金も慶應義塾に寄贈された。それを記念して開講されたのがこの講座である。

欧米においては、音楽学は総合大学で研究教育されており、遠山氏の寄贈は、我が国においても音楽学の研究教育が総合大学を中心におこなわれるべきとの信念にもとづいたものであった。氏は、慶應義塾こそそれに最もふさわしい大学であると判断された。遠山音楽文庫の開設によって、我が国の総合大学のなかで最大の音楽資料を有することになった慶應義塾は、音楽学に関する講座を充実するために、本講座を設置した。美学美術史学専攻には、すでに西洋音楽史を中心にした一連の講座が開設されているが、それを拡充するものであるとともに、音楽学および関連諸学を専門とするための基礎的スキル獲得のための内容も盛り込まれている。

音楽学Ⅰ（４）

音楽様式の歴史

講 師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容：

バッハからウェーベルンに至る、ほぼ2世紀間のヨーロッパ近代音楽の様式と、音楽分析の基礎を学ぶ。

テキスト：

小鍛冶邦隆「作曲の技法・バッハからウェーベルンまで」（音楽之友社）

音楽学Ⅱ（４）

音楽研究入門：研究領域と文献、資料 音楽関連情報検索の実習

商学部 教 授 佐 藤 望

准教授 西 川 尚 生

講 師 福 田 弥

授業科目の内容：

音楽で卒業論文を書こうと考える人のための（１）音楽研究のさまざまな領域と研究方法の包括的な紹介、（２）西洋音楽史を中心にした個別領域の事例紹介と研究の現在、（３）音楽資料・文献の検索法の習得を軸にしています。（３）に関しては、三田メディアセンター・レファレンスの職員が担当し、授業内で実習をおこなう予定です。これまで音楽学について学んだことのない人も履修可能ですが、そのジャンルはともあれ音楽で卒論を書くことを視野にいれている人に限定します。

参考書：

授業内で指示します。

文化財科学

昭和 54 年財団法人松永記念館は、慶應義塾に文化財研究の振興と普及を計る目的で、松永記念文化財研究基金を寄贈された。本講座は、その主旨を記念し、義塾における文化財研究の普及と発達に資するために、昭和 62 年度より開設されたものである。

文化財科学Ⅰ（４）

文化財資料を科学の目で見る 講 師 富 沢 威

授業科目の内容：

考古遺物や美術資料の化学組成の特徴や、製造の歴史や技法について講義する。また、最近の研究で得られた成果である鉛同位体分析について紹介する。授業では、自然科学の手法を応用する際の背景となる考え方や原理、適用範囲や留意点などについて述べる。

テキスト：

テキストは、特に指定しない。

参考書：

授業の際に紹介する。

文化財科学Ⅱ（４）

文化財資料を科学の目で見る 講 師 富 沢 威

授業科目の内容：

年代測定法や DNA 解析法、アイソトープ食性解析法など、最近の進歩のなかから得られた成果について紹介する。

授業では、自然科学の手法を応用する際の背景となる考え方や原理、適用範囲や留意点などについても述べる。

テキスト：

テキストは特に指定しない。

参考書：

授業の際に紹介する。

芸術の現在

戦後の我が国で、学問の学際化の必要が叫ばれて久しい。

中世ヨーロッパの大学では、基本的な三学（trivium すなわち文法、修辞、論理——trivial という英語の形容詞はここから生まれた）と四学（quadrivium すなわち算術、音楽、幾何学、天文学）を修得すれば、修士号（Magister Artium：現在の M.A.）が与えられた。ところが現代では、学問が「総合から分析へ」と各方面に進歩した結果、領域の専門家とそれによる狭隘化をもたらした。今日では、本塾の文学部を例にとっても、学問は17の専攻に分かれ、専攻内ですらそれぞれの専門分野がより細分化している。そのため、中世のヨーロッパの知識人の目には、学生も教員も狭苦しいタコ壺の中で喘いでいるように見えるかもしれない現状を呈していることも事実であろう。

この閉鎖性を打破する試みがかなり以前から行われてきたことは確かである。比較〇〇学と名付けられた学問の誕生もそのひとつといえよう。また文学部でも、大学の外から一流講師を招いて、「現代芸術」「詩学」と銘打った講座が設けられて来た。本講座も同様の試みとして、学問の名称にこだわることなく、文学部共通の専門科目として、設置されている。文学部の専任教員を中心に、場合によってはテーマを絞り、しかも扱う分野としては文学、歴史、音楽、美術、映画などの人文学（いや必要に応じて社会科学や自然科学の助けをも借りて）を縦横にクロスオーバーする主題を取り上げることが狙いである。

学問を総合的に見直すことが求められる今、「芸術の現在」という大きな枠組の設置には、少しでも学生、教員双方の視野を広げられればという願いが込められている。

芸術の現在（4）

理工学部 教授 熊 倉 敬 聡
講師 坂 倉 杏 介

授業科目の内容：

21 世紀的 Art of Living を求めて— 行い、作り、考える—

20 世紀は、地球上の多くの国・地域で、資本主義というシステムとイデオロギーが、人々の生（活）をデザインし、作動させてきました。しかし、しばらく前から、地球上の一部の人たちにしか恩恵をもたらさないそのシステムとイデオロギーに大きな疑問符が投げかけられています。

また、資本主義の対極で、（近代）芸術を否定するという行為そのものを自己矛盾的に芸術とすることにより生き延びてきた「現代芸術」も、ポストモダニズム以降、新たな創造の形式を見出せないまま衰退し、今や終焉の危機に瀕しています。

本授業では、21 世紀的“芸術”（？）を、近代的な美学の外部で、改めて Art of Living（生のデザイン／生きる技）の視点から皆さんとともに問い直したいと思っています。そして、その問い直しをただ座学としてなすのではなく、皆さんとともに「行い」「作り」「考え」ながら展開していきたいと考えています。

参考書：

- フランシスコ・ヴァレラ他『身体化された心』（工作舎）。
- 大澤真幸『文明の内なる衝突』（NHK ブックス）。
- 中沢新一『愛と経済のロゴス』（講談社選書メチエ）。
- 同『対称性人類学』（同）。
- 鈴木大拙『禅』（ちくま文庫）。
- ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分』（ちくま学芸文庫）。
- 井筒俊彦『意識と本質』（岩波文庫）。
- グレゴリー・ベイトソン『精神と自然』（新思案社）。
- ジル・ドゥルーズ／フェリックス・ガタリ『アンチ・オンディプス』（河出書房新社）。
- ルドルフ・シュタイナー『シュタイナー経済学講座』（筑摩書房）。
- H・マトゥラーナ／F・バレーラ『知恵の樹』（ちくま学芸文庫）。
- ミヒャエル・エンデ『エンデの遺言』（日本放送出版協会）。
- ミシェル・ド・セルトー『日常の実践のポイエティック』（国文社）。
- 野口三千三『原初生命体としての人間』（岩波現代文庫）。
- 熊倉敬聡『美学特殊 C』（慶應義塾大学出版会）。

久保田万太郎記念講座

久保田万太郎記念講座は慶應義塾出身で劇作家・俳人・小説家として活躍した久保田万太郎を記念する講座であり、万太郎の死後に遺贈された著作権を基金として昭和39年に設置された。本講座は「詩学」と「現代芸術」の二科目にわかれ、両科目とも、アカデミズムの枠を越えて、塾内だけにとどまらず広く塾外の有識者たちを招聘して塾生諸君を啓発しようという趣旨で開設されている。

「詩学」の第一回講師は、春学期が佐藤春夫、秋学期が西脇順三郎だった。爾来、土岐善麿、小泉信三、河上徹太郎、村野四郎、山本健吉、河盛好蔵、高津春繁、水原秋桜子、吉川幸次郎、五所平之助、篠田一士、田久保英夫、饗庭孝男、吉増剛造、林光、辻井喬、種村季弘等々の諸氏を迎えた。まことに絢爛豪華たる顔ぶれといえよう。

「現代芸術」は昭和40年に開設された。第一回講師は江藤淳、西義之、二宮孝顕、楠本健吉の四人である。さらに浅利慶太、中村真一郎、小田島雄志、中野孝次、原卓也、中村雄二郎、フランキー堺、米倉斉加年、大岡玲、桂文珍、辻仁成、島田雅彦、ねじめ正一、高橋源一郎、馳星周、泉麻人等々、多士済々の講師陣を迎えている。

昨年は千住明、加藤幸子、林えり子、高橋順子、車谷長吉、林望の諸氏が講筵に連なった。本年度は作家・映画監督・作詞家の秋元康、『赤毛のアン』の翻訳者で作家の松本侑子、博物学・幻想文学研究者で作家の荒俣宏の諸氏をお招きしている。本講座は文学部設置科目であるが受講に在籍学部を問うものではない。何学部にあっても基本となるのは哲学である。現代日本において優れた業績をあげている人々の警咳に接し教養と人格識見を涵養することこそが、いま塾生に求められている。文学芸術を愛好する塾生諸君の来聴を衷心より歓迎するものである。

現代芸術Ⅰ（２）（春学期）

小説家・翻訳家の書斎から 講 師 松 本 侑 子

授業科目の内容：

テレビとラジオ、文芸出版の世界で20年間以上、仕事をしてきた経験から、文学研究、翻訳、創作、批評、紀行エッセイと取材、マスコミ論について語り、受講者が幅広い知識と理解を深めることを目指します。

講師の活動と著訳書については公式サイト参照 <http://homepage3.nifty.com/office-matsumoto/>

テキスト：

松本侑子著『赤毛のアンに隠されたシェイクスピア』（集英社、2001年、1995円）

参考書：

L・M・モンゴメリ作『赤毛のアン』（松本侑子訳、集英社文庫、2000年、840円）

現代芸術Ⅱ（２）（秋学期）

時空の宇宙誌 講 師 荒 俣 宏

授業科目の内容：

現代人が抱える空間・都市・社会・精神・存在物・風景・時間感覚にまつわる思考と美術的表現の関係を探る。講義は毎回独自に作成したスライドないし、パワーポイントの映像を投影しながら行う。

テキスト：

なし

参考書：

- ・『想像力の地球旅行』角川文庫
- ・『奇想の20世紀』NHK出版
- ・『衛星博覧会を求めて』ぶんか社

詩学Ⅰ（２）（春学期）

「流行歌を読む」 講 師 秋 元 康

授業科目の内容：

流行歌は時代を映すものである。

タイトルや詞の内容には、どんな世相が織り込まれているのか？

その時代、あの流行歌に人々は何を共感したのか？

ヒット曲を中心に読み解く。

テキスト：

特に指定しません。講義資料必要な場合はプリント致します。

参考書：

特に指定しません。

詩学Ⅱ（２）（秋学期）

「エンターテインメントにおける詩的表現」

講 師 秋 元 康

授業科目の内容：

エンターテインメントの核は“サービス精神”である。

AUDIENCEを楽しませるために、しばしば、詩的表現を用いる。

映画などを例に挙げながら、詩的表現を学ぶ。

テキスト：

特に指定しません。講義資料必要な場合はプリント致します。

参考書：

特に指定しません。

文学部アート・マネジメント講座 DNP 基金

福沢諭吉は、「国光発於美術」と書いたことがある。国の光は芸術によって発するというわけである。現在、日本では芸術が大量に消費されている。だが、自由な創造活動を取りまく状況は厳しい。この矛盾を解決して、芸術創造を社会に解放してゆくためには、アーティスト、行政、企業、そして大学などの教育研究機関が、新しいパートナーシップを構築しなくてはならない。そのなかから、新しいアート・シーンを築き、本当に価値のあるものを後世に残すことを、実践的に考えるのが、この講座の目標である。

そのために、講師の他に、芸術とかかわりながら、各セクターで多くの問題を抱えつつも第一線で活躍中の人々がゲストとして登場、いま現在の問題を語る。それは講師との討論に発展することもある。

この種の講座が日本の大学に開設されたのは、慶應義塾が最初である。平成3年、本講座が開講されるや、企業、行政等も含め多くの人々がこの講座に強い関心をよせた。なかでも大日本印刷株式会社 (DNP) は、慶應義塾におけるアート・マネジメントの研究と教育の発展のために「慶應義塾大学文学部アート・マネジメント講座 DNP 基金」を寄贈された。本講座はこの基金を活用して運営されている。

履修しようとするものは、最初の授業時に年間授業計画、レポート、受講についての詳しい説明をおこなうので必ず出席すること。

アート・マネジメント (4)	教授 美山良夫
DMC 機構 特別研究教授	岩 潤子
	講師 南 史生

授業科目の内容：

展示系のアートを軸にしたアート・マネジメントの概説。以下の4つのフレームで構成される。履修上の諸注意は、最初の授業時に配布するので、それらをふまえて履修登録を検討すること。

- 第1部：変貌する文化装置：制度としての「美術館」と脱美術館
文化展示の多様な様態（日本および欧米における多様な文化展示とその目的）、美術館という「制度」の成立、空間の文化装置化：その多様な仕掛け（オルタナティブ・スペースなど）
- 第2部：美術品の流通と交流
美術品の特性と画廊の仕事、最近の美術市場・美術館の問題点、オークションの仕組みと社会的役割、アート・フェアの役割・仕組み、古美術品の流通システムなど
- 第3部：美術展の企画と諸制度
美術をめぐる文化政策、芸術支援（企業による事例の紹介と基本的な考え方）、美術展の企画から開催まで、美術品と著作権、保険
- 第4部：美術をめぐる活動のひろがり
美術館の活動のひろがり—研究・情報・修復・美術館教育・ボランティア、市民による活動事例

参考書：

初回の授業で指示する。

アート・プロデュース (4)	教授 美山良夫
	講師 金子哲理

授業科目の内容：

上演系のアートを軸にしたアート・マネジメントの概説。以下の4つのフレームで構成される。履修上の諸注意は、最初の授業時に配布するので、それらをふまえて履修登録を検討すること。

- 第1部：変貌する文化装置：制度としての「劇場」と脱劇場
日本のホール—その歴史と現状、劇場運営の基本、空間の文化装置化：その多様な仕掛けなど
- 第2部：文化装置のマネジメント
公立ホールの運営、民間のホール運営、劇団の運営とマーケティング（劇団「四季」を例に）、舞台芸術の国際交流
- 第3部：芸術及び芸術家（団体）をめぐる制度と支援
日本の文化政策と芸術支援・概説、財団の芸術支援とその課題、舞台芸術の市場規模と今後、イベントと保険
- 第4部：上演芸術をめぐる活動のひろがり
企画づくりの実際：コンサート・ホールを例に、アートとNPO、ボランティアなど

極東証券寄附講座

本年度は極東証券の寄附により、以下の2科目が開講されることになった。

翻訳の世界（2）（秋学期）

准教授 平 田 栄一郎

授業科目の内容：

翻訳の世界は無限の多様性に満ち溢れています。シェイクスピアの「ハムレット」は唯一無二の作品ですが、邦訳は出版されたものだけでも150を超え、今後も新たな日本語訳の「ハムレット」が発表されていくでしょうから、「ハムレット」は翻訳において無限に増殖していきます。翻訳はまた方法においても多種多様です。逐語訳から、オリジナルを換骨奪胎する翻案にいたるまでさまざまな訳し方があり、その評価もまた多様です。例えば、一般的には逐語訳は「ヨコタテ」という揶揄に暗示されるように工夫のない直訳と軽視されていますが、哲学論ではヘルダーリンによる「アンティゴネー」の直訳はベンヤミンやラケー＝ラバルトによって評価され、いわば翻訳思想を生み出すことになりました。

本講義では、このような多種多様な翻訳のありようを、各界で活躍する多士済々のエキスパートに語って頂きます。実践、技術、理論、小説翻訳、出版翻訳、映画字幕、台本用翻訳などテーマに直接関連するものから、映像や身体身振りなどにおけるノンヴァーバルな翻訳にいたるまで、幅広い内容を紹介する予定です。

参考書：

適宜紹介します。

古文書の世界（2）（秋学期）

教授 佐 藤 道 生

授業科目の内容：

科目名に掲げた古文書とは、特定者Aから特定者Bに対して、Aの意志を表明するために作成された文献の謂いである。文書と混同しやすいものに書籍や備忘録があるが、書籍はAが不特定多数の読者を想定して著した文献を意味し、備忘録や日記はAが一方的に（Bを意識することなく）意思を表明した文献である。人文科学、社会科学の分野では、これらの各種文献の取り扱いが研究上、極めて重要な位置を占めている。本講座では文献資料に関する基礎知識を修得することを目的として、特に古文書を専門に扱う研究者十余名に授業を担当してもらい、オムニバス形式で各人の取り組んでいる研究の一端を紹介してもらう。

テキスト：

こちらで用意する。

参考書：

適宜紹介する。

諸 研 究 所

教 職 課 程 セ ン タ ー

言 語 文 化 研 究 所

メディア・コミュニケーション研究所

体 育 研 究 所

福 澤 研 究 セ ン タ ー

外国語教育研究センター

国 際 セ ン タ ー

保 健 管 理 セ ン タ ー

情 報 処 理 教 育 室

ア ー ト ・ セ ン タ ー

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※ 学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 19 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	講 師	単位数
サンスクリット初級Ⅰ（春）	土田龍太郎	半期 1 単位
サンスクリット初級Ⅱ（秋）	土田龍太郎	
サンスクリット中級Ⅰ（春）	土田龍太郎	
サンスクリット中級Ⅱ（秋）	土田龍太郎	
アラビア語基礎Ⅰ（春）	榮谷温子	
アラビア語基礎Ⅱ（秋）	榮谷温子	
アラビア語現代文講読Ⅰ（春）	榮谷温子	
アラビア語現代文講読Ⅱ（秋）	榮谷温子	
アラビア語古典Ⅰ（春）	岩見 隆	
アラビア語古典Ⅱ（秋）	岩見 隆	
アラビア語文献講読Ⅰ（春）	岩見 隆	
アラビア語文献講読Ⅱ（秋）	岩見 隆	
ヴェトナム語初級Ⅰ（春）	嶋尾 稔	
ヴェトナム語初級Ⅱ（秋）	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級Ⅰ（春）	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級Ⅱ（秋）	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読Ⅰ（春）	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読Ⅱ（秋）	嶋尾 稔	
ベルシア語初級Ⅰ（春）	関 喜房	
ベルシア語初級Ⅱ（秋）	関 喜房	
ベルシア語中級Ⅰ（春）	岩見 隆	
ベルシア語中級Ⅱ（秋）	岩見 隆	
タイ語初級Ⅰ（春）	三上直光	
タイ語初級Ⅱ（秋）	三上直光	
タイ語中級Ⅰ（春）	ボンシー，ライト	
タイ語中級Ⅱ（秋）	ボンシー，ライト	
トルコ語初級Ⅰ（春）	ヤマンラール，アイドゥン	
トルコ語初級Ⅱ（秋）	ヤマンラール，アイドゥン	
トルコ語中級Ⅰ（春）	ヤマンラール，アイドゥン	
トルコ語中級Ⅱ（秋）	ヤマンラール，アイドゥン	
朝鮮語文献講読Ⅰ（春）	野村伸一	
朝鮮語文献講読Ⅱ（秋）	李 美江	
カンボジア語初級Ⅰ（春）	三上直光	
カンボジア語初級Ⅱ（秋）	三上直光	
ヘブライ語初級Ⅰ（春）	笈川博一	
ヘブライ語初級Ⅱ（秋）	笈川博一	
ヘブライ語中級Ⅰ（春）	笈川博一	
ヘブライ語中級Ⅱ（秋）	笈川博一	
古代エジプト語初級Ⅰ（春）	笈川博一	
古代エジプト語初級Ⅱ（秋）	笈川博一	
古代エジプト語中級Ⅰ（春）	笈川博一	
古代エジプト語中級Ⅱ（秋）	笈川博一	
アッカド語初級Ⅰ（春）	高井啓介	
アッカド語初級Ⅱ（秋）	高井啓介	
アッカド語中級Ⅰ（春）	高井啓介	
アッカド語中級Ⅱ（秋）	高井啓介	

サンスクリット初級Ⅰ（春）
サンスクリット初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 土 田 龍太郎

授業科目の内容：

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。

参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト：

- ・ヤン・ホンダ著 鎧淳 訳「サンスクリット語初等文法（春秋社）
- ・辻 直四郎著「サンスクリット文法」（岩波書店）

授業の計画：

- ・サンスクリット語とはなにか
- ・アオリスト活用
- ・子音と母音
- ・完了活用
- ・名詞変化の基礎
- ・その他の動詞形
- ・動詞変化の基礎
- ・複合語等
- ・母音曲用
- ・子音曲用
- ・動詞現在組織
- ・未来及受動変化

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

サンスクリット中級Ⅰ（春）
サンスクリット中級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 土 田 龍太郎

授業科目の内容：

サンスクリット語の初歩をすでに一通り取得したもののための授業である。

テキスト：

参加者の希望で決める。

授業の計画：

サンスクリットⅡでは、参加者と相談して決めたテキストを講読、文化史宗教史の事項と文法解説を行う。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語基礎Ⅰ（春）
アラビア語基礎Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 榮 谷 温 子

授業科目の内容：

正則アラビア語（フスハー）のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

テキスト：

佐々木淑子著『アラビア語入門』（翔文社、2004年、1905円）
必要に応じてプリントや練習問題を配布します。

参考書：

参考書 David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画：

- (春)第1回—第6回 アラビア文字のつづり方、名詞の性・格・複数、人称代名詞と前置詞
- 第7回—第13回 指示代名詞・形容詞・疑問詞および名詞文の構造
- (秋)第1回—第7回 動詞完了形・未完了形および受動態・分詞・動名詞・場所名詞
- 第8回—第13回 不規則動詞および派生形

履修者へのコメント：

アラビア語の文法はテキストでの独習のみでは理解がむずかしい部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語現代文講読Ⅰ（春）
アラビア語現代文講読Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 榮 谷 温 子

授業科目の内容：

基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して、アラビア語の基本的な文章構造の理解、さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。

テキスト：

プリントを配布します。

辞書は、Hans Wehr, A Dictionary of Modern Written Arabic-Englishを使用します。

参考書：

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』（翔文社、2004年、1905円）
- ・David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画：

初回には、辞書や文法書、授業の進め方を説明をします。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。その過程で既習の基礎文法や辞書による単語の調べ方を再確認していきます。順次程度の高い文章の講読をしていき、最終的には母音記号のついていない文章を、自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。

(春)第1回—第6回 母音記号がついた平易な短い文章（名詞文・動詞文）の講読。

第7回—第13回 母音記号がついた長い文章を講読。

(秋)第1回—第13回 要所のみに母音記号がついた文章から、最終的には母音記号がつかない文章の講読。

履修者へのコメント：

文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語古典Ⅰ（春）
アラビア語古典Ⅱ（秋）

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩 見 隆

授業科目の内容：

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト：

Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie
プリントで配ります

参考書：

井筒俊彦：アラビア語入門、慶應出版社 1950.

授業の計画：

最初の日、参考書や辞書の紹介などガイダンスをします。

春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしたいと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント：

少くとも規則動詞原型の完了、未完了の変化は完全に頭へたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。）

アラビア語文献講読Ⅰ（春）
アラビア語文献講読Ⅱ（秋）
アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩 見 隆

授業科目の内容：

アラビア語の定評ある古典の中，平易な散文（叙事の文）をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト：

受講者と相談して決めます。

参考書：

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962

授業の計画：

第1回はガイダンスで，参考文献，辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお，対象が古典ですから，単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

履修者へのコメント：

初等文法の諸規則や用語に慣れていることが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてますから，そのつもりで来て下さい。）

ベトナム語初級Ⅰ（春）
ベトナム語初級Ⅱ（秋）
言語文化研究所 准教授 嶋 尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語の基礎知識（発音，綴り字，初級文法，簡単な会話表現）の修得を目指します。

テキスト：

『ベトナム語入門Ⅰ』（慶應外国語学校）

授業の計画：

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ベトナム語中級Ⅰ（春）
ベトナム語中級Ⅱ（秋）
言語文化研究所 准教授 嶋 尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語の基礎知識を身につけた人を対象に，ベトナム語の読解力の修得を目指します。ごく簡単な文章から始めますが，受講者のレベルや要望に応じて時事的な文章（雑誌・新聞の抜粋）に進みます。

テキスト：

初回に受講者と相談して決めます。

参考書：

小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語 666』（東洋書店，2005 年）

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ベトナム語文献講読Ⅰ（春）
ベトナム語文献講読Ⅱ（秋）
言語文化研究所 准教授 嶋 尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語で書かれたベトナムの歴史や文化に関する文章を読みます。或いは，ベトナム漢文に興味のある受講者があれば，漢文と現代ベトナム語の対訳テキストを読みます（この場合，ベトナム

ム語未修者でもかまいません）。

テキスト：

初回に受講者と相談して決めます。

参考書：

富田健次『ヴェトナム語の世界：ヴェトナム語基本文典』（大学書林，2000 年）

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語初級Ⅰ（春）
ペルシア語初級Ⅱ（秋）
ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜 房

授業科目の内容：

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第，易しい文章を読むつもりです。その際，文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト：

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

参考書：

黒柳恒男著『ペルシア語の話』大学書林

授業の計画：

講義計画は以下の通りです。

- 1ー ガイダンス
- 2ー 文字の習得
- 3ー 教科書を用いた文法の学習（計 16 回）
- 4ー 易しい現代文を読む練習（計 7 回）
- 5ー テスト

履修者へのコメント：

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語中級Ⅰ（春）
ペルシア語中級Ⅱ（秋）
ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩 見 隆

授業科目の内容：

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように，平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト：

受講する人と相談して決めます。

参考書：

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

授業の計画：

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやります。

2 回目以後はひたすらテキストを読みます。

履修者へのコメント：

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回あてますから，毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。）

タイ語初級Ⅰ（春）
タイ語初級Ⅱ（秋）
言語文化研究所 教授 三 上 直 光

授業科目の内容：

タイ語入門講座。発音，文字の読み書き，初級文法，基本表現の修得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語中級Ⅰ（春）
タイ語中級Ⅱ（秋）
言語文化研究所 講師 ポンシー、ライト

授業科目の内容：

タイの小学校二年生の教科書より短編ストーリーを用いて、タイ語の運用能力向上を目指します。

テキスト：

プリント使用。

授業の計画：

前期は文章表現と読解力、後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。

履修者へのコメント：

あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語初級Ⅰ（春）
トルコ語初級Ⅱ（秋）
トルコ語初級
言語文化研究所 講師 ヤマンラル、アイドゥン

授業科目の内容：

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

テキスト：

プリント使用

授業の計画：

- (春)第1－2回 トルコ語の特色、母音・子音の調和。
- 第3－7回 “～は～です”の構文、助詞(格)、副詞、形容詞
- 第8－13回 動詞(現在・単純過去・超越などの時制)
- (秋)第1－4回 動詞(伝聞過去・未来などの時制と複合時制)
- 第5－8回 分詞
- 第9－11回 動名詞
- 第12－13回 条件文、仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので、一応の目安とを考えてください。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語中級Ⅰ（春）
トルコ語中級Ⅱ（秋）
トルコ語中級
言語文化研究所 講師 ヤマンラル、アイドゥン

授業科目の内容：

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキスト：

プリント使用

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献講読Ⅰ（春）					
朝鮮語文献講読Ⅱ（秋）	文学部	教授	野村伸一		
	言語文化研究所	講師	李美江		

授業科目の内容：

大韓民国という国家、社会の歴史と現状を知るためのテキストを講読します。

今日「韓流」というマスコミにより流布された一種の流行現象に興味を抱く人は多く、皆さんのなかにもそうした人はいるでしょう。そのこと自体はきっかけとしてはいいことです。しかし、それにまつわる言説だけをみても、けっして内在的な理解には到達し得ないでしょう。

すべて、ものごとには、来歴と「いうにいわれぬこと」があるものです。朝鮮民族にとって、それはどういうものであったのか。それを知らない限り、日本と朝鮮半島は時流の往来をくり返すばかりではないでしょう。

テキスト：

韓洪九『大韓民国史 03』、ハンギョレ新聞社、2005年。各自、韓国書籍を扱う書店（例、三三堂、高麗書林）もしくはソウルの大型書店に注文して入手してください。

参考書：

- ・韓洪九著、高崎宗司監訳『韓洪九の韓国現代史 韓国とはどういう国か』、平凡社、2003年
- ・同『韓洪九の韓国現代史 2 負の歴史から何を学ぶのか』、平凡社、2005年
- * 上記の翻訳書は韓洪九『大韓民国史 01』、『大韓民国史 02』に相当します。

<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/shohvou1.html> に書評を掲載しました。

授業の計画：

毎回、原文で4、5頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。

履修者へのコメント：

受講者は朝鮮語を読む準備ができていることが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で、なお、それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ、明らかに違うとおもえる表現に出会うことがたいせつです。

この授業に関連することがらは随時、<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/kougi.html> に掲載します。

前期と後期で担当者は代わりますが、教材は同じです。

成績評価方法：

出席すること、翻訳の難しさ・妙味についてのレポートを学期末に提出することで評価します。

カンボジア語初級Ⅰ（春）
カンボジア語初級Ⅱ（秋）
言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容：

カンボジア語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の習得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

ヘブライ語初級Ⅰ（春）
ヘブライ語初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容：

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者者を想定している。

テキスト：

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書：

英語ないしドイツ語による辞書（¥2500～¥10000）が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画：

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント：

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

ヘブライ語中級Ⅰ（春）
ヘブライ語中級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容：

旧約聖書サムエル記の講読。

テキスト：

テキストはプリントを授業で配布する。

参考書：

英語ないしドイツ語による辞書（¥2500～¥10000）が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画：

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め、散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

履修者へのコメント：

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語初級Ⅰ（春）
古代エジプト語初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容：

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者者を想定している。

テキスト：

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書：

5月ごろから辞書（約¥9000）が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画：

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント：

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語中級Ⅰ（春）
古代エジプト語中級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容：

中期エジプト語の初歩。

テキスト：

テキストは「難破した水夫」であるが、プリントを授業で配布する。

参考書：

辞書は Raymond O. Faulkner “A Concise Dictionary of Middle Egyptian” Oxford (Amazon JP で¥3542)、あるいはその日本語訳が必要となる。

授業の計画：

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント：

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語初級Ⅰ（春）
アッカド語初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容：

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト：

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

参考書：

開講時に指示します。

授業の計画：

以下のようなスケジュールを予定していますが、授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞（計三回） — コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹（計五回、語根の判別、変化、叙法など）とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形（計三回）
7. 動詞 S 語幹とその派生形（計三回）
8. 動詞 N 語幹とその派生形（計三回）
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典、イシュタルの冥界下りなど — テキストを読みつつ文法事項を確認します（計五回）

履修者へのコメント：

古代メソポタミアの文化、歴史、宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

アッカド語中級Ⅰ（春）**アッカド語中級Ⅱ（秋）**

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：**講義計画**

読むテキストについては、初回に受講者と相談の上決定するつもりですが、以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

前期：王碑文、書簡、法律文書、契約文書など（計十三回）

後期：神話・叙事詩、祈り文学、占い文書など（計十三回）

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

メディア・コミュニケーション研究所

メディア・コミュニケーション研究所とは

メディア・コミュニケーション研究所（Institute for Media and Communications Research）は、研究所の専任の先生を中心に新聞・ラジオ・テレビ・雑誌などの在来メディアと新しいインターネットなどのメディア、それらによるメディア・コミュニケーションの社会的相互作用とジャーナリズムの研究を行うと同時に、研究生と呼ばれる学部生諸君を教育し、各種メディア業界に有為な人材を送り込むための研究・教育機関です。1946（昭和 21）年に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。後に新聞研究所に名称を改め、1996（平成 8）年に 50 回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。

新聞研究所は、第 2 次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合軍占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マスメディア研究を行いうる研究機関の設置をいくつかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾大学であり、後に法学部長になった米山桂三教授に運営が任された、というのがその発端であると伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究室は新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていました（当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので参照可能です）。しかし、後に研究機能の重視を目的に名称を研究所に改めました。今日では実習的な側面よりは研究生（研究所に入所した学生はこう呼ばれます）にはマスメディアおよびマスコミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心に基礎的な研究に力を入れるようになりました。メディア業界からはすぐに陳腐になりやすい皮相でテクニカルな知識や技術のみを身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められています。そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりました。戦後 50 年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、戦後直後の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行していきました。近年では地上波だけではなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的に展開する時代となりました。そして、アナログ時代からデジタル時代へと移行し、インターネットを中核としたマルチ・メディアの展開が叫ばれるようになりました。新聞・ラジオ・テレビとインターネットの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達を中心だったものが、双方向的なものになりました。その情報通信範囲もパーソナル・ローカル・ナショナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化がもたらされました。多チャンネル時代を迎え放送内容も多様になり、アイデアや創造力がメディア業界で働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになり、1996（平成 8）年には、研究所 50 年の記念式典を行い翌年より名称を現行のものに変更しました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による多様なメディア・コミュニケーションの時代に合致した名称に変更したのです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正で時には批判的な報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。

しかし、研究生には報道ジャーナリズムやマスコミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア（とくにコンピュータ・メディア）を十分理解した上に自由に使いこなせるだけの能力を身に付けて欲しいと思っています。そのために、1998（平成 10）年より、メディア・リテラシー向上のため「メディア・ワークショップルーム（MWR）」を開設しています。インターネット放送もはじめました。今では大学生になるまでに、インターネットに十分習熟した学生も増え、より高度なメディア・リテラシーが期待できるので、インターネット放送やオン・ライン新聞を盛んにしたいと思います。それは、研究生が送り手と受け手の双方を融合させることなので、メディア倫理教育の充実が必要です。

1997 年 4 月より、新しい名称でスタートを切った研究所は、2006（平成 18）年に改称後 10 年目の記念の年を迎え、研究所 60 年記念の年となりました。あっという間の 10 年でした。その間のインターネットの普及と展開はめざましく、在来メディアをインターネット会社を買収しようとする騒動が日本でも発生しました。今後もそうした激動の 10 年がくり返されると思います。

現在のスタッフは所長、専任および兼担所員、事務職員総勢でも 10 名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生 150 名（2～4 年生）の教育を行っています。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たな歴史を刻む当事者です。研究所が大きな成果を生むために大いに頑張ってほしいと思います。そして、綱町三田会（修了生の同窓会）という OB・OG 組織の皆さんの協力を得て、さらなる発展をめざしたいと思います。

◇カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）

メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。

- ・研究会（研究生のみ対象）

研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。

- ・特殊研究（研究生のみ対象）

少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。

- ・基礎演習（研究生のみ対象）

メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

(1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田，日吉，藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。

(2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

- ・基礎科目 10単位以上

- ・研究会 8単位以上※

- ・特殊研究 4単位以上

- ・基礎演習 2単位以上

合 計 28単位以上

※2～4年春学期までに研究会Ⅰ～Ⅴを順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会Ⅵ（論文指導）を履修すること。

すなわち、研究会Ⅰ～Ⅲと研究会Ⅵは全員が履修するが、研究会ⅣとⅤは必修ではない。

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 19 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

＊基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科 目 名	単位数	講 師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春 2／秋 2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春 2／秋 2	鈴木 雄雅
三田設置科目	国際コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春 2／秋 2	奥野 昌宏
三田設置科目	メディア社会論Ⅰ（法学部併設）	秋 2	藤田 真文
三田設置科目	メディア法制Ⅰ	春 2	宿南達志郎
三田設置科目	メディア法制Ⅱ	秋 2	大石 泰彦
三田設置科目	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	伊藤 高史
三田設置科目	世論Ⅰ	秋 2	竹下 俊郎
三田設置科目	情報行動論Ⅰ	春 2	川浦 康至
三田設置科目	異文化間コミュニケーションⅠ	春 2	白水 繁彦
三田設置科目	メディア文化論Ⅰ	春 2	小川 葉子
三田設置科目	メディア文化論Ⅱ	秋 2	岩渕 功一
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅰ	春 2	菅谷 実
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅱ	秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	情報産業論Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	★ジャーナリズム総合講座Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	大石・荒田・伊藤高
三田設置科目	コミュニケーション調査法Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	伊藤 陽一
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 テレビメディア論Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	石丸・菅谷・豊嶋

＊研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	金山 智子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	小川 葉子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	大石 裕
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	金 正勲
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	豊嶋 基暢
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	藤田 結子

＊特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義Ⅰ	春 2	鈴木 祐司
三田設置科目	放送特殊講義Ⅱ	秋 2	村尾 尚子
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 特殊研究Ⅰ・Ⅱ（テレビ・ジャーナリズム）	春 2／秋 2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	木村 良一
三田設置科目	広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	升野 龍男
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅰ	秋 2	工藤 卓男
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅱ	秋 2	堀主知ロバート
三田設置科目	特殊研究Ⅰ・Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）	春 2／秋 2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究Ⅲ（市民とメディア）	秋 2	金山 智子
三田設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	菅谷・小川・豊嶋・藤田

＊基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	高須賀茂文
三田設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	河内 孝
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅰ	春 2	金山 智子
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅱ	秋 2	渡辺真由子
三田設置科目	映像コンテンツ制作Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	大久保 成
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	田辺 浩介

★印は朝日新聞寄附講座

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論Ⅰ（春）

マス・コミュニケーションと政治

大石 裕

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

・大石裕『コミュニケーション研究（第2版）』慶應義塾大学出版会

参考書：

・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

授業の計画：

- 1回 コミュニケーションの類型
- 2-3回 大衆社会モデル：弾丸効果モデル
- 4-5回 限定効果モデル
- 6-7回 強力効果モデル
- 8-9回 強力影響・機能モデル
- 10回 批判モデル
- 11-12回 ジャーナリズム論再考

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論Ⅱ（秋）

ジャーナリズムとメディア言説

大石 裕

授業科目の内容：

①ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など）、②言説分析によるニュース分析、③メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト：

・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書：

・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
・鶴木真編『客観報道』成文堂
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
・大石裕・山本信人編『メディア・ナショナリズムのゆくえ』朝日新聞社

授業の計画：

- 1-2回 マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
- 3回 アジェンダ設定メディアとしての新聞
- 4回 日本のジャーナリズム論の理論的課題
- 5-6回 ニュース分析の視点
- 7-8回 客観報道論再考
- 9-10回 集合的記憶とマス・メディア
- 11-12回 メディア・イベントの政治学

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史Ⅰ（春）

日本の近代化とジャーナリズム

鈴木 雄雅

授業科目の内容：

ジャーナリズムの発展について概説する。文字の誕生から紙、印刷などの複製技術の出現、通信、交通手段の発展が、ジャーナリズムの形式を規定していく状況を眺める。さらに幕末日本に新聞、雑誌が出現してから近代新聞が成長し、その過程でジャーナリズムの機能がどのように近代日本の社会発展と関わりあってきたかを考察する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide07.html>

テキスト：

春原昭彦『日本新聞通史〔四訂〕』（新泉社、2003）

参考書：

宮地正人『国際政治下の近代日本』（山川出版社）ほか。講義時に紹介する

授業の計画：

1. 幕末期から明治初期：瓦版、新聞紙、近代化とメディア、開港場に新聞、英字紙の発達、幕末新聞の特色
2. 慶応4年（明治元年）の新聞紙、日刊紙の登場：明治のコミュニケーション革命
3. 明治初期の新聞界：奨励策と新聞弾圧、小新聞の登場、自由民権運動の勃興と言論機関
4. 明治14年の政変と新聞の政党化：民権派新聞と新聞の脱政党化
5. 明治の新聞人：日清戦争、日露戦争と新聞界
6. 資本主義の成立と商業新聞の成立（新聞の企業化）
7. 政治的キャンペーンとマス・メディアの成立：ラジオの出現と出版・雑誌界の動き
8. 戦時統制への過程、軍の干渉と新聞人の抵抗、製紙会社、通信社の統合
9. 情報局の成立、統制法規の制定、新聞社の統合、戦時下の新聞
10. 敗戦と占領下の新聞、独立回復と復興への歩み
11. 戦後の新聞界の新しい動き（言論性、販売、広告界の変化、技術革新とその対応）
12. テレビ、週刊誌の出現によるメディアの多様化
13. 現代の変化とジャーナリズムの役割

履修者へのコメント：

日本の近代史についてある程度の知識が必要（高校程度の日本史、世界史）

成績評価方法：

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合

質問・相談：

授業中ならびに授業後、Eメール

マス・コミュニケーション発達史Ⅱ（秋）

イギリスのジャーナリズム

鈴木 雄雅

授業科目の内容：

ジャーナリズム揺籃の地といわれるヨーロッパ地域のマス・メディアについて学ぶ。外国のマス・メディアを学ぶ基礎的知識・オリエンテーションののち、イギリス・ジャーナリズムの歴史、現状、問題点を探る。

適時、ヨーロッパのマス・メディア、ジャーナリズムの問題をとりあげるが、国際的なマス・メディア産業の動態分析やジャーナリズム研究にとどまらず、その形成過程に多大な影響を及ぼす政治体制や社会構造の変化にも注目する。さらに、常に日本の状況と比較しながら、現代ヨーロッパのマス・メディアの構造と機能を研究する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide07.html>

テキスト：

とくに指定しない。適時指示する。

参考書：

Euromedia Research Group, *The Media in Europe: The Euromedia Handbook* London: Sage,2004.

授業の計画：

- 以下の項目について、2 回程度の講義を行う予定。
1. オリエンテーション ヨーロッパのマス・メディア
 2. イギリスのジャーナリズム (1) ジャーナリズムの発生
日刊紙出現までの英国新聞界の発達過程を概観し、「言論の自由」の概念を考える。
 3. イギリスのジャーナリズム (2) ジャーナリズムの近代化
大衆紙の登場とジャーナリズムの変容
 4. イギリスのジャーナリズム (3) 20世紀のメディア・バロンの登場
 5. イギリスのジャーナリズム (4) 戦後のイギリス・ジャーナリズム界
放送の出現とジャーナリズムの衰退
 6. イギリスのジャーナリズム (5) 現代ジャーナリズムの抱える諸問題
1980 年代以降のジャーナリズムの変化

履修者へのコメント：

英国通史ほか英国社会・文化史の基礎知識が必要です。

成績評価方法：

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合評価

質問・相談：

授業中ならびに授業後、E メール

国際コミュニケーション論Ⅰ（春）	奥 野 昌 宏
メディアと国際関係	

授業科目の内容：

コミュニケーション・メディアを媒介にした国際間の情報・文化の流通にかかわる諸問題を考えていきます。メディアの発達には私たちが関係する世界を拡大してきましたが、一方でさまざまな問題も惹き起せており、時として国際的な紛争をも生じさせてきました。

この授業では、コミュニケーションとは何か、メディアとは何か、といった基本的な点から出発して、国際コミュニケーションとは何かという論題に至り、このテーマに関連する諸問題を考察していきます。マス・メディアを中心とするコミュニケーション・メディアと国際的な情報や文化のかかわり、すなわち講義の国際関係を考えることがこの授業の中心です。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

授業の計画：

1. コミュニケーション，メディア，そして国際コミュニケーション
 2. メディアの発達と国際的進展
 3. マス・メディアの国際化と新世界情報コミュニケーション秩序論争
 4. メディアのグローバル化と国際的再編成
 5. メディアと国際関係：情報と文化の諸相
それぞれについて2～3 回の授業を行ないます。
- 上記のほか、国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。
- また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。
- 履修者へのコメント：
- 授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。
- 成績評価方法：
- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
 - ・授業内試験の結果による評価
 - ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

国際コミュニケーション論Ⅱ（秋）	奥 野 昌 宏
東アジアのメディア・情報・文化	

授業科目の内容：

東アジアにおけるメディア状況とメディアを介した情報・文化の流通にかかわる諸問題について考えていきます。メディアの発達によって近隣諸国との関係はより緊密になってきましたが、それと同時にさまざまな軋轢も拡大させています。メディアは国際理解の促進役となりますが、時として国際間の紛争を増幅する装置としても働いています。

この授業では、韓国と中国を中心に、東アジアのメディア状況を概観した上でそれらの国々と日本との関係を、国際コミュニケーションの視点から考察します。各国のメディアが情報や文化をめぐる交流と葛藤にどうかかわっているのか、当該地域の人びとの国際理解の促進あるいは阻害の要因としてどのような働きをしているのか。こうした点をともに考えていきたいと思います。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス：東アジアのメディア概観
 2. 韓国のメディア状況と社会・文化
 3. 中国のメディア状況と社会・文化
 4. 東アジアにおける日本の大衆文化
 5. 「韓流」文化の生産と受容
 6. 東アジアの国際関係とメディアの役割
それぞれについて2～3 回の授業を行ないます。
- 上記のほか、国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。
- また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。
- 履修者へのコメント：
- 授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。
- 成績評価方法：
- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
 - ・授業内試験の結果による評価
 - ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

メディア社会論Ⅰ（秋）	藤 田 真 文
メディア・コンテンツへの物語論的接近	

授業科目の内容：

この授業では、物語論という方法を中心にメディア・コンテンツを分析していきます。授業の約3 分の2 は、『ギフト』（1997 年放送）というテレビドラマを分析対象にして、物語構造、映像表現、メディア特性、社会的コード、視聴者による読解など多様な観点からテレビ・テキストの分析を試みます。残りの約3 分の1 は、ニュースやCM など他のコンテンツに物語分析を応用していきます。

各回の前半に分析方法を解説し、後半にはドラマの映像を見ながら分析を実践していきます。

テキスト：

藤田真文『ギフト，再配達』せりか書房（2006 年）

補助的に毎回授業中にプリントを配布します（原則として再配布はしません）。

授業の計画：

1. テレビ・テキストの進行 ― 統辞構造 [←構造主義・物語論・記号論]
2. テレビ・テキストの時間 ― ストーリーとプロット [←物語論・文学理論]
3. テレビ・テキストの人物関係 ― 範列構造 [←構造主義・物語論・記号論]

4. テレビ・テキストの映像表現 [←映像論・映像記号論]
5. テレビ・テキストにおける語りと視点 [←映像論・文学理論]
6. テレビ・テキストのメディア特性と相互テキスト性 [←メディア論・構造主義]
7. テレビ・テキストと社会的コードー ジェンダー／階級 [←フェミニズム論・社会学・記号論]
8. テレビ・テキストにおける登場人物と役者 [←精神分析・身体論・映像論・演劇論]
9. テレビ・テキストと視聴者読解ー 意味をめぐる相互作用・闘争 [←読者論・カルチュラル・スタディーズ]
10. テキストの責任／視聴者の責任ー 『ギフト事件』をめぐる [←作家論／読者論・メディア倫理]
11. 他のテキストへの応用①ー 物語としてのニュース
12. 他のテキストへの応用②ー 物語としての CM
13. まとめ

履修者へのコメント：

テレビドラマは比較的なじみのある分析対象ですが、この授業によって常識的なテレビドラマ観を超えてメディア・コンテンツについての新たな視点を提供できればと思っています。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価（定期試験期間中に実施。評価の 50%）
- ・レポートによる評価（授業の中間で課題を与える。評価の 50%）

メディア法制Ⅰ（春）

インターネットと情報法

宿 南 達志郎

授業科目の内容：

インターネット時代におけるメディア関連法の枠組みと課題について学ぶ。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

宇賀克也，長谷部恭男編著『法システムⅢ：情報法』放送大学教育振興会（放送大学教材），2006 年
舟田正之，長谷部恭男編『放送制度の現代的展開』有斐閣，2001 年
宿南達志郎「迷惑メール対策の有効性に関する分析」『メディア・コミュニケーション No.57』，2007 年 3 月

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) 情報倫理
- (3) 放送法制（2 回）
- (4)
- (5) 通信法制（2 回）
- (6)
- (7) 個人情報保護
- (8) 電子商取引（2 回）
- (9)
- (10) 知的財産法（2 回）
- (11)
- (12) 迷惑メール対策法
- (13) まとめ

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア法制Ⅱ（秋）

「取材・報道の自由」の現状と課題

大 石 泰 彦

授業科目の内容：

本講義は、「取材・報道の自由」をキーワードに、マス・メディア（新聞社・放送局など）やジャーナリストの取材・報道活動にかかわるさまざまな法制度を取り扱う。受講者が、マス・メディア（ジャーナリスト）がひきおこすさまざまな事件について、単に印象批評や感

情論ではなく理論的・学問的に分析・批判できるようになること，それがこの講義の目標である。

テキスト：

大石泰彦著『メディアの法と倫理』（嵯峨野書院，2004 年，2500 円）

参考書：

特に指示しない。ただ，堀部政男・長谷部恭男編『メディア判例百選』（別冊ジュリスト，有斐閣）は，授業において手薄になりがちな判例に関する知識を補うのに役立つと思われる。

授業の計画：

1. 取材・報道の自由とは何か
2. 行政取材の自由と国家秘密
3. 取材・報道の自由を裏打ちするもの
4. 名誉毀損
5. プライバシー侵害
6. 放送法制

ひとつのテーマに，約 2 回の講義をあてる。

履修者へのコメント：

継続的に新聞を読み，テレビ・ニュースを見る意欲・時間のない者や，「メディアの倫理」を考える授業にふさわしい「学生の倫理」を身につけていない者の受講は望まない。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム論Ⅰ（春）

ジャーナリズムと「表現の自由」

伊 藤 高 史

授業科目の内容：

ジャーナリズムが抱えている問題点や課題を，「表現の自由」との関連で解説する。ジャーナリズムについて，一般にどのような問題点が指摘されているのかを整理し，「表現の自由」は今日，どのような状況に置かれているのかを理解させることが目的である。

参考書：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版）

授業の計画：

次の講義計画で講義を行います。

- ① ガイダンス
- ② 「表現の自由」概論とジャーナリズムの定義，存在意義など（日本国憲法における「表現の自由」の位置づけなど）（3 回）
- ③ ジャーナリズムと人権を巡る問題（メディアによる人権侵害，差別表現など）（3 回）
- ④ ジャーナリズムの組織に関わる問題（記者クラブ，メディアの経営問題など）（3 回）
- ⑤ 「表現の自由」に関わる法律上の動き（司法判断の流れなど）（3 回）

履修者へのコメント：

教科書はもちろんのこと，指定した参考書など，本をよく読んで授業にのぞむこと

成績評価方法：

試験の結果による評価（原則として，試験のみで成績をつける。教科書の持込は可の予定）

質問・相談：

随時受け付けます。

ジャーナリズム論Ⅱ（秋）

ジャーナリズム研究と社会理論

伊 藤 高 史

授業科目の内容：

ジャーナリズム論Ⅰの内容を踏まえて，ジャーナリズムを社会理論との関連で考える。具体的にどのような報道活動が社会を動かし，そのような報道活動がいかにして生み出されたのかを，実証的かつ理論的に考える力を養成するのが目的。

参考書：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版）

授業科目の内容：

メディアやジャンルを横断するような映画の名作を視聴し、ディスカッションをおこなうことで、クリエイティブなメディア文化の担い手を養うことを目的とする。教員の指定リストのなかから、履修者の希望をきいて、毎回映画の上映、ディスカッション、レポート（数回）をおこなう。最後の数回は、履修者自身がぜひ観てもらいたい映画の上映と解説、プレゼンテーションを予定している。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

授業中に指示する。

授業の計画：

- (1) ガイダンスおよび導入
- (2) エンタテインメントの歴史（2～14は適宜選択）
- (3) ニュース
- (4) 新聞とジャーナリズム
- (5) 人種とエスニシティの表象
- (6) ドキュメンタリー
- (7) フィルム・ノアール
- (8) ミュージカル
- (9) スリラーとサスペンス
- (10) 古典的物語
- (11)
- (12) ポストモダニズム
- (13) 北欧映画
- (14) アジアその他の地域の映画
- (15) 映画上映と履修者によるプレゼンテーション（3回）

履修者へのコメント：

そののちのディスカッションを充実させるため、映画上映中のPC、携帯電話等の使用は控えて下さい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席、授業態度、およびプレゼンテーション）
- ・数回の小レポート

質問・相談：

授業終了後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーか事前のアポイントメントにより受付ます。

授業科目の内容：

グローバル化が進展するなかでのメディアと文化の諸問題について考察します。理論と具体例をつなぎ合わせて、世界規模での不均衡と排他的な国境の再生産と、それを乗り越える越境対話の可能性について議論したいと思います。

テキスト：

- ・「トランスナショナル・ジャパン」（岩淵功一著、岩波書店）
- ・「文化の対話力」（岩淵功一著、日本経済新聞社）

参考書：

授業中に配布・指示します。

授業の計画：

1. ガイダンス、序（1回）
2. 文化のグローバル化、脱中心化と東アジア（4回）
3. 日本における「ソフトパワー」の批判的考察（3回）
4. 国境の管理とトランスナショナリズム（3回）
5. ファイナルプロジェクト・プレゼンテーション、統括（2回）

履修者へのコメント：

プレゼンテーション・討論を中心に授業を進めるので、学生諸君の積極的な参加を期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト：

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』（丸善、2002年）

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます。

オリエンテーション（1）

Ⅰ 基礎理論（5）

- 1 メディア政策
- 2 政府規制
- 3 メディア市場

Ⅱ 映像コンテンツ産業（6）

- 4 映像コンテンツと映画
- 5 映画産業の発展
- 6 映像振興政策（欧州、米国、日本）

Ⅲ まとめ（1）

- 7 メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：

コンテンツ産業、映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。

質問・相談：

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます。

授業科目の内容：

メディア産業に関する政策の動向と今後の課題について日米の比較を行いながら学習していく。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・田原茂行『視聴者が動いた巨大NHKがなくなる』草思社、2005年
- ・鈴木健二『地方テレビ局は生き残れるか』日本評論社、2004年
- ・谷脇泰彦『融合するネットワーク』かんき出版、2005年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) 放送政策（5回）
 - マスメディア集中排除原則
 - NHKのあり方
 - 放送のデジタル化
 - CATV、衛星放送の高度化
- (3) 通信政策（3回）
 - ネットワークの中立性
 - 周波数政策
 - 放送と通信の融合
- (4) コンテンツ政策（3回）
 - 著作権保護政策
 - 作り手の育成とローケーション誘致
 - 海外のコンテンツ政策
- (5) まとめ

履修者へのコメント：

情報メディア産業に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

情報産業論Ⅰ（春）	宿 南 達志郎
メディア産業概論	

授業科目の内容：

メディア産業について、産業構造、経営戦略、利便性などの観点から、歴史的経緯や今後の課題などについて概要を学びます。ビデオなどを活用して理解しやすく講義します。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・宿南達志郎など著『メディア産業論』有斐閣，2006 年
- ・電通総研編『情報メディア白書 2007』ダイヤモンド社，2006 年
- ・総務省編『情報通信白書 平成 18 年版』ぎょうせい，2006 年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) メディア産業の歴史（2 回）
- (3) 各産業分野の現状と将来
 - コンピュータ業界（2 回）
 - 通信業界（2 回）
 - 放送業界（2 回）
 - 新聞業界（1 回）
 - 出版業界（1 回）
 - 音楽業界（1 回）
- (4) まとめ

履修者へのコメント：

情報メディア産業に関する関心がある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

情報産業論Ⅱ（秋）	宿 南 達志郎
インターネット・ビジネス論	

授業科目の内容：

インターネット・ビジネスについて、その特徴や伝統的なビジネスへの影響などを学びます。また、携帯やデジタル放送などを活用した新しいビジネスモデルの可能性についても学びます。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・(財)インターネット協会『インターネット白書 2006』インプレス社，2006 年
- ・クリスアンダーソン『ロングテール』早川書房，2006 年
- ・梅田望夫『ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる』筑摩新書，2006 年
- ・宿南達志郎『e エコノミー入門』PHP 研究所，2000 年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) インターネット・ビジネスの理論的背景（2 回）
- (3) インターネットによる業界の変革（5 回）
 - エンターテインメント産業
 - 広告業
 - 金融業
 - 流通業
 - 製造業
- (4) インターネットビジネスの事例研究（4 回）
 - Google
 - アマゾン
 - ミクシィ
 - DeNA
- (5) まとめ

履修者へのコメント：

インターネット・ビジネスに関心がある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座Ⅰ（春）	大 石 裕
朝日新聞社寄附講座	荒 田 茂 夫
	伊 藤 高 史

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に指定する。

授業の計画：

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約 1 時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第 1 回目の授業の際に発表する。なお、平成 18 年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトを参照されたい。

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されてることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。毎回の感想文提出に加えて、最低 2 度のレポートを課す。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座Ⅱ（秋）	大 石 裕
朝日新聞社寄附講座	荒 田 茂 夫
	伊 藤 高 史

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に指定する。

授業の計画：

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約 1 時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第 1 回目の授業の際に発表する。なお、平成 18 年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトを参照されたい。

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されてることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。毎回の感想文提出に加えて、最低 2 度のレポートを課す。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

コミュニケーション調査法Ⅰ（春）	
新聞の内容分析によって、世論、新聞論調、政府の政策の変化を数量的に把握する	伊藤陽一

授業科目の内容：

本授業では新聞の内容分析を目的としてデータベースの検索、標本抽出、内容分析、表とグラフの作成、調査レポートの書き方等について実地に学ぶ。第2回以降、表計算ソフト「エクセル」が入っており、しかもインターネットとの接続が可能なラップトップ・コンピュータが必須となる。

テキスト：

使用しません。

参考書：

- ・伊藤陽一「住専問題に見る政府・マスコミ・世論の三極関係」
- ・SFC フォーラム事務局(編)『SFC フォーラム・ファイルⅠ：コラボリーション』慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス 1998年

授業の計画：

- 第1回：オリエンテーション：達成目標の提示
- 第2回：資料検索・標本抽出(1)：必要とする記事を検索するための「キーワード」を選定する
- 第3回：資料検索・標本抽出(2)：新聞記事のオンラインデータベースにアクセスし、必要な記事をダウンロードする。
- 第4回：資料検索・標本抽出(3)：分担してダウンロードされた記事を1つにまとめて「標本データベース」を作成する。
- 第5～6回：コーダー訓練：コーダー間一致度を計算しながら、コーダー達が正しく入力できるよう訓練する。
- 第7～8回：データ入力
- 第9～10回：図表の作成
- 第11～12回：レポートの作成(1)
- 第13回：まとめと一部学生の中間報告

履修者へのコメント：

社会調査や研究活動に関心がある学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(学期末に1回提出。レポートの構成、書き方については具体的に指導します。)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(実習を中心とした授業なので、出席は非常に大切です。3回連続して欠席した学生は、自動的に履修を断念、単位を放棄したものとみなされます。)

質問・相談：

授業終了後に受付ます。

コミュニケーション調査法Ⅱ（秋）	
新聞の内容分析による企業・商品・政党・外国イメージの研究	伊藤陽一

授業科目の内容：

春学期においては、内容分析の学術研究への適応を紹介したが、秋学期においては内容分析の実用的・商業的調査への応用について学ぶ。しかし、テーマは統一する必要があるため、今期は外国イメージの研究を実施する。第2回以降、表計算ソフト「エクセル」が入っており、しかもインターネットとの接続が可能なラップトップ・コンピュータが必須となる。

テキスト：

使用しません。

参考書：

- ・伊藤陽一研究会『自動車会社のイメージ分析：内容分析に基づいて』慶應義塾大学湘南藤沢学会 2005年
- ・伊藤陽一研究会『政党のイメージ分析：内容分析に基づいて』慶應義塾大学湘南藤沢学会 2000年

授業の計画：

- 第1回：オリエンテーション：達成目標の提示
- 第2～3回：資料検索・標本抽出：資料検索・標本抽出(2)：新聞記事のオンラインデータベースにアクセスし、必要な記事をダウンロードする。

- 第4回：資料検索・標本抽出(3)：分担してダウンロードされた記事を1つにまとめて「標本データベース」を作成する。
- 第5～6回：コーダー訓練：コーダー間一致度を計算しながら、コーダー達が正しく入力できるよう訓練する。
- 第7～8回：データ入力
- 第9～10回：図表の作成
- 第11～12回：レポートの作成(1)
- 第13回：まとめと一部学生の中間報告

履修者へのコメント：

社会調査、研究活動に関心がある学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(学期末に1回提出。レポートの構成、書き方については具体的に指導します。)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(実習を中心とした授業なので、出席は非常に大切です。3回連続して欠席した学生は、自動的に履修を断念、単位を放棄したものとみなされます。)

質問・相談：

授業終了後に受付ます。

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）	
民間テレビ放送の現状と将来展望	石丸省一郎 菅谷実 豊嶋基暢

授業科目の内容：

半世紀にわたって繁栄を続けてきたわが国の民間テレビ放送は、経済環境の変化、技術革新制度改革などにより、その在り方が大きく変わろうとしている。本講座は、フジテレビの役職員が、自らの実務経験に基づいて各専門分野について講義し、民間テレビ放送の現状と将来展望を考察していくものである。

テキスト：

使用しない

参考書：

使用しない

授業の計画：

テレビメディア論Ⅰ(春学期)では、メディア戦略の要となる編成や報道情報スポーツ、ドラマ、バラエティなどの番組制作について講義し、コンテンツ制作やテレビジャーナリズムに対する理解を深めていく。

テレビメディア論Ⅱ(秋学期)では、マーケティング、ライツビジネス、ネットワーク、衛星や通信をはじめとする他のメディアとの関係など経営戦略にかかわるテーマを中心に講義を行う。

履修者へのコメント：

テレビメディアの影響力は一層強まり、その社会的責任も重くなっている。放送業界以外の分野に進む一般学生の受講も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

【研究会】

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	
メディアと社会行動	萩原 滋

授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修士論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要がある

るが、本年度も、基本的には従来の個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト：
春学期開始時に指定する。

授業の計画：
春学期
ガイダンス（1回）
テキスト講読（6回）
個人研究テーマの設定、発表（6回）
（夏合宿にて継続して各自の発表を行う）

秋学期
三田祭論文に向けて（2、3年生の個人研究発表、6回）
修了論文に向けて（4年生の中間報告、3回）
次年度に向けての研究計画発表（2、3年生、4回）

履修者へのコメント：
自分の発表だけでなく、他の人たちの発表にも興味をもって、質問やコメントをしてもらいたい。

成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：
適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）		
メディア産業論を考える	菅	谷 実

授業科目の内容：
放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネット、映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめます。
例年、春学期は、共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表、秋学期は、三田祭で発表する共同研究報告書に関わる調査と報告書作成、および4年生の修了論文発表を中心に進めます。（2006年度の共同研究テーマは、ケータイ電話 Be Mobile 2.0）
また、夏合宿、OGOB会、異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会ホームページ (<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm>) を参照してください。

授業の計画：
各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが、春学期は、授業でのレポートを中心とし、秋学期は、三田祭に向けた共同研究が中心となる。
履修者へのコメント：
履修者は、授業はもちろんのこと、合宿、論文報告会、その他のゼミイベントにはすべて出席すること。

成績評価方法：
授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。なお研究会Ⅵは修了研究の発表および論文による評価。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）		
身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する	金	山 智 子

授業科目の内容：
本研究会では、自分たちの興味や関心をもとにメディアに関するテーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。メディアに関しては特定せず、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、インターネットといった一般的な媒体から、ダンス、建物、空間といった媒介にいたるまで、広義の意味でのメディアを対象とします。研究は、文献だけでなく、アンケート、内容分析、インタビュー、そして参与観察といった方法を使って実際に調査を実施し、データを集め、分析を行なっていきます。
テキスト：
特に指定しません。

授業の計画：
個人またはグループでメディア・コミュニケーションに関連する研究を実施してもらいます。一連の研究プロセスは、担当教員との個別コンサルティングを交えながら、ステップ・バイ・ステップで身に付けられるよう指導します。4年生に関しては、修了論文を中心に個別で指導します。
〈春学期〉
テーマ設定、文献調査、仮説設定、調査法選定
〈秋学期〉
調査実施、データ分析、報告、発表（三田祭）

成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会（Ⅰ～Ⅵ）		
グローバルイゼーションと持続可能なメディアのデザイン	小	川 葉 子

授業科目の内容：
本研究会では比較映像分析を含めて多様なメディアを対象にメディア・リテラシーを研究することを主目的とする。本年度は、環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。本年度は、プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって、ウェアラブル・メディアやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ、健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを模索したい。
テキスト：
・M. リー著『メディア・リテラシー』（りべるた出版、2006年）
・『ファッション中毒』（NHK出版、2004年）
その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングのテキスト等を使用予定。

参考書：
M. フェザーストン著、川崎賢一・小川葉子編著訳『消費文化とポストモダニズム』（上・下巻、恒星社厚生閣、2002年）

授業の計画：
春学期
(1) ガイダンスおよび導入（2～3回）
(2) ファッション・ジャーナリズムと科学ジャーナリズム（2～3回）
(3) デザイン言語とマーケティング戦略（2～3回）
(4) デザイン・コミュニケーションをめぐる産業と流通の構造プロセス（2～3回）
(5) グローバルな市場と規制およびNPO等の役割（2～3回）
(6) 個人（あるいは2～3名）のプロジェクトテーマ（記事タイトル）設定と発表、春学期のまとめ（1～2回）

秋学期
(1) 秋学期全体のスケジュールと作業プランニング（1～2回）
(2) 個人（あるいは2～3名）のプロジェクトテーマ（記事タイトル）設定と発表（2回）
(3) フィールドワーク（2回）
(4) 個人あるいはグループプロジェクトによる記事および作品の制作（2回）
(5) (4) のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評（2回）
(6) 三田祭発表とフィードバック
(7) まとめ、未来のデザイン・コミュニケーションとは（1～2回）

履修者へのコメント：
フィールドワークは、経済産業省、環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国のジャーナリズムや映画批評に親しんでおいて下さい。

成績評価方法：
・平常点：出席状況および授業態度による評価
・ファッション・ジャーナリズム記事がそれにかわる作品による評価

質問・相談：

授業終了直後、あるいは履習者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

ジャーナリズムを考える 大石 裕

授業科目の内容：

最初の数回は、ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み、それ以降は班分けし、新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト：

大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

授業の計画：

〔前期〕

- 1～2回 基本的な文献の講読
- 3～13回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議

〔後期〕

- 1～10回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議
- 11～13回 4年生の修了論文発表

履修者へのコメント：

新聞のみならず、ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法：

平常点による。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

情報化と近代化 ※新規募集なし（2007年度で終了のため） 伊藤 陽一

授業科目の内容：

「情報化」（情報技術が発達し、マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し、情報流通量が増大する現象として定義される）が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には、「近代」の特質である民主主義、合理主義、個人主義、資本主義が、「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか、あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト：

- ・伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」関口一郎（編）『コミュニケーションのしくみと作用』大修館、1999年
- ・その他、講読する論文を授業で配布する。

参考書：

- ・有吉広介（編）『コミュニケーションと社会』芦書房、1990年
- ・津田幸男・浜名恵美（共編）『アメリカナイズーション：静かに進行するアメリカの文化支配』研究社、2004年

授業の計画：

- 第1回 オリエンテーション：研究会の目的、求められる心構え、基礎理論に関する講義等
- 第2回 先学期の学生の期末レポート内容の報告①
- 第3回 先学期の学生の期末レポート内容の報告②
- 第4回 以降は、指定された論文講読を行う。講読する論文は履習者の関心、専門分野を知った上で決めた。

履修者へのコメント：

研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。歴史や理論に強い人、関心を持っている人を歓迎します。

成績評価方法：

- ・「三田祭参加論文」と期末レポート
- ・授業における発言の頻度と質は重要です。

質問・相談：

この研究会は2007年度で終了となりますので2年生は注意して下さい。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

メディア融合時代のクリエイティブ産業に関する研究 金正 勲

授業科目の内容：

クリエイティブ産業 (Creative Industries) とは、映画、放送、出版、音楽、広告、ゲーム等、人間の創造性に基盤を置く産業です。デジタル革命やメディア間の融合が既存のクリエイティブ産業にもたらす産業的・文化的・社会的・政策的インプリケーションについて研究します。

テキスト：

授業中に適宜指定する。

参考書：

授業中に適宜指示する。

授業の計画：

(1) 春学期

- ガイダンス（計1回）
- 学生による News Clipping, 輪読, レクチャー（計9回）
- メディア・コンテンツ関連企業訪問（計2回）
- ゲストとの対談（計1回）
- ゼミ生は独自の研究テーマを設定の上、夏休合宿において研究発表

(2) 秋学期

- 学生による News Clipping, 輪読, レクチャー（計10回）
- メディア・コンテンツ関連企業訪問（計2回）
- ゲストとの対談（計1回）

履修者へのコメント：

本研究会では、常に自分の視点を持ち、他者とコミュニケーションをすることで相互に高め合う、そういう創発的なコミュニティを目指します。単位取得の目的ではなく、自分を高めるために全力を尽くす決意のある学生を希望します。私も全力を尽くします。

成績評価方法：

平常点：出席点及び授業態度による評価。

質問・相談：

質問等は、kim@dmc.keio.ac.jp まで遠慮なく。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

情報通信メディアの進展に関する研究 豊嶋 基暢

授業科目の内容：

情報通信技術の急速な発達により、昨今ではユビキタスネットワーク社会（いつでも、どこでも、誰とでも、何でもネットワークに簡単につながり、利用できる社会）の到来が期待されています。本研究会では、情報通信ネットワークの高度化、多様化がメディア産業やライフスタイルにどのような変化をもたらしていくのか、また、それに伴い解決すべき諸課題について考察・議論していきます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- ・総務省編「情報通信白書 平成18年度版」ぎょうせい、2006年
- ・野村総合研究所著「これから情報・通信市場で何が起ころのか IT市場ナビゲーター2006年版」東洋経済新報社
- ・情報通信総合研究所編「情報通信アウトlook 2006 IT大融合の時代」NTT出版

授業の計画：

(春学期)

- ガイダンス及び導入（2～3回）
- 共通テーマと関連する文献の調査、発表等

(秋学期)

各個人又はグループでテーマを設定して研究を行ってもらいます。

履修者へのコメント：

本研究会は積極的に議論することを大事にします。議論を深め合い、創造的な研究会としていきたいと考えています。情報通信につ

いて関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	
メディアと文化	藤 田 結 子

授業科目の内容：
この研究会では、グローバリゼーション時代の「メディアと文化」を共通テーマとします。参加者は、これに関連する自分自身の研究テーマを自由に設定し（例えば、テレビ番組や広告の国際比較、多文化・多民族社会におけるメディアの役割、日本初の若者文化・サブカルチャー、そのほか各人の関心のあること）、個人研究またはグループ研究を行います。そして、データ収集、インタビューやフィールドワーク、調査結果の分析、発表を行い、研究やメディア制作の仕事に役立つリサーチスキルを身につけることをめざします。
テキスト：
とくに指定しません。講義資料プリントを配布します。
参考書：
授業中に紹介します。
授業の計画：
春学期
・ガイダンス
・個人研究またはグループ研究テーマの設定と発表
・文献のレビュー
・調査方法の検討
秋学期
・調査・研究結果の発表と討論
そのほか、参加者の研究テーマに関連するフィールドトリップ、メディア制作現場のゲストスピーカーなど

履修者へのコメント：
メディアに対する関心にくわえ、外国文化やエスニック文化、国内での文化ムーブメント、または海外での仕事・留学、英語能力の向上など、多文化社会状況に何らかの関心をもつ学生の参加を期待します。
成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

【特殊研究】

放送特殊講義Ⅰ（春）	
放送・番組はどう作られているのか	鈴 木 祐 司

授業科目の内容：
放送・番組にはより多くの人に見てもらうための知恵が込められている。提案・取材・ロケ・編集・コメント・音響効果など、実際の番組制作にそって、放送・番組の特性を解説する。
テキスト：
特に指定なし
参考書：
特に指定なし
授業の計画：
1 ガイダンス
2～3 番組の構成 ……（構成とは時間の芸術！）
4～5 オープニングの作り方 ……（オープニングは最強のPR）
6～7 番組コメント ……（うまいコメントは寡黙）
8～9 音響効果 ……（音響効果が番組を彩る！）
10～11 CM ……（CMとは真実のメッセージ！）
12～13 デジタル化 ……（テレビはどこへ行くのか？）

履修者へのコメント：
一方的な講義はやりません。指名したら必ず何かを答えられる人は、挑戦してみてください。

成績評価方法：
・レポートによる評価（授業内で各種レポートを提出して頂きます。）
・平常点：出席状況および授業態度による評価

放送特殊講義Ⅱ（秋）	
「テレビニュース」って何だろう？	村 尾 尚 子

授業科目の内容：
「テレビニュース」の現場では、いまいったい何が起きているのか。何を伝えようとしているのか。一線で働くテレビ朝日現職報道局員、キャスター、コメンテーターがその“最前線”と課題を生々しく解説します。そして「テレビニュース」の未来・テレビジャーナリズムのめざす先を考え、探ります。
テキスト：
特に指定しません
参考書：
特に指定しません
授業の計画：
1 「テレビニュース」総論（序）
2～11 「テレビニュース」の現場最前線
 （毎週週替わりでテレビ朝日現役社員が担当します）
12～13 テーマ別のフリー討論、レポート発表
 「テレビニュース」「テレビジャーナリズム」の未来
 ※変更の可能性あり

履修者へのコメント：
テレビ好きですか？好きでも嫌いでも—テレビに興味・関心のある人、テレビ局の仕事って何だろうと思っている人、テレビジャーナリズムについて知りたい・考えてみたいと思っている人…歓迎します。
成績評価方法：
・レポートによる評価（レポートを中心に平常点を加味します。）
・平常点：出席状況および授業態度による評価
質問・相談：
講義用ブログ上などで受けつけます。

フジテレビ寄附講座 特殊研究Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）	
テレビ・ジャーナリズム	安 倍 宏 行

授業科目の内容：
テレビニュース制作実践。テレビの記者はどのような取材活動を行っているのかを学び、ニュースの問題点や今後のあるべき姿を探る。後期は長尺の映像制作に挑む。
テキスト：
指定なし
参考書：
指定なし
授業の計画：
〈前期〉
1 ガイダンス
2～5 テレビニュース制作の流れ、記者・アナウンサーの仕事など
6～9 記者レポート制作・発表
10～13 ミニ企画制作・発表
〈後期〉
1～3 ドキュメンタリー・調査報道とは、より長い企画を作るには
4～7 テーマ選定、取材スケジュール作成、リサーチ
8～10 撮影・編集
11～13 企画発表

履修者へのコメント：
ジャーリスト志望の人。テレビ局の仕事に興味がある人。ドキュメンタリーや映像企画を制作してみた人、歓迎。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価（映像制作などの評価による。）

新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）

新聞ジャーナリズムを考える

木村良一（産経新聞社 論説委員・編集委員）

授業科目の内容：

新聞記者の仕事のおもしろさを私の体験をもとに話しながら、新聞ジャーナリズムや伝えることの意味についていっしょに考えていきます。

テキスト：

特に指定しません。資料（社説などの記事）を配布します。

参考書：

木村良一著『移植医療を築いた二人の男—その光と影』（扶桑社、2002年、1400円）

授業の計画：

日々のニュースを新聞各社が社説でどう扱っているのかを比較、検証しながら、①疑うこと ②複眼を持つ ③感動する ④自分の考えを持つ ⑤自分のテーマを捜す—の5点を指導しています。私の専門の医療問題を扱うケースが多くなりますが、その他の分野も取り上げます。関係者をゲストに招いて話を聞くこともあります。

履修者へのコメント：

新聞記者を目指す学生だけでなく、「人間」や「社会」に強い関心のある学生ならどなたでも参加してください。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（レポート提出も検討しています。）

広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）

面白くなければ、講義ではない

升野龍男

授業科目の内容：

「もしもミルクが無かったら」という全米ミルク協会の広告が非常にインパクトをもち、好感を持って迎えられたことがありました。広告の重要性も、これと同じだと思います。

記事やニュースや番組に代表されるマス・コミュニケーション。そのもうひとつの主役が広告です。広告ほど「タフ」で、「受け手の側に立った」繊細な情報作りを心がけているコンテンツもありません。なにしろ、年間300兆円を越す個人消費を左右する情報内容ですからね。この実態と、広告の環境変化対応を把握することは、激変している経済社会に直に聴診器を当てることにもなりますし、現代文化を肌で感じ取ることにもなります。

「情報化社会」とは、情報が付加価値ではなく、「主体価値」となる社会。民間小口配達便ではマーケットは切り拓けません。「宅急便」です。小型携帯ステレオも同様。「ウォークマン」というコンセプトが市場を創り出しました。「製品」に価値ある情報が載ってこそ「商品」となります。広告発想とはどのようなものか、広告表現はどのような工程を経て作られるのか、情報の品質管理とはどのようなものか。ブロードバンド化、グローバル化は、広告会社の業態＝ビジネス状態に、どのようなインパクトを与えているか。情報化社会へデビューする若人には欠かせないコンテンツです。

テキスト：

特にありませんが、私の作品、ACC（全日本CM放送連盟）フェスティバル入賞作品、最新の広告作品等を使用します。

参考書：

その都度、紹介いたします。

授業の計画：

＜春の講義＞

(1) ガイダンス

(2) 広告作品を見る

① 昨年のACC受賞作品（CM・ラジオ）、朝日広告賞、日経広告賞、読売広告賞など

② CM殿堂入り作品

③ あなたも作れる広告作品→学生CMコンクール作品より

(3) 広告、その誕生からデビューまで

(4) 広告会社の機能

① 広告代理店は、誰のための代理店なのか

② 日本と海外の広告代理店の違い

③ 電通、博報堂、アサツーDKの違い

(5) メディアの機能と変遷＝タッチポイント化

① 印刷媒体＝新聞・雑誌

② 電波媒体＝ラジオ・テレビ

③ 屋外媒体＝イベント・SP・看板

④ 通信＝ネット、携帯、ポッド

(6) 受講者チームからの発表

＜秋の講義＞

(1) ガイダンス

(2) コンテンツとは何か

(3) コンセプト作りとは、目撃・観察・洞察・発見

(4) 広告表現とは

(5) ブランディングとは

(6) 広告の制作工程

(7) 社会的責任広告の必要性

(8) 広告会社にコンプライアンス・マネジメントが必要な理由

(9) 実例から学ぶ「表現と権利処理の必要性」

(10) 情報狩猟民族の登場と21世紀の広告コミュニケーション

(11) チーム発表×2回

履修者へのコメント：

(1) 広告ビジネスの生々しい実態に触れ、情報化社会の本質を理解する。

(2) 努力の日常化を心がける…「最も身近な義務を果たす＝出席と課題提出」

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。それ以外は開封いたしません。

メディア特殊講義Ⅰ（秋）

民放テレビの現状と課題

工藤卓男

授業科目の内容：

テレビ東京の体験を通じて民放テレビの実態と展望を探る。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

特に指定しません。

授業の計画：

1. オリエンテーション

2. 民法の現状

3. 編成論

4. 編成—ジャーナリズムの視点からテレ朝報道局事件

5. 制作—コンテンツ

6. 制作—やらせ

7. スポーツ

8. 報道

9. 営業

10. アニメ・映画

11. テレビ直販

12. 著作権

13. エンディング、民放界の展望

※予定テーマです。変更あり。

履修者へのコメント：

マス・メディアの中でテレビ局に関心ある学生を歓迎します。セミナー形式で活発な意見交換したい。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・出席状況および授業態度による評価

質問・相談：
授業後受けます。

メディア特殊講義Ⅱ（秋）
インタラクティブメディア
((ケータイ／PC)×(TV／雑誌／ラジオ)=21世紀型メディア)
堀 主知ロバート

授業科目の内容：
みなさんに馴染みの深いケータイ、ネットと雑誌、テレビなど既存媒体を融合させたマーケティング施策について、様々な企業の活用事例を徹底究明し、その成果を分析し、理想と現実のギャップを認識し、本来あるべき21世紀型のマーケティング活動や、ネットの有効な利用施策を模索する授業です。
また、究極の価値を持つインタラクティブメディア、プラットフォームについて企画立案～事業化の検討まで行えるところまでを目標とおきます。

テキスト：
こちらで配布します

- 授業の計画：
1. 総論。現在の環境についてのコンセンサス
 2. 各種インタラクティブメディアの特性と事例
 3. テレビ＋モバイル／PC の事例検証
 4. テレビ＋モバイル／PC の事例検証
 5. テレビ＋モバイル／PC の事例検証
 6. 雑誌＋モバイル／PC の事例検証
 7. 雑誌＋モバイル／PC の事例検証
 8. 雑誌＋モバイル／PC の事例検証
 9. ネット広告の事例検証
 10. モバイル広告の事例検証
 11. あるべきインタラクティブマーケティングについての仮説作り
 12. 仮説に基づいたメディア、プラットフォームの企画～ビジネスモデル検証
 13. 総括

履修者へのコメント：
今までの常識が、これからの常識と違う！という感覚。今までのビジネスに必要な力とこれからのビジネスに必要な力が違う！という感覚を半年で体感して、社会に出てからの自分の挑戦について大きな可能性を感じてください！

成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：
いつでもどうぞ。

特殊研究Ⅰ（春）
日本の近代化とマス・メディア
小 川 浩 一

授業科目の内容：
社会の状態を人々に伝え、市民の視点からの権力批判を行う「ジャーナリズム」の機能が戦後日本の近代化に貢献しえたのか否かを現在の「ジャーナリズム」と現在の日本社会の問題点の検討を通じて明らかにしたい。

テキスト：

- ・マクネア著 小川浩一・赤尾光史監訳『ジャーナリズムの社会学』リベルタ出版
- ・橋本俊詔著『格差社会』岩波新書

参考書：

- ・富永健一著『日本の近代化と社会変動』講談社学術文庫
- ・橋本俊詔著『日本の経済格差』岩波新書

授業の計画：

- 1, 2；ジャーナリズムとマス・コミュニケーション
- 3, 4；ジャーナリズムの機能
- 5, 6；ジャーナリズムの今日の問題
- 7, 8；日本ジャーナリズム略史

- 9, 10；言論統制と言論自己規制
- 11, 12；テレビジョンの社会的機能
- 13；現代日本におけるテレビと新聞の機能

履修者へのコメント：
テレビニュース、新聞記事を「分析」すること。批判は内容の分析が出来ないと意味がありません。想像力、創造力がないと権力に盲従することになります。

成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究Ⅱ（秋）
日本の近代化とマス・メディア
小 川 浩 一

授業科目の内容：
社会の状態を人々に伝え、市民の視点からの権力批判を行う「ジャーナリズム」の機能が戦後日本の近代化に貢献しえたのか否かを現在の「ジャーナリズム」と現在の日本社会の問題点の検討を通じて明らかにしたい。

テキスト：

- ・マクネア著 小川浩一・赤尾光史監訳『ジャーナリズムの社会学』リベルタ出版
- ・橋本俊詔著『格差社会』岩波新書

参考書：

- ・富永健一著『日本の近代化と社会変動』講談社学術文庫
- ・橋本俊詔著『日本の経済格差』岩波新書

- 授業の計画：
- 14, 15；ポピュリズムと劇場型政治
 - 16, 17；現代日本の民主主義
 - 18, 19；日本社会の階層性
 - 20, 21；階層間格差とエリート
 - 22, 23；ジャーナリストと階層
 - 24, 25；日本の近代化におけるジャーナリズムの貢献
 - 26；日本のジャーナリストの特徴

履修者へのコメント：
テレビニュース、新聞記事を「分析」すること。批判は内容の分析が出来ないと意味がありません。想像力、創造力がないと権力に盲従することになります。

成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究Ⅲ（秋）
市民とメディア
金 山 智 子

授業科目の内容：
この10年、市民が社会の様々な問題を解決するために、自ら参加し活動していけるようなボランタリーな社会が築かれつつあります。その中で、市民グループ、NPO、NGOの活動は中心的な役割を担っています。また、一般企業においても、NPO・NGOとのパートナーシップを通じた社会貢献（CSR）活動が活発になっています。このような活動では、メディアの活用がますます重要になってきています。市民が、フリーペーパーやコミュニティFM、CATV、インターネット新聞、ブログ、ミクシーや地域SNSなど、市民メディアを使ってどんどん情報発信しています。これにより、ソーシャル・コミュニケーションも活発になっています。さらに、貧困撲滅キャンペーン“ほっとけない世界のまずしさ”，グリーンバードの“おそうじプロジェクト”，サステナブルな社会を目指す“トレジャード・トラッシュ・プロジェクト”にみるように、コピーライターやデザイナーといったクリエイターによるコミュニケーション・デザインも一つのソーシャル・ムーブメントとなっています。こういった市民、NPO、NGO、企業、クリエイターなどの社会活動におけるメディア活用について、最近の事例を交えながら、現状と問題点について考えます。

テキスト：
資料を配布

参考書：

- ・『NPOのメディア戦略』（金山智子，学文社）

- ・『広報力が地域を変える！』（電通プロジェクト、日本地域社会研究所）

授業の計画：

市民とメディアについて、これまでの歴史やメディア・アクセス、パブリック・コミュニケーションといった基本的な考え方について学びます。さらに、さまざまな市民のメディアやソーシャル・ムーブメントやソーシャル・コミュニケーションといった最近の動向についてみていきます。

毎回事例を用いながら、ディスカッション形式で進めます。また、NPO や NGO 関係者を招き、現場の声を聞き、受講生を交えて考える機会をもちます。

関連イベントや市民メディアの現場に参加し、実体験をしてもらいます。

履修者へのコメント：

常に問題意識をもって、積極的にディスカッションに参加することを期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ（春）（秋） インターンシップ	小 川 葉 子 菅 谷 実 豊 嶋 基 暢 藤 田 結 子
-------------------------------	--

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習Ⅱを登録し、インターンシップに参加することができる。

授業の計画：

(1) 春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論（新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等）

まとめ

（なお、研修先は、7 月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない）

(2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を 10 回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習Ⅰを履修し本年度Ⅱを履修する者を含む）は、4 月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。履修者は夏休み研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

【基礎演習】

時事英語Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）

英文ジャーナリズム入門

高須賀 茂 文（読売新聞英字新聞部デスク）

授業科目の内容：

英字新聞や英字週刊誌の記事などを教材に使い、時事英語の読解力を養成します。1 年後には、辞書を使わずに Time や Economist の大意を理解できるようになるのが目標です。併せて英語での interview の仕方や記事の書き方の基礎も学びます。一緒に「生きた英語」を勉強しましょう

テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

参考書：

- ① The Daily Yomiuri（読売新聞が発行する日刊英字紙）
- ② 最新ニュース英語辞典（東京堂出版）
- ③ 本格的な英和・和英辞典

授業の計画：

まず、火事や交通事故など簡単な記事を通して英文ジャーナリズム独特の「決まり事」を勉強することから始めます。後半の授業では、評論や解説など高度な内容の英文記事にも挑戦し、国際情勢への理解を深めます。また、座学だけでなく、The Daily Yomiuri 編集部の見学や在日外国人ジャーナリスト、海外特派員経験者をゲストに招くことなども計画しています。

履修者へのコメント：

堅苦しい講義形式ではなく、講師自身の海外取材での体験なども織り交ぜながら実践的な授業を行うつもりです。ただ、必然的に課題も多くなるので、積極的に学ぶ意欲のある塾生を歓迎します。「仕事」で使える英語を身に付けたい人、海外特派員を目指す人も参加して下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

文章作法Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）

マスメディアへのドアを開けるには 河 内 孝

授業科目の内容：

文章の怖いところは、長短にかかわらずそれによって全人格が判断されてしまうところにあります。文章技術をマニュアル化して授業を進め、「うまい文章かき」を養成することは可能かもしれない。しかし私は、うまい文章というよりも、「良い文章」がどのように生まれてくるかを研究してみたいと思います。メディアという言葉の語源は、「あいだ、仲介者」という意味です。ダイヤモンド原石のような生情報を研磨し、意味づけて最終消費者にどう伝えればよいのか。情報伝達の流れを知る中で、文章技術を磨いて見ましょう。

テキスト：

適時、新聞記事などをプリントして配ります。

参考書：

最初の授業で、一覧表にして配布します。

授業の計画：

メディア・コミュニケーション研究所の授業として将来、新聞、テレビ、ラジオ、出版、IT 系を目指す諸君に役立つ講義の流れを考えています。文章作法は、毎回、メール経由で提出してもらった短いレポートを次回授業で添削、評価する形で行うつもりです。

前期では、日本のメディアの今日的な状況を概観して理解を深めてもらう。戦中、戦後、日本のジャーナリズムがどのような試練をくぐってきたかも振り返りたい。

後期では、様々なニュースを各メディアがどのように伝えたかを検証、「自分ならどう書く」という situation で原稿作成の実践的な添削、指導を行います。適宜、新聞社、テレビ局の現役記者を招きディスカッションも行いたいと考えております。

履修者へのコメント：

業績の良い会社ほど人材募集に手間、暇かけています。なぜか？浮ついた気持ちで受けに来る人による 100 倍の競争率より、真にガッツがあり、「自分」を持っている応募者による2倍3倍という状況を作りたいからです。作文、面接での絞り込みはそのための手段。100分の1でなく3分の1、2分の1を目指す人への授業です。

成績評価方法：

適時、短いレポートの提出を E -メールにて求める。後は平常点、出席状況および授業態度で評価する。

質問・相談：

随時、授業前後、E-メールにて受ける。

メディア・コミュニケーション実習Ⅰ（春）	
映像を通して伝える，理解する	金 山 智 子

授業科目の内容：

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになっていきます。本講義では映像制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標としています。また、映像制作過程において、いろいろな人たちとかかわり、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスを大切にしながら、伝えたい人に伝えることの難しさと面白さを経験してほしいと思っています。

授業の計画：

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。
基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読みとく。
一般市民が制作した“良い作品”を見て、「誰に何をどのように伝えるか」という意味でのメッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する。
個人またはグループで企画・構成・取材・撮影・編集加工という映像制作過程を体験し、映像コミュニケーションを身に付けてもらいます。

履修者へのコメント：

映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、クラス授業時間外での作業（撮影・編集）が必要になります。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア・コミュニケーション実習Ⅱ（秋）	
映像リテラシー	渡 辺 真由子

授業科目の内容：

テーマを決めて映像作品を制作します。テクニックの取得に終始するのではなく、“なぜ”その構図で撮影するのか、そのインタビューを使うのか、といったプロの制作者の意図を学ぶことにより、メディアリテラシー能力の育成を目指します。

テキスト：

- ・渡辺真由子著『メディアに隠された意図を読み解く〜カナダで学ぶメディアリテラシー（仮題）』（アルク、2007 年夏刊行予定）

授業の計画：

- (1) メディアリテラシーとは何か、メディアを批判的に読み解くための基本理論を学びます
- (2) テレビ局の報道制作現場の実態を紹介しながら、ネタの見つけ方、構成の立て方、インタビューの仕方など、映像制作に関わる一連の過程を体験してもらいます
- (3) 完成した作品を、リテラシーの視点から批評し合います

履修者へのコメント：

映像業界志望者に限らず、新聞や広告、インターネットなどあらゆるメディアが発信する内容に疑問や危機感を持つ学生を歓迎します。映像を上手に撮影・編集することよりも、制作過程の裏側にある“意図”を学ぶことに重点を置きます。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

映像コンテンツ制作Ⅰ（春）	
映像コンテンツ制作実践に向けた基礎ステップ — 映像表現の文法・作法を習得する	大久保 成

授業科目の内容：

デジタルカメラやデジタルビデオは普及し、コンピュータはますます高性能になっています。一方、インターネット上で映像コンテンツを扱うことが一般化し、ケータイの高機能化などにより「いつでも、どこでも、だれでも」デジタルメディアが扱える時代がやってくると思っています。にもかかわらず（あるいはそれゆえに）、ただビデオカメラをまわしさえすればそれだけでコンテンツになりうる、といった安易な理解が蔓延しているのではないのでしょうか。映像コンテンツ制作Ⅰでは、映像コンテンツ制作に関わる際の基本的な枠組み作り（プリプロダクション）の力を確実に身につけてもらうことを通して、新時代の映像表現の作法がいかにあるべきかを受講生とともに考えていきたいと思います。

テキスト：

開講時に紹介します。

参考書：

開講時に紹介します。

授業の計画：

この講義では、映像コンテンツ制作のための基礎能力の獲得を目指します。映像表現をする際の事前準備の重要性について理解してもらい、実際に受講者には企画書・画コンテの作成、撮影実習、編集までを個人単位で実践してもらいます。予定されるシラバスは以下のとおりです。

- 1. デジタル時代における映像表現の基礎知識
- 2. ユビキタス環境と映像コンテンツ
- 3. 映像制作のための機材とその機能
- 4. 撮影の基礎技術
- 5. 映像コンテンツ制作のための基礎能力 (1)：コンティニューエイ
- 6. 映像コンテンツ制作のための基礎能力 (2)：フレーミング
- 7. 番組企画とは (1)：企画書や画コンテの作り方
- 8. 番組企画とは (2)：実践
- 9～13. 映像コンテンツ制作実践：カメラ取材と編集

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作Ⅰでは受講生の自主性を最大限尊重し、自由な発想や可能性の追求を歓迎します。講義は映像コンテンツ制作ⅠとⅡでは独立していますが、両者を連続して受講することにより総合的な力を獲得できるよう配慮しています。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（評価の50 %）
- ・映像作品を提出（評価の50 %）

質問・相談：

授業時および電子メールにて受け付けます。

映像コンテンツ制作Ⅱ（秋）	
映像コンテンツ制作実践に向けた応用編 — スタジオプロダクションを実践する	大久保 成

授業科目の内容：

映像コンテンツ制作Ⅰで得られた映像コンテンツ制作に関わる基本的な枠組み作りの力を再確認するとともに、さらに磨きをかけていきます。さらにメディア環境・映像文化についての理解を深めるために、スタジオを使用した番組制作を実体験していただきます。デジタ

ル環境の発展により映像コンテンツ制作は「個の力」で完結するものとなっています。しかしテレビ番組や映画撮影においては、単独ではなしえない映像表現が主流でもあります。個人が主体性を保ちながら協働したときに得られる感覚を得ることで、受講生それぞれの映像表現がさらに深まることを期待します。

テキスト：

開講時に紹介します。

参考書：

開講時に紹介します。

授業の計画：

この講義では編集加工された取材映像を活用したスタジオでの企画番組制作に取り組みます。映像表現の文法を再確認した後、スタジオでの収録を前提とした編集VTRを制作、その後スタジオでの収録にのぞみます。

1. 映像表現の文法を確認する (1)
2. 映像表現の文法を確認する (2)
3. 番組企画会議
4. 取材VTRプリプロダクション (1)
5. 取材VTRプリプロダクション (2)
6. 取材VTR制作 (1)：撮影・編集
7. 取材VTR制作 (2)：撮影・編集
8. スタジオ機材について
9. スタジオ収録プリプロダクション (1)
10. スタジオ収録プリプロダクション (2)
11. リハーサル
12. スタジオにて番組収録 (本番)
13. 番組収録を振り返る (討論会)

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作 I を受講済みもしくは同等レベル (企画・撮影・編集を行い、映像作品に仕上げるができる) の映像表現力を持つことを期待しますが、受講生のニーズには臨機応変に対応します。また映像コンテンツ制作 I 同様、受講生の自主性を最大限尊重しますが、一方で共同作業も多いため、受講生同士の信頼関係を裏切らないように配慮してもらおうよう期待します。もちろん映像コンテンツ制作 II のみの受講も可能です。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価 (評価の50%)
- ・スタジオ収録への参加 (評価の50%)

質問・相談：

授業時および電子メールにて受け付けます。

メディア・ネットワーク実習Ⅰ (春)

インターネット放送の基礎

田 辺 浩 介

授業科目の内容：

インターネット技術を利用した音声・動画配信の実践を行うことによって、情報発信のための幅広い技法を身につける。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

- ・ガイダンス
- ・ネットワークの基礎
- ・Web制作の基礎
- ・ライブ配信の仕組みと実践
- ・Podcastingの仕組みと実践
- ・インターネット上での番組配信の企画・制作

履修者へのコメント：

IT関連の知識や経験の有無は問いません。「こんなに簡単にできるのか！」という経験をひとつでも多くしてもらえれば幸いです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

メール、ならびに講義用サイトで受けつける。

メディア・ネットワーク実習Ⅱ (秋)

動画投稿サイトを作る

田 辺 浩 介

授業科目の内容：

CGM (Consumer Generated Media) において大きな役割を占める動画投稿サイトを自らの手で構築することで、CGMを形成する技術的側面への理解を深める。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

- ・ガイダンス
- ・動画投稿サイトの計画
- ・Webプログラミング (PHP) の基礎
- ・データベース操作 (PostgreSQL) の基礎
- ・サイトの公開とレビュー

詳細は前年度の講義用サイト (<http://mwr/mediacom.keio.ac.jp/~tanabe/media-network/>) も参照のこと。

履修者へのコメント：

プログラム制作の有無は問わないが、HTMLや動画ファイルの扱いに慣れるために、「メディア・ネットワーク実習Ⅰ」と同時に履修することをおすすめします。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

メール、ならびに講義用サイトで受けつける。

体 育 科 目

〔三田設置〕

(体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉 J11 番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A (ウィークリー・スポーツ) が、7 科目(テニス、バレーボール、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の 4 科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

- (1) 体育学講義 (2 単位) ……「身体」「健康」「運動」等に関する講義。
- (2) 体育学演習 (1 単位) …… 講義＋実習による演習形式の授業。
- (3) 体育実技 A (1 単位) ……「身体活動」実技 A～D の 4 段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

体育実技 A の成績評価方法は 100 点満点のうち、出席点が 60 点。欠席は 1 回につき 5 点減点、遅刻は 1 回につき 3 点減点します。評価対象者は全授業回数の 2/3 以上出席した者です。残りの 40 点を各授業担当者が技術・態度・理解の観点で配分します。

- (4) 体育実技 B (1 単位) ……「身体活動」実技 P (合)・F (否) (Pass/Fail) の 2 段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

ウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツの概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ……週 1 回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ……夏季休業中(7 月～9 月)または春季休業中(2 月)の 7 日間の授業。ただし、合宿科目は原則として 3 泊 4 日。

3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 三田設置科目履修申告までの流れ

4 月 6 日 (金)

体育科目ガイダンス (三田)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。

1 限および 2 限 522 番教室 (いずれの時限も同内容)

4月7日(土)
～19日(木)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間		9:00～12:30	14:00～15:30	受付時間		9:00～12:30	14:00～15:30
4月7日	土	男子 10時開始	男子	4月14日	土	女子	女子
8日	日			15日	日		
9日	月	男子	女子	16日	月	男子	女子
10日	火	女子	男子	17日	火	男子	男子
11日	水	男子	男子	18日	水	女子	男子
12日	木	男子	女子	19日	木	男子 11時終了	
13日	金	男子	男子				

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口に出してください。

授業開始時までに健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月9日(月)
～13日(金)

体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い、第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために、各日12時30分から14時まで、三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが、発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は、その場で抽選を行い、定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月13日(金)
10:00
～17日(火)
14:00

Webによる履修申告期間

学事Webシステムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は、履修申告すれば、必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても、履修申告はして構いません。ただし、許可証取得者が優先され、それでも定員に不足が生じた場合に限り、未取得者の中で抽選が行われます。

4月21日(土)

履修者数調整結果発表

9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板

10時30分 三田 西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける、定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには、体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し、定められた期間に学事センターで修正申告を行ってください。

5 日吉設置科目履修申告までの流れ

4月4日(水)
～6日(金)

体育科目ガイダンス(日吉)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内、講義要綱・シラバス、体育科目時間割を持参のうえ出席してください。

4月4日 9:00 613・614・623 番教室

5日 14:45 613・614・623 番教室

6日 14:45 613・614・623 番教室

4月7日(土)
～19日(木)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口に出してください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月9日(月)
～13日(金)

体育科目ガイダンス週間(日吉)

体育科目の時間割どおりに実施します。

ただし、実技科目はこの期間のみ、すべて日吉記念館スタンドで行います(時間割の実施場所ではありません)。

各時限とも同一内容のガイダンスを、前半・後半の2回行います。

シーズン・スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館(総合案内)で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場 所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館(総合案内)

レベルの高低や、自己の都合などによる履修の取消、変更はできません。

4月13日(金)
10:00
～17日(火)
14:00

Webによる履修申告期間

学事 Web システムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

4月21日(土)

履修者数調整結果発表

9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板
10時30分 三田 西校舎共通掲示板

体育実技A、体育実技B、体育学演習では、履修希望者が定員を上回った場合、抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は、履修の可否を必ず確認してください。ただし、体育学講義は、抽選による履修者数の調整は行いません。

シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション、山岳、スキー、スケート、馬術、ヨット、水泳（オープンウォータースイミング）の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

① 4月24日(火)
～5月9日(水)

追加履修について

履修調整の結果、定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

② 5月7日(月)
～9日(水)

追加履修するためには、①体育研究所許可証の取得と、②修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。

履修調整結果を再確認し、誤りのないようにしてください。

①体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について、以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月24日(火) 9:15～11:30, 12:30～15:00 4月25日(水) 9:15～11:30, 12:30～16:00	体育研究所
4月26日(木)～5月9日(水)(平日のみ) 受付時間 8:45～17:00 (最終日 16:00 終了)	日吉学事センター総合窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は、必ず24・25両日中に体育研究所許可証を取得してください。26日以降は取得できません。

②修正申告の手続き

①で受け取った体育研究所許可証を持参し、定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

①②いずれの手続が不足しても追加履修はできません。また、所属する学部が追加履修を認めていない場合は、①を行っても修正申告の手続はできません。

6 シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち、以下の合宿形式7科目については、指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目 アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・
馬術・ヨット・水泳(オープンウォータースイミング)

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月24日(火)～4月27日(金)	8:45～17:00	日吉学事センター総合窓口(納入用紙交付)

上記科目は、履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は、総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は、履修放棄として取り扱います。(DまたはF評価)

(2) 実技費用納入締め切り後、なお人員に余裕がある科目については、追加履修を受付けます。

体育実技 A（ウィークリー・スポーツ）

〈球技〉

体育実技 A（テニス）	月曜 1 限
（上級）	堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

綱町グランドテニスコート（屋外）

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット、シューズ（ハードまたはオールコート用）

〔参考書〕

「テニスはここから楽しくなる」情報センター出版局 堀場雅彦著

〔授業の計画〕

1 限（90 分）の計画

- 05 準備体操
- 10 球出しによるウォーミングアップ、フォア・バックハンドストローク
- 30 サービス、シングルス・ダブルスポジションにて
- 40 ペアーボレーボレー
- 50 ダブルスゲーム、MIX・男子・女子
- 85 総括

半期 13 回の計画

毎週、毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが、参加者数により、ラリー（クロス・ストレート）、シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に、以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。

- 1～3 週：腕の振り
- 4～6 週：身体のバランス
- 7～10 週：足捌き（フットワーク）
- 11～13 週：総括および戦術

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて、全世界 120 か国以上に普及した国際的スポーツです。また、国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も、5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ、腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に、是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し、その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。）

体育実技 A（テニス）	水曜 2 限
（初級）	村松 憲

〔授業科目の内容〕

テニスを楽しむために必要な技術・エチケット・ルールを身につけます。実施場所は綱町グラウンド（屋外コート 1 面、三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度）です。準備していただく物は、テニスシューズ、テニスラケット（シューズ、ラケットの貸し出しはありません）、運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが、履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

- 1～2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習
- 3～6 回目 ボレー、サービス、グラウンドストローク、スマッシュの基礎練習
- 7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習、ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また、少し経験はあるけれども基礎を確認したい、という方も歓迎します。かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが、あくまで、初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので、あらかじめご理解下さい

〔成績評価方法〕

出席点が 60 点、技術点が 10 点、態度点が 15 点、理解点が 15 点です。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい→ mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A（テニス）	水曜 3 限
（中級）	村松 憲

〔授業科目の内容〕

試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。エチケット、ルールを再確認します。実施場所は綱町グラウンド（屋外コート 1 面、三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度）です。準備していただく物は、テニスシューズ、テニスラケット（シューズ、ラケットの貸し出しはありません）、運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが、履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

- 1～3 回目 サービス、ボレー、グラウンドストローク、スマッシュ、リターン等、基礎技術の確認と練習
- 4～6 回目 回転をかけるサービス、ジャンピングスマッシュなど、試合を有利にすすめる上で役立つ応用技術の確認と練習
- 7 回目以降 クロスコートでのサービスからのポイント形式練習、ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

このクラス（中級）では、「技術レベルがどこまで到達したか」（どの程度向上したか、だけでなく）という点も成績評価の対象とします。「打ち合いで安定して 10 往復以上続けることができる（相手が打ちやすいボールを出してくれた場合）こと」が難しい方にはおすすめでできません。

〔成績評価方法〕

出席点が 60 点、技術点が 15 点、態度点が 15 点、理解点が 10 点です。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい→ mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A（テニス）	火曜 1 限
（初中級）	加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得

〔実施場所〕

綱町グランド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

〔授業の計画〕

2 回をセットとして、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって

内容を決めていく。比較的自由な雰囲気です。授業を進める予定。3 回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝、掲示する。

【履修者へのコメント】

テニスに意欲のある生徒を望む。

【成績評価方法】

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技 A（テニス）	火曜 2 限	加藤 大雄
（中上級）		

【授業の目的】

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得ならびに、テニスにおける戦術の指導。

【実施場所】

綱町グラウンド テニスコート

【服装・携行品・その他】

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

【授業の計画】

戦術的な説明をしつつ、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレー、スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由な雰囲気です。授業を進める予定。実践的な練習が多い予定。雨天時は当日の朝、掲示する。

【履修者へのコメント】

テニスに意欲のある生徒を望む。

【成績評価方法】

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技 A（バレーボール）	木曜 1 限・2 限	野口 和行
----------------	------------	-------

【授業科目の内容】

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

【実施場所】

綱町グラウンド バレーボールコート

【服装・携行品・その他】

運動できる服装・屋外シューズ

【授業の計画】

- 個人の技術レベルの向上（4回）
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
- 集団技能の学習とフォーメーションの理解（4回）
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
- リーグ戦形式のゲームの実践
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

【履修者へのコメント】

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

【成績評価方法】

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、態度（20%）、理解（20%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

〈武道〉		
体育実技A（合気道）	木曜 2 限	
心が身体を動かす		藤平 信一

【授業の目的】

合気道の実技を通して、心と身体からだの正しい使い方（心身統一しんしんとういつ）を習得する。

心身統一を日常生活で活用できるように習得する。

大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を習得する。

【実施場所】

綱町グラウンド 武道館

【服装・携行品・その他】

道着は貸与。T シャツ（女子のみ）・タオル（汗をふくため）・道着を持ち運ぶバッグ等。

【授業の計画】

半期前半

- 合気道基本技
- 心が身体を動かす（心身統一）
- 正しい姿勢（自然に安定した姿勢）
- 安全な受身と間合い

半期後半

- 合気道応用技
- 正しいリラックス（虚脱状態との違い）
- 大切な場面での心の落ち着き
- 危険に対する察知と対

春学期と秋学期ではテーマは同じですが、内容は異なります。

半期が基本ですが、通年で履修をすると理解がさらに深まります。

【履修者へのコメント】

基礎から確実にお伝えしますので、合気道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ますが、しっかりとした習得には通年で履修をおすすめします。

【成績評価方法】

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し、その合計点で評価する。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技 A（弓術）	火曜 1 限・2 限	小笠原 清忠
------------	------------	--------

【授業科目の内容】

ウィークリースポーツとしての弓術の授業は、経験者と未経験者に分けて行います。経験者には、射法・射術の習得と基本姿勢のあり方を学んでいただきます。未経験者には弓術に親しみ理解を深めると共に基本姿勢を学んでいただきます。

【実施場所】

綱町グラウンド 武道館（正己弓道場）

【授業の計画】

弓道に対する理解を深める。

基本の技の習得。

立ち居振る舞いや武道としての礼法を学ぶ。

的前で実際に矢を射て、的中させることを学ぶ。

弓・矢等の道具についての知識を習得する。

【履修者へのコメント】

服装は運動の出来る服装（ボタンや胸ポケットのないもの。）

靴下または足袋を必ず持参すること。

【成績評価方法】

平常点：出席状況および授業態度による評価

体育実技 A（剣道）	水曜 2 限・3 限	
		吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グランド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）・手ぬぐい
※剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- 1 ガイダンス剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎
- 2 素振りのバリエーション 五行の構え 対人的足さばき
- 3 基本の復習 日本剣道形の導入・1 本目
- 4 日本剣道形1～2 本目 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方
- 5 日本剣道形1～3 本目 基本的な技の打ち方 防具の着け方
- 6 日本剣道形1～4 本目 手の内の冴えについて 正中線の意味 切り返し
- 7 日本剣道形1～5 本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形1～6 本目 連続技（二・三段打ちの技）払い技 巻き技
- 9 日本剣道形1～7 本目 応じ技（すり上げ技・返し技）
- 10 日本剣道形1～7 本目 応じ技（抜き技・打ち落とし技）
- 11 日本剣道形小太刀1～3 本目 出頭技
- 12 日本剣道形復習試合規則の確認 試合形式の実践
- 13 紅白試合まとめ

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席60％、技術10％、態度20％、理解10％の割合で点数化して評価する。

体育実技 A（柔道）	月曜 2 限・3 限	
	（初心者、経験者を問わない～男女共習）	安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。また、見る柔道の立場から、国際国内ルールを説明する。更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グランド 武道館（柔道場）

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する）、タオル、T シャツ（女子のみ）

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作（礼法、受身、体捌き）。
- 3 投げ技と受身の反復練習（大外刈、大内刈等）。
- 4 投げ技と受身の反復練習（大腰、背負投等）。
- 5 投げ技と受身の反復練習（送足払、払釣込足等）と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古

- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技（抑込技、絞技、関節技）の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古（立技、寝技）
- 13 試合方法、審判法（国内、国際ルール）の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。）

〈個人種目〉

体育実技 A（ダンス）	月曜 2 限、金曜 2 限・3 限	
	ボールルームダンス 入門 初級	篠原 しげ子

〔授業科目の内容〕

男女で組んで踊るために、自分自身の体の細部にわたっての身体感覚を養い、バランスを保って動けるようにする。又、相手のことも考慮して動けるようになることを目指す。

〔実施場所〕

綱町グランド 武道館（剣道場）

〔定員〕

男性 10 名 女性 10 名

〔服装・携行品・その他〕

動きやすい服装 綱町道場の剣道場で行うためシューズは着用せず、ソックスを持参

〔授業の計画〕

月曜 2 時限目

春学期 初級ワルツ

秋学期 初級チャチャチャ

それぞれの種目を半期（13 回）通して行う。

- 1～3 週 種目の特徴（リズム、姿勢、ホールド）を理解する。
- 4～8 週 数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるようになる。
- 9～12 週 さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを目指す。
- 13～ 自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する。

金曜 2 時限目

春学期 ラテン入門（ジルバ ルンバ チャチャチャの基礎を 4～5 週間ずつ行う）

秋学期 スタンダード入門（ブルース タンゴ ワルツの基礎を 4～5 週間ずつ行う）

金曜 3 時限目

春学期 初級・タンゴ

秋学期 初級・ワルツ

それぞれの種目を半期間通して行う。

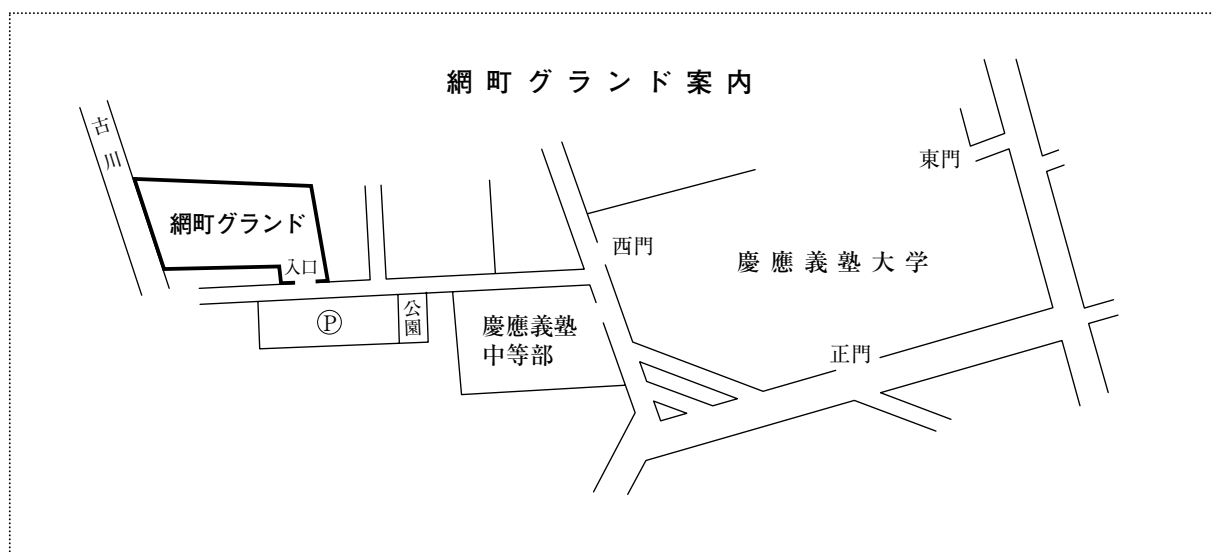
- 1～3 週 種目の特徴（リズム、姿勢、ホールド）を理解する。
- 4～8 週 数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるようになる。
- 9～12 週 さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを目指す。
- 13～ 自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する。

〔履修者へのコメント〕

ガイダンス週間に種目のビデオを見ながら、それぞれの踊りの説明をします。必ず参加して内容を把握して選択してください。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（各時限に簡単なレポート提出により、理解度 20、授業態度 20、出席情況 60 で採点）



福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからです。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることにもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』・資料集・叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、24名の所員、10名の顧問、29名の客員所員、7名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが、提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会をつくることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は以下の6講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

(慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>)

近代日本研究Ⅰ（春学期）（2）

—『学問のすゝめ』とその時代—

法学部教授 **岩谷 十郎**
経済学部教授 **小室 正紀**
商学部教授 **牛島 利明**
教職課程センター教授 **米山 光儀**

授業科目の内容：

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編に分けて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制発布、鉄道初開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正、民選議院設立建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱など、制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の次期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけでなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト：

福澤諭吉『学問のすゝめ』（各種の版がある。どの版でもよい。）

参考書：

福澤諭吉『福翁自伝』（各種の版がある。どの版でもよい。）
慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。

授業の計画：

第1回 はじめに
第2～4回 初編～4編（明治5年2月～7年1月）
第5～7回 5編～8編（明治7年1月～7年4月）
第8～10回 9編～12編（明治7年5月～7年12月）
第11～13回 13編～17編（明治7年12月～9年11月）

履修者へのコメント：

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

成績評価方法：

試験の結果による評価（試験方法については、第1回の講義で説明する。）

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

近代日本研究Ⅱ（秋学期）（2）

福澤諭吉の近代化構想

福澤研究センター専任講師 **都倉 武之**

授業科目の内容：

福澤諭吉は明治維新前後の世の中の劇的な変化について「一身にして二生を経るが如し」と述べたことがある。そして、彼は68年の生涯を、34歳で迎えた明治維新によって文字通り二分しているのである。しかし福澤は一般に、明治維新前後の著作活動、たとえば『西洋事情』『学問のすゝめ』などを著した啓蒙思想家として評価されるにとどまり、福澤の本舞台であったといっても過言ではない明治期の活動は、研究者だけのものになっている感が否めない。本講義では多様な側面を有した明治期の福澤の活動を最新の研究動向を踏まえながら取り上げ、受講する塾生に福澤諭吉という人物のイメージを新たに描き出してもらうことを目的とする。

テキスト：

指定しない。

参考書：

適宜講義中に紹介する。

授業の計画：

1. 福澤の原点
2. 明治維新と福澤
3. 『学問のすゝめ』と「実学」

4. 自由民権運動と明治十四年の政変
5. 構内史蹟見学
6. 福澤の国内政治論
7. 福澤の国際政治論・外交論
8. 明治政府と福澤
9. 福澤門下生と実業界
10. 朝鮮問題をめぐって
11. 日清戦争と福澤
12. 慶應義塾と福澤
13. 「独立自尊」とは

履修者へのコメント：

「福澤諭吉入門」と位置付けて講義を行うので予備知識は求めない。福澤の思想に触れてみたい学生を広く歓迎する。

成績評価方法：

試験の結果による評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

近代日本研究演習Ⅰ（春学期）（2）

雑誌・新聞記事からよむ明治

—福澤諭吉が関与した雑誌・新聞を通じて—

福澤研究センター准教授 **西澤 直子**

授業科目の内容：

この演習では福澤諭吉が関与した雑誌や新聞を取り上げ、論説だけではなく社会面や時には広告欄も読むことによって、近代化が進みつつあった明治期日本の実情がいかなるものであったのかを考えたい。

テキスト：

授業時間に配布する。

参考書：

授業中に適宜紹介する。

授業の計画：

1. 序論 福澤諭吉と関与した雑誌・新聞について
2. 『民間雑誌』『家庭叢談』（明治7年～10年）を読む
3. 『田舎新聞』『田舎新報』（明治9年～18年）を読む
4. 『時事新報』（明治15年～のち産経新聞に併合）を読む
いずれも第1回目に創刊の経緯やその雑誌・新聞の歴史や社会的背景を学び、2回目3回目では福澤や福澤門下生が寄せた論説を取り上げ、4回目で論説以外の記事や広告を読む。4回目には、それまでで読んだ記事で知りえたことを報告しあう時間を設ける。

履修者へのコメント：

授業を聞くだけではなく、積極的に自分の意見を述べてもらいたい。

成績評価方法：

レポートによる評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時。

近代日本研究演習Ⅱ（秋学期）（2）

福澤書簡の研究

講師 **松崎 欣一**

授業科目の内容：

福澤および近代日本研究の基礎史料としての福澤書簡について「授業の計画」に示す視点からの検討を行う。あわせて、写真版等により原書簡の読解演習を実施したい。

テキスト：

『福澤諭吉の手紙』（岩波文庫）

参考書：

・『福澤諭吉書簡集』全9巻（岩波書店刊）
・『福澤諭吉著作集』全12巻（慶應義塾大学出版会刊）
・富田正文『考証福澤諭吉』上・下（岩波書店刊）

授業の計画：

1) 福澤書簡概観…『書簡集』編纂の経緯、名宛人、年次別発信数等について。
2) 古文書学的視点からの検討…福澤書簡の形状、文体、用字、用語、筆跡等。

- 3) 福澤の伝記史料としての検討…新たな「福澤年譜」編成のための基礎的作業として。
- 4) 近代日本の同時代史的史料としての検討…福澤書簡の名宛人は約600人に及ぶ。その多くは、福澤と名宛人相互の私的な通信にとどまらず、周辺の人事やその時々 of 社会的諸事象に話題が及んでいる。いくつかのテーマを設定して検討する。
- 5) 書簡の読解演習…『福沢諭吉の手紙』(岩波文庫)をテキストとし、また原書簡の写真版等により読解の実習を行う。福澤研究センター所蔵の原書簡に触れる機会も作りたい。

履修者へのコメント：

「授業の計画」の具体的な展開は、受講者の所属、専攻、研究課題等を確認してあらためて考慮したい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・出席状況による評価

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉Ⅰ（春学期）(2)

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。

福澤の女性論・家族論は、同時代のみならず大正期・昭和期に入っても、たとえば与謝野晶子、本間久雄、山高しげりなど多くの人々に高い評価を得ながら読み継がれてきた。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり、つまりは近代化の過程において、福澤が提示した課題が克服され得なかったことを示している。近代日本において形成された女性像・家族像は、福澤の構想とは異なるものであった。

この授業では、福澤の著作を読むとともに、同時代の他者による女性論を比較講読しながら、福澤の意図はどこにあったのか、また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論がいかなるものであったのかを考察し、その視点から近代日本について考えたい。

授業は通常講義形式で行い、最後に履修者おのおのが興味をもった論説あるいは人物を取り上げ、意見を発表する場を設ける。Ⅰでは明六社、自由民権運動活動家、福澤諭吉の明治10年代までの女性論を扱う。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻（慶應義塾大学出版会、2003年）
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 明六社の女性論
 - 1) 森有礼「妻妾論」・加藤弘之「男女同権の流弊論」・津田真道「男女同権弁」
 - 2) 福澤諭吉「男女同数論」
- 3 自由民権運動の中の女性論
 - 1) 土居光華『文明論女大学』
 - 2) 岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
 - 3) 植木枝盛『東洋の婦女』
- 4 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 「中津留別の書」『学問のすゝめ』
 - 2) 「日本婦人論」『日本婦人論後編』
 - 3) 『男女交際論』『男女交際余論』
- 5 報告と討論

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（授業中に意見発表の時間があります。）

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉Ⅱ（秋学期）(2)

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。明治期日本女性論と福澤諭吉Ⅰを参照のこと。

授業は通常講義形式で行い、履修者各自が興味をもった論説あるいは人物を取り上げて、意見を発表する時間を設ける。Ⅱでは明治20年以降の福澤の論説およびキリスト教主義者、儒教主義者の女性論を扱い、また福澤女性論の系譜について考える。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻（慶應義塾大学出版会、2003年）
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 『日本男子論』
 - 2) 『女大学評論・新女大学』
- 3 キリスト教主義の女性論
 - 1) 矢島楫子
 - 2) 潮田千勢子
- 4 儒教主義の女性論
 - 1) 大江スミ子『女房説法鉄砲三ぼう主義』
 - 2) 井上哲次郎・三輪田元道ほか『女大学の研究』
- 5 福澤女性論・家族論の系譜
 - 1) 鎌田栄吉
 - 2) 日原昌造
- 6 報告と討論

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（授業中に意見発表の時間があります。）

質問・相談：

随時。

外国語教育研究センター

外国語教育研究センターでは、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語、アラビア語、およびイタリア語の9つの外国語について特設科目を設置しています。これは、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行うものです。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています（オープン科目）。

外国語教育研究センターでは、塾生向けの講演会や、春休みに行う海外短期語学研修、および高校生から大学院生を対象としたアカデミック・ライティング・コンテストなどを企画しています。

詳細が決まり次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者を募る予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター特設科目の一覧を掲載します。ガイダンスや、履修の手続き、および各科目の詳しい講義内容ならびにオープン科目一覧については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

なお、『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』は外国語教育研究センター事務室でも配布します。

ガイダンス日程

4月6日(金) 12:30～14:00 531 番教室

外国語教育研究センターが履修を許可した科目は、必ず学事センターにて履修申告しなければなりません。

外国語教育研究センター特設科目一覧（三田）

*履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。

*科目名に(a)(b)と表記されている科目は春(a)・秋(b)をセットで履修することが義務付けられている科目です。

*科目名に(I)(II)と表記されている科目は春(I)と秋(II)どちらかひとつの履修あるいは両方の履修が可能です。

*2007年2月から3月に実施した海外研修に参加した学部学生のみが履修できる海外研修科目は、日吉のシラバスに掲載しています。

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	英語最上級 アドバンスト英語(a) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)	横川 真理子	春		水・4	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語(b) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)			秋			半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語		春	秋			通年	2
	英語翻訳(a) (Lost in Translation)	アーマー, アンドルー	春		火・2	15	半期	1
	英語翻訳(b) (Lost in Translation)			秋			半期	1
	英語翻訳		春	秋			通年	2
	英語テスト対策 TOEFL(Ⅰ) (TOEFL Strategies (Listening & Speaking))	バロウス, リチャード	春		木・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEFL(Ⅱ) (TOEFL Strategies (Reading & Writing))			秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ)(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Listening))	バロウス, リチャード	春		火・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ)(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Reading))			秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ) (TOEICテストの対策と実践演習)	和田 朋子	春		火・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ) (TOEICテストの対策と実践演習)			秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ) (Building Listening Skills)	横川 真理子	春		水・3	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ) (Building Reading, Listening and Test-taking Skills)			秋			半期	1
英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ)	狩野 みき	春		月・4	30	半期	1	
英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ)			秋			半期	1	

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	英語経済・金融(Ⅰ)* (208パターンでおぼえる経済英語の基本用例)	日向 清人	春		月・3	30	半期	1
	英語経済・金融(Ⅱ)* (208パターンでおぼえる金融と会計の英語)			秋			半期	1
	英語法律・法務(Ⅰ)* (208パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向 清人	春		月・4	30	半期	1
	英語法律・法務(Ⅱ)* (208パターンでおぼえる英文契約書の英語)			秋			半期	1
	英語アカデミック・ライティング(Ⅰ) (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春		火・1	20	半期	1
	英語アカデミック・ライティング(Ⅱ) (Writing an Academic Paper in English)			秋			半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション(Ⅰ)(初級)	ファロン, ルース	春		月・3	25	半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション(Ⅱ)(初級)			秋			半期	1
ドイツ語	ドイツ語表現技法4(a) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春		月・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法4(b) (中・上級聴解・口頭表現)			秋			半期	1
	ドイツ語表現技法4		春	秋			通年	2
	ドイツ語表現技法5(a) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル=タカヤマ, メヒティルド	春		火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法5(b) (中・上級文章表現法)			秋			半期	1
	ドイツ語表現技法5		春	秋			通年	2
フランス語	フランス語表現技法3(Ⅰ) (DELTA (A1, A2) 対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法3(Ⅱ) (DELTA (A1, A2) 対応クラス)			秋			半期	1
	フランス語表現技法4(Ⅰ) (DELTA (B1, B2) 対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法4(Ⅱ) (DELTA (B1, B2) 対応クラス)			秋			半期	1
	フランス語表現技法5(Ⅰ) (DALF (C1, C2) 対応クラス)	ペリセロ, クリスティアン・アンドレ	春		木・2	20	半期	1
	フランス語表現技法5(Ⅱ) (DALF (C1, C2) 対応クラス)			秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法1(Ⅰ) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	春		金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法1(Ⅱ) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)			秋			半期	1
	ロシア語表現技法2(Ⅰ) (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春		水・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法2(Ⅱ) (ロシア語で発信しよう)			秋			半期	1
中国語	中国語聴解2(Ⅰ)(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春		水・2	25	半期	1
	中国語聴解2(Ⅱ)(最上級) (時事中国語)			秋			半期	1
	中国語表現技法2(Ⅰ)(最上級) (読解と翻訳)	蔣 文明	春		月・5	25	半期	1
	中国語表現技法2(Ⅱ)(最上級) (作文と翻訳)			秋			半期	1

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
スペイン語	スペイン語表現技法3(Ⅰ)(上級) (スペイン語のさらなる向上とその文化的・社会的背景に対するより深い理解)	安藤 万奈	春		金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法3(Ⅱ)(上級) (スペイン語のさらなる向上とその文化的・社会的背景に対するより深い理解)			秋			半期	1
インドネシア語	インドネシア語ベーシック1(a)	野村 亨 トトク, スハルディアント	春		月・3 金・2	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック1(b)			秋			半期	2
	インドネシア語ベーシック1		春	秋			通年	4
	インドネシア語ベーシック2(a)	野村 亨 トトク, スハルディアント	春		月・2 金・1	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック2(b)			秋			半期	2
	インドネシア語ベーシック2		春	秋			通年	4

※ 文学部生は「英語経済・金融(Ⅰ)・(Ⅱ), 英語法律・法務(Ⅰ)・(Ⅱ)」は自由科目としてのみ履修可能です(総合教育科目(系列外)としては履修できません)。

2007 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00～10:30		10:45～12:15		13:00～14:30		14:45～16:15		16:30～18:00	
月			インドネシア語 ベーシック 2(a) インドネシア語 ベーシック 2	野村	英語経済・金融(Ⅰ) 英語オーラル・ プレゼンテーション(Ⅰ) (初級) ドイツ語表現技法 4(a) ドイツ語表現技法 4 フランス語 表現技法 3(Ⅰ) インドネシア語 ベーシック 1(a) インドネシア語 ベーシック 1	日向 ファロン 三瓶 ルカルヴェ 野村	英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ) 英語法律・法務(Ⅰ) フランス語 表現技法 4(Ⅰ)	狩野 日向 ルカルヴェ	中国語表現技法 2(Ⅰ) (最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング(Ⅰ)	和田	英語翻訳(a) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ)	アーマー 和田			ドイツ語表現技法 5(a) ドイツ語表現技法 5	ドゥッペル ニカヤマ	英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ)上級	バロウス
水			中国語聴解 2(Ⅰ) (最上級)	山下	英語テスト対策 TOEIC(Ⅰ) ロシア語 表現技法 2(Ⅰ)	横川 宮澤	英語最上級 アドバンスト英語(a) 英語最上級 アドバンスト英語	横川		
木			フランス語 表現技法 5(Ⅰ)	ベリセロ					英語テスト対策 TOEFL(Ⅰ)	バロウス
金	インドネシア語 ベーシック 2(a) インドネシア語 ベーシック 2	トトク	インドネシア語 ベーシック 1(a) インドネシア語 ベーシック 1	トトク	ロシア語 表現技法 1(Ⅰ)	熊野谷	スペイン語表現技法 3 (Ⅰ)(上級)	安藤		
土										

2007 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00～10:30		10:45～12:15		13:00～14:30		14:45～16:15		16:30～18:00	
月			インドネシア語 ベーシック 2(b) インドネシア語 ベーシック 2	野村	英語経済・金融(Ⅱ) 英語オーラル・ プレゼンテーション(Ⅱ) (初級) ドイツ語表現技法 4(b) ドイツ語表現技法 4 フランス語 表現技法 3(Ⅱ) インドネシア語 ベーシック 1(b) インドネシア語 ベーシック 1	日向 ファロン 三瓶 ルカルヴェ 野村	英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ) 英語法律・法務(Ⅱ) フランス語 表現技法 4(Ⅱ)	狩野 日向 ルカルヴェ	中国語表現技法 2 (Ⅱ)(最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング(Ⅱ)	和田	英語翻訳(b) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ)	アーマー 和田			ドイツ語表現技法 5(b) ドイツ語表現技法 5	ドゥッペル ニカヤマ	英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ)上級	バロウス
水			中国語聴解 2(Ⅱ) (最上級)	山下	英語テスト対策 TOEIC(Ⅱ) ロシア語 表現技法 2(Ⅱ)	横川 宮澤	英語最上級 アドバンスト英語(b) 英語最上級 アドバンスト英語	横川		
木			フランス語 表現技法 5(Ⅱ)	ベリセロ					英語テスト対策 TOEFL(Ⅱ)	バロウス
金	インドネシア語 ベーシック 2(b) インドネシア語 ベーシック 2	トトク	インドネシア語 ベーシック 1(b) インドネシア語 ベーシック 1	トトク	ロシア語 表現技法 1(Ⅱ)	熊野谷	スペイン語表現技法 3 (Ⅱ)(上級)	安藤		
土										

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季および春季休業中に海外で在外研修プログラムを開講しています。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

ここに記載のあるもののほか、韓国の名門大学で英語により韓国の政治・経済・社会・文化を学ぶ「延世大学春季講座」も新たに開講しました。形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、本学の教職員が同行する講座もあります。

また、現地への出発前には事前研修を実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する場合があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」

詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

夏季講座ガイダンス	4月4日(水) 矢上 11-41 教室	12:00~13:00	4月5日(木) 三田 526 教室	10:45~12:15
	4月4日(水) 藤沢 Ω11 教室	16:10~17:40	4月5日(木) 日吉 J29 教室	17:00~18:30

夏夏季講座オンラインレジストレーション期限: 4月10日(火) 予定

夏季講座募集期間: 4月11日(水)、12日(木) 一次合格発表: 4月19日(木) (予定)

面接審査: 4月21日(土) (予定) 夏季講座選考結果発表: 4月27日(金) (予定)

① 慶應義塾大学 — ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義、ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション、エッセイの作成・提出を中心としており、ケンブリッジ大学の教員が指導にあたります。

〔現地研修期間〕2007年8月6日(月)~9月5日(水) (予定) 5月~7月に事前研修を2回程度行います。

〔研修内容〕講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)。エッセイ作成・提出(週末)。

〔開講予定科目〕※6科目の中から3科目を選択して履修。

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior (Zoology).

〔単位数〕

4単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕60名

② 慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等で構成されています。

また、大学内での寮生活や、講演会、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

〔現地研修期間〕2007年7月27日(金)~8月14日(火) 4月下旬より事前研修(6回程度)、帰国後には事後研修(1回)を行います。

〔研修内容〕

ウィリアム・アンド・メアリー大学の教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイなど。

〔単位数〕

4単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕40名

③ 慶應義塾大学 — ワシントン大学夏季講座

ワシントン大学はアメリカ北西部ワシントン州シアトルにある 1861 年に創立した歴史のある学校で、ワシントン州最大の大学です。豊かな自然に恵まれたキャンパスはとても広大で美しく、緑が多い環境の中で落ち着いて学業に専念することができます。

「環境」を多面的な視点から学ぶ講義・ワークショップとディスカッションのほか、フィールドトリップ、ワシントン大学の学外施設を利用した実地自然体験宿泊旅行などをバランスよく配置しています。

〔現地研修期間〕2007 年 8 月 22 日（水）～9 月 13 日（木） 5 月～7 月に事前研修を 2 回程度行います。

〔研修内容〕講義／ワークショップ、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション

体験宿泊旅行：レーニア山、エコロジーウォーク（森林学）、フライデー・ハーバー・ラボ（海洋学）

〔単位数〕4 単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕30 名

④ 慶應義塾大学 — 西安交通大学中国語・中国文化夏季講座（学部生対象）

西安交通大学は、工学、医学のみならず文学、法学まで 9 つの学科を擁する国家教育部直属の総合重点大学で 2006 年に創立 110 周年を迎えました。国際交流も幅広く行っており、中国で最も早く留学生を受け入れ始めた大学の 1 つです。

〔現地研修期間〕2007 年 8 月 30 日（木）～9 月 17 日（月）（予定）

〔研修内容〕中国語授業、中国文化講義、太極拳などのアクティビティ、中国の大学生との交流活動、西安市の名所旧跡の見学

〔単位数〕2 単位（予定） ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕15 名（学部生対象）

⑤ 慶應義塾大学 — パリ政治学院春季講座

パリ政治学院は、フランスのエリート養成機関『グランゼコール』の 1 つで、フランス現大統領のシラク氏をはじめ、歴代の政界・財界の著名人の母校として大変有名です。

本講座は、加盟国の増大により拡大する EU の政治・社会・財政・文化の問題のみならず、EU 対アジアや EU 対米国の関係など、様々なテーマを取り扱う非常に中身の濃いプログラムになっています。

プログラム期間中に、各自が決めた研究テーマに沿ってエッセイを書き、プログラム修了時には、パリ政治学院からディプロマが授与されます。また、最終週にはベルギーの首都ブリュッセルにある EU の諸機関を実際に訪問し、EU の組織に対する理解を深める機会が設けられています。

講義はすべて英語で行われますが、午後にはフランス語の授業もありますので、2 カ国語を同時にマスターできるのもこの講座の魅力となっています。

プログラムの詳細は、10 月ごろ国際センターホームページで発表します。

〔現地研修 2006 年度参考〕 2007 年 2 月 16 日～2007 年 3 月 17 日

〔講義内容 2006 年度参考〕共通ブロックと、選択ブロックの中から 2 つの計 3 ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about ?”

講義例)

“The History of Europe: Once upon a time...”

“Contemporary history and institutions of Europe”

“The values of the Europeans”

“The European identities”

“The economies performances of European economies”

“European welfare states and the dynamics of generations”

“Democracy at the European level”

“National political parties in Europe: Do they have a European vision ?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

単位取得：4 単位（卒業に必要な単位として認められることがあります。ただし、次年度春学期設置科目として認定の為、参加時に最終学年の場合は対象外となります。）

定 員：20 名

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探究します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、ならびに別科生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目 2 単位
 （なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）

3. 手続方法

履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板に掲示されます。
6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「教科書」「参考書」「毎週の計画」「コメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

2007年度 国際研究講座 (2007-2008 International Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
地域研究(アジア・オセアニア) Area Study: Asia, Oceania					
法 F(Law)	春 Spring	月 Mon	3	現代東南アジア論特殊研究 I SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 1	山本 信人 Yamamoto, Nobuto
	春 Spring	火 Tue	3	オーストラリアの歴史 STUDIES IN AUSTRALIAN HISTORY	デイ, デイヴィッド Day, David
	春 Spring	水 Wed	3	現代中国社会 CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	ファーラー, グラシア Farrer, Gracia
	春 Spring	木 Thu	4	アジアの音楽 LISTENING TO ASIA	ホッフマン, T・M Hoffman, T.M.
法研 GS(Law)	春 Spring	水 wed	3	日韓関係の政治 (*) THE POLITICS OF KOREA-JAPAN RELATIONS (*)	リ, ジョンフン Lee Jung-Hoon
法研 GS(Law)	秋 Fall	月 Mon	4	国際政治論特殊研究 (*) SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS (*)	山本 信人 Yamamoto, Nobuto
	秋 Fall	月 Mon	5	東南アジア世界の諸相 WORLD OF SOUTHEAST ASIA	野村 亨 Nomura, Toru
	秋 Fall	水 wed	5	開発と社会変容 DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	倉沢愛子 Kurasawa, Aiko
	秋 Fall	木 Thu	3	アジア諸国におけるビジネスマネジメント BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	トビン, ロバート I. Tobin, Robert I.
	秋 Fall	金 Fri	5	現代インド事情 INDIA TODAY	西村 祐子 Nishimura, Yuko
地域研究(北米・南米) Area Study: North America, South America					
	春 Spring	火 Tue	5	世界政治におけるラテンアメリカ LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	アントリネス, マリオ Antolinez, Mario
	春 Spring	金 Fri	4	アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策 AMERICAN STUDIES	ウィリアムス, ムケーシュ Williams, Mukesh
法研 GS(Law)	春 Spring	火 Tue	4	アメリカの東アジア政策 (*) UNITED STATES FOREIGN POLICY TOWARD EAST ASIA (*)	ジャヌジ, フランク Jannuzi, Frank
	秋 Fall	火 Tue	5	カナダという国とカナダの国際的な役割 CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	イエローリーズ, ジェームズ Yellowlees, James
	秋 Fall	水 Wed	3	地域文化論(アメリカ) AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	奥田 暁代 Okuda, Akiyo
地域研究(ヨーロッパ・ロシア) Area Study: Europe, Russia					
	春 Spring	金 Fri	3	ウクライナとロシア UKRAINE AND RUSSIA	ナコルチェフスキー, アンドリイ Nakorchevski, Andriy
	秋 Fall	木 Thu	5	ドイツ文化と社会 GERMAN CULTURE AND SOCIETY	ワニェク, ヤクリーン Waniek, Jacqueline
法研 GS(Law)	秋 Fall	木 Thu	5	プロジェクト科目II・欧州統合 (*) PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)	田中 俊郎 Tanaka, Toshiro
経済 F(Economics)	秋 Fall	木 Thu	5	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	細谷 雄一 Hosoya, yuuichi
	秋 Fall	木 Thu	5		林 秀毅 Hayashi, Hideki
地域研究(アフリカ) Area Study: Africa					
	春 Spring	金 Fri	4	アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味 AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	近藤 英俊 Kondo, Hidetoshi
	秋 Fall	火 Tue	4	グローバルヴィレッジ構築に向けて BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	フリードマン, デビッド Freedman, David
国際社会 Global Community					
	春 Spring	火 Tue	4	国際協力の実態 THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION	バンバン, ルディアント Bambang, Rudyanto
	春 Spring	水 Wed	5	国際人権法 INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	細谷 明子 Hosotani, Akiko
	春 Spring	木 Thu	3	ヘルスケア組織論 NGOS, NPOS AND CBOS	カストロ ヴァスケス, ヘナロ Castro-Vazquez, Genaro
	春 Spring	金 Fri	3	国際コミュニケーション INTERNATIONAL COMMUNICATION	伊藤 陽一 Ito, Youichi
	秋 Fall	水 Wed	4	国際関係 INTERNATIONAL RELATIONS	セツト, アフターブ Seth, Aftab
	秋 Fall	木 Thu	3	現代の国際問題と国連の役割 CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	マリク, ラビンダー Malik, Rabinder
	秋 Fall	金 Fri	4	国際開発協力論 INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	後藤 一美 Goto, Kazumi

2007年度 国際研究講座 (2007-2008 International Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
国際経済・ビジネス Global Economy, Global Business					
商 F(Business&Commerce)	春 Spring	水 Wed	1 1	産業史各論(科学技術政策史) HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY	ルイス, ジョナサン Lewis, Jonathan
	春 Spring	木 Thu	4 4	グローバルビジネスにおける革新と戦略 INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS	トビン, ロバート I. Tobin, Robert I.
商研 GS(Business&Commerce)	春 Spring	木 Thu	4 4	会計学 (*) ACCOUNTING (*)	伊藤 眞 Ito, Makoto
商研 GS(Business&Commerce)	秋 Fall	火 Tue	2 2	金融特論 (*) ADVANCED STUDY OF FINANCE (*)	深尾 光洋 Fukao, Mitsuhiro
商研 GS(Business&Commerce)	秋 Fall	木 Thu	5 5	国際経済 (*) INTERNATIONAL ECONOMY (*)	小島 明 Kojima, Akira
文化・異文化理解 Culture/Cross-cultural Understanding					
	春 Spring	月 Mon	5 5	歴史としての文学 LITERATURE AS HISTORY	チャンドラ, エリザベス Chandora, Elizabeth
	春 Spring	水 Wed	6 6	文化・文化適応とアイデンティティ CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	横川 真理子 yokokawa mariko
	秋 Fall	月 Mon	5 5	比較映画論 VISIONS OF THE PAST	エインジ, マイケル Ainge, Michael W.
	秋 Fall	水 wed	5 5	異文化と自己理解 CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	ショールズ, ジョセフ Shaules, Joseph

特に記載が無いものは国際センター設置科目。Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center.

(*)この科目は、学部生履修不可(This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students.)

2007年度 日本研究講座 (2007-2008 Japanese Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
文化 Culture					
	春 Spring	月 Mon	4	美術を「よむ」- 日本美術史入門 INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	村井 則子 Murai, Noriko
	春 Spring	月 Mon	6	日本の話しことばと言外の意味 LANGUAGE BEYOND GRAMMER	キム, アジョン Kim, Angela A-Jeoung
	春 Spring	水 Wed	3	夢のあと THE AFTERMATH OF DREAMS	アーマー, アンドルー Armour, Andrew
	春 Spring	水 wed	4	20世紀の日本と欧米の小説 TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	レイサイド, ジェイムス Raeside, James M.
	秋 Fall	水 Wed	3	日本の文学 JAPANESE LITERATURE	アーマー, アンドルー Armour, Andrew
	秋 Fall	水 Wed	6	日本語の話しことばと言外の意味 LANGUAGE BEYOND GRAMMER	キム, アジョン Kim, Angela A-Jeoung
	秋 Fall	木 Thu	6	アートワークショップ/日本のアートと文化 ARTS/ ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE	菱山 裕子 Hishiyama, Yuko
理工研 GS(Science&Tech)	秋 Fall	金 Fri	2	科学技術文化特論 (*) (矢上開講)	ドゥウルフ, チャールズ De Wolf, Charles
	秋 Fall	金 Fri	2	SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (*) (Yagami Campus)	
思想・宗教 Thought, Religion					
	秋 Fall	火 Tue	3	日本キリスト教史 CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY	ボールハッチェット, ヘレン Ballhatchet, Helen
	秋 Fall	金 Fri	3	日本の宗教: 救済の探求 RELIGIONS IN JAPAN : IN SEARCH OF SALVATION	ナコルチェフスキー, アンドリイ Nakorchevski, Andriy
歴史 History					
	秋 Fall	月 Mon	4	近代日本の対外交流史 MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD	太田 昭子 Ohta, Akiko
	秋 Fall	火 Tue	5	政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交 JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	飯倉 章 Iikura, Akira
社会 Society					
	春 Spring	月 Mon	3	異文化コミュニケーション1 INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	春 Spring	火 Tue	3	英国と米国のマスコミに描かれた日本 JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	キンモンズ, アール Kinmonth, Earl H.
	春 Spring	木 Thu	4	日本人の心理学(1) JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	春 Spring	木 Thu	5	新市民社会論 IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES	ボックマン, デイヴ Bockmann, David 西村 祐子 Nishimura, Yuko
	秋 Fall	月 Mon	3	異文化コミュニケーション2 INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	秋 Fall	月 Mon	5	家族の近代 THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	ノッター, デビッド Notter, David
	秋 Fall	火 Tue	4	多民族社会としての日本 MULTIETHNIC JAPAN	柏崎 千佳子 Kashiwazaki, Chikako
	秋 Fall	木 Thu	4	日本人の心理学(2) JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
経済・ビジネス Economy, Business					
	春 Spring	火 Tue	5	日本企業の経営戦略と管理手法 CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN	稲葉 エツ Inaba, Etsu
商 F(Business&Commerce)	春 Spring	火 Tue	4	日本における外資系企業 FOREIGN COMPANIES IN JAPAN	ハリス, グレアム Harris, Graham
	春 Spring	木 Thu	5	ジャパニーズ・エコノミー JAPANESE ECONOMY	小島 明 Kojima, Akira
商研 GS(Business&Commerce)	春 Spring	木 Thu	6	日本のビジネスマネジメント MANAGEMENT IN JAPAN	ハギリアン, パリッサ Haghirian, Parissa
	春 Spring	金 Fri	5	日本の経済システムとその特殊性 STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM	伊藤 規子 Ito, Noriko
	秋 Fall	月 Mon	6	日本経済の展望 ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	市川 博也 Ichikawa, Hiroya
	秋 Fall	木 Thu	4	国際経営比較 INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	吉田文一 Yoshida, Fumikazu
	秋 Fall	金 Fri	3	日本の経営 JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	梅津 光弘 Umezu, Mitsuhiro
法律 Law					
	秋 Fall	金 Fri	5	日本法の制度と実態 INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	小林 節 Kobayashi, Setsu

特に記載が無いものは国際センター設置科目。Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center.

(*)この科目は、学部生履修不可(This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students.)

国際研究講座（INTERNATIONAL STUDIES）

現代東南アジア論特殊研究 I

(Spring)

SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 1

山本 信人

法学部教授

Nobuto Yamamoto

Professor, Faculty of Law

Sub Title:

The Chinese in Modern Southeast Asia

Course Description:

This seminar aims to look at how conventional scholarship on Southeast Asia constructed the Chinese in terms of economic activities, religion, gender and subethnicity, and how new trends of studies address novel aspects of Chinese identities and activities in local, regional, global and transnational contexts. We will concentrate on one book on the Chinese in Southeast Asia.

歴史としての文学

(Spring)

LITERATURE AS HISTORY

チャンドラ, エリザベス

国際センター講師

Elizabeth Chandra

Lecturer, International Center

Sub Title:

The Colonial Experience

Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of literature as history. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literature provides what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to preserve. More important, it has the capacity to represent the fine curves of a political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such “sensitive” historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people’s particular schemes of culture. The fact that most written records from the colonial period were produced by and speak from the point of view of “power” further complicates historical reconstruction of the experience. In this course we will read novels and short story written by colonial agents and colonized persons, and attempt to catch glimpses on its “micro sites” as diverse and intimate as domestic order, sexual exchange, gossip, humor, paranoia, and melancholia.

オーストラリアの歴史

(Spring)

STUDIES IN AUSTRALIAN HISTORY

デイ, デイヴィッド

国際センター講師

David Day

Lecturer, International Center (Honorary Associate, History Program, LaTrobe University)

Sub Title:

Claiming a Continent: The history of Australia, 1788–2006

Course Description:

The course will examine how Europeans asserted legal ownership to the continent of Australia before proceeding over the following two centuries to buttress that legal claim with claims of effective and moral ownership. Like many other societies across the world, European Australians struggled to make land that was fruitfully occupied by its original inhabitants, in this case the Aborigines, as their own. That struggle continues even today, with Australia still being shaped by the problematic circumstances of its origins and the ongoing struggle to become secure in its possession of the continent.

国際協力の実態

(Spring)

THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION

バンバン, ルディアント

国際センター講師（和光大学准教授）

Bambang Rudyanto

Lecturer, International Center (Associate Professor, Wako University)

Sub Title:

Experience-based International Cooperation

Course Description:

The course on International Cooperation is based on the experiences of the lecturer, who worked at the United Nations(UNCRD), the Japanese ODA Institution (JBIC), the International Organization on Disaster Reduction (ADRC), and a private international consultant company. The contents are practical, with specific issues such as community based development, the impact from the Sumatra tidal wave, the use of Information Technology(IT) as

development tools, and other trendy topics. The course is a multi-disciplinary field.

The students are encouraged to have discussion in the class, and there will be some activities outside class. Some audio-visual material will be also presented.

世界政治におけるラテンアメリカ

(Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

産業史各論 (科学技術政策史)

(Spring)

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン

商学部講師

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course provides an overview of science and technology policy, from government, enterprise and broader social perspectives. It introduces some key research and presents a variety of case studies from the field on information technology.

I use both Japanese and English in the lecture.

現代中国社会

(Spring)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

ファーラー, グラシア

国際センター講師

Gracia Liu Farrer

Lecturer, International Center

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

国際人権法

(Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Subject of the class:

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of

nongovernmental organizations; etc.

- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
- (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
- (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

文化・文化適応とアイデンティティ

(Spring)

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

横川真理子

国際センター講師

Mariko Muro Yokokawa

Lecturer, International Center

Sub Title:

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響 How communication and understanding are affected by culture

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice. The instructor will provide basic guidelines on how to conduct ethnographic (observational) research.

ヘルスケア組織論

(Spring)

NGOS, NPOS AND CBOS

カストロ ヴァスケス, ヘナロ

国際センター講師

Genaro Castro-Vázquez

Lecturer, International Center

Sub Title:

The provision of health care

Course Description:

Throughout the world the provision of health care is labour intensive. The functioning of national systems for health care and improvement around the globe depends upon financial capital, enlightened political leadership, hospitals, equipment and medicines.

However, the single most important factor in determining the success of healthcare delivery is the workforce: the clinical and non-clinical staff members that are in direct contact with the recipients of health care services. The knowledge and skills, attitudes and motivation of healthcare workers can make or break even the most carefully designed system. Equipment and medicines are necessary to improve the productivity and effectiveness of health professionals; but without the professionals little if any health improvement at all is possible.

Non-governmental Organisation (NGO) to mean any grouping of people who have a common mission to meet a particular need in their society or community, and are not formed or controlled by government. Throughout the world groups of people identify needs in their communities which government institutions are either not designed to meet or which government institutions are unable to meet because of the unavailability of resources, and the government having other priorities. This is particularly the case in poor countries. It does, however, happen that private citizens are compelled to organize themselves to meet certain needs because government is not willing to address these needs, even where resources may be available. This happens in oppressive regimes and dictatorships of various kinds. So, an NGO may address a need which is normally not a concern of government, but NGO's address needs which in a normal society should be addressed by government.

アジアの音楽

(Spring)

LISTENING TO ASIA

ホッフマン, T・M

国際センター講師

T. M. Hoffman

Lecturer, International Center

Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン, ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

ウクライナとロシア

(Spring)

UKRAINE AND RUSSIA

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部教授

Andriy Nakorchevski

Professor, Faculty of Letters

Sub Title:

Two Histories

Course Description:

During this course we will discuss two different approaches to what is usually interpreted as a common history of Ukraine and Russia. We will challenge the so called “standard” interpretation of historical events common to both countries and will discuss how contrasting could be approaches of different people to one and the same historical episode or personality. We will see how contemporary politics influence interpretation of events in the past and to what extent a current situation is determined by so called “historical memory”. Hopefully, in the end will get better understanding of what is going on in Ukraine and Russia now and what we can expect in the future.

At least some preliminary knowledge of Ukrainian and Russian history is required.

国際コミュニケーション

(Spring)

INTERNATIONAL COMMUNICATION

伊藤陽一

国際センター講師

Youichi Ito

Lecturer, International Center

Sub Title:

Studies on information and culture that flow beyond national borders

Course Description:

This course deals with problems, theories and policies regarding information culture and language that flow beyond national borders.

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

Course Outline: The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: 'Old' and 'New' immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock'n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865-1917); Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920-2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war on terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and evolving nations of national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?
- f) Is the rise of the modern West a pure or impure concept? (Chris Bayly and Bernal)

Aims: The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA

近藤 英俊

国際センター講師（関西外国語大学准教授）

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Sub Title:

Illness and Medicine in Modern Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of medicine and illness in contemporary Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of medicine and illness in Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) complexity and flow of medical cultures, (2) social relations and power in medicine, (3) capitalism, the state and medicine, (4) development and decline of bio-medicine, (5) traditional medicine and professionalisation, (6) religion as medicine, (7) cultural understandings and social consequences of AIDS pandemic.

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

VISIONS OF THE PAST

エインジ, マイケル W.

経済学部准教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Representing History on Film

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

フリードマン, デビッド

環境情報学部教授

David Freedman

Professor, Faculty of Environment and Information Studies

Sub Title:

日本とサブーサハラン アフリカ地域

Course Description:

[HTTP:// WWW.SFC.KEIO.AC.JP/SOUTHAFRICA/](http://www.sfc.keio.ac.jp/southafrica/)

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturomics” was coined to define how various intellectual disciplines need to

combine in order to offer a fuller world view. This course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

The course will focus the geo-political area of southern Africa, and the issues that such regions face as they plan seek to integrate their local economies and to connect to the “global village.” Speakers from the various embassies of the S.A.D.C. group will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa’s Development a major part of its international policy. Two years ago at the third Tokyo International Conference on African Development Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. This government interest has led to a variety of efforts to make the connections between southern Africa and Japan more multi-dimensional, and include both large-scale and small scale investment, tourism and educational connections and N.G.O. endeavors. (http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf_update.htm)

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their focus country and Japan. As a final project, each group will present a tentative plan to further develop the connections between Japan and their research country.

カナダという国とカナダの国際的な役割

(Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Sub Title:

Canada’s Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

地域文化論 (アメリカ)

(Fall)

AREA STUDIES (THE UNITED STATES)

奥田暁代

法学部教授

Akiyo Okuda

Professor, Faculty of Law

Sub Title:

Multicultural History of The United States

Course description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country’s anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student’s understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these “minorities” in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

国際関係

(Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セツト, アフターブ

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Aftab Seth

Professor, Keio University Global Security Research Center

Sub Title:

A view from a practitioner

Course Description:

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of

35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post which is a sub office of and Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

開発と社会変容	(Fall)
DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	
倉沢 愛子	経済学部教授
Aiko Kurasawa	Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness? Critical analysis and evaluation are most welcome.

異文化と自己理解	(Fall)
CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	
ショールズ, ジョセフ	国際センター講師
Joseph Shaules	Lecturer, International Center

Sub Title:

Looking for the hidden roots of cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

アジア諸国におけるビジネスマネジメント	(Fall)
BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	
トビン, ロバート I.	商学部教授
Robert I. Tobin	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

現代の国際問題と国連の役割	(Fall)
CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	
マリク, ラビンダー	国際センター講師
Rabinder N. Malik	Lecturer, International Center

Sub-title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course is to enable the students to gain a better understanding of the world around them as well as about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. The course would help enhance the trans-cultural literacy and competence of the students and it should enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world. Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English. The course is open to students from all faculties.

ドイツ文化と社会		(Fall)
GERMAN CULTURE AND SOCIETY		
ワニェク, ヤクリーン	国際センター講師	
Jacqueline Waniek	Lecturer, International Center	

Sub Title:

Introduction to German culture, educational and political system, and historical challenges

Course Description:

The objective of this course is an introduction to the history, social, political and educational systems of Germany. Emphasis will be placed on contemporary public issues such as the German reunification, Germany's role in the international community and Germany's aging society. By means of discussions, lectures, reading, writing and class presentations, students will reflect the German national character with that of contemporary Japanese.

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS		(Fall)
林 秀毅	経済学部講師	
Hideki Hayashi	Part-time Lecturer, Faculty of Economics	

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part 1, each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and in part 2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition. For reference, the lecture materials for 2006 can be viewed at

http://ocw.dmc.keio.ac.jp/j/economics/02A-009_j/index.html

As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. Students are supposed to submit a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture.

国際開発協力論		(Fall)
INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION		
後藤一美	国際センター講師 (法政大学教授)	
Kazumi Goto	Lecturer, International Center (Professor, Hosei University)	

Course description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Sub Title:

Religion, Politics, Gender, and Civic Engagement

Course Description:

This course is aimed at describing India from post-modern perspective. In this course, participants will study how India's 'modernity' was created by British colonization and what are the problems of India Today. We will also study how religion, politics, and gender relations intertwine very closely and affect people's daily lives. In the latter part of this course, we will also study the roles of India's NGOs. We will study caste, class, kinship and gender from the post modern perspective. We will learn the cultural difference between the North, the South, the East and the West. We will also cover issues surrounding 'dowry' problems in India. Students are encouraged to raise questions in each lectures and actively participate. Participants will also learn the basics of essay writing.

日本研究講座 (Japanese Studies)

異文化コミュニケーション 1

(Spring)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子

日本語・日本文化教育センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

美術を「よむ」—日本美術史入門

(Spring)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing the modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

日本語の話しことばと言外の意味

(Spring) / (Fall)

LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

キム, アジョン

日本語・日本文化教育センター専任講師

Angela A-Jeoung Kim

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Expressing 'something else' beyond information — markers and functions in spoken Japanese

Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language does not only function as a conveyance of information, but also has other functions such as expressing the language user's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know* and *like*; and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne*, *yo*, *-janai*, *doose*, *datte*, *maa*, *nan(ka)*, *mono*, *no*, *yappari* etc.

英国と米国のマスコミに描かれた日本

(Spring)

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

キンモンズ, アール H.

国際センター講師 (大正大学教授)

Earl H. Kinmonth

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the

foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

日本における外資系企業 FOREIGN COMPANIES IN JAPAN ハリス, グレアム Graham Harris	(Spring) 商学部講師 Lecturer, Faculty of Business and Commerce
---	---

Sub Title:

Foreign Companies in Japan — a Success or a Failure ?

Course Description:

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the “Bubble era” and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

日本企業の経営戦略と管理手法 CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN 稲葉エツ 国際センター講師（財団法人貿易研修センター人材育成部長） Etsu Inaba Lecturer, International (Center Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)	(Spring)
---	----------

Sub title:

Understanding key success factors for developing and implementing corporate strategies

Course Description:

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical as well as discussion/presentation skills in students.

Description:

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices.

The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and management systems which are supporting the strategies. In-depth understanding of selected companies in Japan as “best practice” will be pursued through case studies, company visits and student's own research.

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

夢のあと THE AFTERMATH OF DREAMS アーマー, アンドルー Andrew Armour	(Spring) 文学部教授 Professor, Faculty of Letters
---	--

Sub title:

Medieval Japanese literature

Course Description:

In “The Trail of Genji” last year, I focused on that 11th-century masterpiece of Japanese literature known as *Genji monogatari*. This year we will progress into the Kamakura and Muromachi periods, examining medieval literary developments against the often tumultuous historical background. The rise of the military caste is reflected in the war tales such as *Heike monogatari*, which stand in sharp contrast to the court literature of the previous Heian period and to medieval meditative works such as the *Hôjôki*, and the simple *setsuwa* tales enjoyed by the general populace. We will also trace the major developments in drama and poetry. Many of the works introduced in this course are available in translation.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

James Raeside

Professor, Faculty of Law

Sub title:

Comparative Readings

Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different literary traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing — particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by a Western writer. The texts chosen will be relatively short, wherever possible complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translation, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion. Those who do not feel their English ability is adequate to reading several pages of English each week should not take this class.

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN(1)

手塚千鶴子

日本語・日本文化教育センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

ボックマン, デイヴ

国際センター講師 (コンサルタント)

Dave Bockmann

Lecturer, International Center (Consultant)

西村祐子

国際センター講師 (駒澤大学教授)

Yuko Nishimura

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

Sub title:

How citizen's grassroots organizations attempt to alter the relationships of power.

Course Description:

"Civic society" refers to the participation of individuals and voluntary (non-governmental) organizations in the political and the public sectors, including governmental decision making. In this sense, civic society is well established in the U.S., less so in Japan where only recently local governments have begun to collaborate with grassroots citizen organizations in the public sphere. The term is also used by critics of "globalization" to refer to grassroots resistance to the flow of human, financial, resource and power capital throughout the global economy.

In this course, we will examine civic society from several angles, globally and locally. We will look at how civic engagement (in the U.S., for example) includes struggles by minorities, women and the poor to alter the relationships of power, as well as non-confrontational community improvement and protection projects. We also examine the growing civic society in Japan. In the spring term, the course will focus on community organizing and civic society building in the U.S. We will examine the role of community organizations in the civil rights movement, the women's movement and the environmental movements of the 1960s and 70s and how a strong tradition of community building has since evolved.

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's economic performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through Video and tapes etc.

MANAGEMENT IN JAPAN

ハギリ アン, パリッサ

国際センター講師 (上智大学専任講師)

Parissa Haghirian

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Sofia University)

Sub Title:

The Kaisha in the 21st Century

Course Description:

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM

伊藤 規子

商学部准教授

Noriko Ito

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course aims to help participants as introductory guidance to understand the Japanese economic system with its heavy Government involvement, specific company customs (which seemed to have worked fine during the high growth era), vested interests and social norms/behaviours. The sessions will (A) cover parts of the text book, 'Arthritic Japan' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and its problems also some changes the Japanese have been facing recently, (B) involve students with some group discussions or presentations on various themes with additional journal articles, (C) show several illustrative videos and (D) have at least two special one-off guest speakers who will talk about their experiences in dealing with the Japanese business environment (all speeches will be given in English). The lecturer may sometimes explain several concepts from the microeconomics' point of view whenever necessary to make it easy for the non-economics based student to understand the textbook and articles. The articles used in the sessions are most likely to be from *The Economist*, *The Japan Times* and *Japan Spotlight*. A specific website address will be announced in the first session.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

日本語・日本文化教育センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication

styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

近代日本の対外交流史	(Fall)
MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD	
太田昭子	法学部教授
Akiko Ohta	Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

家族の近代	(Fall)
THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	
ノッター, デビット	経済学部准教授
David Notter	Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on "modern" family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

日本経済の展望	(Fall)
ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	
市川博也	国際センター講師 (上智大学教授)
Hiroya Ichikawa	Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

This course is prepared for students who are not familiar with Japanese economy. The course will examine the post-war Japan Model in order to understand the contemporary economic issues. Topics include the problems related to an aging population, the social security system, widening income disparity, burden of government debt, competition policy, and deregulation, corporate governance, and other important topics facing the contemporary Japanese economy. The roots of recent instability in the financial system, and the effectiveness of current government economic policies will be discussed. Students are expected to discuss current economic and financial news in each class. Seminar type.

日本キリスト教史	(Fall)
CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY	
ボールハッチェット, ヘレン	経済学部教授
Helen Ballhatchet	Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-

cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

多民族社会としての日本	(Fall)
MULTIETHNIC JAPAN	
柏崎千佳子	経済学部准教授
Chikako Kashiwazaki	Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to ‘multiethnic Japan’. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various ‘newcomer’ immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority ‘Japanese’ population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

政策決定，歴史的記憶，人種から見る明治期日本外交	(Fall)
JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	
飯倉 章	国際センター講師（城西国際大学教授）
Akira Iikura	Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

日本の文学	(Fall)
JAPANESE LITERATURE	
アーマー，アンドルー	文学部教授
Andrew Armour	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

日本人の心理学 (2)	(Fall)
JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	
手塚千鶴子	日本語・日本文化教育センター教授
Chizuko Tezuka	Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

‘*Amae*’ Reconsidered

Course description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of ‘*Amae*’ which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae needs* is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS

吉田文一

国際センター講師（産業能率大学教授）

Fumikazu Yoshida

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the “post-bubble” period in Japan, there is a strong tendency to criticise the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems. Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE

菱山裕子

国際センター講師

Yuko Hishiyama

Lecturer, International Center

Sub Title:

With a focus on Japanese Art

Course Description:

Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部教授

Andriy Nakorchevski

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. First of all we will try to define what religion is, why there are so many different religious traditions and what they have in common. Then we will discuss most of religions either been originated or introduced to Japan using a lot of video materials and different shrines and temples mostly in the vicinity of Mita campus. This is an introductory courses and no preliminary knowledge of the subject is necessary.

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘

商学部准教授

Mitsuhiro Umezu

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

INTRODUCTION TO JAPANESE LAW

小林 節

法学部教授

Setsu Kobayashi

Professor, Faculty of Law

Course Description:

1. Outline of Japanese Legal System

- (1) Constitutional Law
- (2) Civil Law
- (3) Commercial Law & Corporation Law
- (4) Security Exchange Law
- (5) Bank Law
- (6) Real Estate Law
- (7) Intellectual Property
- (8) Civil Procedure
- (9) Labor Law
- (10) Criminal Law
- (11) Criminal Procedure

2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters

- (1) Characteristics of Japanese People
- (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
 - ① Administration
 - ② Judges and Public Prosecutors
 - ③ Attorneys and Law Firms
- (3) Clients
- (4) Taboos
- (5) Languages

保健管理センター設置講座

1 保健管理センター設置講座開講にあたり

めまぐるしい医学の進展と社会情勢の変化に対応でき、健康で健康志向の強い人になるための独自の講座を設置しています。

2 設置科目履修上の取り扱いについて

「現代社会と医学Ⅰ」（渡航医学）を春学期（月曜 4 時限）三田キャンパスにおいて、秋学期（月曜 4 時限）日吉キャンパスにおいて開講します。

なお、「現代社会と医学Ⅱ」（現代社会と common disease）を日吉キャンパスにおいて春・秋学期に開講します。これらの科目を受講希望する場合は、履修の取り扱いについて、各学部で確認の上、履修申告してください。

現代社会と医学Ⅰ（春学期）2 単位

渡航医学

南里清一郎、河邊博史、徳村光昭、横山裕一、広瀬 寛、柴田洋孝、西村由貴

授業科目の内容：

渡航医学とは、海外の移動（旅行、長期滞在）に伴って発生する病気や怪我の予防や治療を扱う医学のことです。

2005年外務省統計では、1600万人以上の人が海外旅行をし、仕事や留学などの長期滞在者は、約96万人です。途上国は医療事情が悪く、いざという時の緊急医療でさえ不安があります。

先進国では医療費が高く医療機関受診方法に不安があります。感染症の予防に関しては、予防接種が重要な意味を持ちますが、途上国においては、個人防衛のために必要であり、先進国、特にアメリカでは集団生活（留学など）を行う際に義務となります。生活習慣病に関しては、環境の変化による持出し病の悪化や、発症を早める可能性もあります。またカルチャーショックによる精神的な問題も生じます。

以上のような事に関し、保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。

テキスト：

海外生活における健康管理 一渡航に当たって心身の健康を守るために― 南里清一郎 編・著

参考書：

改訂 保健衛生（保健管理センター編）、各担当者による資料の配布

授業の計画：

第1回	オーバービュー	教授	南里清一郎
第2回	海外の医療制度		〃
第3回	予防接種・感染症①		〃
第4回	予防接種・感染症②		〃
第5回	高血圧	教授	河邊 博史
第6回	糖尿病	准教授	広瀬 寛
第7回	肥満	講師	柴田 洋孝
第8回	性感染症・飲酒	准教授	横山 裕一
第9回	肝炎		〃
第10回	精神保健	講師	西村 由貴
第11回	高山病・潜水病・時差 エコノミー症候群	准教授	徳村 光昭
第12回	薬物乱用		〃
第13回	試験	教授	南里清一郎

履修者へのコメント：

留学や海外研修をする予定の学生の受講を勧めます。

成績評価方法：

試験の結果による評価

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月3日(火) 2時限目(10:45～12:15) 516番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際、学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月9日(月) 9:00～17:00

場 所：三田学事センター

4月10日(火) 9:00～17:00

4月11日(水) 9:00～17:00

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込みを提出しないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

科目名の変更について

以下のとおり、今年度から科目名を変更します。

「情報処理概論Ⅱ」 ※平成18年度まで



「情報処理概論Ⅱ (JavaB)」 ※平成19年度から

※昨年度までに「情報処理概論Ⅱ」を履修した学生は、新たに「情報処理概論Ⅱ (JavaB)」を履修することはできません。

4 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

5 平成19年度開講科目および受講料

設置講座は受講料が必要です。

平成19年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講 座 名		クラス	担 当 者	時 期	定員	受 講 料	単位
情報処理概論Ⅱ (JavaB)※	Java	12 A	藤村 光	通 年	50	12,000 円	4
情報処理概論Ⅱ (JavaA)※	Java	12 F	神林 靖	秋学期	30	6,000 円	2
情報処理応用Ⅱ	統計解析	32 A	鴻巣 努	春学期	30	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月9日(月)から開始されます。

※「情報処理論Ⅱ (JavaB)」および「情報処理論Ⅱ (JavaA)」はほぼ同じ内容です。受講申し込み書を提出して両方の科目を受講することは可能ですが、履修申告できるのはどちらか1科目のみです。詳しくは、情報処理教育室窓口にてお問い合わせください。

(参考) 平成19年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講 座 名		クラス	担 当 者	時 期	定員	受 講 料	単位
情報処理概論Ⅰ	C言語による プログラミング入門	11 A	恩田 憲一	通 年	100	12,000 円	4
		11 B	斎藤 博昭		50		
情報処理概論Ⅱ (JavaⅠ)	Java	12 D	藤村 光	春学期	50	6,000 円	2
情報処理概論Ⅱ (JavaⅡ)	Java	12 E	藤村 光	秋学期	50	6,000 円	2
情報処理応用Ⅰ	コンピュータグラフィックス	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月9日(月)から開始されます。

情報処理概論Ⅱ（JavaB）（通年）4 単位	
Java 言語によるプログラミング入門	藤村 光

授業科目の内容：

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、およびプログラミングの基礎を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語 の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト：

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開しています。適宜更新します。

参考書：

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン、レイアウト、イベントの処理（計3回）
5. クラス変数
6. 四則演算（計2回）
7. 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値（計2回）
8. 配列
9. 春学期演習
10. 秋学期のウォーミングアップ
11. 整列、検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理（計3回）
13. マルチスレッドと描画（計4回）
14. 再帰構造と再帰プログラミング（計2回）
15. 最終演習（計2回）

履修者へのコメント：

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

fujimura@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。

情報処理概論Ⅱ（JavaA）（秋学期）2 単位	
Java 言語によるプログラミング入門	神林 靖

授業科目の内容：

将来プログラムを用いて統計データ解析をする準備として、Java 言語によるプログラミングを学ぶ。簡単な計算やデータ処理を行うことによって、Java プログラムの構成を、そしてコンピュータによるデータ処理を理解できるようにしたい。一般的なコンピュータの知識があれば十分で、プログラミングに関しての予備知識は必要としない。

テキスト：

初回の講義で指示する。

参考書：

講義の中で紹介する。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. プログラムのコンピュータの関係
3. コンパイルと実行
4. 変数と代入、そして四則演算と型変換
5. 1 次元配列と多次元配列
6. クラスとメソッド

7. 制御分と演算子（1）
8. 制御分と演算子（2）
9. クラスとコンストラクタ
10. Java クラスライブラリ
11. 入出力
12. 行列を計算するプログラム（1）
13. 行列を計算するプログラム（2）

履修者へのコメント：

C 言語等他のプログラミング言語の既習者は申し出られたい。できるだけ、個別に対応したいと考えています。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

yasushi@hc.cc.keio.ac.jp で受け付けます。

情報処理応用Ⅱ（統計解析）（春学期）2 単位	
SPSS による統計解析および多変量解析の実習	鴻巣 努

授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

参考書：

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社
- ・室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

授業の計画：

- 第1回 統計的手法とは
- 第2回 統計パッケージ（SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S）
- 第3回 SPSS によるデータ処理
- 第4回 SPSS によるデータの視覚化
- 第5回 代表値と確率分布
- 第6回 散布図と相関係数
- 第7回 区間推定
- 第8回 平均値の差の検定、ノンパラメトリック検定
- 第9回 多変量解析の基礎
- 第10回 回帰分析、重回帰分析
- 第11回 主成分分析
- 第12回 因子分析
- 第13回 判別分析

履修者へのコメント：

数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが、次のような学生の参加を期待する。

- ・卒業論文を書くにあたり、科学的手法を探している。
- ・統計学の基礎は学んだが、それを運用できるまでに至っていない。
- ・多変量解析に興味があるが、どのようなデータにどの手法を使えばよいかわからない。
- ・数学には自信がないが、データを分析することは嫌いではない。

成績評価方法：

平常点および期末レポートによって評価する。

アート・センター設置講座

経済のソフト化が言われて久しい。文化消費の高度化と量的拡充が続くなかで、知的財産への関心とコンテンツ産業振興が唱導されているようになったいま、あらためて感性の行方と文化消費との関連をとらえ、創造性と産業とのかかわりを包括的に研究教育する必要性が生まれている。芸術文化の消費行動とコンテンツ提供者、媒介者のかかわり、新しいコンテンツ創造のための環境整備、それらのシステムの更新などは、産業振興に欠かせない。

アート・センターは、開設以来アート・マネジメントの研究と教育を推進してきた。その成果をふまえながら、産業とアート・創造性との連関、産業におけるアート・創造性の問題に対する関心を喚起するため、旧来の芸術諸ジャンルにとどまらず、建築、デザイン、ファッションも視野にいたした「クリエイティブ産業」とその構造、現状と将来について、現場の担当者を招聘するとともに、産業政策をふくめ総合的に検討することが本講座の目的である。それとともに、効率や生産性を第一義とした従来の考え方に対して、創造性や芸術資源デザインの重要性を提起することを目指している。

2007年度は、社団法人日本レコード協会寄附講座「クリエイティブ産業研究―音楽コンテンツを中心に―」を開講する。また、寄附者と共催する公開講座を開催予定である。

1. 履修上の取り扱い

慶應義塾大学の各学部の学生が対象。履修の取り扱いについて各学部の履修案内で確認の上、履修申告する必要がある。履修希望者が多い場合は制限をすることがある。

2. ガイダンス

春学期第1回の授業でガイダンスを行うので、履修希望者は必ず出席し、履修希望票に必要事項を記入すること。秋学期にはガイダンスを行わない。春学期・秋学期の内容は連続するので、両方履修（いわゆるセット履修）するのが望ましい。

クリエイティブ産業研究Ⅰ―音楽コンテンツを中心に― (社団法人日本レコード協会寄附講座) (春学期) 2単位 コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容：

クリエイティブ産業が重視されるようになった背景と環境、およびコンテンツ・ビジネスの現状とそれをとりまく制度、著作権の動向、日本とアジアの関係、クリエイティブ産業政策について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

- ① クリエイティブ産業とその範囲
- ② コンテンツ・ビジネスとその歴史
- ③ 日本の音楽産業
- ④ イギリスにおけるクリエイティブ産業戦略
- ⑤ 日本の知的財産政策と関連産業
- ⑥ 著作権とクリエイティブ産業 1
- ⑦ 著作権とクリエイティブ産業 2
- ⑧ 東アジアにおけるコンテンツ・ビジネスをめぐって
- ⑨ クリエイティブ産業と公共性
- ⑩ アーティストの立場から

授業の計画：

上記は計画中のものであり、詳細内容と日程はガイダンスの際に配付する。

成績評価方法：

試験と平常点により評価する。

質問・相談：

授業終了後に受け付ける。

クリエイティブ産業研究Ⅱ―音楽コンテンツを中心に― (社団法人日本レコード協会寄附講座) (秋学期) 2単位 コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容：

春学期の講義をふまえ、音楽ビジネスに焦点をあてた実践論、ならびにクリエイティブ産業の今後の課題について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

- ① 出版とプロダクション
- ② アーティストの発掘、契約と宣伝
- ③ 日本の音楽の流通と配信
- ④ 今後の課題
- ⑤ クリエイティブ産業と今後の課題Ⅰ～Ⅳ
- ⑥ 紛争回避
- ⑦ 商用アーカイブの運営ほか

授業の計画：

上記は計画中のものであり、詳細内容と日程は春学期ガイダンスの際に配付する。

成績評価方法：

試験と平常点により評価する。

質問・相談：

授業終了後に受け付ける。